

上野毛地区防災計画

【令和7年修正】

上野毛地区

目次

- 1 上野毛地区の特性…………… 上野毛-1(-561-)
 - (1)自然特性 …………… 上野毛-1(-561-)
 - (2)社会特性……………上野毛-2(-562-)
 - (3)地域危険度 ……………上野毛-4(-564-)
 - (4)被害想定……………上野毛-5(-565-)
 - (5)防災資源一覧……………上野毛-8(-568-)
 - (6)防災資源マップ……………上野毛-9(-569-)
 - (7)区民アンケート…………… 上野毛-10(-570-)

- 2 各団体の防災活動～現在の取組状況～…………… 上野毛-19(-579-)

- 3 上野毛地区の課題と取り組み……………上野毛-24(-584-)
 - 【震災編】……………上野毛-24(-584-)
 - 【風水害編】……………上野毛-32(-592-)

- 4 資料編(資料1～10)……………上野毛-35(-595-)

1. 上野毛地区の特性

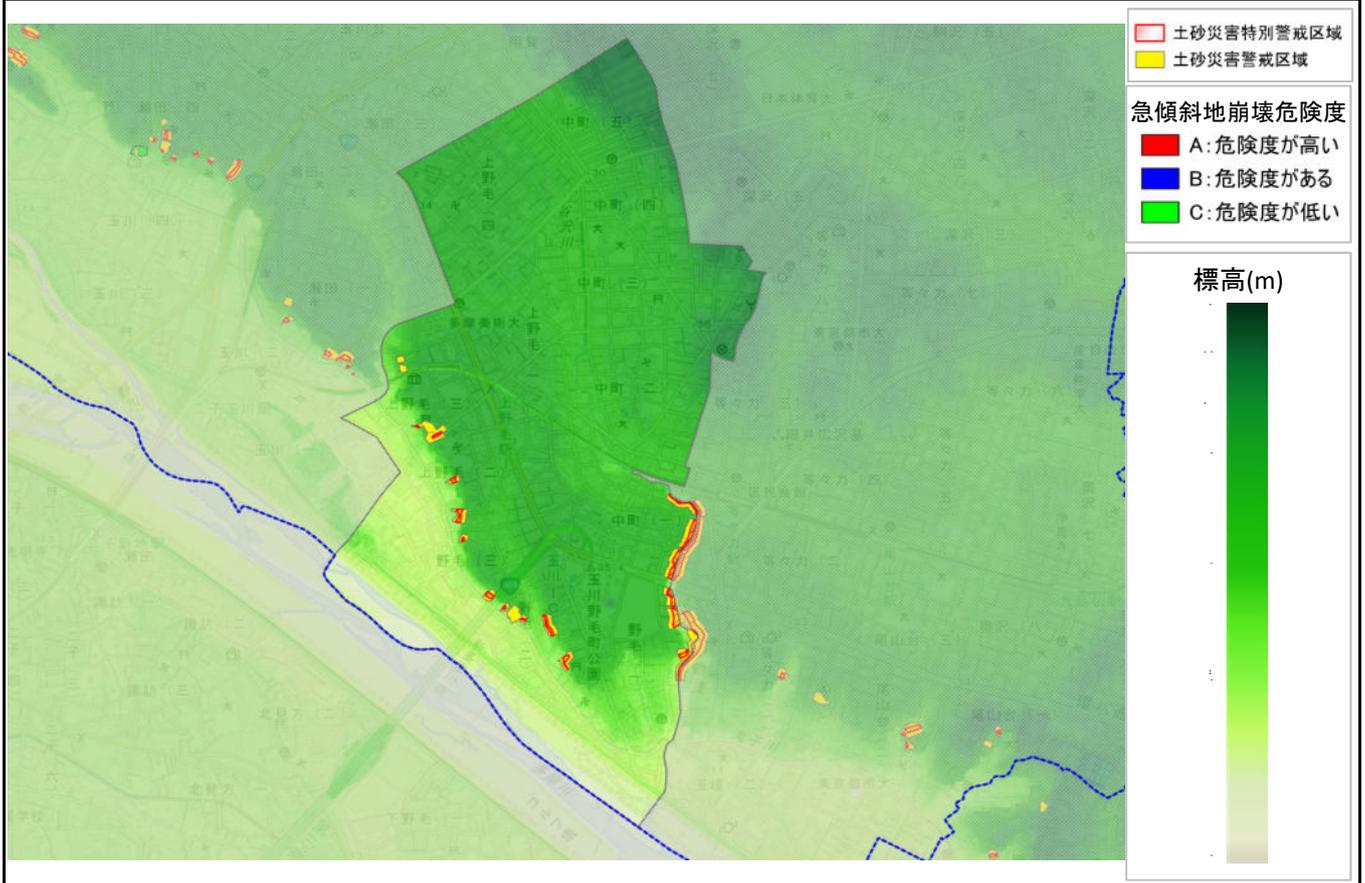
(1)自然特性

面積	2.54 Km ²	最高標高	45.1 m	最低標高	2.8 m
----	----------------------	------	--------	------	-------

位置



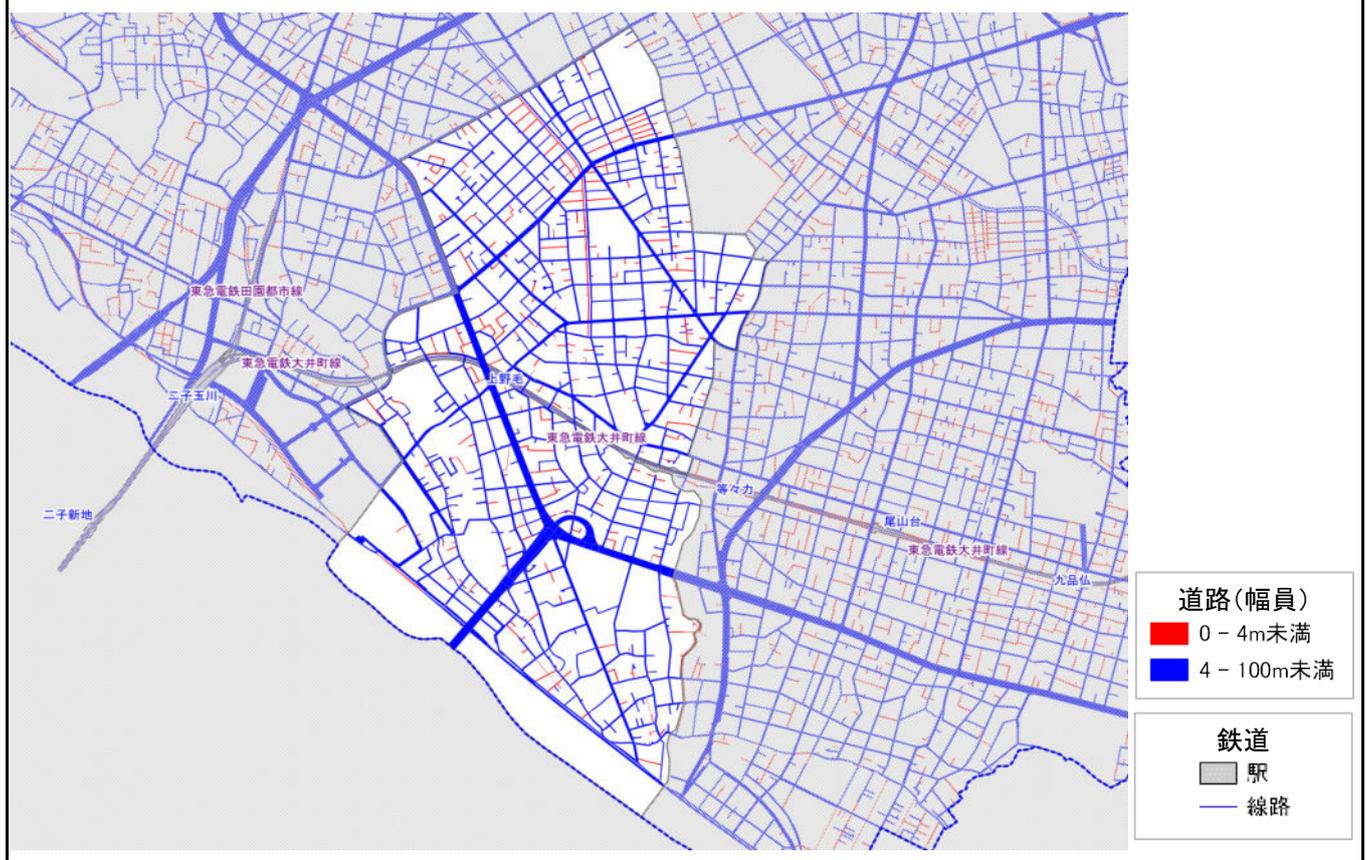
標高・急傾斜地崩壊危険度・土砂災害警戒区域等



(2)社会特性

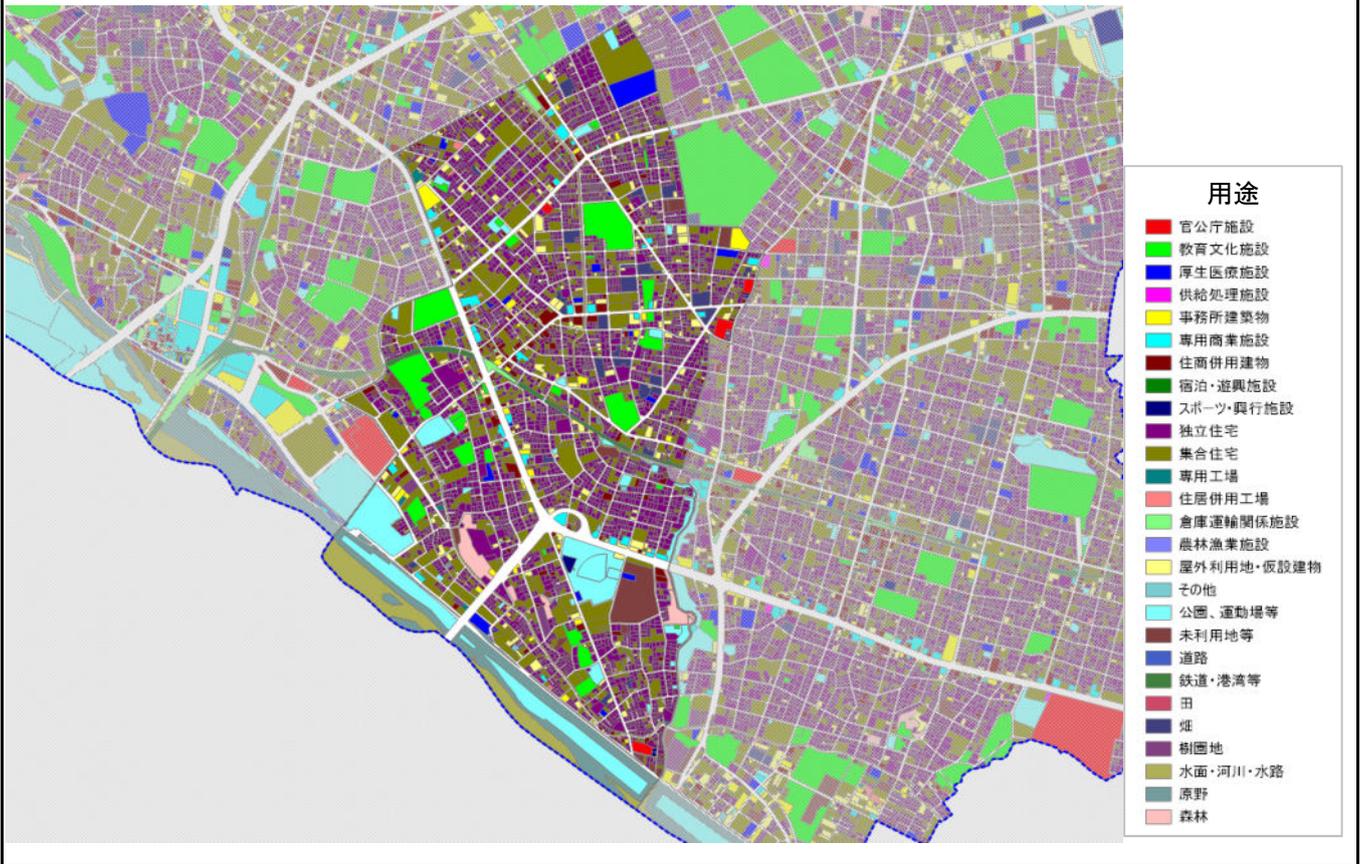
人口	33,753 人	細街路率	16.4 %	
世帯数	16,683 世帯	昭和56年以前木造建物棟数密度	74.9 棟/Km ²	
1世帯あたり	2.02 人	耐火率(建築面積ベース)	67.5 %	
若年層数(15才未満)	4,233 人	土地利用(宅地)	60.3 %	
若年層率(15才未満)	12.5 %	土地利用(宅地以外)	39.7 %	
高齢者数(65才以上)	7,462 人	鉄道駅	東急大井町線上野毛駅	
高齢者率(65才以上)	22.1 %			
昼間の人口	23,443 人	産業	商業	64.9 %
夜間の人口	33,942 人		工業	8.5 %
昼夜間人口比	0.69 -		農業	26.6 %
町会・自治会数	4 -			

道路・公共交通機関



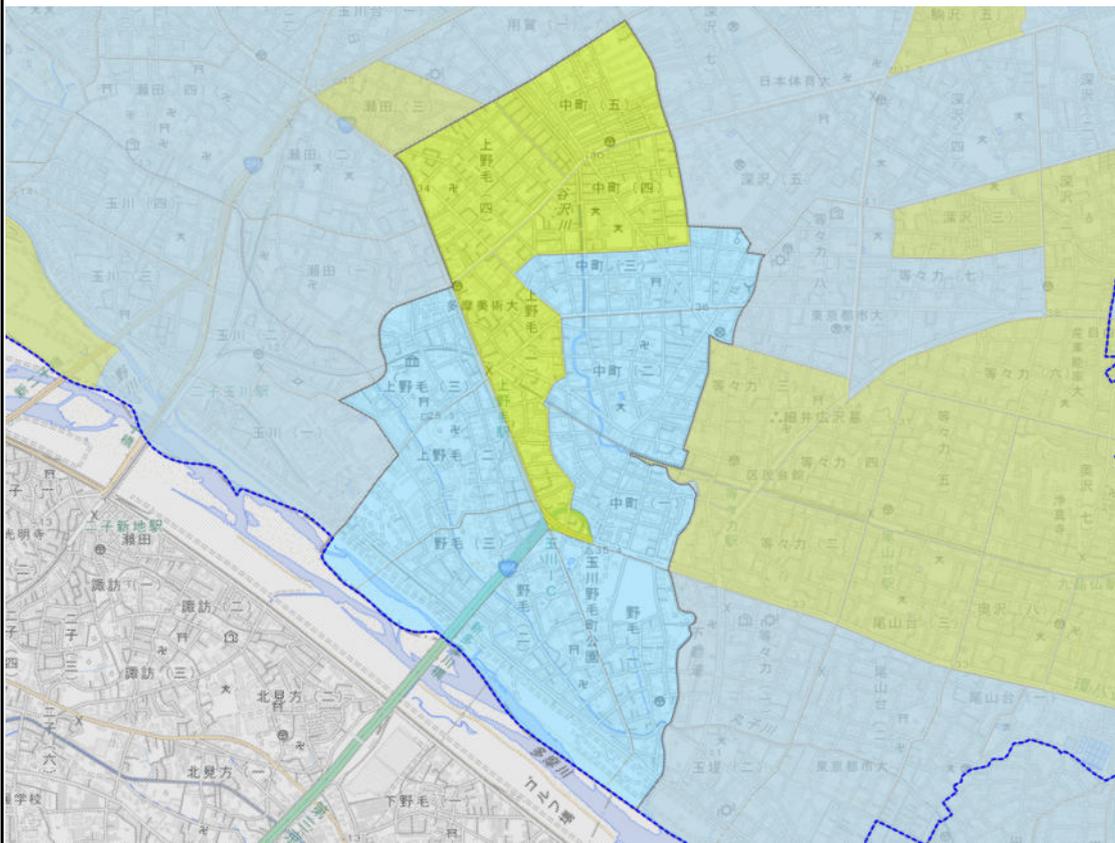
(2)社会特性

産業

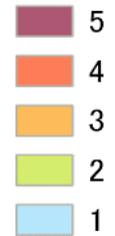


(3)地域危険度

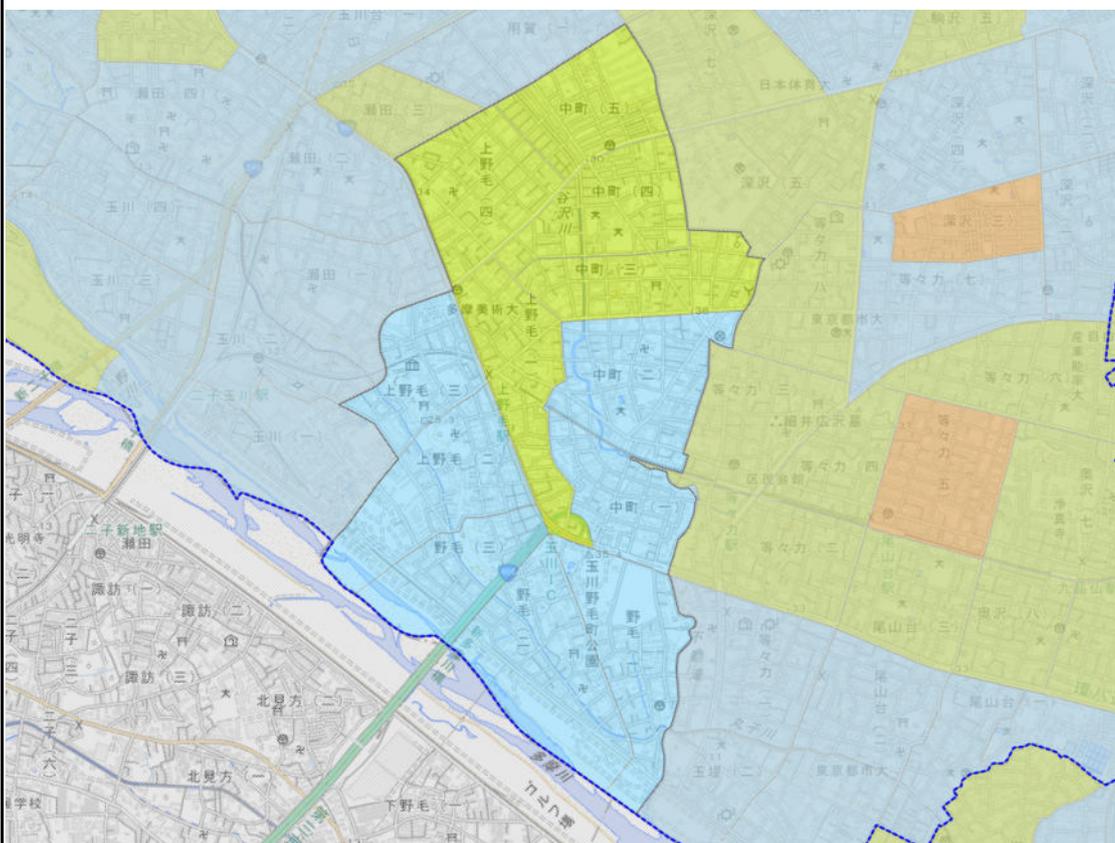
建物倒壊危険度



建物倒壊危険度



火災危険度



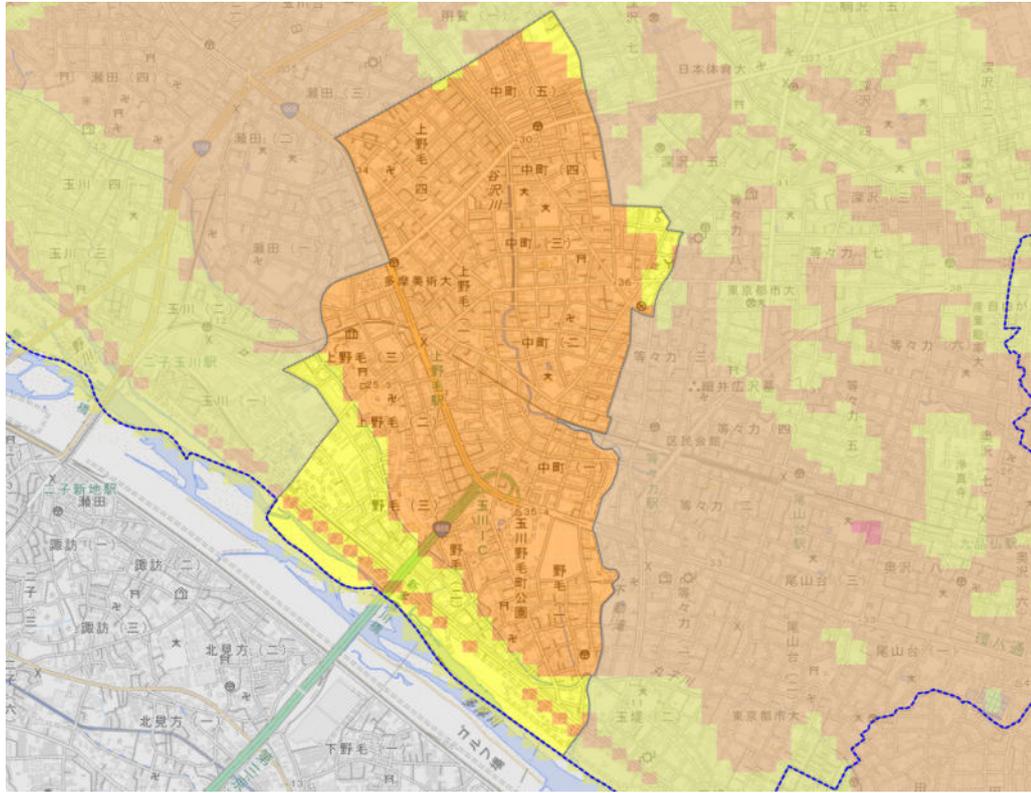
火災危険度



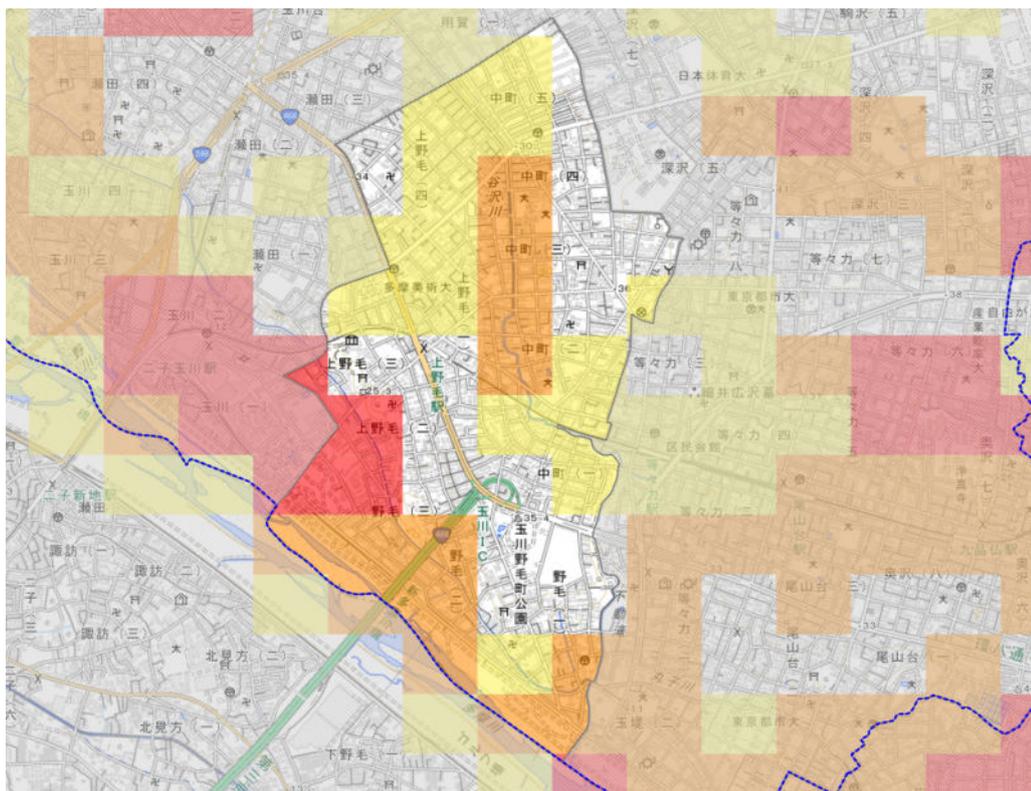
(4)被害想定

全壊棟数	362 棟	死者	24 人
半壊棟数	887 棟	負傷者	265 人
全焼棟数(倒壊建物含まず)	342 棟	うち重傷者	45 人

震度分布

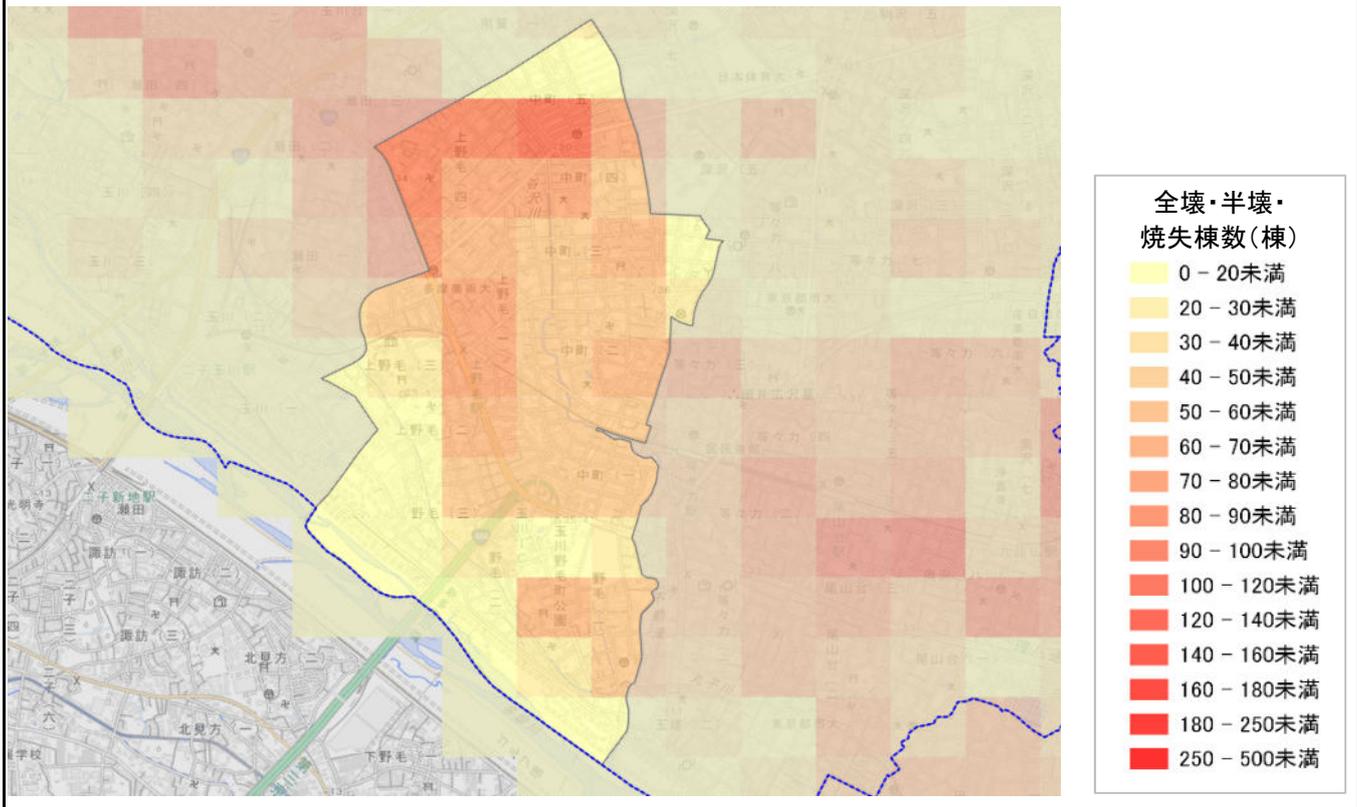


液状化分布



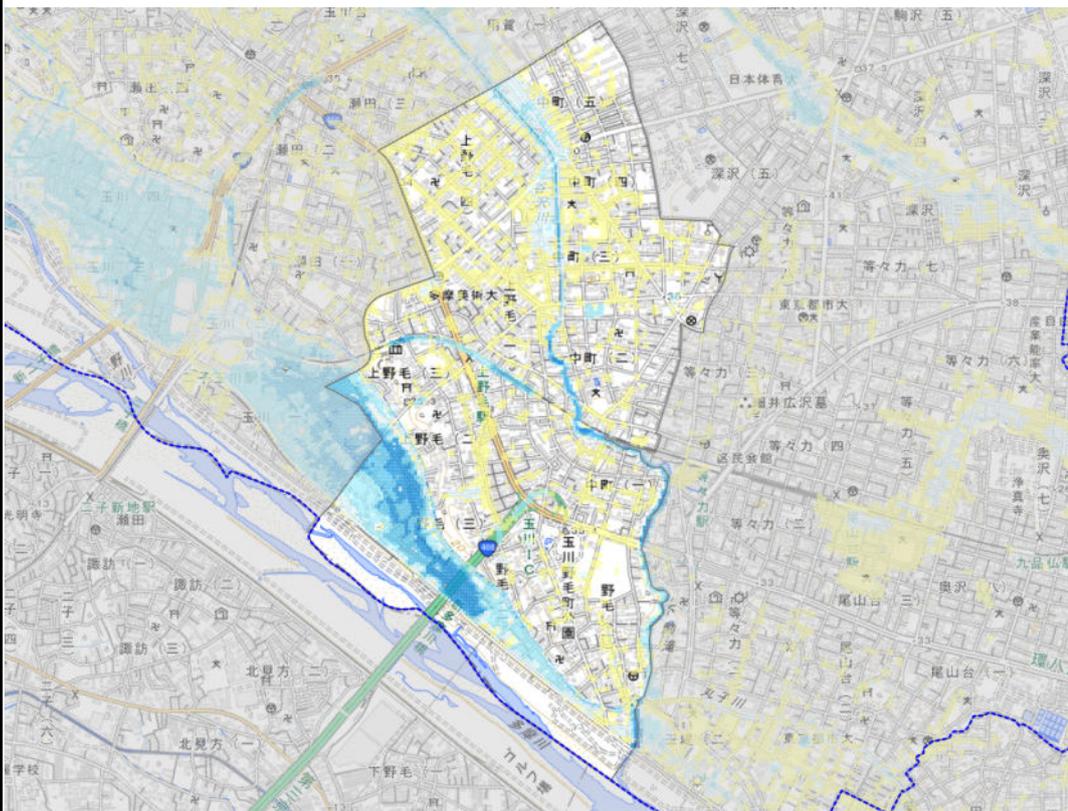
(4)被害想定

被害棟数分布

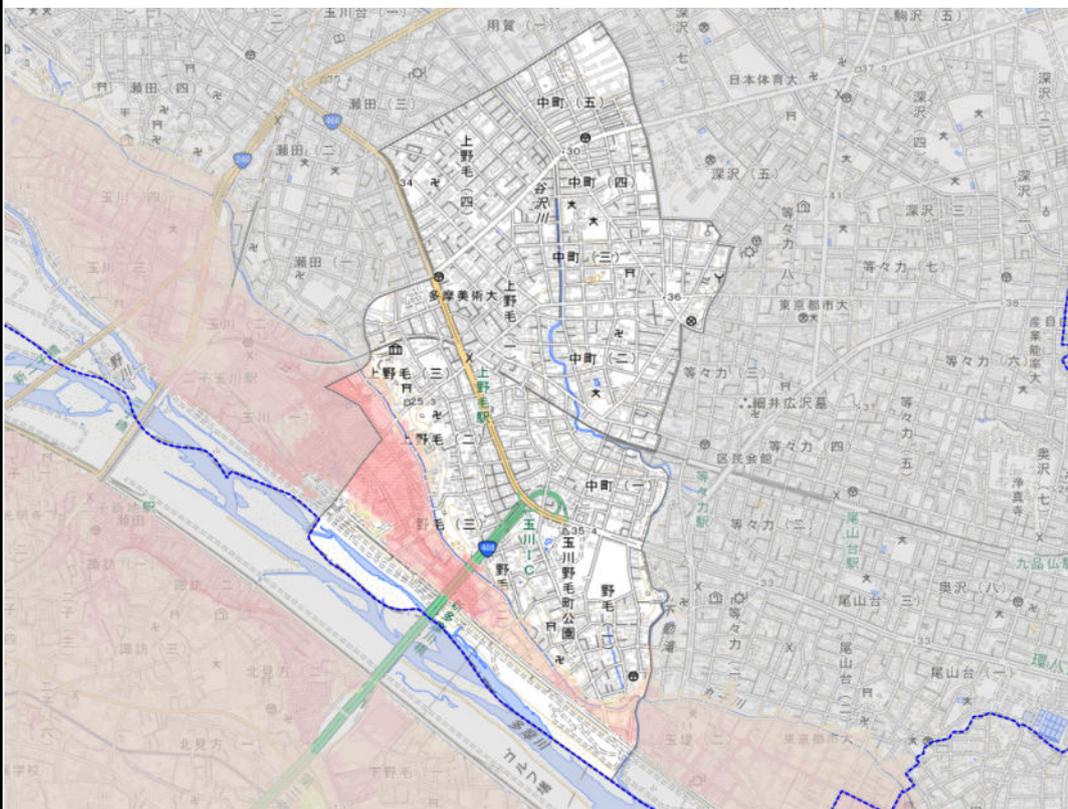


(4)被害想定

浸水想定(内水氾濫・中小河川洪水版)



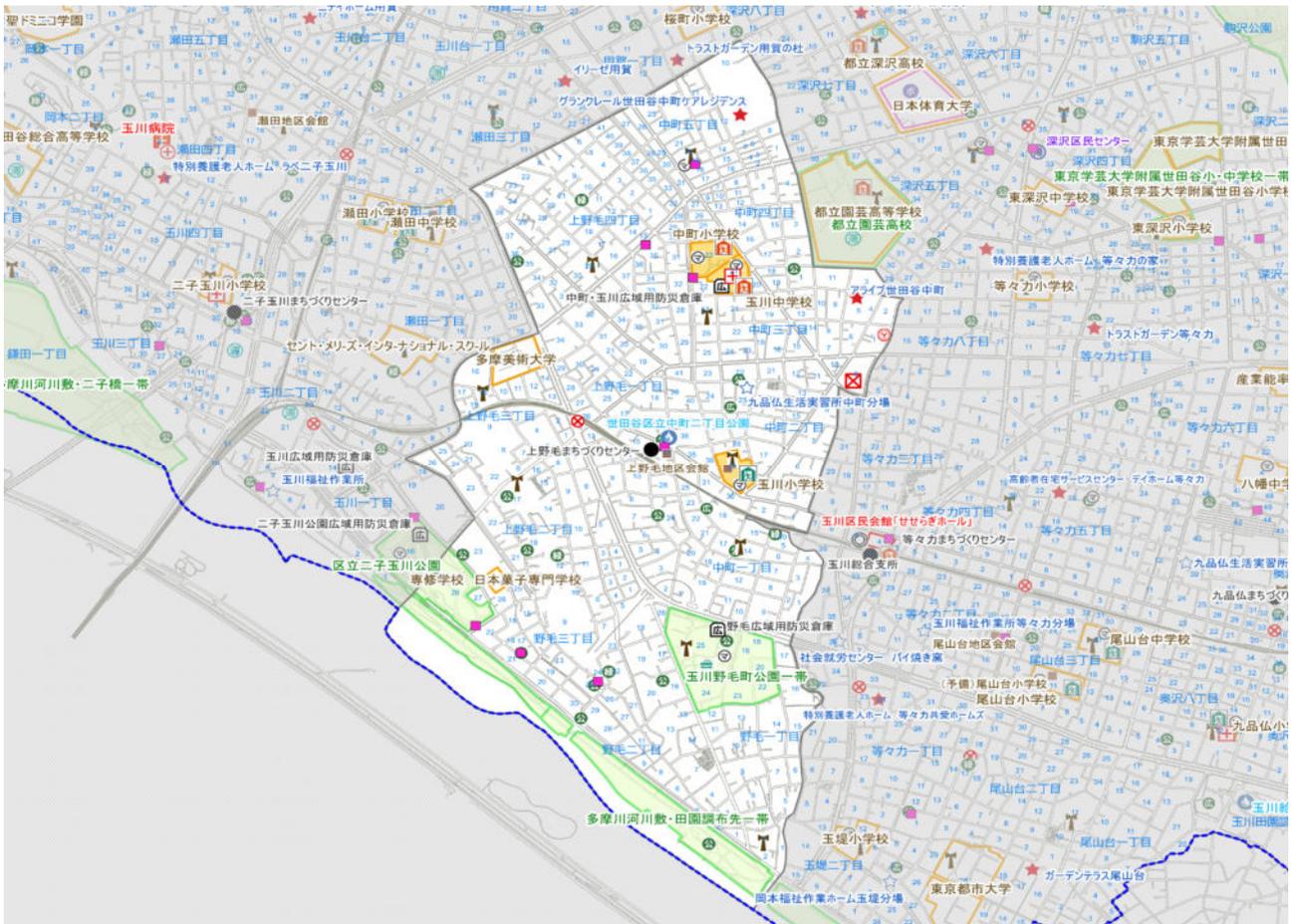
浸水想定(多摩川洪水版)



(5)防災資源一覽

広域避難場所	玉川野毛町公園一帯 区立二子玉川公園 多摩川河川敷・田園調布先一帯			
一時集合所	玉川小学校 玉川中学校 玉川中町公園 玉川野毛町公園 玉堤小学校 権蔵橋公園 桜町小学校 上野毛自然公園 森の公園 中町小学校 都立園芸高校			
指定避難所	玉川小学校 玉川中学校 中町小学校			
予備避難所	専修学校日本菓子専門学校 多摩美術大学			
福祉避難所(母子)				
福祉避難所(高齢者)	アライブ世田谷中町 グランクレール世田谷中町ケアレジデンス			
福祉避難所(障害者)	九品仏生活実習所中町分場			
水害時避難所(第1次)	玉川中学校 中町小学校	野川・仙川洪水時避難所		
水害時避難所(第2次)	玉川小学校			
土砂災害時避難所	(予備)玉川小学校 上野毛地区会館			
避難所救護所	玉川中学校			
東京都災害拠点病院				
東京都災害拠点連携病院				
緊急医療救護所				
一時滞在施設				
一時避難施設(車中避難)	玉川野毛町公園	帰宅困難者支援施設	0 ヶ所	
ボランティアマッチングセンター				
マンホールトイレ	5 ヶ所	防災行政無線塔	9 ヶ所	緑地 4 ヶ所
輸送拠点				
給水拠点	世田谷区立中町二丁目公園			
広域用防災倉庫	中町・玉川広域用防災倉庫 野毛広域用防災倉庫			
土のうステーション	丸子川ひろば公園 玉川中学校(西門) 玉川中町公園 玉川土木公園管理事務所 上野毛地区会館(上野毛まちづくりセンター) 二子玉川公園(上野毛側) 野毛西公園			
警察署・交番	玉川警察署 上野毛交番			
消防署・出張所	玉川消防署			

(6)防災資源マップ



- | | |
|--------------------|-------------------|
| ◎ 総合支所 | ■ 広域避難場所 |
| ● まちづくりセンター | ■ 指定避難所 |
| ⊕ せたがや災害ボランティアセンター | ■ 予備避難所 |
| Ⓔ 広域用防災倉庫 | ■ 福祉避難所(母子) |
| Ⓕ 給水拠点 | ★ 福祉避難所(高齢者) |
| Ⓖ 防災行政無線塔 | ☆ 福祉避難所(障害者) |
| Ⓗ マンホールトイレ | Ⓐ 水害時避難所(第1次) |
| ■ 土のうステーション | Ⓑ 水害時避難所(第2次) |
| Ⓝ 警察署 | ◆ 野川・仙川洪水時避難所 |
| Ⓞ 交番 | ■ 水害時避難所(狛江市) |
| Ⓟ 消防署 | ■ 水害時避難所(調布市) |
| Ⓠ 消防出張所 | ■ 土砂災害時避難所 |
| Ⓡ 身近な広場 | Ⓢ 避難所救護所 |
| Ⓢ 公園 | Ⓣ 東京都災害拠点病院 |
| Ⓣ 緑地 | Ⓤ 東京都災害拠点連携病院 |
| | Ⓥ 緊急医療救護所 |
| | Ⓦ 一時滞在施設 |
| | Ⓧ 帰宅困難者支援施設 |
| | Ⓨ ボランティアマッチングセンター |
| | Ⓩ 輸送拠点等 |
| | ⓐ 一時避難施設(車中避難) |

出典

世田谷区土砂災害ハザードマップ 令和6年7月発行

世田谷区の町丁目別人口と世帯数 令和6年3月1日

世田谷区の年齢別人口 令和6年3月1日

世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ(多摩川洪水版、内水氾濫・中小河川洪水版) 令和6年7月発行

世田谷区土地利用2021 世田谷区土地利用現況調査

世田谷区GISオープンデータ

令和2年国勢調査による 東京都の昼間人口(従業地・通学地による人口)第11表

地域危険度一覧表(地震に関する地域危険度測定調査[第9回]) 令和4年9月

首都直下地震等による東京の被害想定 報告書 令和4年5月25日

世田谷区防災マップデータ 令和6年3月

(7)区民アンケート(上野毛地区)

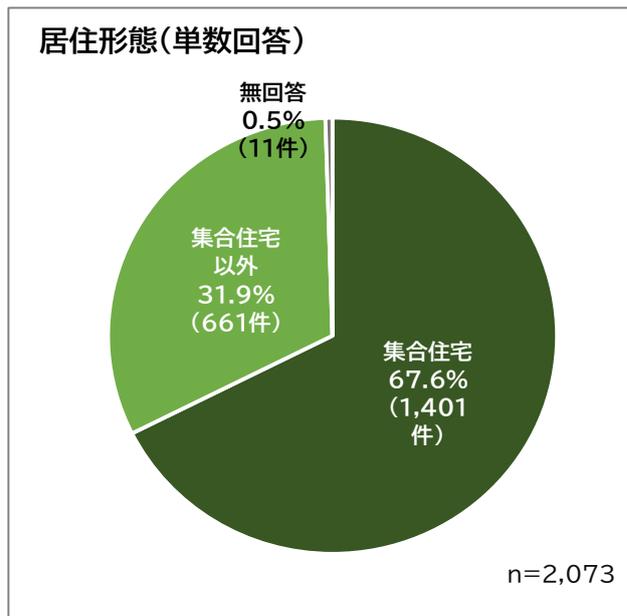
このアンケートは、今後の区内各地域及び地区における災害関連施策の検討や取組みに活用することを目的として、令和6年度に災害対策課が実施した「在宅避難支援事業(防災カタログギフト)」に合わせて行ったものである。

なお、以下に記載している回答集計結果は、カタログギフト申込者のうち、WEBで申し込みをした区民へ任意での回答を依頼し、令和6年8月9日から9月8日までに回収できた分である。

単純集計(1/5)

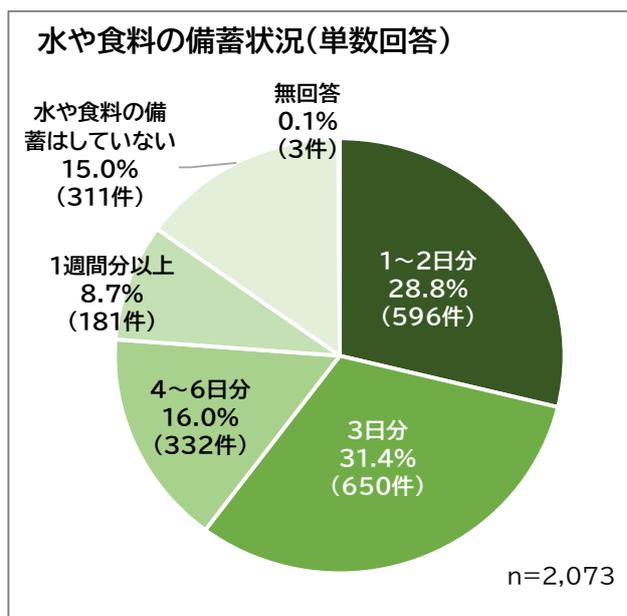
居住形態

【1】あなたはマンションなどの集合住宅にお住まいですか。



水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。

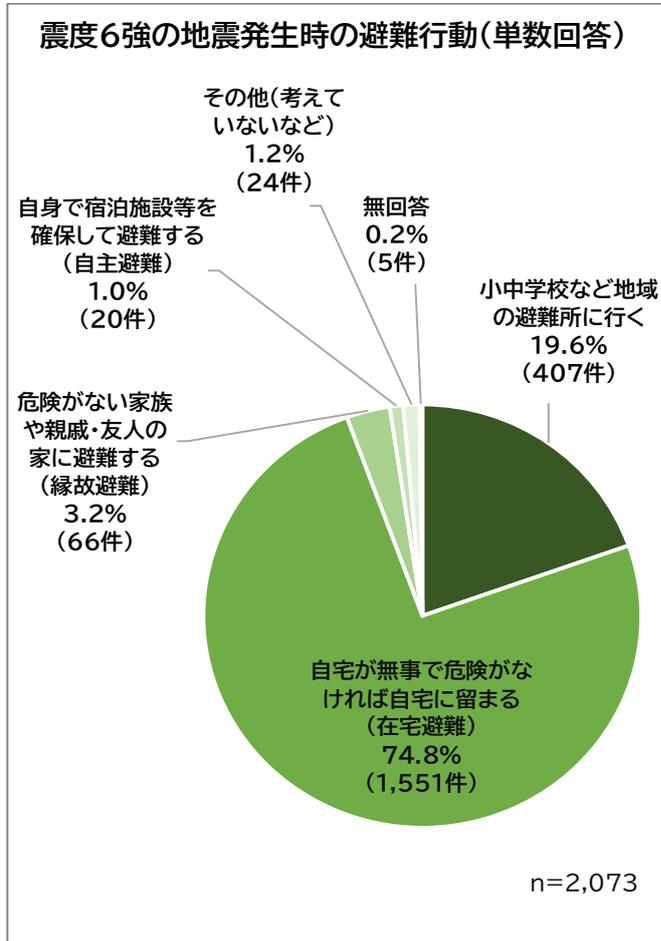


(7)区民アンケート(上野毛地区)

単純集計(2/5)

震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



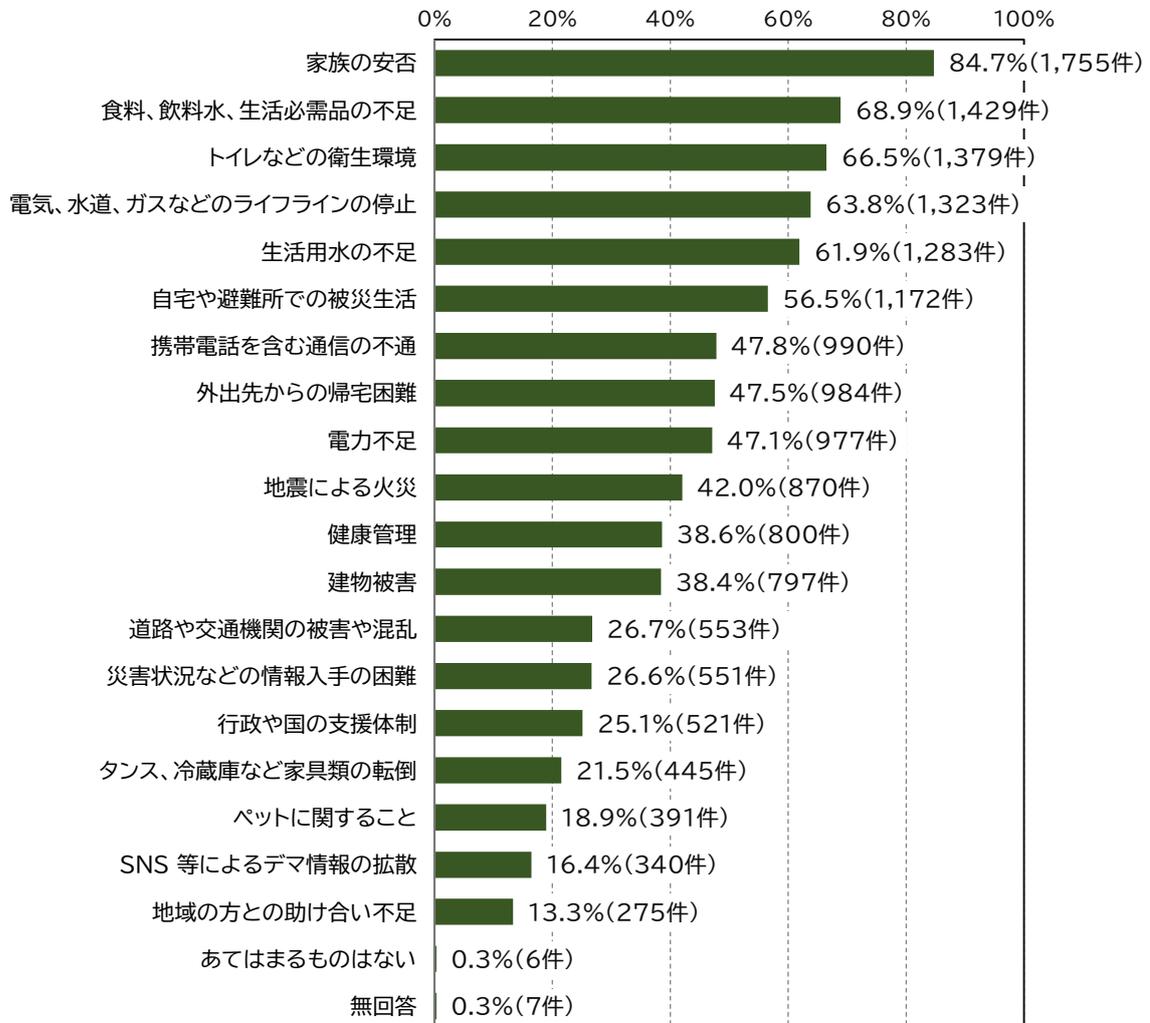
(7)区民アンケート(上野毛地区)

単純集計(3/5)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

災害時の心配ごと(複数回答)



n=2,073

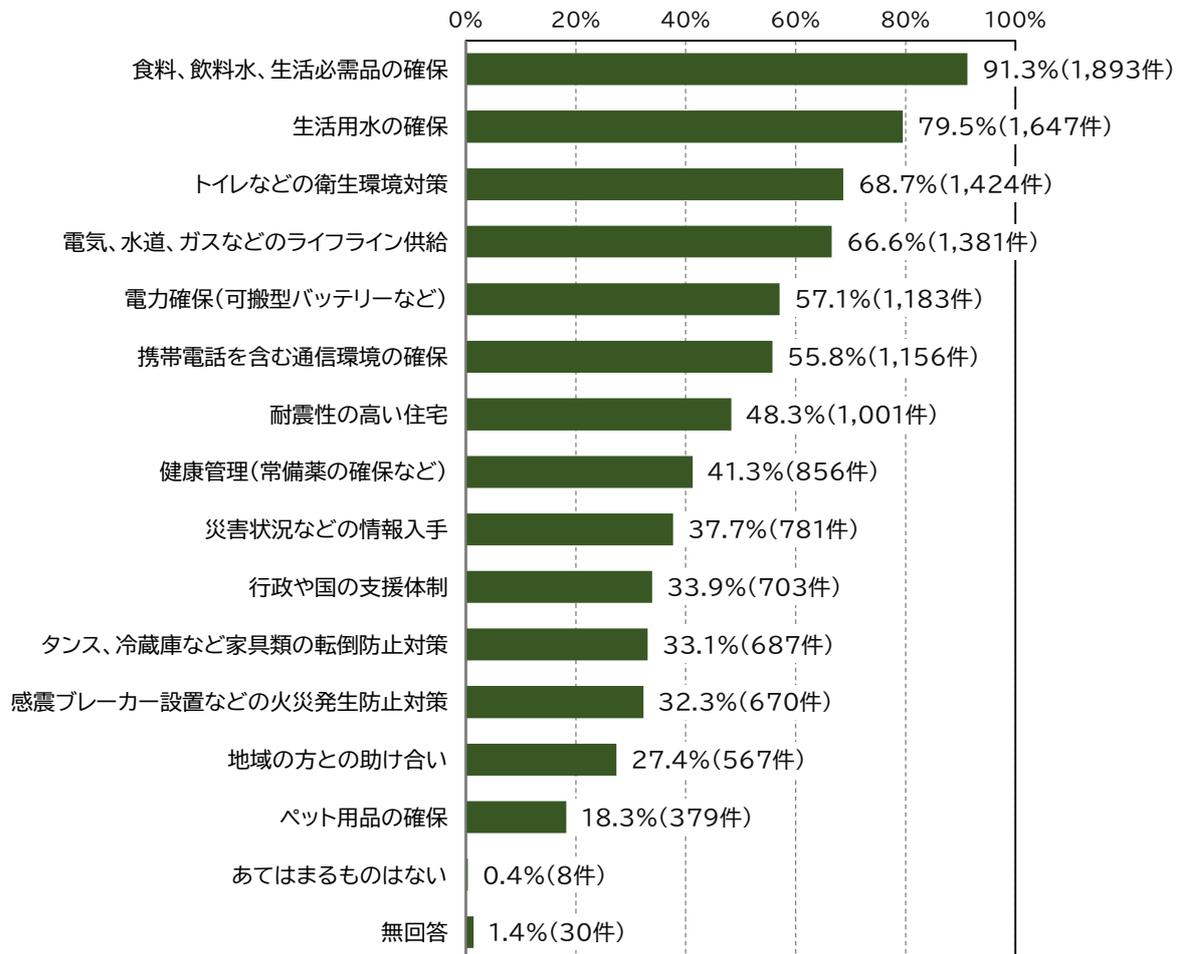
(7)区民アンケート(上野毛地区)

単純集計(4/5)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

在宅避難をするために必要だと思うこと(複数回答)



n=2,073

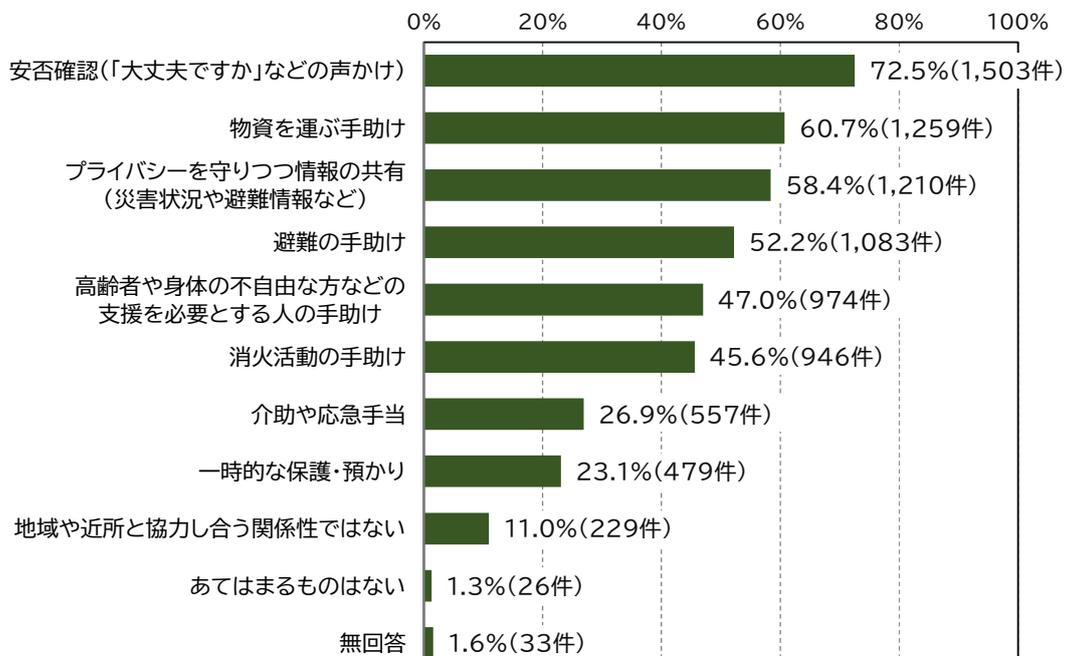
(7)区民アンケート(上野毛地区)

単純集計(5/5)

災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。

災害時にできる住民同士の支援(複数回答)

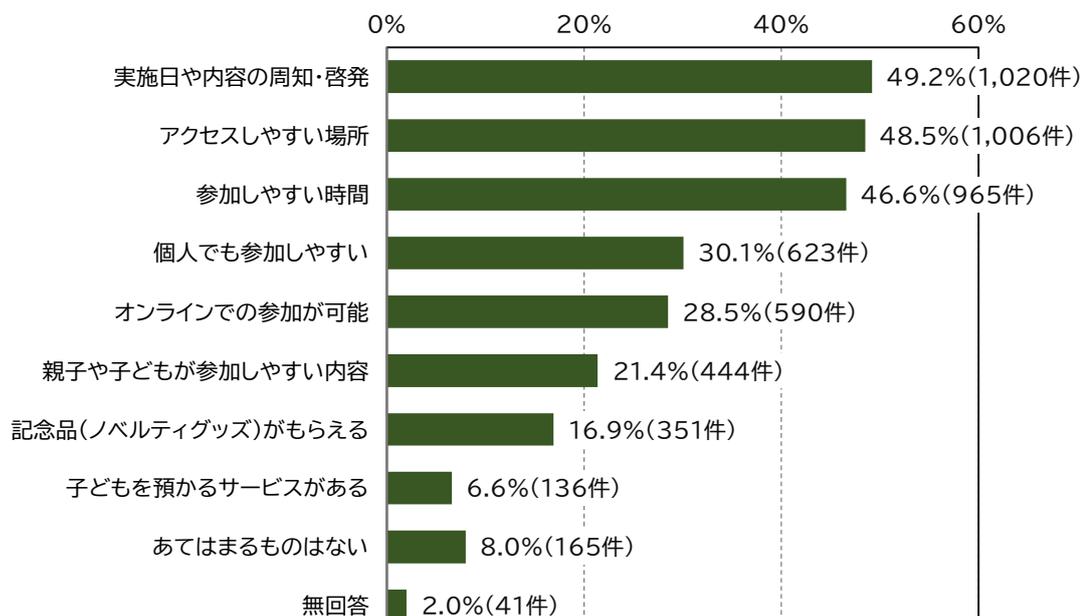


n=2,073

防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加したいと思いますか。

防災訓練や防災教室への参加意向(複数回答)



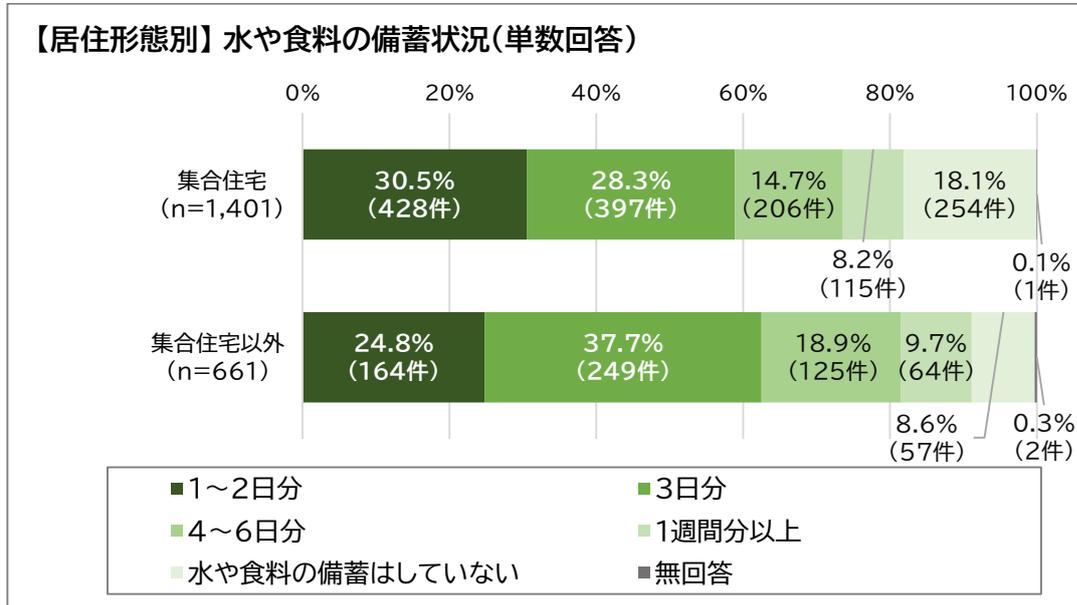
n=2,073

(7)区民アンケート(上野毛地区)

クロス集計(1/4)

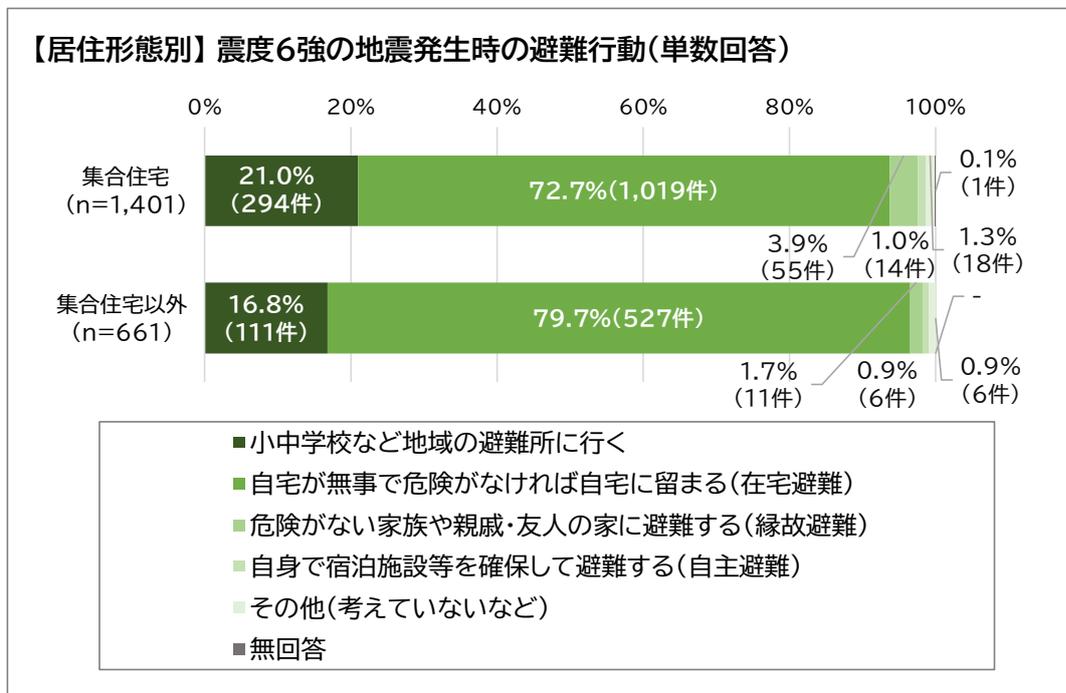
水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。



震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



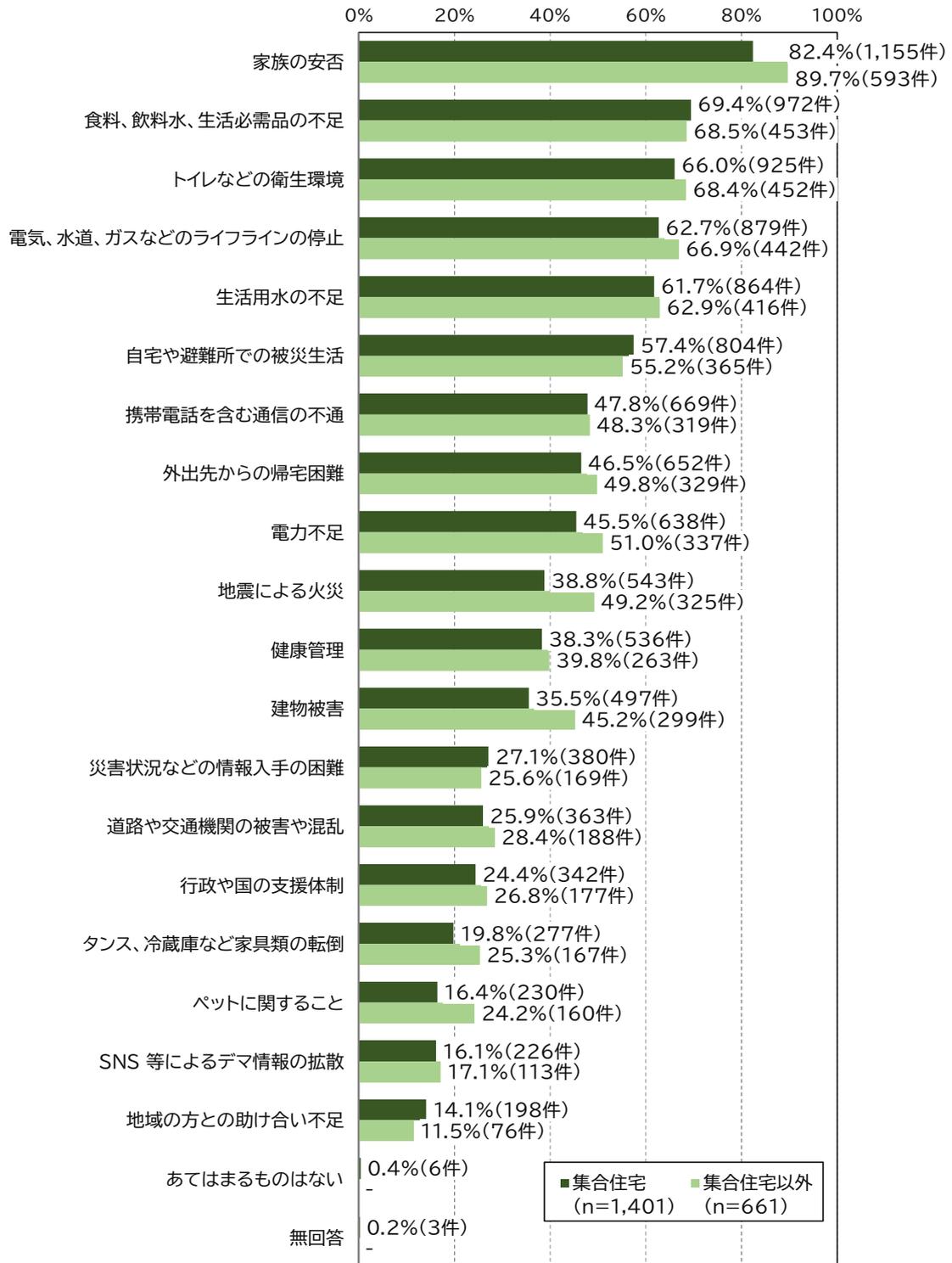
(7)区民アンケート(上野毛地区)

クロス集計(2/4)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

【居住形態別】災害時の心配ごと(複数回答)



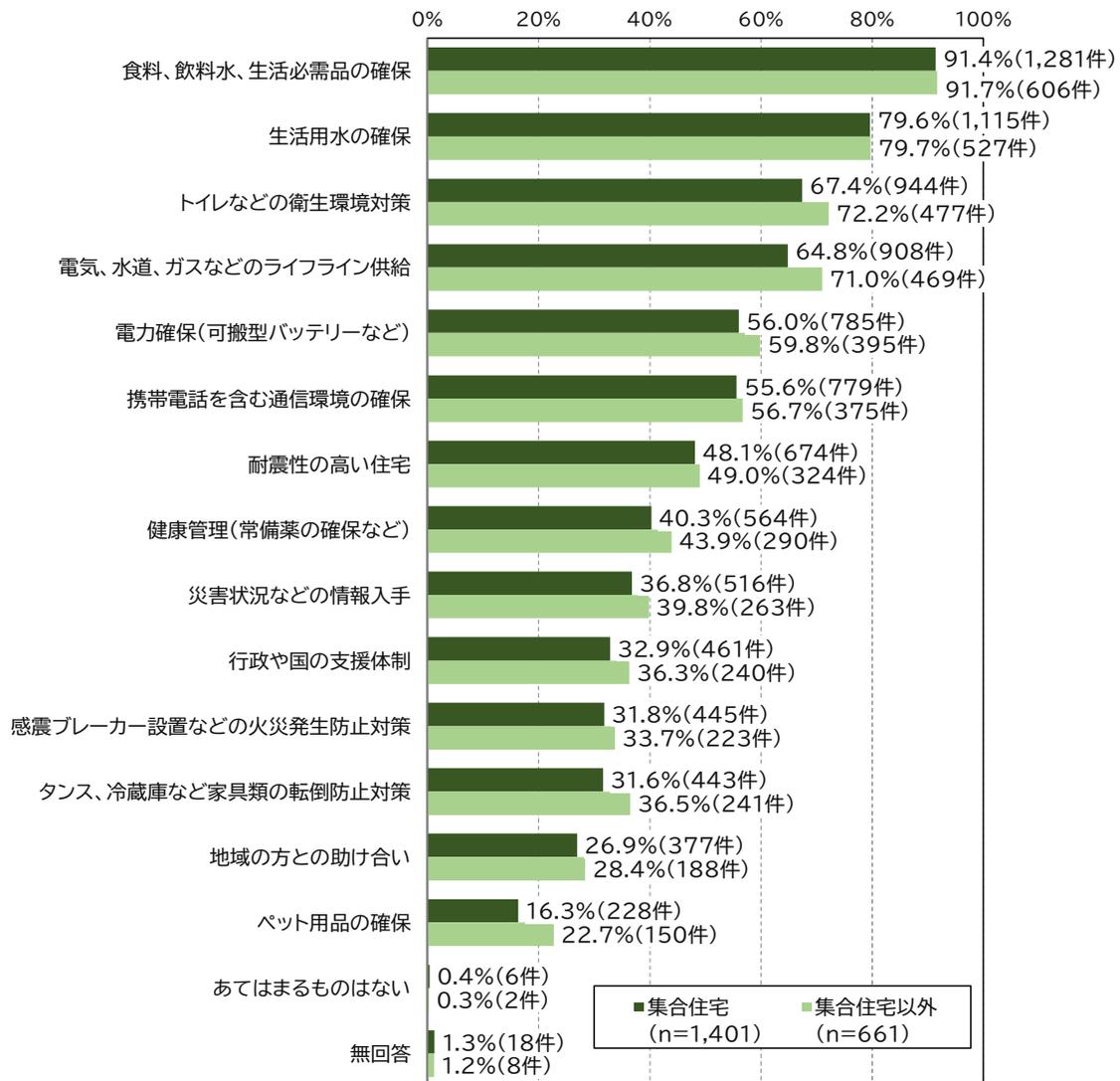
(7)区民アンケート(上野毛地区)

クロス集計(3/4)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

【居住形態別】在宅避難をするために必要だと思うこと(複数回答)



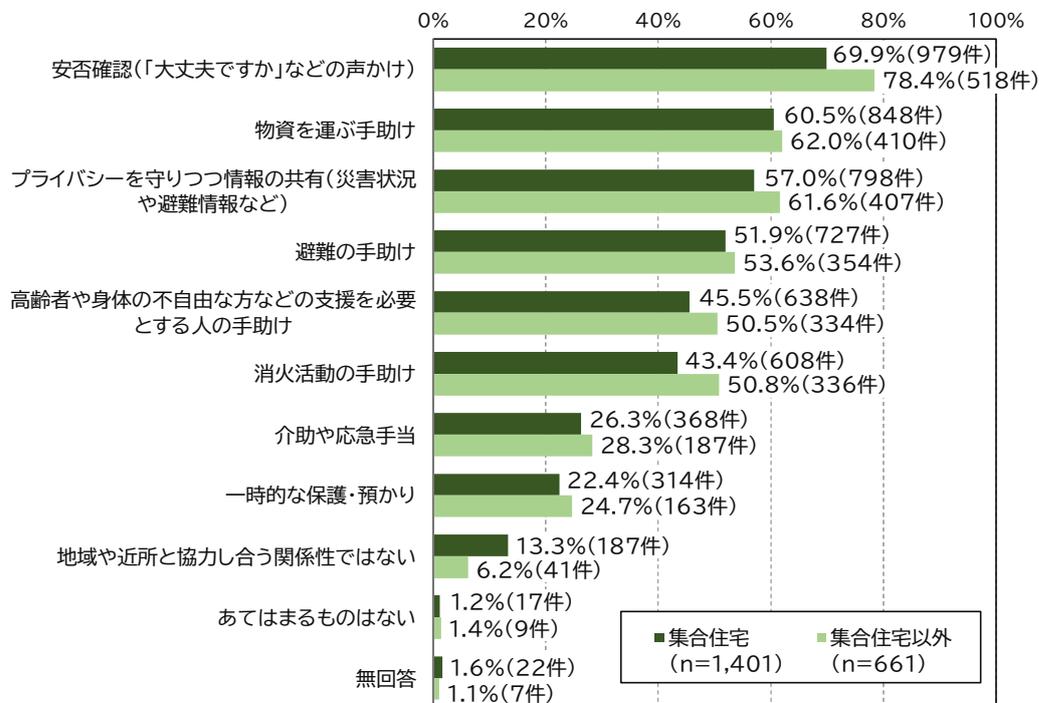
(7)区民アンケート(上野毛地区)

クロス集計(4/4)

災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。

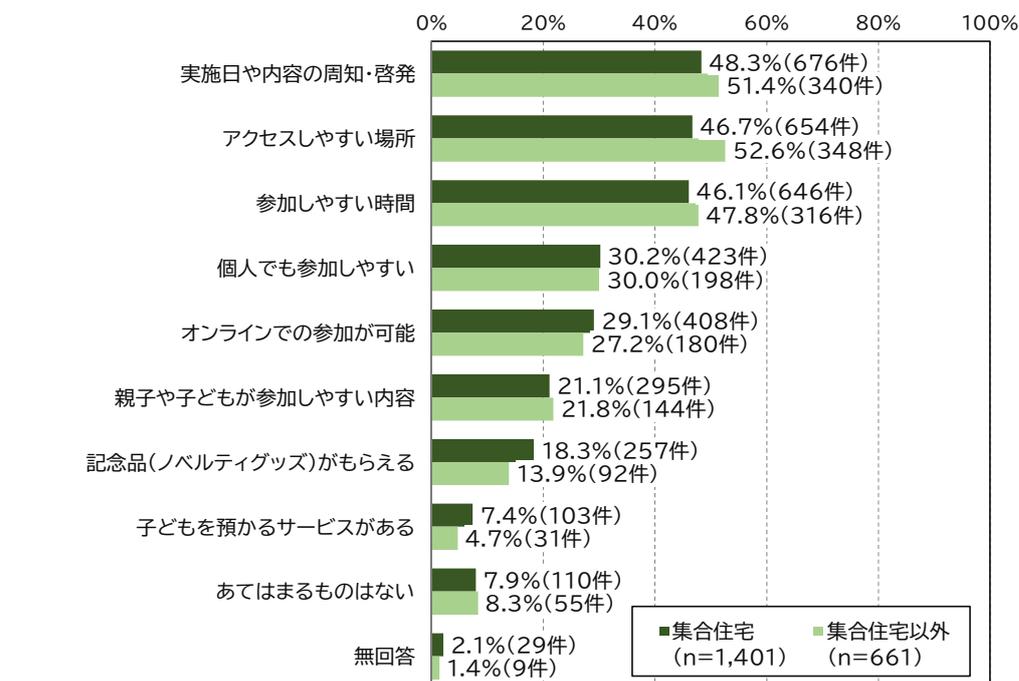
【居住形態別】災害時にできる住民同士の支援(複数回答)



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加したいと思いますか。

【居住形態別】防災訓練や防災教室への参加意向(複数回答)



2 各団体の防災活動～現在の取組状況～

団体名	防災担当者数		防災に関する会議				防災活動、資機材配備等の実施				消火資機材の配備							
	実施している	実施していない	会議名	(年間回数)	実施している	実施していない	配備している	配備していない	スタンドパイプ		D型ポンプ		消火器		その他			
									数量	場所	数量	場所	数量	場所	名称	場所		
上野毛町会	6	1			○		○		1	中町2丁目公園防災倉庫	1	中町2丁目公園防災倉庫						
野毛町会	1	○			○		○		1	六所神社防災倉庫	1	玉川野毛町公園防災倉庫						
玉川中町会	38	1	防火防災部会	3	○		○		11	天祖神社境内・権蔵橋公園防災倉庫 町会役員宅	1	権蔵橋公園防災倉庫						
中町4・5丁目町会	16	○		2	○		○		1	中町ふれあいの家防災倉庫	1	中町ふれあいの家防災倉庫						
サウススクエア防災部	2	○	サウススクエア理事会	1	○		○						77	共用廊下	屋内消火栓	共用廊下		

団体名	防災訓練等の実施							防災マップ											防災士等の数							
	実施している	実施していない	防災訓練		救命救急講習会		その他		作成済	作成中	作成検討中	作成予定なし	一時集合所	広域避難場所	避難所	街路消火器	防火水槽	震災用井戸	消火柱	その他	防災士	把握していない	地域防災リーダー	把握していない		
			回数	実施場所	回数	実施場所	訓練名称	実施場所																		
上野毛町会	○		2	玉川小学校 中町小学校 玉川中学校					○																○	○
野毛町会	○		2	玉川小学校 玉堤小学校			防災講習会		○																○	○
玉川中町会	○		3	玉川小学校 中町小学校 玉川中学校 他	1	玉川消防署 もしくは天祖 神社			○																○	○
中町4・5丁目町会	○		3	中町小学校 玉川中学校 玉川中町公園	2	玉川中町公園 (防災訓練時に実施)	防災講習会	中町ふれあいの家	○																○	○
サウススクエア 防災部	○		1	マンション 全体					○																○	○

団体名	災害時連携・協定 (区を除く)			避難行動要 支援者協定				避難行動要支援者対策				連絡手段の確保					
	他 団体 との 連携	協 定 締 結	特 に な し	連 携 先 ・ 内 容	協 定 先 ・ 内 容	締 結 し て い る	検 討 中 で あ る	予 定 は な い	日 頃 か ら の 見 守 り 活 動	要 支 援 者 体 験	避 難 行 動	そ の 他	特 に 実 施 し て い な い	簡 易 無 線	作 成 ・ 整 備	連 絡 網 の	そ の 他
上野毛町会			○			○						○					
野毛町会			○					○				○					
玉川中町会			○					○				○					
中町4・5丁目 町会			○					○				○	○				
サウススクエア 防災部			○					○	○								

団体名	防災活動に関するマニュアル (避難所運営マニュアルを除く)				救出救助に係る資機材の配備														名称	その他	保管場所	
	策定済み	策定中	検討中	予定なし	配備していない	配備している	リアカー	はしご	脚立	担架	救急セット	ヘルメット	救助工具セット	ポール	スコップ	手おの	のこぎり	ジャッキ				両口ハンマー
上野毛町会				○		○	1	1	4	5	24	3		2		1					スーパー赤色灯、投光器1、メガホンマイク5、ランタン2、車イス1、テント1、ロープ3、電エドラム3	上野毛自然公園防災倉庫 中町2丁目公園防災倉庫
野毛町会				○		○			2	1	6	1	2			2				2		玉川野毛町公園防災倉庫
玉川中町会				○		○			3			24										天祖神社境内、その他
中町4・5丁目町会				○		○	2	2	6	2	24	4		1		1					避難用はしご	中町ふれあいの家防災倉庫
サウススクエア防災部				○		○		○						○	○					○		倉庫

団体名	食糧等の備蓄														その他の防災活動				
	備蓄していない	備蓄している	アルファ米	ビスケット・乾パン	おかゆ	飲料水	缶詰類	レトルト食品類	カセットコンロ	災害用食料 その他	非常用トイレ	照明	発電機	蓄電池セット		給水タンク	その他	保管場所	備蓄品配布先
上野毛町会		○	210		40	72	148		4		2	2	1			梅干し、かまどセット、カロリーメイト120、氷砂糖4箱、ヨーカン20、バック御飯40、缶パン48、石油ストーブ1、ガソリン缶2、ポリタンク5、オムツ16、尿とりパット72	上野毛自然公園防災倉庫		
野毛町会		○		1408		40			5			2	4		80	大なべ・炭	六所神社防災倉庫		
玉川中町会		○										2	2			かまどセット	権蔵橋公園防災倉庫		防災活動の参加者に缶詰を配布し、家庭での備蓄を推奨している
中町4・5丁目町会		○				350ℓ	120	180			5	2	2			かまどセット 車椅子4	中町ふれあいの家防災倉庫		
サウススクエア防災部		○				○					○		○				防災倉庫		

3. 上野毛地区の課題と取り組み

【震災編】

1. 地区の現状

(1) 地区内の要支援者の現状

①地区の75歳以上高齢者:4,316名(令和6年10月1日現在)

②地区の避難行動要支援者:325名(令和6年7月末現在)

参考)要介護4・5の方、要介護3で一人暮らしまたは高齢者のみ世帯の方、身障者手帳1級で視覚・四肢・体幹・半身・両下肢・片下肢・移動・聴覚(聴覚は2級まで)の障害種別に該当する方、愛の手帳1・2度の方

(2) 避難所

地区及び近隣の一時集合所、周辺の広域避難場所、避難所等は下記のとおり。

① 一時(いつとき)集合所

近隣の避難者が危険回避または避難のために一時的に集合して様子を見る場所。

一時集合所	住所
上野毛自然公園	上野毛2-17
森の公園	上野毛4-29-18
権蔵橋公園	中町1-14
中町小学校	中町4-23-1
玉川中学校	中町4-21-1
玉川小学校	中町2-29-1
玉川中町公園	中町5-19
玉川野毛町公園	野毛1-25
玉堤小学校	玉堤2-11-1
都立園芸高校	深沢5-38-1
桜町小学校	用賀1-5-1

② 広域避難場所

火災延焼などにより自宅や一時集合所が危険な状態になった場合に避難する場所。都の震災対策条例により区内外25か所が指定されている。

避難場所	住所
玉川野毛町公園一帯	野毛1-25-1
多摩川河川敷・田園調布先一帯	
都立園芸高校	深沢5-38-1
区立二子玉川公園	玉川1-16-1

③指定避難所

自宅での居住継続が困難な場合、または自宅が二次災害を受ける可能性がある場合に、一時的に避難生活を行う場所。

避難所	住所	避難所運営主体
玉川小学校	中町2-29-1	野毛町会、上野毛町会、玉川中町会、等々力和敬会西部
中町小学校	中町4-23-1	中町4・5丁目町会、上野毛町会
玉川中学校	中町4-21-1	上野毛町会、玉川中町会
(隣接) 玉堤小学校	玉堤2-11-1	野毛町会、玉堤町会、協和会、尾山台クラブ、尾山台自治会、尾山台灯交会
(隣接) 桜町小学校	用賀1-5-1	中町4・5丁目町会、用賀南町会、桜新町親和会

④予備避難所

指定避難所(③)に被災者を収容しきれない場合に、区の要請に基づき避難所として開設される協定団体等の施設。

予備避難所	住所
多摩美術大学	上野毛3-15-34
専修学校 日本菓子専門学校	上野毛2-24-21
東京都市大学	玉堤1-28-1
都立園芸高等学校	深沢5-38-1
日本体育大学	深沢7-1-1
都立深沢高等学校	深沢7-3-14

⑤福祉避難所

自宅や指定避難所等で生活できない方で、特別な配慮を必要とする要配慮者のため、区の要請に基づき開設される協定団体等の施設。

福祉避難所	住所	対象
九品仏生活実習所中町分場	中町2-25-17	障害者
アライブ世田谷中町	中町3-5-23	高齢者
グランクレール世田谷中町 ケアレジデンス	中町5-9-9	高齢者
日本体育大学	深沢7-1-1	妊産婦・乳幼児

⑥帰宅困難者支援施設

発災から24時間程度まで設置、水やトイレの提供により徒歩帰宅者の帰宅支援を行う。

避難場所	住所
(区指定)深沢区民センター	深沢4-33-11
(区指定)桜新町区民集会所	桜新町1-30-14

⑦一時(いちじ)滞在施設

発災から72時間(最大3日間)程度まで設置、食料、水、トイレ、休憩場所、情報などの提供により帰宅困難者の受け入れを行う。

避難場所	住所
(都指定)都立園芸高等学校	深沢5-38-1
(都指定)都立深沢高等学校	深沢7-3-14
(区協定)二子玉川ライズほか	玉川2-21-1ほか

⑧災害時帰宅支援ステーション

災害時、救急・救助活動が落ち着いた後に帰宅困難者の徒歩支援を支援する施設。帰宅が可能となり、都が要請を行った時に設置される。可能な範囲で水やトイレ、道路情報などの提供を行う。

都立学校、東京都石油商業組合加盟のガソリンスタンド、都協定施設であるコンビニエンスストアやファーストフード店ほか。

2. 震災における課題

平成26年～28年と防災塾を実施し、地区が抱える防災の課題を「住民・事業者(教育機関を含む)・区」のそれぞれの立場で抽出し、地区防災計画に記載すべき事項として整理した。

検討項目	分類	課題
住民の視点	住民自身	①避難所に避難しないで済むための備え(トイレ対策等の備蓄品、耐震工事等)が必要 ②避難経路や避難場所について日ごろからの確認が必要 ③家具の転倒防止の重要性は認識されているが、行動に移せていないのが現状 ④地区にどのような取り組み(防災訓練等)があるのかについて、多くの住民に周知が必要 ⑤防災訓練を実施しても参加者が少ない ⑥災害対策の意識が低い(災害情報メールの登録等) ⑦地区内にある危険箇所が把握されていない(崖地や電線等) ⑧火災延焼予防の対策(感電ブレーカー(簡易型)、

		消火器設置等) ⑨普段から近隣住民との交流が少ない(例:マンションの住民との交流) ⑩個人情報等の問題で名簿の公開が難しく、要配慮者の把握が困難
	対事業者 (教育機関含む)	①防災教育の推進 ②校舎の建て替え ③安否確認等の協力体制
	対行政	①防災マニュアルはそれぞれの地域や施設で考えるのではなく区として指針を示す ②行政が主催すべき研修・訓練の工夫(例:救出機材の使い方、経験者による講演会) ③備蓄品の確保等地域単位で備えるための補助金の支援(備蓄品の保管場所等の設置) ④町会加入への誘導 ⑤要配慮者の情報提供 ⑥家屋の耐震強化のため、定期的に点検するなどの支援 ⑦避難経路の整備(古い橋の改修工事等) ⑧災害情報提供(防災無線が聞こえず機能していない)
事業者の視点	対住民	①安否確認等の協力体制 ②町会と連携した防災訓練 ③避難所になっていない公的施設(公園、学校等)を避難所として開放し、数を増やす

<地区防災計画の今後の対応として記載すべき事項の抽出>

- (1)「区の防災対策をより広く周知することが重要」という課題に対して、より具体的に対処するために、区の従来の広報を補強する住民・行政の連携による周知方法を検討する。防災塾で出された意見として「読まれる確率が高い小中学校からの通知に加える」等が挙げられた。
- (2)区の防災対策を知ることが、どのような過程で地区の防災力向上に結びつくのかをロードマップで示し、町会・自治会等を通じて周知することで、地区住民の共通認識が深まる。
- (3)防災に無関心であることは「地域に無関心」な態度の現れであることから、行政でしかできない「町会加入への誘導」等を、より強化する。
- (4)発災時の防災区民組織の活動を行政側から支援する取組みの一層の強化が必要(要支援者名簿の提供、救出・救助のための研修会、補助金の交付等)。
- (5)地区の発災時避難行動に支障をきたさないハード面での整備(避難経路にあ

る橋梁等の整備、防災無線塔の情報伝達手段の確保)。

平成29年～令和元年の防災塾では、まち歩きによる町会ごとの防災マップの避難経路の確認、講演による自助の重要性と日常的な防災の意識付けに向けた学び、避難所で発災後のボランティアニーズと支援のマッチングを行うサテライトの役割等について学んだ。令和2年はワークショップ形式により、台風第19号(令和元年東日本台風)の経験を基に風水害に関する検証を行った。

令和3年～4年の防災塾では、講演により分散避難、在宅避難の必要性を学び、グループワークで在宅避難をするために重要である情報を選択し、上野毛地区ミニコミ紙「こだま」に防災特集号として在宅避難のすすめを掲載した。

令和5年度の防災塾では「避難行動」と「避難生活」の違い、災害時における避難所運営の課題、感染対策を学び、水害啓発リーフレットに優先・重点的に記載すべき内容を検討し、上野毛地区版水害啓発リーフレットを作成した。

公助が見込めない発災後の初動段階において、自らの命は自らで守る「自助」、自分たちのまちは自分たちで守る「共助」こそがカギとなる。「自助」によって守った命を、情報伝達、避難誘導、初期消火、救出・救助、避難所運営、救護と「共助」に向けることでまちを守り、すみやかな復興につなげてゆく。

3. 震災における課題への今後の取り組み

平成26年～28年で検討してきた結果を分析して次に示す4つの柱に整理し、上野毛地区の方針として定めて地区防災力の向上に取り組んでいく。

(1) 命を守ること

① 安否確認方法

安否確認は、災害時の初動対応の中でも重要な位置を占める。近隣住民や地域等とのコミュニティを形成するほか、住民、事業者、行政の相互連携の形で協力して安否確認ができるように、日ごろから連携方法や支援方法等を確認しておく。

<自助・共助・公助>

- ・家族の中で集合場所や緊急時の連絡先を決めておく
- ・防災マップや東京都防災ブック等を活用した防災意識の向上
- ・顔の見える関係づくり(日ごろからの近所付き合い、防災塾や集会等への参加、送り迎えのみどりのレンジャーなど地区内にある組織の活用)
- ・施設の所在地を明確にし、普段から顔見知りになることで連携を図る
- ・自助努力(安否確認をして欲しい人が積極的に名乗り出る)
- ・地区内の要支援者の名簿作成・整理(人数の把握)
- ・住民、事業者、区、相互の協力体制(安否確認や救護活動での連携、情報提供、安否情報のバックアップ体制)
- ・町会加入率のアップ(行政の指導のもと加入率を上げる)

- ・防災マニュアルの整備(行政側から安否確認方法等の標準的なマニュアル等の提供)

②日ごろからの備え

これまでの災害では、家屋の倒壊や家具の転倒による圧死、窒息死が多く、事前の備えで生死が決まる。また、倒壊した建物から救出され生き延びることができた人の約8割が、家族や近所の住民等によって救出されている。そのため、日ごろから自分たちで対策や備えを徹底していく。

<自助・共助・公助>

- ・家の中の安全性を高めるための家具の転倒防止対策や安全ゾーンの設置
- ・家具の転倒防止対策の周知徹底
- ・町会の行事等での防災のPR
- ・耐震診断と耐震強化の実施・助成制度の利用
- ・家屋の耐震強化のため、行政による定期的な点検の支援
- ・研修や訓練の実施、参加(二次災害の防止、防災対策の無関心層の取り込み)

③避難経路

速やかに避難場所に移動できるよう、配布しているパンフレット等で、あらかじめ避難場所の位置を確認しておく。

それと同時に、そこまでの経路に危険な場所の有無や、迂回ルートを事前に確認しておくことがいざという時に有効である。その他、ハード面から避難経路の整備等を区に働きかけていく。

⇒資料編「29年度防災塾(まち歩き)による経路の確認」ほか参照

<自助・共助・公助>

- ・避難経路や避難場所の確認
- ・日ごろから危険箇所の把握(訓練の実施、まち歩き)
- ・防災マップ等の活用(地域の施設等に貼り出し、日ごろから避難までの経路を確認できるようにしておく)
- ・避難経路の整備(古い橋の改修工事、電線類地中化等)

④情報伝達

発災時には、電話等が繋がらず、情報が錯綜し、正確な情報を収集することが困難になることが想定される。また、地域には、情報発信のために防災無線塔があるが聞こえづらいといった問題がある。どのように情報発信・収集の手段があるのかを把握し、安否確認情報や地域の避難所情報など正しい情報を共有する。

<自助・共助・公助>

- ・災害用伝言ダイヤル(171)、災害用伝言板(Web171)
- ・伝言板・掲示板を設置するなど、家族や近隣住民間の情報交換
- ・バスや自動販売機等の掲示板の活用

- ・地元の情報(エフエム世田谷や SNS、防災メールの登録)
- ・有効的な防災無線の設置計画

(2)地区全体の安全の確保と被害が広がらないための対策

①初期消火

発災時の初期消火は、被害の拡大を抑えることができるため、可能な範囲で初期消火にあたる。そのため、日ごろから訓練等を通して経験することがいざという時に有効である。

<自助・共助・公助>

- ・訓練の推進、消火訓練への積極的な参加(学校の生徒や保護者を巻き込んだ訓練の実施)
- ・街路消火器や消火栓の確認
- ・一家に一台消火器や消火栓の確認
- ・火災を出さないための取り組み(通電火災予防のための感電ブレーカー(簡易型)設置等の指導・助成)
- ・消火方法等、防災意識の薄い方に対しての周知徹底
- ・消火器の設置や貯水槽の計画的な設置
- ・スタンドパイプの増設
- ・電柱トランスの削減工事

(3)助かった人の命と健康が守られること

①避難所で生活しにくいすむための対策

避難所は、自宅に居住できなくなった被災者を一時的に受け入れ保護するための場所であるほか、物資の集積、情報の拠点という役割がある。しかし、避難所の役割を理解していない住民が多いほか、避難所の数も足りていないのが現状である。そのため、自宅で居住の継続ができる状況であれば、在宅避難をする。また、配給された物資は、避難所に避難している人だけでなく、在宅避難している人にも公平に行き渡るよう、考慮する。

<自助・共助・公助>

- ・在宅避難でのトイレ問題、ごみ処理等の対策
- ・家族が7日間以上生活できる備蓄品の備え(食料、飲料水等)
- ・井戸水の有効活用
- ・避難所のあり方や状況(スペース不足やプライバシーの確保が困難など)を理解する(在宅避難の推進)
- ・自宅だけでなく地域単位で備蓄品を備える(助成金の支援)
- ・在宅避難している方の物資供給や災害情報伝達の仕組みづくり(名簿等の作成)
- ・避難者自身で自主的に避難所運営ができる仕組みづくり(動ける人には避難

所に取りに来てもらう等)避難所運営訓練の実施や避難所運営マニュアルの整備

・地域にある神社や仏閣等を避難所として開放

※過去の災害で避難者が自主的に運営した避難所では復興が早かった。

(4)地域の復興に向けた支援(公助)を早く受けられること

①避難所運営組織のリーダー

避難所運営のマニュアルがあっても、日中は仕事等で地域に人がいないことが考えられ、人手不足やリーダー的存在がいなかったことが想定される。誰でもがリーダーとなれるようにより実践的な訓練を行い、臨機応変に避難所の運営ができる仕組みづくりを進めていく。

<自助・公助>

・防災の知識を身に付けるための研修や訓練の実践(リーダーの育成、地域の学校に通っている生徒の保護者等を対象にするなど)

【風水書編】

1. 風水書における課題と取り組み

台風第19号(令和元年東日本台風)の経験を基に行った令和2年のワークショップ形式による検証の結果を、以下に整理してまとめた。

課題1 情報伝達・安否確認・避難支援・避難誘導・避難所運営

■現状(意見)

- ・防災無線が聞こえず、避難するタイミングがわからない。
- ・避難勧告・避難指示情報が住民に伝わっていない。
- ・停電で情報が入らなくなった。
- ・行った避難所が開設されていなかった／行った避難所がいっぱいだった。

■地区における今後の取り組みの方向性

- ・自主避難に向けた各家庭におけるマイ・タイムラインの作成促進を検討
- ・複数の情報伝達手段(ツール)の確保、把握、周知の検討
- ・地区において情報班が近隣住民に正しい情報を伝達する体制の整備

■各団体における今後の取り組みの方向性

- ・防災教育(防災意識の醸成)により、各家庭におけるマイ・タイムラインの作成促進を検討〔青少年団体〕
- ・地区において情報班が近隣住民に正しい情報を伝達するために、ハザードマップの想定浸水区域の中で、情報班からの情報伝達を必要とする住民(高齢者など)を把握することの検討〔町会、民生委員、あんしんすこやかセンター、社会福祉協議会上野毛地区事務局〕
- ・各地区における、コミュニティを通じた自主的な連絡網の作成を検討
- ・既存のイベントや広報媒体などを活用した防災啓発活動の実施を検討〔町会、青少年団体、各種協議会など〕

課題2 情報伝達・安否確認・避難支援・避難誘導・避難所運営

■現状(意見)

- ・助けに行こうにも、助けを求めている地区や世帯(被災地)がわからない。
- ・どの範囲(地区)まで安否確認が必要かわからない。

■地区における今後の取り組みの方向性

- ・まずは家族、近隣といった可能な範囲から安否確認の輪を広げていく
- ・連絡網の整備と安否確認体制の確立

■各団体における今後の取り組みの方向性

- ・避難行動要支援者の把握について検討
- ・避難行動要支援者と支援者との顔合わせなどの支援方法を具体化していく〔町会、民生委員、あんしんすこやかセンター、社会福祉協議会上野毛地区事務局〕

課題3 情報伝達・安否確認・避難支援・避難誘導・避難所運営

■現状(意見)

・避難行動要支援者への支援体制が不十分である。

■地区における今後の取り組みの方向性

- ・安否確認のルールを作り、町会加入者以外にも周知を図る
- ・避難行動要支援者が積極的に声をあげられる仕組みの確立
- ・要支援者と、協力者との連携を図る〔町会、民生委員、あんしんすこやかセンター、社会福祉協議会上野毛地区事務局、福祉事業所〕

■各団体における今後の取り組みの方向性

- ・連携先であるデイホーム中町やなかまっちとの役割分担を明確にする
- ・各町会は、町会会議などで検討し、「避難行動要支援者の支援に関する協定」締結に努める

課題4 情報伝達・安否確認・避難支援・避難誘導・避難所運営

■現状(意見)

- ・台風第19号(令和元年東日本台風)の際、避難所となっていない学校や施設に来る方が多数おり、消防団が誘導に人手を割かれた。
- ・避難経路である道路上に車のスロープか何か障害物となっていたが、消防団の権限では動かせなかった(区の権限による指示が必要だった)。
- ・感染症流行期には避難所の収容人数を制限しなくてはならず、玉川小学校だけでは地区の避難者を収容しきれない。
- ・最寄りの避難所(玉川小学校)がただでさえ(野毛から)遠く、避難所に収容しきれなかった方をほかの避難所(中町小・玉川中学校など)に誘導することはかなり難しい。
- ・台風第19号(令和元年東日本台風)の際には、避難所(尾山台小学校)に到着したが満員で入れない避難者がいた。高齢者などはやっとのことで避難しており、そこからの移動は難しいため受け入れてくれないと困る。
- ・車で避難したら避難所で車の受け入れを断られた。
- ・時間経過とともに、ボートがないと避難できないような冠水状況となる。救助に専用の物品が必要。
- ・避難所に避難するまでの経路に中小河川があり危険。
- ・中町小・玉川中は谷沢川沿い。避難途中で冠水箇所がないか、無事に避難経路が確保できるのか不安。加えて、避難所も浸水の危険があるのでは。
- ・野毛は、多摩川沿いであり、多摩川の氾濫(越水)と中小河川の内水氾濫の両方の危険にさらされている。崖(国分寺崖線)下であり、近隣の野毛青少年交流センターを避難所としてほしいが(土砂災害警戒区域であり)避難所として開放されない。遠方の避難所まで坂を上らなくてはならない。
- ・避難所が少ない。野毛地区に避難所がなく、高齢者などのためにも追加で避

難所を設けるべき。

- ・区全体のハザードマップでは地区が小さく表示され、必要な情報がない。

■地区における今後の取り組みの方向性

- ・在宅避難、自主避難、縁故避難の推進
- ・いざという時は縁故者宅に避難させてもらえるよう縁故者と普段から相談しておく
- ・危険箇所の把握(訓練の実施、まち歩き)
- ・安全な避難経路の把握と誘導〔消防団ほか〕
- ・避難所の受け入れ状況の迅速な把握と周知方法を検討
- ・関係機関との避難所に関する情報伝達の工夫
- ・救助や避難支援のための物品(ボートなど)の確保、把握、調整の検討

■各団体における今後の取り組みの方向性

- ・警戒レベル3の時点での近隣での避難の声掛け
- ・避難者の移送、移動支援などの検討
- ・自主避難先(建物上部のゲストルーム、店舗スペースなど)確保の検討
- ・避難所のルール(車両避難禁止、ペット受け入れルールなど)の周知

課題5 情報伝達・安否確認・避難支援・避難誘導・避難所運営

■現状(意見)

- ・台風第19号(令和元年東日本台風)の際の避難所が、地区に縁がなく防災倉庫の位置もわからない管理職1~2名による不十分な対応であった。
- ・避難所で、車両やペットの受け入れができず混乱が起きた。
- ・避難所開設時の、応援要請がいつ誰に来るのかわからない。
- ・町会員への水害時避難所開設・運営の応援要請があるのかないのか、震災時との違いが判らない。
- ・震災時の避難所運営訓練が水害時避難所開設・運営に役立った。

■地区における今後の取り組みの方向性

- ・水害時避難所の開設・運営には、震災時の避難所運営訓練を行っている運営組織の者が積極的に関わり、住民主体の避難所運営を実施する
- ・水害時避難所運営訓練を行う

■各団体における今後の取り組みの方向性

- ・自身及び自宅の安全確保ができた場合は避難所運営に関わり、住民が主体となって円滑な運営に努める〔避難所運営組織:町会、学校協議会、PTA、ペット防災せたがやネットワーク〕
- ・各避難所における避難所運営訓練の実施

資料編

資料1 まち歩き(29年度防災塾)における経路の確認

上野毛町会

野毛町会

玉川中町会

中町4・5丁目町会

資料2 防災マップ活用ガイド①

防災マップ活用ガイド②

資料3 上野毛地区防災マップ

～コミュニティ・避難・防災情報マップ～

資料4 上野毛地区防災マップ 防災活動支援マップ

資料5 上野毛町会マップ

資料6 野毛町会マップ

資料7 玉川中町会マップ

資料8 中町4・5丁目町会マップ

資料9 こだま第153号防災特集(上野毛地区)

資料10 上野毛地区水害対策のすすめ

まち歩き（29年度防災塾）における経路の確認



野毛町会



崖
土砂崩れの危険性

冠水多発地帯
降水時に浸水の危険性

冠水多発地帯
降水時に浸水の危険性

地域の絆を大切に
日ごころから、ご近所付き合いや地域との関わりを少しずつ持つといざという時に頼りになります。

みなさんの加入をお待ちしています！

野毛町会

お問い合わせ先：(世田谷区町会総連合会事務局) 電話/FAX 03-5481-3456

地域別指定避難所一覧

- 学区を基準に避難先の避難所が決められています。
- ただし、災害発生時には、最寄りの避難所に避難できます。

玉川中町会

冠水多発地帯
降水時に浸水の危険性

駒沢通り

冠水多発地帯
降水時に浸水の危険性

電柱
電柱が多く倒壊の危険性

権蔵橋
老朽化で落橋の危険性



中町4・5丁目町会

サクラ並木
古木のため倒木の危険性

ブロック塀
高さ4mで倒壊の危険性

冠水多発地帯
降水時に浸水の危険性

ブロック塀
高さ4mで倒壊の危険性

液状化危険地帯
降水時に液状化の危険性
避難所へ行けない可能性

大きなビル
窓ガラス落下の危険性



防災マップ活用ガイド

防災マップについて

私達が住む上野毛地区の防災情報をたくさん載せた地図です。

●**コミュニティ・避難・防災情報マップ**・・・日常的なコミュニティ情報のほか、災害発生時に必要となる避難や防災情報を得るための施設や設備の所在地を掲載しています。

●**防災活動支援マップ**・・・災害発生時に必要となる救助や消火・給水のための施設・設備などの所在地を掲載しています。

●**町会マップ**・・・各町会を中心とした、コミュニティ・避難・防災情報や救助工具・消火設備などのあらゆる情報を掲載しています。

上野毛地区管内のあらゆる施設や名所も載せていますので、災害時に役立つのはもちろん、日常の生活にも是非ご利用ください！

作成：上野毛地区町会連合会（上野毛、野毛、玉川中町、中町4・5丁目 各町会）
事務局：上野毛まちづくりセンター（TEL.03-3705-1361）

平成27年度東京都地域の底力助成事業
作成日：2015/12/06 情報基準日：2015/8/20

住所別避難所一覧

★学区を基準に避難先の避難所が決まっています。
★ただし、災害発生時には、最寄りの避難所に避難してください。

避難所	避難対象地域（学区）が基準
中町小学校 中町4-23-1	<p>上野毛町会 中町4・5丁目町会 中町4丁目6-14・23番、中町5丁目1-7・11-41番 上野毛4丁目1-4・9-21・25-37番、(5・6・7・8番の一部)</p>
玉川小学校 中町2-29-1	<p>上野毛町会 野毛町会 玉川中町会 中町1丁目全域、中町2丁目全域、野毛3丁目全域、上野毛1丁目1-18番、 上野毛2丁目全域、上野毛3丁目全域、等々力2丁目32・33番（一部） 等々力2丁目39番・40番、等々力3丁目全域、等々力4丁目3-8・16-18番</p>
玉川中学校	<p>上野毛町会 玉川中町会 上野毛1丁目19-34番、中町3丁目全域、中町4丁目1-5・15-23・33-38番、 中町5丁目19-34番、中町3丁目全域、中町4丁目1-5・15-23・33-38番、</p>
玉堤小学校 玉堤2-11-1	<p>野毛町会 玉堤町会 協和会 尾山台クラブ 尾山台自治会 尾山台灯交会 野毛1丁目全域、野毛2丁目全域、玉堤1丁目全域、玉堤2丁目全域、 等々力1丁目全域、尾山台1丁目全域、尾山台2丁目全域</p>
桜町小学校 用賀1-5-1	<p>中町4・5丁目町会 用賀南町会 桜新町親和会 中町5丁目8-10番、用賀1丁目全域、用賀2丁目全域、用賀3丁目12・13番 用賀4丁目1-3番、玉川台1丁目5-6番（一部）8-16番、瀬田3丁目13-15番（一部） 桜新町1丁目2-36番（25・27番の一部）、深沢1丁目8-13・23-25番、深沢8丁目10-18番</p>
瀬田小学校 瀬田2-15-1	<p>瀬田町会 玉川町会 上野毛4丁目22-24・38-39番、(5・6・7・8番の一部)、瀬田1丁目全域、瀬田2丁目全域 瀬田3丁目1-12番（13-15番の一部）、瀬田4丁目全域、瀬田5丁目全域、 玉川台1丁目1-4・7番（5・6番の一部）、玉川台2丁目1-2・4・7-16・32-33番（3・17-31番の一部）</p>

★避難の順序

解説！

自宅の備えが
大切です

一週間の備蓄を
耐震化や水食料の備蓄で、最も身近な避難場所になります

◆集合する時⇒
自宅等が危険になった時
●危険回避のため
に一時的に集合し
て様子を見る場所
です。町会・自治
会・事業所等の集
団で行動し周囲の
状況を確認しま
しょう。

◆避難する時⇒
**一時集合場所等
が危険になった
時**
●火災の延焼など
で自宅・一時集合
場所が危険な状態に
なった時の避難場
所です。

◆避難する時⇒
**自宅での居住が
困難な時・二次
災害を受ける可
能性のある時**
●一時的に生活す
るための施設です。
区立小・中学校が
指定されています。
※左記の地域別避難所
一覧をご覧ください。

身近な避難場所

- 公園 Park
- 農地などの空地 Open space

一時(いつ)とき集合場所

- 上野毛自然公園
- 玉川野毛町公園
- 権蔵橋公園
- 玉川中町公園
- 中町小学校
- 玉川小学校
- 玉川中学校
- 玉堤小学校
- 桜町小学校
- 瀬田小学校

※小中学校は避難所を兼ねる

広域避難場所

- 玉川野毛町公園一帯
- 多摩川河川敷・田圃調布先一体
- 都立園芸高校

避難所

- 玉川小学校
- 中町小学校
- 玉川中学校
- ★**医療救護所を開設**
- 玉堤小学校
- 桜町小学校
- 瀬田小学校

★その他の避難所

解説！

二次避難所

アライヴ世田谷中町(高齢者)
丸島私生活学習所(中町分場)
玉川福祉作業所(障がい者)
三田園学園中学・高校(保健師・乳幼児)

避難所の生活が困難で、介助が必要な高齢者や障がい者、妊産婦・乳幼児等を受け入れる避難所です。

帰宅困難者支援施設

- 一時滞在施設 都立園芸高校ほかの都立高校
- 支援施設 深沢区民センター

帰宅困難者を支援するための施設です。

○帰宅支援ステーション
カプリオスタンド
コンドレニ
Columbus Store

第二順位避難所

多摩美術大学
上野毛キャンパス
都立園芸高校
日本菓子専門学校

避難所が利用できない場合や、不足した場合の臨時避難所です。

医療救護

もよりの医院・診療所
医療機関が機能している場合は、医療機関に受診

医療救護所
医療機関が機能しない場合に備え、臨時に開設される医療救護施設
玉川中学校

災害時拠点病院
東京都が指定した災害時の拠点病院(中等療養病棟)
○大塚病院
○国立東京医療センター
○国営中央病院

医療機関は混雑が予想されます。
もしもの時のために
**高齢者命などの場合に
参加しましょう！**

特別な避難所

二次避難所

帰宅困難者支援施設

第二順位避難所

医療救護

避難の順序

一時集合場所

広域避難場所

避難所

特別な避難所

帰宅

帰宅

二次避難所

二次避難所

医療救護

医療救護

災害時拠点病院

災害時拠点病院

上野毛地区 防災マップ

-コミュニティ・避難・防災情報マップ-

Evacuation route Map



日頃から、自宅から避難所までの避難ルートを確認しておきましょう。
 災害時には、一人で行動するより、ご近所で助け合ひましょう。
 マップを参考に、防災施設や設備を避難や救助に活用しましょう。



防災マップのみかた・つかいかた

- この「コミュニティ・避難・防災情報マップ」には、日常的なコミュニティ情報のほか、災害発生時に必要となる避難や情報を得るための施設や設備の所在地を掲載しています。
- 防災活動に必要な情報については、裏面の「防災活動支援マップ」をご覧ください。
- マップ上のマーク（絵文字）は、それぞれの施設や設備の場所を表しています。
- マークの種類については、マップの「凡例」をご覧ください。
- マークについては、マップの表示の制約上、位置をずらしたりまとめて表示している箇所があります。
- ※ 街区及び道路の形状や幅員については、見やすくするために、縮尺を変更している箇所があります。

避難所について

- 避難所を開設する場合
 世田谷区内の震度が「震度5弱以上」の場合、世田谷区と各避難所運営本部(地域と学校で構成)が協議し、避難所の開設を判断します。
- 避難所の指定
 避難先の避難所は、小学校の学区で割り当てられています。なお、割り当ての避難所でなくても最寄りの避難所に避難できます。

地域

上野毛地区 町会区分

防災拠点

- 防災拠点
- 避難施設ゾーン
- 避難経路の標識
- 注意箇所

災害ダイヤル

NTT災害用伝言ダイヤル「171」

1171にダイヤル

ガイダンスにしたがって利用する

- 1 自分の伝言を登録する
- 2 家族の伝言を登録する

自分の電話番号を市外局番から入力

伝言を録音 (30秒以内) 伝言を聞く

※ 平常時にあらかじめ家族と災害時の連絡方法を決めておきましょう。

凡例

コミュニティ

- 公共施設 Public facility
- 主な施設 Main facility
- 学校 School (国・中・小)
- 病院・診療所 Clinic
- 銀行 Bank
- 郵便局 Post office
- 文庫 Library
- 防災舎 Disaster relief center
- 駅 Station
- 公園 Park
- 緑地・緑地・空地 Other green land
- 信号機 Traffic light
- 歩道橋 Footbridge
- 橋 Bridge
- 空くら Archway / Roma
- コンビニ Convenience store
- コンビニ Convenience store
- スーパー Supermarket

避難

- 一時集合所 Temporary safety meeting place
- 広域避難場所 Wide area evacuation site
- 避難所 Evacuation shelter
- 第二避難所 (緊急避難所) Second evacuation shelter (Emergency evacuation site)
- 二次避難所 Secondary evacuation site
- 医療救護所 Medical relief station
- トイレ Toilet
- 車椅子用トイレ Wheelchair toilet
- マンホールトイレ Manhole toilet
- 帰宅支援ステーション Returning home support station
- 帰宅支援者滞在施設 Returning home supporter accommodation
- AED Automated external defibrillator
- 自衛隊外式救助隊 Self-defense force rescue team

防災情報

- 防災無線 防災無線 (防災無線)
- 防災無線 防災無線 (防災無線)
- 公共電話 Public phone
- 災害用伝言ダイヤル Disaster relief center
- 災害用伝言ダイヤル Disaster relief center
- 伝言表示板 Message board
- 伝言表示板 Message board
- 街区防災板 City block disaster board
- 街区防災板 City block disaster board

水防

- 水害一時避難場所 Temporary high ground
- 水害一時避難場所 Temporary high ground
- 避難所 避難所
- 避難所 避難所

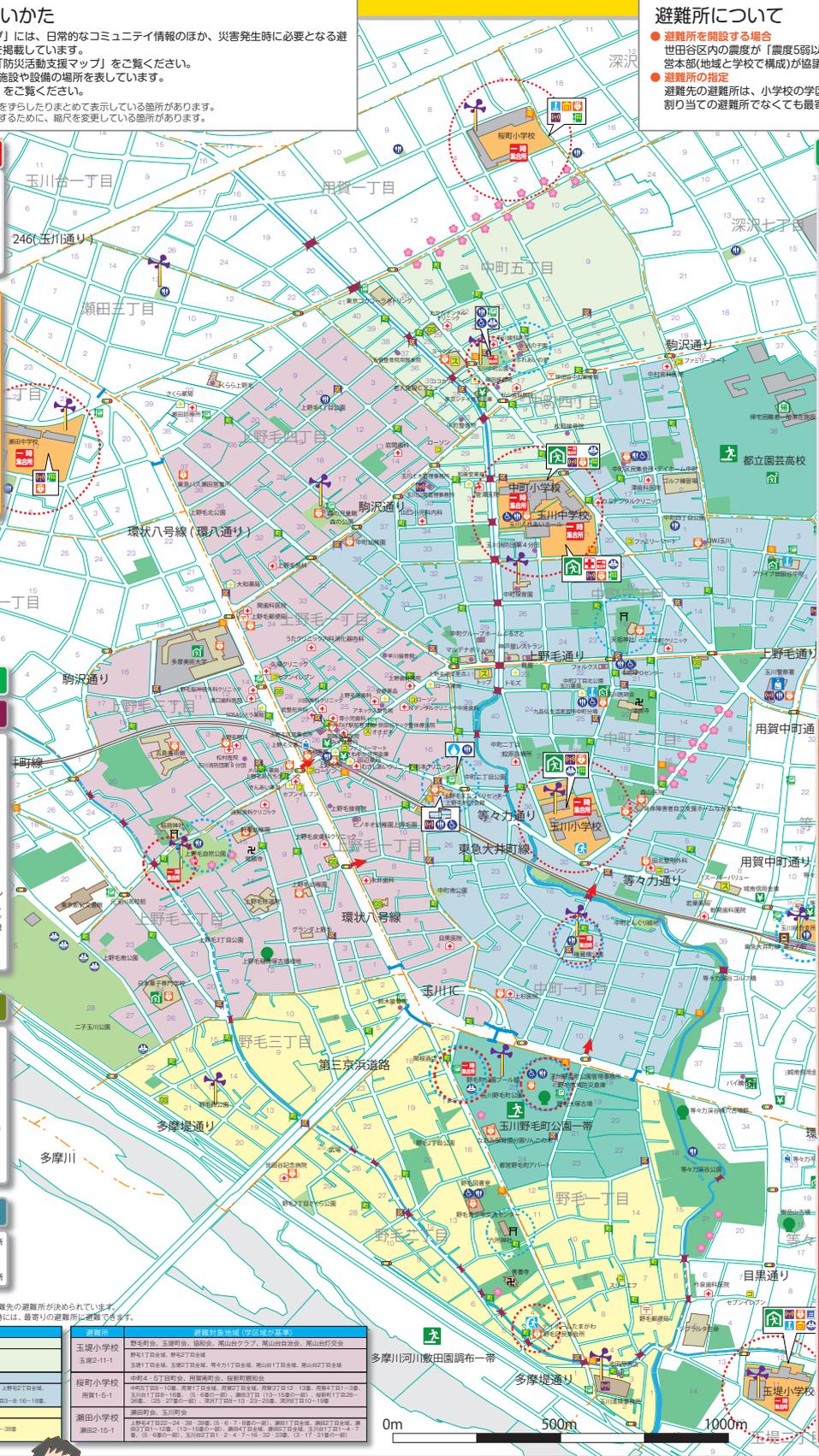
世田谷区の防災拠点

- 上野毛地区拠点 防災拠点
- 上野毛まづくりセンター あんしんずかやセンター
- 地域災害対策拠点 防災拠点
- 玉川小学校 避難所
- 玉川地区公民館 避難所

地域別指定避難所一覧

●学区を基本に避難先の避難所が決められています。
 ●ただし、災害発生時には、最寄りの避難所に避難できます。

避難所	避難所名	避難所名	避難所名
中野小学校	中野4-20-1	玉川小学校	玉川2-11-1
玉川小学校	中野2-29-1	桜町小学校	用賀1-5-1
玉川中学校	中野4-21-1	瀬田小学校	瀬田2-15-1



自宅の備えが大切です

一週間分の備蓄を

副食化や水食料の備蓄で、自宅が最も身近な避難所になります。

身近な避難場所

- 公園 Park
- 農地などの空地 Other green land

一時(いつと)き集合所

自宅から徒歩5分以内の避難所

- 上野毛自然公園
- 玉川野毛公園
- 榎森公園
- 玉川中野公園
- 玉川小学校
- 中野小学校
- 三田川小学校
- 桜町小学校
- 玉川中学校
- 玉堤小学校

広域避難場所

自宅から徒歩10分以内の避難所

- 玉川野毛公園一帯
- 多摩川河川敷
- 田園調布先一帯
- 都立園芸高校

避難所(第1順位)

- 玉川小学校
- 中野小学校
- 玉川中学校
- 玉川小学校
- 医療救護所
- 桜町小学校
- 玉堤小学校

二次避難所

介護が必要な高齢者や障がい者、乳幼児を受け入れる避難所

- アライフ世田谷中町(高齢者)
- 丸島生活実習所
- 中野分庫(障がい者)
- 玉川福祉作業所(障がい者)
- 三田川障害者センター(障がい者)
- 三田川障害者センター(障がい者)
- 三田川障害者センター(障がい者)

帰宅困難者支援施設

帰宅困難者の帰宅を支援する施設

- 帰宅困難者一時滞在施設
- 帰宅困難者一時滞在施設
- 帰宅困難者一時滞在施設
- 災害時帰宅支援ステーション
- ガソリンスタンド
- コンビニ

第二順位避難所

- 多摩美術大学上野毛キャンパス
- 都立園芸高校
- 日本女子専門学校

もよりの 医療・診療所

- 医療機関が機能している場合は、医療機関で受診

医療救護所

- 医療機関が機能しない場合に、臨時に開設される医療救護施設
- 玉川中学校に開設

もよりの災害時拠点病院

- 東京が指定した災害時の拠点病院(中野南)
- 玉川中学校に開設
- 玉川中学校に開設
- 玉川中学校に開設
- 玉川中学校に開設



家族と避難所を決めておきましょう。
 避難所内の待ち合わせ場所(鉄棒など)も決めましょう。

世田谷区 上野毛まづくりセンター
 世田谷区 危機管理室 災害対策課
 国際興業株式会社

作成：上野毛地区町会連合会 平成27年度 東京都地域の底力再生助成事業
 (上野毛・野毛・玉川中町・中野4・5丁目 各町会) 協力：世田谷区/ 独立行政法人防災科学研究所

情報基準日：2015/8/20
 作成：2015/12/06
 印刷：有限会社 プロテックス

上野毛地区 防災マップ

防災活動支援マップ

Disaster Prevention Map



日頃から、自宅から避難所までの避難ルートを確認しておきましょう。
災害時には、一人で行動するより、ご近所で助け合いましょう。
マップを参考に、防災施設や設備を避難や救助に活用しましょう。



防災マップのみかた・つかいかた

- この「防災活動支援マップ」には、各町会ごとの救助工具・消火設備などの防災活動支援に関するさまざまな情報を掲載しています。
 - コミュニティ情報、避難、防災情報を得るための施設・設備については、裏面の「コミュニティ・避難・防災情報マップ」をご覧ください。
 - マップ上のマーク（絵文字）は、それぞれの施設や設備の場所を表しています。
 - マークの種類については、マップの「凡例」をご覧ください。
- ※マークについては、マップの表示の制約上、位置をすらしりまで表示している箇所があります。
※街区及び道路の形状や幅員については、見やすくするために、縮尺を変更している箇所があります。

地域



防災拠点



凡例

避難、防災情報の凡例については、裏面の「コミュニティ・避難・防災情報マップ」を参照してください。

コミュニティ

- 公共施設 Public Facility
- 主な施設 Main facilities
- 学校 School (中・小・高)
- 病院・診療所 Hospital / Clinic
- 薬局 Pharmacy
- 銀行 Bank
- 郵便局 Post office
- 警察署 Police station
- 交通センター Transportation center
- 消防署 Fire station
- 駅 Station
- 区立公園 District park
- 緑地・空地 Green space / Open space
- 信号機 Traffic light
- 歩道橋 Footbridge
- 橋 Bridge
- さくら Sakura
- 古蹟・遺跡 Ancient tomb / Remains
- ガソリンスタンド Gas station
- コンビニ Convenience store
- スーパー Supermarket

救助

- 広域防災倉庫(区) Regional disaster warehouse (City)
- 避難物資貯蔵倉庫(町会) Evacuation supplies storage warehouse (Ward)
- 防災倉庫(倉庫) Disaster warehouse (Warehouse)
- 救助用具 Rescue tool
- 救助用担架 Evacuation stretcher

消火・給水

- 街路消火栓 中は Fire hydrant (In street)
- C級消防ポンプ Fire pump Class C
- D級消防ポンプ Fire pump Class D
- スタンバイポンプ(待機) Standby pump for standby
- スタンバイポンプ(稼働) Standby pump for operating
- 緊急給水施設 Emergency water supply
- 震災対策用井戸 Disaster-strategy well

世田谷区の防災拠点

- 上野毛地区防災拠点 上野毛まちづくりセンター あんしんすこやかセンター
- 地域災害対策拠点 玉川総合支所
- 水防 土のステーション

公的機関連絡先

名称	住所	電話番号
危機管理室 災害対策課	世田谷4-21-27	5432-2252
玉川総合支所 地域振興 防災担当	等々力3-4-1	3702-1603
上野毛まちづくりセンター		3705-1361
上野毛あんしんすこやかセンター	中町2-33-11	3703-8956
玉川土木管理事務所	中町4-35-11	3702-4914
玉川警察署	中町2-9-22	3705-0110
玉川消防署	中町3-1-19	3705-0119

水防



地域の絆を大切に

日頃から、ご近所付き合いや地域との関わりを大切にすす習慣を身につけておきましょう。

みなさんの加入をお待ちしています！
上野毛・野毛・玉川中町・中町4-5丁目

上野毛地区各町会

お問い合わせ先：(世田谷区可成会連合会事務局) 電話/FAX 03-5481-3456

消防団員募集



大地震などの災害時、地域の要として活動するのが消防団です。
お問い合わせ先 (玉川消防署) TEL. 3705-0119

家族と避難所を決めておきましょう。
避難所内の待ち合わせ場所(鉄棒前など)も決めましょう。

世田谷区 上野毛まちづくりセンター
世田谷区 危機管理室 災害対策課
国際航業株式会社

作成：上野毛地区町会連合会 平成27年度 東京都地域の底力再生助成事業
(上野毛・野毛・玉川中町・中町4-5丁目 各町会) 協力：世田谷区/独立行政法人防災科学研究所

情報基準日：2015/8/20
作成：2015/12/06
印刷：有限会社 プロテックス



上野毛町会 マップ

Disaster Prevention Map



日頃から、自宅から避難所までの避難ルートを確認しておきましょう。
災害時には、一人で行動するより、ご近所で助け合いましょう。
マップを参考に、避難や救助に防災施設や設備を活用しましょう。

防災マップのみかた・つかいかた

- この「防災マップ」には、各町会ごとのコミュニティ情報のほか、避難、防災情報、救助工具・消火設備などの防災に関するさまざまな情報を掲載しています。
 - 上野毛地区全域のコミュニティ情報、避難、防災情報を得るための施設・設備については、裏面の「コミュニティ・避難・防災情報マップ」をご覧ください。
 - マップ上のマーク（絵文字）は、それぞれの施設や設備の場所を表しています。
 - マークの種類については、マップの「凡例」をご覧ください。
- ※マークについては、マップの表示の制約上、位置をずらしたりまとめて表示している箇所があります。
※街区及び道路の形状や幅員については、見やすくするために、縮尺を変更している箇所があります。

地域

上野毛地区 町会区分

防災拠点

- 防災施設ゾーン
- 避難施設ゾーン
- 避難経路の候補

凡例

コミュニティ

- 公共施設 Public facility
- 主な施設 Main facility
- 学校 School
- 医業・診療所 Clinic / Pharmacy
- 銀行 Bank
- 郵便局 Post office
- 警察署 Police station
- 交通 Transit
- 消防署 Fire station
- 鉄道駅 Railway station
- 区立公園 District park
- 緑地・緑地・空地 Green land
- 橋 Bridge
- 手廻り橋 Hand bridge
- 橋 Footbridge
- 古くから Ancient
- 古墳・遺跡 Ancient tomb / Remains
- コンビニ Convenience store
- スーパー Supermarket

避難

- 一時集合所 Temporary assembly point
- 広域避難場所 Wide-area evacuation point
- 避難所 Evacuation shelter
- 第二順位避難所 Second rank shelter
- 二次避難所 (防災担当者用) Secondary evacuation point (for disaster manager)
- 医療救護所 Medical care station
- トイレ Toilet
- 車椅子用トイレ Wheelchair-accessible toilet
- マンホールトイレ Manhole toilet
- 避難用ステーション Evacuation station
- 待合避難所 (待合室) Waiting shelter (waiting room)
- AED 自動体外式除動器 Automatic external defibrillator

消火・給水

- 消火器 Fire extinguisher
- 消防ポンプ Fire pump
- 給水栓 Water tap
- 水タンク Water tank
- 応急給水施設 Emergency water supply facility
- 防災対策用戸戸 Multi-supply well

防災情報

- 防災無線 Radio broadcast
- 防災行政無線 Disaster prevention radio
- 公衆電話 Public telephone
- 災害時電話 Disaster emergency telephone
- 町会掲示板 Town association notice board
- 区広報板 District notice board
- 街区案内板 City block display board

救助

- 広域防災倉庫(区) Wide-area disaster prevention warehouse (district)
- 避難所防災倉庫(町会) Evacuation shelter disaster prevention warehouse (town association)
- 救助用具 Rescue tool
- 救助用担架 Rescue stretcher

世田谷区の防災拠点

- 上野毛地区拠点 Disaster office Uenomoto
- 上野まちづくりセンター あんしんずくろセンター Uenomoto Machizukuri Center Anshin-zukuro Center
- 地域災害対策拠点 Regional disaster management center
- 玉川総合支所 Chiyogami Branch Office

水防

- 土のうステーション Earth mounding station
- 水害時一時避難場所 Evacuation shelter during a flood



町会の防災・防犯活動を紹介します

自主防災力の充実

自主防災力の充実に取り組んでいます。

自主防災倉庫・消防ポンプ・スタンバイパイプ(消火器具)の配置など

地域のみんで協力し、災害に備えましょう

避難所運営への参加

小中学校などの避難所運営に参加しています。

地震発生時に、地域で避難所運営本部を開設・運営します。

日ごろから避難所運営訓練に参加しましょう。

防災訓練の実施

定期的な防災訓練を実施しています。

消火器材やAEDの操作方法、応急救護の講習など

地域の防災訓練に参加しましょう。

防犯パトロール

日ごろから町会内の防犯パトロールを実施しています。

交通安全パトロールも実施しています。

地域の防犯活動に協力ををお願いします。

地域の絆を大切に
みなさんの加入をお待ちしています!

上野毛町会

お問い合わせ先: (世田谷区町会連合会事務局) 電話/FAX 03-5481-3456

消防団員募集

大地震などの災害時、地域の要として活動するのが消防団です。
お問い合わせ先 (玉川消防署) 3705-0119

公的機関連絡先

機関名	住所	電話番号
危機管理課	世田谷4-21-27	5432-2252
玉川総合支所 地域課	等々力3-4-1	3702-1603
上野まちづくりセンター	中野2-33-11	3705-1361
上野あんしんずくろセンター	中野4-35-11	3703-8956
玉川土木管理事務所	中野2-9-22	3702-4914
玉川警察署	中野3-1-19	3705-0110
玉川消防署	中野3-1-19	3705-0119

地域別指定避難所一覧

避難所	避難対象地域(学区別等)
中野小学校	中野4・5丁目全域、上野毛町
中野4-23-1	中野4丁目14-23-35区、中野5丁目1-7・11-41区、上野毛4丁目1-4・9-21・25-37区、(5・6・7・8区のみ)
玉川小学校	上野毛町、野毛町、玉川町全域、等々力地区全域
玉川中学校	中野1丁目全域、中野2丁目全域、野毛町全域、上野毛1丁目1-18区、中野2丁目1-18区、中野3丁目1-18区、中野4丁目1-18区、中野5丁目1-18区、中野6丁目1-18区、中野7丁目1-18区、中野8丁目1-18区、中野9丁目1-18区、中野10丁目1-18区、中野11丁目1-18区、中野12丁目1-18区、中野13丁目1-18区、中野14丁目1-18区、中野15丁目1-18区、中野16丁目1-18区、中野17丁目1-18区、中野18丁目1-18区、中野19丁目1-18区、中野20丁目1-18区、中野21丁目1-18区、中野22丁目1-18区、中野23丁目1-18区、中野24丁目1-18区、中野25丁目1-18区、中野26丁目1-18区、中野27丁目1-18区、中野28丁目1-18区、中野29丁目1-18区、中野30丁目1-18区、中野31丁目1-18区、中野32丁目1-18区、中野33丁目1-18区、中野34丁目1-18区、中野35丁目1-18区、中野36丁目1-18区、中野37丁目1-18区、中野38丁目1-18区、中野39丁目1-18区、中野40丁目1-18区、中野41丁目1-18区、中野42丁目1-18区、中野43丁目1-18区、中野44丁目1-18区、中野45丁目1-18区、中野46丁目1-18区、中野47丁目1-18区、中野48丁目1-18区、中野49丁目1-18区、中野50丁目1-18区

世田谷区 上野毛まちづくりセンター
世田谷区 危機管理室 災害対策課
国際航業株式会社

作成: 上野毛地区町会連合会
(上野毛・野毛・玉川中町・中野4・5丁目 各町会)

平成27年度 東京都地域の底力再生助成事業
協力: 世田谷区 / 独立行政法人防災科学研究所

情報基準日: 2015/8/20
作成: 2015/12/06
印刷: 有限会社 プロテックス

野毛町会 防災マップ

Disaster Prevention Map



日頃から、自宅から避難所までの避難ルートを確認しておきましょう。
災害時には、一人で行動するより、ご近所で助け合しましょう。
マップを参考に、避難や救助に防災施設や設備を活用しましょう。

防災マップのみかた・つかいかた

- この「防災マップ」には、各町会ごとのコミュニティ情報のほか、避難、防災情報、救助工具・消火設備などの防災に関するさまざまな情報を掲載しています。
 - 上野毛地区全域のコミュニティ情報、避難、防災情報を得るための施設・設備については、裏面の「コミュニティ・避難・防災情報マップ」をご覧ください。
 - マップ上のマーク（絵文字）は、それぞれの施設や設備の場所を表しています。
 - マークの種類については、マップの「凡例」をご覧ください。
- ※マークについては、マップの表示の制約上、位置をずらしたりまとめて表示している箇所があります。
※街区及び道路の形状や幅については、見やすくするために、縮尺を変更している箇所があります。

凡例

- #### コミュニティ
- 公共施設 Public facility
 - 主な施設 Main facility
 - 学校 School
 - 医療・診療所 Clinic
 - 薬局 Pharmacy
 - 銀行 Bank
 - 郵便局 Post office
 - 警察署 Police station
 - 消防署 Fire station
 - 鉄道駅 Station
 - 区立公園 District park
 - 農地・緑地・空地 Farmland, green space, vacant land
 - 橋 Bridge
 - 坂 Slope
 - 古墳・遺跡 Ancient tomb / Remains
 - コンビニ Convenience store
 - スーパー Supermarket
- #### 避難
- 一時集合所 Temporary assembly point
 - 広域避難場所 Wide evacuation area
 - 避難所 Evacuation shelter
 - 二次避難所 (仮設) Secondary evacuation shelter (temporary)
 - 医療避難所 Medical evacuation shelter
 - トイレ Toilet
 - 車椅子トイレ Wheelchair toilet
 - マンホールトイレ Manhole toilet
 - 避難所専用トイレ Evacuation shelter toilet
 - 応急給水施設 Emergency water supply facility
 - AED AED
 - 避難所専用トイレ Evacuation shelter toilet
- #### 消火・給水
- 1階消火器 1st floor fire extinguisher
 - C消火ポンプ C fire pump
 - 2階消火ポンプ 2nd floor fire pump
 - スタンドパイプ(消火) Stand pipe for fire
 - スタンドパイプ(飲料) Stand pipe for drinking
 - 応急給水施設 Emergency water supply facility
 - 農用排水用弁 Fire extinguisher for agriculture

地域

- #### 防災拠点
- 防災施設ゾーン Disaster facility zone
 - 避難施設ゾーン Evacuation facility zone
 - 避難経路の断断主要箇所 Main points of evacuation route interruption

- #### 防災情報
- 防災無線塔 Disaster radio tower
 - 防災行政無線 Disaster administrative radio
 - 公共電話 Public telephone
 - 災害時連絡センター Disaster time contact center
 - 町会掲示板 Town council bulletin board
 - 区広報板 District information board
 - 街区案内板 City block display board

- #### 救助
- 広域防災倉庫(区) Wide disaster warehouse (district)
 - 避難所防災倉庫(町会) Evacuation shelter disaster warehouse (town council)
 - 救助用具 Rescue equipment
 - 救助用担架 Rescue stretcher
- #### 水防
- 土のうステーション Sandbag station
 - 水害時一時避難場所 Temporary shelter during flood

- #### 世田谷区の防災拠点
- 上野毛地区拠点隊 recovery site
 - 上野毛あんどセンター ando center
 - あしんずこやかセンター ashinzu kokoyaka center
 - 地域災害対策拠点 management centers
 - 玉川総合支所 development branch office

消防団員募集

大火災などの災害時、地域の要として活動するのが消防団です。
お問い合わせ先(玉川消防署) 3705-0119

地域の絆を大切に

みなさんの加入をお待ちしています!

野毛町会

お問い合わせ先(世田谷区町会連合会事務局) 電話/FAX 03-5481-3456

公的機関連絡先

関係機関	住所	電話番号
危機管理運営対策課	世田谷4-21-27	5432-2252
玉川総合支所 地域復興・防災担当	等々力3-4-1	3702-1603
上野毛まちづくりセンター	中町2-33-11	3705-1361
上野毛あしんずこやかセンター	中町4-35-11	3703-8956
玉川土木管理事務所	中町4-35-11	3702-4914
玉川警察署	中町2-9-22	3705-0110
玉川消防署	中町3-1-19	3705-0119

地域別指定避難所一覧

避難所	避難対象地域(学区域が基準)
中町小学校	中町4・5丁目町会、上野毛町会 中町4丁目6-14・23-32番、中町5丁目7-11-41番、 上野毛4丁目1-4・9-21・25-37番、(5・6・7・8番の一部)
玉川小学校	上野毛町会、野毛町会、玉川町会、等々力和教会西部 中町1丁目全棟、中町2丁目全棟、野毛3丁目全棟、上野毛1丁目1-18番、上野毛2丁目全棟、 上野毛3丁目全棟、 等々力1丁目30-39・40番、(33番の一部)、等々力3丁目全棟、等々力4丁目3-8・16-18番、
玉川中学校	上野毛町会、玉川町会 中町4-21-1 上野毛1丁目19-34番、中町3丁目全棟、中町4丁目1-5・15-23・33-38番

地域別指定避難所一覧

避難所	避難対象地域(学区域が基準)
玉堤小学校	野毛町会、玉堤町会、協和会、尾山台クラブ、尾山台自治会、尾山台灯台会 玉堤2-11-1 玉堤1丁目全棟、玉堤2丁目全棟、等々力1丁目全棟、尾山台1丁目全棟、尾山台2丁目全棟
桜町小学校	中町4・5丁目町会、用賀南町会、桜新町町会 中町4丁目8-10番、用賀1丁目全棟、用賀2丁目全棟、用賀3丁目12-13番、用賀4丁目1-3番、 玉川台1丁目1-15番、(5・6番の一部)、瀬田3丁目(13-15番の一部)、坂町1丁目1-4・7 2番、(22-27番の一部)、坂町2丁目10-19番
瀬田小学校	瀬田町会、玉川町会 上野毛4丁目22-24・38・39番、(5・6・7・8番の一部)、瀬田1丁目全棟、瀬田2丁目全棟、 瀬田3丁目1-12番、(13-15番の一部)、瀬田4丁目全棟、瀬田5丁目全棟、玉川台1丁目1-4・7 2番、(5・6番の一部)、玉川台2丁目1-2・4・7-16・32・33番、(3・17・31番の一部)

町会の防災・防犯活動を紹介します

自主防災力の充実

自主防災力の充実に取り組んでいます。
自主防災倉庫・消防ポンプ・スタンバイ(消火器具)の配置など

地域のみんで協力し、災害に備えましょう

避難所運営への参加

小中学校などの避難所運営に参加しています。
地震発生時に、地域で避難所運営本部を開設・運営します。

日ごろから避難所運営訓練に参加しましょう。

防災訓練の実施

定期的に防災訓練を実施しています。
消火棍やAEDの操作方法、応急救援の講習など

地域の防災訓練に参加しましょう。

防犯パトロール

日ごろから町会内の防犯パトロールを実施しています。
交通安全パトロールも実施しています。

地域の防犯活動に協力をお願いします。



玉川中町会

防災マップ Disaster Prevention Map

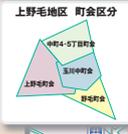


日頃から、自宅から避難所までの避難ルートを確認しておきましょう。
災害時には、一人で行動するより、ご近所で助け合いましょう。
マップを参考に、避難や救助に防災施設や設備を活用しましょう。

防災マップのみかた・つかいかた

- この「防災マップ」には、各町会ごとのコミュニティ情報のほか、避難、防災情報、救助工具・消火設備などの防災に関するさまざまな情報を掲載しています。
 - 上野毛地区全域のコミュニティ情報、避難、防災情報を得るための施設・設備については、裏面の「コミュニティ・避難・防災情報マップ」をご覧ください。
 - マップ上のマーク（絵文字）は、それぞれの施設や設備の場所を表しています。
 - マークの種類については、マップの「凡例」をご覧ください。
- ※マークについては、マップの表示の制約上、位置をすらしりまとめて表示している箇所があります。
※街区及び道路の形状や幅員については、見やすくするために、縮尺を変更している箇所があります。

地域



防災拠点



凡例

- 公共施設 (Public facilities)
- 主要な建物 (Main buildings)
- 学校 (Schools)
- 医院・診療所 (Hospitals/Clinics)
- 薬局 (Pharmacy)
- 銀行 (Bank)
- 郵便局 (Post office)
- 警察署 (Police station)
- 文芸 (Culture)
- 消防署 (Fire station)
- 鉄道駅 (Railway station)
- 公園 (Park)
- 緑地・緑地・空地 (Green space)
- 橋 (Bridge)
- 坂 (Slope)
- 空く (Open space)
- 公園・遊園地 (Park/Amusement park)
- ガソリンスタンド (Gas station)
- コンビニ (Convenience store)
- スーパー (Supermarket)

救助

- 広域防災倉庫 (Regional disaster warehouse)
- 避難所 (Evacuation shelter)
- 防災倉庫 (Disaster warehouse)
- 救助用具 (Rescue tools)
- 救助用担架 (Rescue stretcher)

消火・給水

- 消防栓 (Fire hydrant)
- 消防ポンプ (Fire pump)
- 消防ポンプ (Fire pump)
- スタンドパイプ (Stand pipe)
- スタンドパイプ (Stand pipe)
- 非常給水施設 (Emergency water supply)
- 震災対策用井戸 (Disaster countermeasure well)

水防

- 土のうステーション (Sandbag station)
- 水害一時避難場所 (Temporary evacuation site for flood)

世田谷区の防災拠点

避難所	避難対象地域(学区が基準)
中町小学校	中町4・5丁目町会、上野毛町会
中町4丁目	中町4丁目6-14、23-32、中町5丁目11-17、11-14、上野毛4丁目1-4、9-21、25-37、(5・6・7・8の各一部)
玉川小学校	上野毛町会、野毛町会、玉川中町会、等々力町会
中町2丁目	中町1丁目全、中町2丁目全、野毛3丁目全、上野毛1丁目1-18、上野毛2丁目全、中町3丁目全、中町4丁目32-39、40、(38の一部)、等々力3丁目全、等々力4丁目3-16-18、中町5丁目全
玉川中学校	上野毛町会、玉川中町会
中町4丁目	上野毛1丁目19-34、中町3丁目全、中町4丁目1-5、15-23、33-38

避難

- 一時集合所 (Temporary assembly point)
- 広域避難場所 (Regional evacuation site)
- 避難所 (Evacuation shelter)
- 第二避難所 (Secondary evacuation site)
- 医療施設 (Medical facility)
- トイレ (Toilet)
- 車椅子用トイレ (Wheelchair accessible toilet)
- マンホールトイレ (Manhole toilet)
- 障害者用トイレ (Disability accessible toilet)
- 福祉施設 (Welfare facility)
- 福祉施設 (Welfare facility)
- AED (Automated external defibrillator)

防災情報

- 防災無線 (Disaster radio)
- 防災行政無線 (Disaster administrative radio)
- 公共電話 (Public telephone)
- 災害伝呼機 (Disaster call machine)
- 町会掲示板 (Town meeting bulletin board)
- 区広報紙 (City newsletter)

地域別指定避難所一覧

避難所	避難対象地域(学区が基準)	避難所	避難対象地域(学区が基準)
玉川小学校	野毛町会、玉堤町会、尾山台クラブ、尾山台自治会、尾山台灯台会	玉川中学校	野毛1丁目全、野毛2丁目全
桜町小学校	中町4・5丁目町会、用賀町会、桜町町会	用賀1丁目	中町4丁目10、用賀1丁目全、用賀2丁目12-13、用賀4丁目1-3、中町4丁目18、(5・6の一部)、用賀3丁目15-18の一部、用賀1丁目32-39、(25・27の一部)、用賀1丁目118-123-25、用賀1丁目10-19
瀬田小学校	瀬田町会、玉川町会	瀬田2丁目	上野毛4丁目22-24、38-39、(5・6・7・8の一部)、瀬田1丁目全、瀬田2丁目全、瀬田3丁目1-12、(13-18の一部)、瀬田4丁目全、瀬田5丁目全、玉川台1丁目1-4・7、(5・6の一部)、玉川台2丁目1-2・4・7-16・32-33、(3・17・31の一部)



町会の防災・防犯活動を紹介します

自主防災力の充実
自主防災力の充実に取り組んでいます。
自主防災倉庫・消防ポンプ・スタンバイパイプ(消火器具)の配置など

地域のみんで協力し、災害に備えましょう
地震発生時に、地域で避難所運営本部を開設・運営しています。

避難所運営への参加
小中学校などの避難所運営に参加しています。
地震発生時に、地域で避難所運営本部を開設・運営しています。

日ごろから避難所運営訓練に参加しましょう。

防災訓練の実施
定期的に防災訓練を実施しています。
消火機材やAEDの操作方法、応急処置の講習など

地域の防災訓練に参加しましょう。

防犯パトロール
日ごろから町会内の防犯パトロールを実施しています。
交通安全パトロールも実施しています。

地域の防犯活動に協力をお願いします。

地域の絆を大切に
日ごろから、ご近所付き合いや地域との関わりを大切にしましょう。
みなさんの加入をお待ちしています！
玉川中町会
お問い合わせ先：(世田谷区町会総連合事務局)電話/FAX 03-5481-3456

普段の暮らしは様々でも、想いはひとつ「わが街を災害から守りたい」
消防団員募集
大地震などの災害時、地域の要として活動するのが消防団です。
お問い合わせ先(玉川消防署) 3705-0119

公的機関連絡先

機関名	住所	電話番号
危機管理運営対策課	世田谷4-21-27	5432-2252
玉川総合支所 地域振興・防災担当	等々力3-4-1	3702-1603
上野毛まちづくりセンター	中町2-33-11	3705-1361
上野毛あんしんすまやセンター	中町2-33-11	3703-8956
玉川土木管理事務所	中町4-35-11	3702-4914
玉川警察署	中町2-9-22	3705-0110
玉川消防署	中町3-1-19	3705-0119

世田谷区 上野毛まちづくりセンター
世田谷区 危機管理室 災害対策課
国際航業株式会社

作成：上野毛地区町会連合会 平成27年度 東京都地域の底力再生助成事業
(上野毛・野毛・玉川中町・中町4・5丁目 各町会) 協力：世田谷区/独立行政法人防災科学研究所

情報基準日：2015/8/20
作成：2015/12/06
印刷：有限会社 プロテックス



中町4・5丁目町会

防災マップ

Disaster Prevention Map

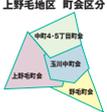


日頃から、自宅から避難所までの避難ルートを確認しておきましょう。
災害時には、一人で行動するより、ご近所で助け合いましょう。
マップを参考に、防災施設や設備を避難や救助に活用しましょう。

防災マップのみかた・つかいかた

- この「防災マップ」には、各町会ごとのコミュニティ情報のほか、避難、防災情報、救助工具・消火設備などの防災に関するさまざまな情報を掲載しています。
 - 上野毛地区全域のコミュニティ情報、避難、防災情報を得るための施設・設備については、裏面の「コミュニティ・避難・防災情報マップ」をご覧ください。
 - マップ上のマーク（絵文字）は、それぞれの施設や設備の場所を表しています。
 - マークの種類については、マップの「凡例」をご覧ください。
- ※マークについては、マップの表示制約上、位置をすらすらとまとめて表示している箇所があります。
※街区及び道路の形状や幅員については、見やすくするために、縮尺を変更している箇所があります。

地域



防災拠点



凡例

- #### コミュニティ
- 公共施設 Public facility
 - 主な施設 Main facilities
 - 学校 School
 - 医院・診療所 Hospital/clinic
 - 薬局 Pharmacy
 - 銀行 Bank
 - 郵便局 Post office
 - 警察署 Police station
 - 消防署 Fire station
 - 駅 Station
 - 公園 Park
 - 農地・緑地・空地 Farmland/Green space/Empty land
 - 歩道橋 Footbridge
 - 橋 Bridge
 - さくら Sakura
 - 古墳・遺跡 Ancient site/Remains
 - ガソリンスタンド Gas station
 - コンビニ Convenience store
 - スーパー Supermarket

救助

- 広域避難地区 (Disaster prevention area)
- 避難所 (Evacuation shelter)
- 二次避難所 (Secondary evacuation shelter)
- 医療救助所 (Medical aid station)
- トイレ Toilet
- 車椅子用トイレ (Wheelchair accessible toilet)
- マンホールトイレ (Manhole toilet)
- 帰宅支援ステーション (Homecoming support station)
- 帰宅支援ステーション (Homecoming support station)
- AED (Automated external defibrillator)
- 避難所外連絡機 (Evacuation shelter external communication device)

消火・給水

- 街路消火栓 (Street fire hydrant)
- C線消防ポンプ (C-line fire pump)
- D線消防ポンプ (D-line fire pump)
- スタンバイ消火 (Standby fire)
- スタンバイ消火 (Standby fire)
- 応急給水施設 (Emergency water supply facility)
- 震災対策用井戸 (Disaster countermeasure well)

水防

- 土のうステーション (Sandbag station)
- 水防第一避難場所 (Water defense first evacuation site)
- 水防第二避難場所 (Water defense second evacuation site)

避難

- 一時集合所 (Temporary safety gathering place)
- 広域避難地区 (Disaster prevention area)
- 避難所 (Evacuation shelter)
- 二次避難所 (Secondary evacuation shelter)
- 医療救助所 (Medical aid station)
- トイレ Toilet
- 車椅子用トイレ (Wheelchair accessible toilet)
- マンホールトイレ (Manhole toilet)
- 帰宅支援ステーション (Homecoming support station)
- 帰宅支援ステーション (Homecoming support station)
- AED (Automated external defibrillator)
- 避難所外連絡機 (Evacuation shelter external communication device)

防災情報

- 防災無線 (Disaster radio)
- 防災無線 (Disaster radio)
- 公共電話 (Public phone)
- 災害臨時電話 (Disaster temporary phone)
- 町会掲示板 (Town association bulletin board)
- 区会掲示板 (Ward bulletin board)
- 地区掲示板 (District bulletin board)

地域別指定避難所一覧

避難所	避難対象地域 (学区が基準)
中町小学校	中町4・5丁目町会、上野毛町会
玉川小学校	上野毛町会、野毛町会、玉川町会、等々力町会西面
玉川中学校	上野毛町会、中町町会、野毛町会、上野1丁目1-19番、上野2丁目全番、上野3丁目全番、中町2丁目全番、野毛3丁目全番、上野1丁目1-19番、上野2丁目全番、上野3丁目全番、中町2丁目全番、野毛3丁目全番、上野1丁目1-19番、上野2丁目全番、上野3丁目全番、中町2丁目全番、野毛3丁目全番
中町幼稚園	上野毛町会、玉川町会



町会の防災・防犯活動を紹介します

自主防災力の充実

自主防災力の充実に取り組んでいます。
自主防災倉庫・消防ポンプ・スタンバイパイプ(消火器具)の配置など

地域みんなで協力し、災害に備えましょう

避難所運営への参加

小中学校などの避難所運営に参加しています。
地震発生時に、地域で避難所運営本部を開設・運営します。

日ごろから避難所運営訓練に参加しましょう。

防災訓練の実施

定期的に防災訓練を実施しています。
消火機材やAEDの操作方法、応急救済の講習など

地域の防災訓練に参加しましょう。

防犯パトロール

日ごろから町会内の防犯パトロールを実施しています。
交通安全パトロールも実施しています。

地域の防犯活動に協力をお願いします。

地域の絆を大切に
日ごろから、ご近所さまいしや地域との関わりを大切にしたいという気持ちに響いていきます。
みなさんの加入をお待ちしています！
中町4・5丁目町会
お問い合わせ先：(世田谷区町会連合会事務局) 電話/FAX 03-5481-3456

普段の暮らしは様々でも、想いはひとつ「わが街を災害から守りたい」
消防団員募集
大地震などの災害時、地域の要として活動する消防団です。
お問い合わせ先(玉川消防署) 3705-0119

世田谷区 上野毛まちづくりセンター
世田谷区 危機管理室 災害対策課
国際製菓株式会社

作成：上野毛地区町会連合会
(上野毛・野毛・玉川・中町4・5丁目 各町会)

平成27年度 東京都地域の底力再生助成事業
協力：世田谷区/独立行政法人防災科学研究所

情報基準日：2015/8/20
作成：2015/12/06
印刷：有限会社 プロテックス

上野毛地区(上野毛・野毛・中町)の情報紙

編集委員長 依田 禮子
 事務局 上野毛まちづくりセンター
 TEL 3705-1361
 FAX 5707-7028

▶「こだま」の配架場所を募集しています。
 ご検討いただける場合はご連絡ください。

令和5年3月発行

こだま 第153号 防災特集

防災クイズ

- Q1 家にいる時に大地震が起きました。まだ揺れは収まっていますが、最初にガスの元栓を閉めに行きます。Oでしょうか? Xでしょうか?
- Q2 水害時に避難する場合の靴として最適なものは次のうちどれでしょう? C. サンドル (答えは3面にあります)
- A. 長靴 B. 紐つきの運動靴 C. サンドル

Contents - 今号の内容 -

1 面 防災クイズ
 2-3 面 在宅避難のすすめ
 4 面 かみのげやさしくみまもり隊
 新春マラソン大会
 東急電鉄からのお知らせ



在宅避難のすすめ

富士見橋からの眺望(上野毛3丁目)

かみのげやさしくみまもり隊

玉川地域は消費者被害等の比較的多い地域です。高齢者、障害者、子供たちを緩やかに見守ることで住民同士が繋がり、犯罪の抑止力や事故防止になります。

ハンダナの付け方は自由です。
 バッグや腕、ワンちゃん等目立つところにオレンジ色のみまもり隊のハンダナを付けてまちを歩いています。見かけたら声を掛けてみて下さい!!

一緒に活動してくれる隊員を募集しています!!
 上野毛あんしんすやかセンターまでお気軽にご連絡下さい!!

ポリーちゃん

QRコード

▶ホームページ

☎ 03-3703-8956

227人が激走!

第50回 MARATHON 新春マラソン大会

上野毛地区伝統の新春マラソン大会が1月8日(日)、玉川小学校及び周辺道路で開催されました。コロナや大雪の影響で3年ぶりとなってしまった当大会ですが、今回は記念すべき第50回を迎え、冬晴れの中、小学3年生から一般の部まで計227人が元氣よくコースを駆け抜けました。運営スタッフの皆様、近隣の皆様にはご協力いただき感謝申し上げます。来年度は、令和6年1月14日(日)を予定しております。皆様のご参加をお待ちしております。

青少年上野毛地区委員会主催

東急線公式アプリがリニューアル

東急線のある暮らしをもっと便利に、豊かに。

QRコード

App Store

Google Play

バックナンバーはこちらからご覧いただけます

QRコード

こだま

こだま編集委員

大和田涼子	Owada Ryoko	村井幸恵	Murai Yukie
依田和江	Toyoda Kazue	佐藤泰理	Satou Eiri
豊田禮子	Yoda Reiko	守屋幸子	Moriya Sachiko
稲葉亮子	Inaba Ryouko	朝岡京	Tsuruoka Miko

TEL 3705-1361 FAX 5707-7028

上野毛地区 特集 在宅避難のすすめ

災害に備えて水や食料を備蓄していない人 **11.3%**
(世田谷区民意識調査2022より)

避難所に行くことだけが避難ではありません

自宅が安全である

在宅避難

被災していない家族・親族・知人へ連絡が取れる

縁故避難

被災していない宿泊施設を確保できる

自主避難

▲ 避難所の実情

- ▶ プライバシーが守られません
- ▶ 感染症のリスクが高まります
- ▶ 衛生環境は良くありません
- ▶ 備蓄は限られています

自宅が安全な場合は、在宅避難をしましょう！

災害時の情報収集手段

スマートフォンは外出先から情報収集ができる便利なツールです。しかし、災害時には通信が十分にできなくなる可能性もあります。様々な情報収集手段を確保しておきましょう。

スマートフォン

- 世田谷区ホームページ
- 災害・防災情報メール配信サービス
- Twitter
- 世田谷区公式LINE (登録不要)
- 緊急連絡メール (登録不要)
- 防災マップアプリ
- Yahoo!防災速報アプリ

テレビ・ラジオ

- テレビ
 - ▶ データ放送 (リモコンのdボタン)
 - ▶ ケーブルテレビ各社 (イッツ・コム、J:COM)
- EFMエム世田谷 (周波数83.4MHz)

その他

- 防災行政無線
 - ▶ 区内169か所に設置されています。
 - ▶ 防災無線電話番号サービス (☎ 0180-99-3151) に電話すると、24時間以内に放送された内容を聞くことができます (通話料がかかります)。
- 広報車

防災知識を向上させましょう

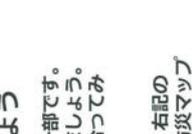
各情報収集ツールの詳細や登録方法は、区のホームページでご確認ください。



「せたがや防災」ポスター



防災速報メール登録画面



防災マップアプリ

▶ せたがや防災 ▶ 防災速報メール ▶ 震災地区行政行動マニュアル

水害時の避難について

令和元年台風19号は記憶に新しいところ。今一度防災について考えてみましょう

震災時と水害時では避難のタイミング・避難場所が異なります

- 水害時の避難行動
 - ▶ 水平避難…避難所や安全な場所、近隣の高い場所へ移動すること。
 - ▶ 垂直避難…建物の2階以上など、より高い場所へ避難すること。
 - ▶ 屋外への避難が危険な場合に行いましょう。
- 上野毛地区の水害時の避難所
 - ▶ 水害時避難所 (第1次) 【台風接近・通過の前日までに開設予定】 … [中野小学校 (中野4-23-1) / 玉川中学校 (中野4-21-2)]
 - ▶ 水害時避難所 (第2次) 【台風接近・通過の当日に開設予定】 … [玉川小学校 (中野2-29-1)]

▶ 洪水・内水氾濫ハザードマップ

家屋と室内の安全確保

- 自宅の耐震化
 - ▶ 建物の耐震診断を実施し、必要に応じて補強しましょう。
- 家具の転倒防止
 - ▶ 近年の地震による負傷者の30~50%は、家具類の転倒・落下・移動が原因です。
 - ▶ 家具には可能な限り転倒防止器具を取り付けましょう。

非常用トイレの準備

- 水洗トイレの事前チェック
 - ▶ 災害時は逆流等の恐れがあるため、排水設備や下水道の損傷がないことを確認できるまでトイレを使わないようにしましょう。
- 非常用トイレの設置方法を確認
 - ▶ 非常用トイレは1人1日5回を目安になるべく1週間分を準備しましょう。

家庭での日常備蓄

- ローリングストック
 - ▶ 普段から食料品や生活必需品を少し多めに備蓄しておき、消費した分だけ新たに買い足していくことで、常に一定量の備蓄をする方法です。
- 東京備蓄ナビ
 - ▶ ご家庭に合わせた備蓄品目と必要量のリストが確認できます。
 - ▶ 世帯ならではののちのち、支援物資として入手しづらいものを優先。

在宅避難中も避難所に足を運びましょう

避難所へ行き、「避難者カード」を記入しましょう

- 在宅避難していることを明らかにするために
- 支援物資を受け取るために
- 避難生活に役立つ情報を得るために
- 必要なボランティアを依頼するために

ペットの避難について

上野毛地区はペットが多い地区です

- 同行避難について
 - ▶ ペットの滞在スペースは、人の滞在スペースとは異なります。
 - ▶ ペットはケージに入れ、飼い主の方が管理してください。
 - ▶ エサ・ケージなどのペット用品は持参してください。

避難所がペットが人の迷惑にならないように、日頃から適正な管理やしつけを心がけましょう。

▶ 災害時のペットの避難について

耐震化支援

【問い合わせ先】
防災街づくり担当課耐震促進担当
☎ 03-6432-7177

世田谷区では、非常用トイレや非常食などの防災用品のあつせんを行っています。

※ 上野毛まちづくりセンターでパンフレットを配布しています。

東京備蓄ナビ

在宅避難中も避難所に足を運びましょう

ペットの避難について

水害からの生活再建

罹災証明書について

地震や台風・大雨によりお住まいが壊れる、浸水したなどの被害にあわれた方が、税金や保険料等の減免・猶予、損害保険の申請、壊れた住宅の補修、新しく建て直すときにかかる資金の貸し付け等の融資を受けようとする際に、被害の事実を証明する書類の提出を求められます。区では被害にあわれた方に被害内容を記載した「罹災証明書」や「罹災届出書兼証明書」を発行いたします。発行まで一定のお時間を要するため、お早めに管轄するまちづくりセンターにご申請ください。※ただし、大規模災害発生時は、上記とは異なる場所に発行窓口が設置される予定です。

住まいが被害を受けたとき

災害で住まいが被害を受けたときは、あまりのショックに、何から手を付けていいかわ分からなくなるかもしれません。被災者の方々が一日も早く通常の生活を取り戻せるように、行政も様々な支援に動き出します。それらの支援も受けながら、一歩ずつ再建を進めていきましょう。

家の被害状況を写真で記録する

家の被害状況は、片付けや修理の前に写真を撮って保存しておきましょう。区から罹災証明を取得して支援を受ける際や、保険会社に損害保険を請求する際などに、たいへん役に立ちます。

家の外から写真を撮る

- カメラ、スマートフォンなどでなるべく4方向から撮るようしましょう。
- 浸水した場合は、浸水の深さが分かるように撮りましょう。
- メジャーなどをあてて「引き」と「寄り」の写真を撮ると、被害の大きさが良く分かります。

家の中の写真を撮る

- 家の中の被害状況写真は、①被災した部屋ごとの全景写真②被害箇所の「寄り」の写真を撮影しましょう。<想定される撮影箇所>内蔵、床、窓、出入口、ソファ、機、障子、システムキッチン洗面台、便器、ユニットバス etc...

▶ 罹災証明書、災害見舞金、支援制度(減免等)について詳しくはこちら

土砂災害

土砂災害について

土砂災害防止法に基づき、東京都により世田谷区内の一部地域が土砂災害のおそれがある箇所として土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されています。土砂災害ハザードマップは、土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域と避難所を地図上に示したものです。また、区域の概要や関連情報の入手方法なども掲載しています。土砂災害ハザードマップをご活用いただき、自宅周辺の地理や避難所の位置を確認し、家族で話し合っておくなど、日頃からの備えをお願いします。

上野毛地区周辺の土砂災害時避難所について

土砂災害時避難所は、土砂災害のおそれがある場合に限定して開設する避難所です。一部の避難所は、多摩川洪水時の水害時避難所を兼ねています。

- ・上野毛地区会館(中町2-33-11) ・(予備)玉川小学校(中町2-29-1) etc...

▶ 土砂災害ハザードマップ



上野毛地区

上野毛

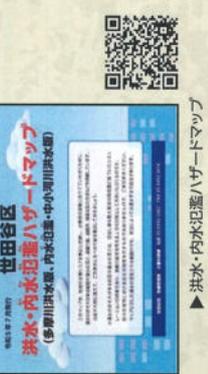
野毛 中町

水害対策のすすめ

水害時避難行動判定フロー



▶ 洪水・内水氾濫ハザードマップ (お近くの総合支所やまちづくりセンター、図書館などで配布しています。)



スタート

「洪水・内水氾濫ハザードマップ」で自宅がある場所に色が塗られていますか？ (多摩川洪水版および内水氾濫・中小河川洪水版の両面で確認)

はい

以下のどちらかに該当していますか？
①自宅が2階建て以下で浸水想定が3m以上ある。
②自宅が多摩川洪水版および内水氾濫・中小河川洪水版で色が塗られている。

はい

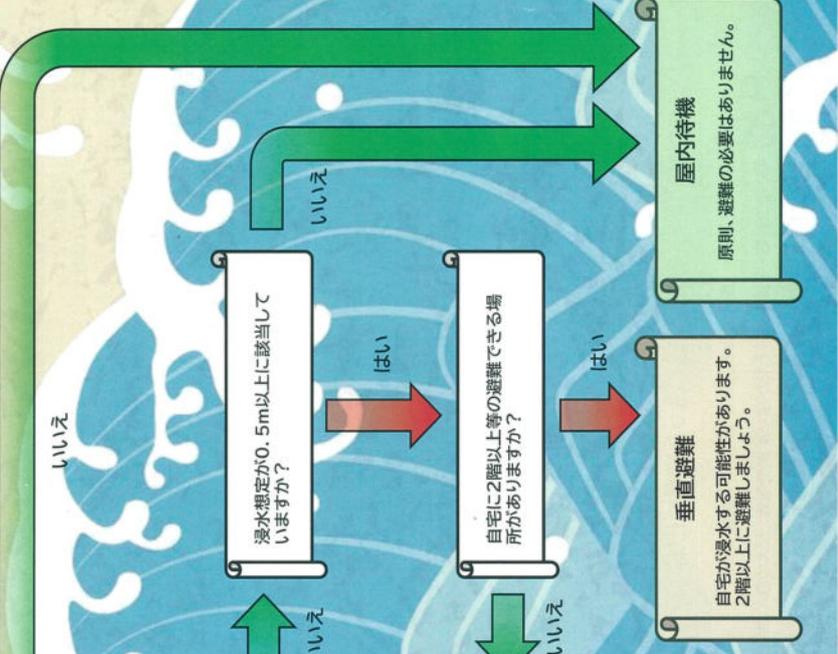
水平避難
自宅の2階以上まで浸水する可能性があります。危険が迫る前にあらかじめ自宅外へ避難しましょう。
＜避難先＞
●親戚・知人宅
●水害時避難所 など
※屋外への避難がつかえつて危険な場合は、垂直避難を行ってください。

はい

垂直避難
自宅が浸水する可能性があります。2階以上に避難しましょう。

はい

屋内待機
原則、避難の必要はありません。



上野毛地区は、多摩川・丸子川・谷沢川、3つの1級河川があり、集中豪雨や台風などによる水害が発生しやすいという特徴があります。令和元年台風第19号の記憶も新しいところ、今一度水害対策について考えてみましょう。

避難方法

避難行動

水平避難と垂直避難

水平避難
避難所等の避難先や安全な場所へ移動すること。多摩川洪水浸水想定区域内の方は、水平避難が原則です。

垂直避難
建物の2階以上などへ移動すること。多摩川などの大きな河川から離れて、内水氾濫などで自宅が浸水のおそれがある場合には、建物の2階以上に避難しましょう。

水害時避難所について

水害時避難所とは

台風の接近等により大雨が予想され、洪水や内水氾濫の恐れがある場合、避難情報を発令し、水害時避難所を開設します。基本的な避難所のルールは下記に記載のとおりとなります。

- 必要なのはご持参ください。
- 水害時避難所での備蓄には限りがあります。
- バットは専用のスペースでの受け入れとなります。
- 必ずケージをご用意ください。
- また、日頃からの適正な管理やしつけを心がけましょう。

- 車での避難はやめましょう。
- 交通渋滞やアンダーパス(地下道)冠水で、身動きがきかなくなる可能性があります。原則公共交通機関の利用、または徒歩での避難をお願いします。

上野毛地区周辺の水害時避難所

水害時避難所(第1次)

水害時避難所(第1次)の開設は、台風接近・通過の前日までに(24時間前までに)行います。

- ・中野小学校(中町4-23-1)
- ・玉川中学校(中町4-21-1)
- ・玉川区民会館(等々力3-4-1)
- ・都立園芸高校(深沢5-38-1) etc...

水害時避難所(第2次)

水害時避難所(第1次)の開設に続き、台風接近・通過の当日には、次の施設に避難所を開設します。

- ・玉川小学校(中町2-29-1)
- ・瀬田小学校(瀬田2-15-1)
- ・瀬田中学校(瀬田2-17-1)
- ・尾山台小学校(尾山台3-11-1)
- ・尾山台中学校(尾山台3-27-23) etc...

避難所に行くことだけが避難ではありません。

避難というところ、小・中学校の避難所へ行くことを考えますが、避難所を利用する以外にも様々な避難のカタチがあります。自身や家族に合った避難の仕方や避難先を今一度考えてみましょう。

- 自主避難...自身で宿泊施設等を確保して避難する。
- 縁故避難...浸水のおそれがない家族や親戚、友人の家に避難する。
- 在宅避難...自宅に浸水や土砂災害のおそれがない場合は、避難所を利用せず自宅を過ごす。

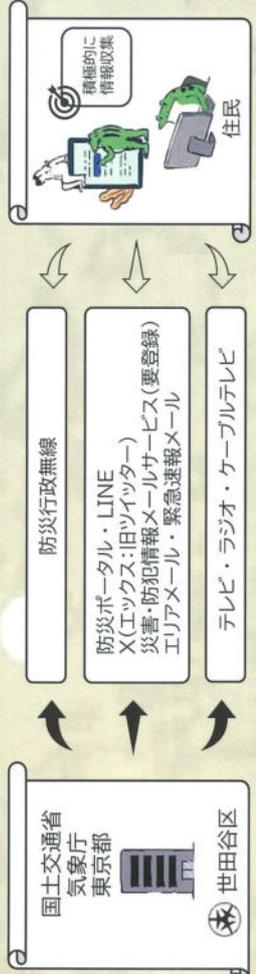
非常持出品

非常持出品 ※両手が使えないようにリュックなどにまとめましょう。

- 貴重品**
現金、通帳、キャッシュカード、印鑑、保険証、免許証、マイナンバーカード
- 非常食等**
保存食、ビスケット、カップ麺、飲料水、割り箸等
- 応急医薬品**
絆創膏、消毒薬、傷薬、胃腸薬、鎮痛剤、解熱剤、常備薬、目薬、かぜ薬
- 生活用品**
衣類、くつ(雨丈で熱に強いもの)、マッチ、ライター、ろうそく、ナイフ
ヘルメット、マスク、作業用手袋、タオル、ティッシュ、ビニール袋、携帯トイレ
- その他**
携帯ラジオ、携帯電話、充電器、懐中電灯、予備電池、ビニールシート
- 家庭別非常持出品**
ミルク、ほ乳瓶、おむつ、アレルギーマスク、対応食、ベットのケージ、生理用品、入れ歯

情報収集手段

情報の伝わり方



情報の受け取り方

メールで受け取る

世田谷区災害・防犯情報メール配信サービス(要登録)

世田谷区の災害・防犯情報などを、登録した携帯電話やパソコンにメールで配信します。

登録方法

- ①メールアドレス
@setagaya-city.ktaiwork.jp に件名・本文を入力せずにメールを送信する。
右の二次元コードでもメールアドレスを読み取れます。
- ②返信されたメールに記載のURLをクリックします。
- ③既定内容を確認した上で登録を行い、登録完了メールが届けば完了です。

情報の調べ方

スマートフォン・パソコンで調べる

世田谷区防災ポータル

<https://setagaya-bousai.mv.site.com/>

- 主なコンテンツ
- ・緊急情報
- ・避難情報
- ・避難所情報
- ・GIS地図情報

世田谷区公式LINE(ライン)

- ・右の二次元コードから「友だち」追加
- ・LINE ID @setagaacity

世田谷区ホームページ

<https://www.city.setagaya.lg.jp/>

- ・風水害に備えましょう
- ・上野毛地区の防災情報

世田谷区公式X(エックス:旧ツイッター)

- https://twitter.com/setagaya_kiki
- ・アカウント名 @setagaaya_kiki

用賀地区防災計画

【令和7年修正】

用賀地区

目次

- 1 用賀地区の特性用賀-1(-615-)
 - (1)自然特性用賀-1(-615-)
 - (2)社会特性 用賀-2(-616-)
 - (3)地域危険度 用賀-4(-618-)
 - (4)被害想定 用賀-5(-619-)
 - (5)防災資源一覧 用賀-8(-622-)
 - (6)防災資源マップ 用賀-9(-623-)
 - (7)区民アンケート用賀-10(-624-)

- 2 各団体の防災活動～現在の取組状況～用賀-19(-633-)

- 3 用賀地区における課題と今後の取り組み 用賀-26(-640-)
 - (1)用賀地区における災害と地区防災活動 用賀-26(-640-)
 - (2)防災活動及び活動に必要な備えの課題 用賀-26(-640-)
 - (3)今後の取り組みの方向性用賀-27(-641-)

1. 用賀地区の特性

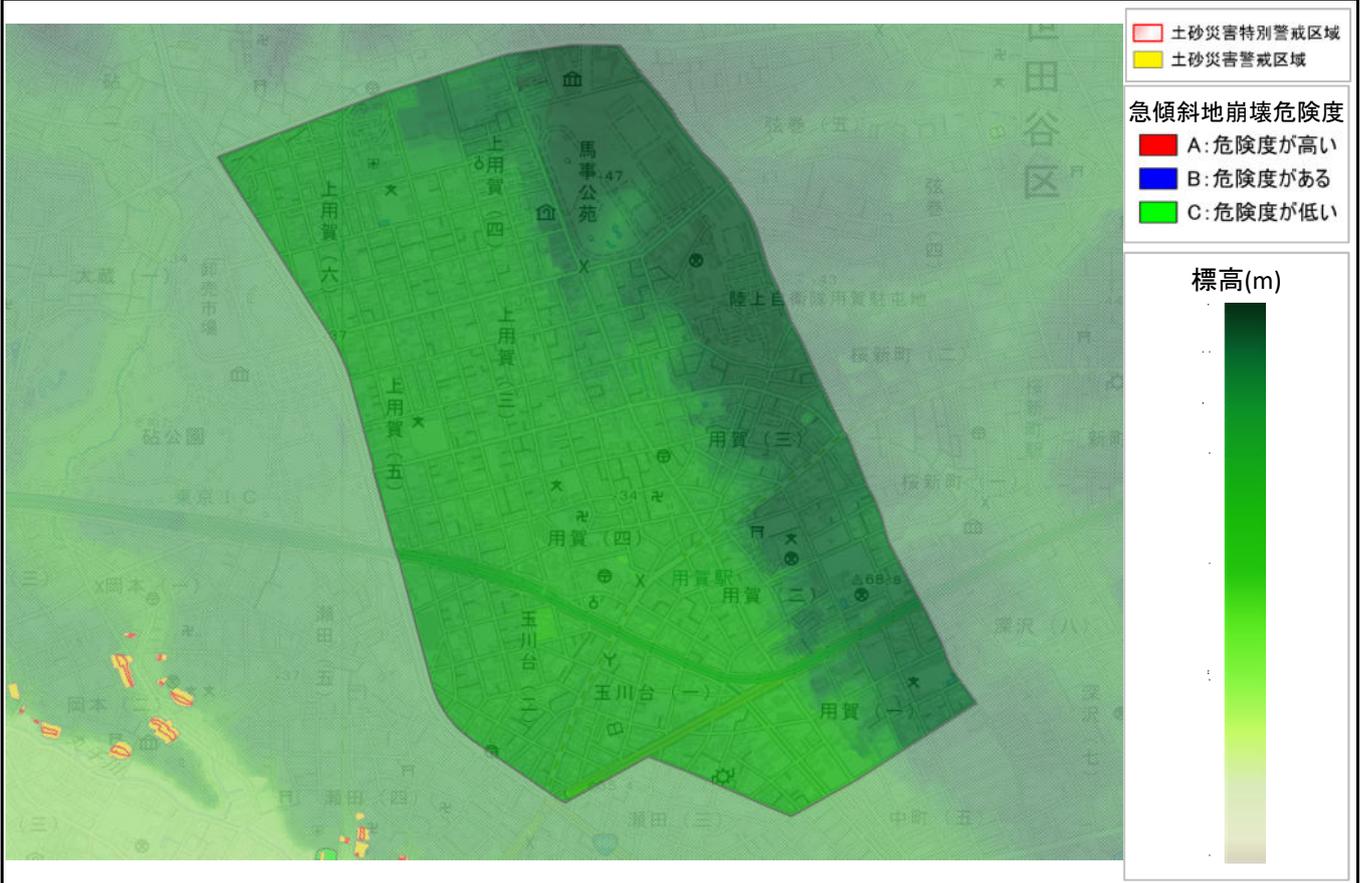
(1)自然特性

面積	2.47 Km ²	最高標高	47.9 m	最低標高	28.4 m
----	----------------------	------	--------	------	--------

位置



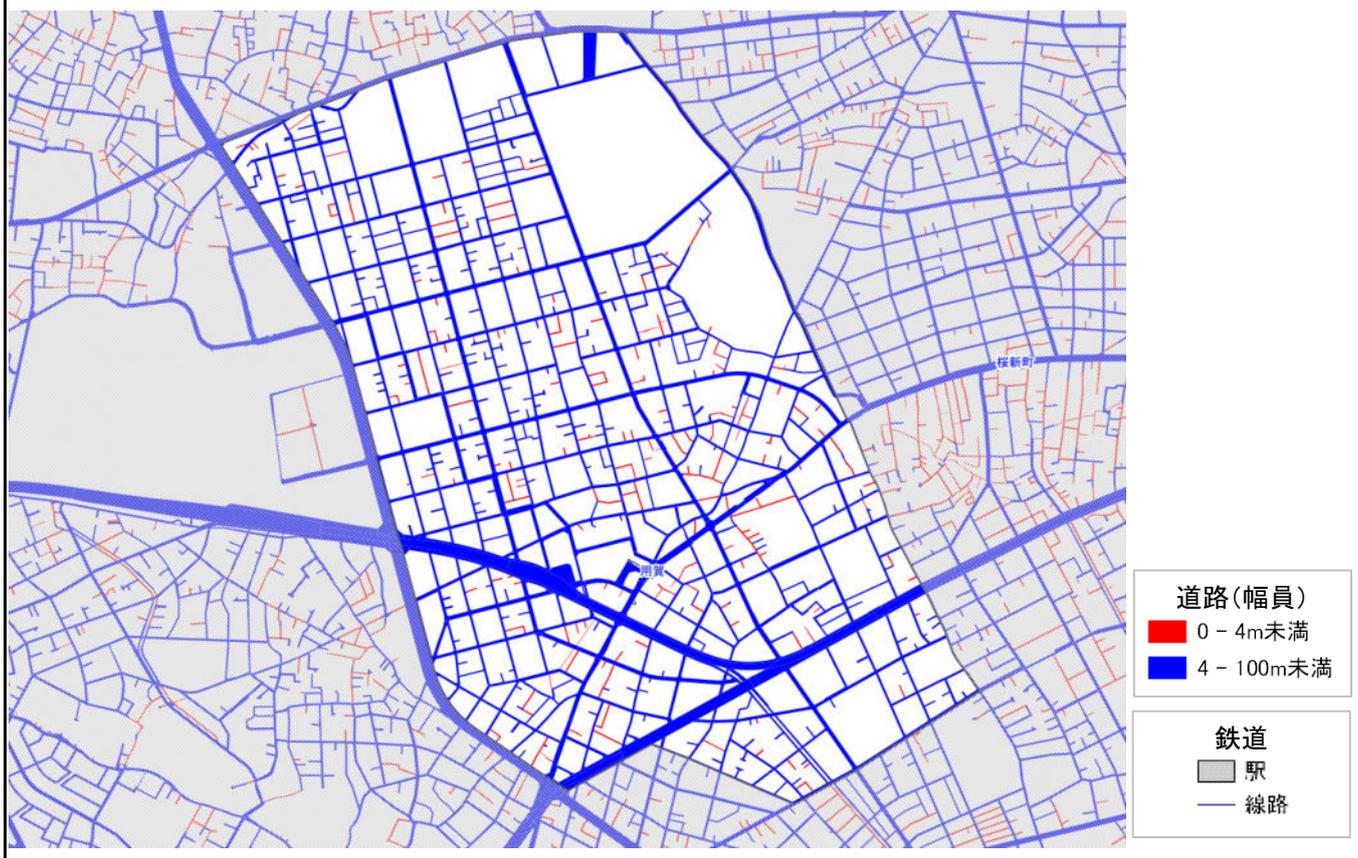
標高・急傾斜地崩壊危険度・土砂災害警戒区域等



(2)社会特性

人口	36,897 人	細街路率	10.9 %	
世帯数	19,186 世帯	昭和56年以前木造建物棟数密度	29.5 棟/Km ²	
1世帯あたり	1.92 人	耐火率(建築面積ベース)	76.8 %	
若年層数(15才未満)	4,447 人	土地利用(宅地)	63.7 %	
若年層率(15才未満)	12.1 %	土地利用(宅地以外)	36.3 %	
高齢者数(65才以上)	7,406 人	鉄道駅	東急田園都市線用賀駅	
高齢者率(65才以上)	20.1 %			
昼間の人口	43,930 人	産業	商業	78.8 %
夜間の人口	37,559 人		工業	5.6 %
昼夜間人口比	1.17 -		農業	15.6 %
町会・自治会数	4 -			

道路・公共交通機関



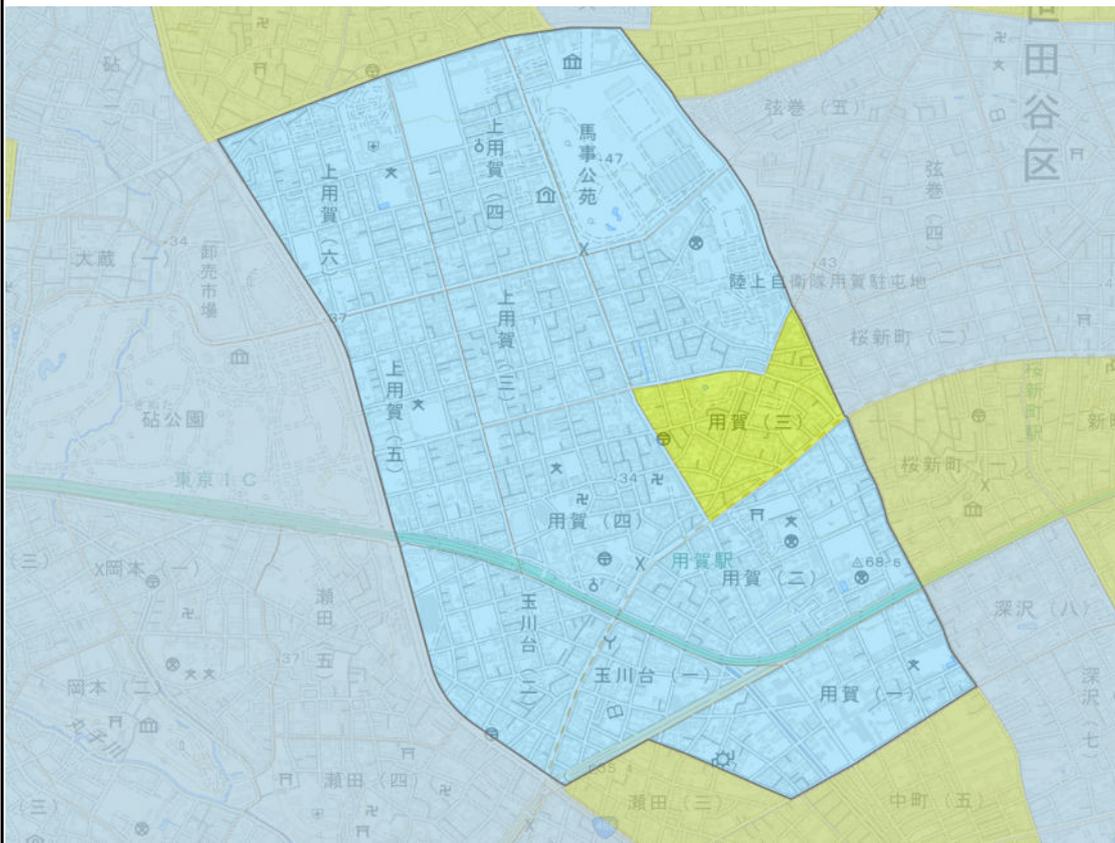
(2)社会特性

産業



(3)地域危険度

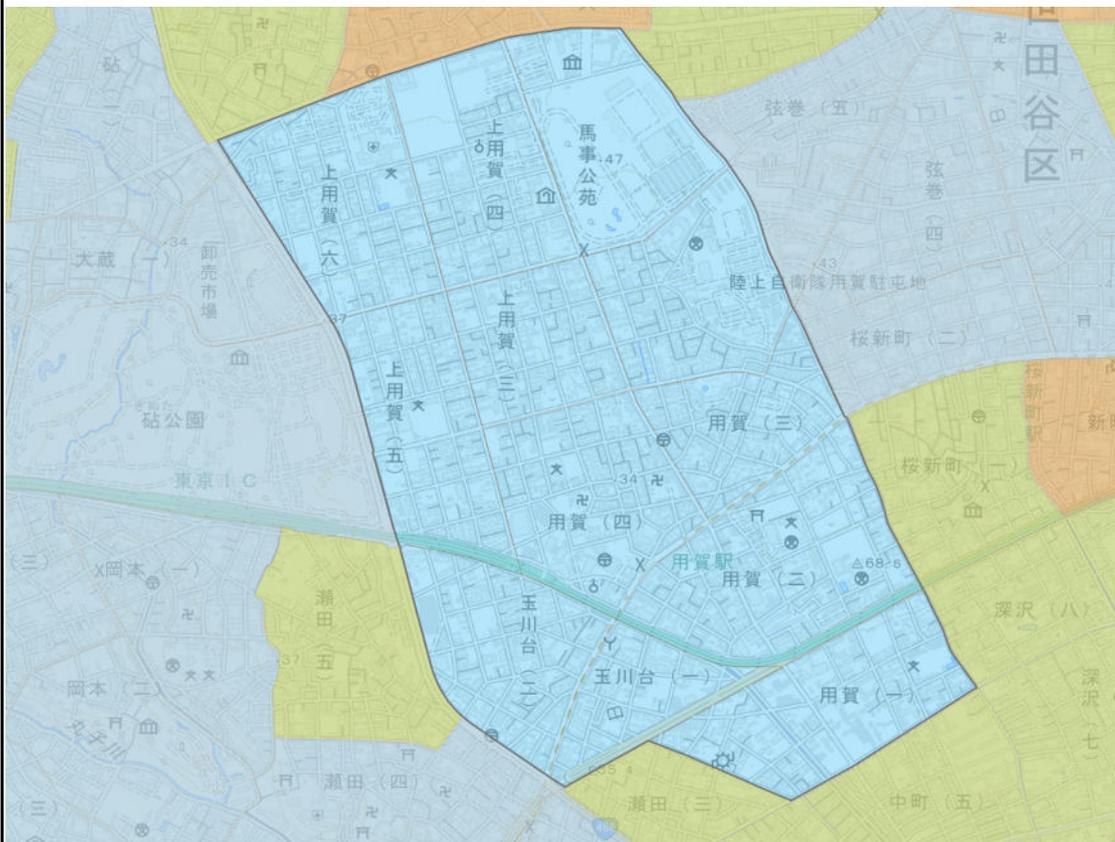
建物倒壊危険度



建物倒壊危険度



火災危険度



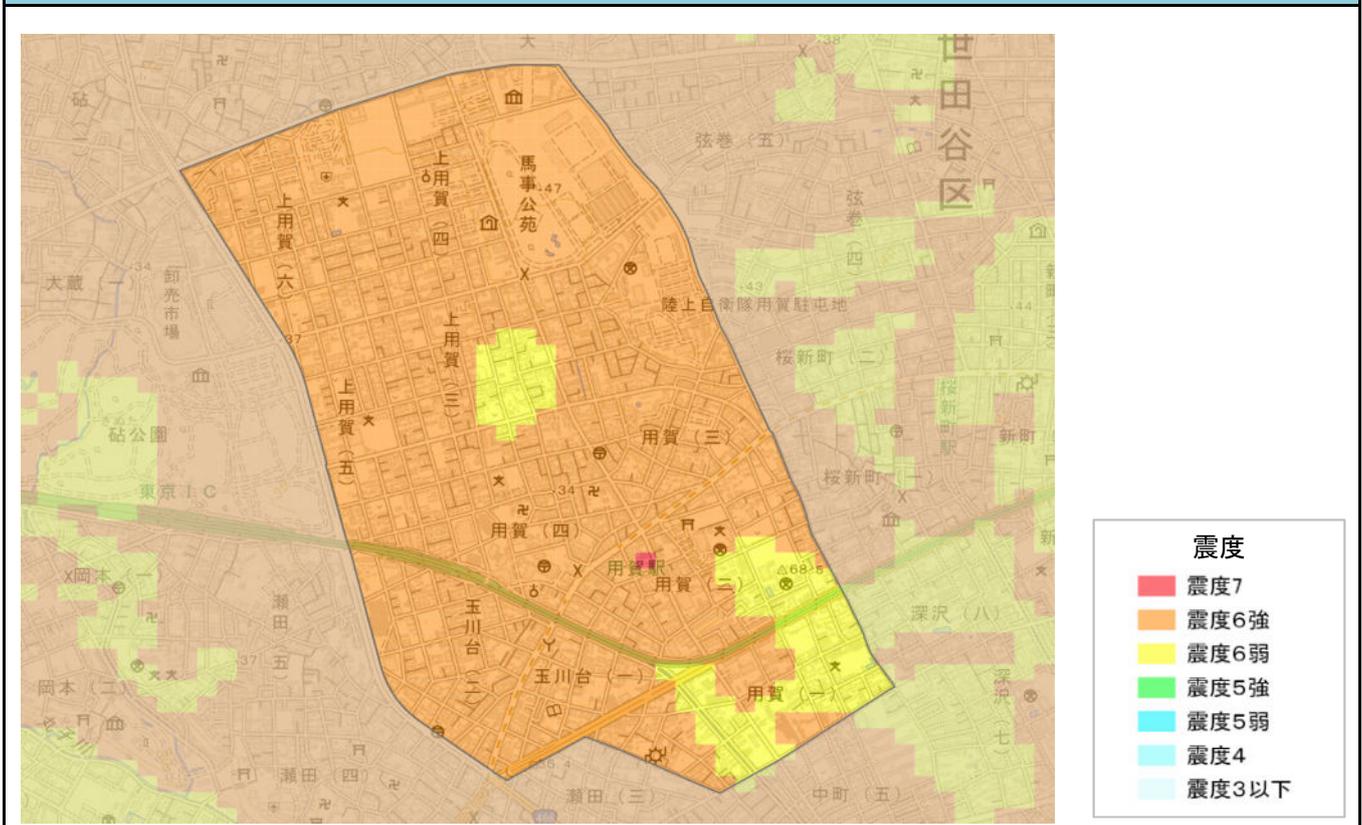
火災危険度



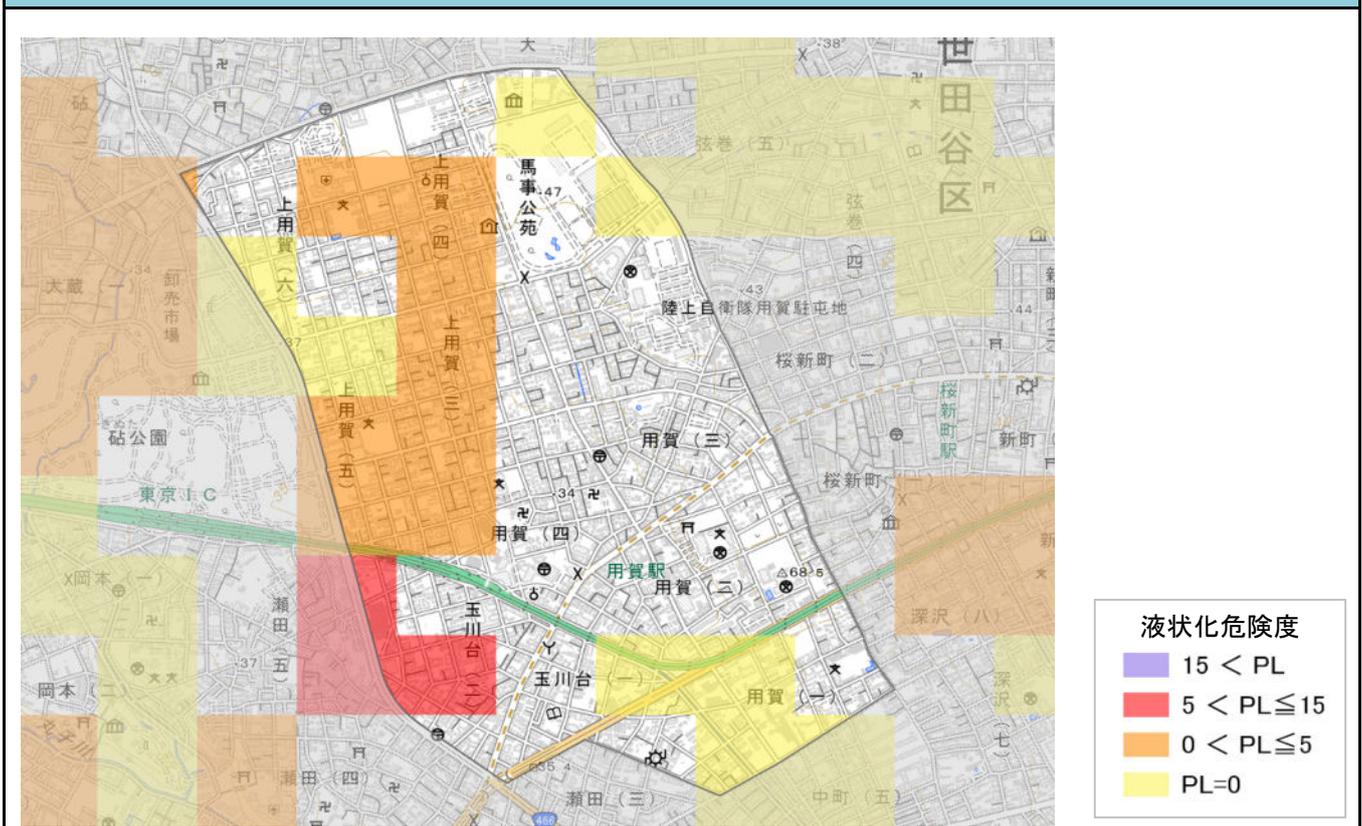
(4)被害想定

全壊棟数	329 棟	死者	21 人
半壊棟数	728 棟	負傷者	235 人
全焼棟数(倒壊建物含まず)	352 棟	うち重傷者	40 人

震度分布

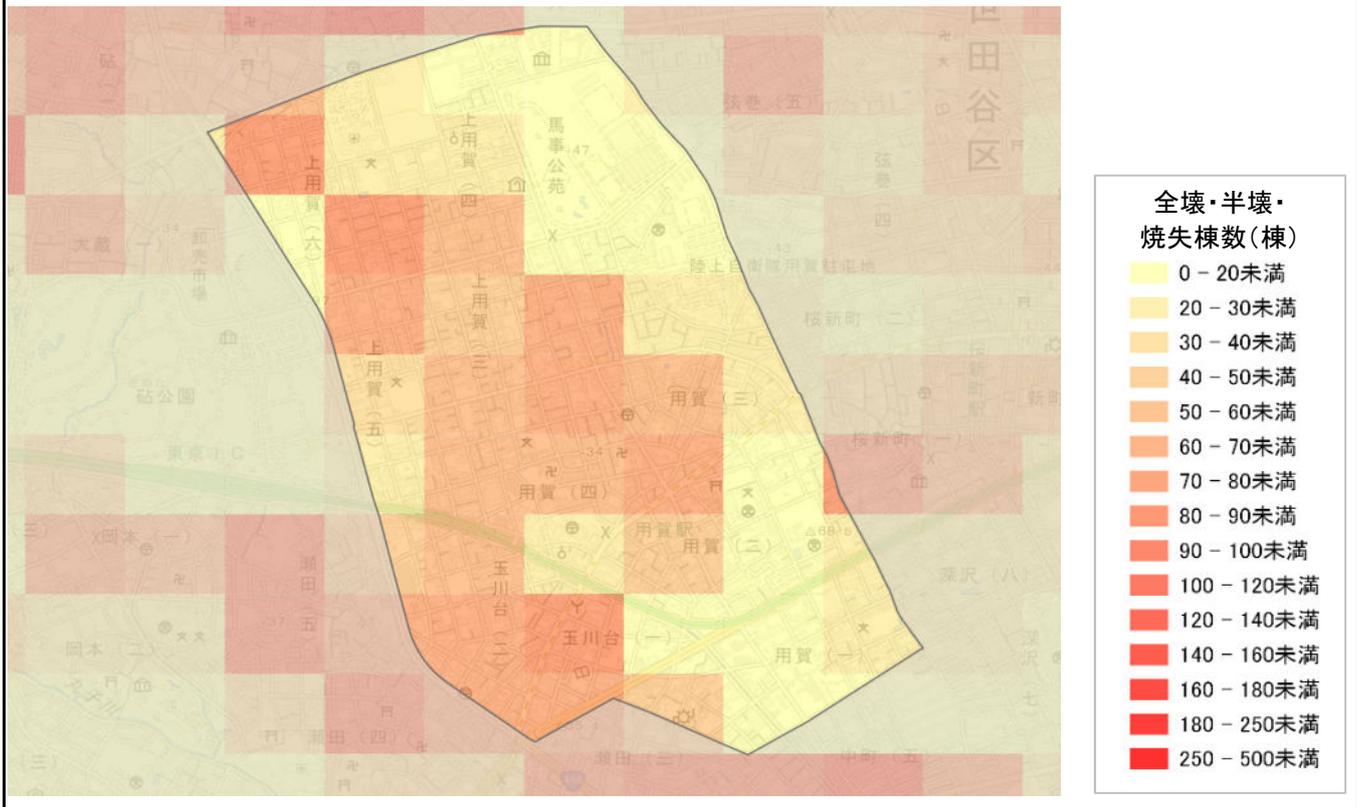


液状化分布



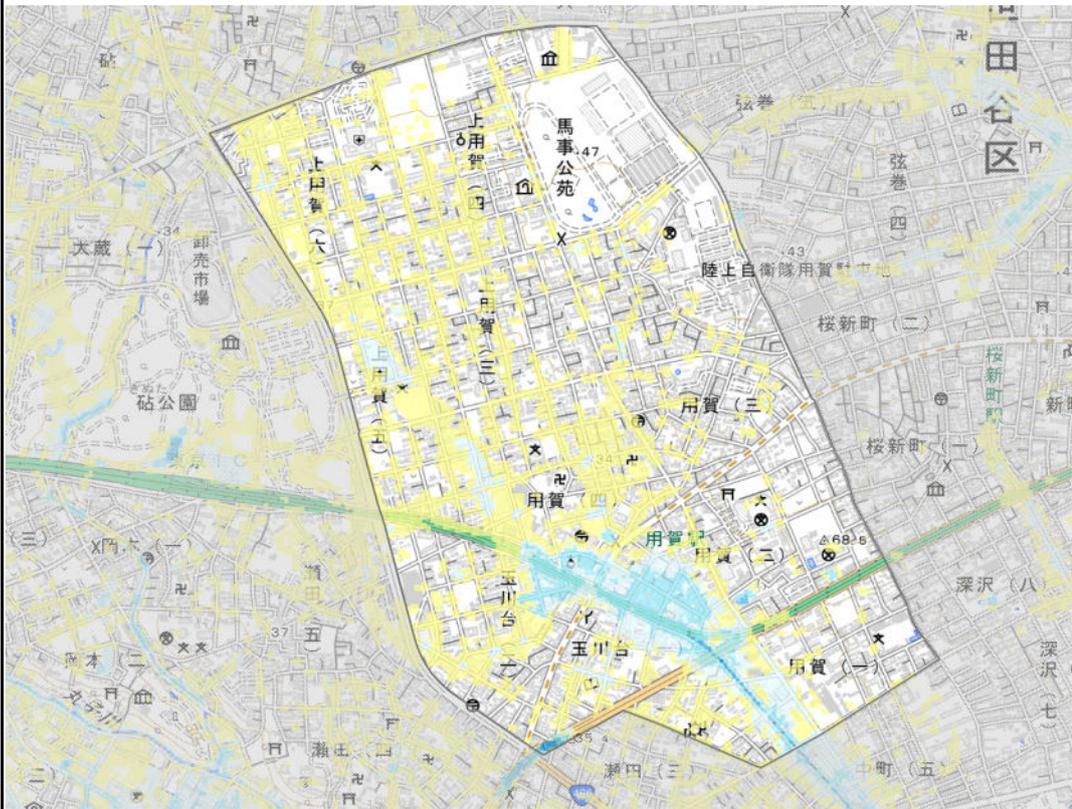
(4)被害想定

被害棟数分布

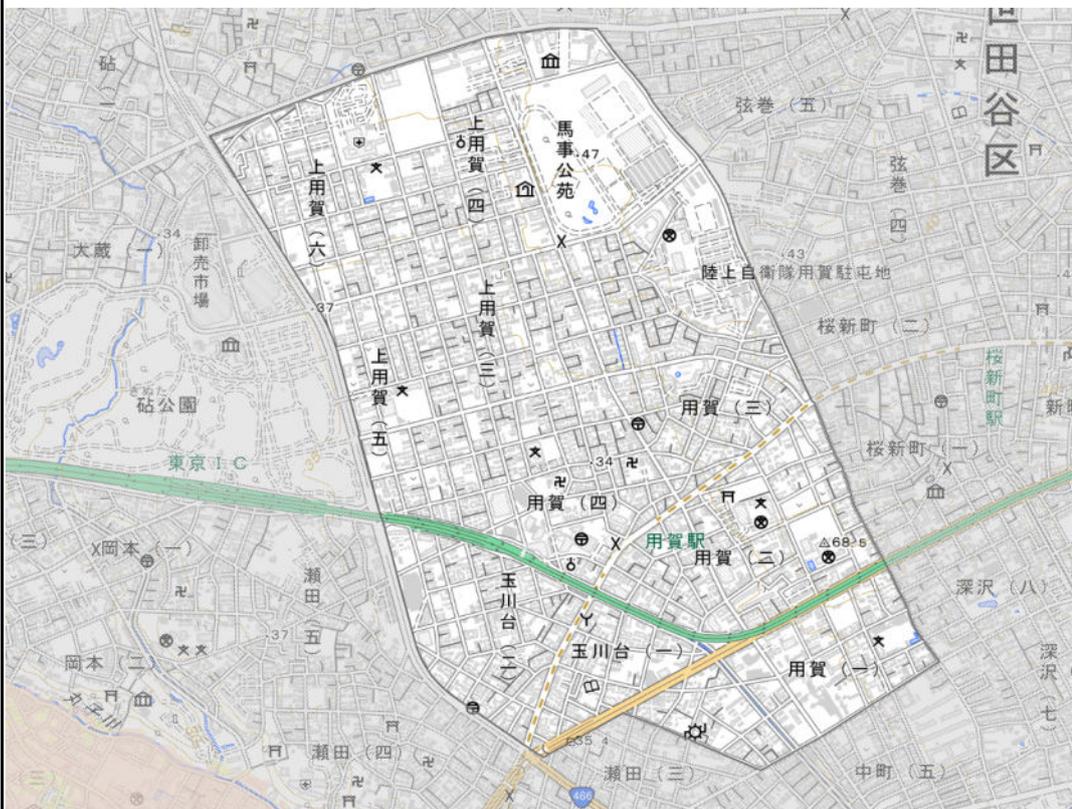


(4)被害想定

浸水想定(内水氾濫・中小河川洪水版)



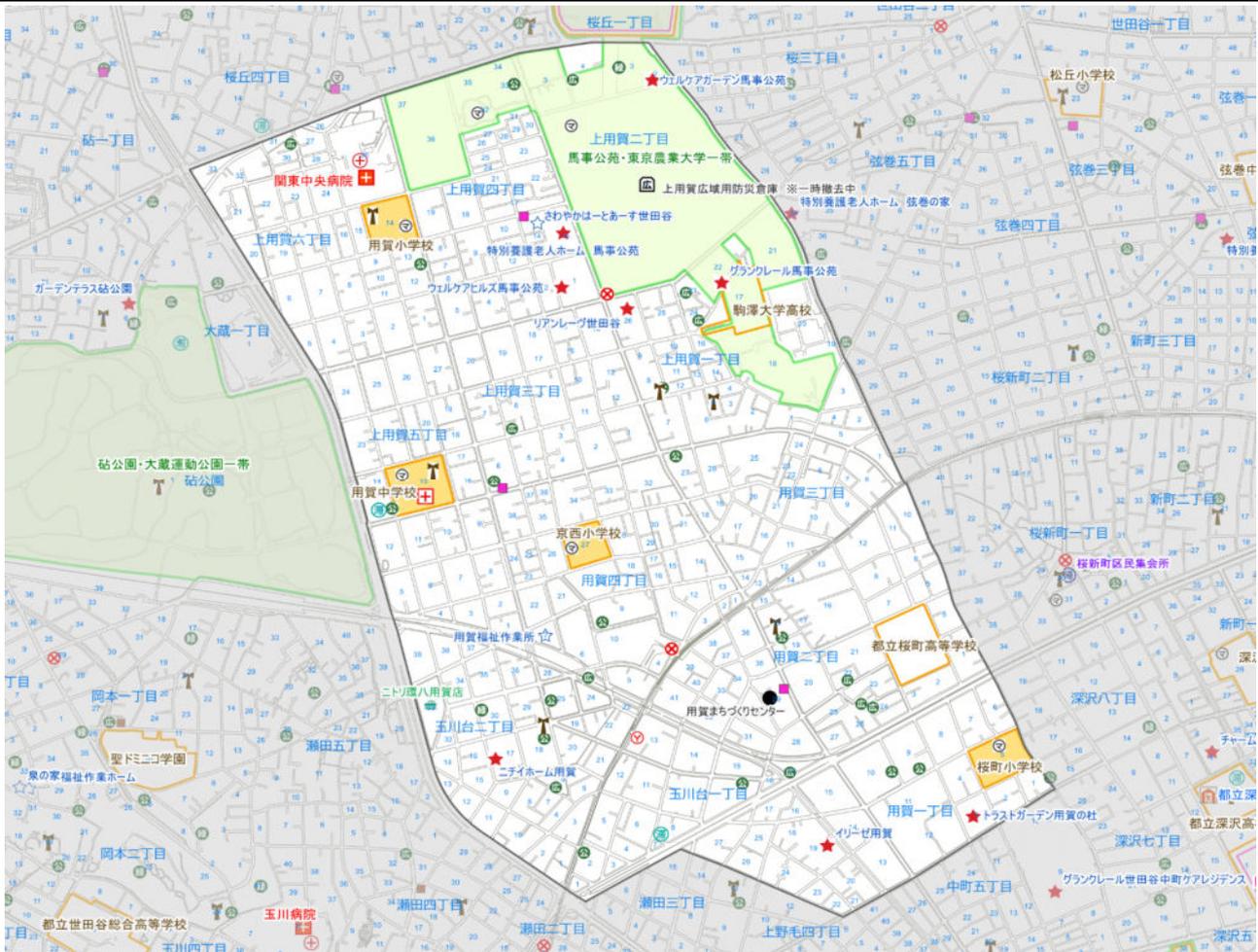
浸水想定(多摩川洪水版)



(5)防災資源一覧

広域避難場所	馬事公苑・東京農業大学一帯					
一時集合所	京西小学校 玉川台公園 佐川急便世田谷用賀営業所 桜町小学校 上用賀テニスクラブ 天神公園 郵政省宿舍前庭 用賀小学校 用賀神社境内 用賀中学校					
指定避難所	京西小学校 桜町小学校 用賀小学校 用賀中学校					
予備避難所	駒澤大学高校 都立桜町高等学校					
福祉避難所(母子)						
福祉避難所(高齢者)	グランクレール馬事公苑 トラストガーデン用賀の杜 ニチイホーム用賀 特別養護老人ホーム馬事公苑 ウェルケアガーデン馬事公苑 ウェルケアヒルズ馬事公苑 リアンレーヴ世田谷 イリーゼ用賀					
福祉避難所(障害者)	さわやかはーとあーす世田谷 用賀福祉作業所					
水害時避難所(第1次)			野川・仙川洪水時避難所			
水害時避難所(第2次)						
土砂災害時避難所						
避難所救護所	用賀中学校					
東京都災害拠点病院	関東中央病院					
東京都災害拠点連携病院						
緊急医療救護所	関東中央病院					
一時滞在施設	トヨタモビリティ東京(株) レクサス用賀／瀬田店					
一時避難施設(車中避難)	ニトリ環八用賀店		帰宅困難者支援施設		0 ヶ所	
ボランティアマッチングセンター						
マンホールトイレ	6 ヶ所		防災行政無線塔		6 ヶ所 緑地 2 ヶ所	
輸送拠点						
給水拠点						
広域用防災倉庫	上用賀広域用防災倉庫 ※一時撤去中					
土のうステーション	上用賀三丁目公園 上用賀児童館 用賀出張所					
警察署・交番	馬事公苑前駐在所 用賀交番					
消防署・出張所	用賀出張所					

(6)防災資源マップ



- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|-------------|--------------------|-----------|--------|-----------|------------|-------------|-------|------|-------|---------|---------|------|------|----------|---------|---------|-------------|--------------|--------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|------------|----------|-------------|---------------|-----------|----------|-------------|-------------------|---------|----------------|
| ◎ 総合支所 | ● まちづくりセンター | ⊕ セタがや災害ボランティアセンター | Ⓔ 広域用防災倉庫 | Ⓜ 給水拠点 | Ⓝ 防災行政無線塔 | Ⓜ マンホールトイレ | Ⓜ 土のうステーション | Ⓜ 警察署 | Ⓜ 交番 | Ⓜ 消防署 | Ⓜ 消防出張所 | Ⓜ 身近な広場 | Ⓜ 公園 | Ⓜ 緑地 | Ⓜ 広域避難場所 | Ⓜ 指定避難所 | Ⓜ 予備避難所 | Ⓜ 福祉避難所(母子) | ★ 福祉避難所(高齢者) | ☆ 福祉避難所(障害者) | Ⓜ 水害時避難所(第1次) | Ⓜ 水害時避難所(第2次) | Ⓜ 野川・仙川洪水時避難所 | Ⓜ 水害時避難所(狛江市) | Ⓜ 水害時避難所(調布市) | Ⓜ 土砂災害時避難所 | Ⓜ 避難所救護所 | Ⓜ 東京都災害拠点病院 | Ⓜ 東京都災害拠点連携病院 | Ⓜ 緊急医療救護所 | Ⓜ 一時滞在施設 | Ⓜ 帰宅困難者支援施設 | Ⓜ ボランティアマッチングセンター | Ⓜ 輸送拠点等 | Ⓜ 一時避難施設(車中避難) |
|--------|-------------|--------------------|-----------|--------|-----------|------------|-------------|-------|------|-------|---------|---------|------|------|----------|---------|---------|-------------|--------------|--------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|------------|----------|-------------|---------------|-----------|----------|-------------|-------------------|---------|----------------|

出典
 世田谷区土砂災害ハザードマップ 令和6年7月発行
 世田谷区の町丁目別人口と世帯数 令和6年3月1日
 世田谷区の年齢別人口 令和6年3月1日
 世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ(多摩川洪水版、内水氾濫・中小河川洪水版)令和6年7月発行
 世田谷の土地利用2021 世田谷区土地利用現況調査
 世田谷区GISオープンデータ
 令和2年国勢調査による 東京都の昼間人口(従業地・通学地による人口)第11表
 地域危険度一覧表(地震に関する地域危険度測定調査[第9回]) 令和4年9月
 首都直下地震等による東京の被害想定 報告書 令和4年5月25日
 世田谷区防災マップデータ 令和6年3月

(7)区民アンケート(用賀地区)

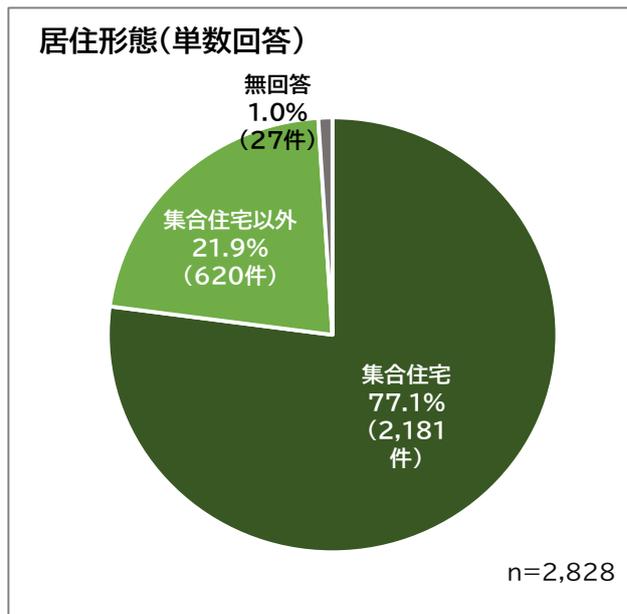
このアンケートは、今後の区内各地域及び地区における災害関連施策の検討や取組みに活用することを目的として、令和6年度に災害対策課が実施した「在宅避難支援事業(防災カタログギフト)」に合わせて行ったものである。

なお、以下に記載している回答集計結果は、カタログギフト申込者のうち、WEBで申し込みをした区民へ任意での回答を依頼し、令和6年8月9日から9月8日までに回収できた分である。

単純集計(1/5)

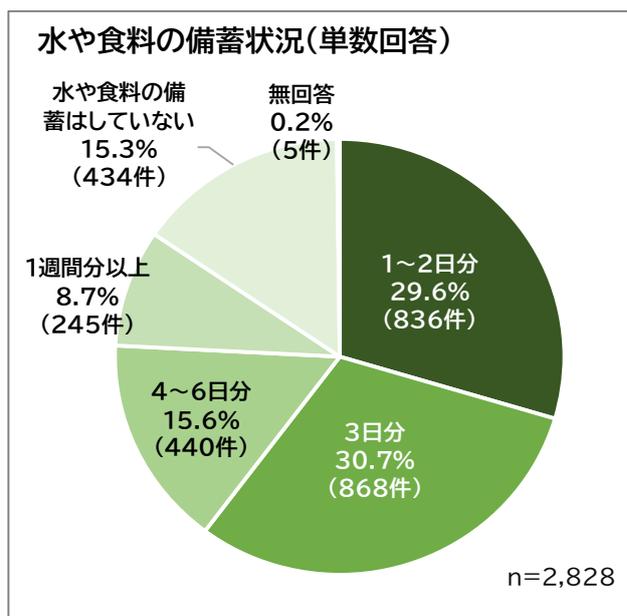
居住形態

【1】あなたはマンションなどの集合住宅にお住まいですか。



水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。

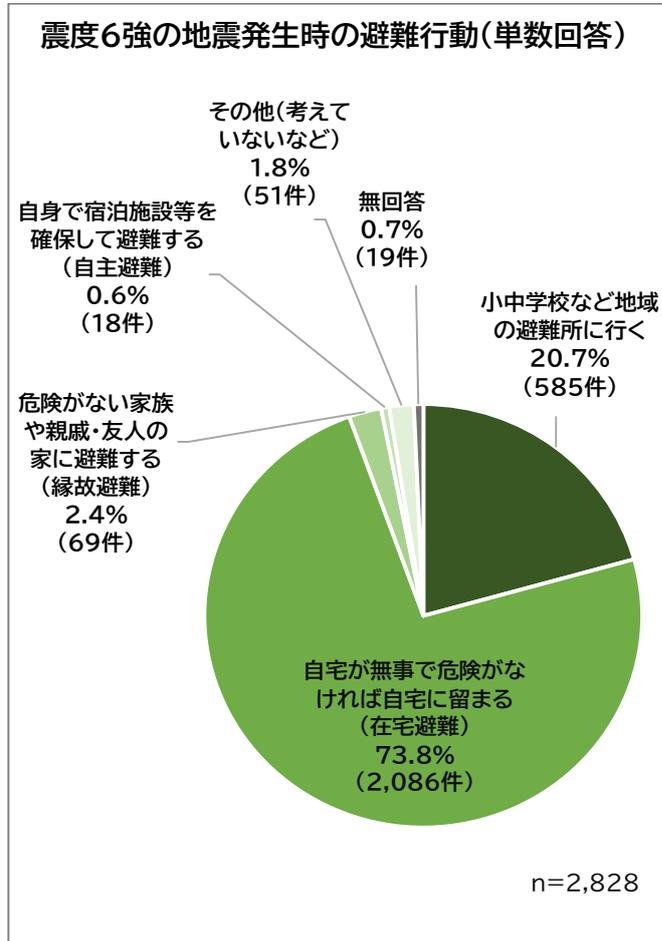


(7)区民アンケート(用賀地区)

単純集計(2/5)

震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



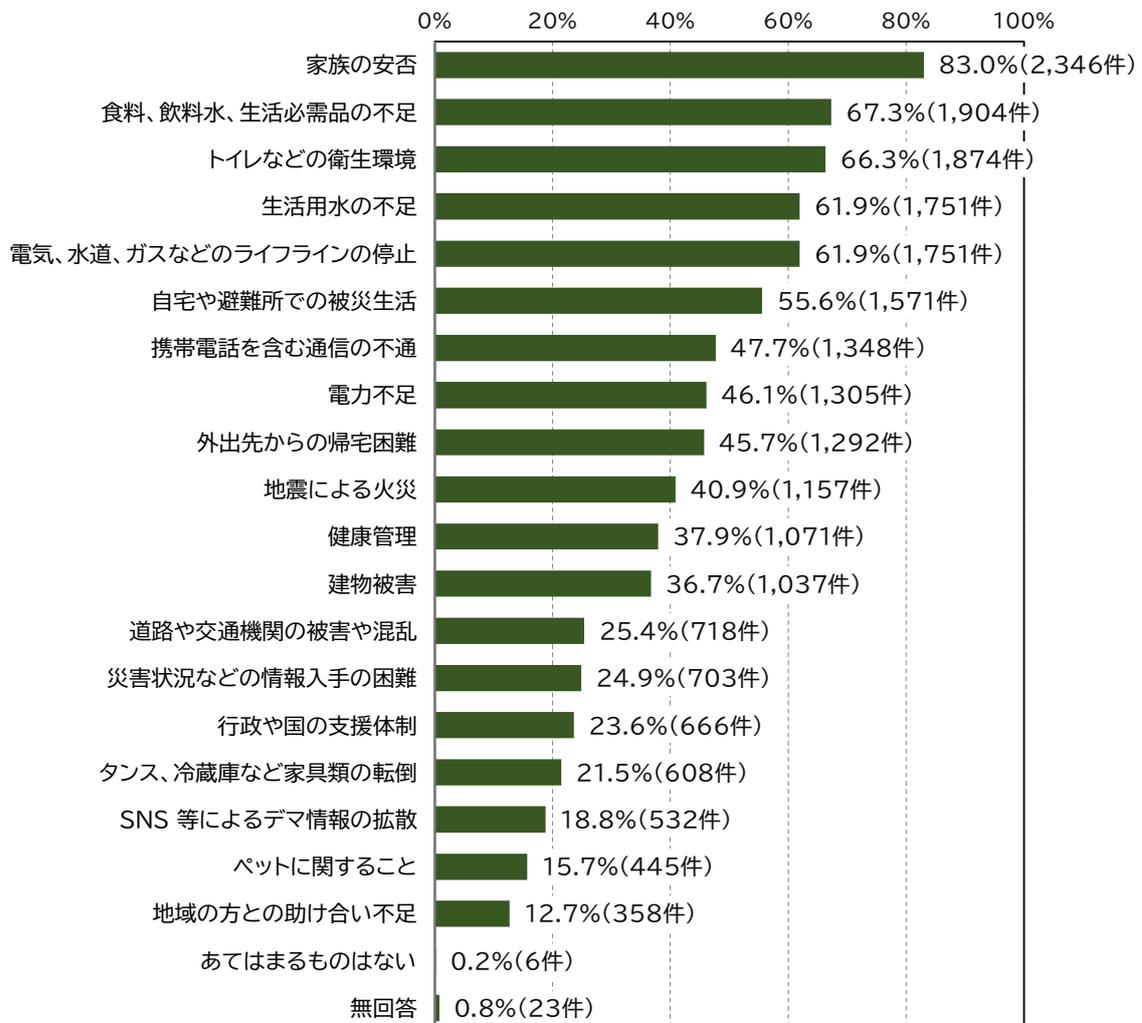
(7)区民アンケート(用賀地区)

単純集計(3/5)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

災害時の心配ごと(複数回答)



n=2,828

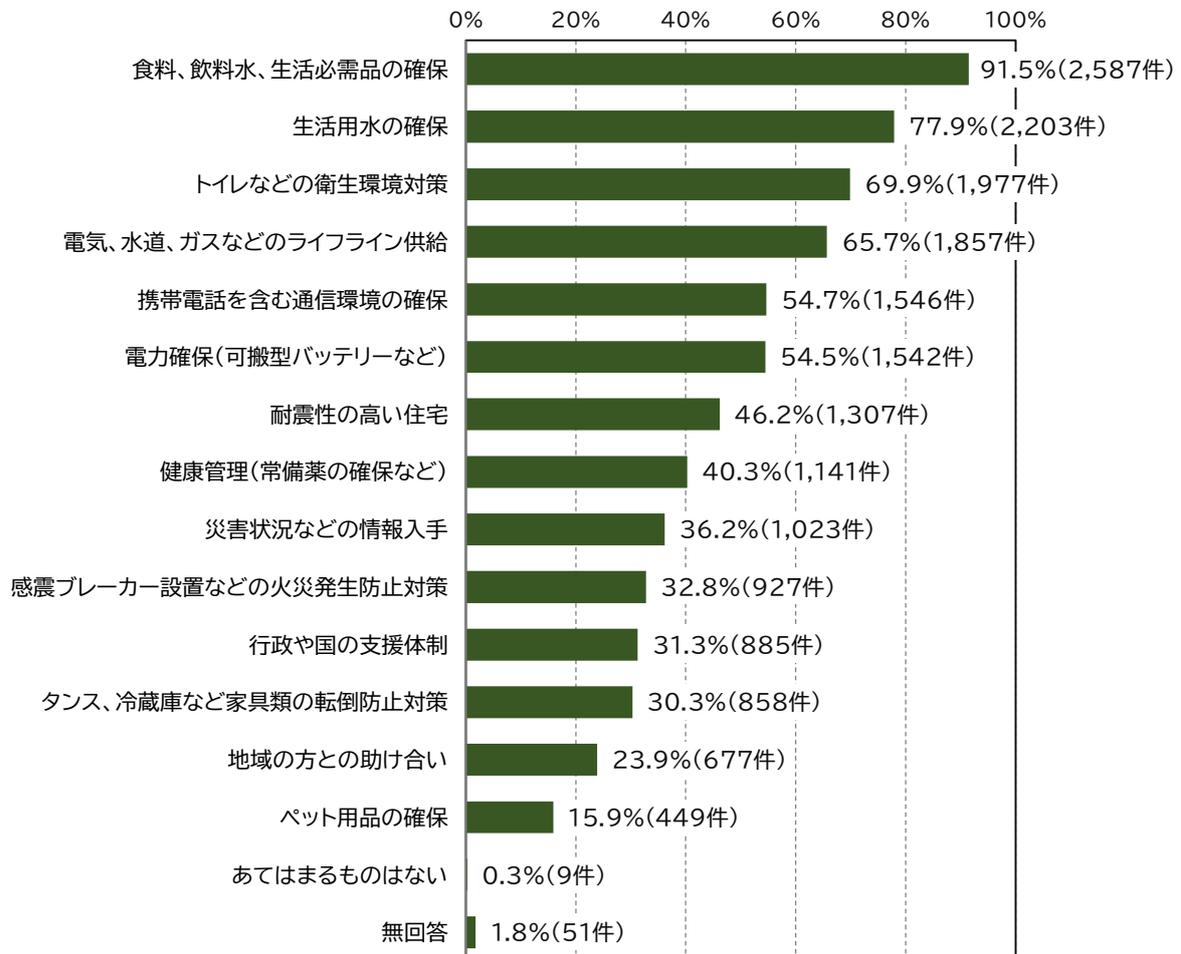
(7)区民アンケート(用賀地区)

単純集計(4/5)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

在宅避難をするために必要だと思うこと(複数回答)



n=2,828

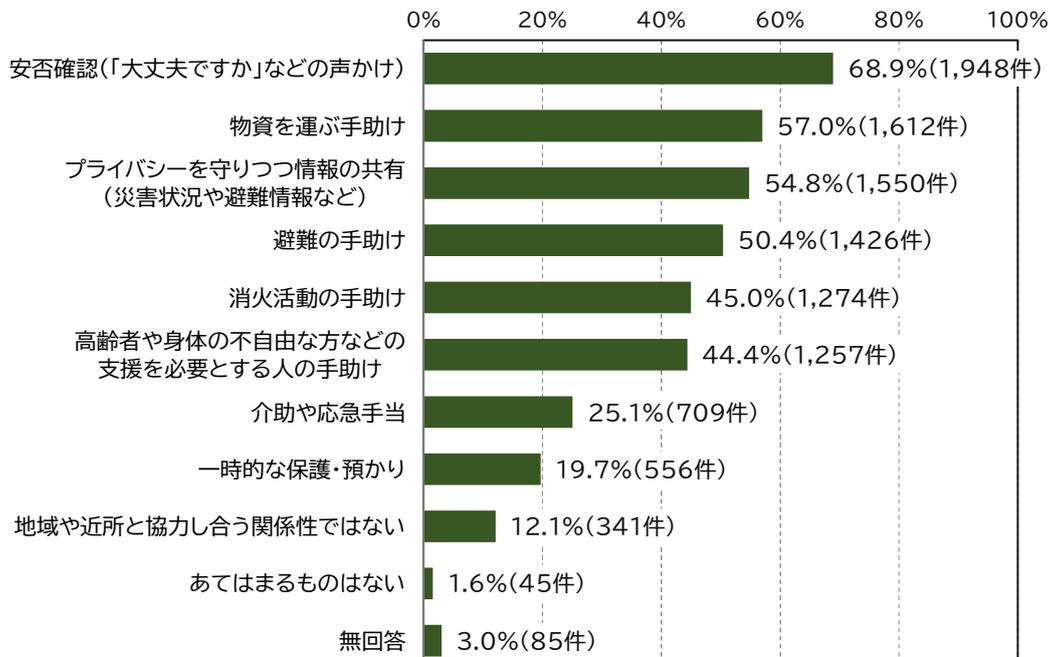
(7)区民アンケート(用賀地区)

単純集計(5/5)

災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。

災害時にできる住民同士の支援(複数回答)

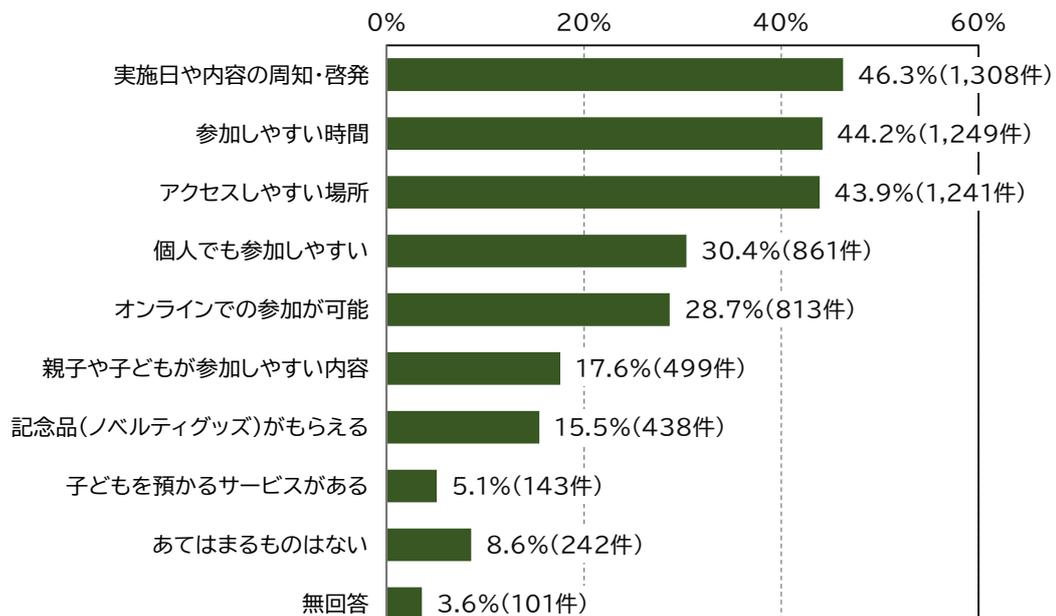


n=2,828

防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加したいと思いますか。

防災訓練や防災教室への参加意向(複数回答)



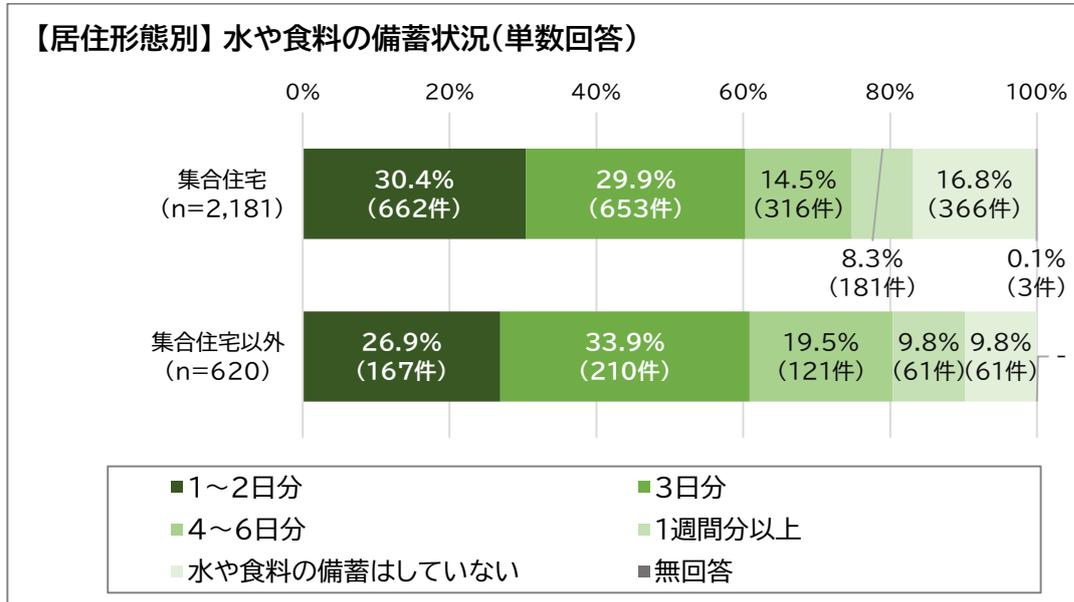
n=2,828

(7)区民アンケート(用賀地区)

クロス集計(1/4)

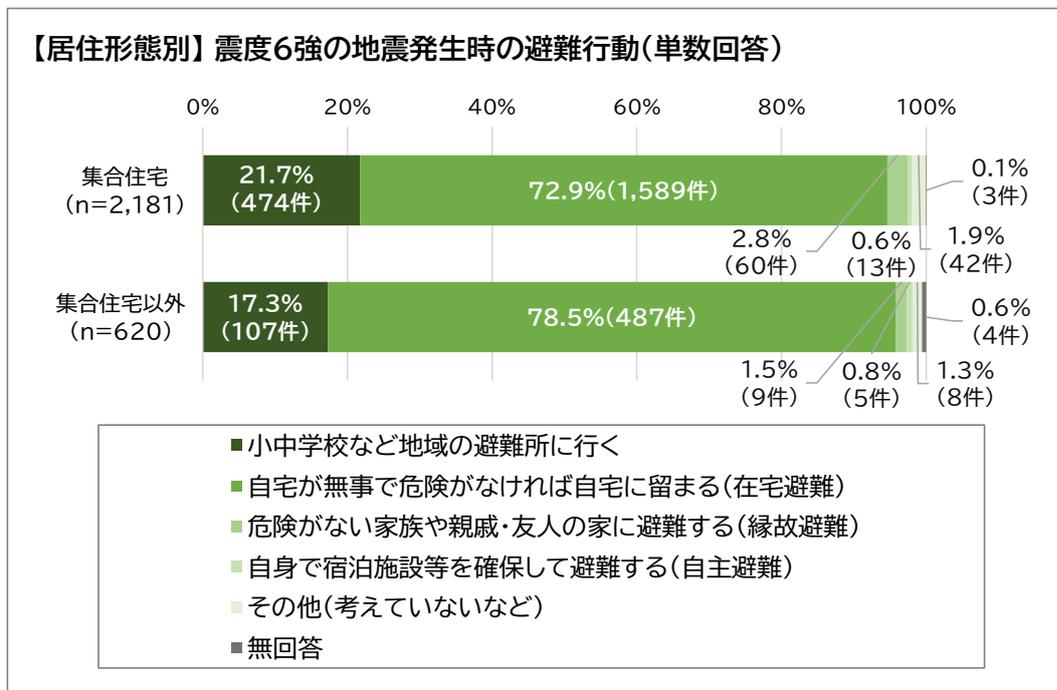
水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。



震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



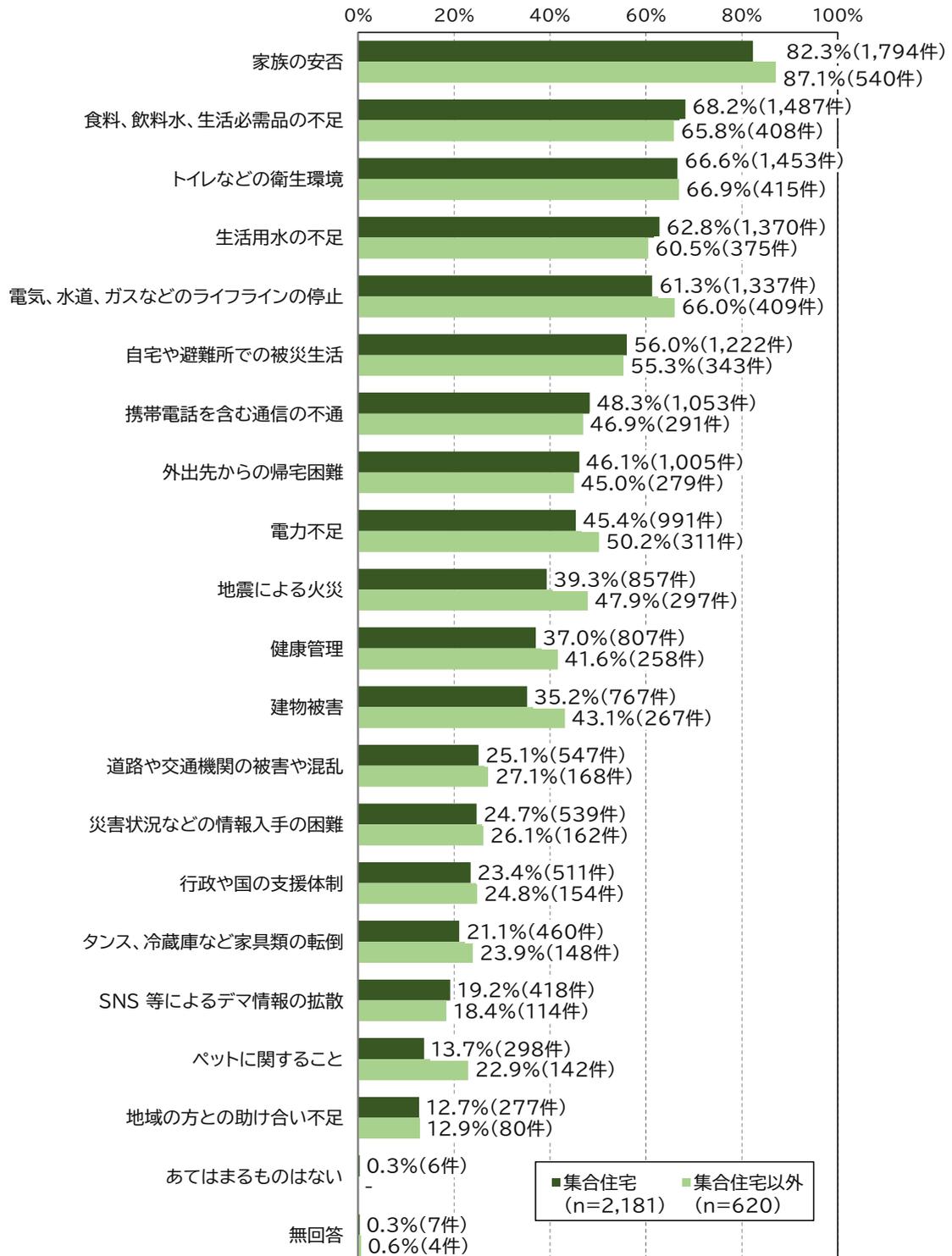
(7)区民アンケート(用賀地区)

クロス集計(2/4)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

【居住形態別】災害時の心配ごと(複数回答)



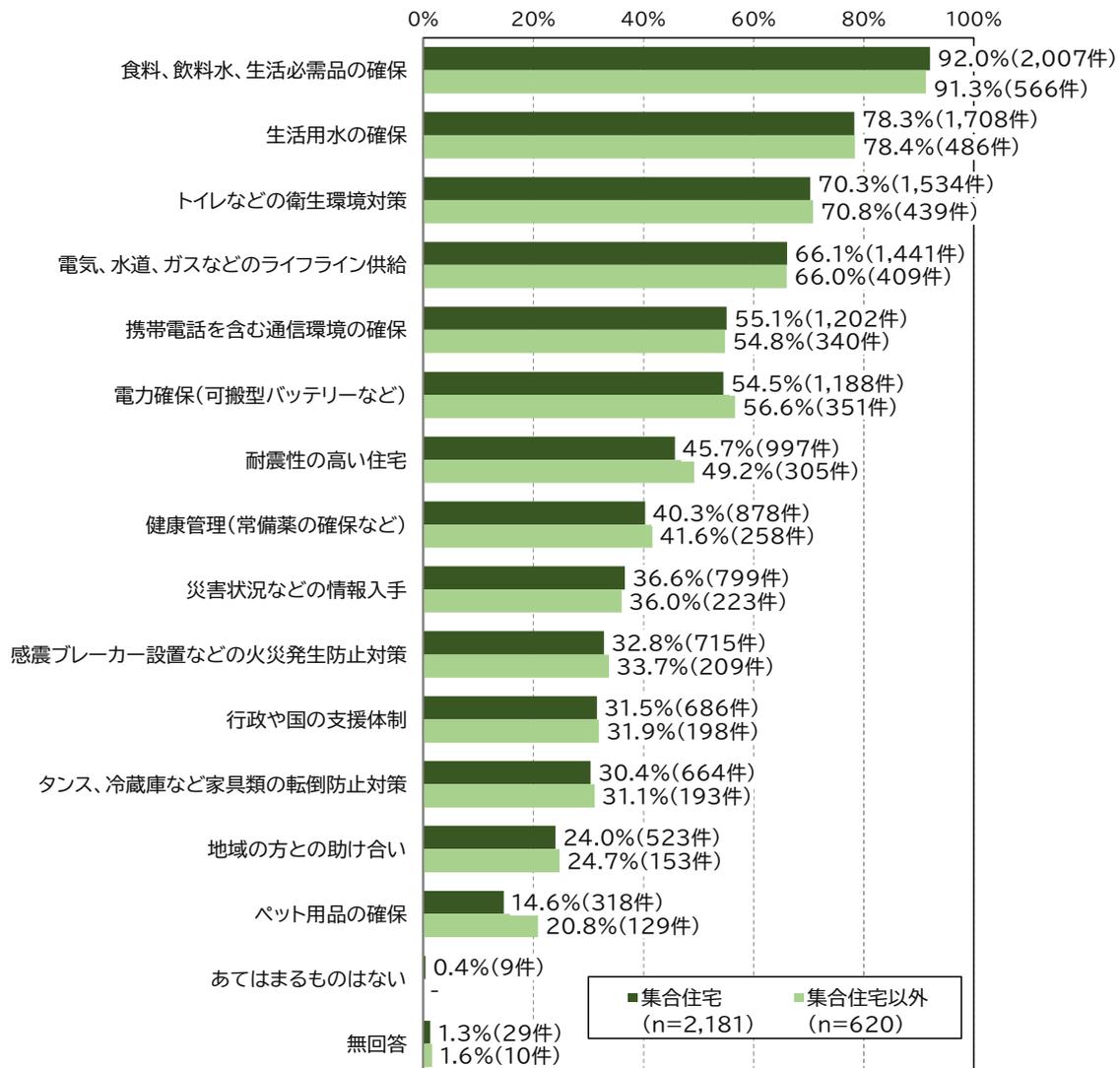
(7)区民アンケート(用賀地区)

クロス集計(3/4)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

【居住形態別】在宅避難をするために必要だと思うこと(複数回答)

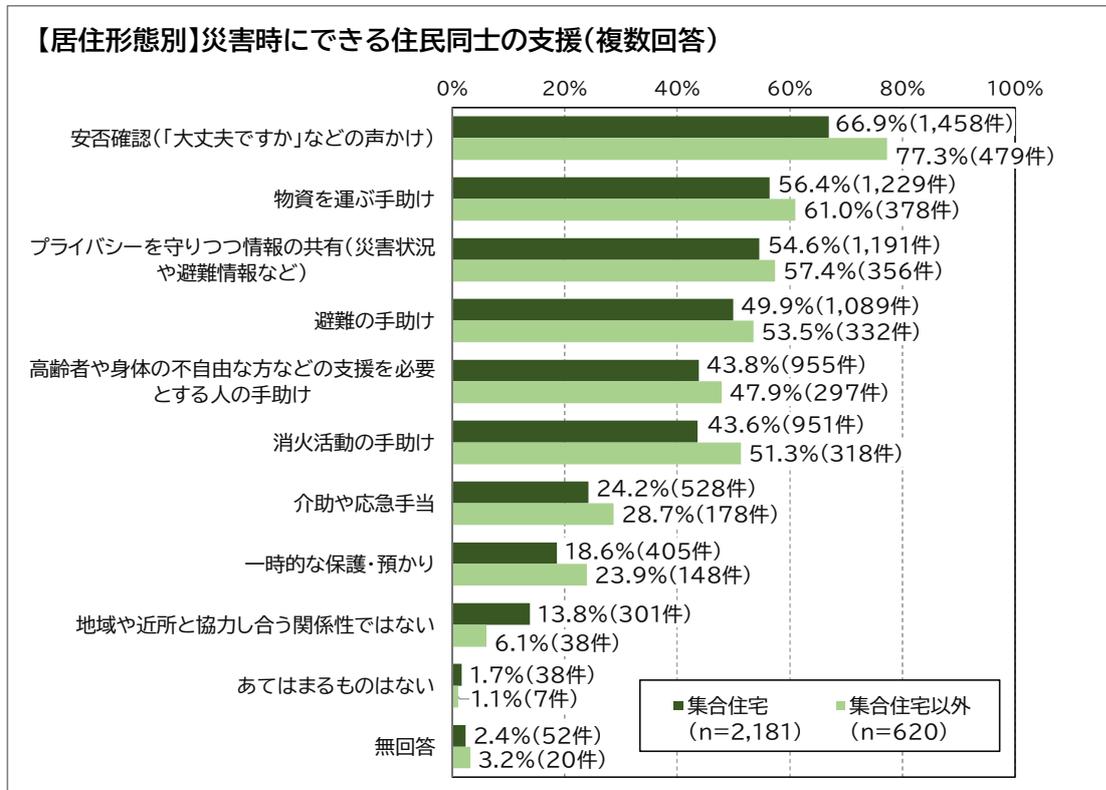


(7)区民アンケート(用賀地区)

クロス集計(4/4)

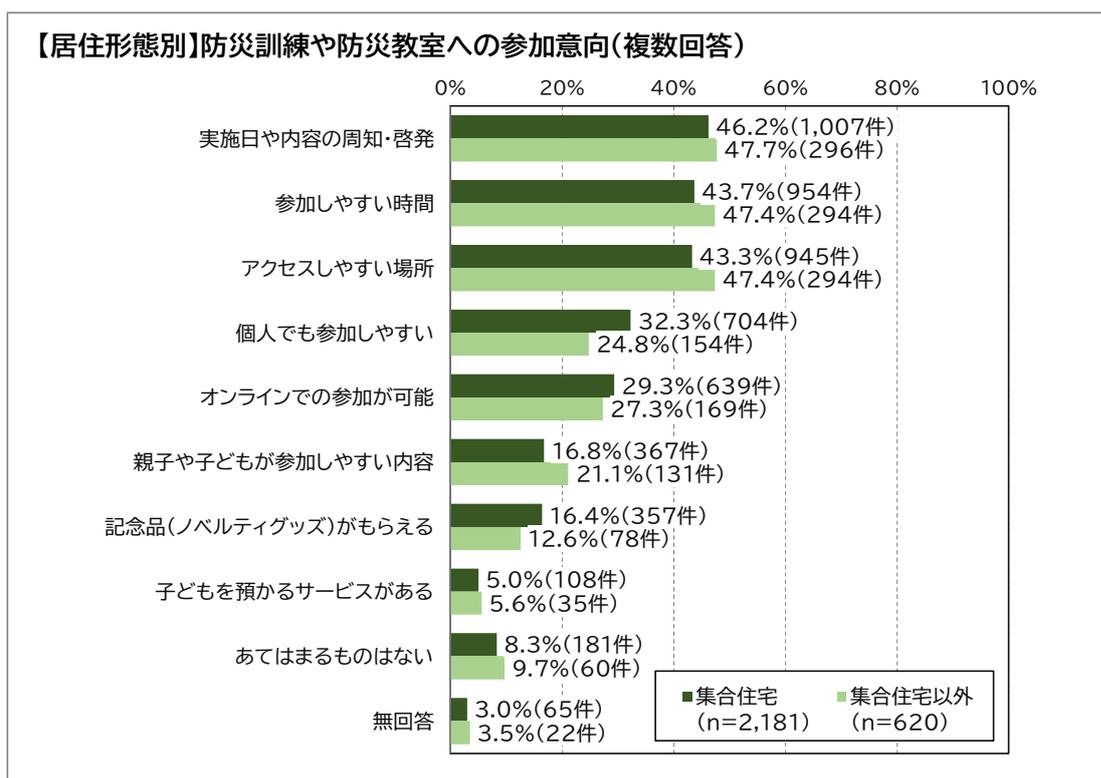
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加したいと思いますか。



2 各団体の防災活動～現在の取組状況～

団体名	防災担当者数	防災に関する会議		防災活動、資機材配備等の実施		消火資機材の配備		消火資機材の配備							
		実施している	実施していない	会議名	実施回数 (年間回数)	実施している	実施していない	配備している	配備していない	スタンドパイプ		D型ポンプ		消火器	
										数量	場所	数量	場所	数量	場所
用賀南町会		○		役員会	1	○		○		1	玉川台東公園内倉庫	1	町会倉庫(用賀2-25)		
用賀町会		○		役員会	1	○		○		3	町会C倉庫・役員宅	1	町会C倉庫	1	町会B倉庫
上用賀町会		○		町会防災部会議 町会避難所担当者会議	2 6	○		○		1	用賀中学校内町会第1倉庫	2	用賀中学校内町会第1倉庫、用賀公園内町会倉庫		
馬事公苑前ハイム管理組合		○		防災対策委員会 防災訓練実行委員会	12 数回	○		○						各階2本	各階
区営用賀二丁目第二アパート自治会 防災部	2	○		総会時の役員会		○		○				1	資材倉庫	28	各棟の階段
玉川台2丁目自治会 防災部			○			○		○				1	アパート敷地内倉庫	17	1号棟・2号棟各階、集会所
パシフィック馬事公苑前 防災部		○		パシフィック馬事公苑前 防災部会	12	○		○						32	各階外通路

団体名	消火資機材の配備		防災訓練等の実施				防災訓練等の実施			
	その他		実施している	実施していない	防災訓練		救命救急講習会		その他	
	名称	場所			回数	実施場所	回数	実施場所	訓練名称	実施場所
用賀南町会			○							
用賀町会	C型ポンプ	町会B倉庫	○			1	玉川消防署・用賀出張所前	スタンドパイプによる消火訓練他	玉川消防署・用賀出張所前	
上用賀町会	銀色防火服、銀色長靴、銀色ヘルメット、銀色防火手袋	用賀中学校内町会第1倉庫、用賀公園内町会倉庫	○		2	用賀小学校・用賀中学校				
馬事公苑前ハイム管理組合			○		2	馬事公苑前ハイム		防災教室	マンション内中庭	
区営用賀二丁目第二アパート自治会防災部			○		1	町内会指定の場所	1	まちづくりセンター		
玉川台2丁目自治会防災部			○		2	アパート内の通路				
パシフィック馬事公苑前防災部			○		1	マンション内駐車場集会室	1	マンション内集会室		

団体名	防災マップ											防災士等の数				災害時連携・協定 (区を除く)						
	作成済	作成中	作成検討中	作成予定なし	掲載情報							その他	防災士	把握していない	地域防災リーダー	把握していない	他団体との連携	協定締結	特になし	連携先・内容	協定先・内容	
					一時集会所	広域避難場所	避難所	街路消火器	防火水槽	震災用井戸	消火栓											
用賀南町会	○				○	○	○						病院、救護所、役所関係施設、町会掲示板、公園等	1				○			用賀3町会合同(用賀地区防災マップ作成)	
用賀町会	○				○	○	○						病院、救護所、役所関係施設、町会掲示板、公園等	1	1		○				用賀3町会合同(用賀地区防災マップ作成)	
上用賀町会	○				○	○	○						病院、救護所、役所関係施設、町会掲示板、公園等	1			○				用賀3町会合同(用賀地区防災マップ作成)、YCC(ようがコミュニティクラブ)、用賀商店街振興組合、ベネッセ	
馬事公苑前ハイム管理組合	○				○	○	○								○		○					
区営用賀二丁目第二アパート自治会防災部				○											○		○					
玉川台2丁目自治会防災部				○											○		○					
パシフィック馬事公苑前防災部			○												○		○					

団体名	避難行動要 支援者協定			避難行動要支援者対策					連絡手段の確保			防災活動に関するマニュアル (避難所運営マニュアルを除く)			
	締結している	検討中である	予定はない	日頃からの 見守り活動	要支援者体験 避難行動	その他	特に実施 していない	簡易無線	連絡網の 作成・整備	その他	策定済み	策定中	検討中	予定なし	名称
用賀南町会			○				○		町会内電話で連絡(役員のみ)			○			
用賀町会			○				○		スマートフォンによる連絡(役員間)			○			
上用賀町会			○	○				○				○			
馬事公苑前ハイム管理組合	○					防災対策委員会 で対策協議中		○		○			○		
区営用賀二丁目第二アパート自治会 防災部			○				○						○		
玉川台2丁目自治会 防災部			○	○									○		
パシフィック馬事公苑前 防災部			○	○								○		アクションカード	

団体名	救出救助に係る資機材の配備													その他			
	配備していない	配備している	リアカー	はしご	脚立	担架	救急セット	ヘルメット	救助工具セット	バール	スコップ	手おの	のこぎり		ジャッキ	両口ハンマー	ツルハン
用賀南町会		○				4	1	10			2						拡声器、トラロープ
用賀町会		○	1		1	2	4	17		1	2	3	1	1	1		エンジン式チェーンソー1台、台車2、手押車2
上用賀町会		○	2					100	3								拡声器、三角尺、ロープ、フタ開けアーム、救急箱、ウエス、防災組織用防火部上下服
馬事公苑前ハイム管理組合		○			5	4	1	6	1	2	2		2	2	2		ボルトカッター2 トラテープ、拡声器
区営用賀二丁目第二アパート自治会 防災部		○		○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	
玉川台2丁目自治会 防災部		○		○	○		○	○		○	○	○	○		○	○	
パシフィック馬事公苑前防災部		○		○	○	○				○	○		○	○	○	○	油圧ジャッキ、ボルトカッター、ロープ

団体名	救出救助に係る資機材の配備 保管場所	食糧等の備蓄											
		備蓄していない	備蓄している	アルファ米	ビスケット・乾パン	おかゆ	飲料水	缶詰類	レトルト食品類	カセットコンロ	災害用食料 その他	非常用トイレ	照明
用賀南町会	玉川台東公園内倉庫		○				120	720	400	1			2
用賀町会	町会A倉庫		○						少しあり	4 町会B 倉庫	50	3	
上用賀町会	用賀中学校内町会第1倉庫、 用賀公園内町会倉庫、お稲荷 さん町会防災倉庫、用賀小学 校内町会防災倉庫		○	200			114				簡易トイレ (400入り) 4	3	
馬事公苑前ハイム 管理組合	ハイム倉庫内		○				250			4	250	1	
区営用賀二丁目第 二アパート自治会 防災部			○	○			○			○			
玉川台2丁目自治 会防災部	アパート内倉庫		○				○	○	○	○			
パシフィック馬事 公苑前防災部	1階倉庫		○	○	○		○	○	○			○	

団体名	食糧等の備蓄					その他の防災活動	
	発電機	蓄電池セット	給水タンク	その他	保管場所		備蓄品配布先
用賀南町会		2	1	テント、炊き出し用かまど、コードリール、カセットボンベ	玉川台東公園内倉庫		
用賀町会	1町会A倉庫			テント2、炊き出し用かまど、コードリール 町会B倉庫	町会C倉庫		
上用賀町会				ハロゲン懐中電灯、防水懐中電灯、非常用ラジオ、マンガン電池	用賀中学校内町会第1倉庫、用賀公園内町会倉庫		
馬事公苑前ハイム管理組合	2		270	LEDライト、ラジオ、ポータブル電源、電池、コードリール、LEDランタン、カセットコンロ、ボンベ、やかん	ハイム倉庫内		
区営用賀二丁目第二アパート自治会防災部		○					
玉川台2丁目自治会防災部					集会所	居住者	
パシフィック馬事公苑前防災部	○				1階倉庫		

3 用賀地区における課題と今後の取り組み

(1)用賀地区における災害と地区防災活動

- 地震、豪雨、強風、内水氾濫、火山灰の降灰などはいつでも発生する可能性があり、用賀地区においても地区全体で災害に備える早急な取り組みが必要である。
- 地区防災活動は「自らのまちは自ら守る」という基本理念のもと、まずは自身と家族、地区住民の災害による生命・身体への危険を回避し、安全を確保する活動であり、その後、復旧、復興に向けて取り組む活動となる。
- 地区防災計画では、発災時における地区住民(在学、在勤者を含む)の地区防災活動とその防災活動に不可欠な備えをあらかじめ明確にする必要がある。

(2)防災活動及び活動に必要な備えの課題【地区の現状】

①災害に関する正しい知識・情報が必要

- ・災害や避難に関する知識・情報
- ・災害ごとの想定される被害や必要な備えなどの知識・情報
- ・防災対策や減災に関する知識・情報
- ・自宅の耐震化や備蓄に関する知識・情報
- ・自助・共助・公助の役割分担に関する知識・情報

②各家庭での防災の備えが必要

- ・自宅建物の安全対策(耐震化、浸水予防)
- ・自宅内の家具や危険物の固定・安全対策
- ・飲料水、携帯トイレ、生活用水、常備薬などの備蓄

③地区内の連携協力態勢が必要

- ・地区内の日常的な交流が少ない。
- ・住民の地区への帰属意識が低い。
- ・避難所運営訓練への参加者が減少し、地区イベントの参画者も固定化している。
- ・町会加入率が低い。

④近所の安否確認と初期消火への住民の協力が必要

- ・避難行動要支援者の支援協定を締結している団体が少ない。
- ・防災訓練、防災教室の開催実績が少なく、固定化している。
- ・住民を対象とした初期消火訓練等の防災訓練が行われていない。
- ・消防団員が少ない。

⑤避難所以外の避難生活の場の確保が必要

- ・在宅避難、遠隔地避難、縁故避難などの準備が不足している。
- ・指定避難所での共同生活に関する知識・情報が不足している。
- ・在宅避難に必要な自宅の補強、家具固定、備蓄などが不足している。

⑥避難所運営体制の強化が必要

- ・避難所運営委員が固定化している。人材が不足している。
- ・避難者が指定避難所運営を担う体制(意識)が未整備である。
- ・避難所における安全で衛生的な生活環境の確保が困難である。
- ・避難所には生活に必要な物資が十分には備蓄されていないことの理解が不足している。
- ・発災当初に自宅が無事な避難者や帰宅困難者等が避難してきた場合や収容可能人数を超えた場合等への対応力が不足している。

(3)今後の取り組みの方向性【目標】

【課題】①災害に関する正しい知識・情報が必要

○災害時に命を守るためには、災害に対する正しい知識と正確な情報を地区住民が得て共有するとともに、「自助、共助、公助」の役割分担についても理解したうえで、自ら行動することが重要である。平時より情報収集に努め、実践的な訓練を行うとともに、行政と連携し専門性の高い研修・訓練を実施する。

■地区団体における今後の取り組みの方向性

- 各避難所運営訓練や地区の防災関連の事業などの機会に適切な情報発信を行う。様々な機会をとらえて地区住民に向けた防災講演会を実施し、地区住民の参加を呼び掛ける。
- 区の災害対策事業の紹介や区広報を活用したチラシの作成など情報提供に注力する。
- 防災知識の普及・啓発(研修や訓練への参加)を呼びかける。
- 災害用伝言ダイヤル(171)、災害用伝言板(Web 171)、FMせたがや、SNS、防災メールの利活用を紹介する。

【課題】②各家庭での防災の備えが必要

○大きな震災では、家屋の倒壊や家具の転倒による圧死、窒息死が多く、事前の備えで身体生命の安否に影響が生じることになる。また、倒壊した建物から救出された人の約8割が、家族や近所の住民等によって救出されている。気候変動の影響により、想定を超えるような水害が頻発している。風水害では、事前に雨量等の予測が可能となっ

てきており、適切な情報収集と事前準備、早めの避難行動が重要となる。

■地区・地域団体における今後の取り組みの方向性

- 家屋の倒壊を防止するため、耐震診断や建物耐震化への区の補助事業などを紹介する。
- 家具転倒防止器具の取付け支援や防災用品のあっせんなどの区事業も周知する。
- 自宅での7日間以上の備蓄物品の準備や携帯トイレなどの備蓄を推奨する。
- 住宅の安全対策(家具の固定、避難経路の確保、耐震化、感震ブレーカー、ブロック塀対策、土のう・止水板の準備等)を紹介する。
- 自宅周辺の安全対策(危険箇所の点検、側溝の掃除等)についても周知する。

【課題】③地区内の連携協力態勢が必要

- 災害発生から72時間は、自助と共助で乗り切ることとなる。地区内における円滑な住民相互の協力には、地区コミュニティが不可欠である。日頃から挨拶をしたり、声掛けをする関係があることが、災害発生時に近隣同士の共助実現に有効である。

■地区・地域団体における今後の取り組みの方向性

- 顔の見える関係づくり、集合住宅における見守りネットワークづくり(日頃からの近所付き合い)を推進する。
- 地域の事業や防災訓練へ、地区住民(PTAや子育て世代にも)の参加を呼びかける。
- 町会の活動内容をPRするなど、地区住民に町会への加入を呼びかける。

【課題】④近所の安否確認と初期消火への住民の協力が必要

- 自身と家族の安全を確保したうえで、近隣で避難が必要な方が逃げ遅れていないか、住居内で家具の下敷きになっていないかなど、近隣の安否を確認することや近隣から出火していないかなど声を掛け合うことが地区の安全を守るうえでも大切である。
- 火災の延焼拡大を防ぐため、消防団、消防車が到着するまでの間、可能な範囲で初期消火にあたる。

■地区・地域団体における今後の取り組みの方向性

- 町会による災害時避難行動要支援者支援事業への参加を促す。
- 防災訓練への参加を呼びかけ、消火技術や救命技術を習得する。
- 街路消火器の設置場所や地域の火災発生危険箇所の把握
- 家庭用消火器の設置と定期的なメンテナンスや火災を出さないための取組みを推奨する。(ブレーカーを落として避難する訓練、通電火災予防のための感震ブレーカー設置等)

【課題】⑤避難所以外の避難生活の場の確保が必要

- 避難とは「難」を「避」けること、つまり安全を確保することであり、安全な場所にいる人はそもそも避難する必要がない。避難行動にはさまざまな種類があり、指定避難所以外にも在宅避難や遠隔地避難、縁故避難と言われる避難がある。各指定避難所に備蓄されている物品の量も収容可能避難者に対しても十分とは言えない。収容可能人数を超えて避難者が集中する可能性もあり、感染症が拡大する恐れもある。
- 被災した住宅であっても倒壊や損壊の心配がなく携帯トイレを備蓄しているなどいくつかの条件が満たされて不自由でも生活が可能であれば、プライバシーや生活環境、防犯上の観点から在宅で避難することも可能である。

■地区・地域団体における今後の取り組みの方向性

- 避難行動にはさまざまな種類があり、事前の備えをすることにより在宅避難、遠隔地避難、縁故避難なども可能となることについて、町会や避難所運営委員会、地区内の各種団体等のチラシなどでも広く周知する。
- 在宅避難の準備として、家族が7日間以上生活できる分の備蓄品の備え(食料、飲料水、簡易トイレ等)を推奨する。
- 在宅避難している方への物資供給や災害情報伝達と遠隔地に避難している方への地区の情報を伝達する仕組みづくりを進める。

【課題】⑥避難所運営体制の強化が必要

- 避難生活では、狭いスペースに大勢の人が一緒に生活するため、体を窮屈にして過ごすことが多く、肉体的・精神的疲労が蓄積することで震災関連死につながるほか、様々な感染症があるためその感染拡大につながる問題もある。避難所を安全かつ円滑に運営していくためには、地域住民(事業者を含む)、施設管理者(学校等)、行政の三者が、あらかじめ避難所運営に対しての共通認識を持ち、協力体制づくりを図ることが重要である。

■地区・地域団体における今後の取り組みの方向性

- 各種感染症(新型コロナ感染症、インフルエンザ、ノロウイルス、食中毒など)に対応した避難所運営を行う。
- 状況の変化に対応して避難所運営マニュアル及び体制についても見直しを行う。
- 避難所運営組織の人材育成と避難者が避難所運営に参画する仕組みづくり。(避難者の生活の場として避難者自らが協力して避難所を運営すること等)
- 避難所運営本部、施設管理者(学校等)、災害対策地域本部(行政)が各避難所の状況

を把握し、三者で情報共有する仕組みづくりを進める。

- 避難所運営本部の避難所運営力を向上させるため、班別訓練、HUG(避難所運営ゲーム)、図上訓練、防災無線の訓練などより具体的な避難所運営訓練を実施する。
- 発災後、時間の経過とともに深刻化する避難者の健康維持への取組みを災害対策地域本部と連携して進める。
- 避難所における要配慮者(高齢者、障害者、子ども、外国人等)や人の助けを必要とする方への支援も避難所運営マニュアルに位置付ける。
- 避難所運営に災害ボランティアを活用するため、世田谷区災害ボランティアセンター(世田谷ボランティア協会)と連携した取組みを進める。

二子玉川地区防災計画

【令和7年修正】

二子玉川地区

目 次

- 1 二子玉川地区の特性 二子玉川-1(-647-)
 - (1)自然特性 二子玉川-1(-647-)
 - (2)社会特性 二子玉川-2(-648-)
 - (3)地域危険度 二子玉川-4(-650-)
 - (4)被害想定 二子玉川-5(-651-)
 - (5)防災資源一覧 二子玉川-8(-654-)
 - (6)防災資源マップ 二子玉川-9(-655-)
 - (7)区民アンケート 二子玉川-10(-656-)

- 2 各団体の防災活動～現在の取組状況～ 二子玉川-19(-665-)

- 3 二子玉川地区における課題と今後の取り組み 二子玉川-27(-673-)
 - (1)二子玉川地区における課題 二子玉川-27(-673-)
 - (2)今後の取り組み 二子玉川-28(-674-)

1. 二子玉川地区の特性

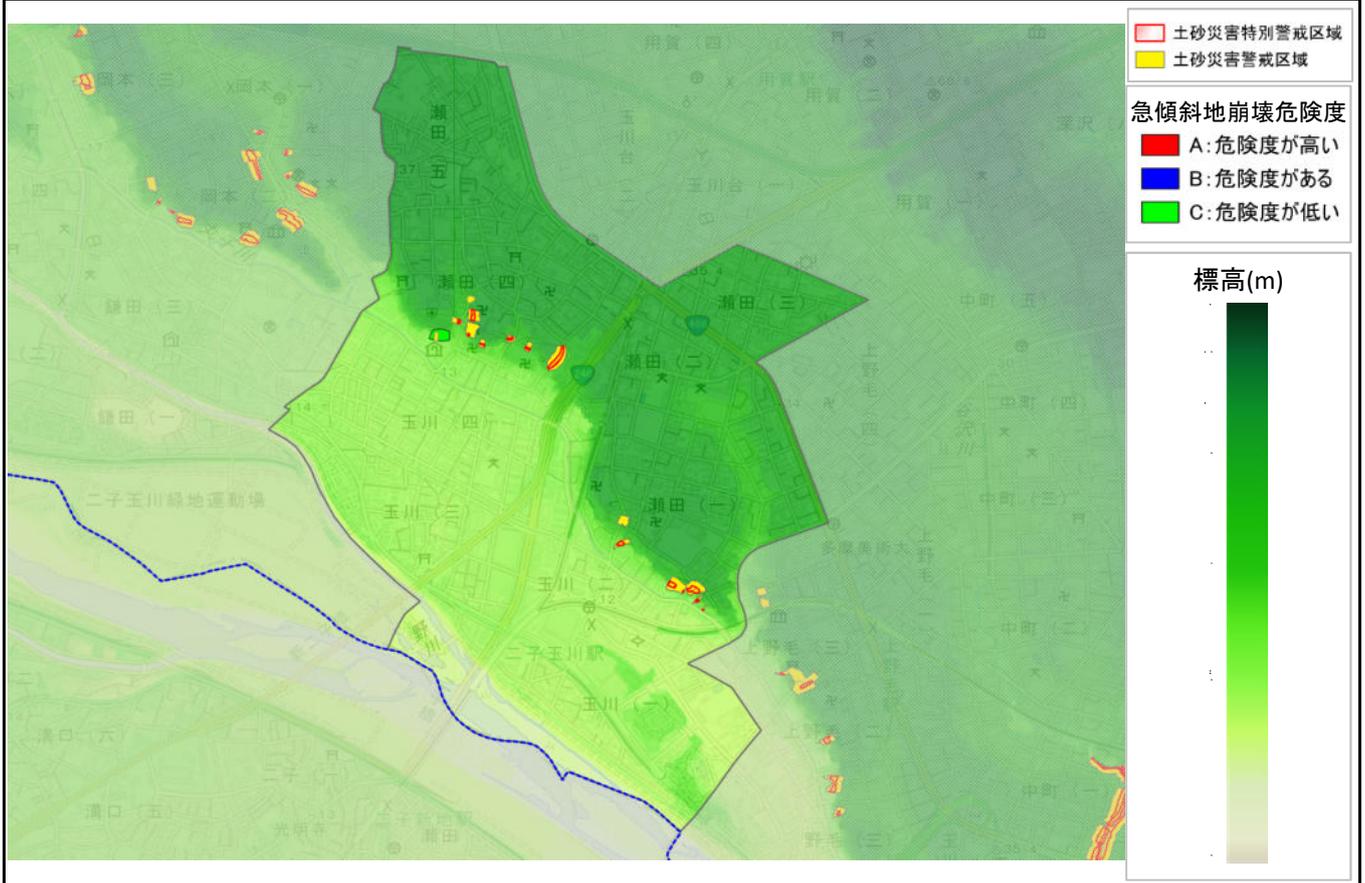
(1)自然特性

面積	2.05 Km ²	最高標高	39.5 m	最低標高	5.0 m
----	----------------------	------	--------	------	-------

位置



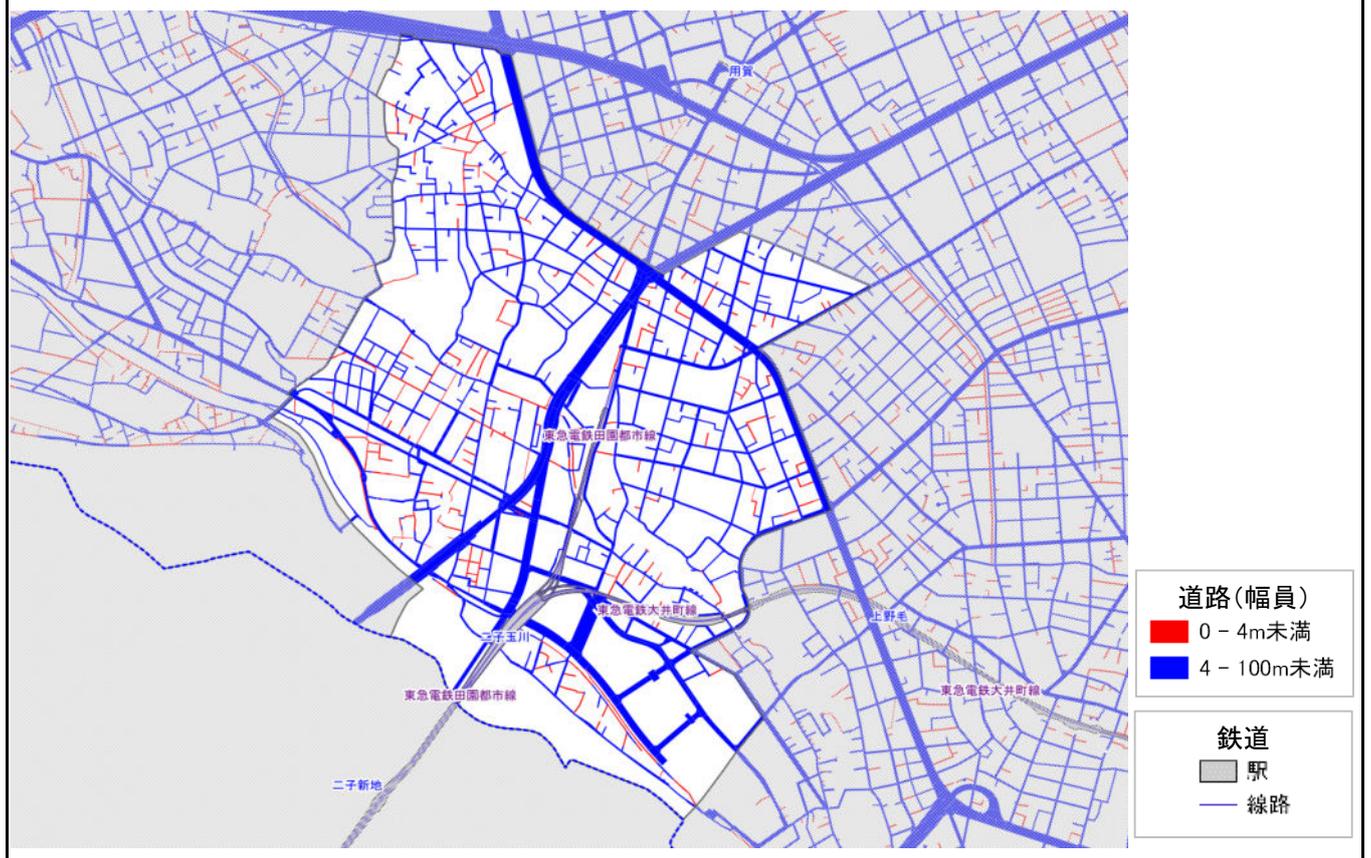
標高・急傾斜地崩壊危険度・土砂災害警戒区域等



(2)社会特性

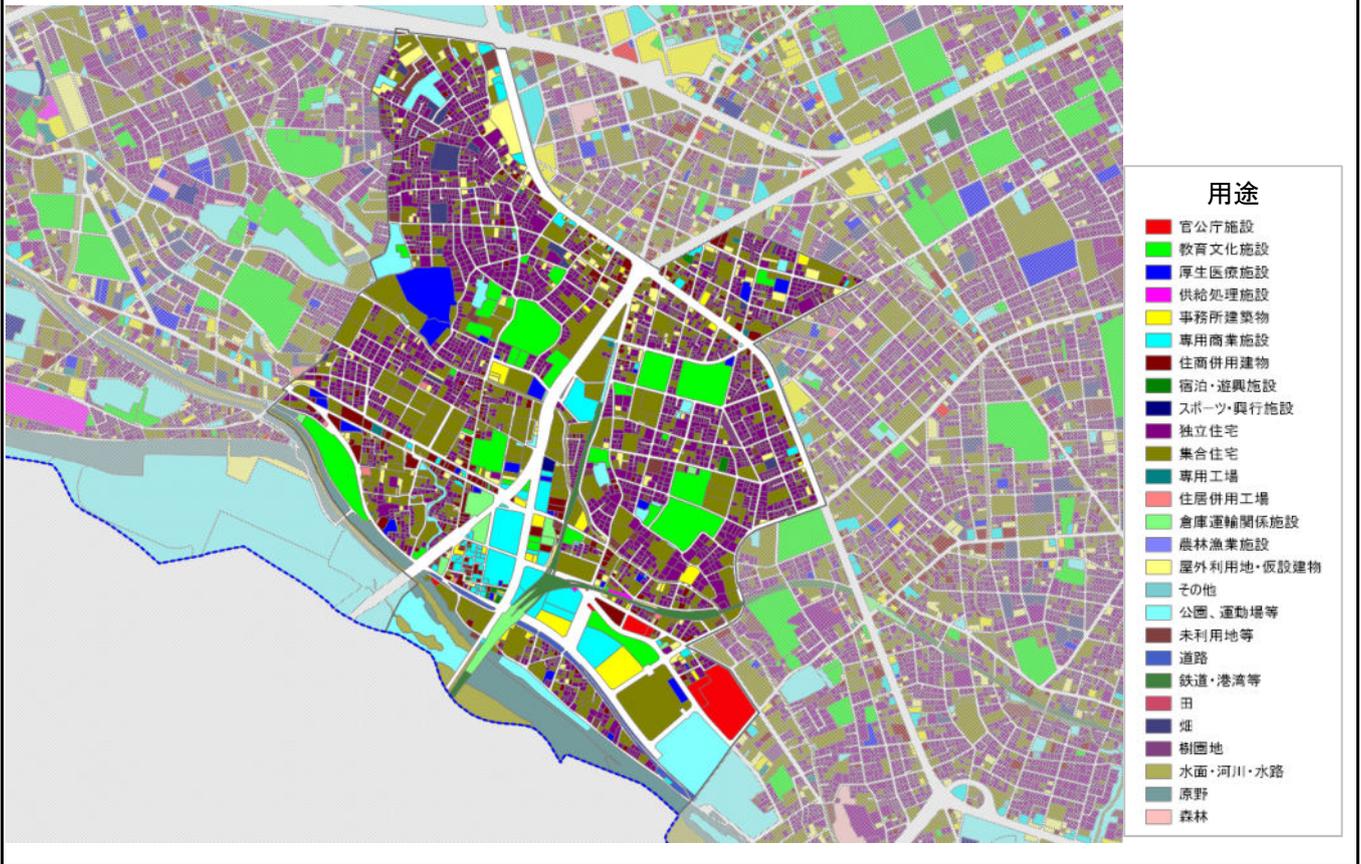
人口	27,809 人	細街路率	18.3 %	
世帯数	13,894 世帯	昭和56年以前木造建物棟数密度	56.6 棟/Km ²	
1世帯あたり	2.00 人	耐火率(建築面積ベース)	74.9 %	
若年層数(15才未満)	3,795 人	土地利用(宅地)	62.7 %	
若年層率(15才未満)	13.6 %	土地利用(宅地以外)	37.3 %	
高齢者数(65才以上)	5,537 人	鉄道駅	東急田園都市線二子玉川駅 東急大井町線二子玉川駅	
高齢者率(65才以上)	19.9 %			
昼間の人口	47,042 人	産業	商業	78.1 %
夜間の人口	28,321 人		工業	12.6 %
昼夜間人口比	1.66 -		農業	9.3 %
町会・自治会数	2 -			

道路・公共交通機関



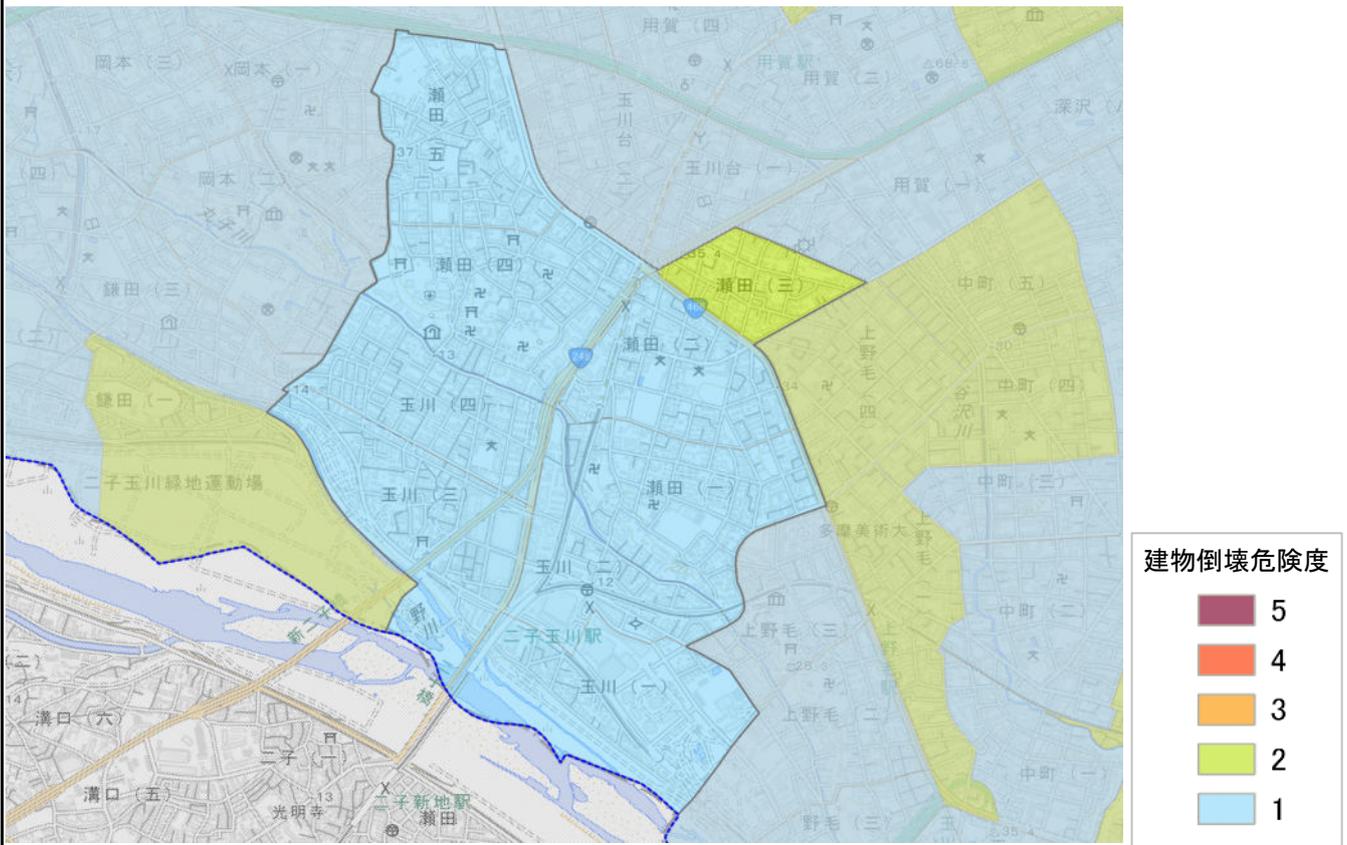
(2)社会特性

産業

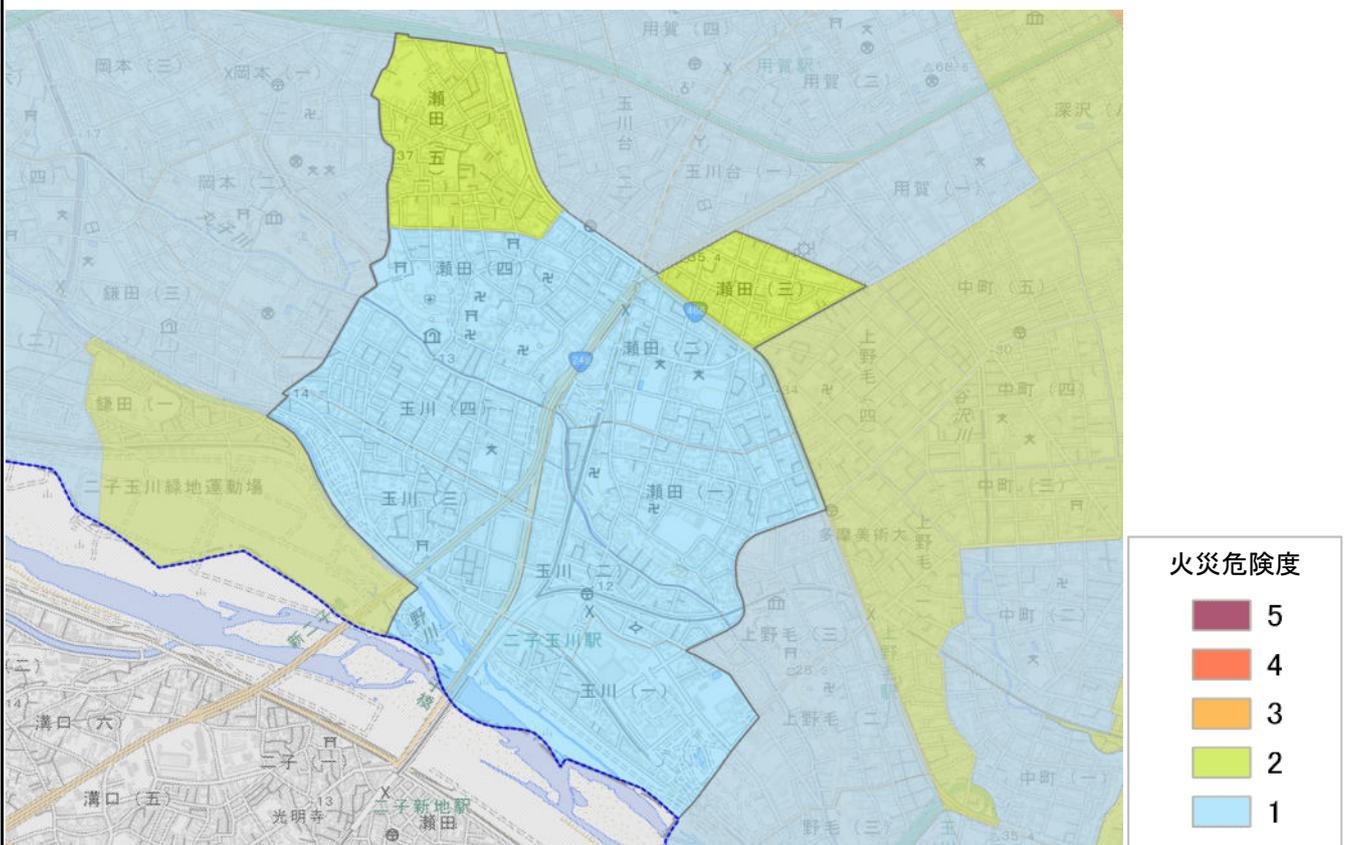


(3)地域危険度

建物倒壊危険度



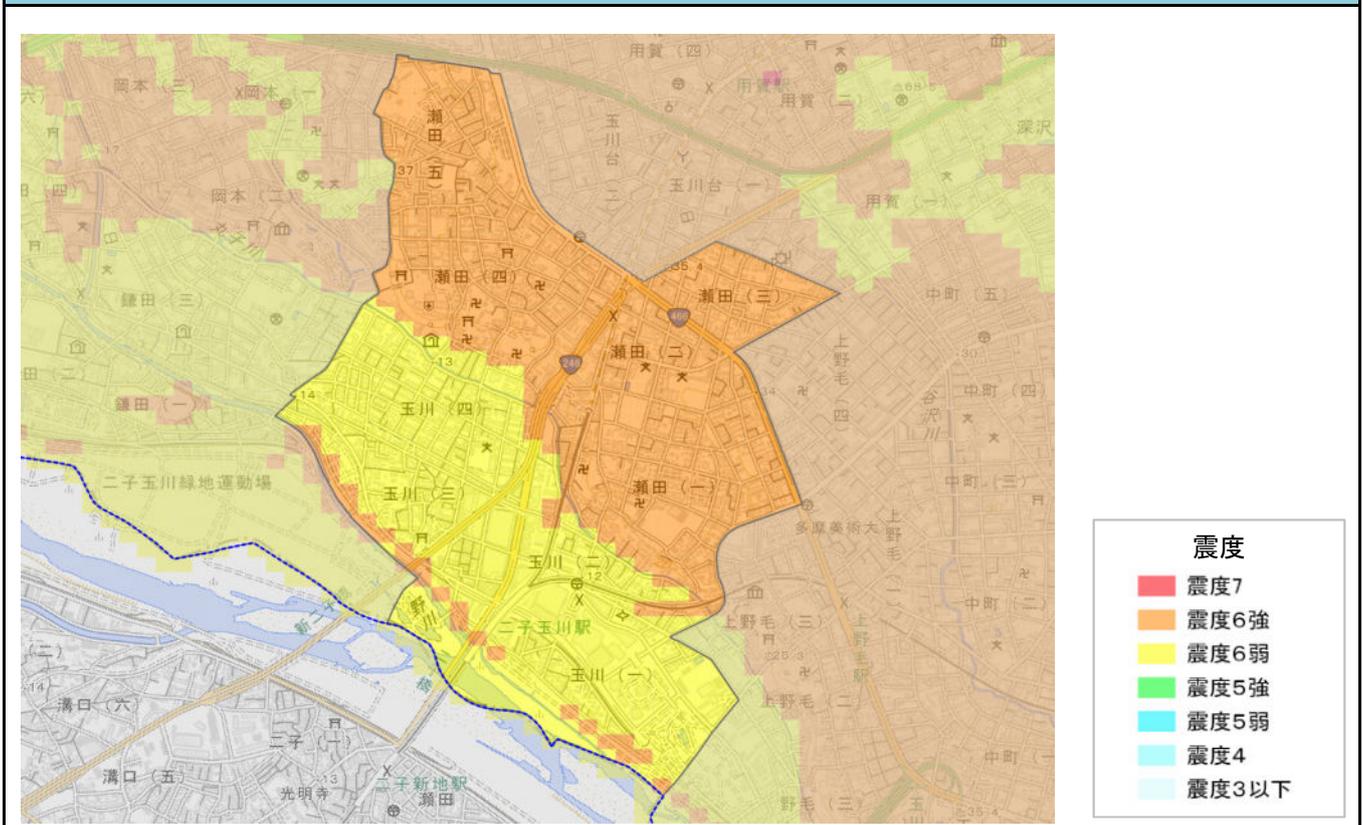
火災危険度



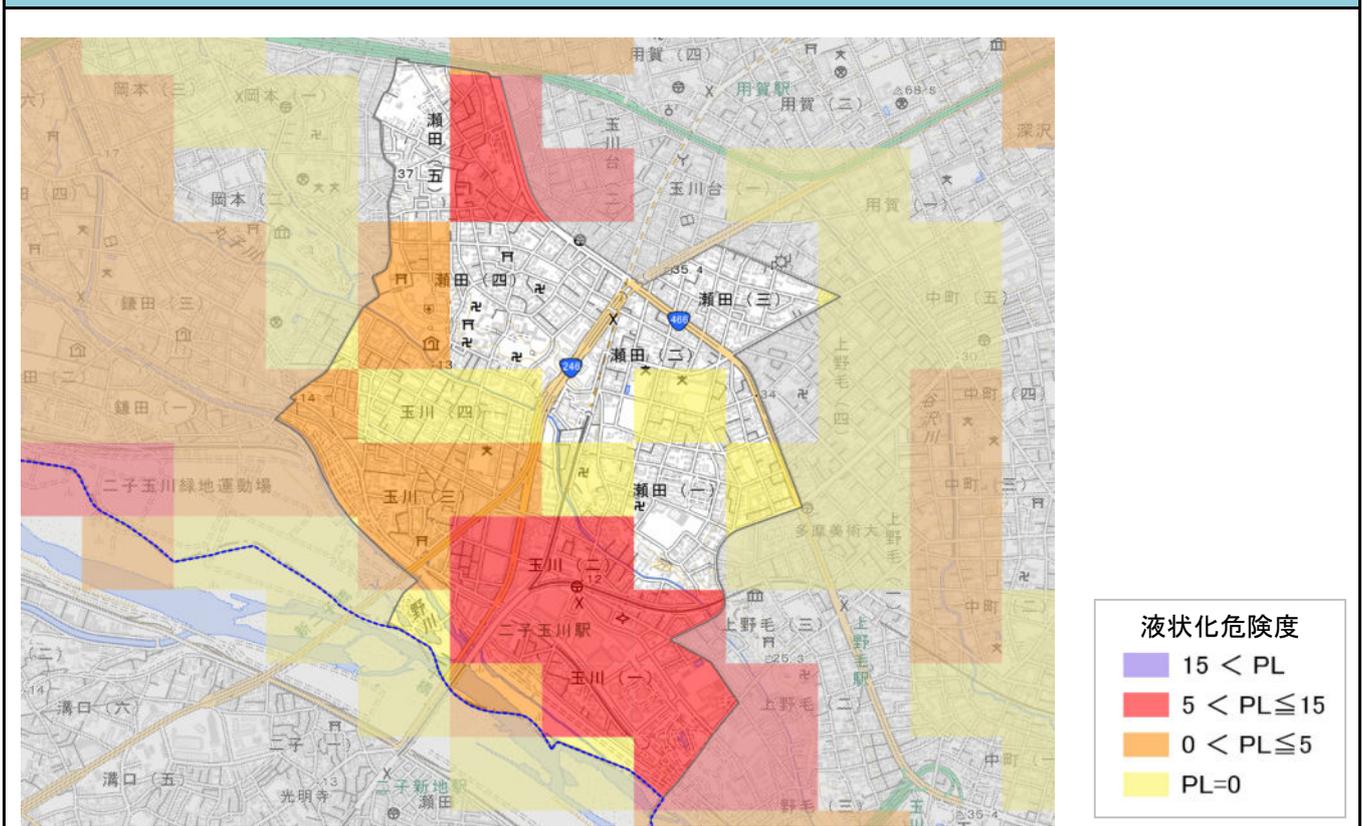
(4)被害想定

全壊棟数	250 棟	死者	15 人
半壊棟数	540 棟	負傷者	168 人
全焼棟数(倒壊建物含まず)	217 棟	うち重傷者	29 人

震度分布

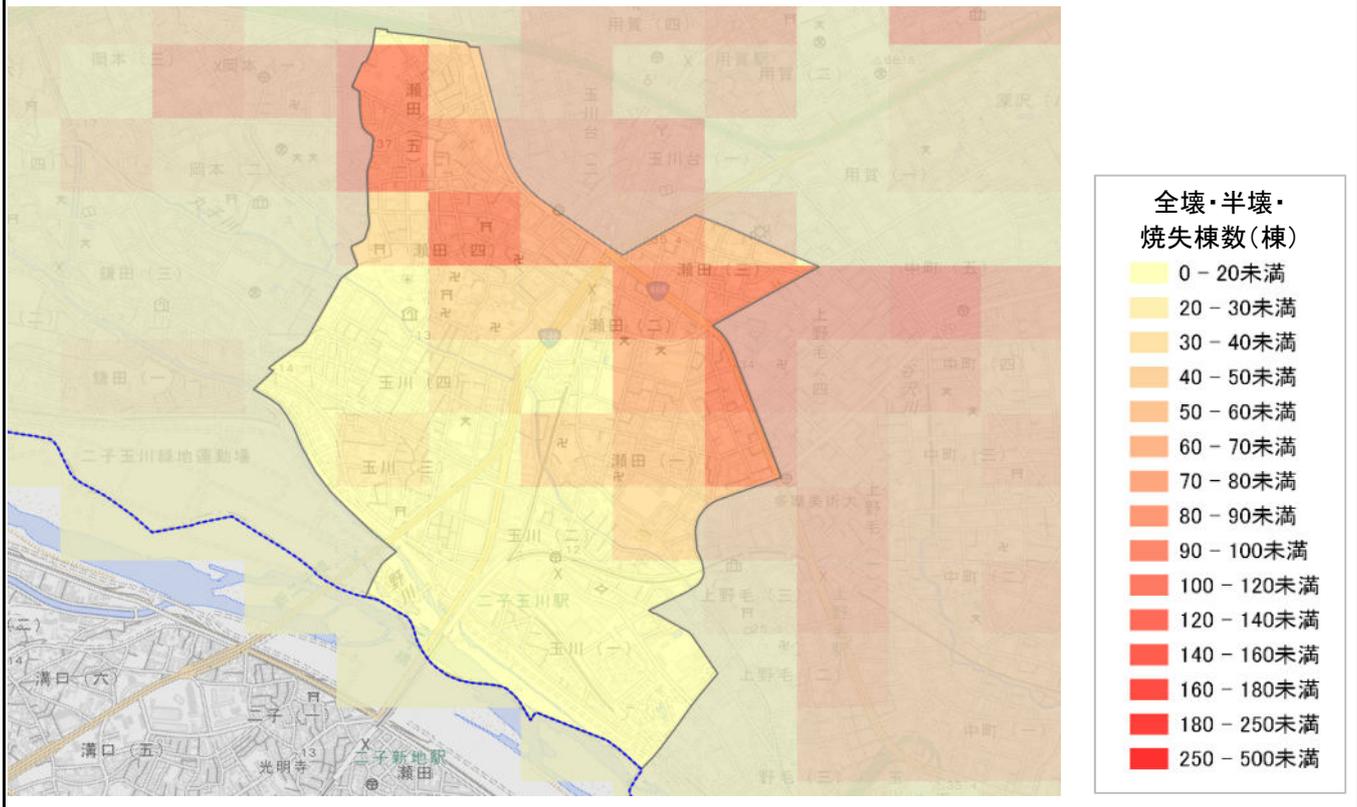


液状化分布



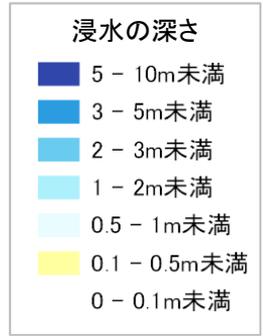
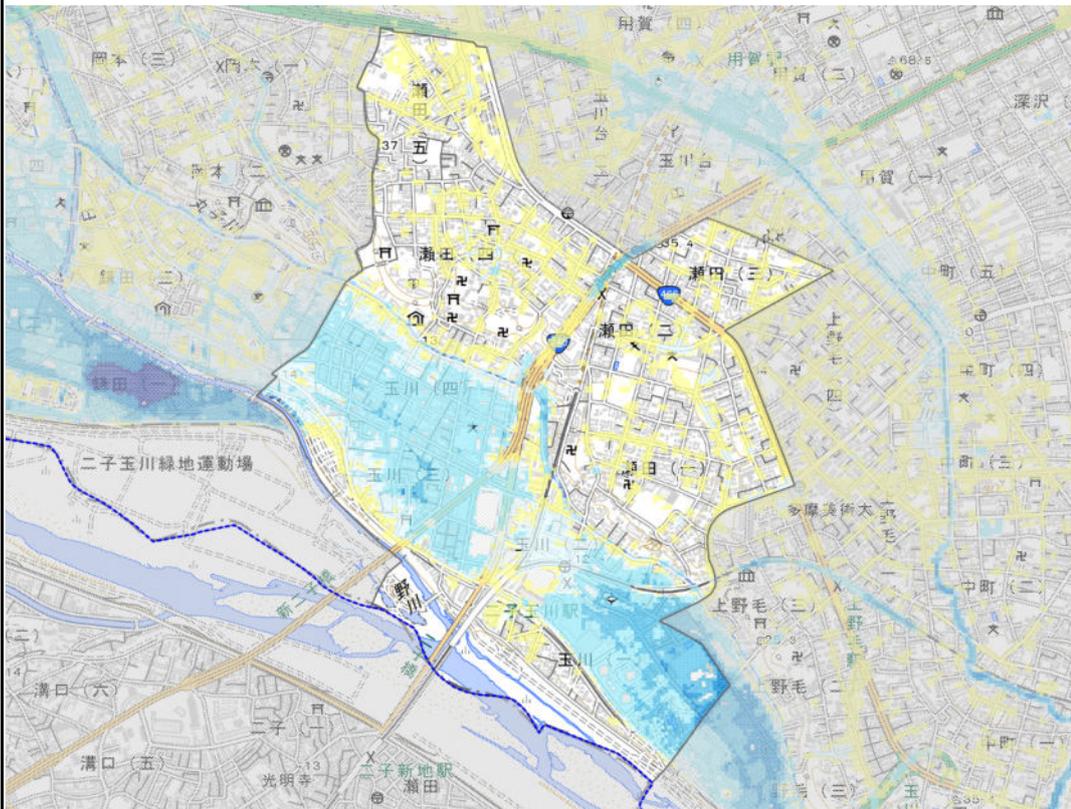
(4)被害想定

被害棟数分布

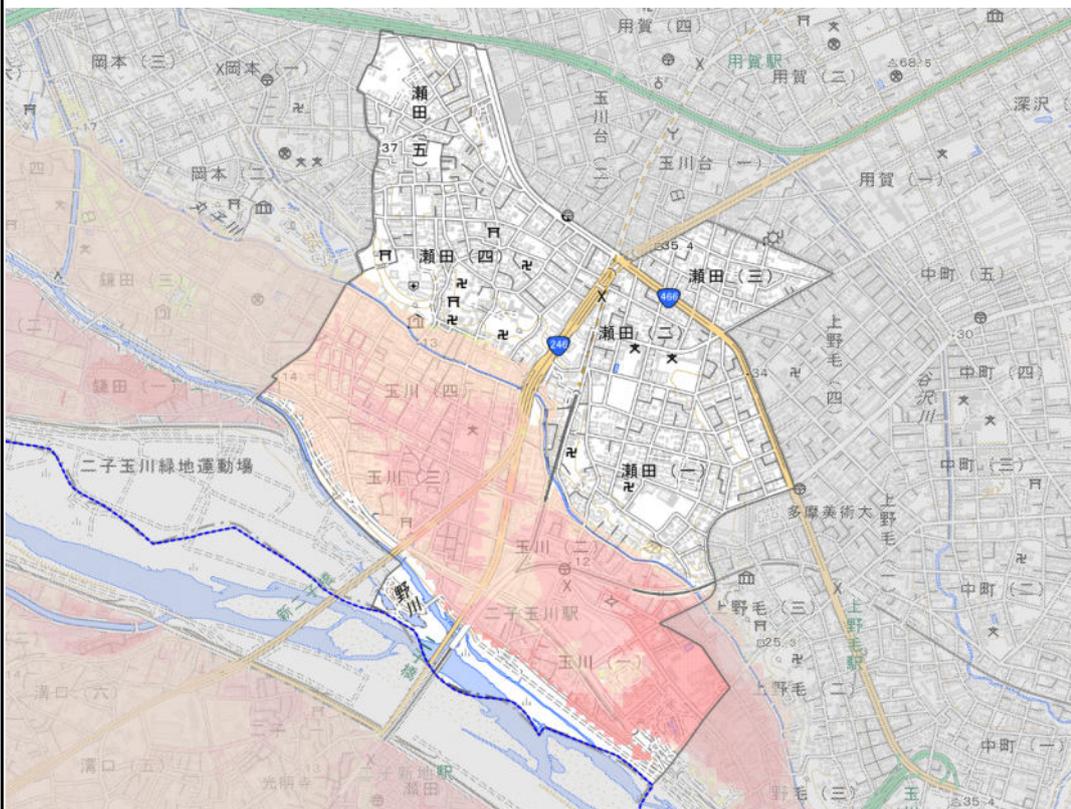


(4)被害想定

浸水想定(内水氾濫・中小河川洪水版)



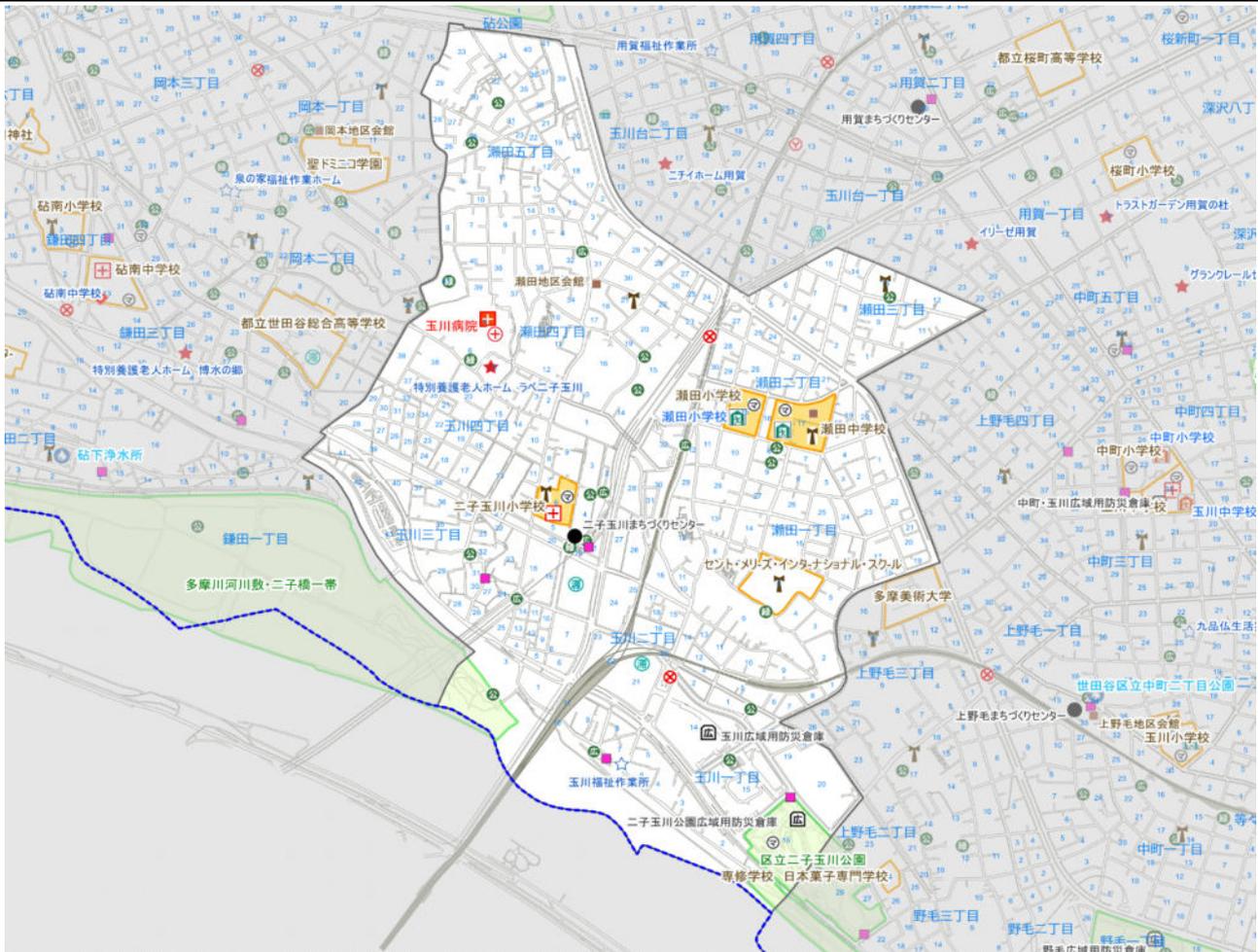
浸水想定(多摩川洪水版)



(5)防災資源一覧

広域避難場所	区立二子玉川公園 多摩川河川敷・二子橋一带			
一時集合所	諏訪神社 瀬田フラワーランド 瀬田玉川神社 瀬田三丁目公園 瀬田小学校 瀬田中学校 聖アントニオ神学校 天理教玉瀬分教会 二子玉川公園 二子玉川小学校 二子玉川東公園 畑(大塚氏所有) 畑(長崎氏所有)			
指定避難所	瀬田小学校 瀬田中学校 二子玉川小学校			
予備避難所	セント・メリーズ・インターナショナル・スクール			
福祉避難所(母子)				
福祉避難所(高齢者)	特別養護老人ホームラペ二子玉川			
福祉避難所(障害者)	玉川福祉作業所			
水害時避難所(第1次)		野川・仙川洪水時避難所		
水害時避難所(第2次)	瀬田小学校 瀬田中学校			
土砂災害時避難所	(予備)瀬田中学校 瀬田地区会館			
避難所救護所	二子玉川小学校			
東京都災害拠点病院	玉川病院			
東京都災害拠点連携病院				
緊急医療救護所	玉川病院			
一時滞在施設	東神開発(株)(玉川高島屋S・C) 二子玉川ライズ			
一時避難施設(車中避難)		帰宅困難者支援施設		0 ヶ所
ボランティアマッチングセンター				
マンホールトイレ	4 ヶ所	防災行政無線塔	5 ヶ所	緑地 4 ヶ所
輸送拠点				
給水拠点				
広域用防災倉庫	玉川広域用防災倉庫 二子玉川公園広域用防災倉庫			
土のうステーション	はなみずき広場 玉川1丁目河川広場 二子玉川公園 二子玉川地区会館別館			
警察署・交番	瀬田交番 二子玉川交番			
消防署・出張所				

(6)防災資源マップ



- | | |
|--------------------|-------------------|
| ◎ 総合支所 | ■ 広域避難場所 |
| ● まちづくりセンター | ■ 指定避難所 |
| ⊕ せたがや災害ボランティアセンター | ■ 予備避難所 |
| Ⓔ 広域用防災倉庫 | ■ 福祉避難所(母子) |
| Ⓕ 給水拠点 | ★ 福祉避難所(高齢者) |
| Ⓖ 防災行政無線塔 | ☆ 福祉避難所(障害者) |
| Ⓗ マンホールトイレ | Ⓐ 水害時避難所(第1次) |
| ■ 土のうステーション | Ⓑ 水害時避難所(第2次) |
| Ⓜ 警察署 | ◆ 野川・仙川洪水時避難所 |
| Ⓝ 交番 | ■ 水害時避難所(狛江市) |
| Ⓕ 消防署 | ■ 水害時避難所(調布市) |
| Ⓕ 消防出張所 | ■ 土砂災害時避難所 |
| Ⓔ 身近な広場 | Ⓜ 避難所救護所 |
| Ⓔ 公園 | Ⓜ 東京都災害拠点病院 |
| Ⓔ 緑地 | Ⓜ 東京都災害拠点連携病院 |
| | Ⓜ 緊急医療救護所 |
| | Ⓜ 一時滞在施設 |
| | Ⓜ 帰宅困難者支援施設 |
| | Ⓜ ボランティアマッチングセンター |
| | Ⓜ 輸送拠点等 |
| | Ⓜ 一時避難施設(車中避難) |

出典

世田谷区土砂災害ハザードマップ 令和6年7月発行

世田谷区の町丁目別人口と世帯数 令和6年3月1日

世田谷区の年齢別人口 令和6年3月1日

世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ(多摩川洪水版、内水氾濫・中小河川洪水版)令和6年7月発行

世田谷の土地利用2021 世田谷区土地利用現況調査

世田谷区GISオープンデータ

令和2年国勢調査による 東京都の昼間人口(従業地・通学地による人口)第11表

地域危険度一覧表(地震に関する地域危険度測定調査[第9回]) 令和4年9月

首都直下地震等による東京の被害想定 報告書 令和4年5月25日

世田谷区防災マップデータ 令和6年3月

(7)区民アンケート(二子玉川地区)

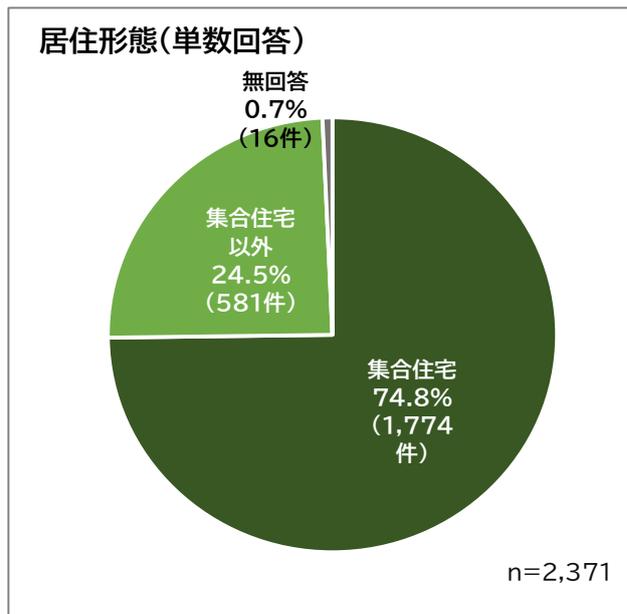
このアンケートは、今後の区内各地域及び地区における災害関連施策の検討や取組みに活用することを目的として、令和6年度に災害対策課が実施した「在宅避難支援事業(防災カタログギフト)」に合わせて行ったものである。

なお、以下に記載している回答集計結果は、カタログギフト申込者のうち、WEBで申し込みをした区民へ任意での回答を依頼し、令和6年8月9日から9月8日までに回収できた分である。

単純集計(1/5)

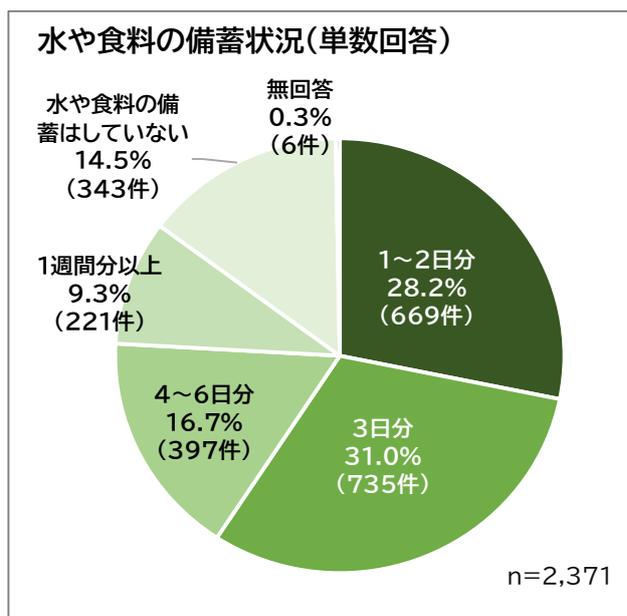
居住形態

【1】あなたはマンションなどの集合住宅にお住まいですか。



水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。

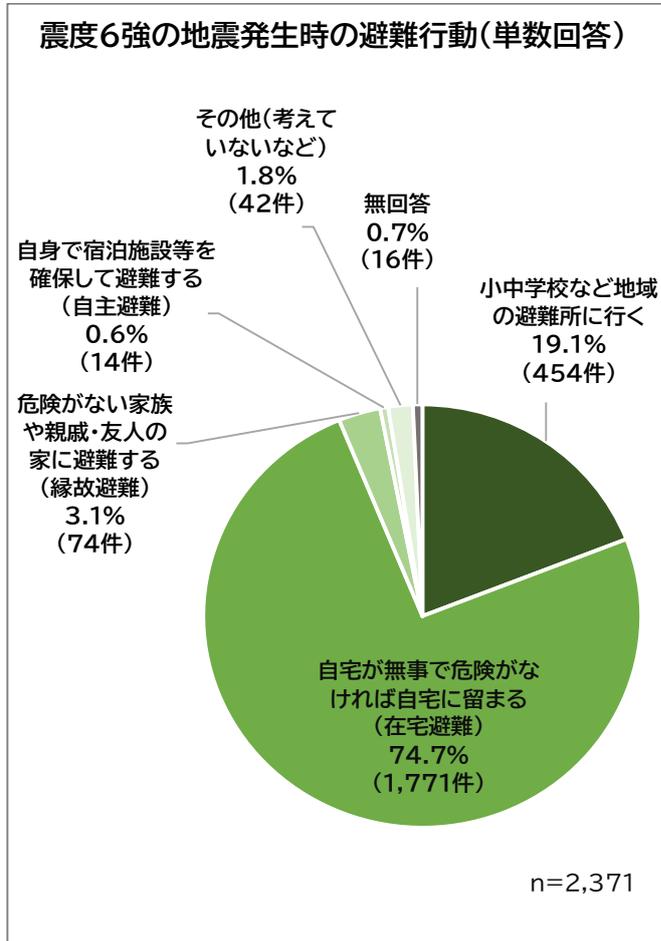


(7)区民アンケート(二子玉川地区)

単純集計(2/5)

震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



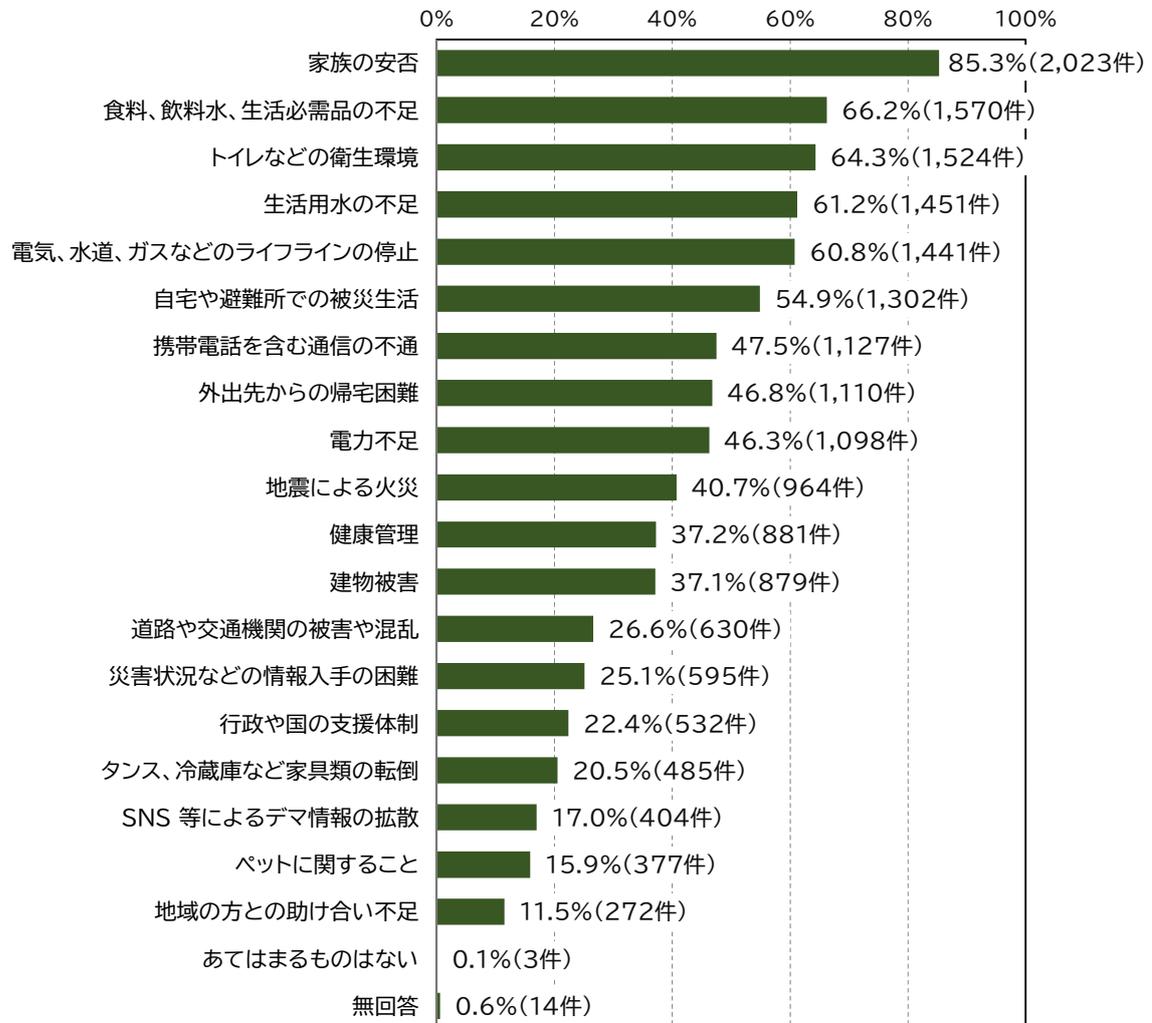
(7)区民アンケート(二子玉川地区)

単純集計(3/5)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

災害時の心配ごと(複数回答)



n=2,371

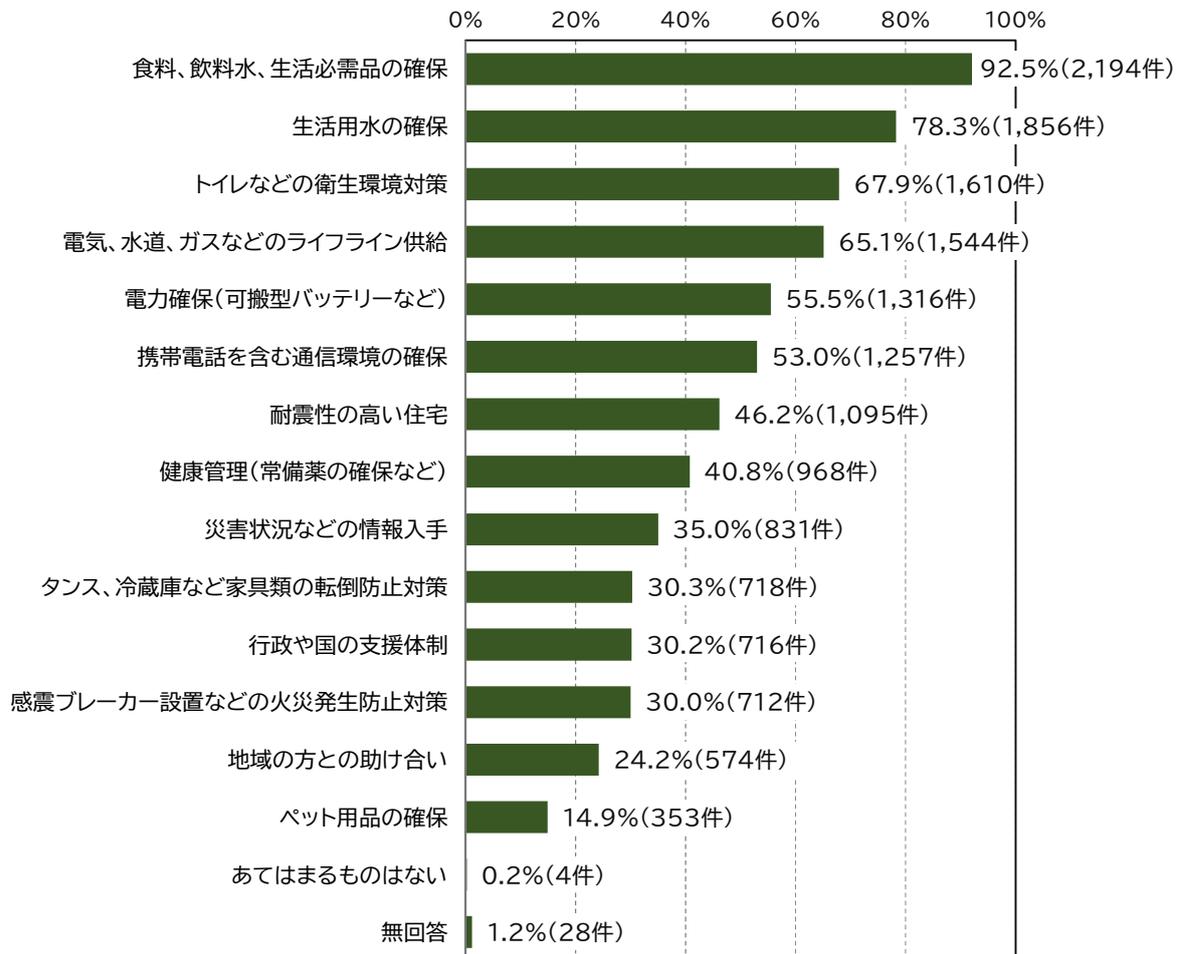
(7)区民アンケート(二子玉川地区)

単純集計(4/5)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

在宅避難をするために必要だと思うこと(複数回答)



n=2,371

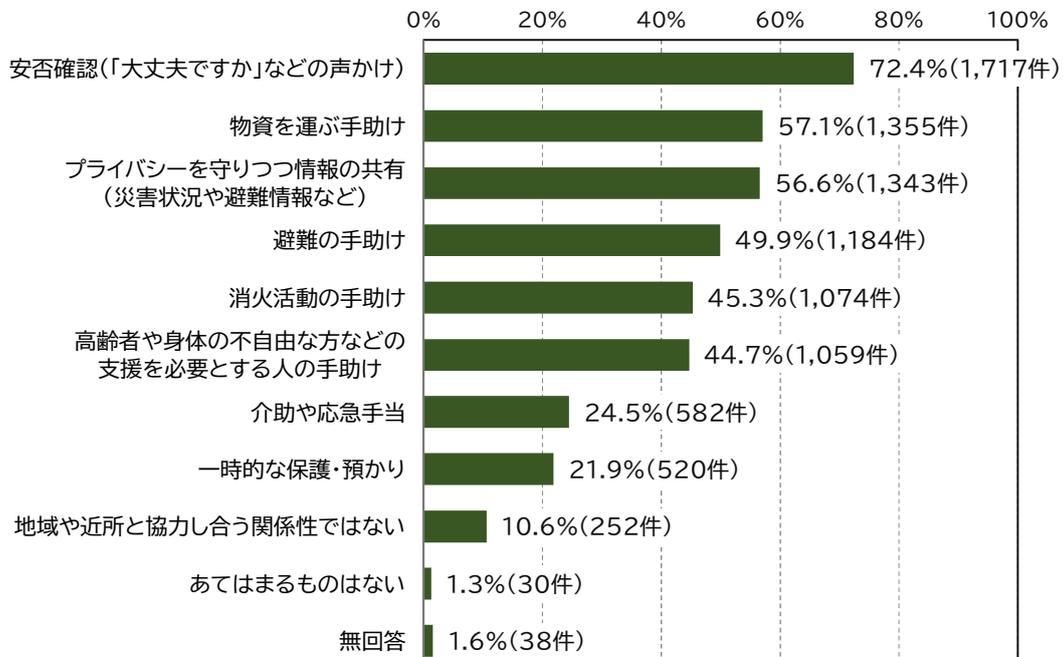
(7)区民アンケート(二子玉川地区)

単純集計(5/5)

災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。

災害時にできる住民同士の支援(複数回答)

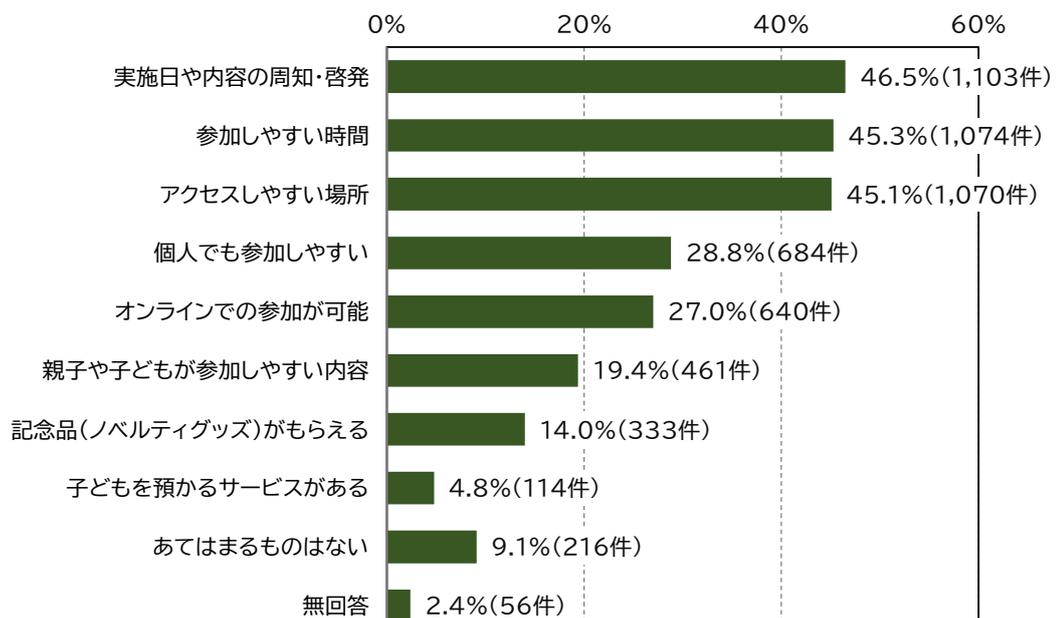


n=2,371

防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加したいと思いますか。

防災訓練や防災教室への参加意向(複数回答)



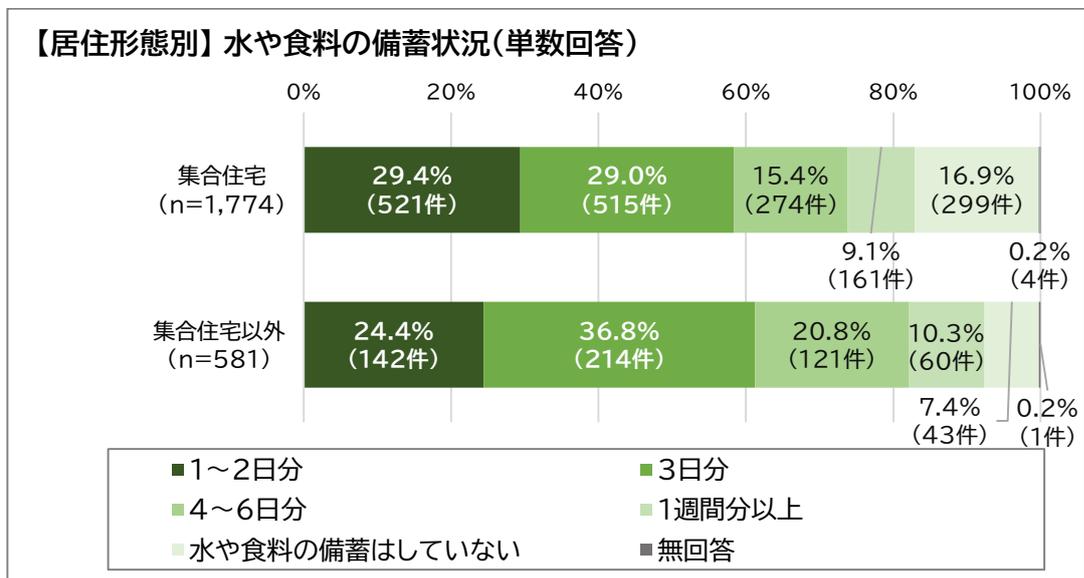
n=2,371

(7)区民アンケート(二子玉川地区)

クロス集計(1/4)

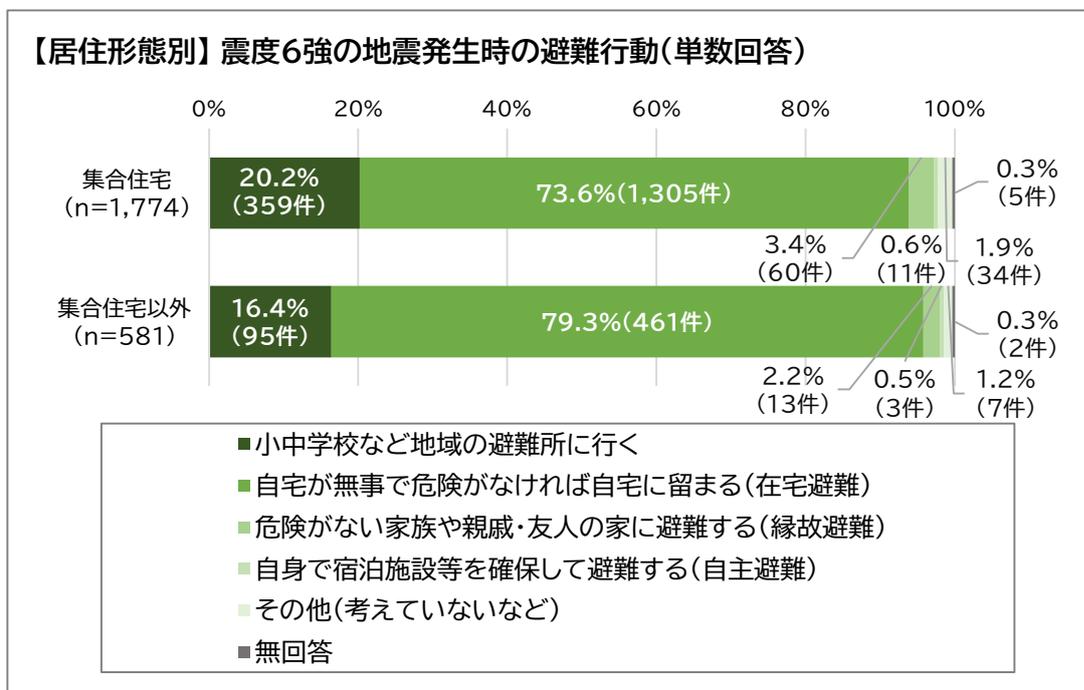
水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。



震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



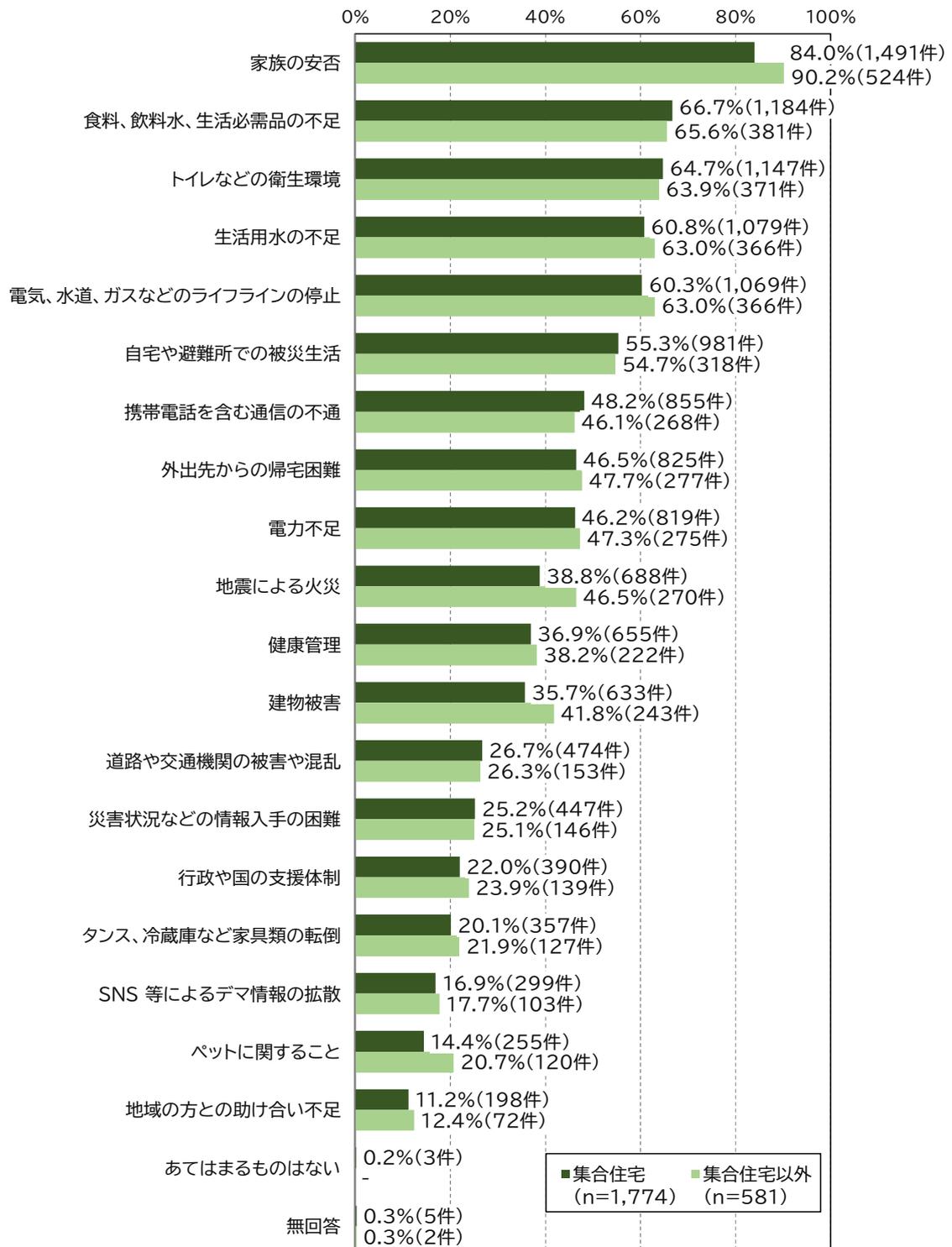
(7)区民アンケート(二子玉川地区)

クロス集計(2/4)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

【居住形態別】災害時の心配ごと(複数回答)



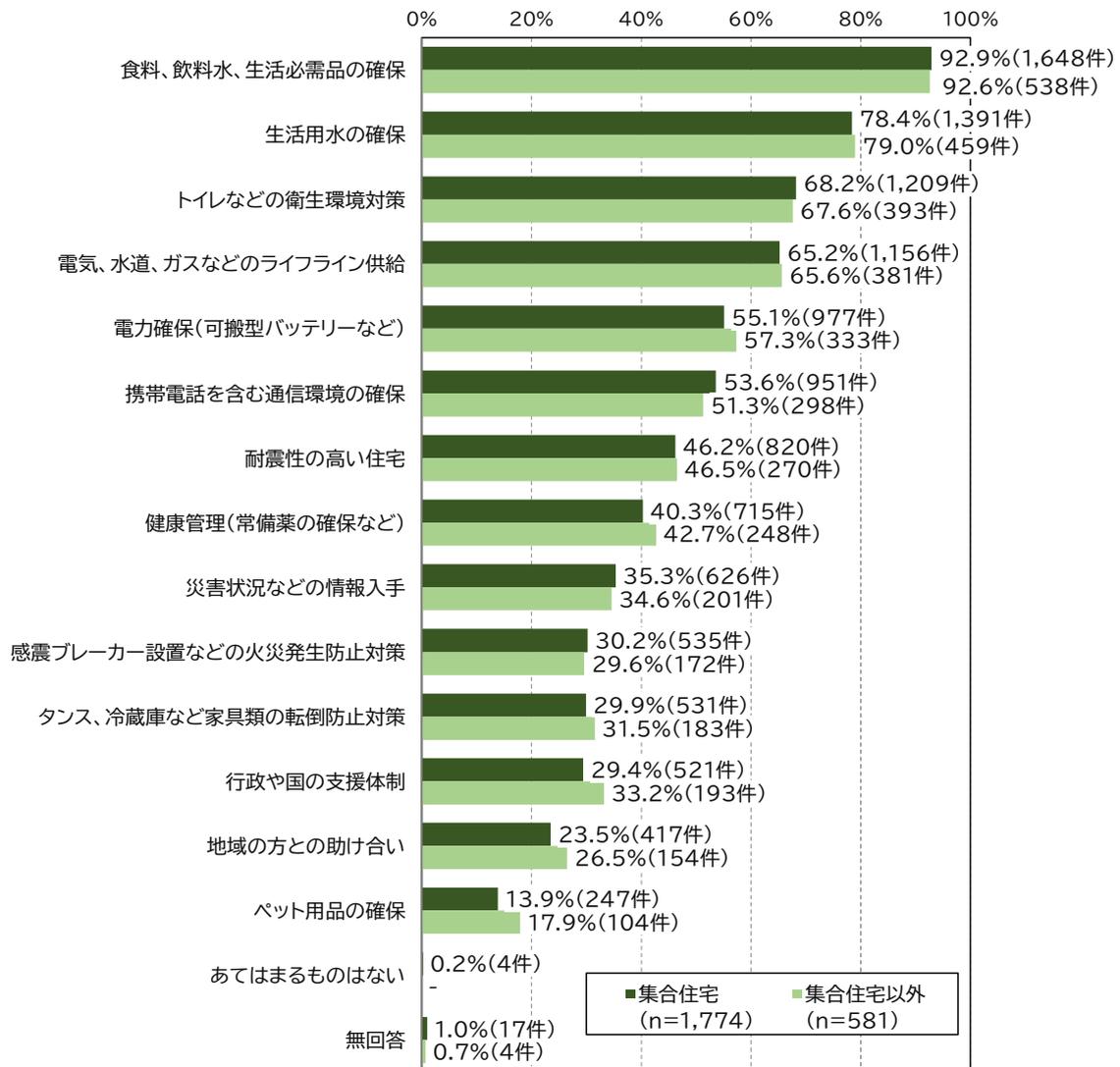
(7)区民アンケート(二子玉川地区)

クロス集計(3/4)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

【居住形態別】在宅避難をするために必要だと思うこと(複数回答)

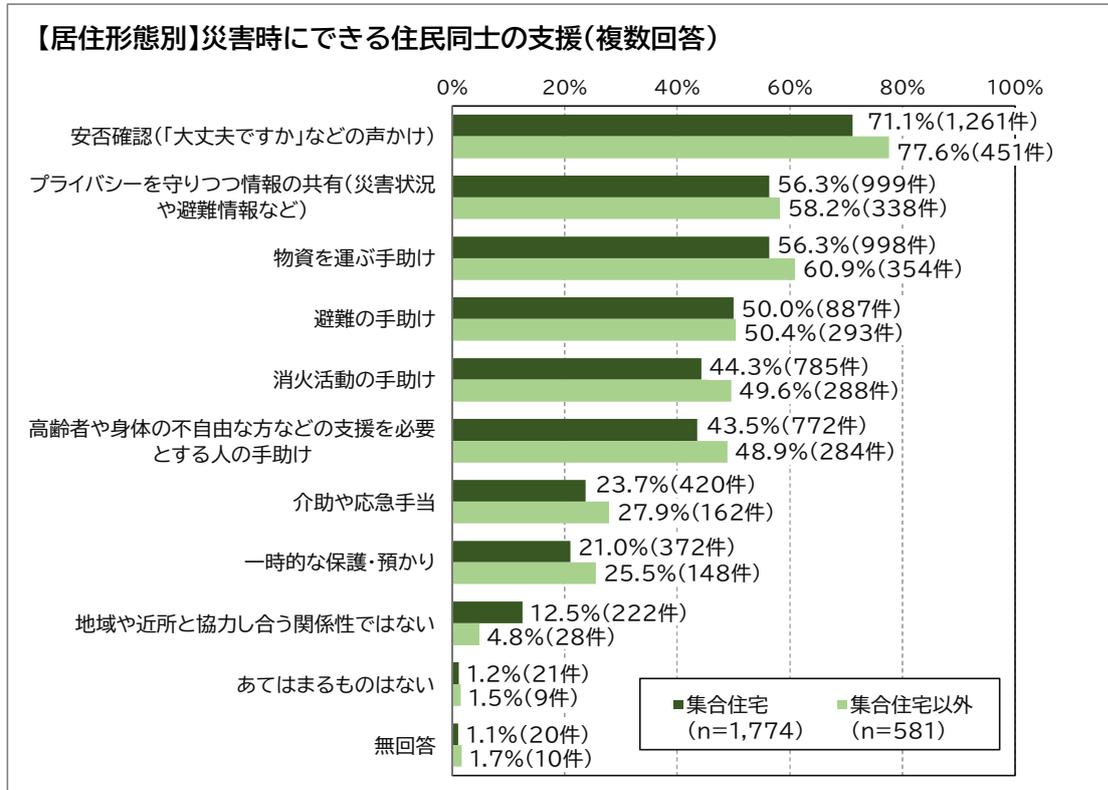


(7)区民アンケート(二子玉川地区)

クロス集計(4/4)

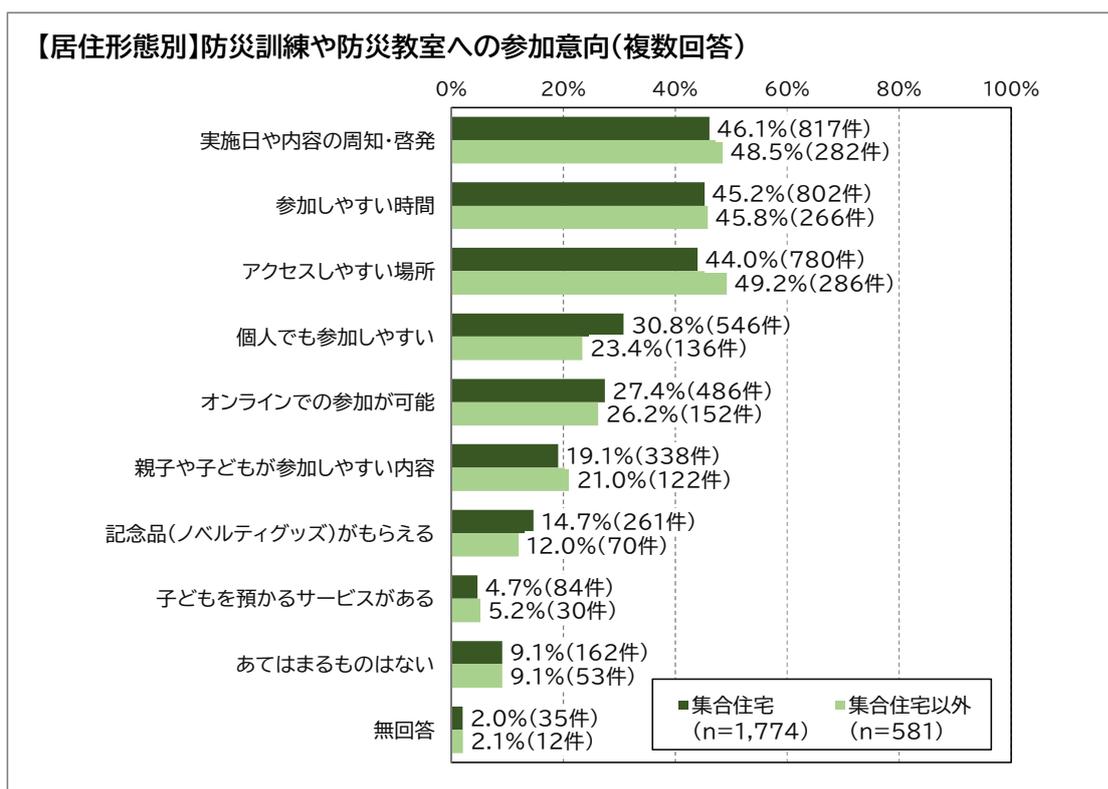
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加したいと思いますか。



2 各団体の防災活動～現在の取組状況～

団体名	防災担当者数	防災に関する会議		防災活動、資機材配備等の実施		消火資機材の配備		消火資機材の配備					
		実施している	実施していない	会議名	実施回数 (年間)	実施している	実施していない	配備している	配備していない	スタンドパイプ		D型ポンプ	
										数量	場所	数量	場所
玉川町会		○		町会防災部会	5	○		○		4	教育相談室裏はなみずき広場 西地区ふれあい広場	2	教育相談室裏 西地区ふれあい広場
瀬田町会		○		地区防災担当者会議	2	○		○		1	防災倉庫	1	防災倉庫
シティコート二子玉川防災本部	9	○		特に名称なし	1	○		○					

団体名	消火資機材の配備				防災訓練等の実施			
	消火器		その他		実施している	実施していない	防災訓練	
	数量	場所	名称	場所			回数	実施場所
玉川町会	1	町会会館	C型ポンプ1台	はなみずき広場	○		2	二子玉川小学校 二子玉川公園
瀬田町会					○		1	瀬田小(中)学校
シティコート二子玉川防災本部	200超	各戸玄関に1台			○		1	団地内で消火訓練 (不定期・実施しない年度もあり)

団体名	防災訓練等の実施				防災マップ											
	救命救急講習会		その他		作成済	作成中	作成検討中	作成予定なし	掲載情報							その他
	回数	実施場所	訓練名称	実施場所					一時集会所	広域避難場所	避難所	街路消火器	防火水槽	震災用井戸	消火栓	
玉川町会					○				○	○	○	○		○		トイレ、公衆電話、ご近所広場
瀬田町会								○								
シティコート二子玉川防災本部								○								

団体名	防災士等の数				災害時連携・協定 (区を除く)				避難行動要 支援者協定			避難行動要支援者対策				
	防災士	把握していない	地域防災リーダー	把握していない	他団体との連携	協定締結	特になし	連携先・内容	協定先・内容	締結している	検討中である	予定はない	日頃からの見守り活動	避難行動要支援者体験	その他	特に実施していない
玉川町会	5		3				○			○			○			
瀬田町会	5		0				○					○				○
シティコート二子玉川防災本部		○	1				○					○	○	団地内で高齢者見守りの会が活動中		

団体名	連絡手段の確保		防災活動に関するマニュアル (避難所運営マニュアルを除く)				救出救助に係る資機材の配備											
	簡易無線	連絡網の 作成・整備	その他	策定済み	策定中	検討中	予定なし	名称	配備していない	配備している	リアカー	はしご	脚立	担架	救急セット	ヘルメット	救助工具セット	ボール
玉川町会		○				○			○	1	1	1	1	1	1	50	1	4
瀬田町会		○				○			○	1				2	10	1		
シティコート二子玉川防災本部	○					○			○	1	1	1	1	2	5	1	1	

団体名	救出救助に係る資機材の配備						食糧等の備蓄				
	スコップ	手おの	のこぎり	ジャッキ	両口ハンマー	ツルハン	その他	保管場所	備蓄していない	備蓄している	アルファ米
玉川町会	4	4	4	4	4	4		教育相談室裏 はなみずき広場	○		
瀬田町会							瀬田町会	町会事務所、防災倉庫		○	
シティコート二子玉川防災本部	7	1	5	1	1			防災倉庫(団地内) 防災用具コンテナ(駐輪場)		○	

団体名	食糧等の備蓄												
	ビスケット・乾パン	おかゆ	飲料水	缶詰類	レトルト食品類	カセットコンロ	災害用食料 その他	非常用トイレ	照明	発電機	蓄電池セット	給水タンク	その他
玉川町会						2				1	2		まかないくん30型 基本セット 1 貯水槽 1
瀬田町会			250					300					
シティコート二子玉川防災本部	200		20×250本程度			5		7 (マンホールトイレ2、簡易型5)	1	1		3	灯油バーナー 1 大ナベ 2 テント 3

団体名	食糧等の備蓄		その他の防災活動
	保管場所	備蓄品配布先	
玉川町会	町会会館 ふれあい広場		
瀬田町会	町会事務所		
シティコート二子玉川防災本部	団地内防災倉庫	特に決めていない	防災講演会

3 二子玉川地区における課題と今後の取り組み

(1) 二子玉川地区における課題

分類	課題
(1)地区のコミュニティ形成	<ul style="list-style-type: none"> ○地域に対する意識が低い ○地域の人との日常的な交流がほとんどない ○地域のことを知る機会がない ○避難所運営訓練や防災訓練の参加者が少ない ○町会の加入率が低く、高齢化が進んでいる
(2)災害に対する各家庭での備え	<ul style="list-style-type: none"> ○防災意識が低い ○在宅避難の備えや準備が不足している(備蓄物品等) ○住宅の安全対策が不足している(耐震化等) ○行政や町会等が行っている防災知識の普及・啓発活動が、住民に届いていない
(3)自助・共助・公助の役割分担と連携	<ul style="list-style-type: none"> ○自助の意識が足りない ○自助・共助・公助の役割分担に基づいた実践的な避難所運営訓練や防災訓練が不十分である ○災害時における、地域活動団体や企業との連携・協力体制やその周知が不十分である
(4)初期消火	<ul style="list-style-type: none"> ○避難所運営訓練や防災訓練の参加者が少ない ○住宅の防火安全対策が不足している ○地区の火災発生危険箇所の把握と情報共有が不十分である ○火災を出さないための取り組みの啓発が不十分である
(5)避難所で生活しないで済むための対策	<ul style="list-style-type: none"> ○多く人が避難する避難所が密集することにより、感染症(新型コロナウイルス、インフルエンザ、ノロウイルス、食中毒など)が拡大する恐れがある ○避難所の備蓄品の量も種類も十分ではない(民間企業との協同、備蓄リストの更新が必要) ○共同生活による様々なストレスにより、避難者が体調不良におちいる可能性が高い ○在宅避難をしている間の情報収集の方法を知らない人が多い
(6)避難所運営の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○避難所の場所、避難のタイミング、情報の入手方法、避難所の役割や運営方法を理解していない避難者が多い

	<ul style="list-style-type: none"> ○避難所運営にかかわる人材が不足している ○避難所運営訓練がマンネリ化し、内容の充実が必要である ○要配慮者支援が行き届いていない(外国人が多い) ○ペット同行避難者への対策が必要である ○発災時には情報が錯綜し、正確な情報を収集することが困難である
<p>(7)風水害への避難対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○風水害の際にどのような備えをすればいいのかわからない住民が多い ○土のうが不足している。使用方法を知らない住民が多い ○水害時避難所について知らない避難者が多い ○住宅の安全対策が不足している(水害対策等) ○地震と水害で運営体制が異なるということが難しい ○避難行動要支援者は避難が困難であるため、支援が必要である ○自動車避難する方の路上駐車対策が必要である

(2)今後の取組み

課題解決に取り組み、地区防災力の向上を図っていく。

課題 ①地区のコミュニティ形成

過去の震災では、倒壊した建物から救出された人の約8割が、家族や近所の住民等によって救出されている。コミュニティ形成に課題がある中、災害発生から72時間は、自助(自分の力)と共助(近隣の助け合い)で乗り切らざるを得ない。

日頃から挨拶する関係が、災害発生時に近隣同士の共助をスムーズにすることについて、今一度住民一人一人が考えるような働きかけが必要である。

コミュニティ形成は住民全体の課題であるので、チラシ配布、掲示板、SNS、学校やPTA等のネットワーク等、様々な媒体を活用し広く周知する。

■地区・地域団体における今後の取組みの方向性

- ・緊急時(特に大規模災害時)に命を守るには、近隣同士の共助が大切であることを周知する

- ・顔の見える関係づくりにつながる具体的な機会を紹介する

【例】共助の大切さと地域行事カレンダーをあわせて記載したパンフレット作成等

- ・マンション等の集合住宅の住民に対しては、自分の住んでいる集合住宅に共助につながるネットワークや防災訓練、防災備蓄等があるか確認を呼びかける

- ・コミュニティに属していない住民に対し、町会への加入や地域のイベントや防災訓練へ

の参加を選択肢として伝えていく(地域の団体へ呼びかけ。主催者を明確にして、安心感を持ってもらう。参加しやすい開催日・場所に配慮する。訓練に参加してもらうために、楽しく体験させることで防災について知ってもらう。SNSを活用するなど、周知方法を考える。子どもから防災知識を高めていき、家族で共有する)

- ・町会が災害時の避難所運営などに中心的に関わっている重要な組織であることを周知する
- ・行政と地区が連携しながら、町会加入のメリットを伝えつつ、地区のイベントを活用し町会加入率を上げていく
- ・地域の人と交流を求めない人への啓発活動が重要である

課題 ②災害に対する各家庭での備え

各家庭での備えとして「①安全のための備え」、「②安全な場合にとどまるための備え」、「③逃げるときの備え」がある。備え＝備蓄だけではないので、ケースごとに必要なものや行動を改めて周知する必要がある。

■地区・地域団体における今後の取り組みの方向性

「①安全のための備え」:建物の倒壊や家具の転倒、ガラス飛散等、家にいることが危険な状態にならないための備え、危険な状態になってしまった際の救出・脱出のための備え

- ・倒壊家屋から助け出すために必要な資機材を各家庭で考え、それらを準備して、日ごろから操作訓練、定期的な点検を行う

【例】資機材(車のジャッキ、バール、のこぎり等の工具、物干し竿など)

- ・「クラッシュ症候群」の危険性について知る
- ・基本的には一人で救出作業をせず、周囲に助けを求めることを考える
- ・各家庭で必要な安全対策に取り組む

【例】家具の固定、避難経路の確保、耐震化、感震ブレーカー、ブロック塀対策

- ・「世田谷区耐震化支援制度」、「世田谷区防災用品のあっせん」等を活用する

「②安全な場合にとどまるための備え」:家屋が倒壊や火災、浸水等の危険がなければ「在宅避難」が推奨されている(避難所は物資不足、衛生面やプライバシー面の問題あり)

- ・家庭及び店舗・事業所等には 7 日間以上の備蓄を推奨する。また、備蓄の保管場所やコストの問題もあるため、日常で使うものを少し多めに買うローリングストックやトイレの代替になる日用品の紹介等も同時に行う

- ・家族構成等による備蓄の必要物品の違いを具体的に考える

「③逃げるときの備え」:危険を感じた場合はためらわずに避難することが大切であり、いざというときの避難場所・避難ルートを事前に確認し、持ち出しグッズを備える

- ・一時(いっとき)集合所、広域避難場所、避難所(震災時・水害時)の意味を理解し、場所・安全なルートを確認する
- ・地区の安全対策を行う(危険箇所の点検、側溝の掃除等)
- ・住民がまち歩きをして避難場所までの地形や周囲環境(道幅や坂、倒壊の恐れがある塀等がないか等)を確認する
- ・自宅や家族がよく行く場所の周辺環境を把握する(ハザードの確認、最寄りの避難場所等)

課題 ③自助・共助・公助の役割分担と連携

災害時も平時と同じように「何かあれば行政や救急隊・警察が助けてくれる」という考えや、「まだ大丈夫」「自分は大丈夫」という心理(正常性バイアス)があると、「自分の命は自分で守る」という考えが持ちにくい。

自分の命は自分で守る「自助」と、身近なコミュニティで互いに助け合う「共助」がまずは必要で、その上で個人や地域コミュニティだけでは出来ない救助・援助である「公助」がある。

そして環境や事情により一人一人の「自助」と「共助」の内容や比重は異なる。「自助が難しい(備えや訓練参加が難しい、自身または家族に小さい子どもや要支援者がいる)」場合は、共助に重きを置いて顔の見える関係性を作っておく。「共助が難しい(日頃コミュニティへの関わりが持ちにくい)」場合は、自助に重きを置いて備蓄や住宅の安全化に努める。

全ての人に当てはまる備えは無く、一人一人が自身や家庭の実状をまず客観視し、必要な備えが何か、最も優先すべき課題は何か考える。災害が頻発し「防災は大切」ということは周知の事実である中、なぜ実行に移すことが難しいのかに焦点を当てた働きかけが必要である。

■地区・地域団体における今後の取り組みの方向性

- ・一人一人が自身や家庭に必要な自助・公助を考える(まず自分で出来ることを考え、出来ないことや誰かの助けが欲しいことについても考える)
- ・自助:各自できる範囲で備えを実践し、共助・公助だけに頼らない意識を持つ

- ・共助：地域コミュニティや地域活動団体・企業などとの日頃の関係づくり(挨拶、会合やイベントへの参加や協力等)を大切にする
- ・共助：パトロールや地域清掃活動等、安全面の観点から地域の環境を共有できる機会を大切にし、情報交換も行う
- ・共助：災害時における地域活動団体や企業との連携について具体案を相談する(避難所だけでは対応しきれないこと等について)
- ・公助：行政による広報や研修・訓練の支援、防災対策の整備を行う
- ・防災訓練への参加を呼びかける際に、訓練を自分ごとと感じる工夫を検討する(子どもと一緒に被災した場合の訓練、要支援者の家族対象の訓練など)
- ・住民、事業者、行政の協力体制の一層の強化をはかる

課題 ④初期消火

消防団、消防車が到着するまでの間に行う「初期消火(主に消火器による)」は、火災の延焼拡大を防ぐために有効である。火災から命を守るために、初期消火が有効な場合と、避難を優先すべき場合について併せて学ぶことが重要である。

そして火災を出さないための備え、火災に関する知識を持つことの大切さも発信する必要がある。

■地区・地域団体における今後の取り組みの方向性

- ・消火訓練への参加を呼びかけ、より多くの住民に初期消火を学んでもらう
- ・街路消火器の設置場所を把握する
- ・地域の火災発生危険箇所(木造住宅密集地等)、避難経路を把握する
- ・家庭用消火器の設置と定期的なメンテナンスを行う(使用期限あり)
- ・消火活動での注意点を理解する

【例】炎が天井に達したら避難する

【例】着衣着火の際の消火方法を習得する

【例】一酸化炭素中毒を防ぐための行動、注意点を理解する

- ・通電火災を防ぐための取り組みを行う

【例】ブレーカーを落として避難する

【例】住宅用火災警報器を設置する

【例】通電火災予防のために感震ブレーカー設置する

課題 ⑤避難所で生活しないで済むための対策

被災後に自宅を失った人、自宅に戻れない人が一時的に共同生活を送る場所が「避難

所」である。

物資やスペースは非常に限られており、他にも様々な制限やリスクがある。

「とりあえず避難所へ」ではなく、自宅が安全ならば在宅避難、避難所以外の場所に避難する分散避難や縁故避難について、平時に各家庭で話し合いを行っておくことが重要である。

避難所となる学校は子どもたちの教育の場でもあり、早期の学校教育再開のために協力することも大切である。

■地区・地域団体における今後の取り組みの方向性

- ・避難所の収容人数は限られており、帰宅困難者などについては、帰宅困難者用の避難場所を案内するなど、本当に避難が必要な住民が利用できるように運営する必要がある。
- ・避難所においては、トイレをはじめ衛生面やプライバシー面での問題があること、備蓄スペースや消費期限などの制約から、飲料用のミネラルウォーターはなく、食事も1日分のみの備蓄であること、トイレトーパーはわずかであり、体育館などの床に敷くマットなどもないという現状をより広く周知する必要がある
- ・分散避難や縁故避難という選択肢について、広報紙や区ホームページで広く周知する（避難所以外にも「親戚・知人宅」「ホテル」「在宅避難」「車中泊」などさまざまな避難先に分散して避難することで、感染症の拡大をはじめ避難所に人が集中することで発生する問題を防ぐ）
- ・在宅避難：家族が7日間以上生活できる備蓄品の備えを呼びかける（食料、飲料水、簡易トイレ、発電機、充電器、ラジオ等）
- ・在宅避難している方の物資供給や災害情報伝達の仕組みづくりを行う
- ・応急給水所(砦、中町)を活用する
- ・民間企業と協力する

課題 ⑥避難所運営の強化

避難所を円滑に運営していくためには、地域住民、事業者(学校等)、行政の三者があらかじめ避難所運営に対する共通認識を持ち、協力体制づくりを図ることが重要である。

避難所は行政ではなく住民による自治運営の場であること、避難者自身が力を合わせて成り立つ場であることを周知する必要がある。

■地区・地域団体における今後の取り組みの方向性

- ・感染症対策を行う(新型コロナウイルス、インフルエンザ、ノロウイルス、食中毒など)
- ・避難所運営マニュアル及び体制の見直しを、協議を継続し必要に応じて行う
- ・避難所運営組織の人材育成を行う
- ・防災士資格を取得した方や中学生ボランティア等を活用する
- ・避難所の状況を把握し、3者で情報共有する仕組みづくりを行う
- ・避難者自身で自主的に避難所運営ができる仕組みづくりを行う

【例】避難者に避難所に来たら何をすればよいか伝えるための準備をする、

【例】動ける人にはボランティアとして活動してもらう

【例】住民へ説明会を行う

- ・避難所運営委員や地域関係者の連絡網づくりを行う
- ・避難所運営訓練を実施する。

【例】応急救護訓練、設営訓練、初動訓練、班別訓練、HUG(避難所運営ゲーム)、図上訓練、ペット同行避難、震災・水害を含めた瀬田・玉川での合同訓練、避難所に実際に宿泊する体験等

- ・時間の経過とともに深刻化する避難者の健康維持への取り組みを検討する。

【例】ラジオ体操の実施、会話ができるフリースペースの設置など心身の健康のための具体的な案を考える

- ・避難行動要支援者(自ら避難することが困難で支援が必要な方)や、要配慮者(高齢者、障害者、妊産婦、乳幼児、外国人等の配慮が必要な方)について、それぞれの区分と対象者ごとに具体的な支援方法や発災時の情報伝達方法を検討する
- ・災害時伝言ダイヤル(171)、災害用伝言板(Web171)、防災無線の訓練、FMせたがや、SNS、防災メールの利活用をする

課題 ⑦風水害への避難対策

気候変動の影響により、想定を超えるような水害が頻発している。風水害では、事前に雨量等の予測が可能な場合が多いため、早めの情報収集と事前準備、避難行動が重要となる。

■地区・地域団体における今後の取り組みの方向性

- ・水害時の避難方法は、地震のときとは異なることを周知する
- ・マイタイムラインを活用し水害時の行動計画を立案する
- ・地区の地形や高低差を知り、水の流れを知る
- ・水害は事前に予測できることを周知する

- ・多摩川上流での雨の情報に注意するよう促す
- ・自動車の避難場所を確保するため、企業と連携を進めていく
- ・車中避難場所として指定されている、ニトリや大蔵運動場を周知する
- ・自動車で水害時避難所に避難された場合のルールを作る
- ・水害に関する啓発ちらしを制作し配布する
- ・土のうを作る方法を周知する
- ・住宅の安全対策を行う

【例】土のう・水のう・止水板を準備する

【例】助成制度を周知する

- ・水害時避難所について情報発信を行う
- ・水害に特化した訓練を行う

深沢地区防災計画

【令和7年修正】

深沢地区

目次

- 1 深沢地区の特性 深沢-1(-683-)
 - (1)自然特性 深沢-1(-683-)
 - (2)社会特性 深沢-2(-684-)
 - (3)地域危険度 深沢-4(-686-)
 - (4)被害想定 深沢-5(-687-)
 - (5)防災資源一覧 深沢-8(-690-)
 - (6)防災資源マップ 深沢-9(-691-)
 - (7)区民アンケート 深沢-10(-692-)

- 2 各団体の防災活動～現在の取組状況～ 深沢-19(-701-)

- 3 深沢地区の課題と取り組み 深沢-25(-707-)
 - (1)命を守ること 深沢-25(-707-)
 - (2)地区全体の安全の確保と被害が広がらないための対策 深沢-27(-709-)
 - (3)助かった人の命と健康が守られること 深沢-28(-710-)
 - (4)地域の復興に向けた支援を早く受けられること 深沢-30(-712-)

1. 深沢地区の特性

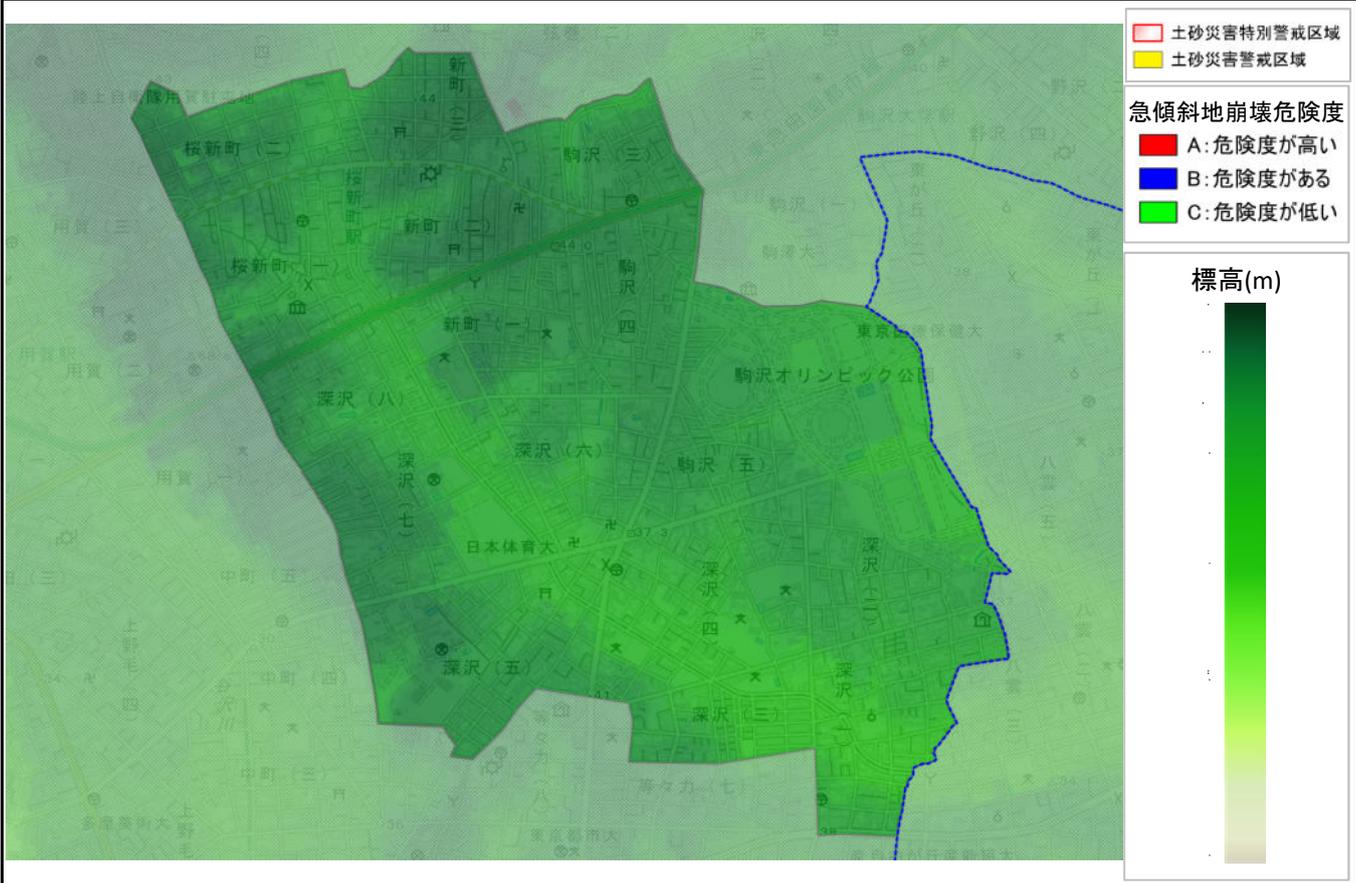
(1)自然特性

面積	3.42 Km ²	最高標高	46.5 m	最低標高	28.6 m
----	----------------------	------	--------	------	--------

位置



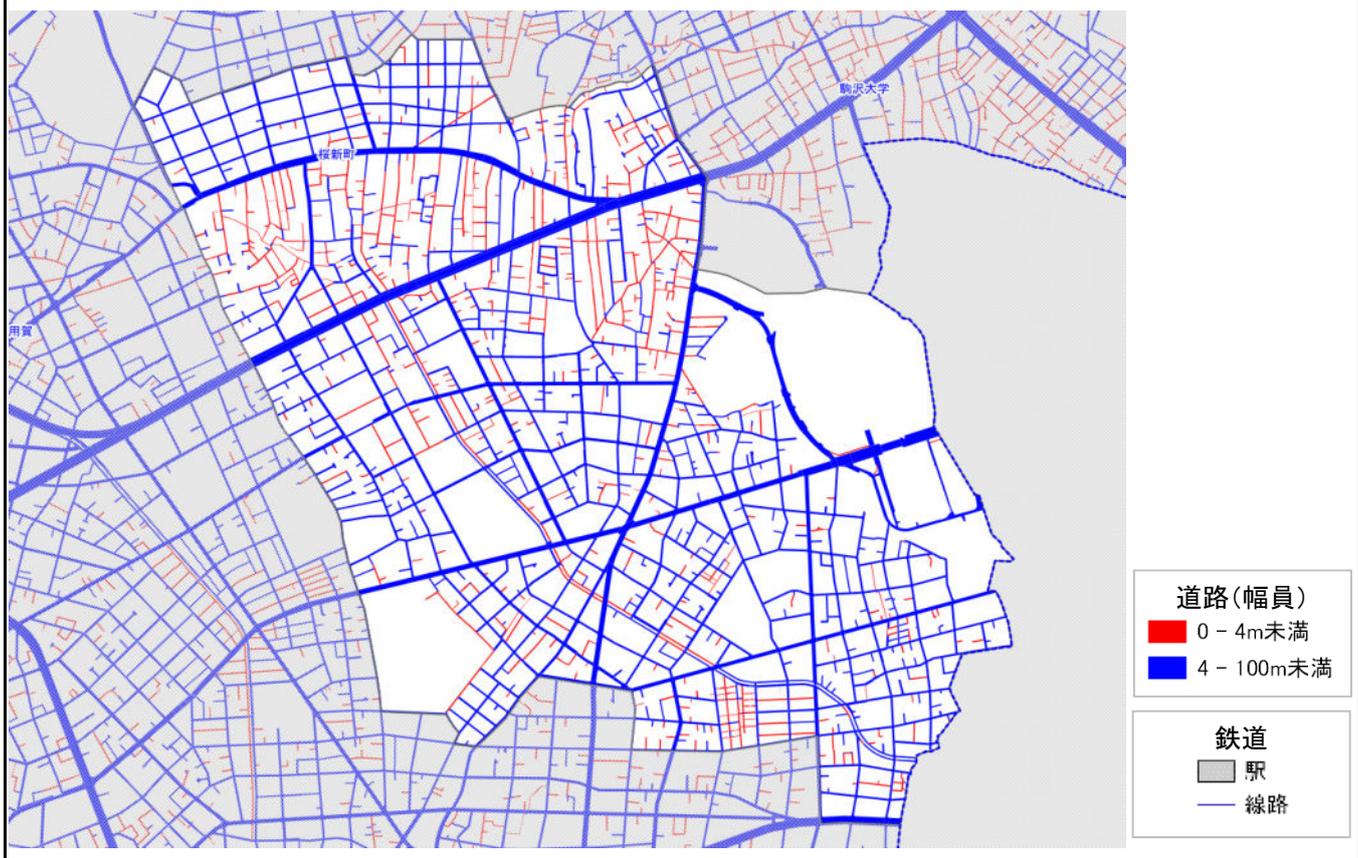
標高・急傾斜地崩壊危険度・土砂災害警戒区域等



(2)社会特性

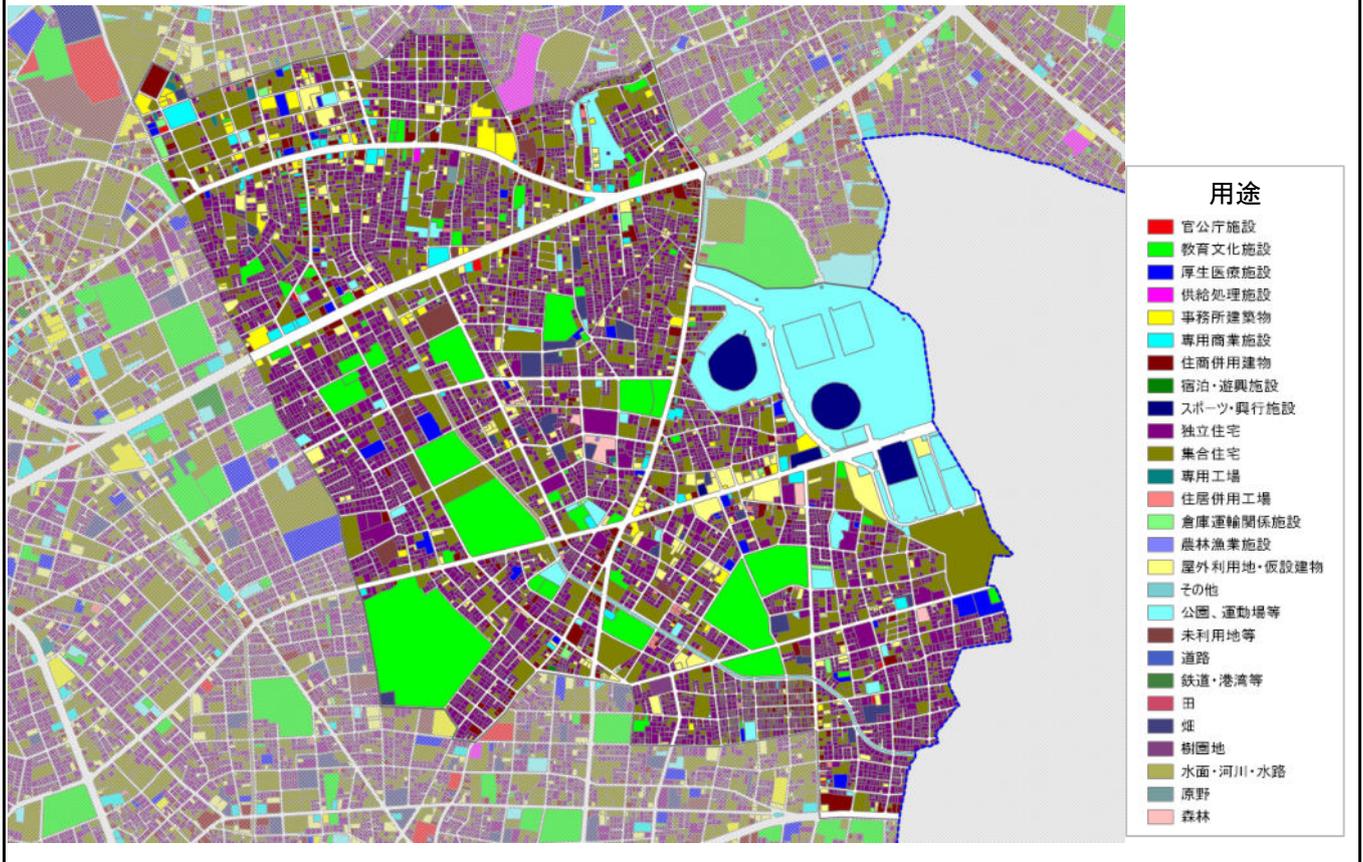
人口	49,194 人	細街路率	27.3 %	
世帯数	24,481 世帯	昭和56年以前木造建物棟数密度	69.0 棟/Km ²	
1世帯あたり	2.01 人	耐火率(建築面積ベース)	64.5 %	
若年層数(15才未満)	6,281 人	土地利用(宅地)	66.0 %	
若年層率(15才未満)	12.8 %	土地利用(宅地以外)	34.0 %	
高齢者数(65才以上)	10,332 人	鉄道駅	東急田園都市線桜新町駅	
高齢者率(65才以上)	21.0 %			
昼間の人口	46,984 人	産業	商業	78.0 %
夜間の人口	50,259 人		工業	7.7 %
昼夜間人口比	0.93 -		農業	14.4 %
町会・自治会数	9 -			

道路・公共交通機関



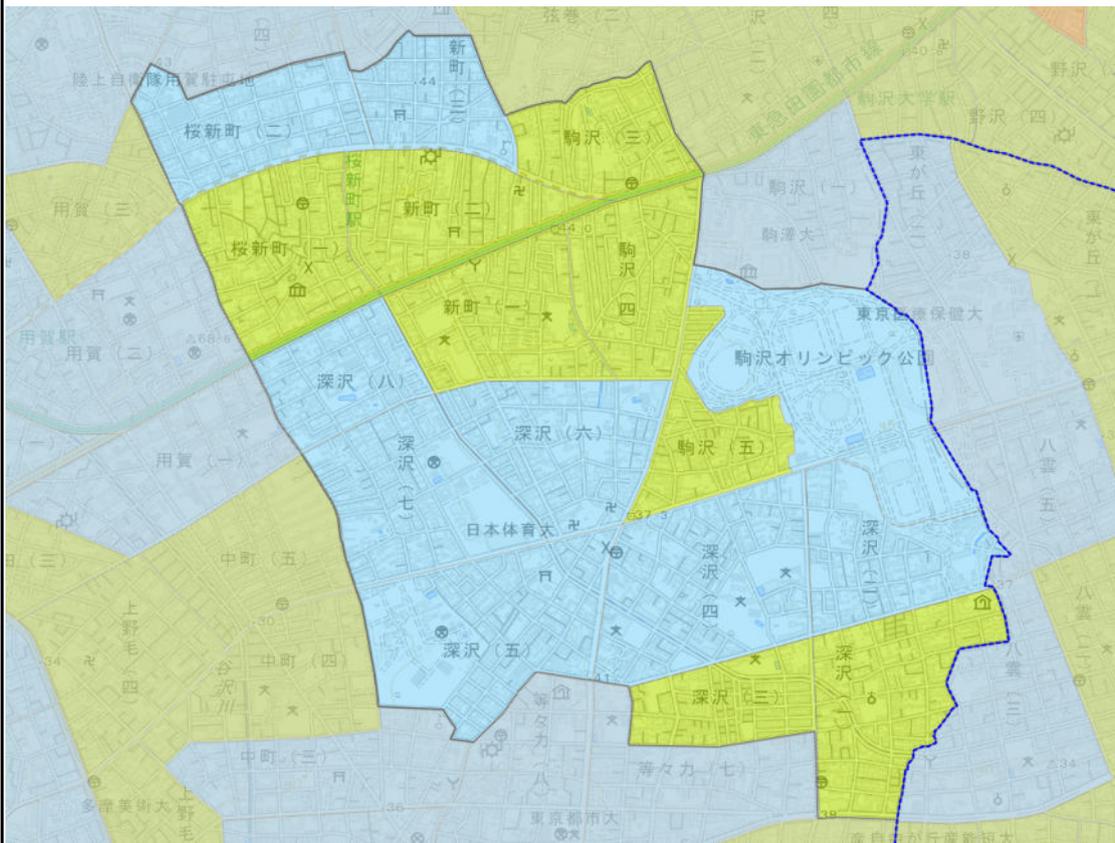
(2)社会特性

産業



(3)地域危険度

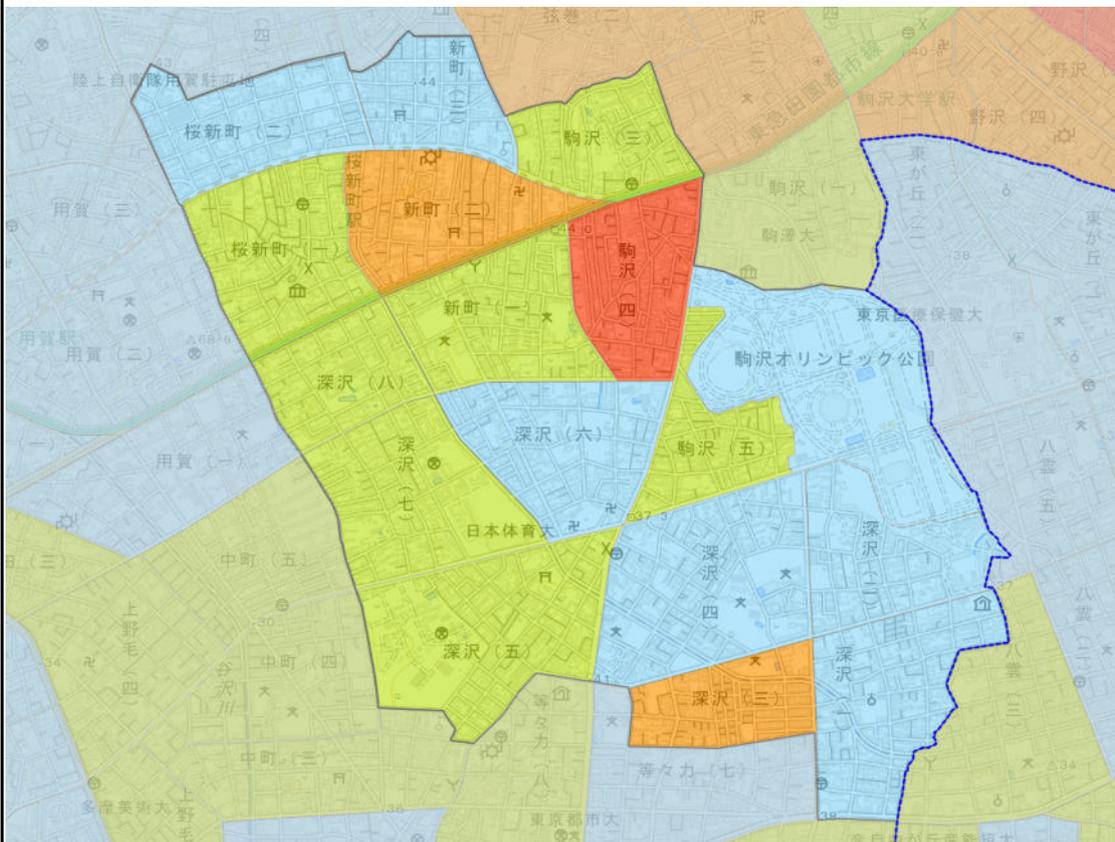
建物倒壊危険度



建物倒壊危険度



火災危険度



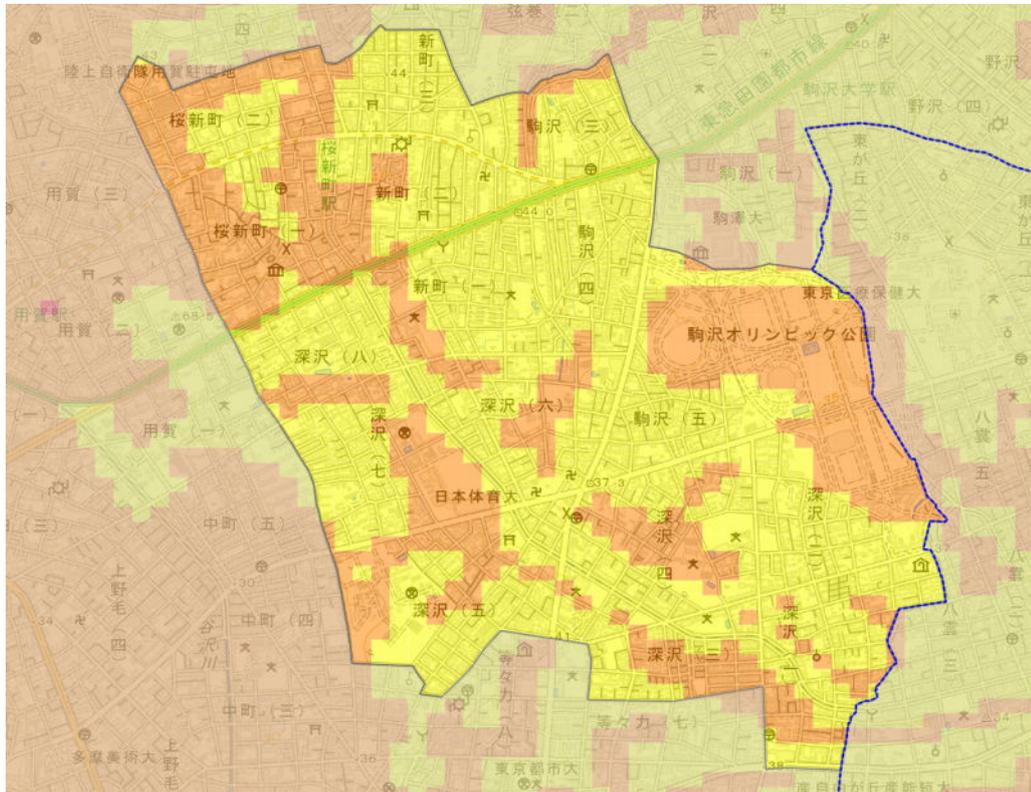
火災危険度



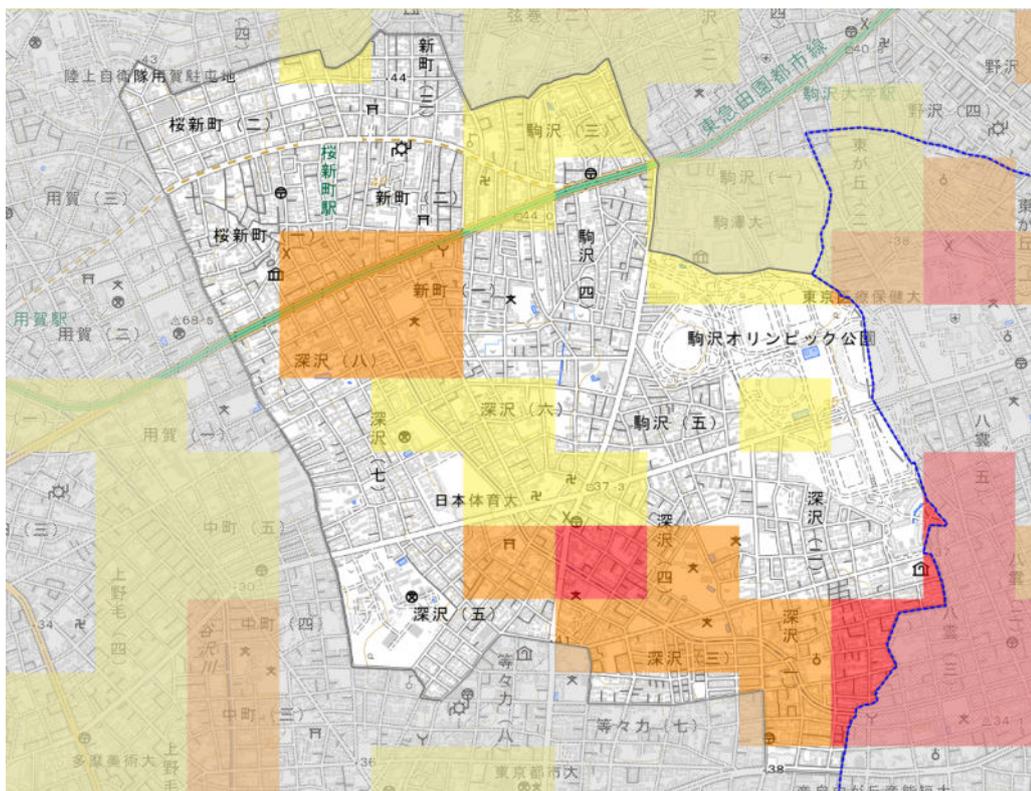
(4)被害想定

全壊棟数	163 棟	死者	21 人
半壊棟数	629 棟	負傷者	231 人
全焼棟数(倒壊建物含まず)	595 棟	うち重傷者	39 人

震度分布

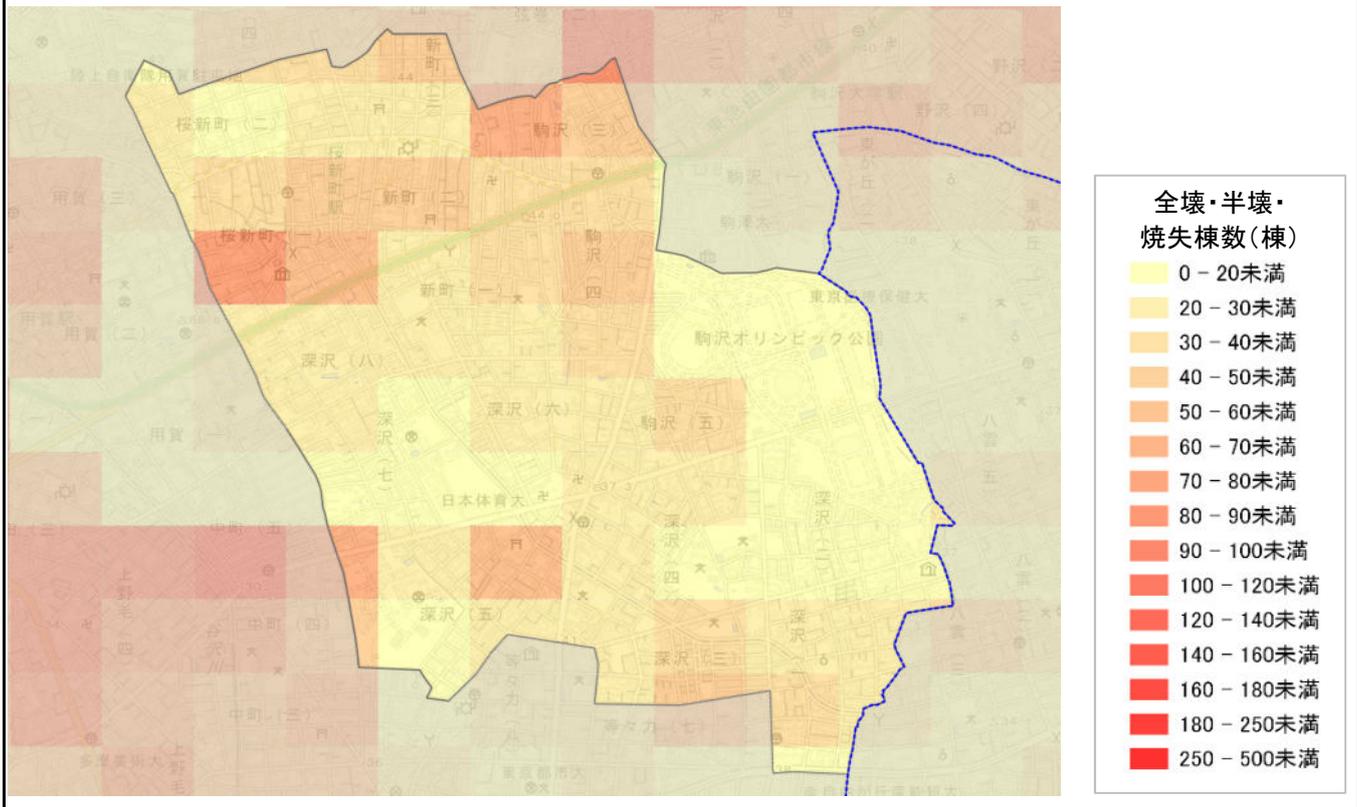


液状化分布



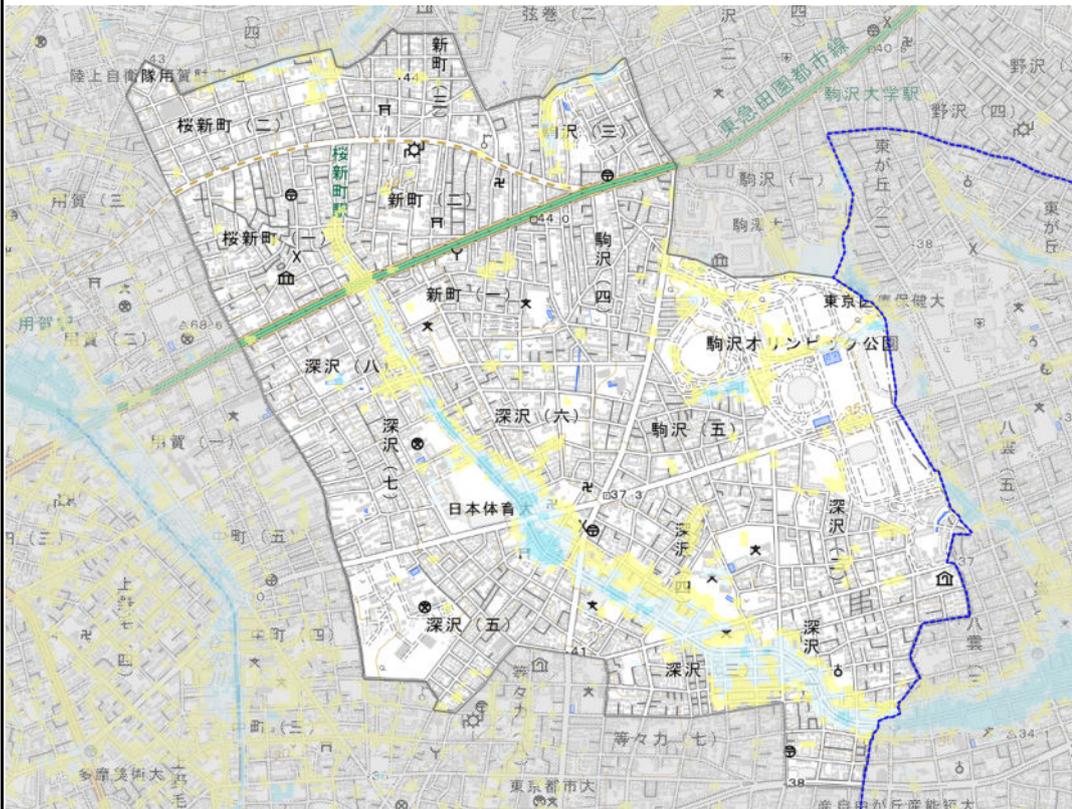
(4)被害想定

被害棟数分布



(4)被害想定

浸水想定(内水氾濫・中小河川洪水版)



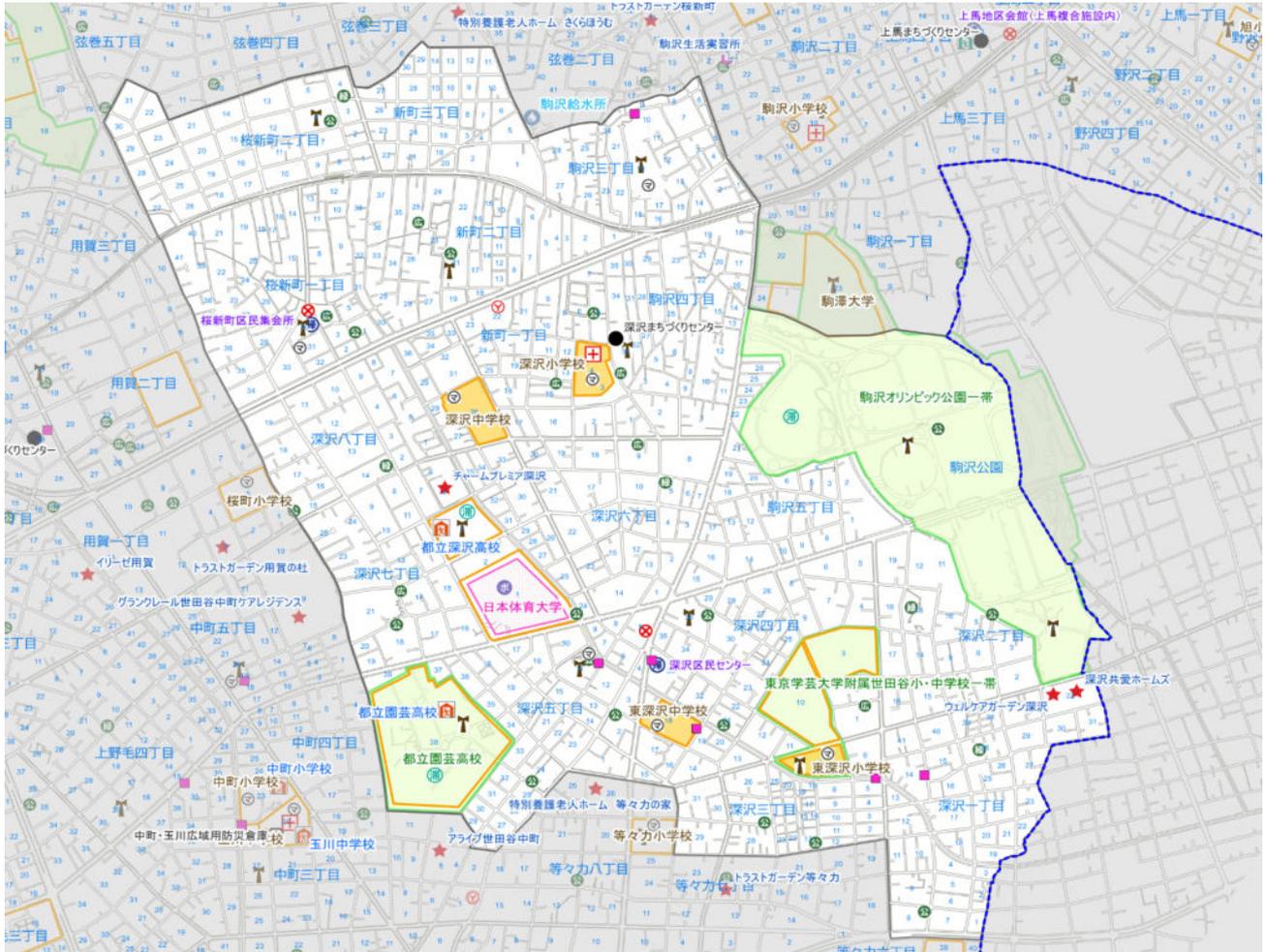
浸水想定(多摩川洪水版)



(5)防災資源一覽

広域避難場所	駒沢オリンピック公園一帯 都立園芸高校 東京学芸大学附属世田谷小・中学校一帯				
一時集合所	駒沢公園(テニスコート付近) 駒沢公園(西口付近) 駒沢公園(西口野球場付近) 駒沢緑泉公園 桜新町1-1遊び場 三島公園 新町公園 新町南公園 深沢公園 深沢小学校 深沢神社 深沢西公園 深沢中学校 深沢郵政宿舎公園 竹林 都立園芸高校 東深沢小学校 東深沢中学校 畑				
指定避難所	深沢小学校 深沢中学校 東深沢小学校 東深沢中学校				
予備避難所	東京学芸大学附属世田谷小学校 東京学芸大学附属世田谷中学校 都立園芸高校 日本体育大学 都立深沢高校				
福祉避難所(母子)	日本体育大学				
福祉避難所(高齢者)	深沢共愛ホームズ ウェルケアガーデン深沢 チャームプレミア深沢				
福祉避難所(障害者)					
水害時避難所(第1次)	都立園芸高校	都立深沢高校	野川・仙川洪水時避難所		
水害時避難所(第2次)					
土砂災害時避難所					
避難所救護所	深沢小学校				
東京都災害拠点病院					
東京都災害拠点連携病院					
緊急医療救護所					
一時滞在施設	都立園芸高校 駒沢オリンピック公園総合運動場 都立深沢高校				
一時避難施設(車中避難)				帰宅困難者支援施設	2 ヶ所
ボランティアマッチングセンター	日本体育大東京・世田谷キャンパス				
マンホールトイレ	7 ヶ所	防災行政無線塔	12 ヶ所	緑地	6 ヶ所
輸送拠点					
給水拠点					
広域用防災倉庫					
土のうステーション	駒沢緑泉公園(北側) 三島公園 深沢区民センター 深沢地区会館 東深沢中学校(東側) 呑川緑道(深沢3の5付近)				
警察署・交番	桜新町交番 深沢交番				
消防署・出張所	新町出張所				

(6)防災資源マップ



- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|-------------|--------------------|-----------|--------|-----------|------------|-------------|-------|------|-------|---------|---------|------|------|----------|---------|---------|-------------|--------------|--------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|------------|----------|-------------|---------------|-----------|----------|-------------|-------------------|---------|----------------|
| ● 総合支所 | ● まちづくりセンター | Ⓜ セタがや災害ボランティアセンター | Ⓜ 広域用防災倉庫 | ● 給水拠点 | Ⓜ 防災行政無線塔 | Ⓜ マンホールトイレ | ■ 土のうステーション | Ⓜ 警察署 | Ⓜ 交番 | Ⓜ 消防署 | Ⓜ 消防出張所 | ● 身近な広場 | ● 公園 | ● 緑地 | ■ 広域避難場所 | ■ 指定避難所 | ■ 予備避難所 | ■ 福祉避難所(母子) | ★ 福祉避難所(高齢者) | ☆ 福祉避難所(障害者) | ■ 水害時避難所(第1次) | ■ 水害時避難所(第2次) | ◆ 野川・仙川洪水時避難所 | ■ 水害時避難所(狛江市) | ■ 水害時避難所(調布市) | ■ 土砂災害時避難所 | ■ 避難所救護所 | ■ 東京都災害拠点病院 | ■ 東京都災害拠点連携病院 | Ⓜ 緊急医療救護所 | Ⓜ 一時滞在施設 | Ⓜ 帰宅困難者支援施設 | Ⓜ ボランティアマッチングセンター | ■ 輸送拠点等 | Ⓜ 一時避難施設(車中避難) |
|--------|-------------|--------------------|-----------|--------|-----------|------------|-------------|-------|------|-------|---------|---------|------|------|----------|---------|---------|-------------|--------------|--------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|------------|----------|-------------|---------------|-----------|----------|-------------|-------------------|---------|----------------|

出典

世田谷区土砂災害ハザードマップ 令和6年7月発行

世田谷区の町丁目別人口と世帯数 令和6年3月1日

世田谷区の年齢別人口 令和6年3月1日

世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ(多摩川洪水版、内水氾濫・中小河川洪水版) 令和6年7月発行

世田谷の土地利用2021 世田谷区土地利用現況調査

世田谷区GISオープンデータ

令和2年国勢調査による 東京都の昼間人口(従業地・通学地による人口)第11表

地域危険度一覧表(地震に関する地域危険度測定調査[第9回]) 令和4年9月

首都直下地震等による東京の被害想定 報告書 令和4年5月25日

世田谷区防災マップデータ 令和6年3月

(7)区民アンケート(深沢地区)

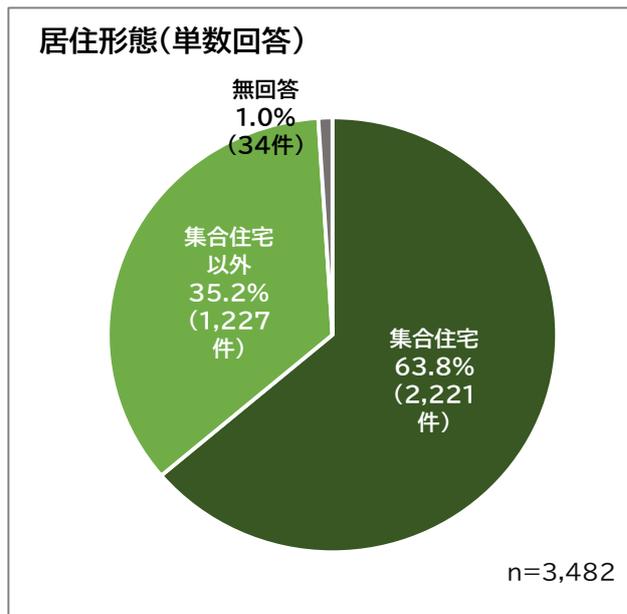
このアンケートは、今後の区内各地域及び地区における災害関連施策の検討や取組みに活用することを目的として、令和6年度に災害対策課が実施した「在宅避難支援事業(防災カタログギフト)」に合わせて行ったものである。

なお、以下に記載している回答集計結果は、カタログギフト申込者のうち、WEBで申し込みをした区民へ任意での回答を依頼し、令和6年8月9日から9月8日までに回収できた分である。

単純集計(1/5)

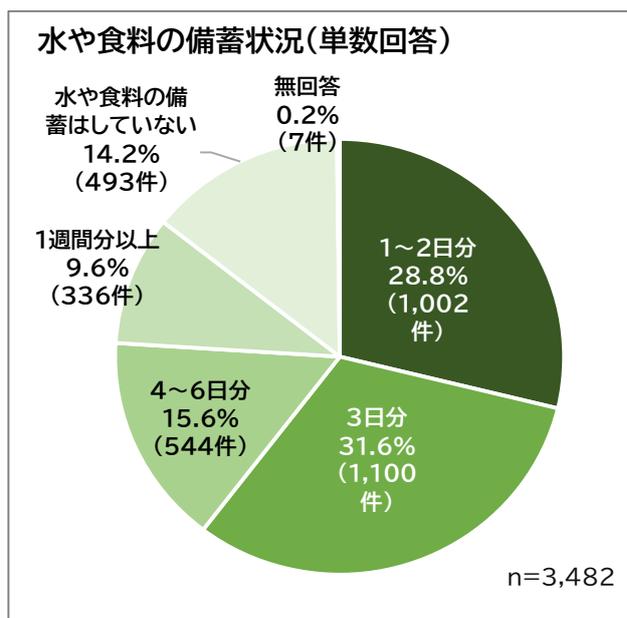
居住形態

【1】あなたはマンションなどの集合住宅にお住まいですか。



水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。

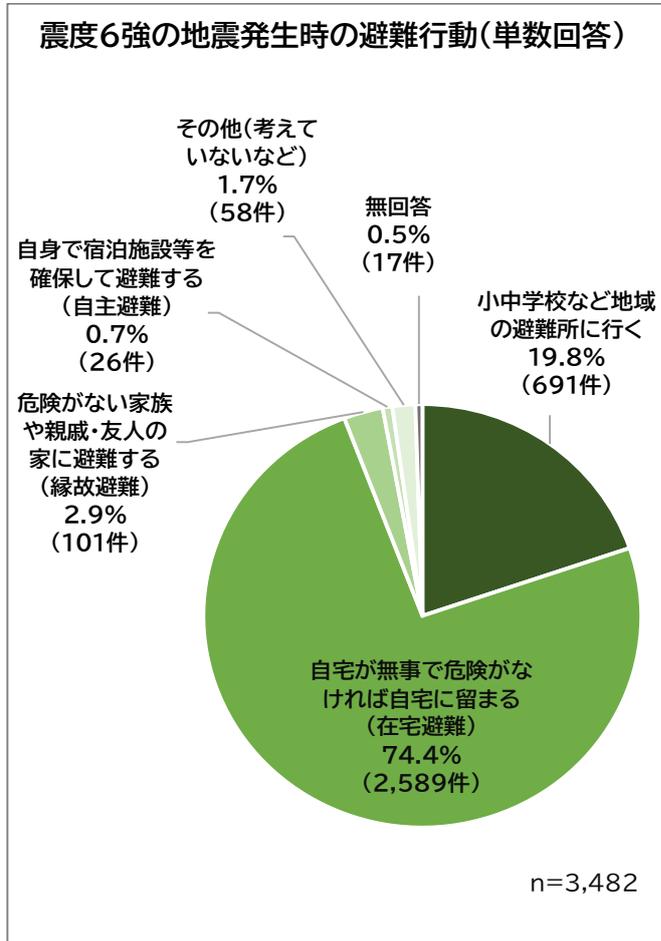


(7)区民アンケート(深沢地区)

単純集計(2/5)

震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



(7)区民アンケート(深沢地区)

単純集計(3/5)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。



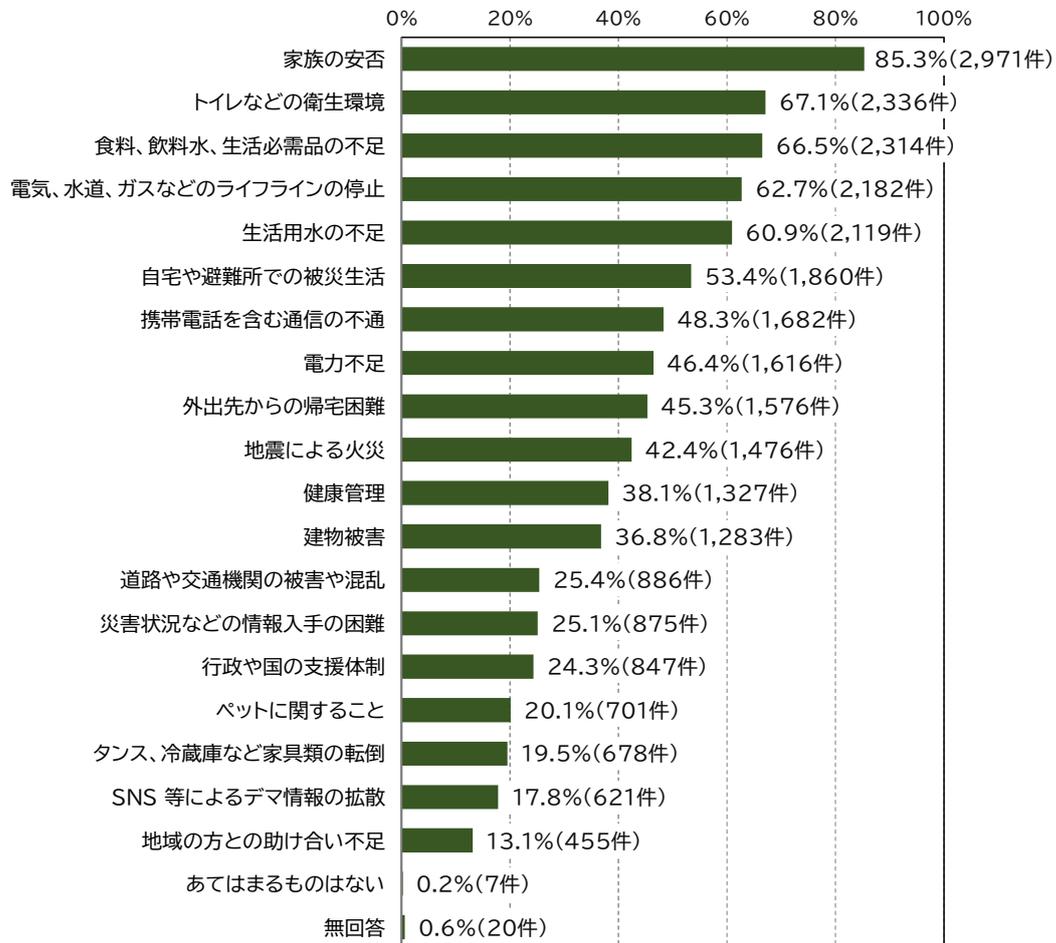
(7)区民アンケート(深沢地区)

単純集計(4/5)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

災害時の心配ごと(複数回答)



n=3,482

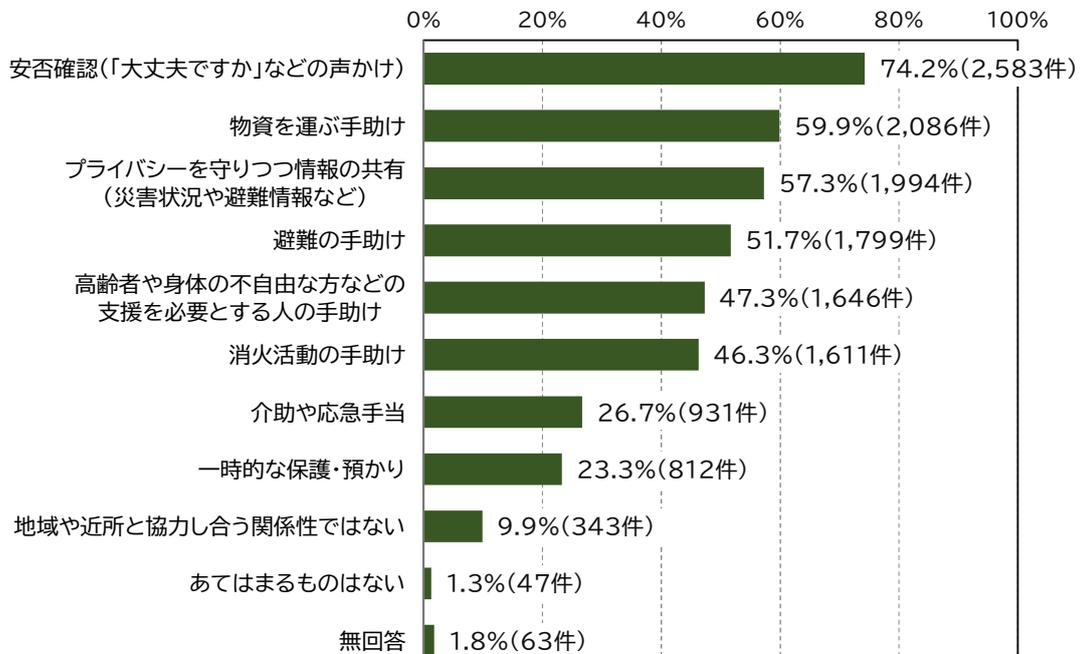
(7)区民アンケート(深沢地区)

単純集計(5/5)

災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。

災害時にできる住民同士の支援(複数回答)

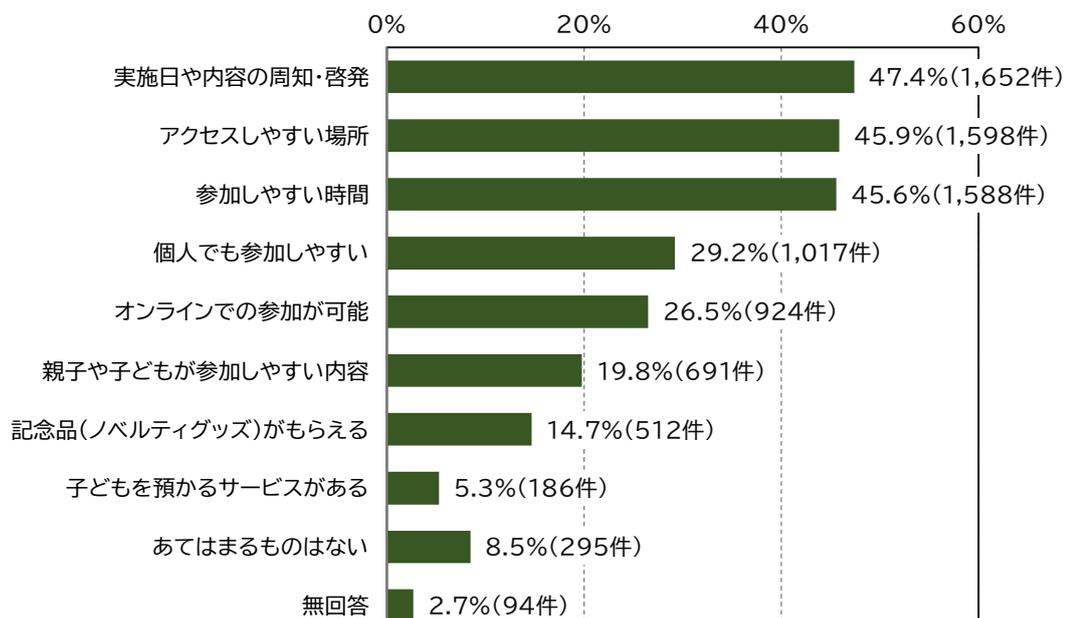


n=3,482

防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加したいと思いますか。

防災訓練や防災教室への参加意向(複数回答)



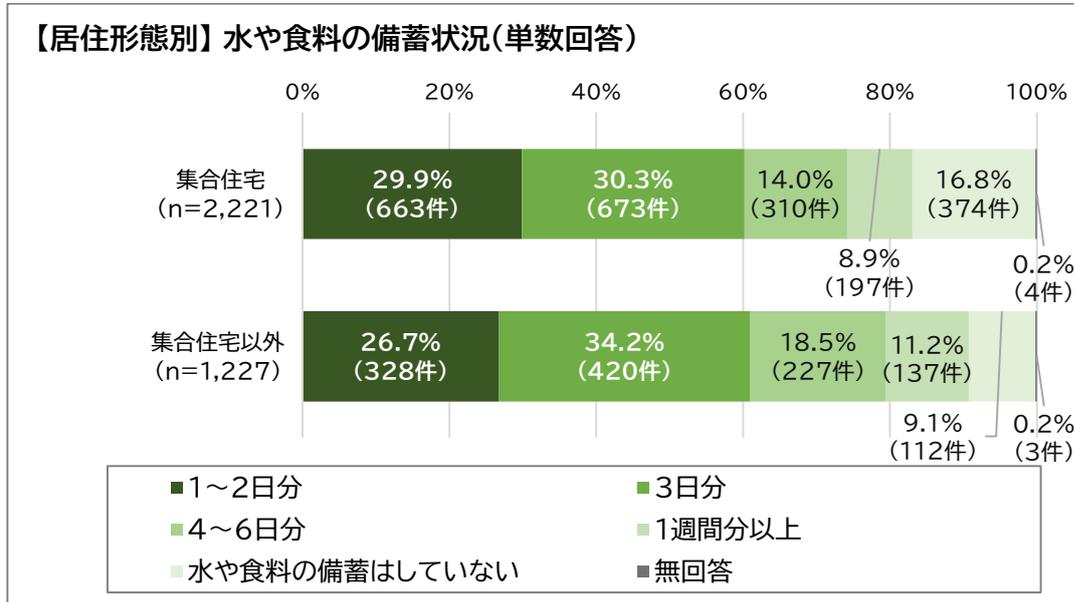
n=3,482

(7)区民アンケート(深沢地区)

クロス集計(1/4)

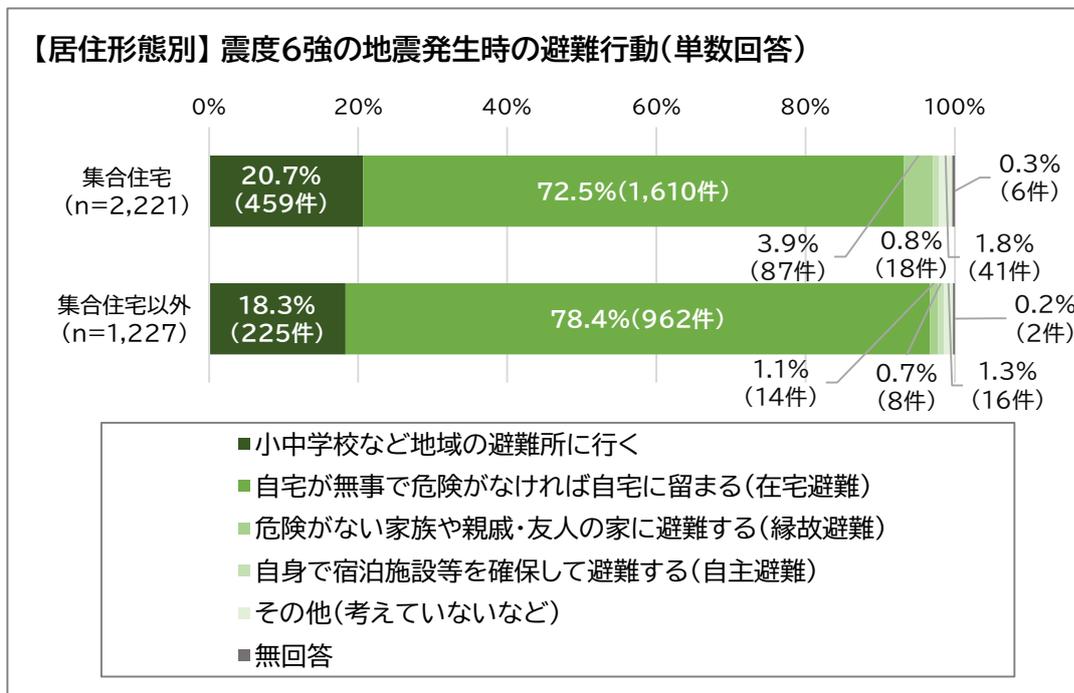
水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。



震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。

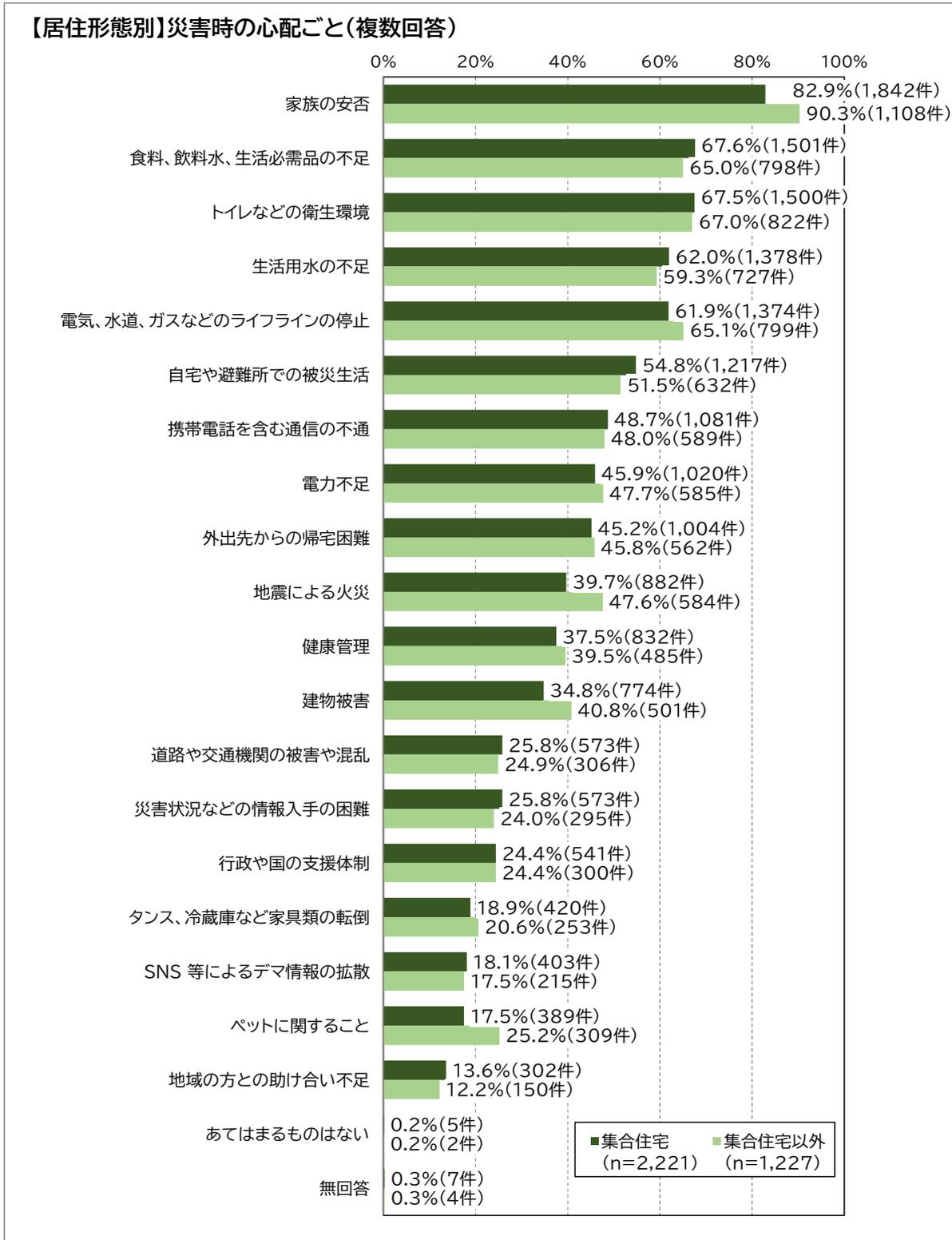


(7)区民アンケート(深沢地区)

クロス集計(2/4)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。



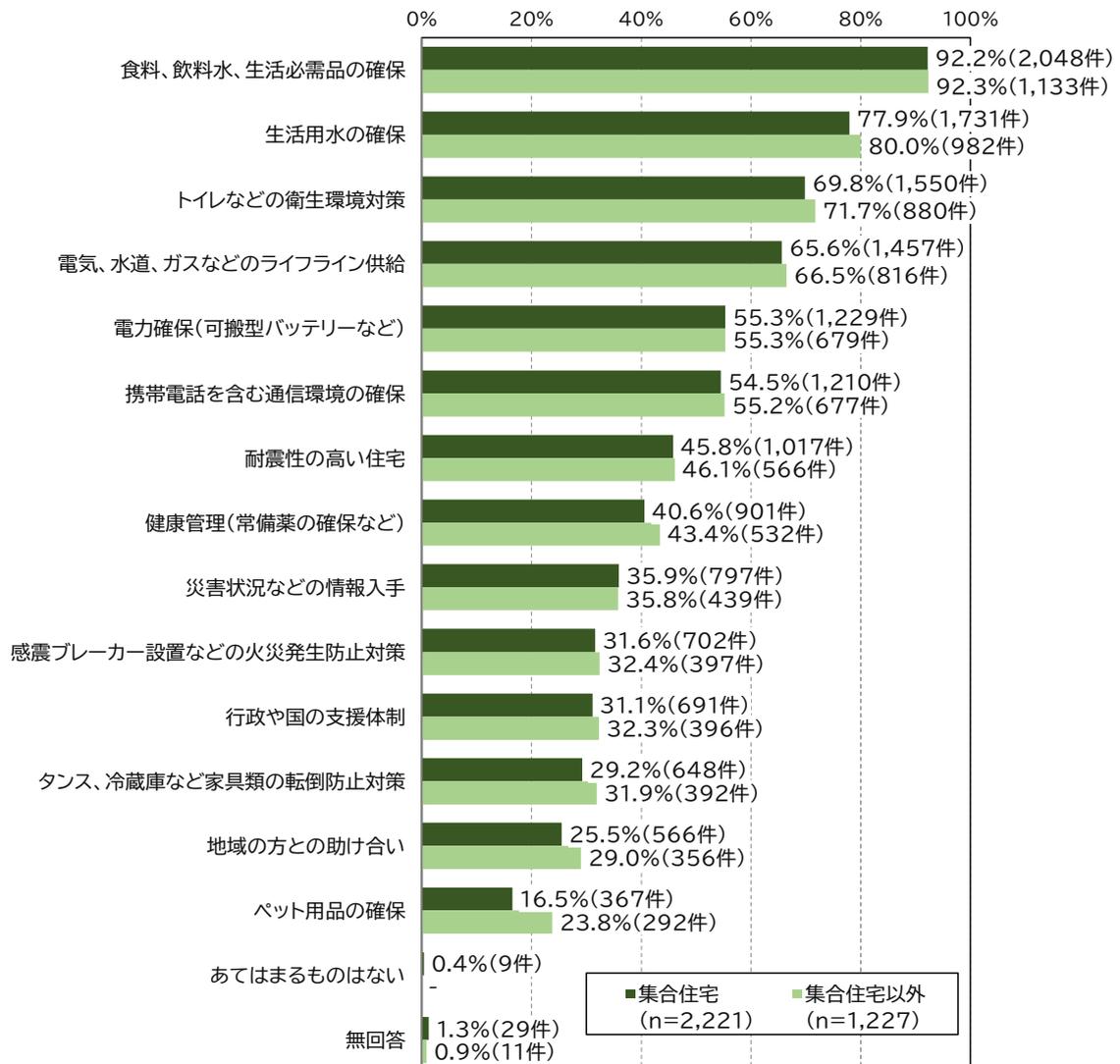
(7)区民アンケート(深沢地区)

クロス集計(3/4)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

【居住形態別】在宅避難をするために必要だと思うこと(複数回答)

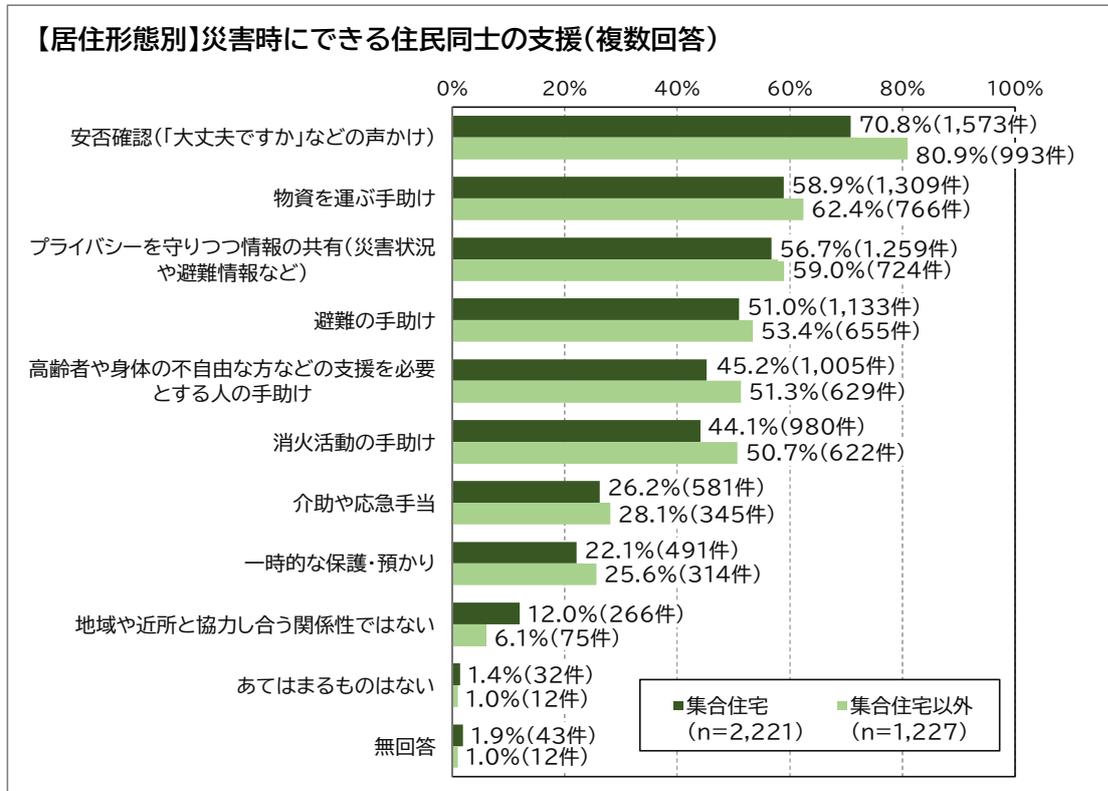


(7)区民アンケート(深沢地区)

クロス集計(4/4)

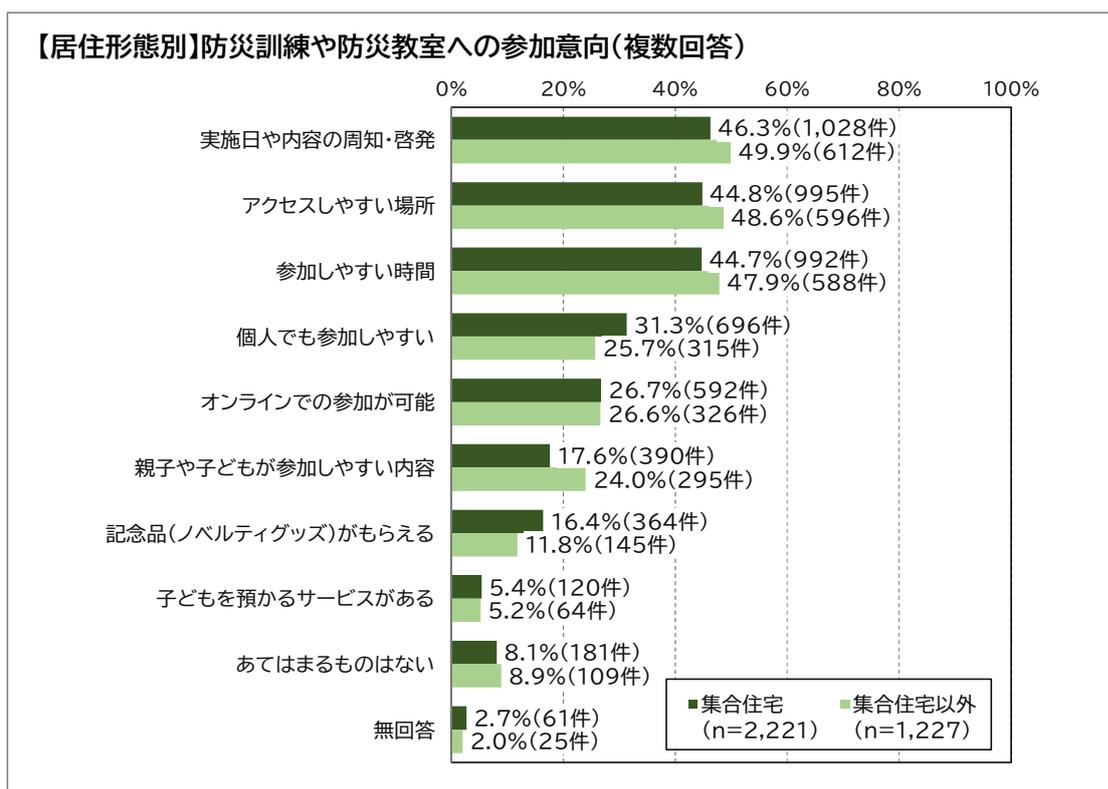
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加したいと思いますか。



2 各団体の防災活動～現在の取組状況～

団体名	防災担当者数	防災に関する会議				防災活動、資機材配備等の実施		消火資機材の配備					
		実施している	実施していない	会議名	(年間回数)	実施している	実施していない	スタンドパイプ		D型ポンプ		消火器	
								数量	場所	数量	場所	数量	場所
深友会	○		町会役員会	16	○		○	4	町会内4ヶ所	1	防災倉庫	20	町会役員宅
東深沢町会	○		避難所運営訓練	1	○		○	1	東深沢町会防災倉庫	1	東深沢町会防災倉庫	9	町会地域内
交和会	○		防災会議	1	○		○	1	深沢中村公園	1	深沢中村公園		
深沢三友会	○		町会役員会	1	○		○	3	深沢5-11-1、深沢6-30-21、深沢7-14-3	1	(深沢神社) 深沢5-11-1		
新町公民会	○		消火器訓練担当者会議	5 2	○		○	2	公民館倉庫 役員宅(新町1丁目)	1	公民館倉庫	5	役員宅
桜新町親和会	○		理事会(必要に応じて検討)		○		○	3	防災倉庫1・2・3	1	防災倉庫1		
桜新町町会	○		町会防災部	3	○		○	1	稲荷神社			2000	町会全戸へ配備(17)ノール式簡易消火具)
駒沢三丁目町会	○		町会防災会議	2~ 3	○		○	4	町会内分散設置2 防災倉庫2	1	町会防災倉庫		
駒沢町会	○				○		○	2	町会倉庫(2ヶ所)	1	町会防災倉庫	1	町会防災倉庫

団体名	消火資機材の配備		防災訓練等の実施						防災マップ										
	その他		実施している	実施していない	防災訓練		救命救急講習会		その他		作成済	作成中	作成検討中	作成予定なし	掲載情報				
	名称	場所			回数	実施場所	回数	実施場所	訓練名称	実施場所					一時集会所	広域避難場所	避難所	街路消火器	防火水槽
深友会			○		1	東深沢小学校			スタンドパイプ訓練	深沢1丁目深沢地区会館	○				○	○	○	○	○
東深沢町会			○		1	東深沢小学校			スタンドパイプ訓練 D型ポンプ訓練 C型ポンプ点検	深沢公園	○				○	○	○	○	○
交和会			○		1	東深沢中学校			D級ポンプ訓練 スタンドパイプ訓練	深沢中村公園	○				○	○	○		
深沢三友会			○		2 ~ 3	東深沢中学校、深沢6-10路上、深沢神社			防災講習会	深沢区民センター	○				○	○	○	○	○
新町公民会			○		1	新町1丁目公園	1	新町公民会館	スタンドパイプ訓練 D型ポンプ訓練	新町公民会館	○				○	○	○	○	○
桜新町親和会	ホース テント 発電機 投光器 他	防災倉庫1・ 2・3 防災倉庫1	○		6	桜新町区民集会所他	1	桜新町区民集会所	防災講習会	桜新町区民集会所	○				○	○	○	○	○
桜新町町会			○		1	深沢中学校 新町公園					○				○	○	○	○	○
駒沢三丁目町会	三角パケッ	町会防災倉庫	○		2 ~ 3	駒沢緑泉公園、深沢小学校	1	玉川消防署 新町出張所	ミニ減災訓練	駒沢緑泉公園	○				○		○	○	○
駒沢町会			○		1	深沢小学校	2	地区の講習会に参加	D級ポンプ訓練 スタンドパイプ訓練		○				○		○	○	

団体名	防災マップ			防災士等の数				災害時連携・協定 (区を除く)				避難行動要 支援者協定			避難行動要支援 者対策		
	掲載情報			防災士	把握していない	地域防災リーダー	把握していない	他団体との連携	協定締結	特になし	連携先・内容	協定先・内容	締結している	検討中である	予定はない	日頃からの見守り活動	要支援者体験
	震災用井戸	消火栓	その他														
深友会	○		役員宅・医師・公衆電話・給水所・公共機関・その他	4			○	○			東深沢町会、米屋と協定		○			○	
東深沢町会	○	○	役員宅・医師・公衆電話・給水所・公共機関・その他	1			○	○			深友会		○			○	
交和会				4			○	○			深沢三友会			○		○	
深沢三友会	○	○		1		0		○			交和会			○		○	
新町公民会	○			1		18		○			駒沢町会、駒沢3丁目町会			○			
桜新町親和会	○	○	防災倉庫設置場所	1			○		○				○			○	
桜新町町会	○	○	公衆電話	2			○		○						○		
駒沢三丁目町会	○	○	防災倉庫、AED、スタンドパイプ、マンホールトイレ、給水所	3		3		○			新町公民会、駒沢町会			○			
駒沢町会	○	○		2			○	○			新町公民会、駒沢3丁目町会				○		

団体名	避難行動要支援者対策		連絡手段の確保				防災活動に関するマニュアル (避難所運営マニュアルを除く)				救出救助に係る 資機材の配備				
	その他	特 に 実 施 し て い な い	簡 易 無 線	作 成 ・ 整 備	連 絡 網 の 其 他	策 定 済 み	策 定 中	検 討 中	予 定 な し	名 称	配 備 し て い な い	配 備 し て い る	リ ア カ ー	は し こ ぎ	脚 立
深友会	要援護者協定名簿に基づき、役員・協力者により年2回の定期訪問を実施。その際、災害時には「私は安全です」のステッカーやタオルを用いて、安否を近隣に周知する重要性を説明した。		○	○	災害時安否確認用プレートと白タオル(安否目印用)	○				災害時役割分担表	○	2	1	1	2
東深沢町会	要支援者に限らず向う三軒両隣の声かけを行うためのチラシを作成して配布した。			○	災害時安否確認用白タオルかけ				○		○	2		4	1
交和会				○					○		○	1			
深沢三友会				○				○			○	1			1
新町公民会		○		○		○				防災対策マニュアル	○	1		1	1
桜新町親和会	①要援護者協定名簿に基づき、役員・協力者により年1回の定期訪問を実施している。 ②桜町高校の生徒と共に、要配慮者の避難を想定した訓練を行っている。 ③玉川消防署新町出張所と要配慮者宅を訪問し、家具転倒防止の必要性について啓発活動を行っている。 ④要配慮者を支援する町会役員宅と、要配慮者宅を地図に表示し、災害時の支援態勢を明確にしている。			○	○				○		○	1			
桜新町町会									○		○	1		1	
駒沢三丁目町会	災害時要援護者を自己申告で募り要援護者リストを作成。町会役員が年2回訪問。リストは町会役員と町会防災倉庫に保管。			○	無線機常設場所、地区会館				○		○	1	1	1	4
駒沢町会	町会の民生委員が把握しているが、提示されていない。			○					○		○	1			2

団体名	救出救助に係る資機材の配備											食糧等の備蓄						
	救急セット	ヘルメット	救助工具セット	パール	スコップ	手おのこばら	ジャッキ	両口ハンマー	ツルハン	その他	保管場所	備蓄していない	備蓄している	アルファ米	ビスケット・乾パン	おかゆ	飲料水	缶詰類
深友会	1	20	1	10	1	1	1	1	1	防災用テント2張 寝袋14枚 ソーラーランプ20個	町会防災倉庫	○	30	30	24	36		
東深沢町会	1	10	1	1	0	2	1	1	0	0	災害時多目的テント(1) 車イス(1) ワイヤーカッター(2) ピッケル(1)	町会防災倉庫	○	4	0	0	0	0
交和会		5	1	1	5		1		1	1	テント1張、ブルーシート5枚、トラロープ(30m)2本、寝袋1枚、三角巾40枚、ハンドマイク1本、H07ケーブルライト1本、非常用0-115本、避難袋セット2セット、常備灯8個	町会防災倉庫	○		160		10箱	
深沢三友会	2	40	1	2	1	1	1	1	1	1	拡声器、投光機	深沢神社	○					
新町公民会	2	30	1	1	1		1	1	1			○		100		240	20	
桜新町親和会	1	31	1	3	3		4	3	4		台車2台 ロープ3m 電源ドラム 台車 ハンドマイク 水槽	防災倉庫1・2・3 (一部1のみ)	○					
桜新町町会	1	30	1	1	6				1	1	番線カッター	町会防災倉庫	○	○		180		
駒沢三丁目町会	3	30	2	4							エンジンチェンソー1台 防災用テント1張 ライト(AC)	町会防災倉庫	○				駒沢給水所の利用を予定	
駒沢町会	3	5		1	3	1	4	1	1		チェーンソー1台、番線カッター3個、簡易トイレ(テント付)1張	町会防災倉庫	○					

団体名	食糧等の備蓄										その他の防災活動	
	レトルト食品類	カセットコンロ	その他災害用食料	非常用トイレ	照明	発電機	蓄電池セット	給水タンク	その他	保管場所		備蓄品配布先
深友会	60	1		4	2	2		4	炊出し用釜セット	町会防災倉庫 町会役員宅		
東深沢町会					1		1		かまどセット アルミ鍋(2)	町会防災倉庫	管内住民	
交和会	280								ビスコ(10個入り)1 3個、ストロー浄水 器6個、牛乳石鹸 (24個入)6箱	町会防災倉庫		
深沢三友会	100				1	1				町会倉庫		
新町公民会	50		100	300	5	1		40	消毒スーパーボルド 3ケース、ウェットタ オル48枚	防災倉庫	地域災害者	
桜新町親和会												
桜新町町会				○	○					町会防災倉庫	老人、幼児、 傷病者	
駒沢三丁目町会					2	2			石油ストーブ2台	町会防災倉庫		
駒沢町会						2						

3 深沢地区の課題と取り組み

課題1 命を守ること

課題1の(1)安否確認

■現状(地区の共通認識)

安否確認において、「自助・共助・公助」が重要である。

自助 = 自分の命、安全は自分で守る

共助 = 家族や地域コミュニティで共に助け合う

公助 = 行政による救助・支援

防災の基本は「自助」である。自分の命を守ることで、家族や友人・隣人を助けられることができる。そのための日常的な心構えや備えを進めていく。また、「自助」としてできることに限界があるため、「共助・公助」として、住民、事業者、区の相互連携の形で協力できるように、日ごろから連携方法や支援方法を確認しておく。

■地区の取り組み

- * 災害時は、まずは自助の意識。そのための備えを行う
- * 自助努力(安否確認をしてほしい人が自身の状況を知らせる)
- * 玄関等に安否を知らせる(黄色いタオル目印など)
- * 家族の中で集合場所や緊急時の連絡先を決めておく
- * 顔の見える関係づくり(近所付き合い、防災塾や防災訓練への参加など)
- * 挨拶、声掛け(防犯対策にもつながる)

- *近所の方々と助け合っていく仕組みづくり
- *地域コミュニティの形成(地域のイベントへの協力・参加)
- *住民、事業者、区の協力体制の構築
- *地区内の要配慮者の名簿作成(人数の把握など)
- *まちづくりセンター、あんしんすこやかセンター、社会福祉協議会、民生委員との協力体制の構築

課題1の(2)日頃からの備え

■現状(地区の共通認識)

これまでの震災では、家屋の倒壊や家具の転倒による圧死、窒息死が多く、事前の備えで生死が決まる。また、阪神・淡路大震災では倒壊した建物から救出され生き延びることができた人の8割が、家族や近所の住民等によって救出されている。そのため、日ごろから自分たちで対策や備えを徹底していくほか、対策等を地区全体に周知していく。

■地区の取り組み

- *災害情報の収集(テレビ・ラジオ・防災行政無線・区 HP・区防災ポータルなど、なるべく多くの収集方法を確認しておく)
- *家具の転倒防止対策の周知(防災訓練の場でPR、チラシの配布など)
- *地区の中でどこが危険か、どこに避難すべきかを周知(防災マップの作成、配布)
- *耐震診断、耐震強化の制度周知(防災訓練の場でPR、チラシの配布など)
- *防災講習会の実施(防災塾、日赤、防災士会ほか)
- *防災訓練の実施(防災対策に関心が薄い世帯への周知など)
- *瓦礫からの救出訓練の実施(防災塾、地区町連防災訓練ほか)

課題1の(3)避難経路

■現状(地区の共通認識)

速やかに避難場所に避難できるよう、配布している防災マップなどで、あらかじめ避難場所の位置を確認しておく。(危険箇所や迂回ルートを事前に確認)

■地区の取り組み

- * 避難経路や避難場所の確認
- * 危険箇所の把握(訓練の実施、まち歩き)
- * 防災マップの活用
- * 主幹道路を横切れない場合の避難経路、避難場所の確認

課題2 地区全体の安全の確保と被害が広がらないための対策

課題2の(1)初期消火

■現状(地区の共通認識)

深沢地区は、住宅密集地域であるため、発災時の初期消火は、被害の拡大を抑えるうえで重要である。そのため、可能な限り初期消火にあたる。日頃から訓練等を通じて経験することがとっさの行動に有効である。

■地区の取り組み

- * 普段の備え(風呂の水をためておく)
- * 消火訓練(消火器訓練、スタンドパイプ訓練など)
- * 火災を出さない(感震ブレーカーの普及PR、火災予防チラシの配布など)
- * 防災備品の備え(防災備品カタログの配布など)
- * スタンドパイプの増設、訓練
- * 火災予防の訓練実施、参加

課題3 助かった人の命と健康が守られること

課題3の(1)避難所で生活しないですむための対策

■現状(地区の共通認識)

避難所は、自宅に居住できなくなった被災者を一時的に受け入れ保護する場所であるほか、物資の集積、情報の拠点といった「地域の防災拠点」の役割がある。しかし、避難所の役割を理解していない住民が多いほか、避難所の数も足りていないのが現状である。そのため、自宅で居住の継続ができる状況であれば、在宅避難をする。また、配給された物資は、避難所生活者・在宅避難者を問わず公平に行き渡るよう考慮する。

■地区における取り組み

*避難所のあり方を理解する。避難所はスペース不足、プライバシーの確保が困難、感染症のリスク、ペットは別のスペースに滞在する等のデメリットがある。また、避難所は行政サービスではなく、避難者が運営の役割を担う必要がある。

*避難者自身で自主的に避難所運営ができる仕組みづくり(避難所運営訓練の実施、避難所運営マニュアルの整備)

※過去の災害で避難者が自主的に運営した避難所では復興が早かった

*1人最低3日分、できる限り1週間分の備蓄を用意する

備蓄品の例

水(1人1日3ℓ目安) 食料 スマホ充電器

カセットコンロ・ボンベ ライト トイレ(1人1日5回分目安) 常備

薬 乳幼児用品 ペット用品 など

ローリングストック

食料品や日用品など、普段使っているものを少し多めに購入し、古いものから順に使いながら常に一定の備蓄をキープしておく

課題3の(2)避難所運営の強化

■現状(地区の共通認識)

避難所は、狭いスペースでプライバシーやトイレ問題など過酷な場所である。

その中で、避難所を円滑に運営していくためには、地域住民、事業者(学校等)、区の三者があらかじめ共通認識を持ち、顔の見える体制づくりを図ることが必要不可欠である。

■地区における取り組み

- * 避難所運営訓練(災害の意識を持った具体的な内容の工夫)
- * 避難所運営強化に向けた避難所運営マニュアルや体制づくり
- * ストレス解消方法(ラジオ体操などの運動)
- * 避難所の建て替え要望
- * 日体大や駒大ほか地区にある施設との連携
- * トイレ設営訓練、トイレ運営方法の検討
- * 震災を想定した訓練内容の工夫(区画など)
- * 避難所の明かりの確保
- * 避難所の運営強化(大学生や高校生等発災後の支援=力)

課題3の(3)要配慮者への支援

■現状(地区の共通認識)

避難所運営にあたっては、特に要配慮者に十分配慮した避難所運営となるよう、想定をしておく必要がある。どう支援をしていくのか、民生委員や区とも連携し、

相互協力できるよう進めていく。

■地区における取り組み

- * 情報連携方法の確立、支援の仕組みづくり
- * 顔の見える関係づくり、定期的な訪問
- * 避難所への移送方法(動ける避難者に協力してもらう等)

課題4 地域の復興に向けた支援を早く受けられること

課題4の(1)避難所運営組織のリーダー

■現状(地区の共通認識)

避難所運営のマニュアルがあっても、日中は仕事等で地域に人がいないことが考えられ、人手不足やリーダー的存在がいなかったことが想定される。

誰でもリーダーとなれるよう実践的な訓練を行い、臨機応変に避難所運営ができる仕組みづくりを進めていく。

■地区における取り組み

- * 防災の知識を身に着ける研修や訓練の実践(リーダーの育成、地域の学校に通う生徒の保護者を対象にするなど。防災士の受講。)
- * 学校での防災教育の推進(防災訓練への参加、起震車体験など)
- * 専門的な研修の実施(避難所運営ワークショップの実施など)

祖師谷地区防災計画

[令和7年修正]

祖師谷地区

【祖師谷地区防災計画作成団体】

祖師谷第2自治会	祖師谷商店街振興組合
祖師谷第3自治会	祖師谷昇進会商店街振興組合
祖師谷第4自治会	世田谷区赤十字奉仕団祖師谷分団
祖師谷第5自治会	民生委員・児童委員協議会
祖師谷第6自治会	祖師谷地区社会福祉協議会
祖師谷千歳台自治会	祖師谷地区ごみ減量・リサイクル推進委員会
祖師谷住宅自治会	ミニコミ紙編集委員会
藤自治会	祖師谷あんしんすこやかセンター
千歳台睦町会	祖師谷児童館
千歳台南会	祖師谷小学校
祖師谷3丁目南町会	塚戸小学校
千歳中学校	

目次

1	祖師谷地区の特性	祖師谷-1(-716-)
	(1)自然特性	祖師谷-1(-716-)
	(2)社会特性	祖師谷-2(-717-)
	(3)地域危険度	祖師谷-4(-719-)
	(4)被害想定	祖師谷-5(-720-)
	(5)防災資源一覧	祖師谷-8(-723-)
	(6)防災資源マップ	祖師谷-9(-724-)
	(7)区民アンケート	祖師谷-10(-725-)
2	各団体の防災活動～現在の取組状況～	祖師谷-19(-734-)
3	祖師谷地区の課題と取り組み	祖師谷-24(-739-)
	(1)初期消火・延焼防止	祖師谷-25(-740-)
	(2)安否確認(要援護者含む)と情報収集	祖師谷-27(-742-)
	(3)救出救命と避難支援	祖師谷-29(-744-)

1. 祖師谷地区の特性

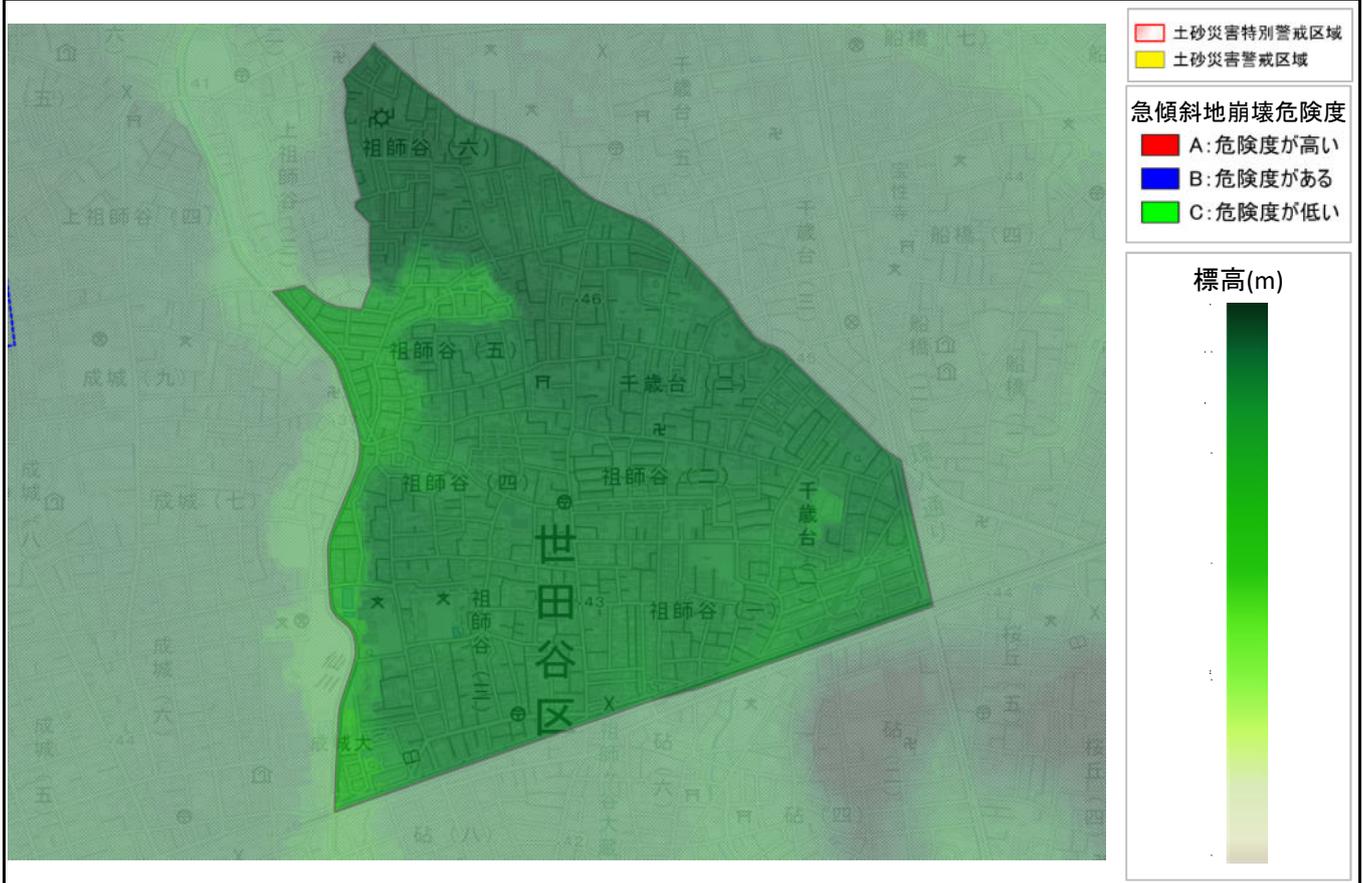
(1)自然特性

面積	1.67 Km ²	最高標高	47.4 m	最低標高	30.4 m
----	----------------------	------	--------	------	--------

位置



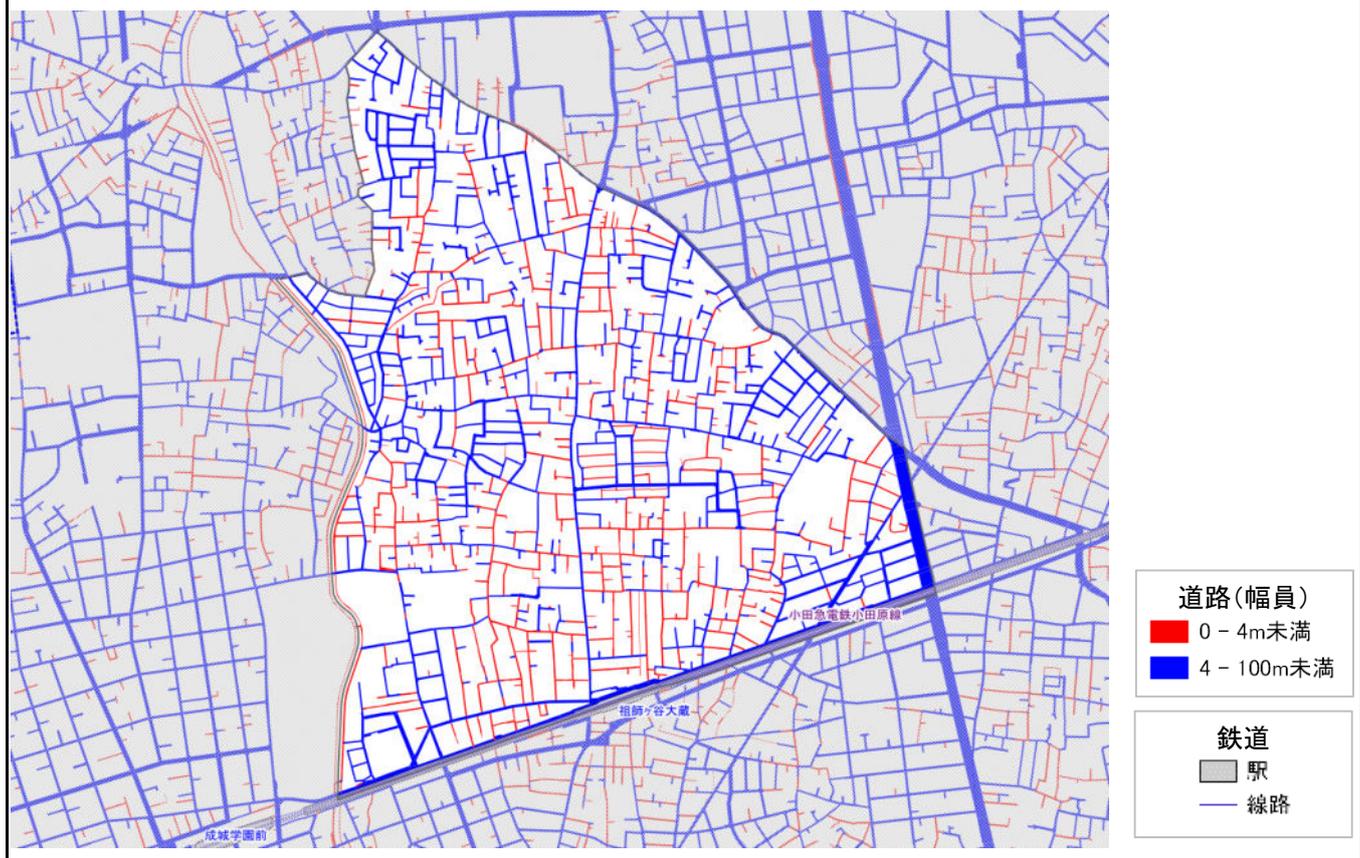
標高・急傾斜地崩壊危険度・土砂災害警戒区域等



(2)社会特性

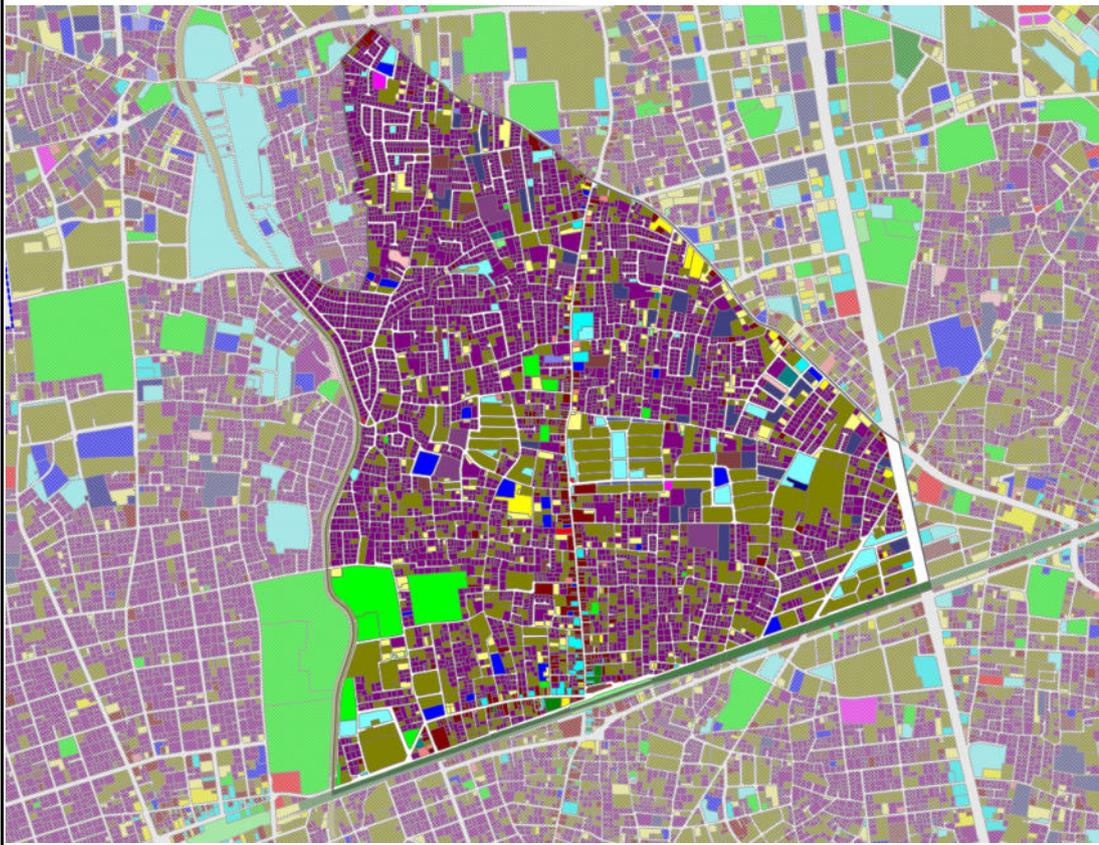
人口	26,464 人	細街路率	39.8 %	
世帯数	13,276 世帯	昭和56年以前木造建物棟数密度	83.3 棟/Km ²	
1世帯あたり	1.99 人	耐火率(建築面積ベース)	58.2 %	
若年層数(15才未満)	3,206 人	土地利用(宅地)	71.3 %	
若年層率(15才未満)	12.1 %	土地利用(宅地以外)	28.7 %	
高齢者数(65才以上)	6,015 人	鉄道駅	小田急小田原線祖師ヶ谷大蔵駅	
高齢者率(65才以上)	22.7 %			
昼間の人口	18,368 人	産業	商業	52.2 %
夜間の人口	27,409 人		工業	6.9 %
昼夜間人口比	0.67 -		農業	41.0 %
町会・自治会数	11 -			

道路・公共交通機関



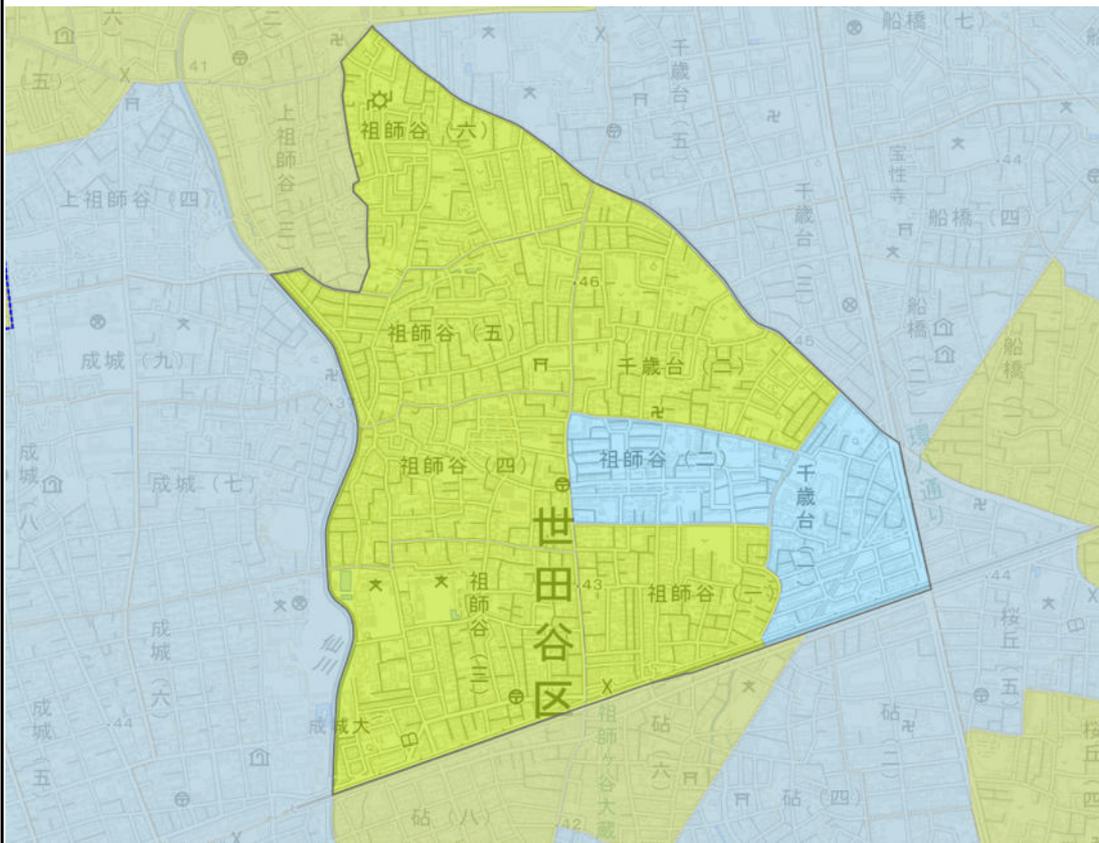
(2)社会特性

産業



(3)地域危険度

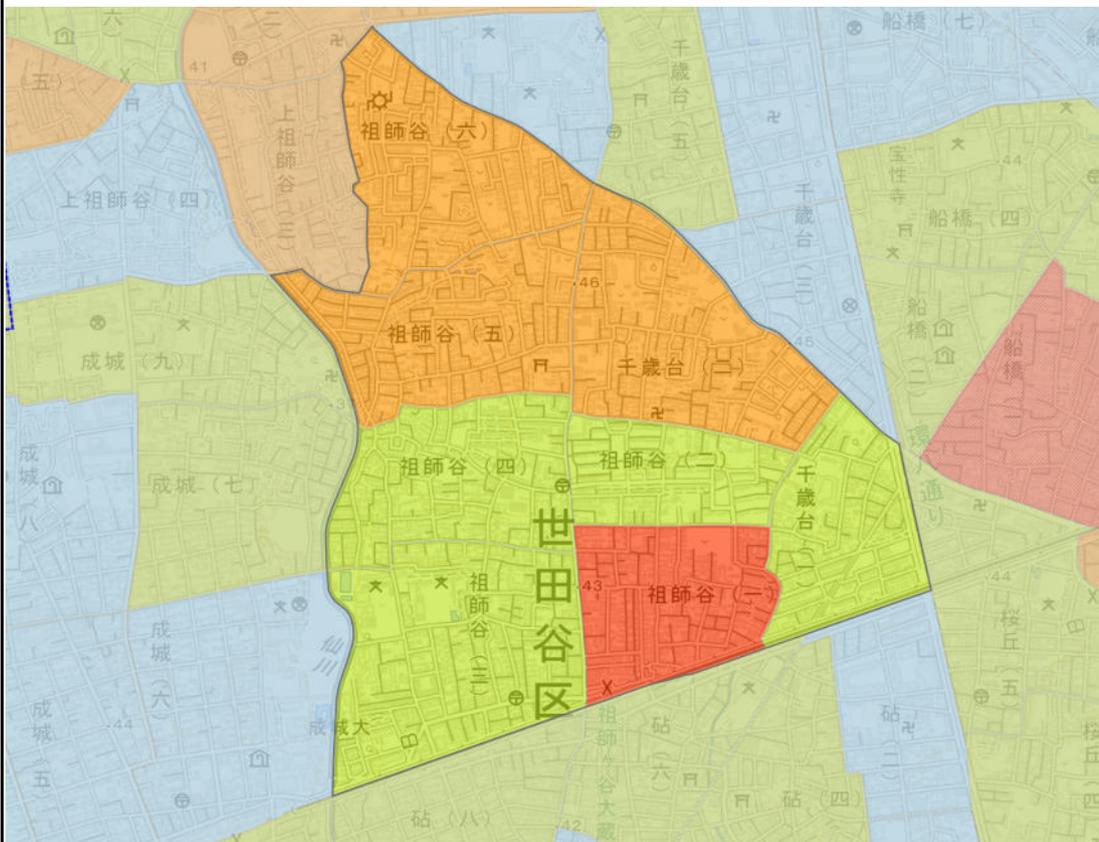
建物倒壊危険度



建物倒壊危険度



火災危険度



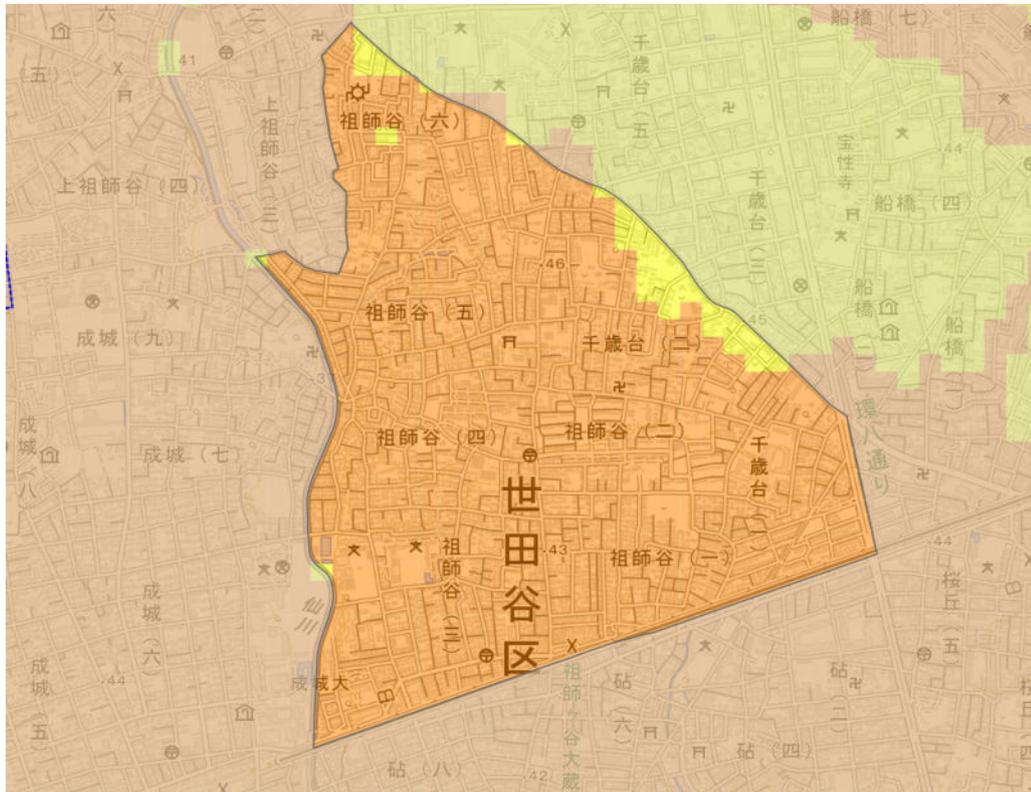
火災危険度



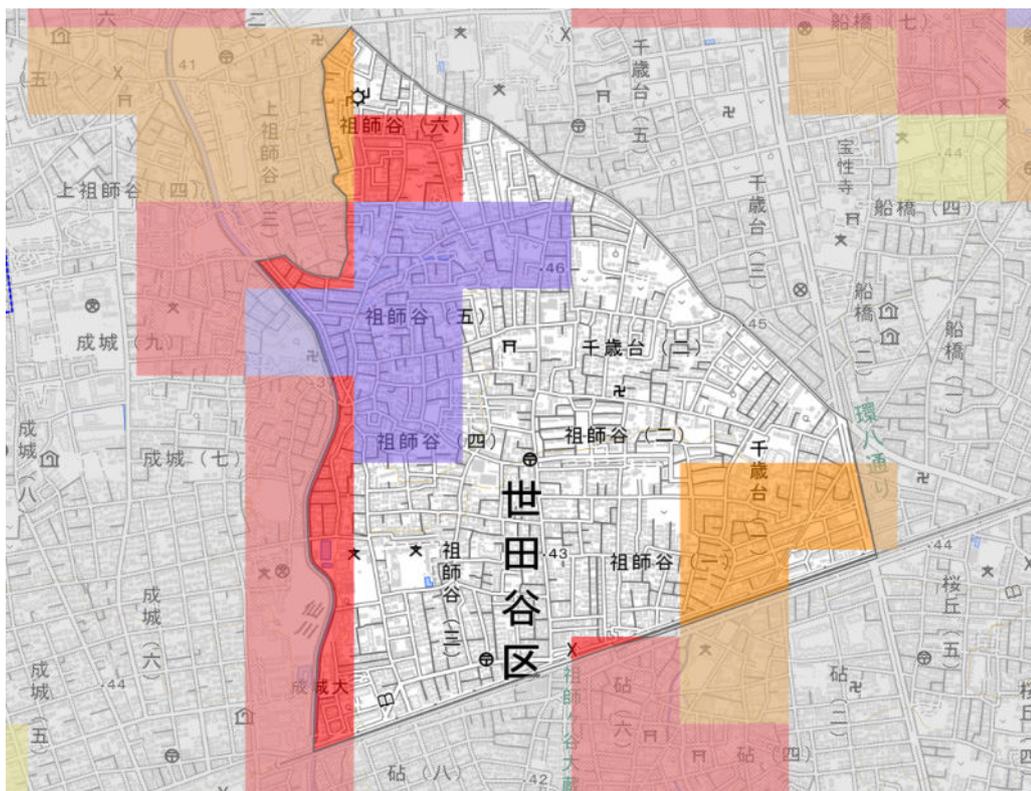
(4)被害想定

全壊棟数	174 棟	死者	27 人
半壊棟数	515 棟	負傷者	303 人
全焼棟数(倒壊建物含まず)	1,130 棟	うち重傷者	52 人

震度分布

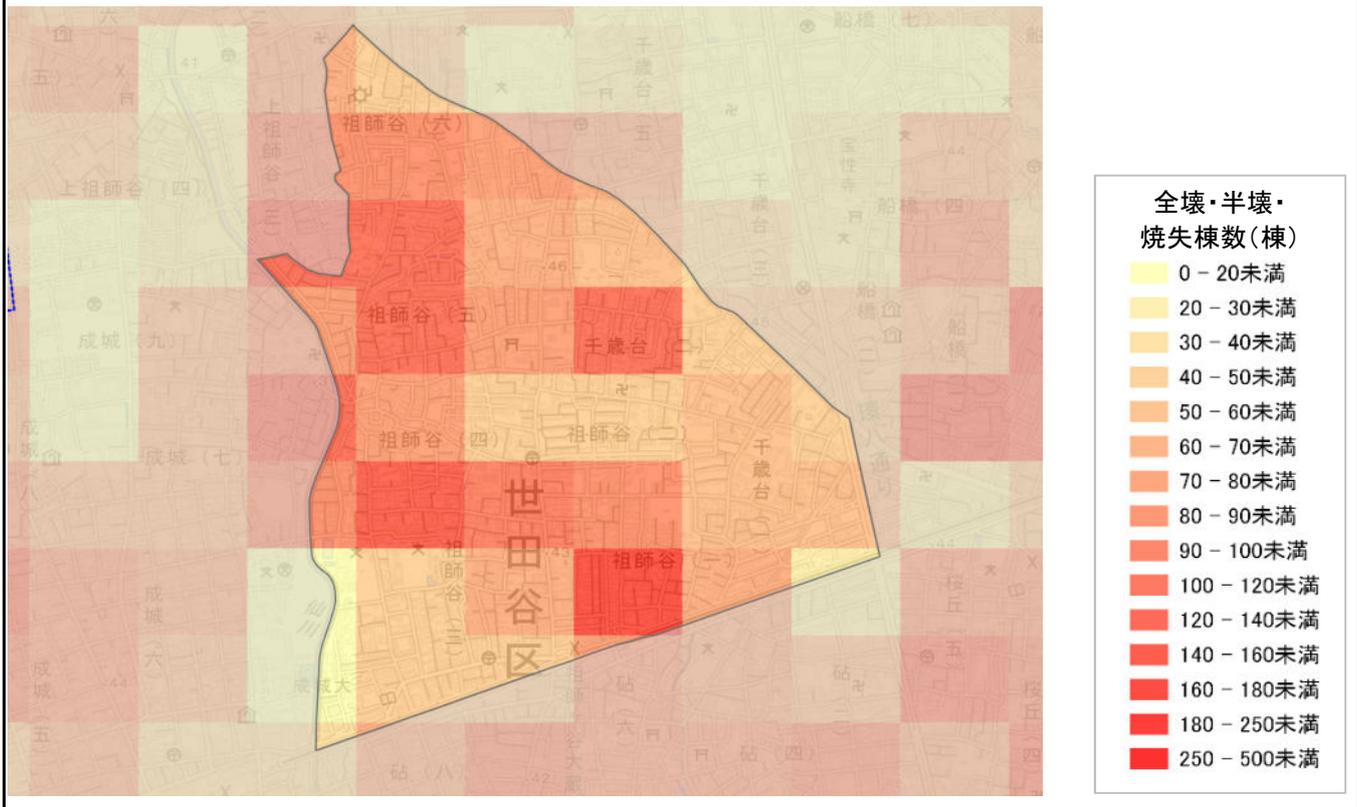


液状化分布



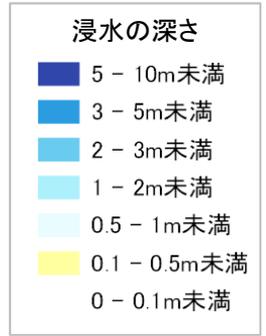
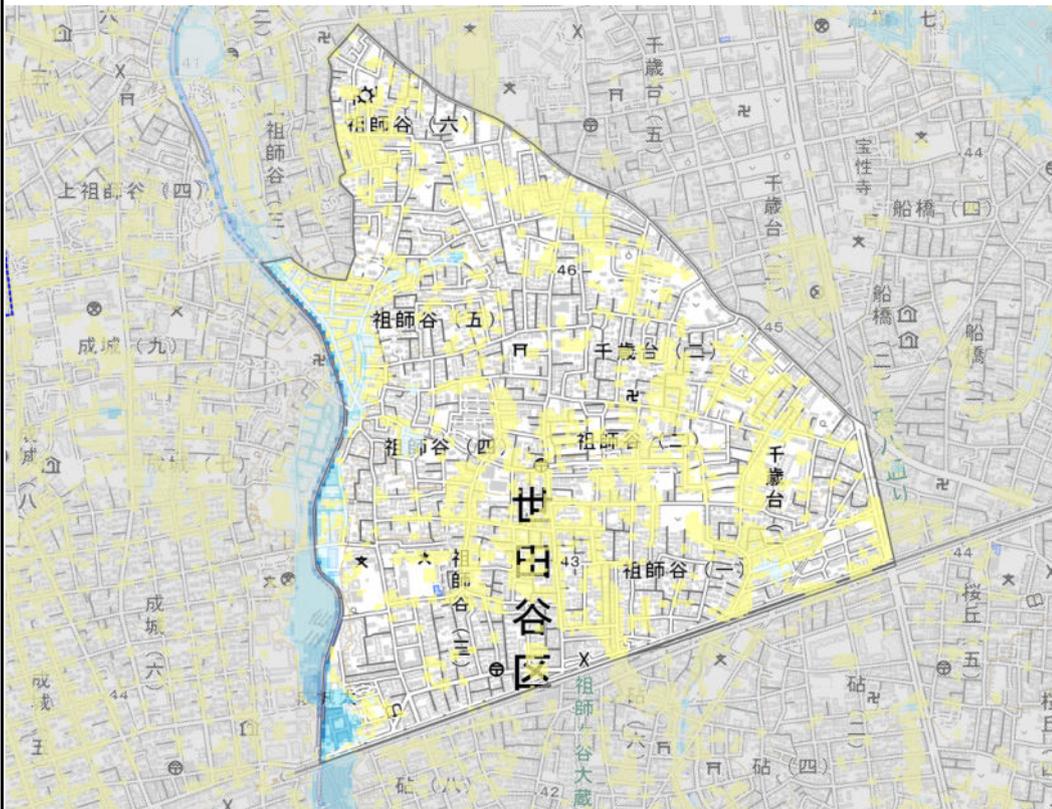
(4)被害想定

被害棟数分布

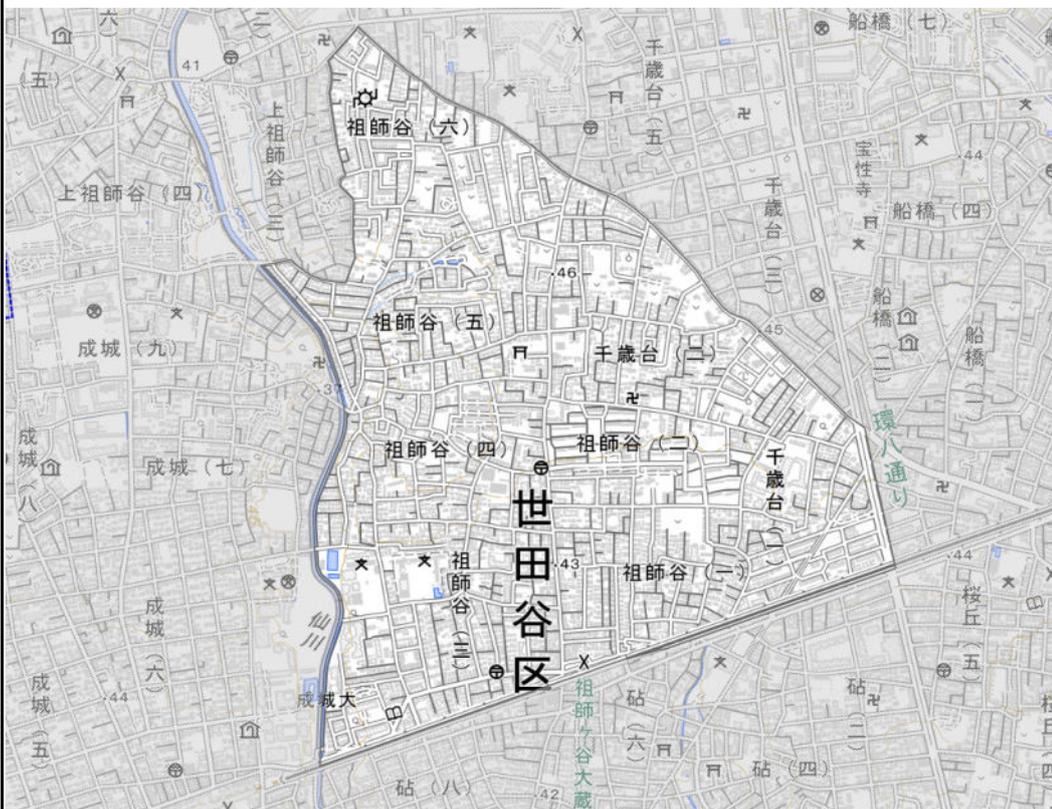


(4)被害想定

浸水想定(内水氾濫・中小河川洪水版)



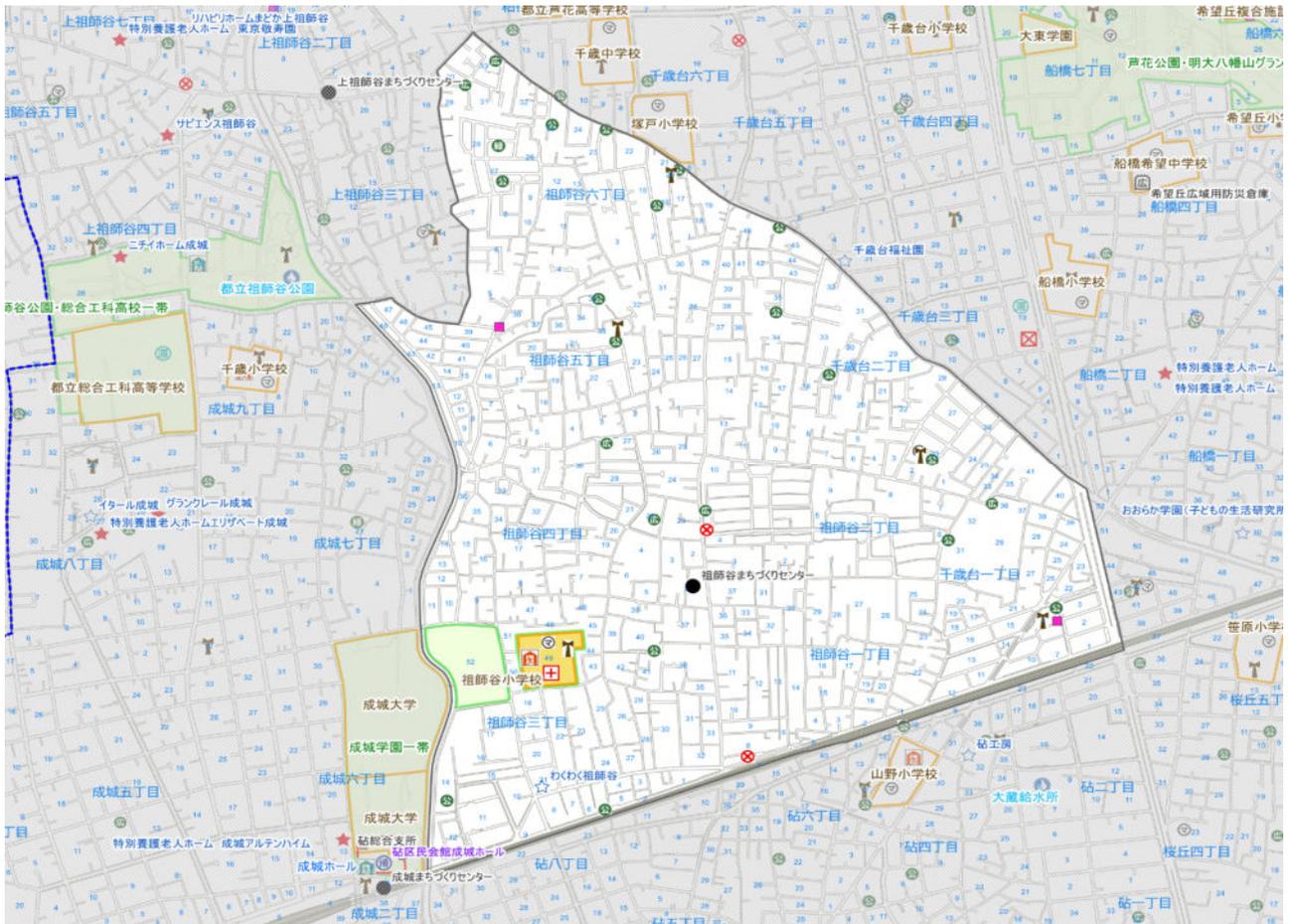
浸水想定(多摩川洪水版)



(5)防災資源一覧

広域避難場所	成城学園一帯			
一時集合所	廻沢南児童遊園 笠森公園 区立祖師谷六丁目広場 上祖師谷公園 祖師谷3丁目公園 祖師谷3丁目南みちばた公園 祖師谷公園 祖師谷小学校校庭 祖師谷神明社境内 中央広場集会所前 塚戸公園 塚戸小学校校庭 都営住宅集会所周辺			
指定避難所	祖師谷小学校 塚戸小学校 千歳中学校			
予備避難所				
福祉避難所(母子)				
福祉避難所(高齢者)				
福祉避難所(障害者)	わくわく祖師谷			
水害時避難所(第1次)	祖師谷小学校	野川・仙川洪水時避難所		
水害時避難所(第2次)				
土砂災害時避難所				
避難所救護所	祖師谷小学校			
東京都災害拠点病院				
東京都災害拠点連携病院				
緊急医療救護所				
一時滞在施設				
一時避難施設(車中避難)			帰宅困難者支援施設	0 ヶ所
ボランティアマッチングセンター				
マンホールトイレ	4 ヶ所	防災行政無線塔	5 ヶ所	緑地 1 ヶ所
輸送拠点				
給水拠点				
広域用防災倉庫				
土のうステーション	笠森公園 祖師谷六丁目三叉路バス停横			
警察署・交番	祖師谷大蔵交番 祖師谷地域安全センター			
消防署・出張所				

(6)防災資源マップ



- | | |
|--------------------|-------------------|
| ◎ 総合支所 | ■ 広域避難場所 |
| ● まちづくりセンター | ■ 指定避難所 |
| ⊕ セタがや災害ボランティアセンター | ■ 予備避難所 |
| ⊠ 広域用防災倉庫 | ■ 福祉避難所(母子) |
| ⊙ 給水拠点 | ★ 福祉避難所(高齢者) |
| T 防災行政無線塔 | ☆ 福祉避難所(障害者) |
| Ⓜ マンホールトイレ | 🏠 水害時避難所(第1次) |
| ■ 土のうステーション | 🏠 水害時避難所(第2次) |
| 🚓 警察署 | 🏠 野川・仙川洪水時避難所 |
| 🚔 交番 | 🏠 水害時避難所(狛江市) |
| 🚒 消防署 | 🏠 水害時避難所(調布市) |
| 🚒 消防出張所 | 🏠 土砂災害時避難所 |
| 🏠 身近な広場 | 🏠 避難所救護所 |
| 🌳 公園 | 🏠 東京都災害拠点病院 |
| 🌿 緑地 | 🏠 東京都災害拠点連携病院 |
| | 🏠 緊急医療救護所 |
| | 🏠 一時滞在施設 |
| | 🏠 帰宅困難者支援施設 |
| | 🏠 ボランティアマッチングセンター |
| | 🏠 輸送拠点等 |
| | 🏠 一時避難施設(軍中避難) |

出典

世田谷区土砂災害ハザードマップ 令和6年7月発行

世田谷区の町丁目別人口と世帯数 令和6年3月1日

世田谷区の年齢別人口 令和6年3月1日

世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ(多摩川洪水版、内水氾濫・中小河川洪水版)令和6年7月発行

世田谷の土地利用2021 世田谷区土地利用現況調査

世田谷区GISオープンデータ

令和2年国勢調査による 東京都の昼間人口(従業地・通学地による人口)第11表

地域危険度一覧表(地震に関する地域危険度測定調査[第9回]) 令和4年9月

首都直下地震等による東京の被害想定 報告書 令和4年5月25日

世田谷区防災マップデータ 令和6年3月

(7)区民アンケート(祖師谷地区)

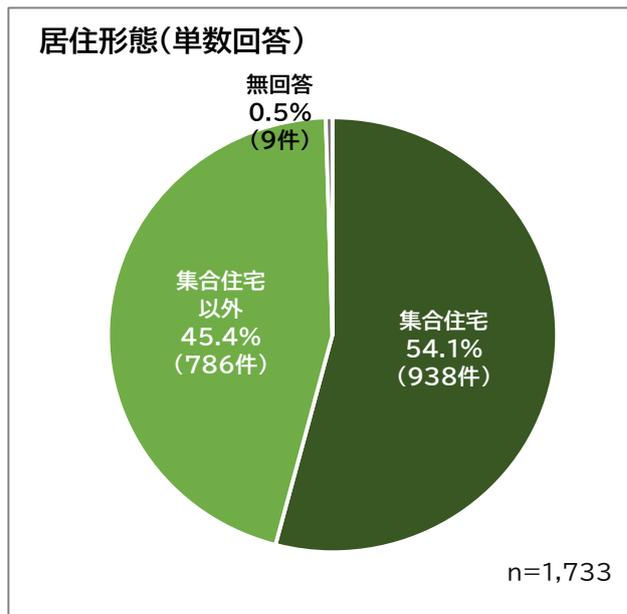
このアンケートは、今後の区内各地域及び地区における災害関連施策の検討や取組みに活用することを目的として、令和6年度に災害対策課が実施した「在宅避難支援事業(防災カタログギフト)」に合わせて行ったものである。

なお、以下に記載している回答集計結果は、カタログギフト申込者のうち、WEBで申し込みをした区民へ任意での回答を依頼し、令和6年8月9日から9月8日までに回収できた分である。

単純集計(1/5)

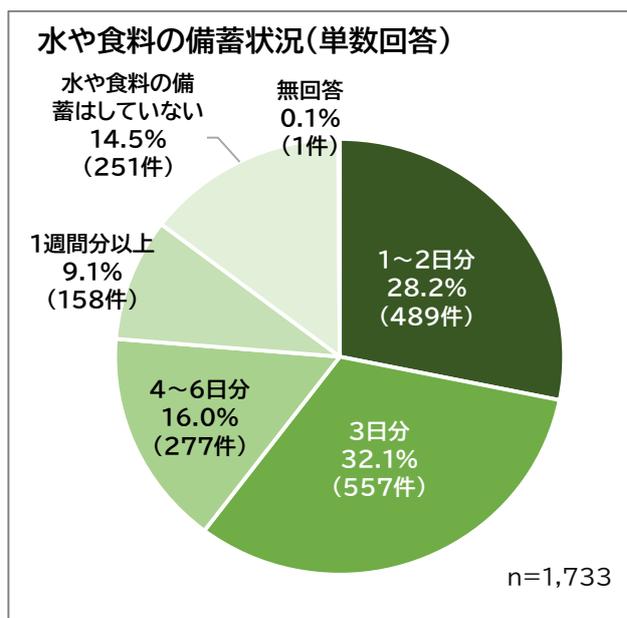
居住形態

【1】あなたはマンションなどの集合住宅にお住まいですか。



水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。

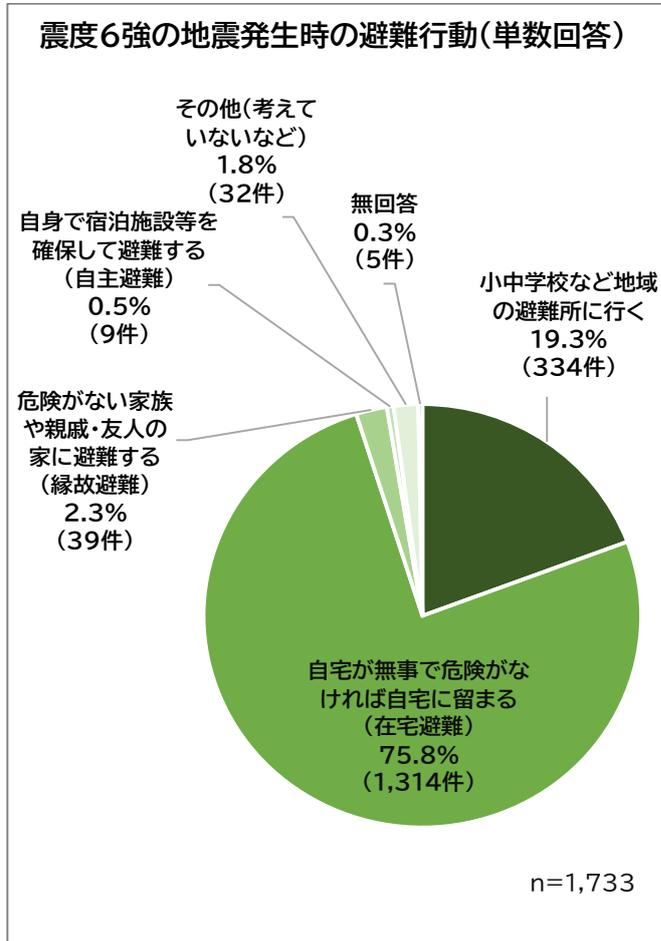


(7)区民アンケート(祖師谷地区)

単純集計(2/5)

震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



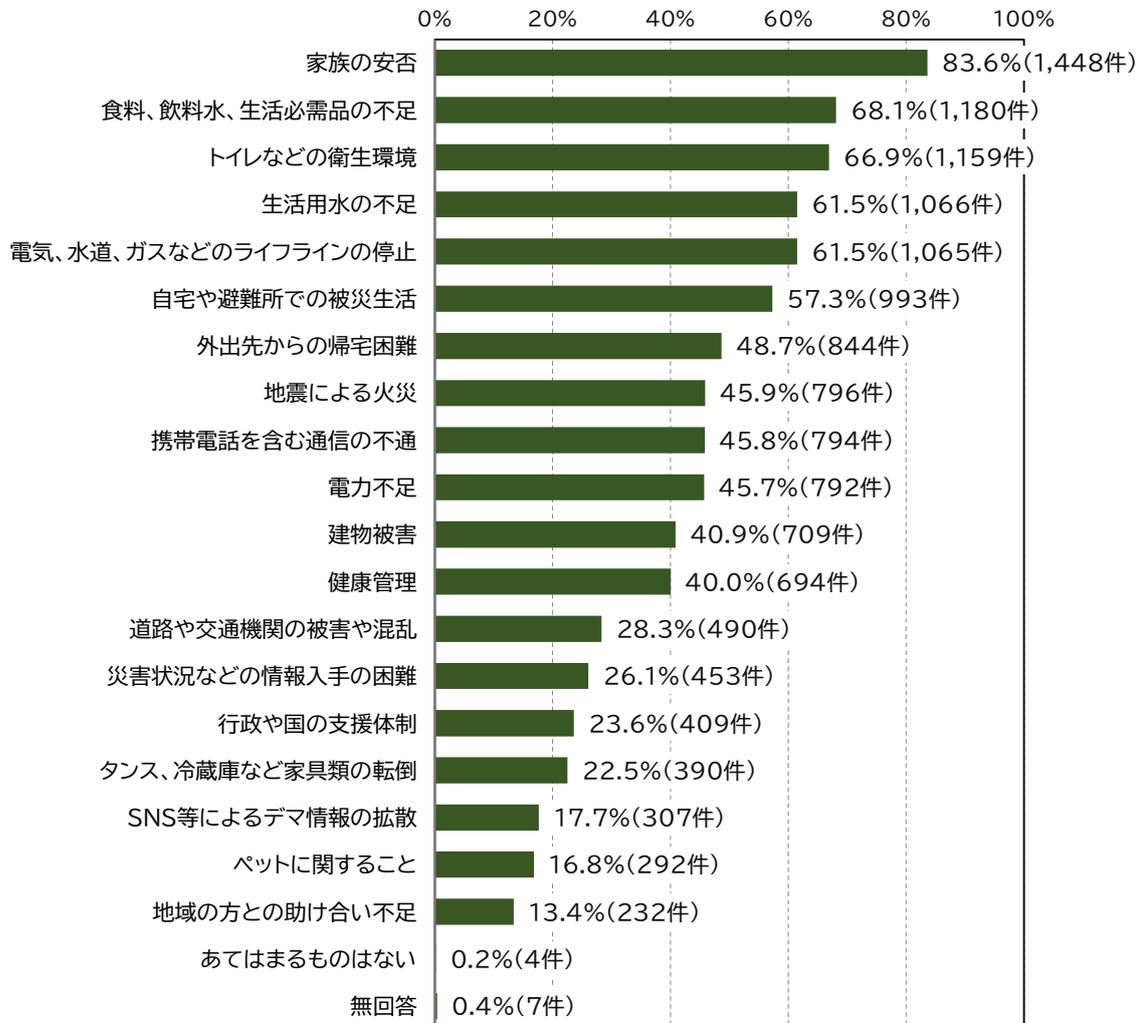
(7)区民アンケート(祖師谷地区)

単純集計(3/5)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

災害時の心配ごと(複数回答)



n=1,733

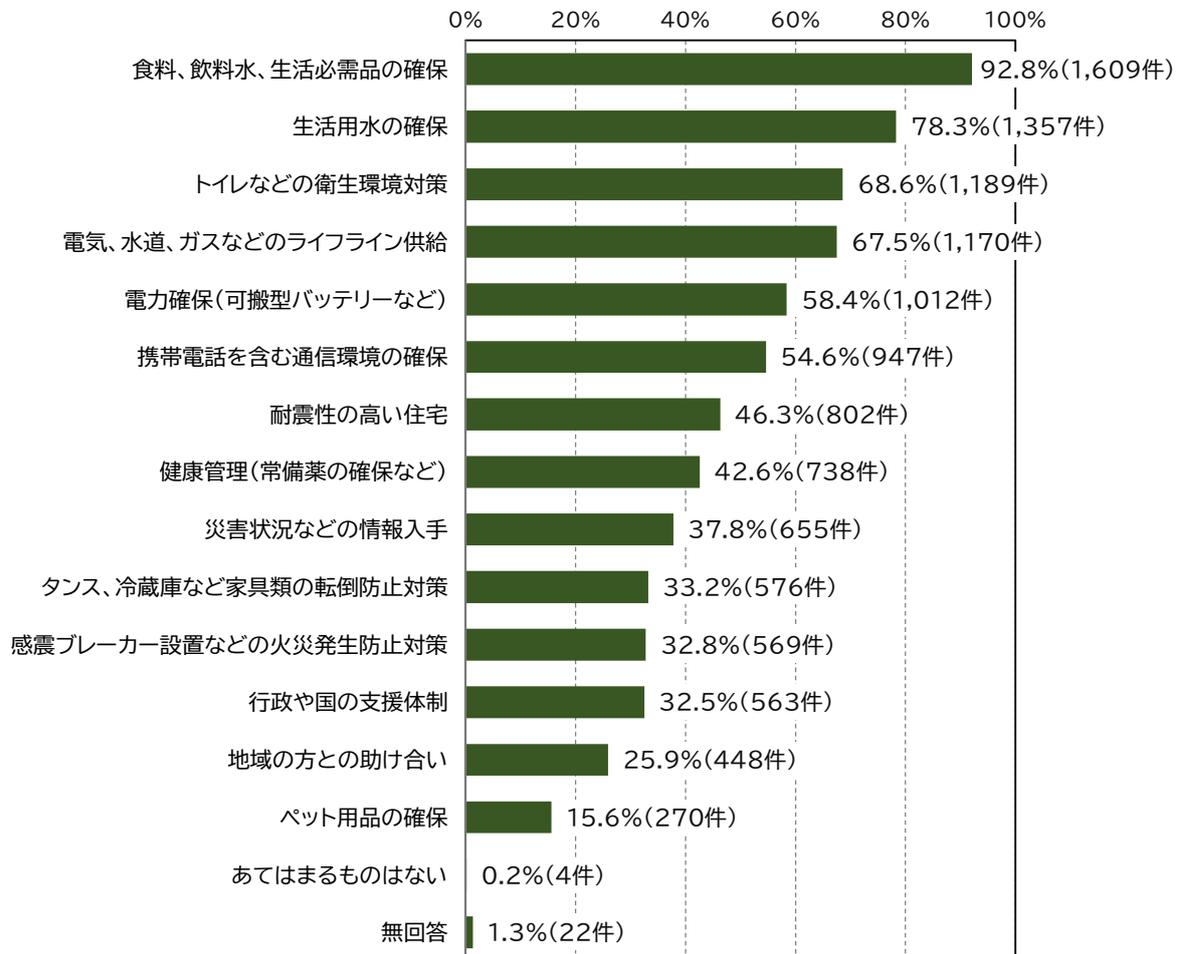
(7)区民アンケート(祖師谷地区)

単純集計(4/5)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

在宅避難をするために必要だと思うこと(複数回答)



n=1,733

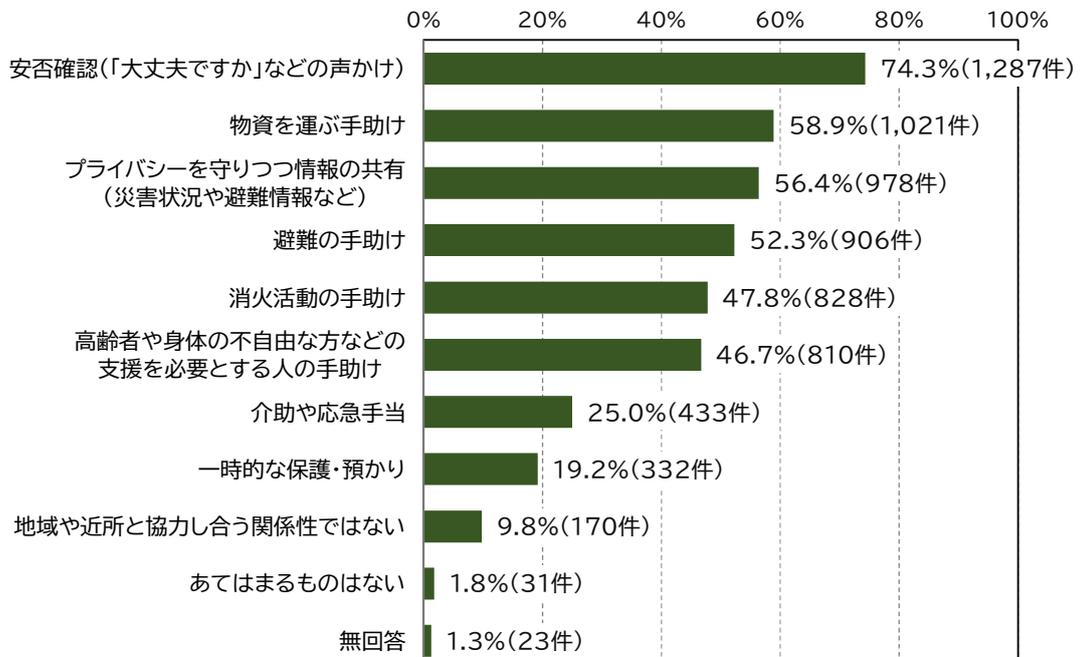
(7)区民アンケート(祖師谷地区)

単純集計(5/5)

災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。

災害時にできる住民同士の支援(複数回答)

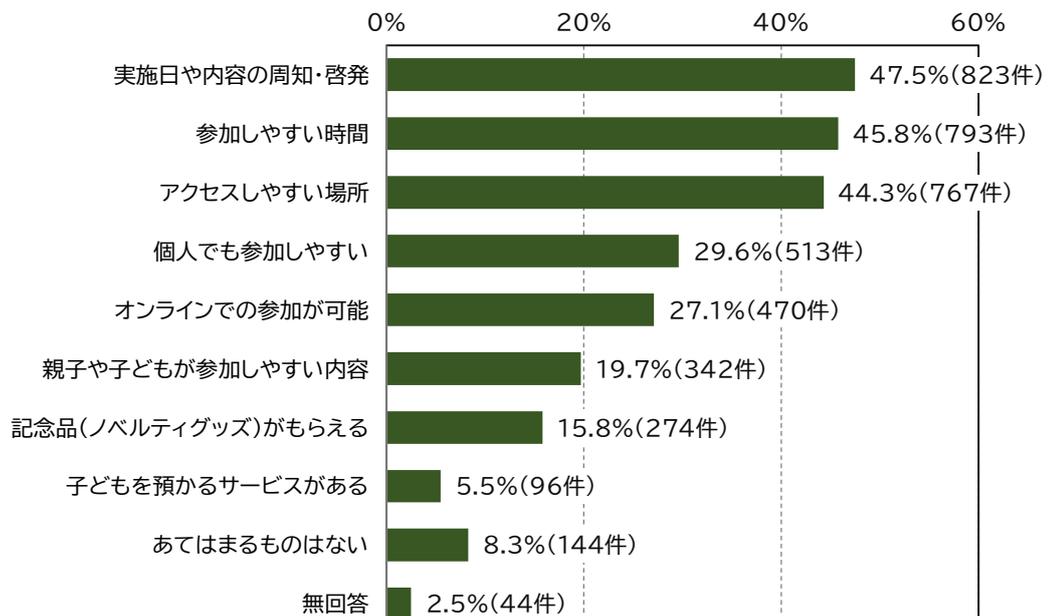


n=1,733

防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加したいと思いますか。

防災訓練や防災教室への参加意向(複数回答)



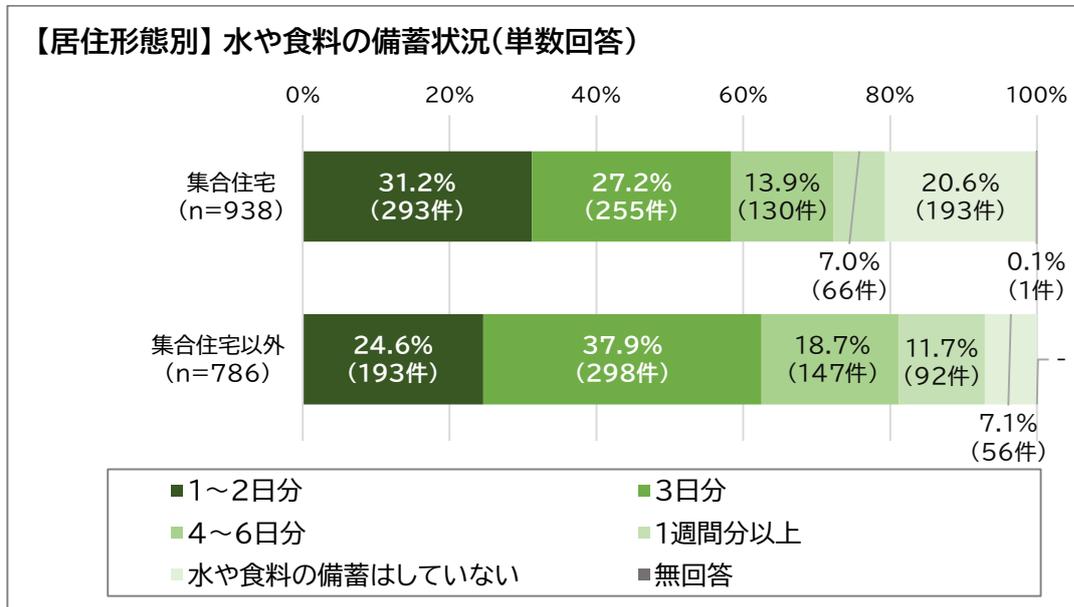
n=1,733

(7)区民アンケート(祖師谷地区)

クロス集計(1/4)

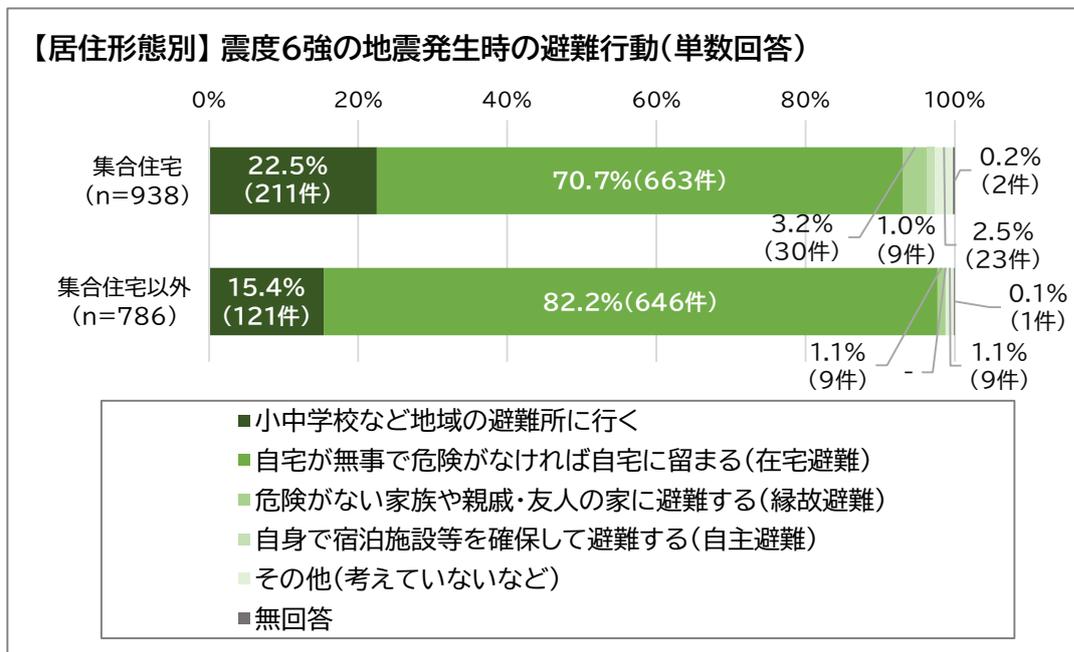
水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。



震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



(7)区民アンケート(祖師谷地区)

クロス集計(2/4)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。



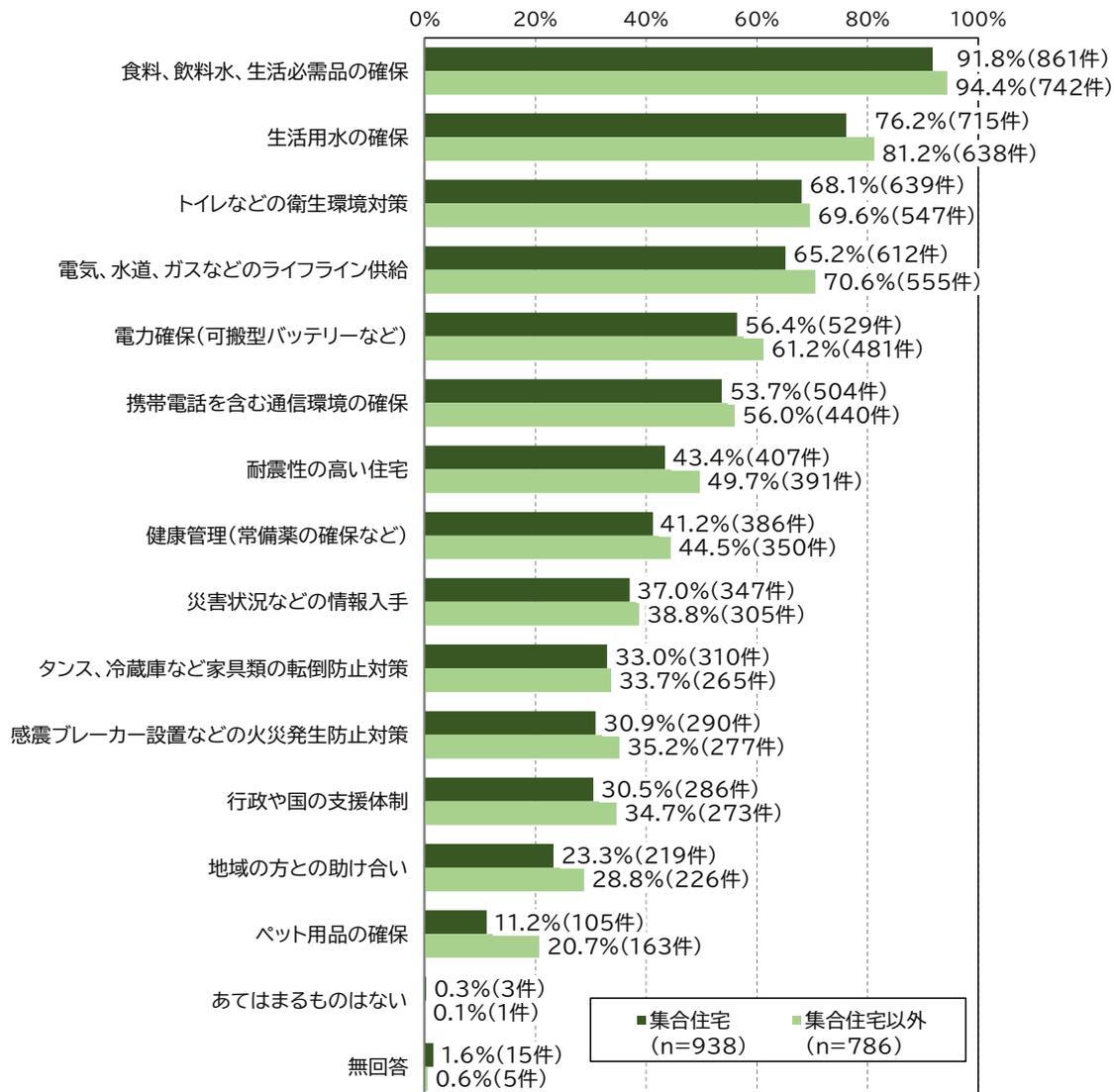
(7)区民アンケート(祖師谷地区)

クロス集計(3/4)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

【居住形態別】在宅避難をするために必要だと思うこと(複数回答)



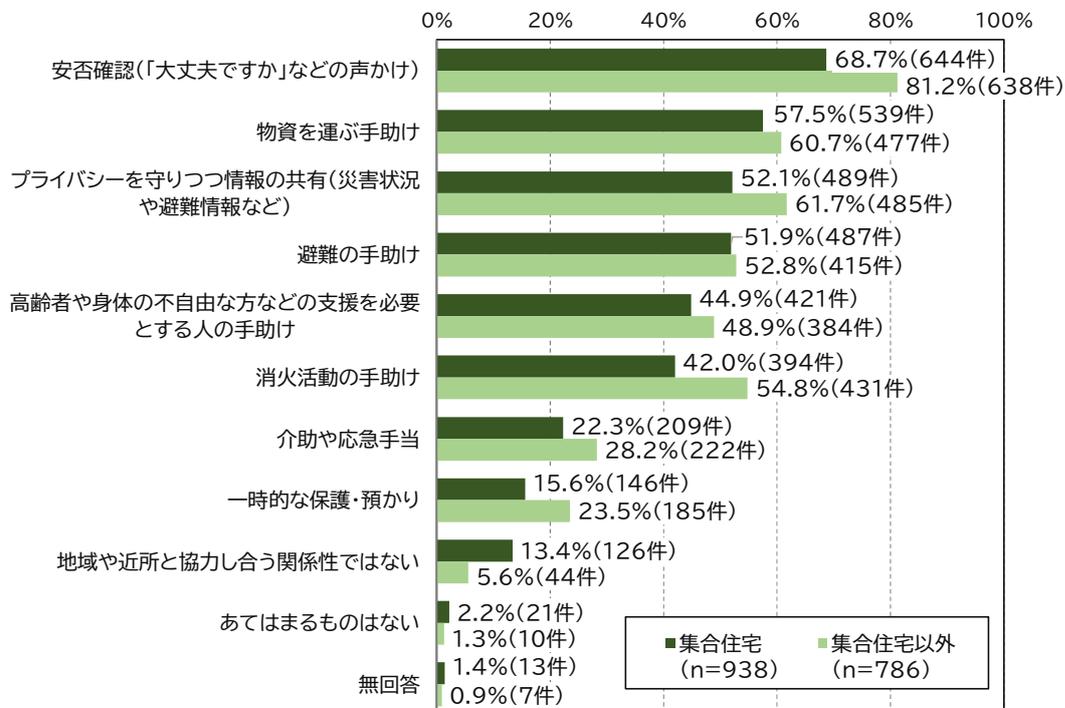
(7)区民アンケート(祖師谷地区)

クロス集計(4/4)

災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。

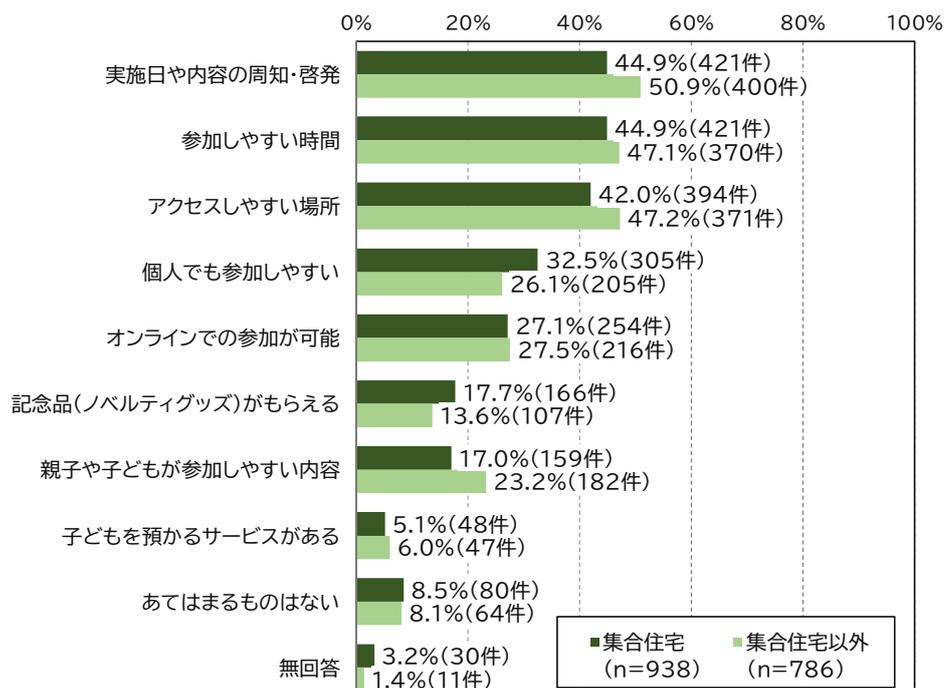
【居住形態別】災害時にできる住民同士の支援(複数回答)



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加したいと思いますか。

【居住形態別】防災訓練や防災教室への参加意向(複数回答)



2 各団体の防災活動～現在の取組状況～

団体名	防災担当者数		防災に関する会議				防災活動、資機材配備等の実施		消火資機材の配備							
			会議名	(実施回数)	実施している	実施していない	配備している	配備していない	スタンドパイプ		D型ポンプ		消火器		その他	
									数量	場所	数量	場所	数量	場所	名称	場所
祖師谷第二自治会	8	○	第二自治会防災会議	1	○	○			2	祖師谷地区会館、会員宅	1	幸野メディカルクリニック内防災倉庫	11	役員宅		祖師谷地区会館内備蓄倉庫
祖師谷第三自治会	18	○	自治会防災対策部会議	6	必要に応じて	○	○			5	会員宅	0	山野公園内自治会防災倉庫		防火防災服6セット	山野公園内自治会防災倉庫
祖師谷第四自治会	8	○	祖師谷第四自治会役員会 祖師谷第四自治会防災部会	6	2	○	○			5	廻沢南公園内防災倉庫、会員宅、倉庫	1	廻沢南公園内自治会防災倉庫		防火衣2セット	廻沢南公園内自治会防災倉庫
祖師谷第五自治会	6	○	第五自治会拡大理事会 第五自治会防災	6	3	○	○			1	神明社内自治会防災倉庫	1	神明社内自治会防災倉庫			
祖師谷第六自治会	6	○	祖師谷第六自治会役員会 祖師谷第六自治会班長会議	6	4	○	○			9	担当地域内に分散配置	3	2基第六防災倉庫(祖師谷5-22)1基公社祖師谷住宅内防災倉庫		防火防災服6セット	自治会防災倉庫
祖師谷住宅自治会	8	○	自治会防災訓練	1	○	○			1	集会所			46	各棟階段2ヶ所		
祖師谷千歳台自治会		○	防災担当者会議	6	○	○			3	塚戸公園内防災倉庫 つりがね池公園	1	塚戸公園内自治会防災倉庫				
祖師谷3丁目南町会	3	○	祖師谷3丁目南町会防災担当者会議	6	○	○			1	町会防災倉庫			58	各会員宅	スプレー型消火用具	各会員宅
藤自治会	5	○	藤自治会防災担当者会議	2	○	○			1	自治会防災資材倉庫	1	自治会防災資材倉庫				
千歳台南会	10	○	千歳台南会防災本部	3	○	○			2	町会内マンション玄関脇	1	町会防災倉庫	1	(水道消火器)	町会内マンション玄関脇	
千歳台睦町会	6	○	役員会(役員会諸問題の一つとして実施。)	12	○	○			1	町会防災倉庫	1	町会防災倉庫				
祖師谷商店街振興組合	12	○			○	○			1	祖師谷大蔵交番裏歩道上			2	商店街振興組合事務所		
シャルム成城管理組合 防災部													46	各戸		

団体名	防災訓練等の実施							防災マップ																	
	実施している	実施していない	防災訓練		救命救急講習会		その他		作成済	作成中	作成検討中	作成予定なし	掲載情報							その他					
			回数	実施場所	回数	実施場所	訓練名称	実施場所					広域避難場所	避難所	街路消火器	防火水栓	震災用井戸	消火栓							
祖師谷第二自治会	○		1	幸野メディカルクリニック敷地内	1	祖師谷地区会館			○																
祖師谷第三自治会	○			自治会内路上					○				○	○	○	○	○							○	防災倉庫、スタンドパイプ設置場所、その他必要なこと
祖師谷第四自治会	○		2	廻沢南公園、町内を順次					○				○	○	○	○	○								
祖師谷第五自治会	○		1	公社祖師谷住宅集会所前広場 (公社祖師谷住宅自治会、祖師谷商店街昇進会振興組合等と合同で実施)	1	公社祖師谷住宅集会所			○				○	○	○	○	○								
祖師谷第六自治会	○		3	成城消防署千歳出張所、公園等					○															○	スタンドパイプ設置場所、D級ポンプ設置場所
祖師谷住宅自治会	○		1	敷地内広場	1	敷地内集会所							○												
祖師谷千歳台自治会	○		1	上祖師谷パンダ公園	1	上祖師谷パンダ公園			○				○	○	○	○	○								
祖師谷3丁目南町会	○		1	ふれあいセンター					○																
藤自治会	○		2	自治会内路上、祖師谷公園親水テラス									○												
千歳台南会	○		1	笠森公園 (千歳台睦町会と合同で実施)					○				○	○											
千歳台睦町会	○		1	笠森公園 (千歳台南会と合同で実施)									○												
祖師谷商店街振興組合	○												○												
シャルム成城管理組合 防災部	○												○												

団体名	防災士等の数			災害時連携・協定 (区を除く)				避難行動要 支援者協定			避難行動要支援者対策			連絡手段の確保			防災活動に関するマニュアル (避難所運営マニュアルを除く)						
	防災士	把握していない	地域防災リーダー	把握していない	他団体との連携	協定締結	特になし	連携先・内容	協定先・内容	締結している	検討中である	予定はない	見守り活動の 要支援者体験	その他	待たない 待たない	簡易無線 作成・整備	連絡網の その他	策定済み	策定中	検討中	予定なし	名称	
祖師谷第二自治会	0		1				○			○						○	○				○		
祖師谷第三自治会		○		3			○							班ごとに把握		3	無線の活用	○					災害時行動マニュアル
祖師谷第四自治会	0						○							・ブロックごとに把握 ・ブロックごとの地図作成中		○	○				○		
祖師谷第五自治会	0		1				○			○						4	無線の活用 (検討中)				○		
祖師谷第六自治会	0		0				○				○					○	○				○		
祖師谷住宅自治会	1		0				○			○						○						○	
祖師谷千歳台自治会	1			2			○			○						○					○		
祖師谷3丁目南町会	1						○			○						○	各班長を 通じ緊急連絡 をする事 になっている。				○		
藤自治会				○			○			○						○	○				○		
千歳台南会	2			4			○			○						○	○				○		
千歳台睦町会							○			○						○	○					○	
祖師谷商店街振興組合		○		○			○			○				夜警(月1回)							○		
シャルム成城管理組合 防災部		○		○			○			○						○						○	

団体名	救出救助に係る資機材の配備														食糧等の備蓄															
	配備していない	配備している	リアカー	はし	脚立	担架	救急セット	ヘルメット	救助工具セット	ボール	スコップ	手おの	のこぎり	ジャッキ	両口ハンマー	ツルハン	その他	保管場所	備蓄していない	備蓄している	アルファ米	ビスケット・乾パン	おかゆ	飲料水	缶詰類	レトルト食品類	カセットコンロ	災害用食料	その他	
祖師谷第二自治会	○	1	1	1	1	2	18	1	1	1				1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	80
祖師谷第三自治会	○	2					15	1	1	1	1	1	1	1	1	1													○	
祖師谷第四自治会	○	1			1	1	15	1	1	1	1	1	1	1	1	1														
祖師谷第五自治会	○	2			1	1	4								1										40				256	
祖師谷第六自治会	○	2			1		20	1				1																		
祖師谷住宅自治会	○		1	3	1	1	20		1	1	1	1				1														
祖師谷千歳台自治会	○	1		1	4	1	14	1	3	9	2	1	1	1	1														2	
祖師谷3丁目南町会	○	1				3	5	1																						
藤自治会	○	2	○	○	○	○	7		1						1															
千歳台南会	○	1						1																						
千歳台睦町会	○	2	1			2	2	10	○																					
祖師谷商店街振興組合	○						○	○																						
シャルム成城管理組合 防災部	○						○	○																						

団体名	食糧等の備蓄							その他の防災活動	
	非常用トイレ	照明	発電機	蓄電池セット	給水タンク	その他	保管場所		備蓄品配布先
祖師谷第二自治会	90	10				簡易トイレ5セット、20リットルポリタンク5個、携帯トイレ100個以上	祖師谷地区会館内備蓄倉庫	祖師谷第二自治会住民	
祖師谷第三自治会	3	1				テント、毛布、寝袋、LEDライト、バケツ、炊き出し用具、食器類、蓄電池、ソーラーパネル	山野公園内自治会防災倉庫		・災害時の初動対応体制づくりや、情報収集の方法を検討中、安否確認の取り組みを令和4年度より実施 ・自治会だよりや防災訓練時に会員の防災意識の向上を図り、備え・注意点を啓発・喚起する。 ・自治会内に区広報板がない。防災の観点からも必要と考え、自治会の掲示板を5か所に設置
祖師谷第四自治会	100	1	1	1		災害本部テント3	廻沢南公園内自治会防災倉庫		・近助を目的とした日頃のコミュニケーション体制づくりを検討
祖師谷第五自治会	2					男女大人用おむつ300 男女子ども用おむつ304 45リットルポリバケツ1	祖師谷4丁目防災倉庫、神明社内自治会防災倉庫		火災予防、初期消火を重視。(家庭用消火器の購入を指示している。)
祖師谷第六自治会	○	○					自治会防災倉庫(祖師谷5丁目公園)		「安否確認カード」掲載訓練
祖師谷住宅自治会		1	4				防災倉庫	祖師谷住宅全戸住民に水、缶詰類、非常持出リュック一式	
祖師谷千歳台自治会	100	○	1			簡易テント1	塚戸公園内自治会防災倉庫	祖師谷千歳台自治会管轄住民	
祖師谷3丁目南町会	○	○				毛布、サバイバルプランケット12、スリーピングバック5、ポリバケツ15	町会防災倉庫		
藤自治会	9	2	0	1	0	携帯トイレ800			
千歳台南会		3				ラジオ1、警告灯4、ハンドマイク4	町会防災倉庫	会員に毎年防災グッズ一品を配布	・毎年防災アンケートを実施。町会員の防災意識や備えの現状把握に努める。 ・安否確認と震災情報周知に注力。子ども引取り、防災アプリ使用普及に努める。 防災訓練に震災臨時掲示板の活用を進める。
千歳台睦町会		3	2						
祖師谷商店街振興組合	5	4				簡易ベッド1	商店街振興組合事務所		他団体の防災訓練へ参加 地元消防団との交流
シャルム成城管理組合 防災部									

3 祖師谷地区の課題と取り組み

- 小田急線北側に位置し、面積は 1.67 km²、△おにぎり形の地区。地区は祖師ヶ谷大蔵駅を起点に、南北に走る祖師谷通りを挟む賑やかな商店街、背後には多くの木造戸建て住宅が並ぶ住宅地域である。
- 地区内は 11 の小・中規模(会員世帯約 100～700 世帯)の町会・自治会が、地区町会自治会会連合会の下で、地域全体の活動に加えてそれぞれ地域の特性を活かし独自に運営している。
- 地区町会自治会連合会では、令和 4 年度に広域火災発生時の緊急通報を目的として簡易無線機を整備しており、災害時での迅速な情報伝達、情報収集の手段としている。
- 地区では、首都直下地震の際には区内で最大の延焼被害が想定されている。初期消火の重要性に鑑み、多数のスタンドパイプの設置に努め、ほとんどの町会自治会の防災訓練において、スタンドパイプの操作訓練を行っている
- 地区内3町会自治会では、災害時の安否確認の方法として、安否確認カードを作成し、その掲出訓練を年間 2～3 回実施している。今後は、地区全体で実施できるように検討していく。
- 東京都が一昨年公表した首都直下地震の際の被害想定では、想定地震を前回(平成 24 年)の「東京湾北部地震」から今回の「都心南部直下地震」としたため、祖師谷地区の想定震度が 6 弱から 6 強になったと思われる。また、平成 29 年作成の地区防災計画と比較して、幅 4 メートル以下の細街路率が 10%減少したことや、旧基準の建物の建て替えで不燃化が進んだこと等により、延焼拡大による全焼棟数は 1130 棟と大幅に改善されたが、区内他地区と比較すると依然として高い数値であるため、今後も地区全体で連携して取り組んでいく必要がある。さらに、地区の仙川沿い及び北部地域で液状化危険地域が拡大し、今後の重要な課題となった。

課題1 初期消火・延焼防止

■意見(課題)

- ・祖師谷地区は、被害想定で全焼棟数が区内で最も多いとされている地区であるため、初期消火、延焼防止は重要な課題である。
- ・祖師谷地区は、商店街を中心にその周辺に住宅が密集している。
- ・消防車が入れない道路が多い。特に狭い道路に囲まれた所では、道路損壊があると人の立ち入り自体が困難になる。
- ・商店街では、商品の崩れ、看板の落下、電柱の倒壊、路上に駐輪している自転車の転倒などで道路を塞いでしまう。
- ・消火器(街路消火器含む)の設置場所を知らない。
- ・消火栓や防火水槽の位置及び町会・自治会の防災倉庫の設置場所がわからない。
- ・消火器の使用方法を知らない。
- ・消火器を設置している家庭が以外と少ない。
- ・町会・自治会にはスタンドパイプ・D型ポンプを所有しているところが多いが、使用できる人が限られている。
- ・平日昼間は、消火活動ができる人手が少ない。
- ・町会・自治会ごとに設備の差がある。
- ・防災訓練の参加者が少なく、新規の参加者はほとんどいない。

■地区としての今後の取り組みの方向性

- ①防災マップを作成し、地区の防災資源の所在地を多く知ってもらう。
- ②緊急車両が通行しやすくなるよう、自転車の路上駐輪をなくすための呼び掛けを行う。
- ③自宅から火を出さないために日頃からの備えをしておく。消火器の設置及び感震ブレーカー等の普及啓発。(特に家庭用消火器)
- ④防災訓練で消火器・スタンドパイプ・D型ポンプの操作訓練を反復して行う。また他の町会自治会の訓練に参加したり、訓練場所を変えたりするなど様々な

状況に対応できるように備えておく。

- ⑤多くの人が訓練に参加してもらえよう周知・啓発方法を検討していく。
- ⑥町会・自治会の防災倉庫だけではなく、より多くの場所にスタンドパイプを配備する。(駅や交番等)区道にも設置できるよう区へ継続して要望していく。
- ⑦商店街や介護事業所、学生等、平日に地域に居る人材との連携、関係性を築いておく。
- ⑧防災区民組織の資機材助成や都の助成等を利用し、各町会・自治会の実状に合った方法で設備を充実させていく。
- ⑨地区の耐震化率を上げるため、区で実施している「木造住宅の耐震化支援事業」等について、区と町会・自治会で連携して周知を図っていく。

■各団体の今後の取り組みの方向性

- ・震災時の火災に対する注意喚起と地区内の消火栓・消火器等設置場所を周知するため、防災チラシと防災マップを両面にして作成し、会員全世帯に配付した。今後は防災マップの見直しを行っていく。(祖師谷第 2 自治会)
- ・路上消火器・消火栓・スタンドパイプ等の位置を落とし込み、会員に周知する必要があることを掲載した防災マップや災害時行動マニュアルの保存版を作成、配付済み。(祖師谷第 3 自治会)
- ・会員の意識と実践力の向上を図るため、初期消火力・延焼防止力を強化する訓練や専門家による講習会を実施する。毎年の防災訓練の実施により更なる強化をめざす。(祖師谷第 3 自治会)
- ・災害時に備えて防災倉庫に、防護服及びチェーンソーの作業防護ズボン、防護手袋を備えている。(祖師谷第 4 自治会)
- ・「自宅から火を出さない」を第一目標とし、消火器の各戸設置及び感震ブレーカーの普及啓発を行うと同時に、初期消火の訓練を徹底する。状況にあわせた家庭用消火器の使用方法について、適切な動画映像での周知を行っていく。(祖師谷第 5 自治会)
- ・火災を少しでも抑えるべく消火器の普及、消火器の操作訓練を繰り返し実施していく。(祖師谷第 6 自治会)

- ・通電火災を防ぐ感震ブレーカー設置の奨励等を明記した地震発生直後の行動マニュアルを作成し、全会員に保存版として配付する。(祖師谷第6自治会)
- ・出火防止、初期消火を確実に実施しないと、地震時発生した火災が延焼火災となれば、消火困難となってしまうことを、自治会の防災訓練やイベント等の機会に広く周知徹底していく。(祖師谷千歳台自治会)
- ・災害時スタンドパイプ、D型ポンプを活用できるよう毎年継続して訓練を行っていく。(千歳台睦町会)
- ・ボヤの段階で消火するため、火災発生を近所に素早く知らせ、近所の家庭消火器を持ち寄る訓練を「地域防災の集い」で計画し、併せて消火器の点検の機会とする。(千歳台南会)
- ・地域消火器(スタンドパイプ・D型ポンプ等)の使用訓練を「街角消火訓練」や「地域防災の集い」において実施し、チーム消火方式の導入等による使用経験者の拡大と練度向上を図る。(千歳台南会)
- ・「火は小さいうちに消す」このことが大事であるため、スプレー消火器具・家庭用消火器を会員全戸に配布している。(祖師谷3丁目南町会)

課題2 安否確認(要援護者含む)と情報収集

■意見(課題)

- ・近隣との平時の付き合いが少なくよく知らない。
- ・町会・自治会の加入者が少ない。
- ・安否確認(家族・近隣)のルールが決まっていない。
- ・祖師谷地区は、高齢化率が高い地区であり要援護者は多いが支援者が少ない。
- ・情報を集約する機能がない。

■地区としての今後の取り組みの方向性

- ①地域のイベントへの参加などを通じて町会未加入者への呼びかけを強化する。
- ②子ども達の登下校の見守りや安全ボランティアを通して顔見知りになる。
- ③発災時、役員に代わり安否確認・情報収集できるような仕組みづくりを各町会自治会で構築していく。(隣組、小規模単位等)

- ④マンションの管理組合やアパートの管理者との協力体制を築くとともに居住者自身の「自助」の重要性を周知していく。
- ⑤日頃から家族の安否確認(災害用伝言ダイヤル171の普及)の方法や集合場所を決めておくよう訓練等で周知をしていく。
- ⑥町会自治会における班単位の人数を少なくし、安否確認・情報収集を円滑に行えるようにする。
- ⑦回覧板の組織を活用する。
- ⑧各戸に旗や表示物等を出すなど安否確認がしやすくなる手法を考える。
- ⑨災害時に連絡を取れる手段として、令和4年度に祖師谷地区町会自治会連合会で整備した簡易無線機を活用する。災害時に効果的に使用できるよう毎年、地区全体で訓練を継続していく。
- ⑩町会自治会単位で収集した情報はまちづくりセンター(拠点隊)で集約する。
- ⑪隣近所・班単位(町会・自治会)での情報収集⇒町会自治会長⇒集約機能拠点という流れを形成する。
- ⑫集約した情報や行政からの情報などを共有化できる手段を検討する。
- ⑬地区内3町会自治会で行っている安否確認カード掲出訓練について、実施している町会自治会と情報共有を図り、地区全体で実施できるよう検討していく。
- ⑭一時集合所や広域避難場所、指定避難所等について、区ホームページや防災ポータル、防災マップ等で平時に確認しておくよう防災訓練などを通じ周知していく。

■各団体の今後の取り組みの方向性

- ・災害時の安否確認のため、各戸に安否確認札を配付し、災害時に玄関先や門扉に掲示する。(祖師谷第2自治会)
- ・役員・防災対策部メンバー・民生委員と隣近所等が協力して安否確認する体制をつくり、その安否確認の迅速かつスムーズに行うよう実施している。(祖師谷第3自治会)
- ・災害時の連絡手段であるトランシーバーについて、広域通信訓練を毎年実施していく。(祖師谷第4自治会)

- ・安否確認の具体的な方法として、各戸に安否確認札を配付し、門扉や玄関に取り付ける。また、防災無線機の通信場所ごとの訓練を定期的に行う。(祖師谷第5自治会)
- ・様々なイベントや訓練を通じ、お互い顔見知りになることにより、安否確認・情報収集ができるような仕組みを作っていく。(祖師谷千歳台自治会)
- ・各班長から災害町会本部に安否確認ができるように、班割を明確にするなどして組織的に対応できるシステムを構築中である。また、要援護者の安否確認については、民生委員と協力して町会地区範囲を回り対応していく。(千歳台睦町会)
- ・隣接町会と「地域防災の集い」を毎年共催し、一時集合所への避難者安否確認の機会とするとともに、地域内の顔なじみを増やす機会としても活用するなど充実を図っている。(千歳台南会)
- ・組単位の安否確認の取り組みとして、年2回(3月11日及び9月1日)安否確認(「無事マーク」掲示)訓練を実施している。(千歳台南会)
- ・スマホ不通時等の事態に備え、広域トランシーバーによる近隣町会自治会等との情報交換の訓練(「町会自治会連合会無線訓練」)を実施している。(千歳台南会)
- ・近隣住民の繋がり希薄化への対応として、「ご近所力」を強化するため、声かけや見守りを積極的に行っている。(祖師谷3丁目南町会)

課題3 救出救命と避難支援

■意見(課題)

- ・救出資材の不足
- ・自宅の安全確保(耐震化・家具の転倒防止対策)がされていない家庭が多い。
- ・負傷者の搬送先・手段などが決まっていない。搬送先が限られており、搬送病院もわからない。
- ・自分⇒家族⇒近隣という順番で助け合い、救助活動が広がるような体制作りが必要。
- ・要援護者の情報が少ない。

- ・支援者となる人材(人員)が不足している。
- ・祖師谷地区は高齢化率が高く認知症の方も増えている。

■地区としての今後の取り組みの方向性

- ①チェーンソーなど救出機材の準備と操作方法を消防署の指導のもと訓練などを通じて習得する。
- ②倒壊家屋に閉じ込められていても、自分の存在を知ってもらえるようにホイッスルの配布を行う。
- ③防災訓練等を通じて区の耐震化支援事業や家具転倒防止措置の普及啓発のPRの強化を地域・行政の両面から行う。
- ④日頃の見守り活動や敬老事業等と通じて要援護者を把握する。
- ⑤指定避難所に避難するだけでなく、自宅が安全である場合は、在宅避難を検討することと、また、それに向けての備蓄品の準備についてチラシ等で周知していく。
- ⑥普通救命講習会を毎年継続して実施し、地区の人材育成に努める。
- ⑦AED の設置場所についても、「せたがや imap」やインターネットサイト等を普通救命講習会等で案内し周知していく。

■各団体の今後の取り組みの方向性

- ・自治会に加入しているデイホーム施設には、日中職員がいるので、日頃から交流を深め、協力体制を築いていく。(祖師谷第 3 自治会)
- ・役員・防災対策部メンバーのみならず、会員を対象にした積極的な救命講習受講を更に勧めていく。(祖師谷第 3 自治会)
- ・一時集合所及び広域避難場所等への経路や消火栓等のある場所を表す地図を作成する予定である。(祖師谷第 4 自治会)
- ・自治会のリヤカー等を利用し、傷病者の医療救護所への搬送及び物資運搬が行えるよう、定期的に訓練を行う。何が何でも避難所へではなく、「在宅待機」を留意する。(祖師谷第 5 自治会)
- ・「地域防災の集い」に救出救命の訓練(機材の使用法、救命蘇生法、救出チーム

の立上訓練等)を取り入れていく。(千歳台南会)

・町会だより等を通じて、「選択避難」・「在宅避難」の奨励を行っている。(祖師谷
3丁目南町会)

成城地区防災計画

[令和7年度修正]

成城地区区民防災会議

【成城地区防災計画作成団体】

法人格 成城自治会	砧中学校
成城団地自治会	明正小学校 PTA
日赤奉仕団 成城分団	千歳小学校 PTA
成城消防団 第一分団	砧中学校 PTA
成城地区民生委員・児童委員協議会	成城消防署
成城地区身近なまちづくり推進協議会	成城あんしんすこやかセンター
成城商店街振興組合	成城地区社会福祉協議会
成城南商店会	(事務局)
明正小学校	世田谷区砧総合支所地域振興課
千歳小学校	成城まちづくりセンター

目次

1 趣旨	成城-1(-751-)
2 成城地区の特性	成城-2(-752-)
(1)自然特性	成城-2(-752-)
(2)社会特性	成城-3(-753-)
(3)地域危険度	成城-5(-755-)
(4)被害想定	成城-6(-756-)
(5)防災資源一覧	成城-9(-759-)
(6)防災資源マップ	成城-10(-760-)
(7)区民アンケート	成城-11(-761-)
3 各団体の防災活動～現在の取組状況～	成城-20(-770-)
4 成城地区の課題と取り組み	成城-26(-776-)
<平時の取り組み>	成城-26(-776-)
(1)地区の防災活動の充実と防災力の向上	成城-26(-776-)
(2)防災情報の提供・共有化	成城-27(-777-)
(3)防災資源の活用	成城-27(-777-)
(4)要配慮者対策	成城-28(-778-)
(5)家庭における防災の備え	成城-29(-779-)
(6)日ごろのコミュニケーションの強化	成城-29(-779-)
(7)避難路、避難場所の点検	成城-30(-780-)
(8)大雨(集中豪雨)時の対策	成城-30(-780-)
<災害発生時の取り組み(震災直後)>	成城-31(-781-)
(1)「災害発生時住民行動マニュアル」	成城-31(-781-)
(2)初期消火	成城-31(-781-)
(3)負傷者の緊急搬送	成城-31(-781-)
(4)情報収集と区拠点隊への連絡	成城-31(-781-)
(5)地区内の情報共有	成城-31(-781-)
(6)避難所の開設	成城-31(-781-)
<災害発生時の取り組み(水害・土砂災害直後)>	成城-31(-781-)
(1)情報収集	成城-31(-781-)
(2)非常用持出品の確認	成城-32(-782-)
(3)避難所開設	成城-32(-782-)
(4)避難所への避難	成城-32(-782-)
(5)他地区からの避難者への配慮	成城-32(-782-)

<避難所共通課題>	成城-32(-782-)
(1)避難所(小中学校校舎等)の応急危険度判定実施体制・・	成城-32(-782-)
(2)要配慮者(高齢者・障害者・妊産婦・乳幼児・日本語のできない外国人等)への配慮.....	成城-32(-782-)
(3)ペットの同行避難	成城-32(-782-)
(4)夜間の明かり・飲料水等の確保.....	成城-32(-782-)
(5)物資等の公平な配給.....	成城-32(-782-)
(6)ボランティアの受け入れ.....	成城-32(-782-)
(7)感染症対策.....	成城-33(-783-)
5 大災害発生時住民行動マニュアル.....	成城-34(-784-)

1. 趣旨

東日本大震災では、地震・津波によって市町村の行政機能(公助)が麻痺してしまい、地域住民自身による自助、地域コミュニティーにおける共助が災害対応において重要な役割を果たしました。これを踏まえ、平成26年4月に施行された改正災害対策基本法では、地区における災害時の活動の主体となる「市町村の居住者等から地区防災計画を提案できること」が明記されました。

提案された地区防災計画(案)は、市区町村の地域防災計画に位置付けられることによって、市区町村もそれを地域防災計画と連携させて、地域や住民の安全を守ることができるよう工夫することになります。

成城地区は、約100年前のまちの開発と住民間の取り決めによるまちづくりが、本計画の資料編での各種データ数値に表れているような防災力の高い街を形作っています。さらに、成城地区自治会連合会では「大災害発生時、一人の犠牲者も出さない」ことをスローガンとして発災時に「大災害発生時住民行動マニュアル」に従って行動することによって、大切な命を守ろうとする発災直後に特化した災害対策活動を展開し浸透を図っているほか、地区内の様々な団体が直接的、間接的に防災に繋がる活動を行っています。

本計画は、地区の特性と防災塾等での意見交換を踏まえ、成城地区区民防災会議が中心となり、課題に対して、住民、団体、区が行うべき対応について策定したものです。

この計画で示された取り組みにより、「大災害発生時、一人の犠牲者も出さない」ための防災意識と備えが成城地区全体に広がることを願っています。

成城地区区民防災会議

2. 成城地区の特性

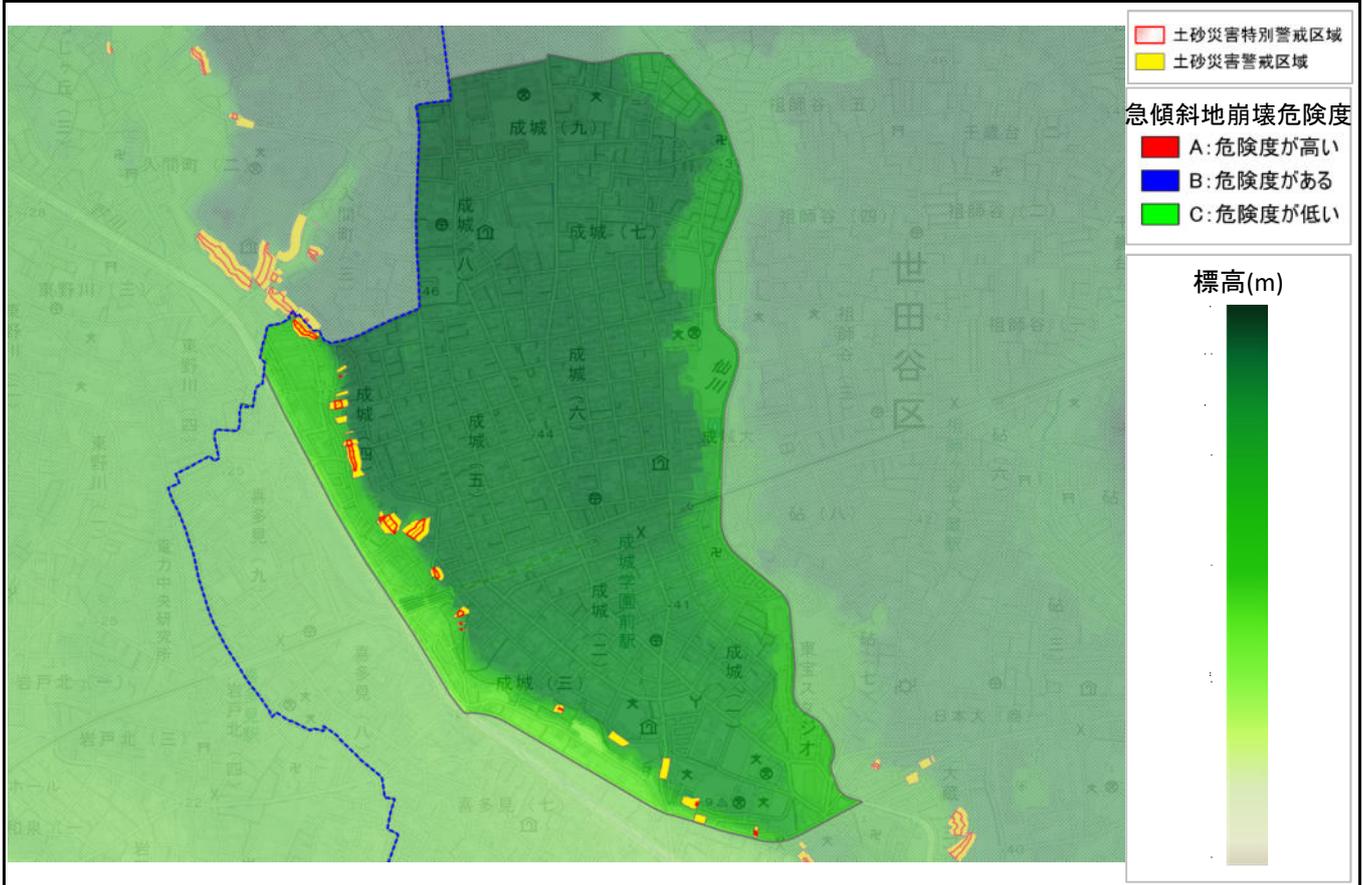
(1)自然特性

面積	2.26 Km ²	最高標高	47.3 m	最低標高	15.9 m
----	----------------------	------	--------	------	--------

位置



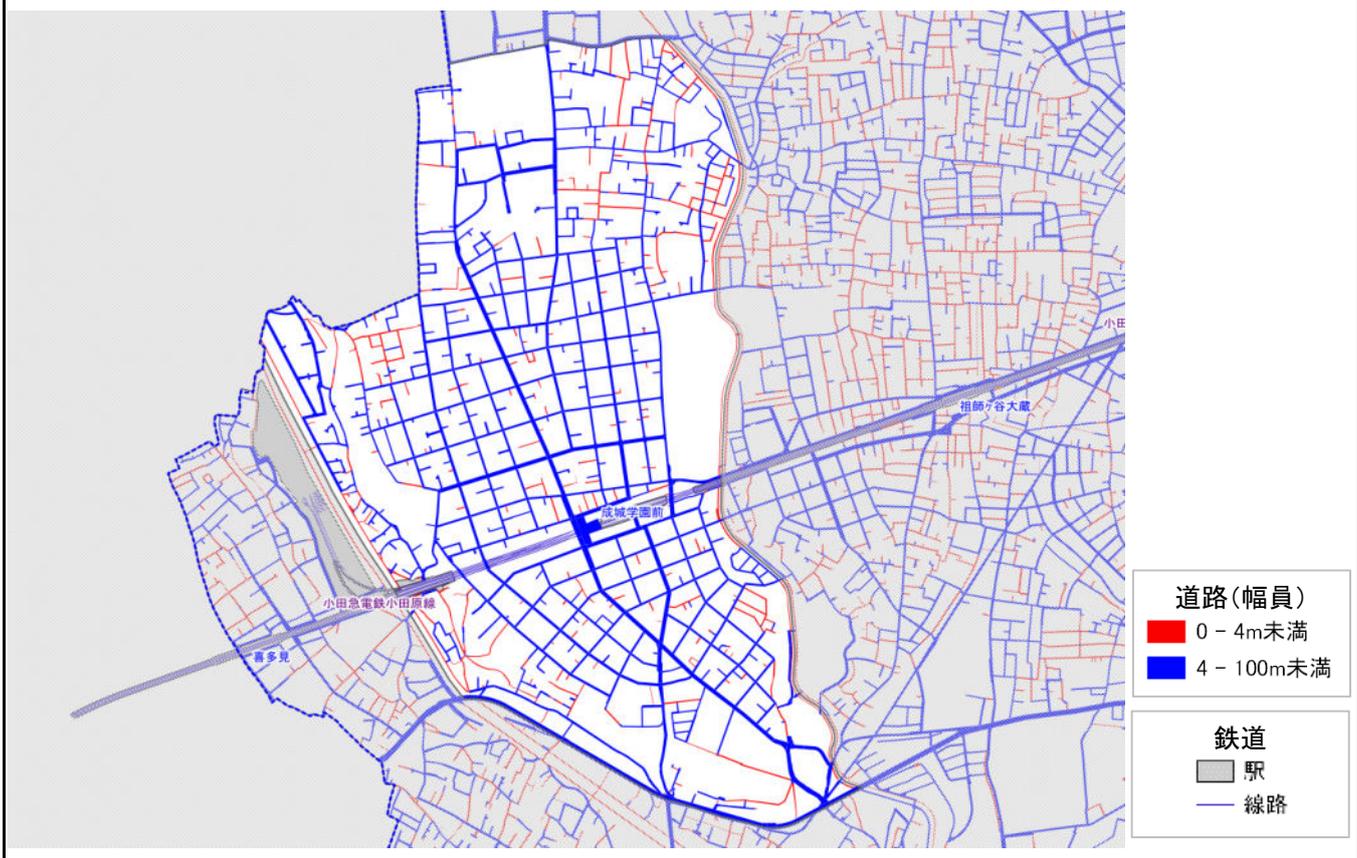
標高・急傾斜地崩壊危険度・土砂災害警戒区域等



(2)社会特性

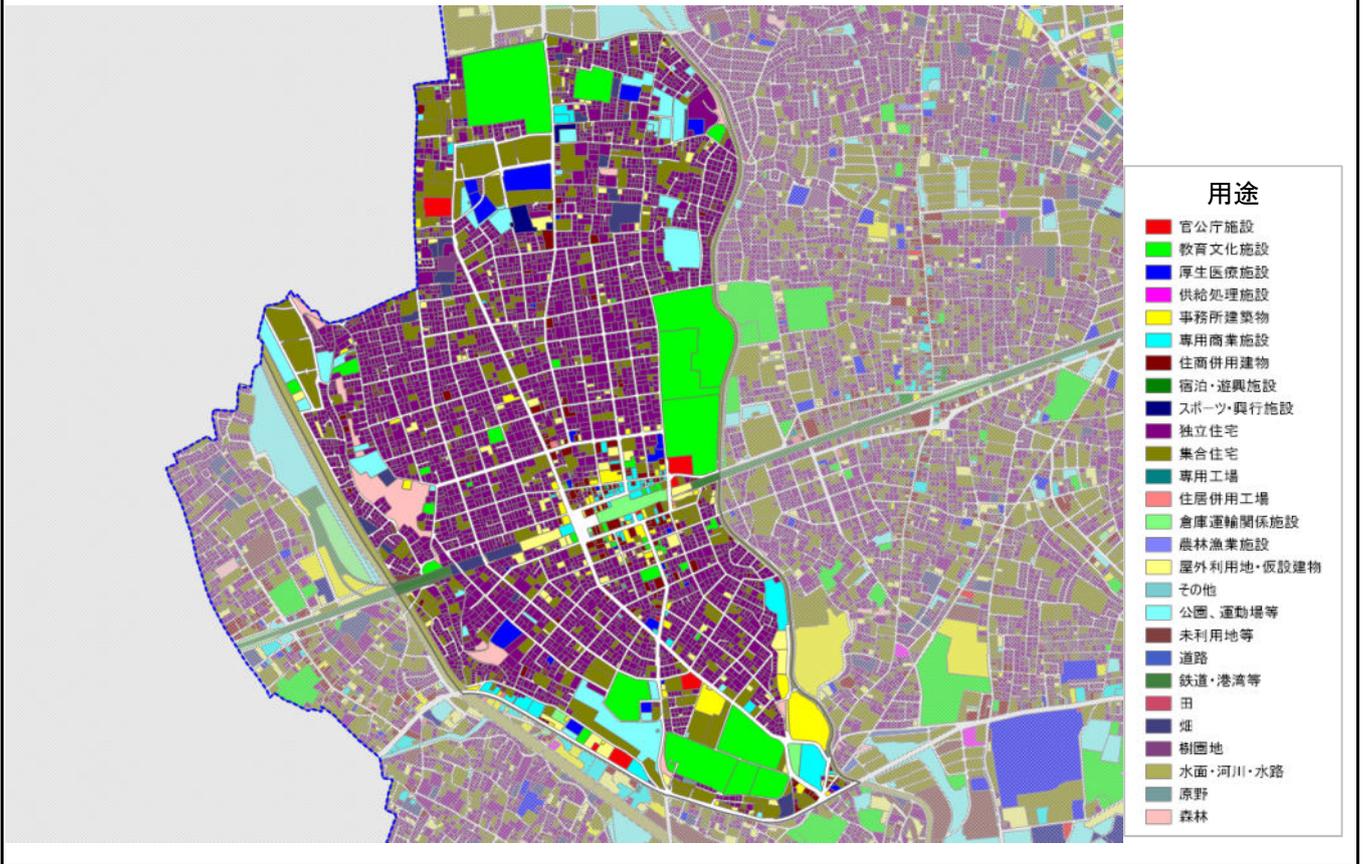
人口	23,209 人	細街路率	23.8 %	
世帯数	10,691 世帯	昭和56年以前木造建物棟数密度	42.0 棟/Km ²	
1世帯あたり	2.17 人	耐火率(建築面積ベース)	61.8 %	
若年層数(15才未満)	2,835 人	土地利用(宅地)	72.2 %	
若年層率(15才未満)	12.2 %	土地利用(宅地以外)	27.8 %	
高齢者数(65才以上)	6,078 人	鉄道駅	小田急小田原線成城学園前駅	
高齢者率(65才以上)	26.2 %			
昼間の人口	29,781 人	産業	商業	70.8 %
夜間の人口	23,331 人		工業	8.4 %
昼夜間人口比	1.28 -		農業	20.9 %
町会・自治会数	2 -			

道路・公共交通機関



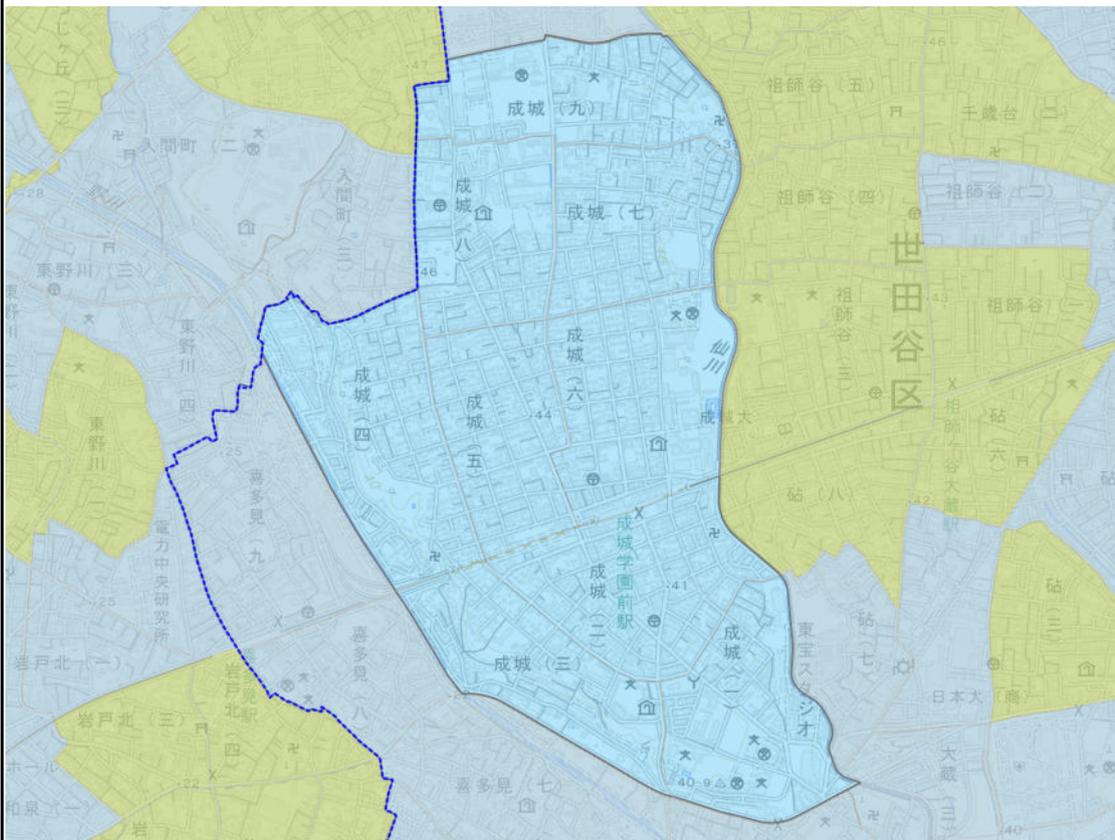
(2)社会特性

産業



(3)地域危険度

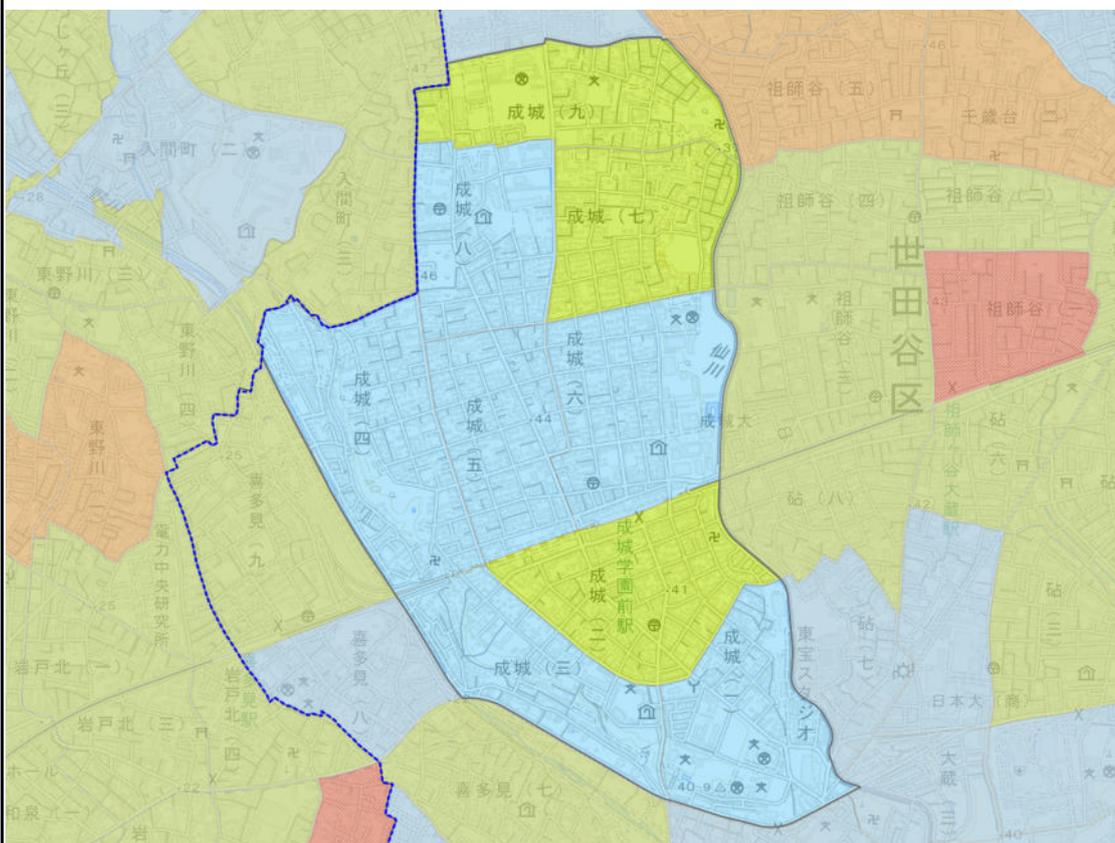
建物倒壊危険度



建物倒壊危険度

- 5
- 4
- 3
- 2
- 1

火災危険度



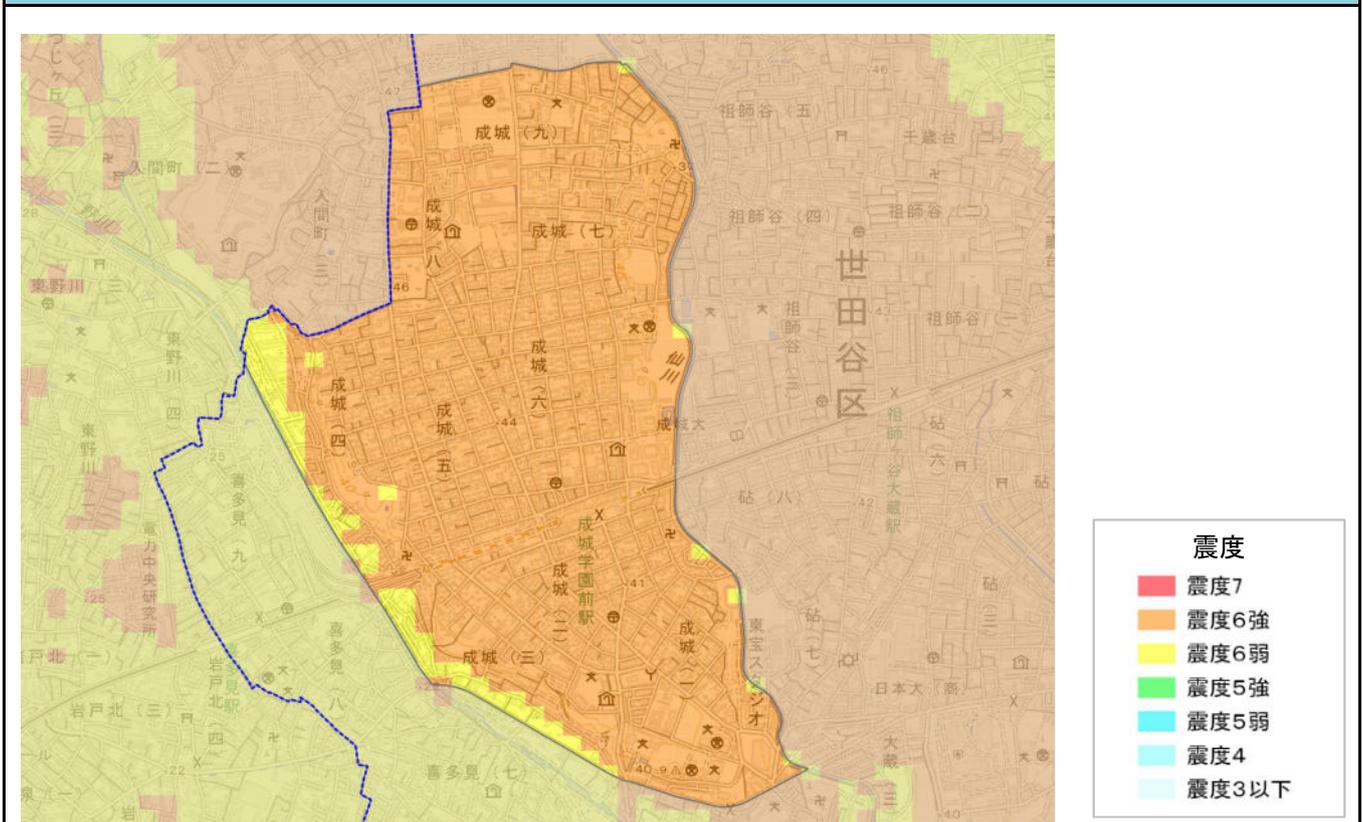
火災危険度

- 5
- 4
- 3
- 2
- 1

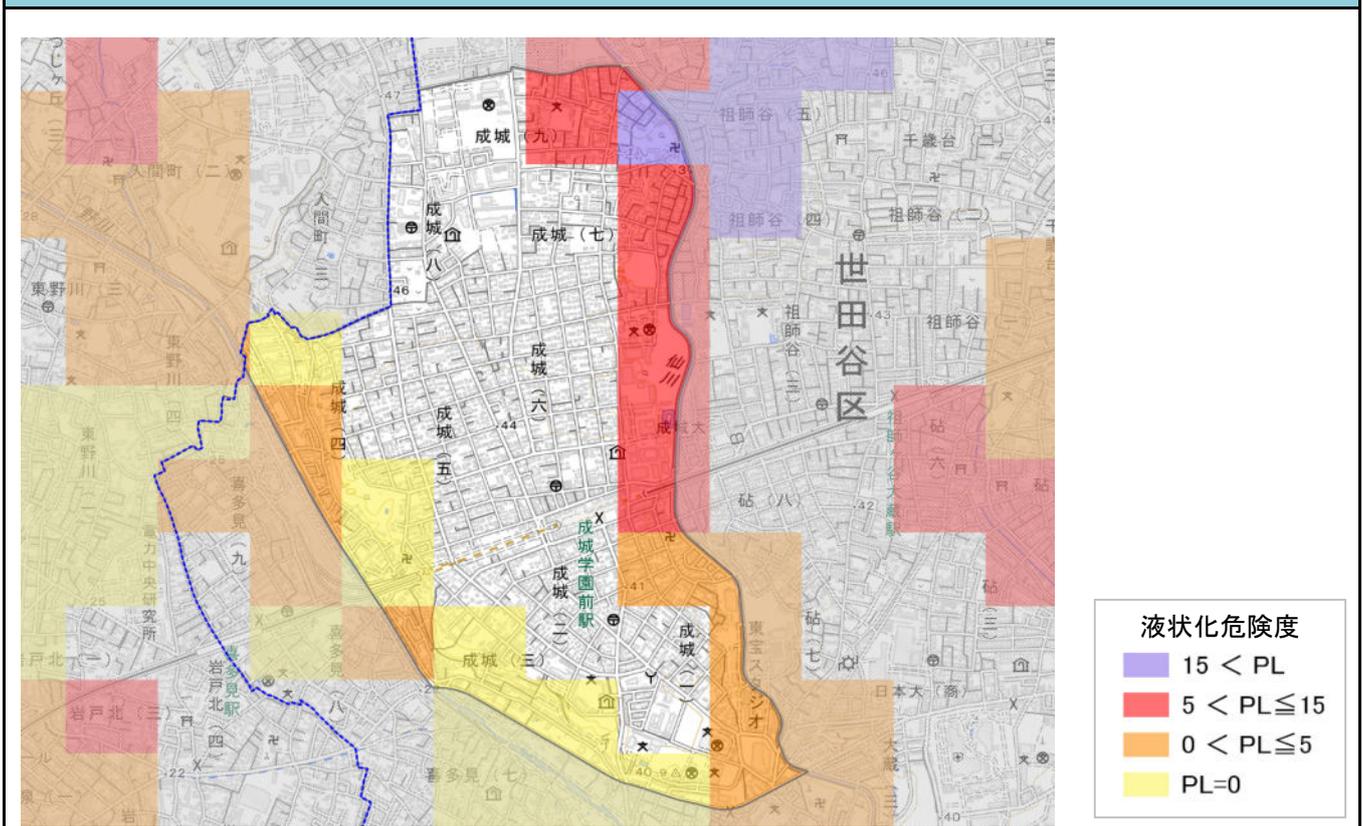
(4)被害想定

全壊棟数	248 棟	死者	25 人
半壊棟数	664 棟	負傷者	272 人
全焼棟数(倒壊建物含まず)	718 棟	うち重傷者	46 人

震度分布

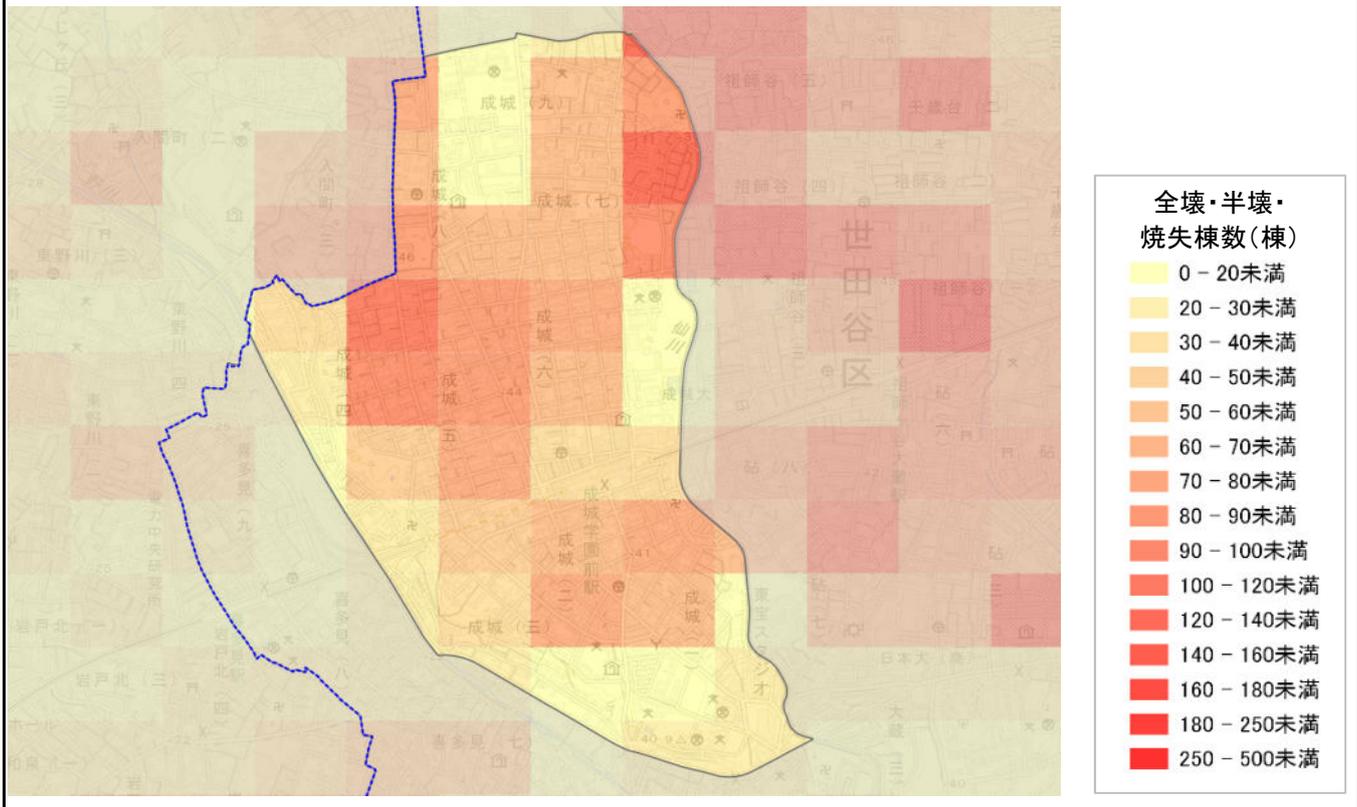


液状化分布



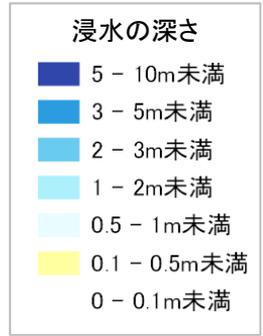
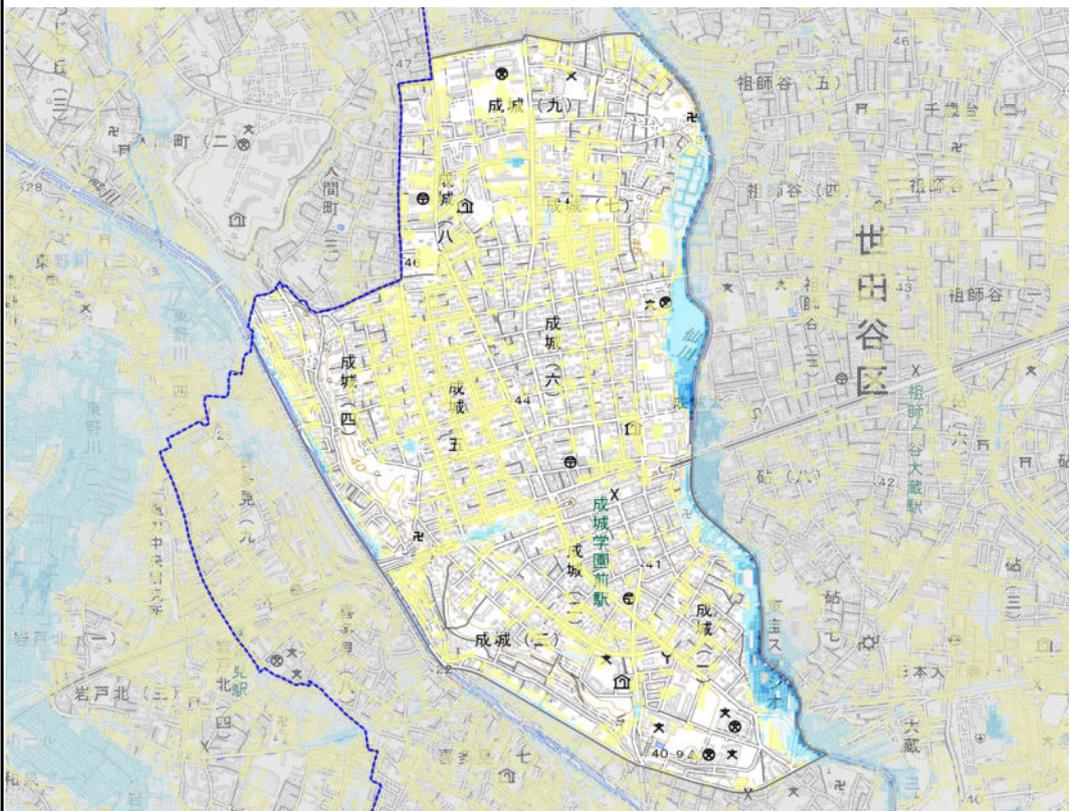
(4)被害想定

被害棟数分布

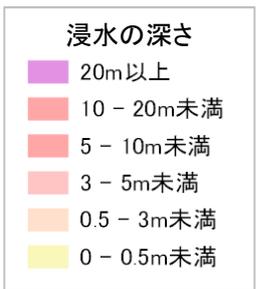
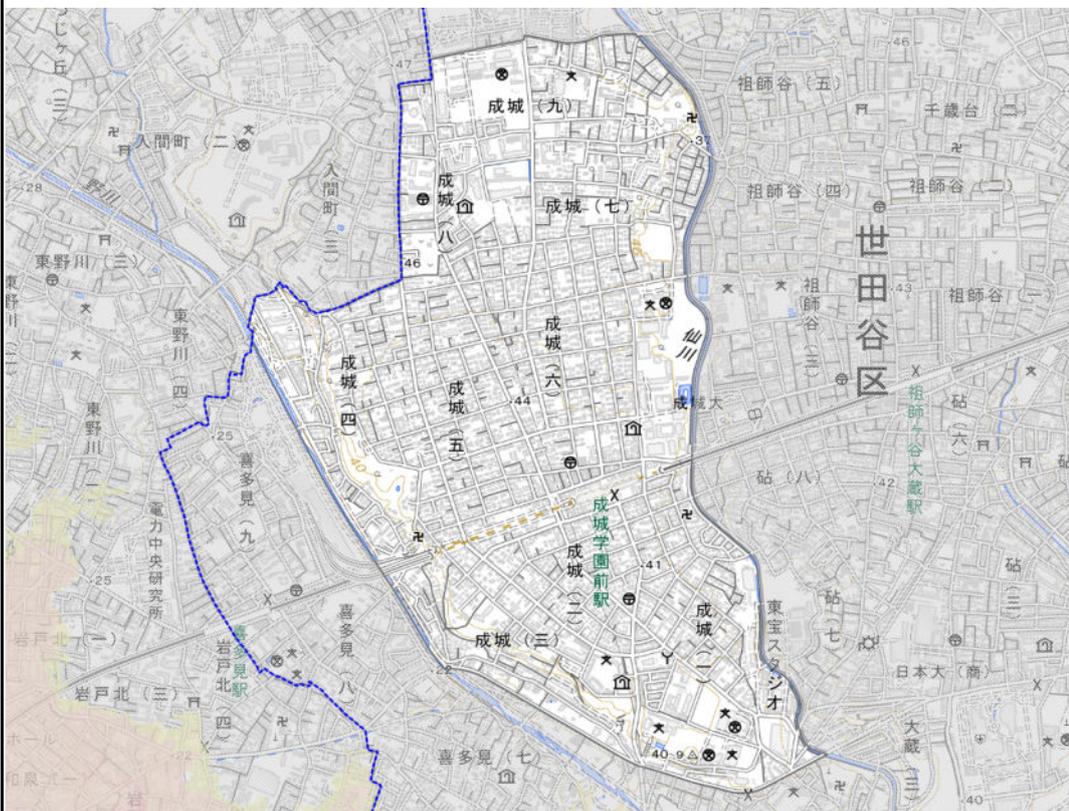


(4)被害想定

浸水想定(内水氾濫・中小河川洪水版)



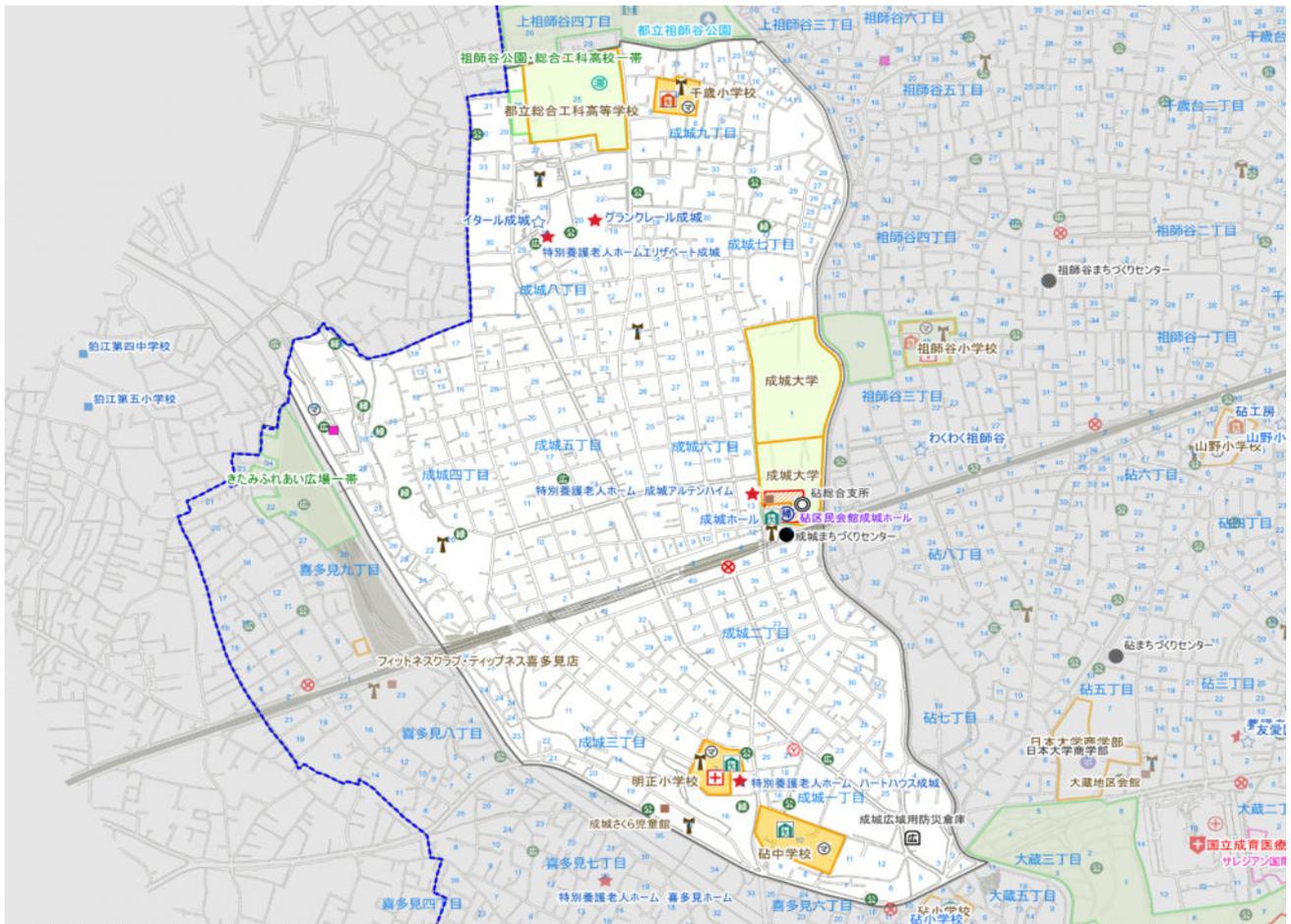
浸水想定(多摩川洪水版)



(5)防災資源一覧

広域避難場所	成城学園一帯 祖師谷公園・総合工科高校一帯					
一時集合所	砧中学校校庭 区立成城7丁目公園 区立成城7丁目緑地 区立成城8丁目広場 区立成城みつ池開放緑地 区立明正公園 成城さくら公園 千歳小学校校庭 祖師谷公園 団地内南広場 明正小学校校庭 野川緑地広場					
指定避難所	砧中学校 千歳小学校 明正小学校					
予備避難所	成城大学 都立総合工科高等学校					
福祉避難所(母子)						
福祉避難所(高齢者)	特別養護老人ホーム成城アルテンハイム グランクレール成城 特別養護老人ホームエリザベート成城 特別養護老人ホームハートハウス成城					
福祉避難所(障害者)	イタル成城					
水害時避難所(第1次)	千歳小学校	野川・仙川洪水時避難所				
水害時避難所(第2次)	砧中学校 成城ホール 明正小学校					
土砂災害時避難所	砧総合支所 成城さくら児童館					
避難所救護所	明正小学校					
東京都災害拠点病院						
東京都災害拠点連携病院						
緊急医療救護所						
一時滞在施設	都立総合工科高等学校					
一時避難施設(車中避難)					帰宅困難者支援施設	1 ヶ所
ボランティアマッチングセンター						
マンホールトイレ	4 ヶ所	防災行政無線塔	7 ヶ所	緑地	7 ヶ所	
輸送拠点	砧区民会館「成城ホール」					
給水拠点						
広域用防災倉庫	成城広域用防災倉庫					
土のうステーション	野川緑地広場(ビクターセンター)					
警察署・交番	成城交番					
消防署・出張所	成城消防署					

(6)防災資源マップ



- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|-------------|--------------------|-----------|--------|-----------|------------|-------------|-------|------|-------|---------|---------|------|------|----------|---------|---------|-------------|--------------|--------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|------------|----------|-------------|---------------|-----------|----------|-------------|-------------------|---------|----------------|
| ● 総合支所 | ● まちづくりセンター | Ⓜ セタがや災害ボランティアセンター | Ⓜ 広域用防災倉庫 | ● 給水拠点 | Ⓜ 防災行政無線塔 | Ⓜ マンホールトイレ | ■ 土のうステーション | Ⓜ 警察署 | Ⓜ 交番 | Ⓜ 消防署 | Ⓜ 消防出張所 | Ⓜ 身近な広場 | Ⓜ 公園 | ● 緑地 | ■ 広域避難場所 | ■ 指定避難所 | ■ 予備避難所 | ■ 福祉避難所(母子) | ★ 福祉避難所(高齢者) | ☆ 福祉避難所(障害者) | Ⓜ 水害時避難所(第1次) | Ⓜ 水害時避難所(第2次) | ◆ 野川・仙川洪水時避難所 | ■ 水害時避難所(狛江市) | ■ 水害時避難所(調布市) | ■ 土砂災害時避難所 | Ⓜ 避難所救護所 | Ⓜ 東京都災害拠点病院 | Ⓜ 東京都災害拠点連携病院 | Ⓜ 緊急医療救護所 | Ⓜ 一時滞在施設 | Ⓜ 帰宅困難者支援施設 | Ⓜ ボランティアマッチングセンター | Ⓜ 輸送拠点等 | Ⓜ 一時避難施設(車中避難) |
|--------|-------------|--------------------|-----------|--------|-----------|------------|-------------|-------|------|-------|---------|---------|------|------|----------|---------|---------|-------------|--------------|--------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|------------|----------|-------------|---------------|-----------|----------|-------------|-------------------|---------|----------------|

出典
 世田谷区土砂災害ハザードマップ 令和6年7月発行
 世田谷区の町丁目別人口と世帯数 令和6年3月1日
 世田谷区の年齢別人口 令和6年3月1日
 世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ(多摩川洪水版、内水氾濫・中小河川洪水版) 令和6年7月発行
 世田谷の土地利用2021 世田谷区土地利用現況調査
 世田谷区GISオープンデータ
 令和2年国勢調査による 東京都の昼間人口(従業地・通学地による人口)第11表
 地域危険度一覧表(地震に関する地域危険度測定調査[第9回]) 令和4年9月
 首都直下地震等による東京の被害想定 報告書 令和4年5月25日
 世田谷区防災マップデータ 令和6年3月

(7)区民アンケート(成城地区)

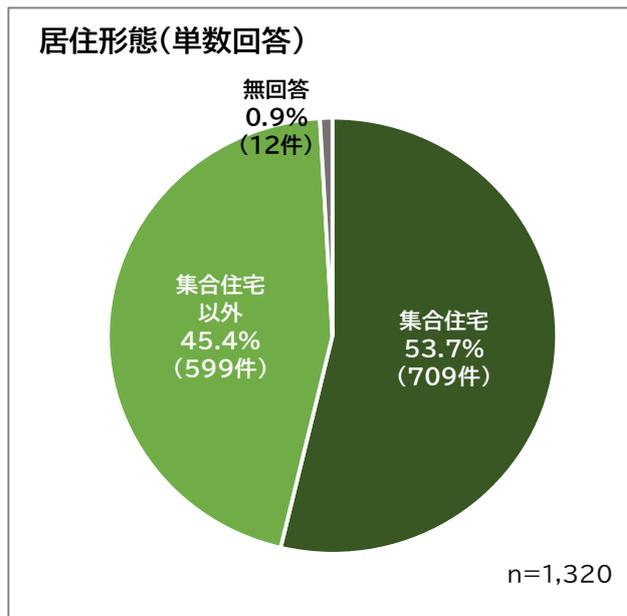
このアンケートは、今後の区内各地域及び地区における災害関連施策の検討や取組みに活用することを目的として、令和6年度に災害対策課が実施した「在宅避難支援事業(防災カタログギフト)」に合わせて行ったものである。

なお、以下に記載している回答集計結果は、カタログギフト申込者のうち、WEBで申し込みをした区民へ任意での回答を依頼し、令和6年8月9日から9月8日までに回収できた分である。

単純集計(1/5)

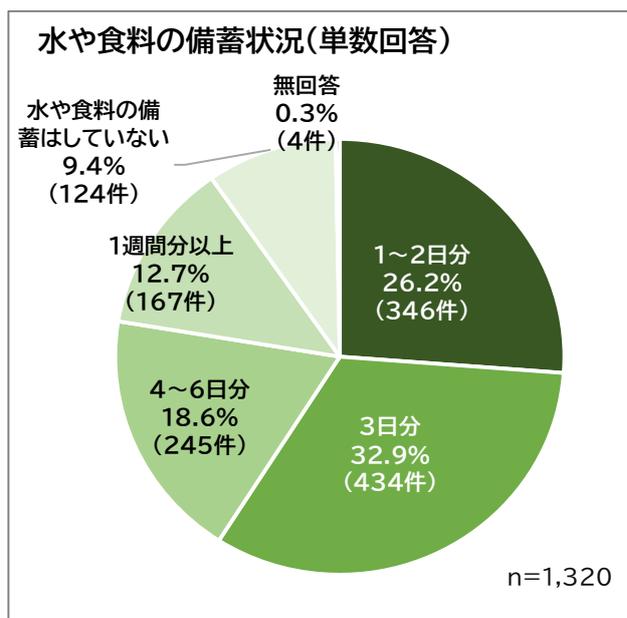
居住形態

【1】あなたはマンションなどの集合住宅にお住まいですか。



水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。

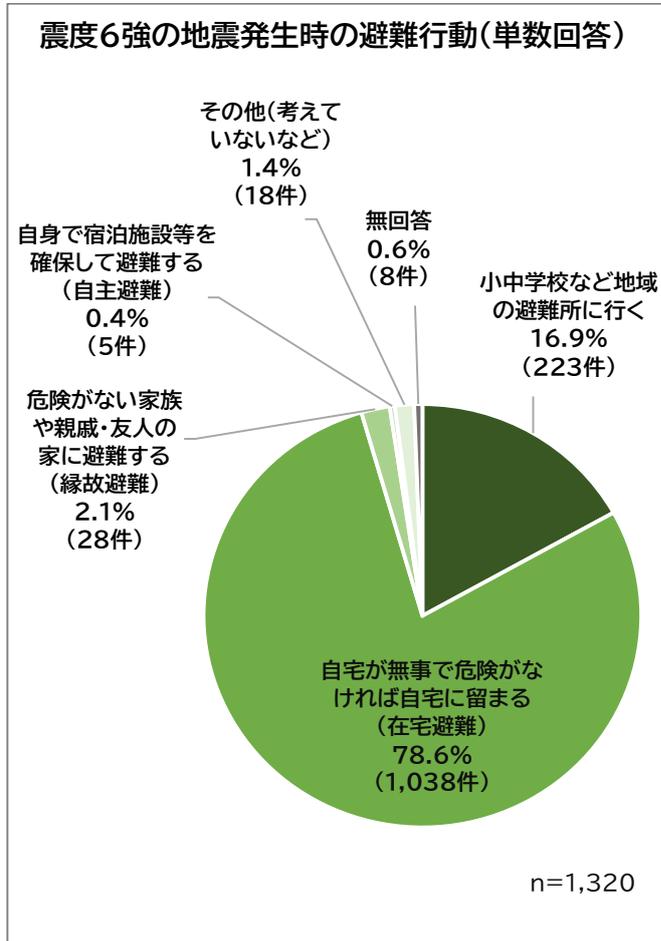


(7)区民アンケート(成城地区)

単純集計(2/5)

震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



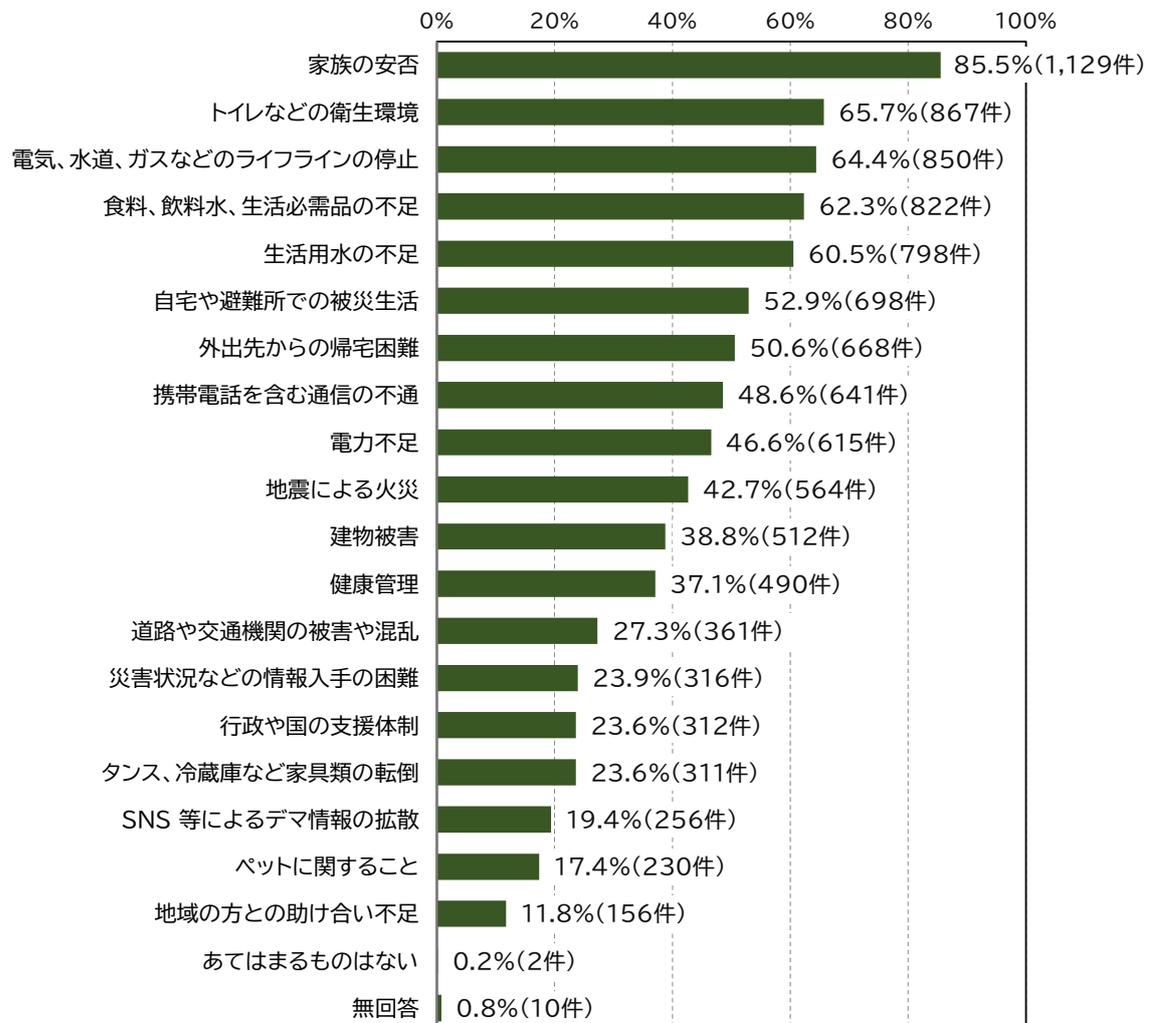
(7)区民アンケート(成城地区)

単純集計(3/5)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

災害時の心配ごと(複数回答)



n=1,320

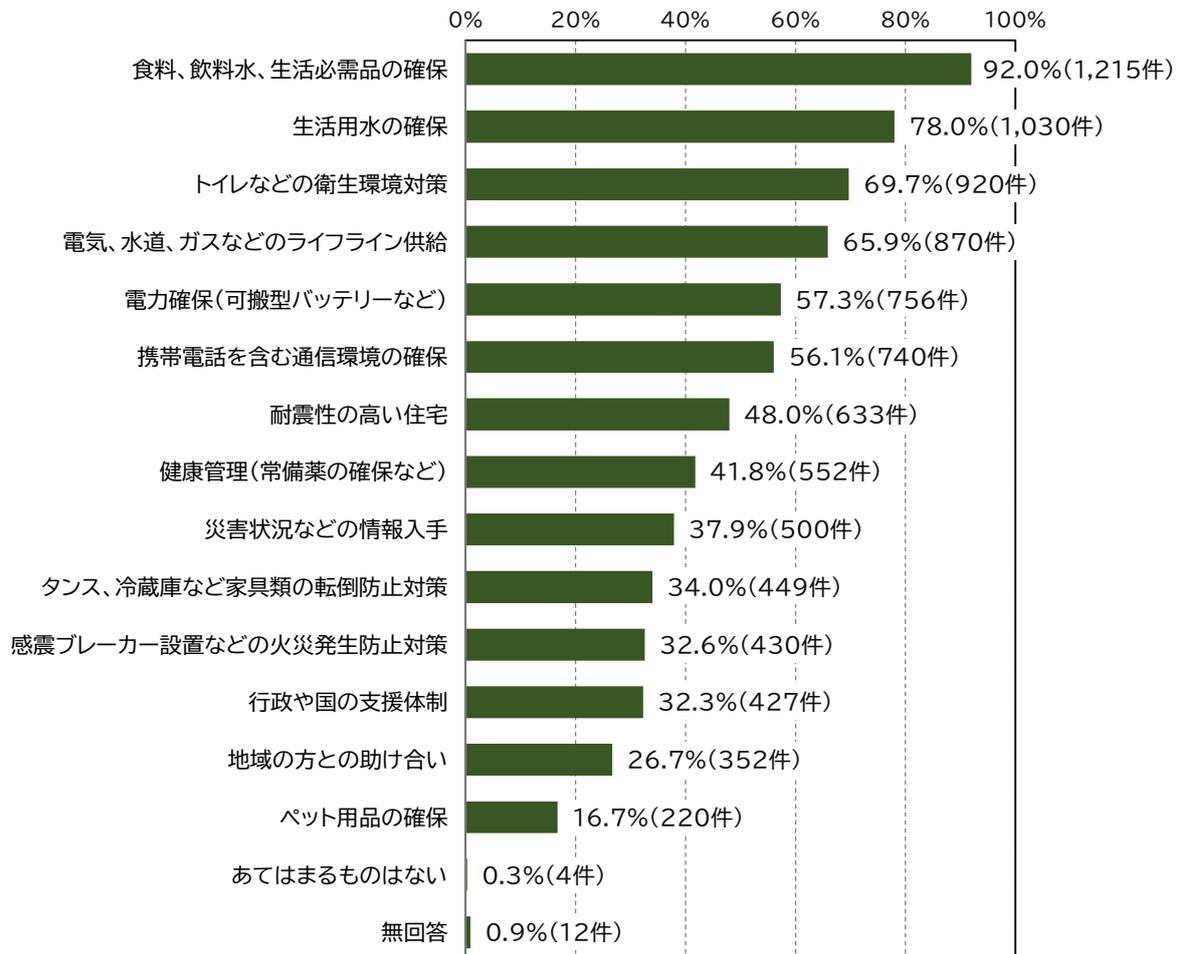
(7)区民アンケート(成城地区)

単純集計(4/5)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

在宅避難をするために必要だと思うこと(複数回答)



n=1,320

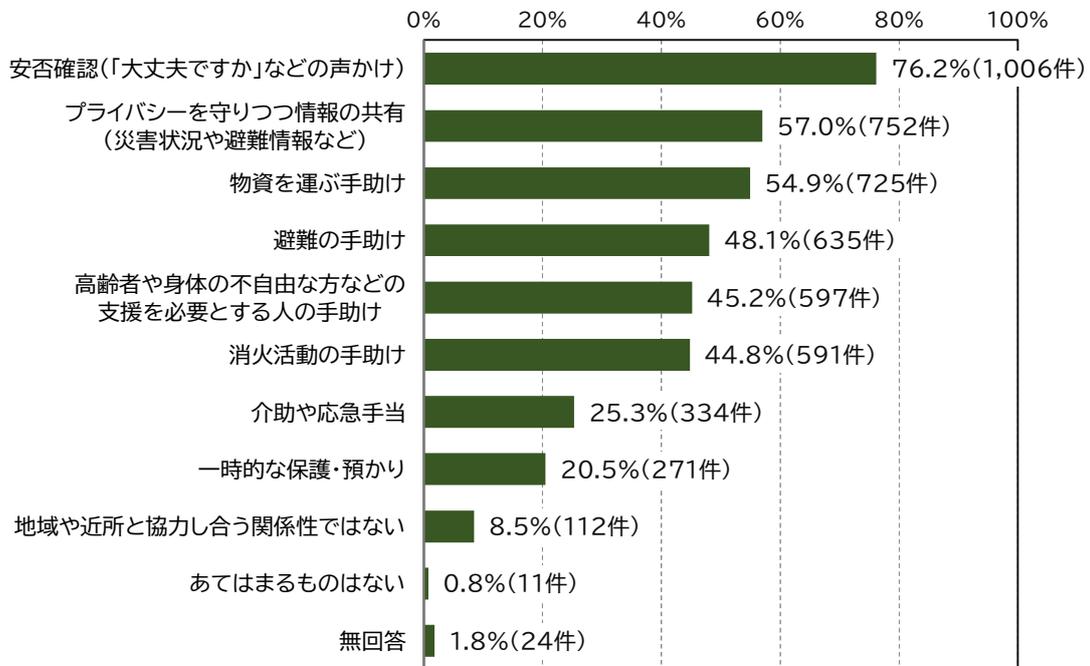
(7)区民アンケート(成城地区)

単純集計(5/5)

災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。

災害時にできる住民同士の支援(複数回答)

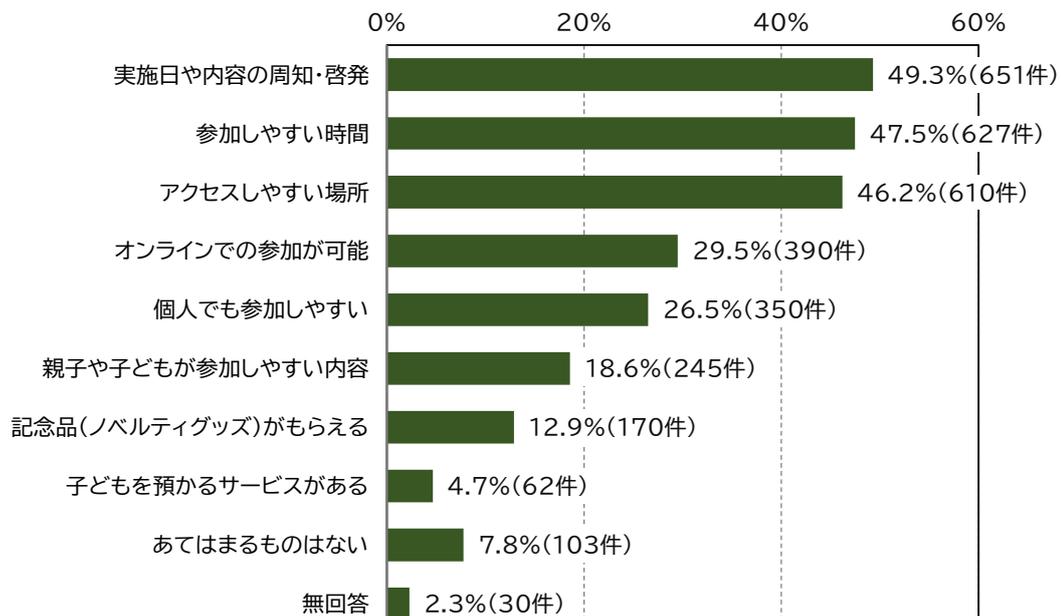


n=1,320

防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加したいと思いますか。

防災訓練や防災教室への参加意向(複数回答)



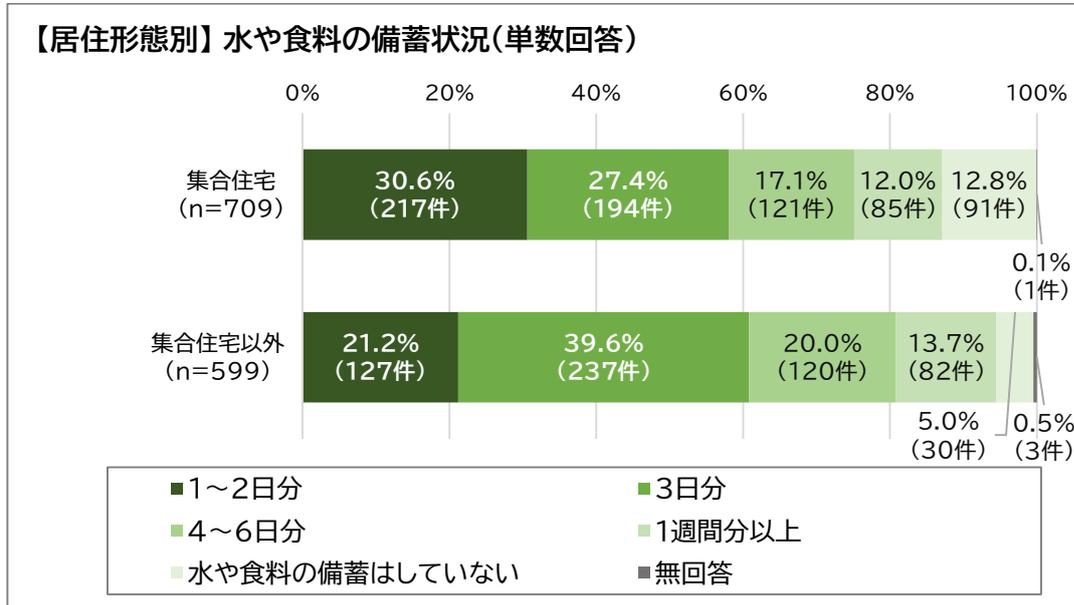
n=1,320

(7)区民アンケート(成城地区)

クロス集計(1/4)

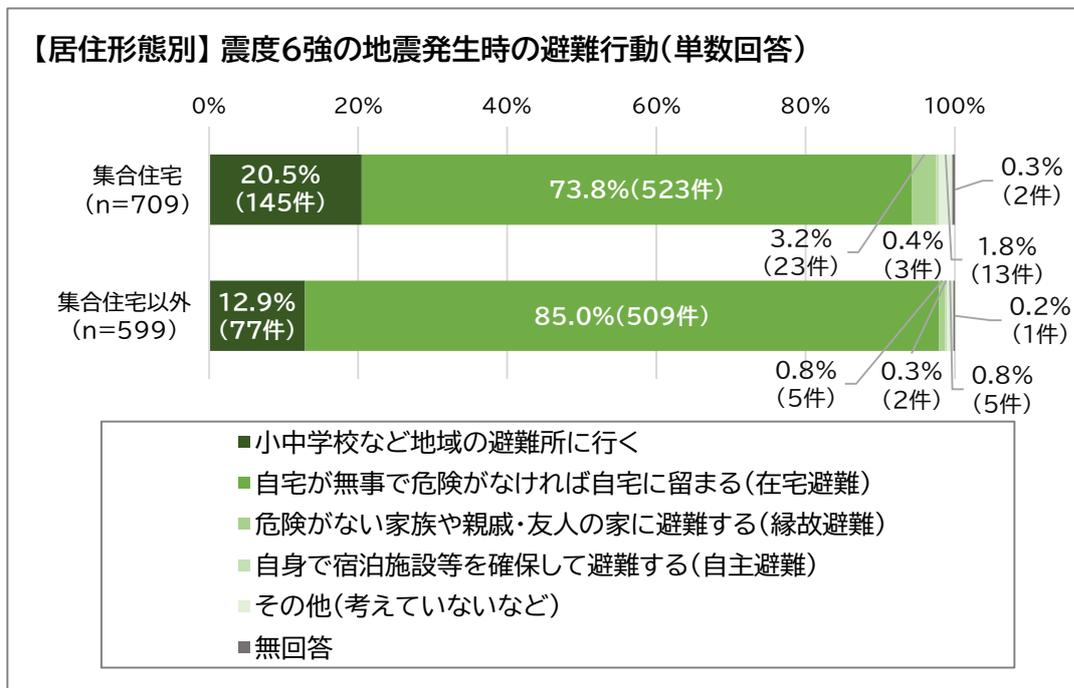
水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。



震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。

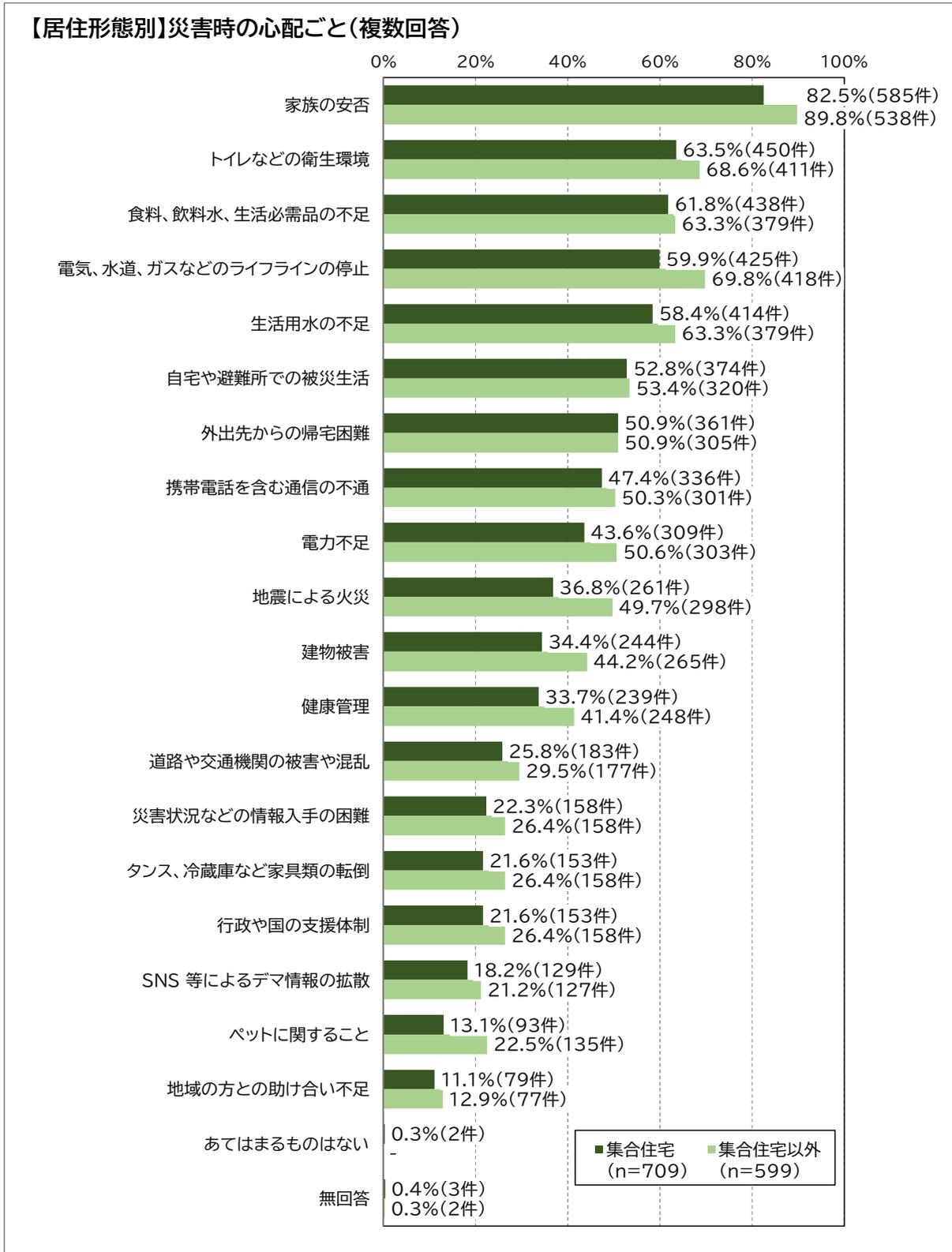


(7)区民アンケート(成城地区)

クロス集計(2/4)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。



(7)区民アンケート(成城地区)

クロス集計(3/4)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

【居住形態別】在宅避難をするために必要だと思うこと(複数回答)

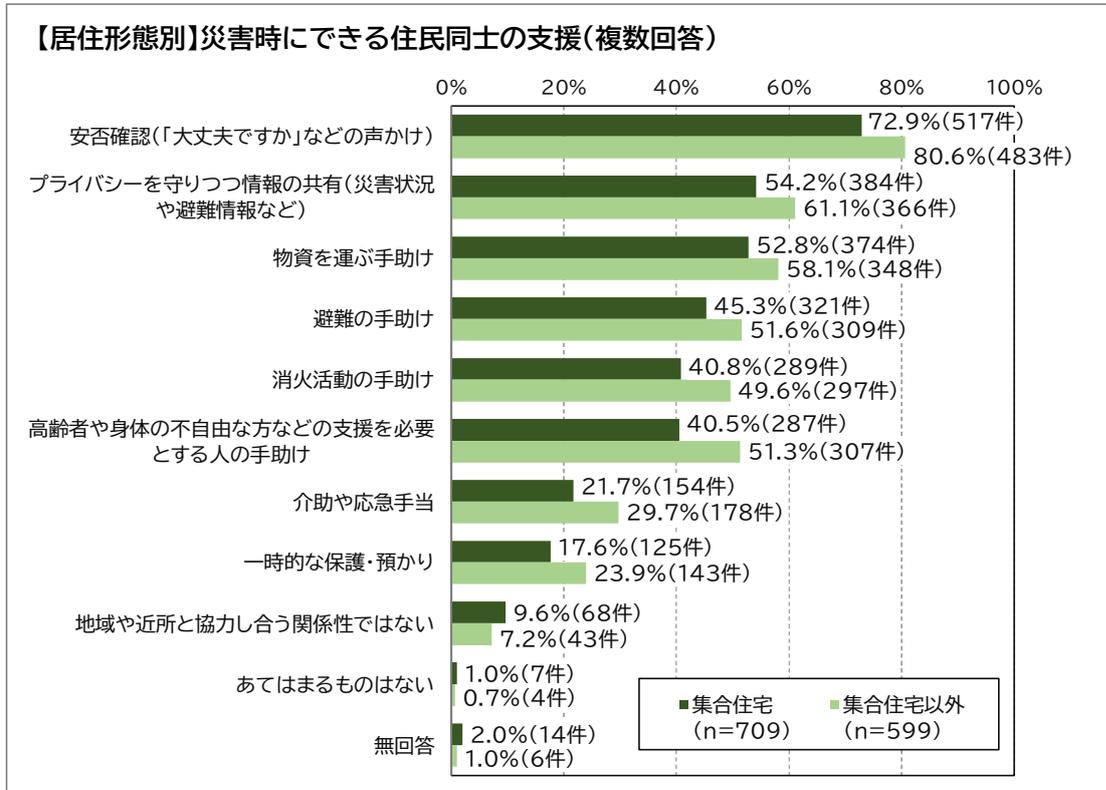


(7)区民アンケート(成城地区)

クロス集計(4/4)

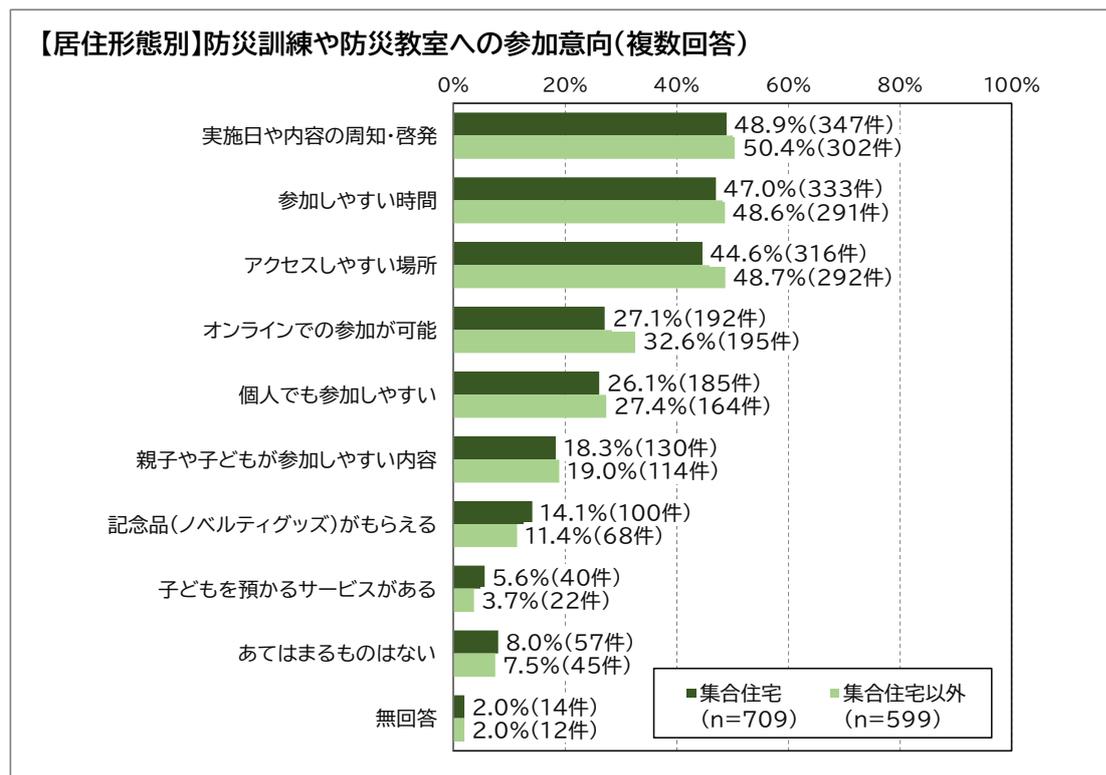
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加したいと思いますか。



3. 各団体の防災活動～現在の取組状況～

団体名	防災担当者数		防災に関する会議				防災活動、資機材配備等の実施		消火資機材の配備								
			実施している	実施していない	実施していない	実施していない	実施している	実施していない	スタンドパイプ		D型ポンプ		消火器				
									数量	場所	数量	場所	数量	場所			
法人格成城自治会	15	○			炎対PT打合せ 住民研修会 みまわり隊打合せ 会	合計 15回	○									3	自治会
成城団地自治会	6	○			防災訓練実施委員会	4	○		○			1	防災倉庫	4	1階4ヶ所		
成城消防団第1分団	30						○		○								
成城商店街振興組合	3	○							○		○						
成城南商店会			○						○								
日赤奉仕団成城分団							○				○						
成城あんしんすこやかセンター			○						○		○						
社会福祉協議会・成城地区事務局			○						○		○						
身近なまちづくり推進協議会									○		○						
都立総合工科高校		○				1	○		○							123	各所

団体名	消火資機材の配備		防災訓練等の実施				防災訓練等の実施				防災マップ			
	その他		実施している	実施していない	防災訓練		救命救急講習会		その他		作成済	作成中	作成検討中	作成予定なし
	名称	場所			回数	実施場所	回数	実施場所	訓練名称	実施場所				
法人格成城自治会			○		各2	「大災害発生時住民行動マニュアル」訓練 成城1～9丁目 砦7～8丁目 「本部立上げ訓練」 自治会館							○	
成城団地自治会			○		2	北公園						○		
成城消防団第1分団	可搬ポンプ	分団本部	○											
成城商店街振興組合			○											○
成城南商店会														
日赤奉仕団成城分団			○					①3.11を忘れない	成城学園前駅					
成城あんしんすこやかセンター			○											○
社会福祉協議会・成城地区事務局			○											○
身近なまちづくり推進協議会			○											○
都立総合工科高校			○		5	本校 避難訓練4回 防災訓練1回	宿泊防災訓練2年	本校			○			

団体名	防災マップ							防災士等の数					災害時連携・協定 (区を除く)		避難行動要 支援者協定					
	掲載情報							防災士	把握していない	地域防災リーダー	把握していない	他団体との連携	協定締結	特になし	連携先・内容	協定先・内容	締結している	検討中である	予定はない	
	一時集合所	広域避難場所	避難所	街路消火器	防火水槽	震災用井戸	消火栓													その他
法人格成城自治会								0		250				○		古木会(昔締結したもの)				各班で実施
成城団地自治会	○	○	○	○	○	○		0		0		○			成城自治会		○			
成城消防団第1分団								0		0				未						
成城商店街振興組合												○		○						○
成城南商店会																				
日赤奉仕団成城分団																				
成城あんしんすこやかセンター												○		○		法人(社会福祉法人古木会)と連携				○
社会福祉協議会・成城地区事務局												○		○						○
身近なまちづくり推進協議会												○		○						○
都立総合工科高校								○		○		○				世田谷区長と「避難所施設利用に関する協定書(避難所としての施設利用等)」を締結				○

団体名	避難行動要支援者対策				連絡手段の確保			防災活動に関するマニュアル (避難所運営マニュアルを除く)				
	日頃からの 見守り活動	要 支援者 体験	その他	特 に 実 施 し て い な い	簡 易 無 線	作 成 ・ 網 の 備 	其 他	策 定 済 み	策 定 中	検 討 中	予 定 な し	名 称
法人格成城自治会	○ 各班		要支援者だけではなく、全怪我人をどう助けるかの中で考える。28,000人、13,000世帯から1人の犠牲者もださない活動。自治会の班が約400有り、その班を活用し、安否確認に取り組んでいる。		○(8台)	○(約400班の内、現在120班迄整備)		○				・自治会独自の「住民行動マニュアル」 ・自治会独自の「防災リーダー行動マニュアル」
成城団地自治会	○				○				○			
成城消防団第1分団					○	○		○				
成城商店街振興組合				○							○	
成城南商店会												
日赤奉仕団成成分団												
成城あんしんすこやかセンター				○		○		○				
社会福祉協議会・成城地区事務局											○	
身近なまちづくり推進協議会												
都立総合工科高校				○	○				○			

団体名	救出救助に係る資機材の配備																食糧等の備蓄								
	配備していない	配備している	リアカー	はしご	脚立	担架	救急セット	ヘルメット	救助工具セット	ボール	スコップ	手おの	のこぎり	ジャッキ	両口ハンマー	ツルハシ	その他	保管場所	備蓄していない	備蓄している	アルファ米	ビスケット・乾パン	おかゆ		
法人格成城自治会	○		1	1	1	2	1	10	2	1	3		1	1		1	発電機3	自治会のも の、避難所は 含まない。	○				30		
成城団地自治会	○		1		2	2	1	5		○	15	1	1					防災倉庫・倉庫	○						
成城消防団第1分団	○				1	1	3	60	1									分団本部 (但しヘル メットは 各団員 宅)	○		○	○			
成城商店街振興組合	○																		○						
成城南商店会																									
日赤奉仕団成城分団						1											日赤 テント	まちセン 地下倉庫							
成城あんしんすこやかセンター	○							8											○						
社会福祉協議会・成城地区事務局	○																		○						
身近なまちづくり推進協議会	○																		○						
都立総合工科高校	○		4	3	3	1	2	40		10	10	1	50	1	15	2		各科の工 場教室	○		4350	2030			

団体名	食糧等の備蓄											その他の防災活動		
	飲料水	缶詰類	レトルト食品類	カセットコンロ	災害用食料 その他	非常用トイレ	照明	発電機	蓄電池セット	給水タンク	その他		保管場所	備蓄品 配布先
法人格成城自治会	120						4	2		18個、20個、10個、20個		自治会事務所内倉庫		・世田谷区民防災会議への出席 ・砧地域区民防災会議への出席 ・成城地区区民防災会議への出席
成城団地自治会														・世田谷区民防災会議への出席 ・砧地域区民防災会議への出席 ・成城地区区民防災会議への出席
成城消防団第1分団	○	○	○									分団本部	災害時の 団員用	消防団員の為、上級救命以上の資格を全団員取得 ・月に1回は月例点検(可搬ポンプ、消防車、ホース等) ・操法訓練は5月、6月実施 ・火災出動年に数回 ・署(成城消防署)で ・成城地区区民防災会議への出席
成城商店街振興組合														・成城地区区民防災会議への出席
成城南商店会														・法人格成城自治会の防災活動に協力している ・係員の80%が消防団員のため、成城消防団第1分団と連携
日赤奉仕団成城分団														・成城地区区民防災会議への出席 ・避難所運営委員会への分団員の参加
成城あんしんすこやかセンター											食料は各個人で用意			・成城地区区民防災会議への出席 ・あんすこで把握している見守り高齢者の訪問実施 ・医療従事者4名在席
社会福祉協議会・成城地区事務局														・SSCK(成城セカンドコミュニティ会議)主催の防災講座を開催予定
身近なまちづくり推進協議会														・成城地区区民防災会議への出席
都立総合工科高校	1240	1240					2	3		毛布950枚	本校グラウンドの防災倉庫A及びB			

4. 成城地区の課題と取り組み

<平時の取り組み>

(1)地区の防災活動の充実と防災力の向上

成城地区では、成城地区自治会連合会が「大災害発生時、一人の犠牲者も出さない」ことをスローガンとして、発災時に「大災害発生時住民行動マニュアル」に従って行動することによって、大切な命を守ろうとする発災直後に特化した災害対策活動を展開し浸透を図っている。

9月1日と3月11日の年2回災害対策訓練を実施し、各家庭において、

- ① 「大災害発生時住民行動マニュアル」を確認し、
- ② 住民行動マニュアルの5番目の行動となる安否確認標識を掲示し、
- ③ 班内の顔合わせをする、

をセットとして行うよう奨励している。安否確認標識の掲示訓練は、掲示していない世帯の安否確認を優先して行うこととなるため、短時間勝負とされる発災時の隣近所の救出救助が効率良く行うことができるとともに、訓練時の掲示率によって災害対策訓練の徹底度を確認できる。「大災害発生時住民行動マニュアル」による発災直後の住民行動は、自分の命を守ることから始まり、救助と重傷者を病院等に搬送するまで、その場に居合わせた人々によって命を守ることに徹した活動であり、このシステムを徹底浸透させるため、住民研修会、防災リーダー会議、各団体の集会等において、住民とのすり合わせを行っている。

避難所となる各小中学校では、避難所運営委員会による運営マニュアルの作成や更新、避難所運営訓練、資機材操作訓練を行い、災害時の実効性を高める取り組みが、また、マンション等の集合住宅では、管理組合等による防災訓練(防災教室)が各々で行われている。

■意見

- ・住民が防災活動に熱心。防災意識が比較的高い。
- ・自治会への未加入により防災連携が不安な方や関心を持たない人もいる。
- ・河川があるので消火活動に利用または防災復興に役立ちそう。

■地区としての今後の取り組みの方向性

- ①自治会への加入および災対活動への参加促進。安否確認標識を活用した防災訓練の実施 【住民、法人格成城自治会、成城団地自治会、成城地区自治会連合会】
- ②避難所運営訓練の実施及び充実 【各避難所運営委員会】
- ③地区イベント(成城さくらフェスティバル等)等での啓発活動

(2)防災情報の提供・共有化

防災情報は様々な媒体で提供されている。災害発生時に住民が正しい情報に基づいて行動できるよう、日ごろからの周知に努める。東京都が作成した冊子「東京防災」、世田谷区が作成した「災害時区民行動マニュアル」等を広く配布し、防災関連情報の提供を進める。また、非常時にもスムーズに情報共有できるよう、関係各機関との良好な関係づくりを進める。

■意見

・地域の活動で人が集まる機会を活用して、防災関連情報を周知する。

■地区としての今後の取り組みの方向性

- ①子ども・青少年への防災情報の提供 【区・子ども関連施設団体、学校】
- ②災害時区民行動マニュアルマップ版等防災資料の配布 【区・地域活動】
- ③災害対策住民研修会の実施 【成城地区自治会連合会】
- ④防災リーダー研修会 【法人格 成城自治会】

(3)防災資源の活用

成城地区には、大学・高校をはじめとする文教施設や民間事業所が多くある。専門的な知識や技術(医師、看護師、薬剤師、獣医師等)を有する人や、若者(学生等)を、貴重な人材＝防災資源ととらえ、連携を進める。

■意見

- ・地区内には、砧総合支所、成城消防署があり情報が入りやすい
- ・ホームセンターなどが地区内にあり、平時から防災用品等の入手がしやすい。

■地区としての今後の取り組みの方向性

- ①成城学園との災害時協力 【成城地区区民防災会議】
※区は平成23年7月19日付で学校法人成城学園理事長と「災害時における協力体制に関する協定書(避難所としての施設利用、学生・教職員ボランティア派遣等)」を締結。
- ②総合工科高校、上智大学祖師谷国際交流会館(旧留学生会館)との災害時協力
【成城地区区民防災会議、各避難所運営委員会】
※区は平成20年5月19日付で東京都立総合工科高等学校長と「避難所施設利用に関する協定書(避難所としての施設利用等)」を締結。
- ③地区内のホームセンターや医院などとの災害時協力
【成城地区区民防災会議、各避難所運営委員会】

※区は平成14年4月1日付で一般社団法人世田谷区医師会会長と「災害時の医療救護活動についての協定書」を締結。

※区は平成17年3月に東京都獣医師会世田谷支部と動物救護活動についての協定を締結。

④重機の使い手や看護師など資格を持った専門職との災害時協力

・建設団体防災協議会との連携 【区、成城地区区民防災会議】

※区は平成10年3月2日付で建設団体防災協議会会長と「災害時における応急対策業務に関する協定書(救出救助、施設応急復旧等)」を締結している。

・地区内看護師等専門職の把握と協力関係づくり 【成城地区区民防災会議】

⑤集合住宅を含めた地区の防災活動の支援・強化

・マンション管理組合等への防災訓練(防災教室)の案内 【区】

・集合住宅の自治会加入に向けた啓発等 【法人格成城自治会・区】

⑥商店街の災害時活動の取り組み 【成城商店街振興組合、成城南商店会】

※区は平成25年2月28日付で世田谷区商店街連合会会長と「災害時における応急物資の優先供給及び被災者支援に関する協定書及び実施細目」を締結。

⑦普通救命講習受講の普及啓発 【日赤奉仕団成城分団、成城地区区民防災会議】

⑧日赤奉仕団の防災啓発活動及び避難所支援 【日赤奉仕団成城分団】

⑨成城消防団第一分団による防災活動 【成城消防団第一分団】

(4)要配慮者対策

住民同士の日ごろのコミュニケーションから、情報把握に努める。

■意見

- ・高齢者が多い。身体能力の面で不安
- ・外国人の居住者が多い。・多言語またはやさしい日本語での案内が大切。

■地区としての今後の取り組みの方向性

①避難行動要支援者の把握。 【区、住民、法人格成城自治会、成城団地自治会】

※成城まちづくりセンター(成城拠点隊)、成城消防署、成城団地自治会に、成城地区の災害時要支援者の名簿が備わっている。

②関連する団体との連携。 【区、社会福祉協議会、あんしんすこやかセンター】

・地区内の高齢者施設、障害者施設等の福祉施設との防災面での取り組みを強化。

③ご近所の高齢者への日ごろの声かけを行う【住民】

④要配慮者がいる世帯の食料、水の備蓄等を推進

【住民、社会福祉協議会、あんしんすこやかセンター】

④ 外国語版「災害時区民行動マニュアル」の普及を図る 【区】

(5)家庭における防災の備え

家庭における日頃からの防災の備えを充実することで、地区全体の被害の軽減および防災力の向上を図る。そのために、各家庭で、耐震改修や備蓄がしっかりできるよう、情報提供に努める。

■意見

- ・自助(自分の身は自分で守る)の意識を強化する。
- ・水と食糧の家庭での備蓄をより広める。
- ・日頃から風呂の水を生活用水として溜めておく。

■地区としての今後の取り組みの方向性

①建物の耐震化。

- ・昭和56年以前に建築された木造建物の区無料耐震診断の周知 【区】
- ・自治会回覧による耐震診断制度等の案内 【法人格成城自治会】

②家具その他の転倒落下防止対策の推進。

- ・区の家具転倒防止機器助成制度の周知 【区】
- ・自治会回覧による家具転倒防止機器助成制度等の案内
【法人格成城自治会、成城団地自治会】

③食糧、水(飲料水・生活用水)、日用品、薬等の備蓄の推進。

- ・普段使いのものを多めにストックして使っていく「ローリングストック」実施 【住民】

④防災用品、消火器等の設置推進。

- ・「世田谷区防災用品あっせんのおしらせ」「世田谷区消火器等あっせんのご案内」の周知 【区】

⑤発災時の行動を在宅時・外出時別でイメージし必要なものを備える 【住民】

⑥家庭内で防災について話し合う機会を設け、我が家の備えの確認を行う。

- ・避難場所を確認し、安全なルートを家族で歩いてみる 【住民】
- ・家族が離れ離れの時にどうするか相談し、集合場所を決めておく。 【住民】
- ・安否確認方法を決める NTT 災害伝言ダイヤル 171 の活用の確認 【住民】

(6)日ごろのコミュニケーションの強化

災害時は特に、日ごろのコミュニケーションの大切さを認識することが多い。成城地区では、隣近所のつながりを重視し、長く住んでいる住民と新しく住み始めた住民との間にも、良好なコミュニケーションができる関係を築き、防災力の向上を図る。

■意見

- ・留守な家が多い。特に日中留守の家が多い。

・人の出入り(引越し)が多く、自治会への加入率が低い。

■地区としての今後の取り組みの方向性

- ①自治会の災害対策訓練への参加を通じて、近所とのつながりを強化する。
【住民】【法人格成城自治会、成城団地自治会】
- ②隣近所と普段から日頃のあいさつを行う。 【住民】
- ③無関心な人や高齢者の多い地区は、自治会の安否確認標識掲示におけるコミュニケーションから、少しずつ関心のある人を増やしていく
【法人格成城自治会、成城団地自治会】【住民】
- ④地区のイベントへの気軽な参加を通じてコミュニケーションを図る 【住民】
- ⑤自治会への加入者を増やす(再掲)
 - ・パンフレット「成城自治会に加入しましょう」の配布【自治会】
 - ・パンフレット「笑顔がつながる町会・自治会」の窓口等での配布【区】

(7)避難路、避難場所の点検

広域避難場所や避難所を知ってもらうとともに、安全な避難経路を確認してもらう。

■意見

・避難場所や避難場所への行き方(道順)が分からない人もいる

■地区としての今後の取り組みの方向性

- ①一時集合所と広域避難場所を知り、そこまでの安全なルートを確認する 【住民】
- ②自宅近くの防災資源(街路消火器、消化栓、避難場所等)を確認する。 【住民】
- ③災害時区民行動マニュアル、洪水・内水氾濫ハザードマップの普及 【区】

(8)大雨(集中豪雨)時の対策

令和6年度、区は「洪水・内水氾濫ハザードマップ」を作成し、台風などの風水害時の対応を新たにした。多摩川の氾濫に備える区の最大の対応のとき、避難所開設は2段階となり、成城地区では、第1段階(台風通過の前日)で千歳小学校、第2段階(台風通過の当日)で明正小学校、砧中学校がそれぞれ避難所となる。

■意見

・河川・国分寺崖線があるため豪雨の際に心配。

■地区としての今後の取り組みの方向性

・浸水防止用の土嚢(土嚢ステーション)の活用。 【住民、区】

<災害発生時の取り組み(震災直後)>

(1)「大災害発生時住民行動マニュアル」に従い行動する。 【住民】

(成城地区住民災害対策行動図)

- ① まず、自分の命を守る
- ② 次に、家の中の安全確認
- ③ 自分と家族が無事だったら、安否確認標識(OK)を掲示する
- ④ 次に、被災者の発見と救助のため、安否確認標識を掲示していない家を確認
- ⑤ 近隣の方向士協力して、救命・救助・搬送・初期消火を実施する
- ⑥ 緊急車両が通行できるように、路上の障害物などを撤去する

(2)初期消火

家庭消火器、街路消火器、消火栓(スタンドパイプ)、可搬ポンプ等のあらゆる消火資器材を活用して、近隣の住民同士が協力し、初期消火に努める。 【住民】

(3)負傷者の緊急搬送

負傷者の緊急搬送が必要な場合は、住民同士協力し、負傷者等の搬送に努める。 【住民】

(4)情報収集と区拠点隊への連絡

各自治会、その他団体、住民が入手した被災状況等の情報は区成城拠点隊(成城まちづくりセンター)に連絡する 【住民、自治会、その他団体】

(5)地区内の情報共有

区成城拠点隊は、寄せられた被災情報を集約し共有化を図る。 【区】

(6)避難所の開設

各避難所の開設が必要な場合は、地区住民が中心となって学校・区と連携して避難所運営マニュアルに沿って開設する。 【住民、自治会、避難所運営委員会】

<災害発生時の取り組み(水害・土砂災害直後)>

(1)情報収集 【住民、自治会】

- ① <テレビ> 地上デジタルのリモコン「dボタン」を押して確認
- ② <ラジオ> エフエム世田谷(83.4MHz)
- ③ 世田谷区ホームページ
- ④ 世田谷区災害・防犯情報メール配信サービス
- ⑤ 世田谷区公式X(@setagaya_kiki)

- ⑥ 緊急速報メール(エリアメール)
- ⑦ 防災行政無線
- ⑧ Yahoo! 防災速報(iPhone アプリ・Android アプリ・メール版)
- ⑨ 気象庁ホームページ
- ⑩ 国土交通省京浜河川事務所ホームページ(多摩川の水位等)
- ⑪ 東京都水防災総合システムホームページ(降水量、河川水位等)

(2)非常用持出品の確認 【住民】

(3)避難所開設 【世田谷区】

(4)避難所への避難 【住民】

水害・土砂災害の危険性がある場合のみ、安全な経路で避難する。非常用持出品の持参を忘れずに。

もしも、水害・土砂災害の危険が迫り、避難所に避難する余裕がない場合は、建物の上階または崖地から一番遠い部屋に避難する。 【住民】

(5)他地区からの避難者への配慮 【住民】

困った時はお互い様です。他地区からの避難者には温かい配慮をお願いします。被災者に温かい成城のまちを実現しましょう。

<避難所共通課題>

(1) 避難所(小中学校校舎等)の応急危険度判定実施体制

区の応急危険度判定職員の到着までの間、地域の建築士の協力を得て建物の使用の可否を判断することが考えられる。

(2)要配慮者(高齢者・障害者・妊産婦・乳幼児・日本語のできない外国人等)への配慮

(3)ペットの同行避難

(4)夜間の明かり・飲料水等の確保

(5)物資等の公平な配給

(6)ボランティアの受け入れ

(7)感染症対策

避難とは、「難」を「避」けること。安全な場所にいるときは、その場に。
危険な場所にいるときは、感染症の流行があっても、避難を。
在宅避難、安全な親類・知人宅への避難も考えましょう。

～感染症への心得～

感染症が流行している場合は、平時、発災時を問わず、以下の心得で行動してください。また、不要・不急の外出は避けましょう。

- (1) 3つの密(密閉・密集・密接)を避けましょう。
- (2) 身体的距離を取りましょう。
- (3) マスクの着用・咳エチケットに気をつけましょう。
- (4) 帰宅の際は、うがい・手洗いを忘れずに。
- (5) トイレの後、食事の前にも手を洗いましょう。
- (6) 毎日の検温で体調管理しましょう。
- (7) 無理をせず、体調が心配な時は、かかりつけ医に電話で相談しましょう。

犠牲者を1人もださないように

大災害発生時住民行動マニュアル 説明書

● ご家族全員が必ずお読みください

住民みんなで助け合うまちをつくらう！

※ 2013年2月に地域全戸に配布した「大切なお知らせ」を2024年に一部改訂したものです。

1 はじめに

東日本大震災の悲惨な光景が未だに覚めやりませんが、今後、地震、火災、台風、竜巻、浸水等による**想定外の災害**が、いつ発生するか予測できません。

自治会では、大災害が発生した時に、成城地域から一人の犠牲者も出さないように、発災直後に焦点を絞った災害対策活動に取り組んでおります。9月1日と3月11日に行われます災害対策訓練を礎として、皆さまと共にこの活動を持続させ、いざという時に備えていきたいと思っております。

皆さまのご理解とご協力を心よりお願いいたします。

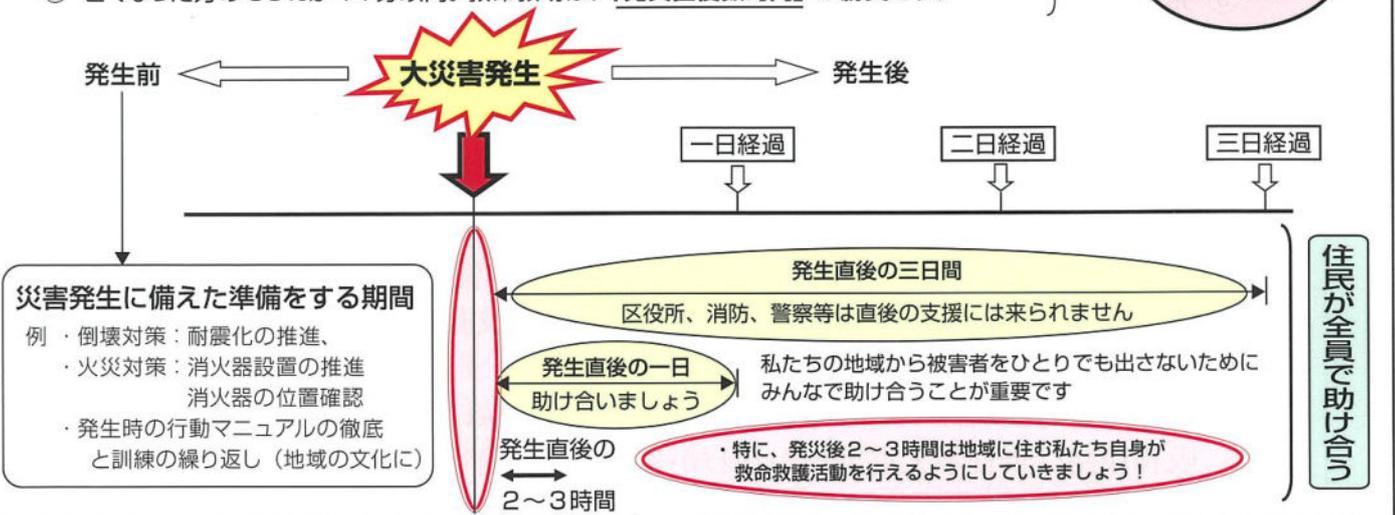
発災前後図

大災害が発生した時、この成城地域から一人の被害者も出さないように、**住民みんなで助け合うまちをつくらう！**

● なぜ？

- ① 大震災が発生した場合公的機関は、**発生後3～7日間は助けられない**と言っています。
- ② 阪神淡路大震災では救出された人の80%以上が、「**隣近所の人**」によって助けられました。
- ③ 亡くなった方の90%が14分以内。救命救助は、「**発災直後数時間**」が勝負です。

私たち住民が
やるしかない！



1) 組織

- ① 原則として、地番を単位としている成城自治会の「班」を、防災区民組織として活用いたします。集合住宅の場合は従来どおりの班またはマンション単位の組織で活動して下さい。
- ② 会員の方は➡ 区域にお住まいの「未加入」の方々を、活動にお誘い下さい。
未加入の方➡ 近隣の会員又は自治会に声をかけ、参加する旨お伝え下さい。
- ③ 班内の全世帯名簿を作成し、保管してください。
その際、できる範囲でこの名簿から、要支援者が分かるようにして災害発生時に支援協力できるようにいたしましょう。
- ④ 防災区民組織としての「班」は、自治会災対PTの支援のもと自主的に活動することとします。活動し易いように隣の「班」と合併または分割することができます。従って現状の自治会「班」活動とは異なってくることもあります。このような改善変更のある場合は自治会災対PTへ速やかにご連絡下さい。

活動は、各班内で協力し自主的に進めていきましょう！！

2) 発災時の行動および訓練

- ① 発災時は、次のページの「発災時の行動」にある「災害発生時住民行動マニュアル」に従って行動しましょう。
- ② 訓練は、「住民行動マニュアル」の内容を繰り返して行うこととなります。訓練を積み重ねて防災能力を高めていきましょう。
- ③ 発災時は近隣の班と助け合って救命救助を行うこととなりますので、近隣の班と合同訓練することも有効でしょう。訓練のツールとして「助け合い訓練シート」（災対PT作成）をご活用下さい。

3) 発災前に行うこと

- ① 家具等の転倒落下防止対策を行いましょ。また、消火器を必ず備えましょ。
- ② 食料、飲料水を3日分と言わず出来れば10日分準備しましょ。成城地区は、隣接地域との出入り道路が少ない高台にあるため、支援物資が入りにくい恐れがあります。
- ③ 班ごとの防災訓練や地域小中学校の避難所訓練に全員で参加しましょ。阪神淡路、東日本大震災等からわかるように、日頃からの訓練に優るものはありません。

発災時は次の「住民行動マニュアル」に従って行動しましょう。

「災害発生時住民行動マニュアル」

No.	行 動	概 要
①	自分の身を守る	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐに丈夫な机テーブルの下等安全な場所に避難する。 ・何よりも自分の身を守る行動をとる。
②	火の始末と 出口確保 (揺れがおさまったら)	<ul style="list-style-type: none"> ・火器等の始末(ガス栓、ストーブ、電気ブレーカーを切る)。 ・扉や窓を開けて、出口を確保する。 扉が再び閉まらないよう、手近なものをはさむ。 ・あわてて外に飛び出さない。 周囲の状況をよく確かめ、落ち着いて行動する。
③	家内の救命活動 と初期消火	<ul style="list-style-type: none"> ・家にいた者の安全を確認する。 ・救助が必要な時は、大声を出して近所の人を呼ぶ。 (家具等に挟まって動けない人がいる、火災が発生など) 救助消火活動をする。 ・以降の行動は、救命救助を優先する。
④	家の被災状況と 危険箇所の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・家の中の被災状況と危険箇所を、全員で確認する。 ・危険箇所には、立ち入り禁止テープ等を張っておく。
⑤	安否状況の表示 (標識の掲示)	<ul style="list-style-type: none"> ・外から見やすいところに、「安否確認標識」を掲げる。 (門扉、ポスト等) ・「赤色」⇒問題あり、救援を求む。 ・「緑色」⇒問題なし、自力で対応できる。
⑥	番地内チェック	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に動ける家人の一人は、番地内を1周して標識の出ている家を見つけたら大声で人を呼び、中を確認してもらう。自らはチェックを最後の家まで続ける。 ・安全に動ける人は、暫く外に居て、緊急車両の障害になる瓦礫等を取り除き、人を呼ぶ声がしたらすぐに駆けつける。
⑦	救助活動	<ul style="list-style-type: none"> ・救出が必要な場合には、さらに人を集めて救出する。 ・救出の際は2次災害とならないように、安全を確保して行う。 ・近所と協力して、救命救助活動を優先して行う。
⑧	帰宅し安全な 場所で待機	<ul style="list-style-type: none"> ・帰宅後安全な場所で待機し、人を集める声を聞き逃さない。 ・片付け等行う際は余震に注意する。 ・近所と協力して、救命救助活動を優先して行う。
⑨	避 難 (やむなく強いられた時)	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫してなるべく在宅避難するようにする。 ・各戸別の避難は、ご近所に伝えてから移動。 ・避難の際は班で協力し、また防犯体制もとる。 ・ガス元栓、電気ブレーカー、水道元栓等を閉栓し避難。

1) この活動は、成城地域の全住民が対象です。

自治会がリーダーシップをとりますが、会員、未加入にかかわらず全住民に参加していただくことを基本とします。皆様方にはどうかこのところを十分ご理解下さい。ただ、全世帯に漏れの無いように努力いたしますが、情報伝達等を自治会会報「砧」および回覧に頼らざるを得ません。未加入の皆様には是非自治会に入会していただいて、スムーズな活動ができますようよろしくお願いいたします。

2) 活動の成否は、班内で一致団結した協力体制を作れるかによります。

この活動時には、普段の個人的なしがらみ等を棚上げにして、独断や威圧的な態度を厳につつしみ、発言の苦手な方々の意見も良く聞いて協力しあいましょう。

犠牲者を一人でも出さないように、又避難を強いられた時には、取り残される人が出ないように、お互いを思いやって行動できるよう、一人ひとりが心し覚悟して活動いたしましょう。これらは訓練を通して、毎回向上していくように心がけていきましょう。

3) 日頃からの訓練に勝るものはありません。

- ・訓練の方法は、訓練シートを使って班または複数班合同で少しずつ行いましょう。
- ・小中学校の避難所訓練等にも積極的に参加しましょう。
- ・安否確認標識は毎年3月11日と9月1日および訓練を行う日に掲示しましょう。

4) この活動は、成城自治会地域の全住民による自主活動です。

住民の皆様が、各班ごとに自主的に積極的に活動されることを切に希望いたします。そして皆様のお声によって、より災害に強いまち作り活動が進められればと考えます。これらがこの活動において最も大切な重要なことではないでしょうか。

以上

「大災害発生時住民行動マニュアル」の説明会について

- ・毎年数回の定期的な説明会や住民研修会の開催を継続していく予定です。
- ・日時、会場等は成城自治会の月間広報誌「砧」や回覧チラシ等でお知らせします。
- ・是非一度ご参加ください。「行動マニュアル」の趣旨や基本的な考え方を理解しておきましょう。
- ・防災リーダー・サブリーダーの方は班内の方、近隣の方の参加をお誘いください。

犠牲者を1人も出さないように

住民みんなで助け合うまちをつくろう！

●問合せ先

法人格 成城自治会災害対策プロジェクトチーム

事務局：世田谷区成城2-33-14 成城自治会館内(駅南橋)

TEL 03-3416-8382 FAX 03-3416-8382

成城地区 区民防災活動図

この地域から一人の犠牲者も出さない！

成城地区区民防災会議

連携・協力

防災活動団体

意見
検討・提案

意見

検討・提案

全住民

実践

法人格成城自治会、成城団地自治会、日赤奉仕団成城分団、成城消防団第一分団、成城地区民生委員・児童委員協議会、成城地区身近なまちづくり推進協議会、成城商店街振興組合、成城南商店会、明正小学校・千歳小学校・砧中学校及び各校PTA、成城消防署、成城あんしんすこやかセンター、成城地区社会福祉協議会、世田谷区成城まちづくりセンター

事前対策

* 家屋の耐震対策

- ・ 家具転倒防止器具取付
- ・ 耐震診断、耐震補強工事
- ・ 耐震シエルト、耐震ベッド

※助成制度あり

* 初期消火対策

- ・ 散水ホース消火訓練
- ・ 家庭用消火器設置

* 各訓練への住民参加の推進

- ・ 安否確認標識掲示訓練
年2回(9月1日、3月11日)
- ・ 各避難所運営訓練
- ・ 成城団地防災訓練
- ・ 各集合住宅その他の訓練

隣近所の方と顔見知りになりましょう！

お薬手帳や常備薬など自分用の非常時持ち出しグッズも準備しておきましょう。

* 水や食料の備蓄

- ・ できれば10日以上の備蓄

* 家庭内の申し合わせと訓練

- ・ 安否確認方法の話し合い
- ・ 電源の確保
- ・ 日頃からのマニュアルの読み込み

直後対策

「大災害発生時住民行動マニュアル」の実践

- ・ 発災時、全住民がマニュアルに沿って行動する

* 自分の命を守る

- ・ 発災時の逃げ場所へ直行

* 家の中の確認・救助

- ・ ブレーカーやガス元栓などを確認

* 番地内被災者の発見

- ・ 安否確認標識掲示の無い家のチェック

* 救命・救助・初期消火

- ・ AED・応急手当・簡易担架作成・搬送
- ・ 初期消火

* 緊急車両両通行常確保

- ・ 路上の障害物撤去

※「大災害発生時住民行動マニュアル」は、法人格成城自治会の「災害対策プロジェクトチーム」が作成し、2013年度から成城全域と砧7・8丁目を対象に年2回、災害対策訓練を実施してきたもので、2018年度から成城地区区民防災計画に取り入れられたものである。

事後対策

* 避難所運営委員会

大災害発生時に誰もが開所できるように準備する。

- * 砧中学校
- * 明正小学校
- * 千歳小学校

* 在宅避難・縁故避難

自宅が損傷を免れた場合は、住み慣れた家での避難生活を推奨する。

※縁故避難とは…親族や友人の家で避難生活を送ること。

新型コロナウイルス感染症の影響により、避難所の受け入れ人数が大きく制限されています。なるべく住み慣れた自宅で生活できるように、日ごろの備えを万全にしましょう！

成城地区区民防災会議
(発案：法人格成城自治会)

2022.7 修正

船橋地区防災計画

[令和7年修正]

船橋地区

【船橋地区防災計画作成団体】

船橋会	船橋小学校
船橋葎根会	希望丘小学校
フレール西経堂自治会	千歳台小学校
千歳台廻澤町会	船橋希望中学校
希望ヶ丘団地自治会	千歳丘高等学校
船橋4丁目住宅自治会	恵泉女学園中学・高等学校
芦花公園スカイハイツ自治会	大東学園高等学校
日赤奉仕団船橋分団	砧地域社会福祉協議会
民生委員・児童委員協議会	船橋あんしんすこやかセンター
成城消防署	東京テラス防災自治会
成城消防団第三分団	希望丘青少年交流センター(アップス)
千歳船橋商店街振興組合	千歳温水プール管理事務所

目次

1	船橋地区の特性	船橋-1(-792-)
	(1)自然特性	船橋-1(-792-)
	(2)社会特性	船橋-2(-793-)
	(3)地域危険度	船橋-4(-795-)
	(4)被害想定	船橋-5(-796-)
	(5)防災資源一覧	船橋-8(-799-)
	(6)防災資源マップ	船橋-9(-800-)
	(7)区民アンケート	船橋-10(-801-)
2	各団体の防災活動～現在の取組状況～	船橋-19(-810-)
3	船橋地区の課題と取り組み	船橋-27(-818-)
	(1)避難行動要支援者の安否確認	船橋-27(-818-)
	(2)地域連携	船橋-28(-819-)
	(3)初期消火	船橋-31(-822-)
	(4)情報共有	船橋-32(-823-)
	(5)在宅避難	船橋-34(-825-)

1. 船橋地区の特性

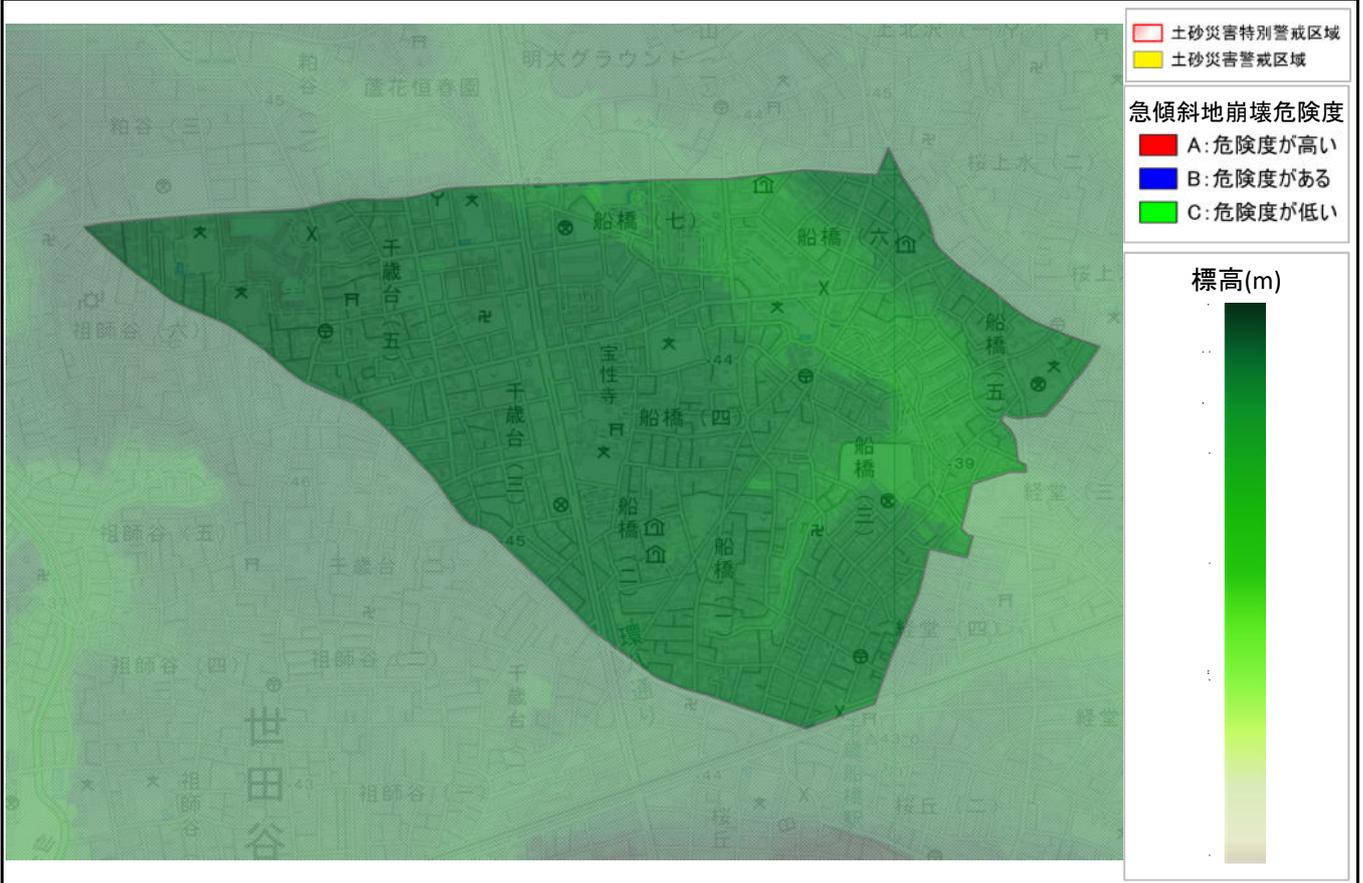
(1)自然特性

面積	1.87 Km ²	最高標高	47.6 m	最低標高	37.2 m
----	----------------------	------	--------	------	--------

位置



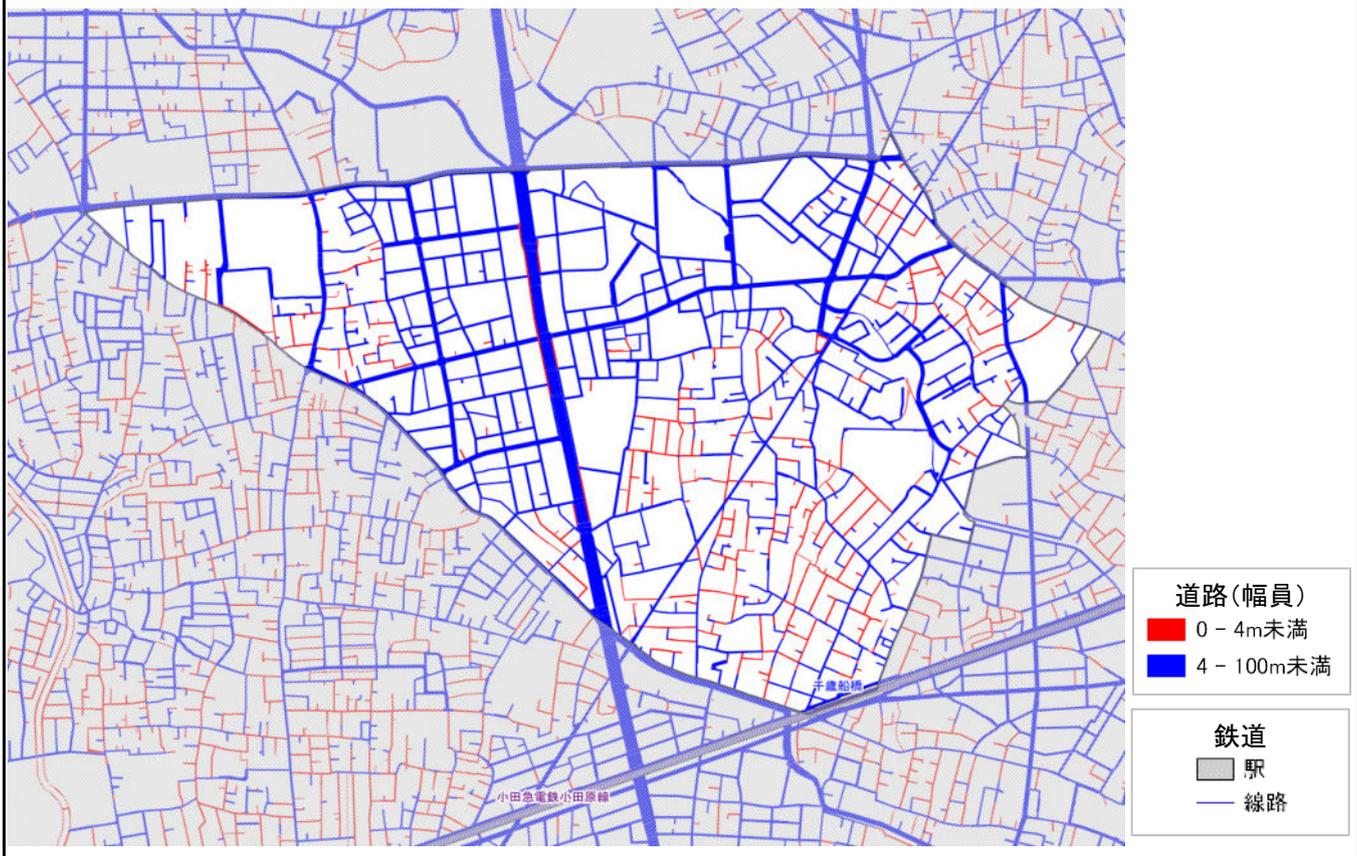
標高・急傾斜地崩壊危険度・土砂災害警戒区域等



(2)社会特性

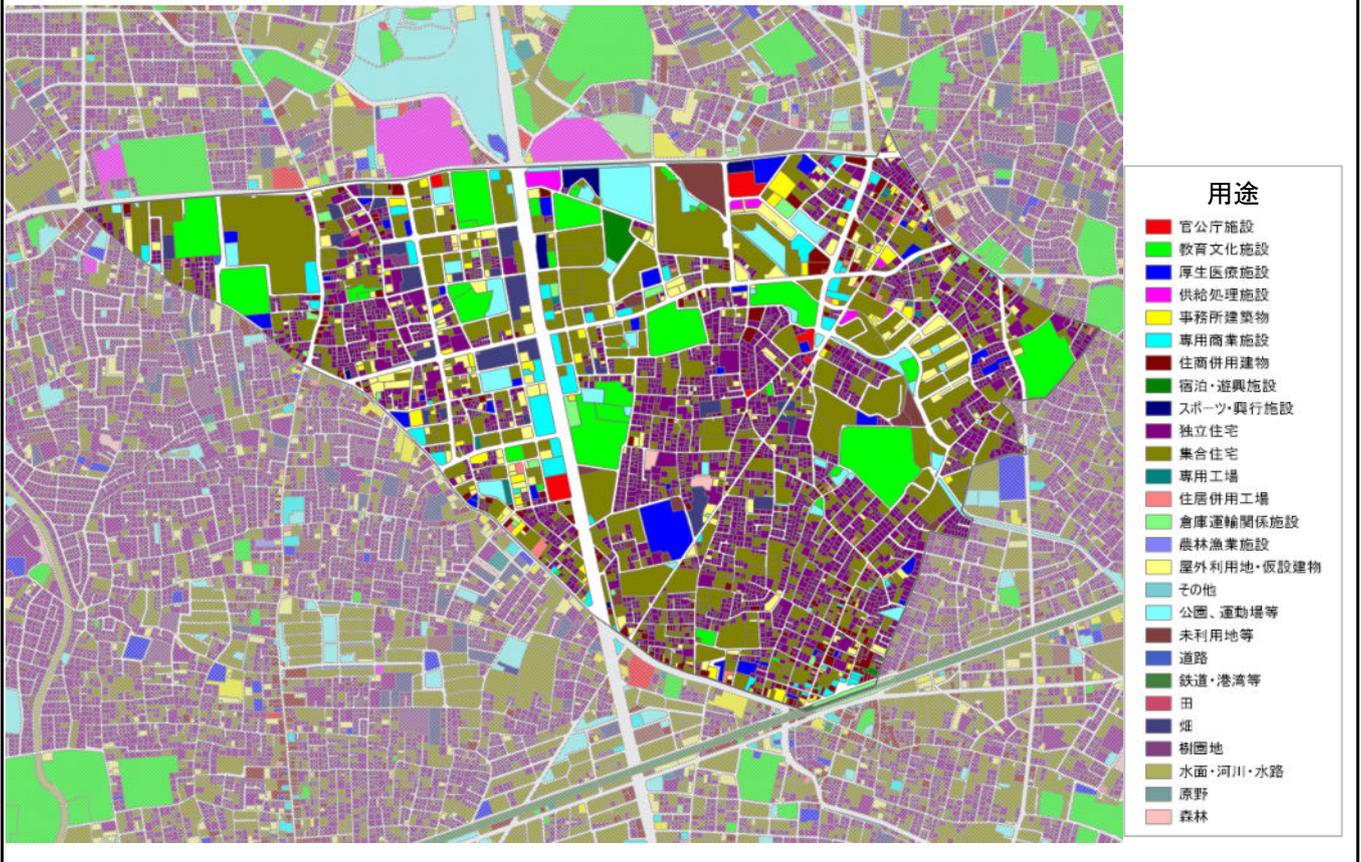
人口	39,427 人	細街路率	24.6 %	
世帯数	19,013 世帯	昭和56年以前木造建物棟数密度	61.4 棟/Km ²	
1世帯あたり	2.07 人	耐火率(建築面積ベース)	68.2 %	
若年層数(15才未満)	5,557 人	土地利用(宅地)	70.1 %	
若年層率(15才未満)	14.1 %	土地利用(宅地以外)	29.9 %	
高齢者数(65才以上)	7,732 人	鉄道駅	小田急小田原線千歳船橋駅	
高齢者率(65才以上)	19.6 %			
昼間の人口	31,773 人	産業	商業	66.9 %
夜間の人口	40,015 人		工業	11.0 %
昼夜間人口比	0.79 -		農業	22.1 %
町会・自治会数	7 -			

道路・公共交通機関



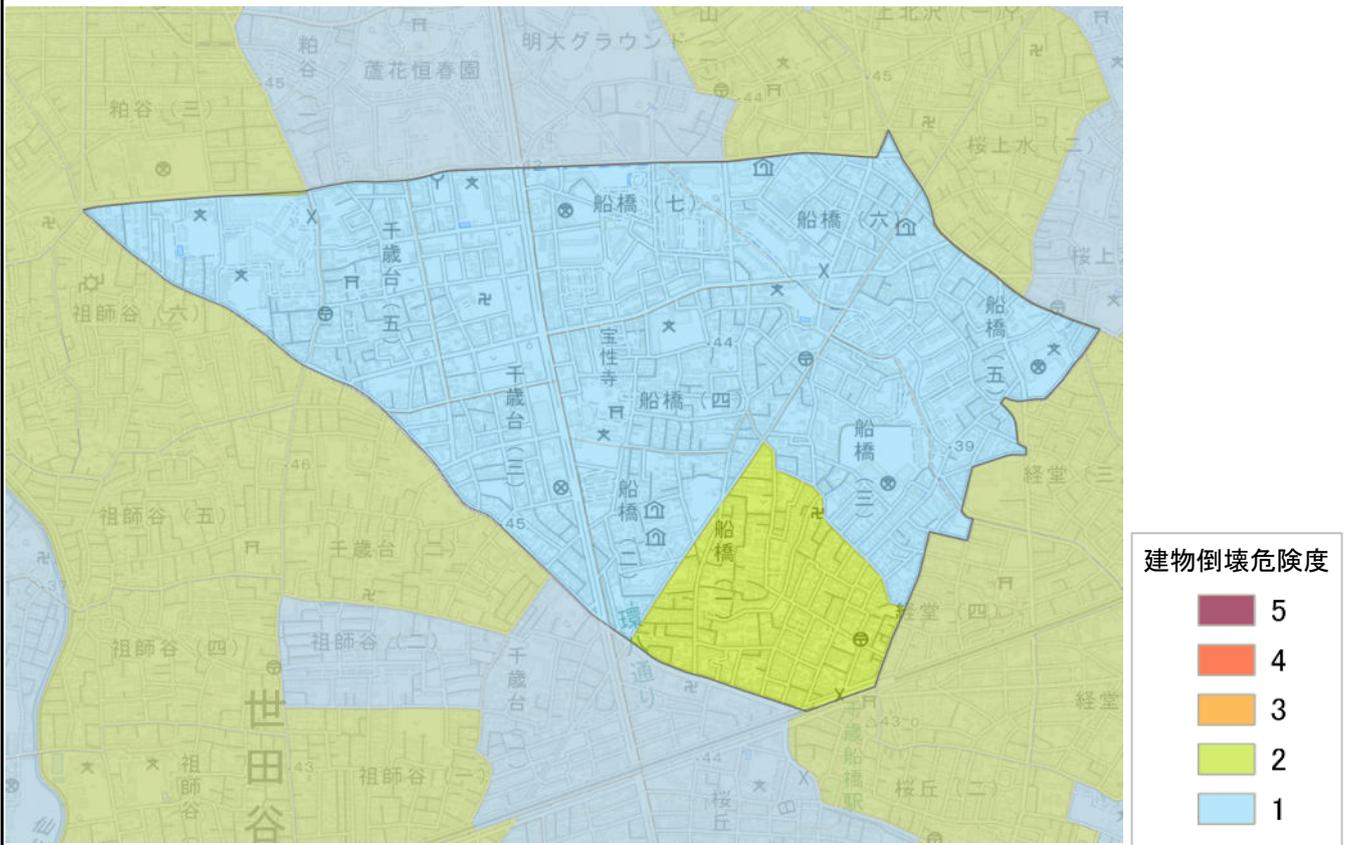
(2)社会特性

産業

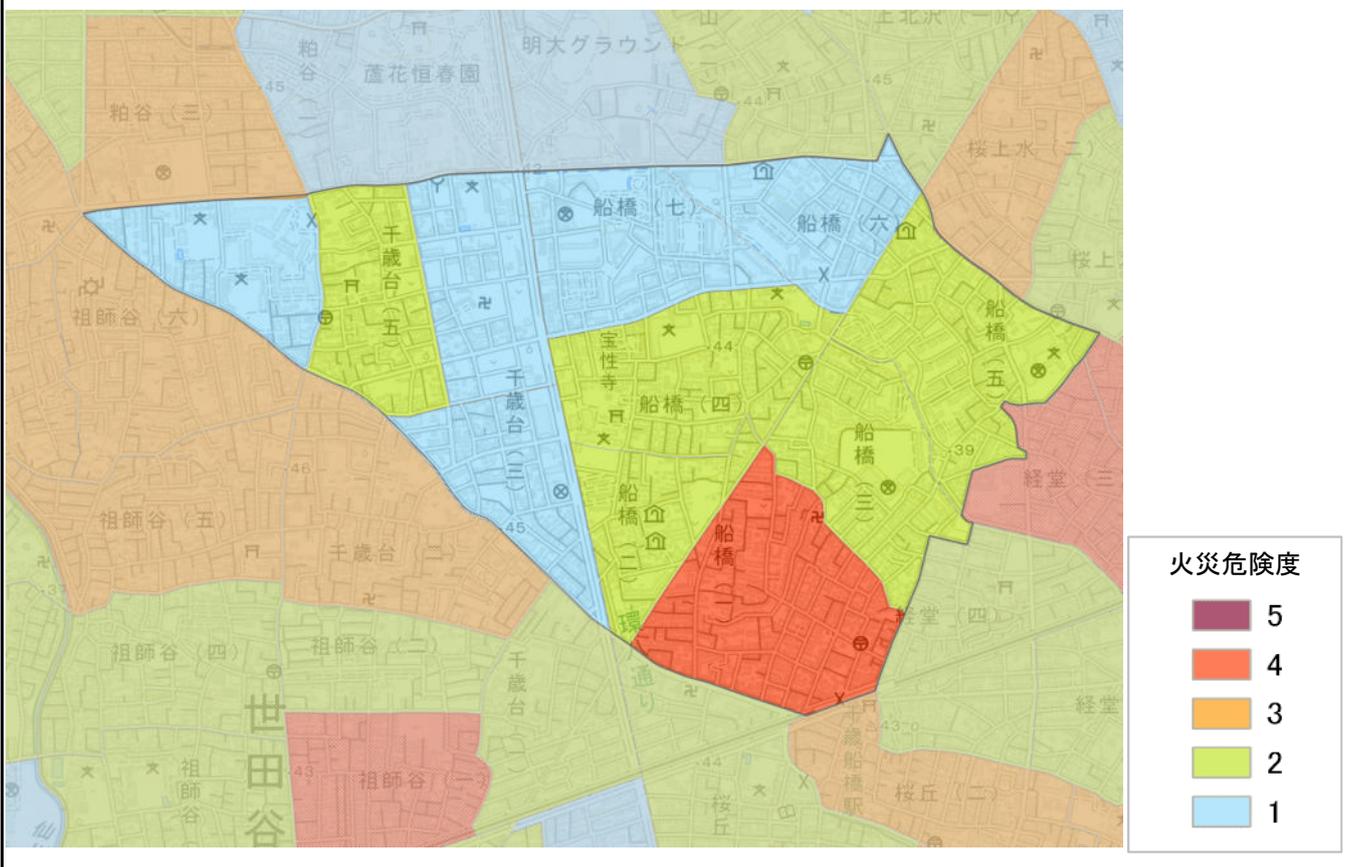


(3)地域危険度

建物倒壊危険度



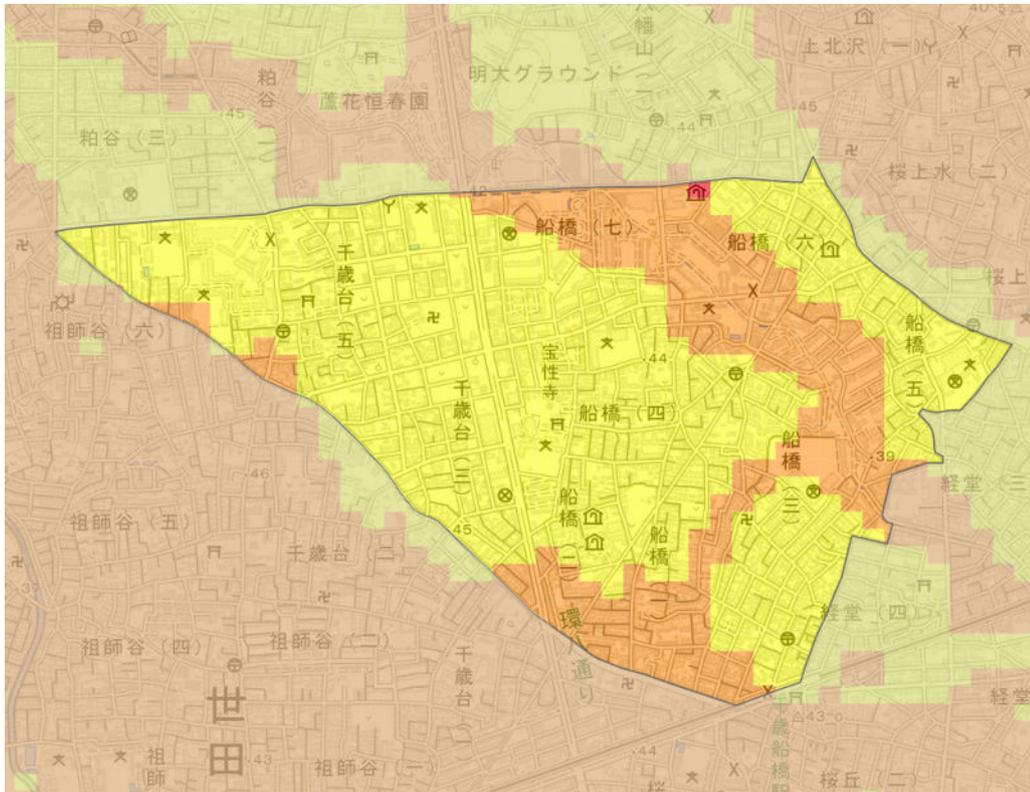
火災危険度



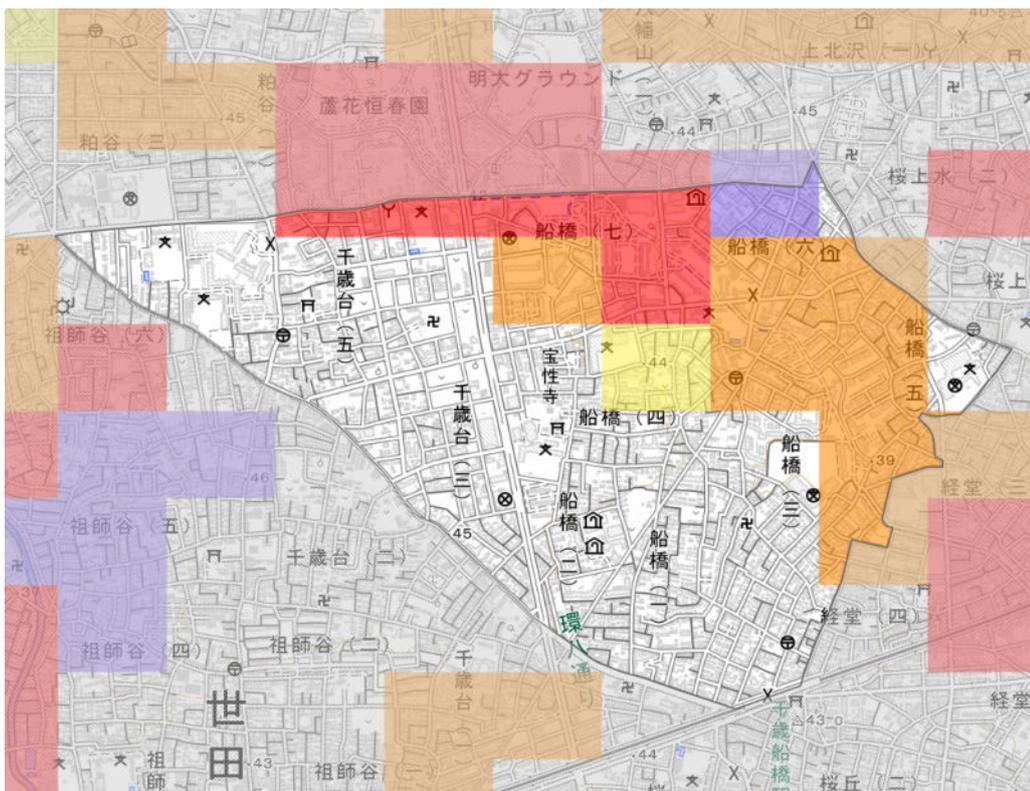
(4)被害想定

全壊棟数	87 棟	死者	19 人
半壊棟数	338 棟	負傷者	208 人
全焼棟数(倒壊建物含まず)	825 棟	うち重傷者	35 人

震度分布

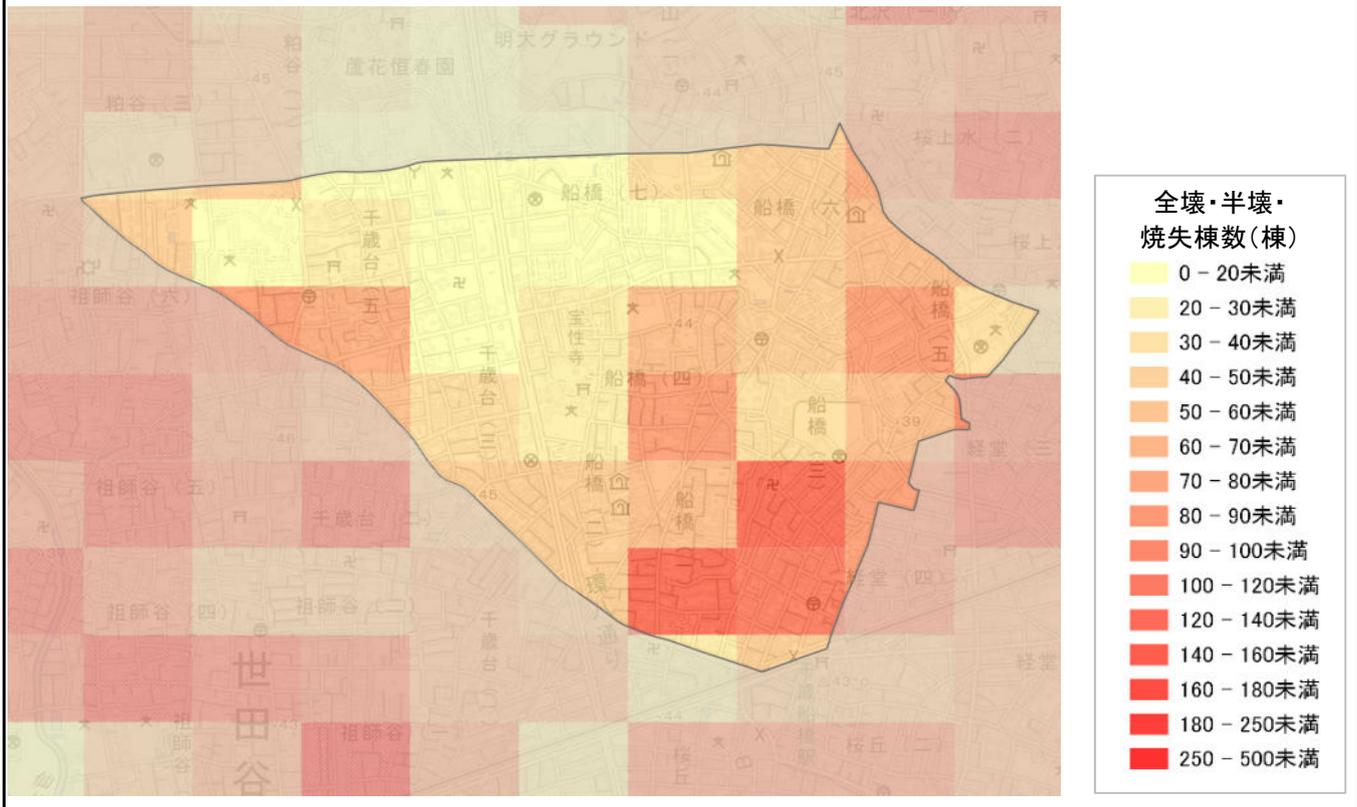


液状化分布



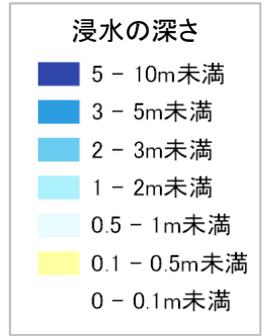
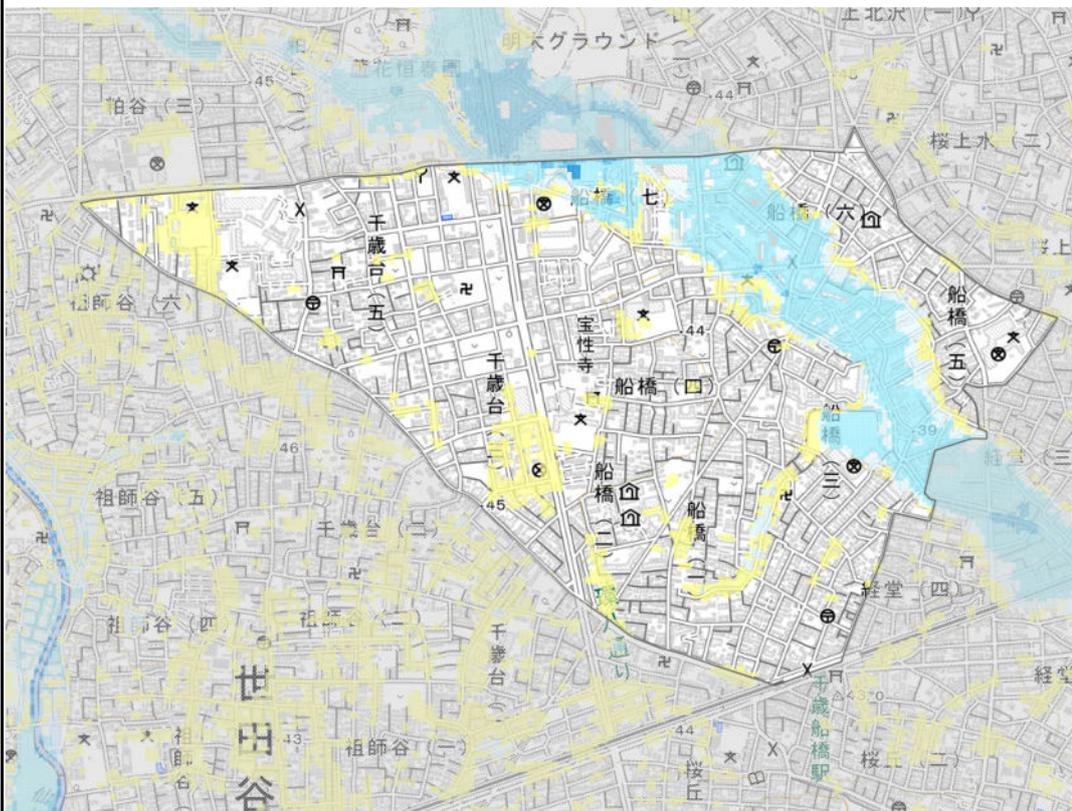
(4)被害想定

被害棟数分布

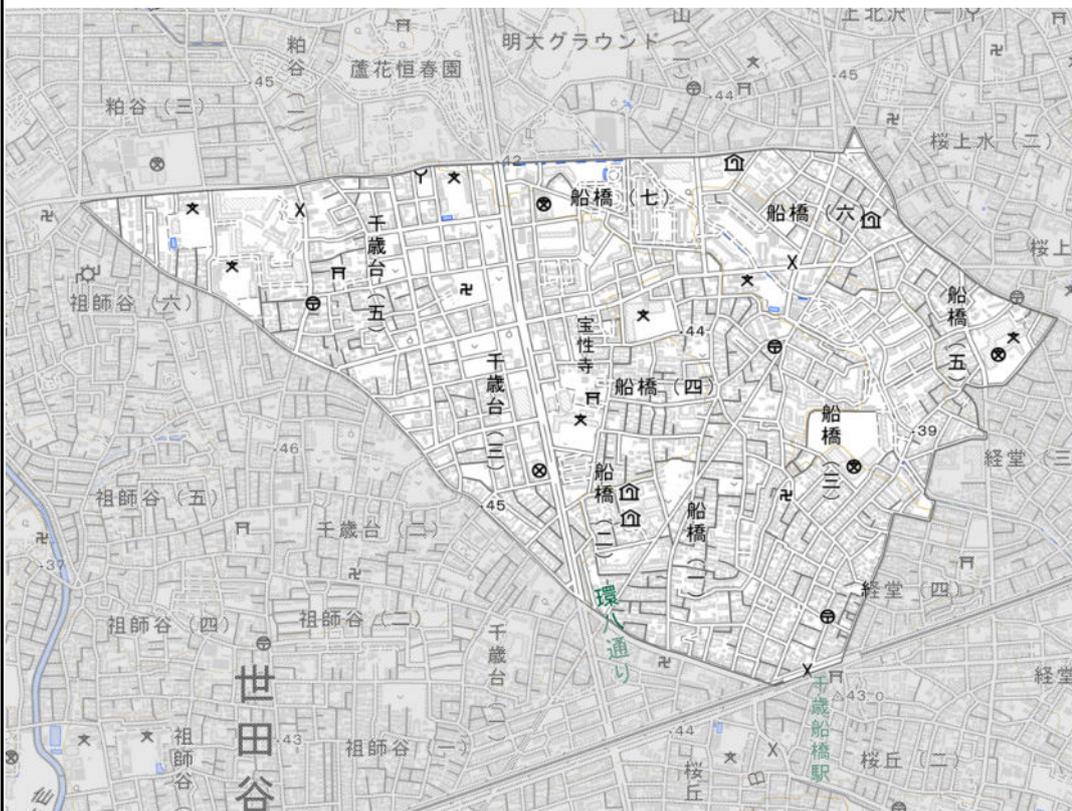


(4)被害想定

浸水想定(内水氾濫・中小河川洪水版)



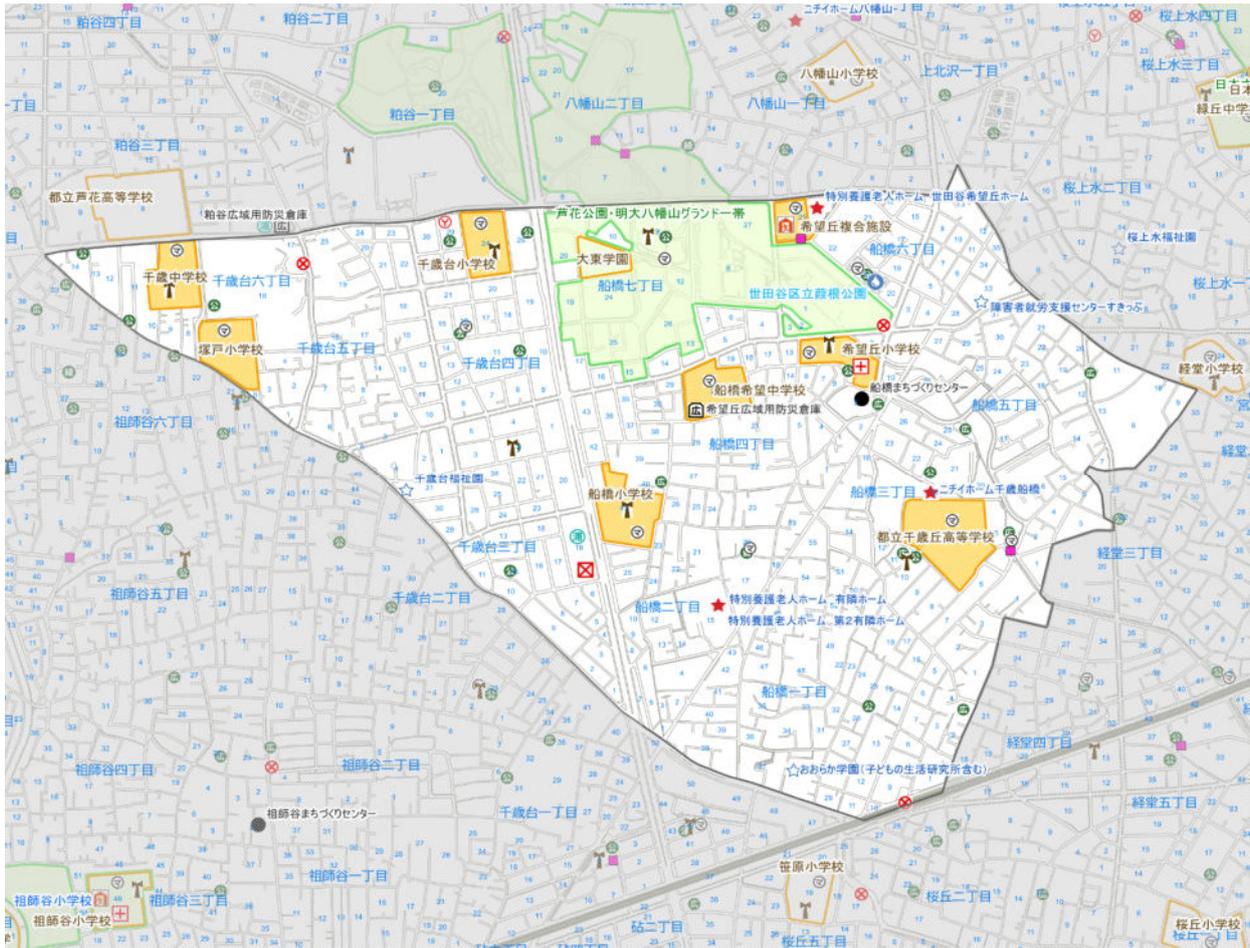
浸水想定(多摩川洪水版)



(5)防災資源一覧

広域避難場所	芦花公園・明大八幡山グランドー帯				
一時集合所	フレール西経堂団地広場 廻澤稻荷神社境内 希望丘記念公園 希望丘公園 希望丘中公園 希望丘南公園 希望丘北公園 西経堂児童遊園 西経堂第二児童遊園 千歳丘高校正門付近 船橋1丁目児童遊園 船橋4丁目ふれあいひろば 船橋希望中学校校庭 船橋小学校校庭 船橋神明神社境内周辺 船橋本村公園 船橋郵政社宅内広場 団地内広場 池田児童遊園 葎根公園				
指定避難所	希望丘小学校 希望丘複合施設 千歳台小学校 船橋希望中学校 船橋小学校 都立千歳丘高等学校				
予備避難所	大東学園				
福祉避難所(母子)					
福祉避難所(高齢者)	特別養護老人ホーム有隣ホーム 特別養護老人ホーム第2有隣ホーム ニチイホーム千歳船橋 特別養護老人ホーム世田谷希望丘ホーム				
福祉避難所(障害者)	障害者就労支援センターすきっぷ 千歳台福祉園 おおらか学園(子どもの生活研究所含む)				
水害時避難所(第1次)	希望丘複合施設(区民集会所)	野川・仙川洪水時避難所			
水害時避難所(第2次)					
土砂災害時避難所					
避難所救護所	希望丘小学校				
東京都災害拠点病院					
東京都災害拠点連携病院					
緊急医療救護所					
一時滞在施設	トヨタモビリティ(株) 成城店				
一時避難施設(車中避難)				帰宅困難者支援施設	0 ヶ所
ボランティアマッチングセンター					
マンホールトイレ	11 ヶ所	防災行政無線塔	7 ヶ所	緑地	0 ヶ所
輸送拠点					
給水拠点	世田谷区立葎根公園				
広域用防災倉庫	希望丘広域用防災倉庫				
土のうステーション	希望丘複合施設 西経堂第二児童遊園				
警察署・交番	成城警察署 千歳船橋駅前交番 千歳台交番 船橋交番				
消防署・出張所	千歳出張所				

(6)防災資源マップ



- | | |
|--------------------|-------------------|
| ● 総合支所 | ■ 広域避難場所 |
| ● まちづくりセンター | ■ 指定避難所 |
| ⊕ せたがや災害ボランティアセンター | ■ 予備避難所 |
| Ⓔ 広域用防災倉庫 | ■ 福祉避難所(母子) |
| ● 給水拠点 | ★ 福祉避難所(高齢者) |
| ⌚ 防災行政無線塔 | ☆ 福祉避難所(障害者) |
| Ⓜ マンホールトイレ | 🏠 水害時避難所(第1次) |
| ■ 土のうステーション | 🏠 水害時避難所(第2次) |
| 🚓 警察署 | 📍 野川・仙川洪水時避難所 |
| 🚒 交番 | 📍 水害時避難所(狛江市) |
| 🚒 消防署 | 📍 水害時避難所(調布市) |
| 🚒 消防出張所 | 📍 土砂災害時避難所 |
| 🌳 身近な広場 | 🏠 避難所救護所 |
| 🌳 公園 | 🏠 東京都災害拠点病院 |
| 🌳 緑地 | 🏠 東京都災害拠点連携病院 |
| | 🏠 緊急医療救護所 |
| | 🏠 一時滞在施設 |
| | 🏠 帰宅困難者支援施設 |
| | 🏠 ボランティアマッチングセンター |
| | 🚚 輸送拠点等 |
| | 🚚 一時避難施設(車中避難) |

出典

世田谷区土砂災害ハザードマップ 令和6年7月発行

世田谷区の町丁目別人口と世帯数 令和6年3月1日

世田谷区の年齢別人口 令和6年3月1日

世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ(多摩川洪水版、内水氾濫・中小河川洪水版)令和6年7月発行

世田谷の土地利用2021 世田谷区土地利用現況調査

世田谷区GISオープンデータ

令和2年国勢調査による 東京都の昼間人口(従業地・通学地による人口)第11表

地域危険度一覧表(地震に関する地域危険度測定調査[第9回]) 令和4年9月

首都直下地震等による東京の被害想定 報告書 令和4年5月25日

世田谷区防災マップデータ 令和6年3月

(7)区民アンケート(船橋地区)

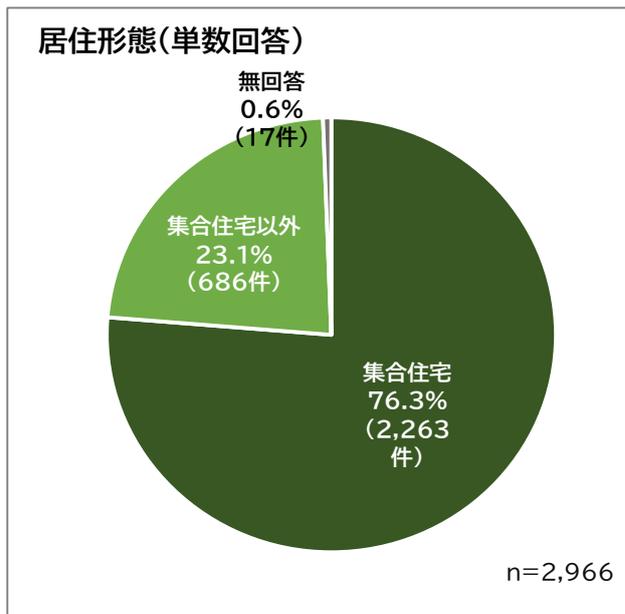
このアンケートは、今後の区内各地域及び地区における災害関連施策の検討や取組みに活用することを目的として、令和6年度に災害対策課が実施した「在宅避難支援事業(防災カタログギフト)」に合わせて行ったものである。

なお、以下に記載している回答集計結果は、カタログギフト申込者のうち、WEBで申し込みをした区民へ任意での回答を依頼し、令和6年8月9日から9月8日までに回収できた分である。

単純集計(1/5)

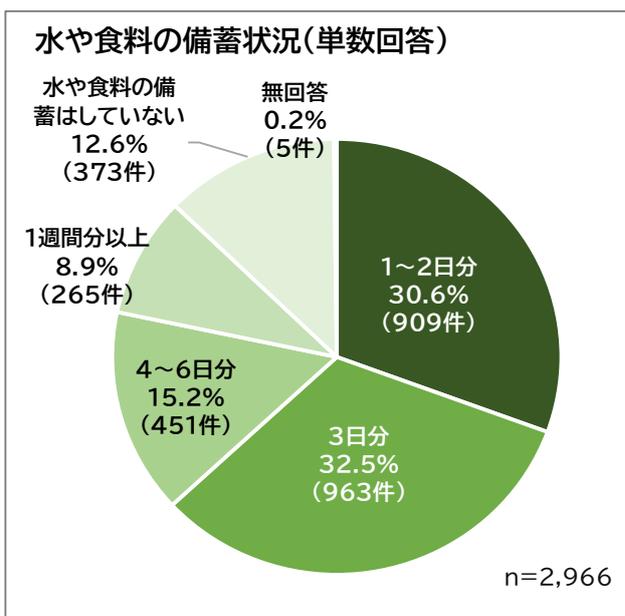
居住形態

【1】あなたはマンションなどの集合住宅にお住まいですか。



水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。

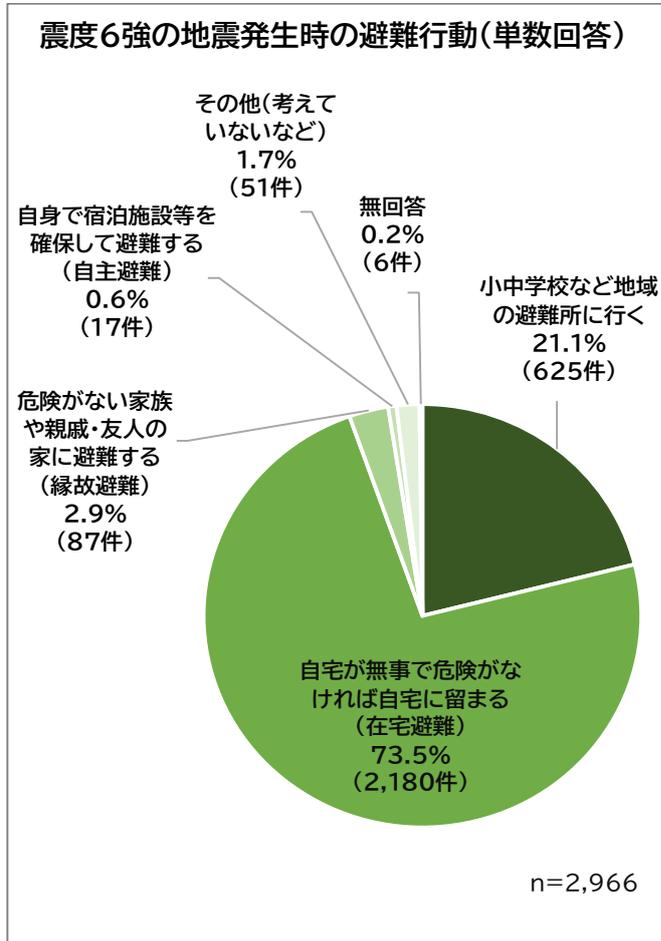


(7)区民アンケート(船橋地区)

単純集計(2/5)

震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



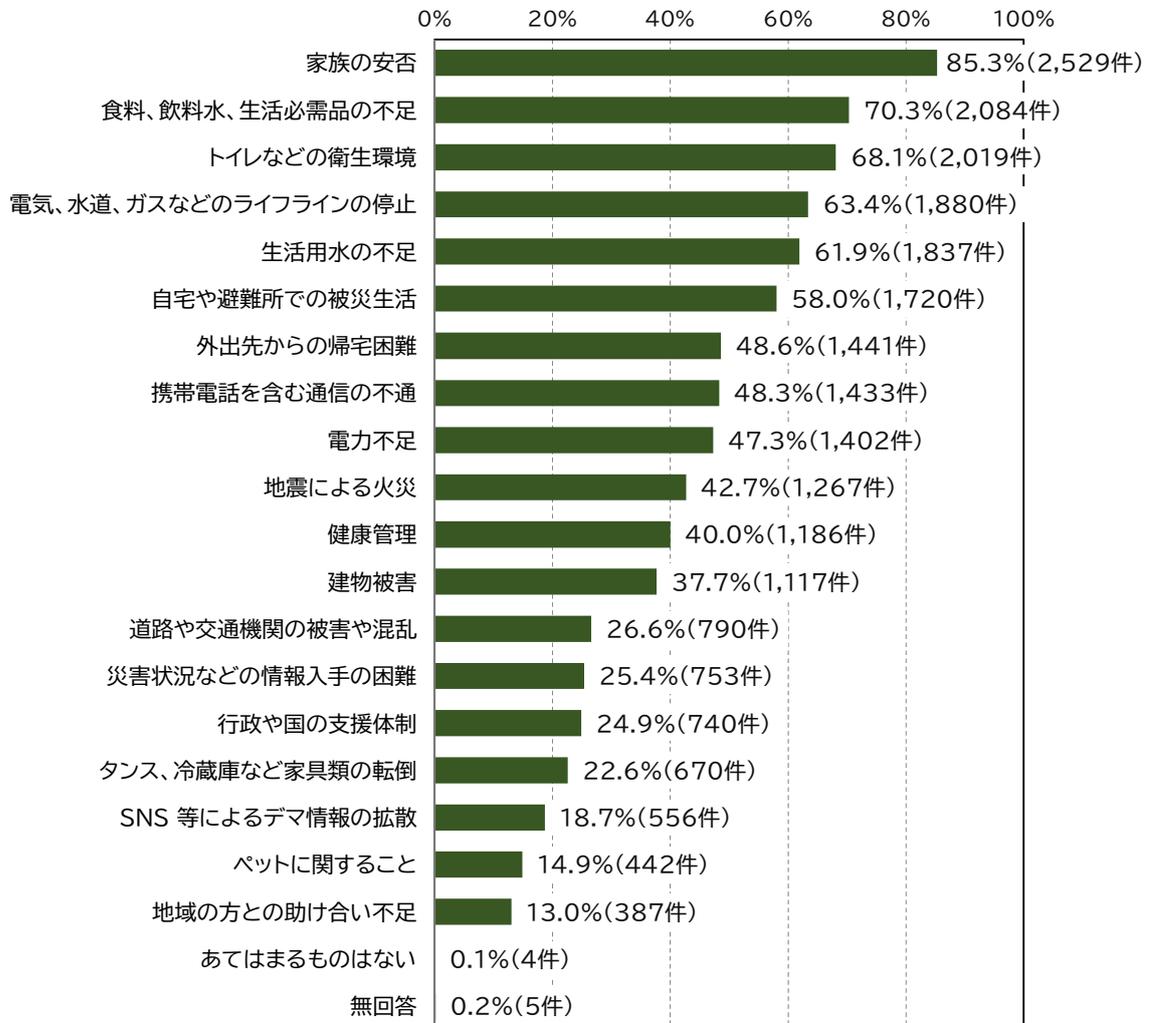
(7)区民アンケート(船橋地区)

単純集計(3/5)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

災害時の心配ごと(複数回答)



n=2,966

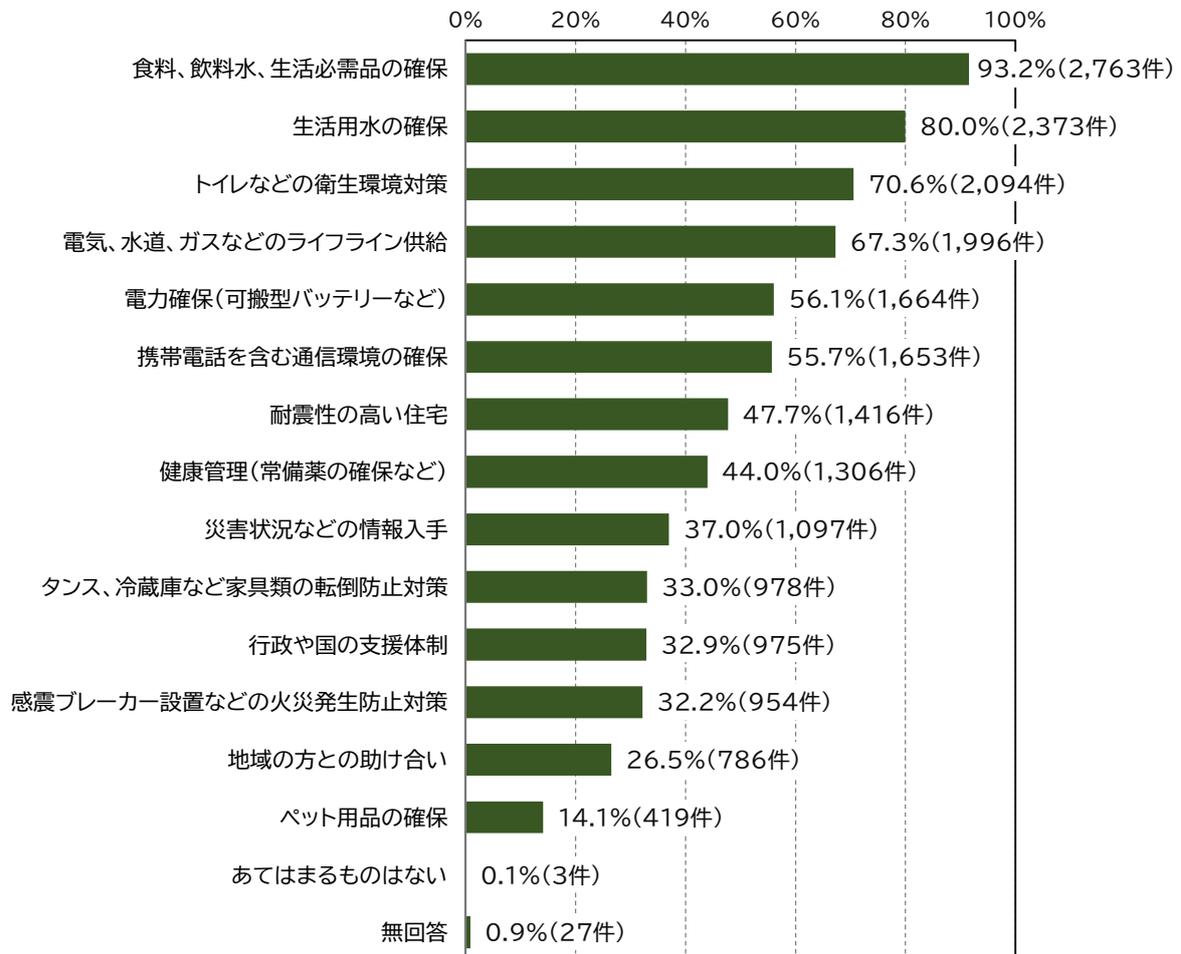
(7)区民アンケート(船橋地区)

単純集計(4/5)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

在宅避難をするために必要だと思うこと(複数回答)



n=2,966

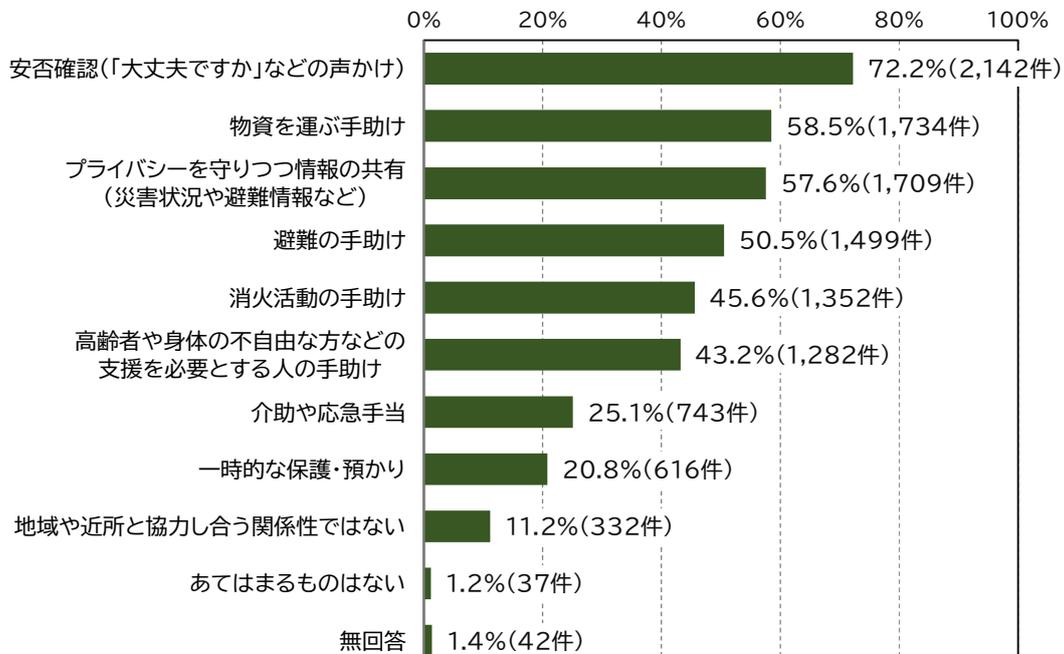
(7)区民アンケート(船橋地区)

単純集計(5/5)

災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。

災害時にできる住民同士の支援(複数回答)

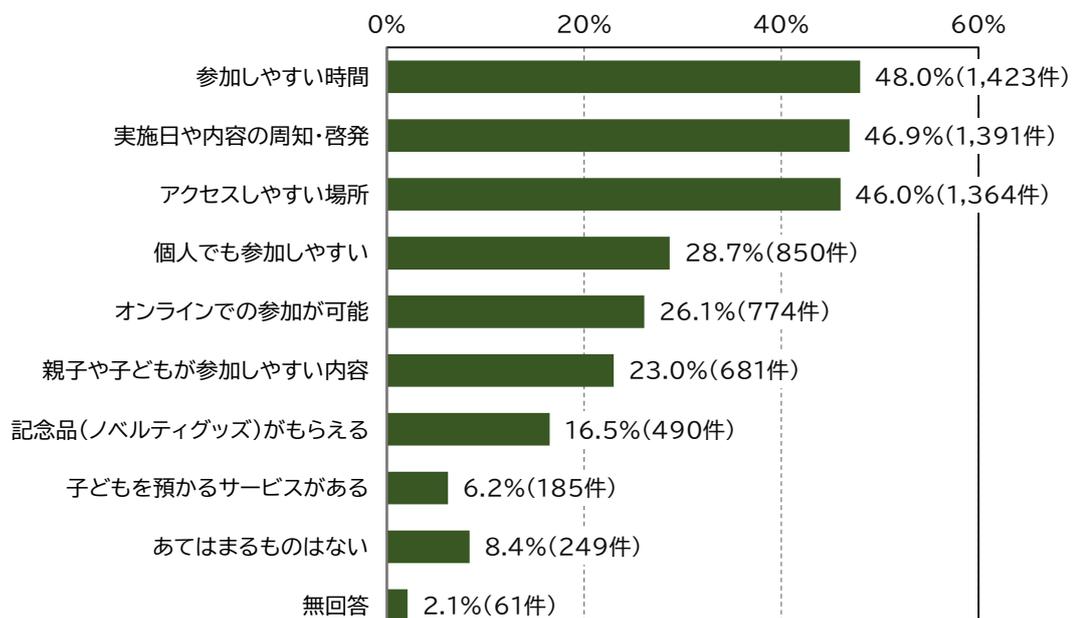


n=2,966

防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加したいと思いますか。

防災訓練や防災教室への参加意向(複数回答)



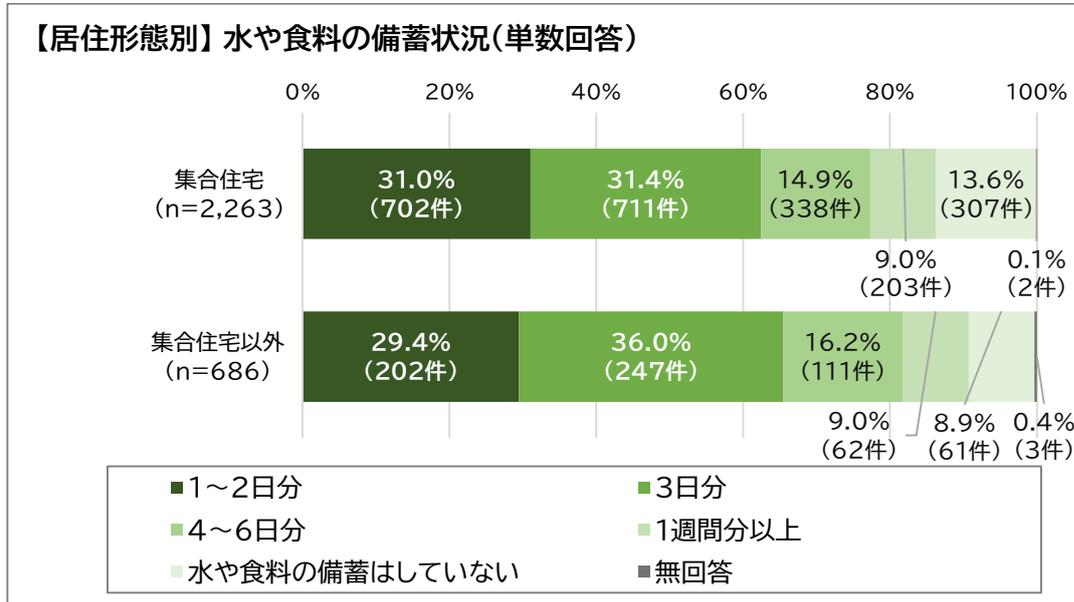
n=2,966

(7)区民アンケート(船橋地区)

クロス集計(1/4)

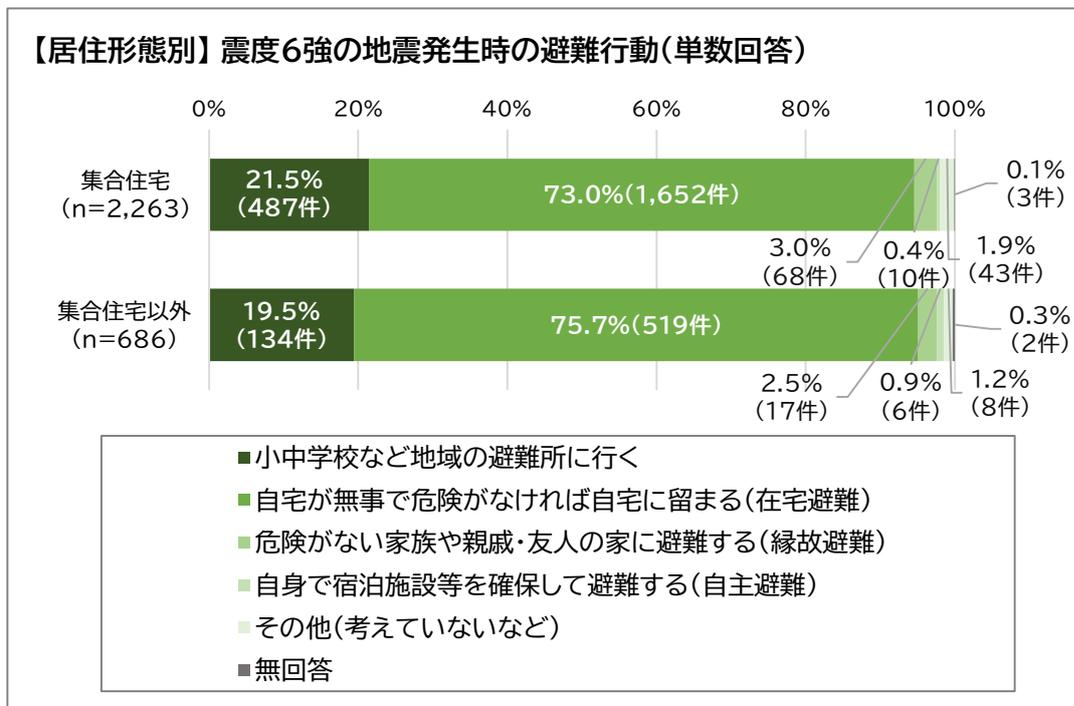
水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。



震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



(7)区民アンケート(船橋地区)

クロス集計(2/4)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。



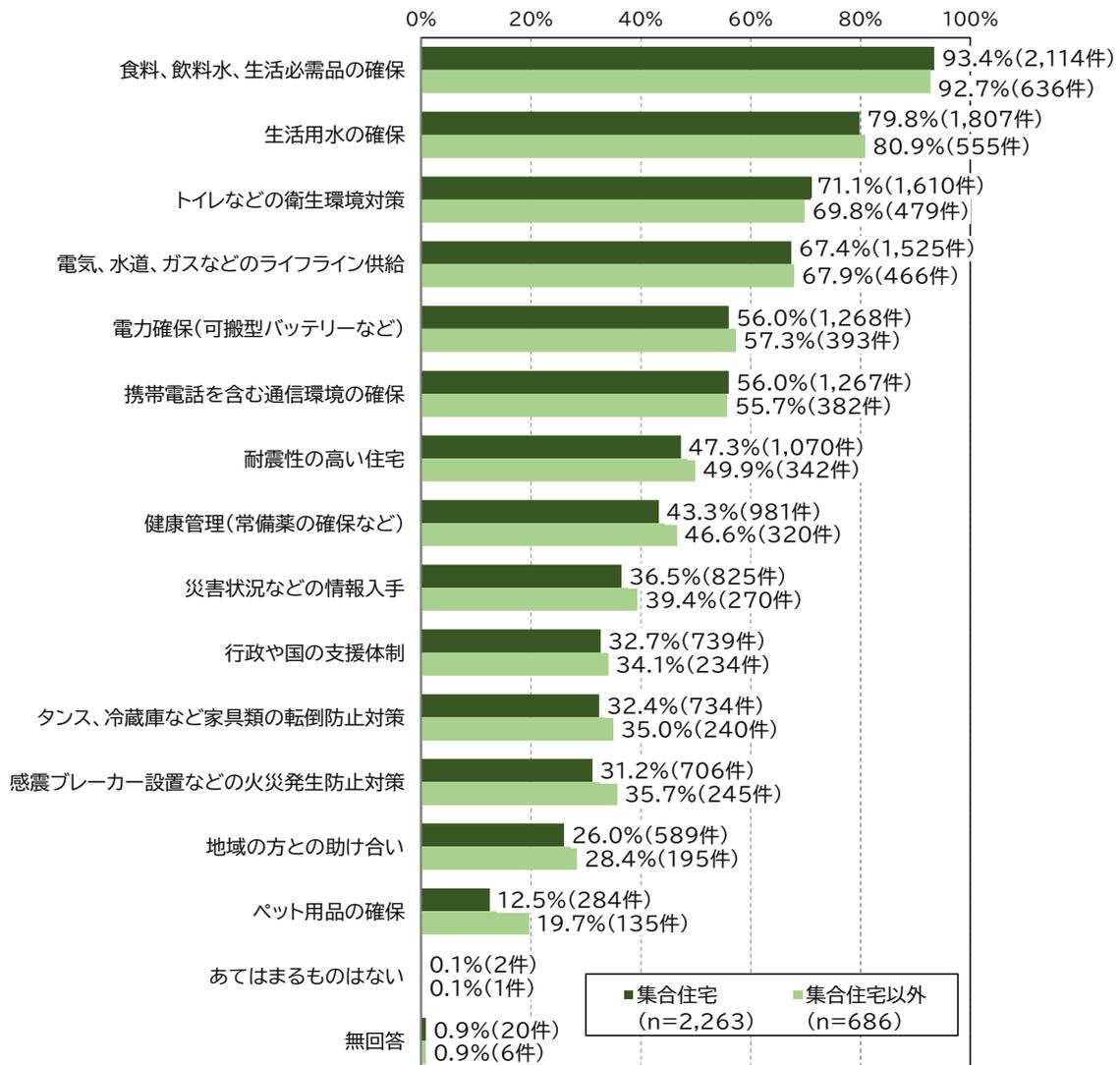
(7)区民アンケート(船橋地区)

クロス集計(3/4)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

【居住形態別】在宅避難をするために必要だと思うこと(複数回答)

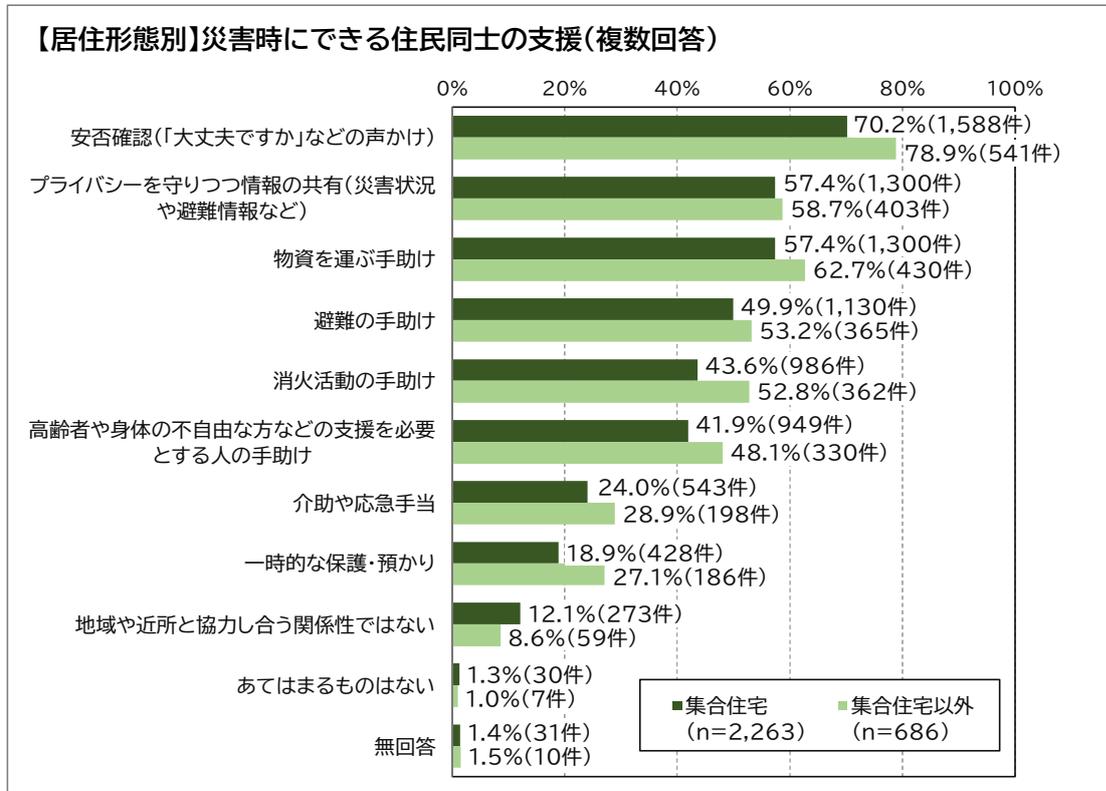


(7)区民アンケート(船橋地区)

クロス集計(4/4)

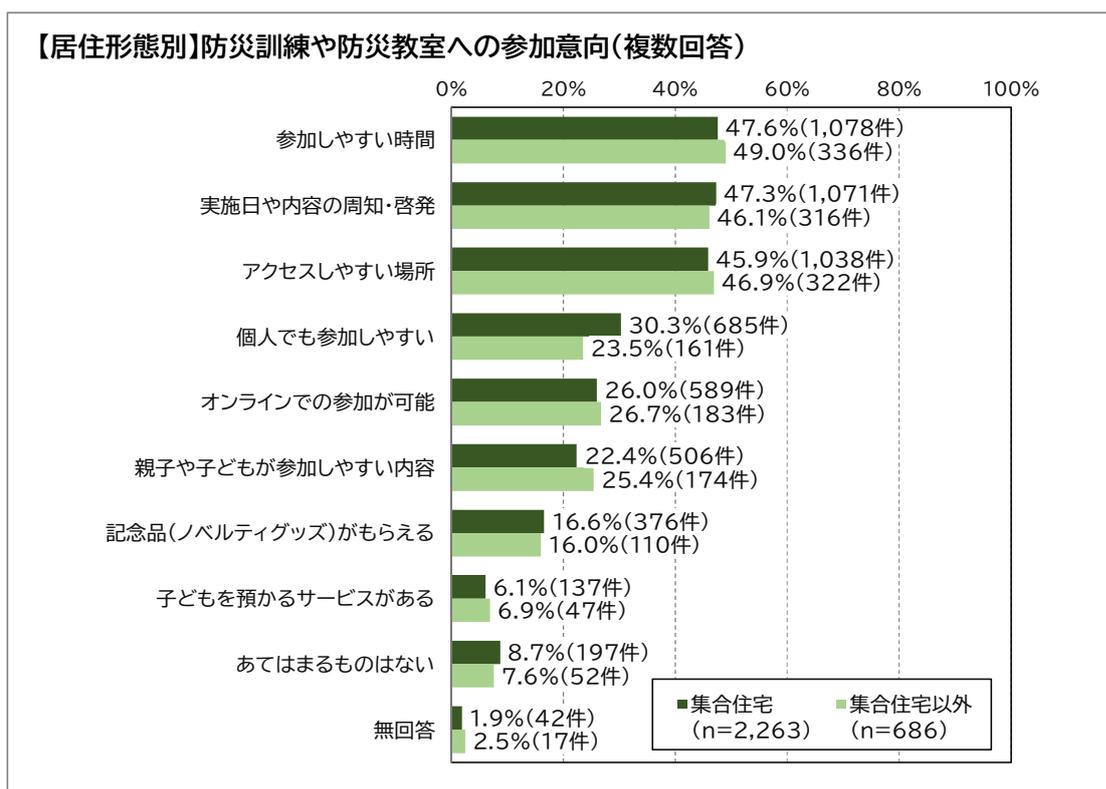
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加したいと思いますか。



2 各団体の防災活動～現在の取組状況～

団体名	防災担当者数	防災に関する会議				防災活動、資機材配備等の実施				消火資機材の配備	
		実施している	実施していない	会議名	実施回数 (年間)	実施している	実施していない	配備している	配備していない	スタンドパイプ	
										数量	場所
船橋会	19	○				○		○		11	町内各所 (各計11ヶ所)
船橋葎根会	8	○		避難所運営委員会	1	○		○		2	葎根公園 船橋5丁目 ポンプ庫
フレール西経堂自治会	8	○		自治会役員会	3	○		○			
千歳台廻澤町会	8	○			1	○		○		1	廻沢稲荷神 社内防災倉庫
希望ヶ丘団地自治会	10	○		希望ヶ丘団地自治会 希望ヶ丘災害対策委員会	2 14	○		○			
船橋4丁目住宅自治会			○			○					
芦花公園スカイハイツ自治会		○		自治会防災部	3	○		○		1	防災倉庫
コスモ千歳台エクセラ管理組合防火管理協議会	5	○		理事会	6	○		○			
東京テラス防災自治会	20	○		定例役員会	12	○		○			

団体名	消火資機材の配備						防災訓練等の実施			
	D型ポンプ		消火器		その他		実施している	実施していない	防災訓練	
	数量	場所	数量	場所	名称	場所			回数	実施場所
船橋会	1	防災倉庫(町内)					○		2	船橋小学校、都立千歳丘高校
船橋葎根会	1	船橋5丁目ポンプ庫	2	葎根公園防災倉庫			○		2	葎根公園
フレール西経堂自治会	1	D型ポンプ格納倉庫		各号棟各階すべて		防災倉庫	○		2	希望丘小学校敷地内 集会所
千歳台廻澤町会	1	廻沢稲荷神社防災倉庫	5	廻沢稲荷神社祭器庫			○		1	千歳台小学校
希望ヶ丘団地自治会	1	D型ポンプ格納倉庫				防災倉庫	○		2	集会所、ピロティ
船橋4丁目住宅自治会			10	各号棟1階階段下				○		船橋希望中学校
芦花公園スカイハイツ自治会	1	防災倉庫	20	各階エレベータホール			○		1	敷地内
コスモ千歳台エクセラ管理組合防火管理協議会			5	各フロア			○		1	マンション内
東京テラス防災自治会			1070	全住戸(1036)、共用部	泡消火屋内消火栓連結送水管	駐車場11-14F 3-14F	○		1	マンション内

団体名	防災訓練等の実施				防災マップ										
	救命救急講習会		その他		作成済	作成中	作成検討中	作成予定なし	掲載情報						
	回数	実施場所	訓練名称	実施場所					一時集合所	広域避難場所	避難所	街路消火器	防火水槽	震災用井戸	消火栓
船橋会			スタンドパイプ操作訓練 D型可搬ポンプ操作訓練	町内 神明神社	○				○	○	○	○	○	○	○
船橋葎根会			スタンドパイプ操作訓練 消火器操作 簡易トイレ組立	葎根公園			○		○	○	○				○
フレール西経堂自治会	1	第1集会所	D型可搬ポンプ操作訓練	敷地内			○		○	○	○		○		○
千歳台廻澤町会			D型可搬ポンプ操作訓練	千歳台小学校			○								
希望ヶ丘団地自治会					○				○		○		○		○
船橋4丁目住宅自治会								○							
芦花公園スカイハイツ自治会							○								
コスモ千歳台エクセラ管理組合防火管理協議会								○							
東京テラス防災自治会	1							○							

団体名	防災マップ	防災士等の数			災害時連携・協定 (区を除く)			災害時連携・協定 (区を除く)		避難行動要 支援者協定			
	掲載情報	防災士	把握していない	地域防災リーダー	把握していない	他団体との連携	協定締結	特になし	連携先・内容	協定先・内容	締結している	検討中である	予定はない
	その他												
船橋会	AED、スタンドパイプ、公衆電話、緊急ダイヤル、伝言ダイヤル説明	3			○				○				○
船橋葎根会		3		1					○				○
フレール西経堂自治会	公衆電話、AED	3			○				○		○		
千歳台廻澤町会			○		○				○				○
希望ヶ丘団地自治会									○		○		
船橋4丁目住宅自治会			○		○				○		○		
芦花公園スカイハイツ自治会		2							○				○
コスモ千歳台エクセラ管理組合防火管理協議会			○		○				○				○
東京テラス防災自治会		2	○						祖師谷千歳台自治会・避難所開設時の連携 (内容協議中)			○	

団体名	避難行動要支援者対策				連絡手段の確保			防災活動に関するマニュアル(避難所運営マニュアルを除く)				救出救助に係る資機材の配備			
	日頃からの見守り活動	避難行動要支援者体験	その他	特に実施していない	簡易無線	連絡網の作成・整備	その他	策定済み	策定中	検討中	予定なし	名称	配備していない	配備している	リアカー
船橋会				○							○			○	
船橋葎根会						○				○				○	
フレール西経堂自治会	○				○	○				○				○	1
千歳台廻澤町会				○							○			○	
希望ヶ丘団地自治会				○			一時集合所の運営体制作りと安否確認隊他の募集中			○				○	2
船橋4丁目住宅自治会				○							○		○		
芦花公園スカイハイツ自治会	○			○						○				○	
コスモ千歳台エクセラ管理組合防火管理協議会				○							○			○	
東京テラス防災自治会	○				○	○		○				東京テラス地震発生時の活動指針		○	

団体名	救出救助に係る資機材の配備													その他	保管場所	
	はしご	脚立	担架	救急セット	ヘルメット	救助工具セット	ボール	スコップ	手おの	のこぎり	ジャッキ	両口ハンマー	ツルハシ			
船橋会			1	1											カセットコンロ、カセットボンベ、乾電池、ローソク	町会防災倉庫
船橋葎根会		2		2	20	1	1	1	1			1	1			町会防災倉庫
フレール西経堂自治会	1		2	2	30			13	1	2	1	1		ナタ1本、金テコ1本	防災倉庫	
千歳台廻澤町会		2	2	4	8	1	2	5	1	2		2	1			廻沢稲荷神社境内防災倉庫
希望ヶ丘団地自治会		4	2	2	10		4	11	1	3	1	1	3	まさかり1丁、ヘルメット4個	防災倉庫	
船橋4丁目住宅自治会	1	5					1	5								
芦花公園スカイハイツ自治会			1			1	1				1					防災倉庫 担架 1階管理人室前
コスモ千歳台エクセラ管理組合防火管理協議会		1		1			1	2		1	1	1				共用倉庫
東京テラス防災自治会		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		AED		防災倉庫

団体名	食糧等の備蓄														
	備蓄していない	備蓄している	アルファ米	ビスケット・乾パン	おかゆ	飲料水	缶詰類	レトルト食品類	カセットコンロ	その他災害用食料	非常用トイレ	照明	発電機	蓄電池セット	給水タンク
船橋会		○	350	210		300		50	4						
船橋葭根会		○										2	1		
フレール西経堂自治会		○	950			500			3			4	1		
千歳台廻澤町会	○			300								1	2		
希望ヶ丘団地自治会		○							4			1	2		10
船橋4丁目住宅自治会	○												1		
芦花公園スカイハイツ自治会		○				1900 L			2	1800 食	簡易 100 0個	1			
コスモ千歳台エクセラ管理 組合防火管理協議会		○				480			1			1			
東京テラス防災自治会	○					災害用 井戸設 備			5			○	○	○	○

団体名	食糧等の備蓄			その他の防災活動
	その他	保管場所	備蓄品配布先	
船橋会	白米100㍓ ×300	町会防災倉庫	町会管轄避難所	1. 避難所運営訓練、防災ラリーを実施。 2. スタンドパイプ使用訓練を定期的に行う。
船橋葭根会		防災倉庫葭根公園		
フレール西経堂自治会	マンホール用 トイレ4台、簡 易トイレ1台	防災倉庫	団地内避難場所	
千歳台廻澤町会		廻沢稲荷神社 防災倉庫	千歳台小学校 避難所訓練に て配布	12月下旬の歳末特別警戒にて地域の消防団員と共に、町会役員、自治消防団員と地域全般を警戒して廻る。
希望ヶ丘団地自治会		第1集会所 物置 防災倉庫		1. 集合住宅(1800世)、高齢化は周辺地域の2倍以上を走り、単独世帯が増加する団地では「一時集会所」の従来の概念は崩れている。逆にアウトリーチ化が必要になるので、「一時集会所」としての運営体制を検討している安否確認隊を重視して、人員を募っている。倉庫の資機材のチェックをし、在庫資機材の意識共有化を計ろうとしている。課題が多いが月1回以上の災害対策7人会議の実行。 2. 「団地支えあいマップ」作りの第一歩として団地内の特定の一棟をモデルケースとし、11月8日に聞き取り調査を行う。首都直下地震に備え、減災を目指している。
船橋4丁目住宅自治会				
芦花公園スカイハイツ自治会		各階エレベーター 脇倉庫		千歳台小学校の避難所運営訓練に参加
コスモ千歳台エクセラ管理組合 防火管理協議会		倉庫	各入居者	防災講習会を開催(年1回)
東京テラス防災自治会				千歳中学校避難所の運営参加

3. 船橋地区の課題と取り組み

(1) 避難行動要支援者の安否確認

■各団体のこれまでの取り組み

【各町会、自治会】

- ・町会会員には安否確認カードを配布し、年2回の訓練を行い、少なくとも町会会員については安否の確認ができるよう取り組んでいる。
- ・高齢者(75歳以上)本人、または同居家族の有無の情報は町会の敬老事業などを通じて副次的に得られているが、積極的な避難行動要支援者の洗い出しにまでは至っていない。
- ・住民全体に個別の安否確認の必要性の有無を申し出てもらい、安否確認希望者リストを作成した。
- ・住民の安否確認訓練と並行して、避難行動要支援者のうち安否確認を希望する家庭を個別に訪問して安否を確認する訓練を過去に3回実施した。
- ・管理組合の下部機関として、住民相互の「たすけあいシステム」を構築し、希望者は相互登録を実施して買い物支援など、日常でのふれあい活動を実施している(災害時の訓練などは協働参加)
- ・区と避難行動要支援者支援協定を締結し、これに基づき自治会内に「要支援者(制度創設時の区の呼称は「要援護者」)支援委員会」を設置した。各委員は担当委員として、それぞれ割り当てられた棟に住む要支援者の見守り活動を行い、月に一度情報交換会を開催した。
- ・年に2回程度、担当委員による要支援者を囲む集いを開き、避難行動に関する意見交換を行うなど、防災意識の醸成に努めた。
- ・大規模震災などの緊急時を想定した訓練では、担当委員が要支援者宅のドアをたたき安否確認を行うと共に、自宅外に避難を希望する者については避難所までの誘導を行った。

【学校、PTA、各団体】

- ・校内では、月に1度の避難訓練を実施している。
- ・避難訓練を行い、生徒が素早く校庭に避難できるように指導し、迅速的確に確認を行っている。

■課題と意見

【各町会、自治会】

- ・ほとんどの要支援者に、自らの意思で自分自身を「要支援者として登録した」という自覚、記憶がないため、安否確認や各種活動にあまり協力的ではない。
- ・「支援委員会」の委員のなり手不足が生じており、要支援者の見守りや生活状況の把握、緊急時の安否確認が極めて困難になっている。
- ・避難行動要支援者の居住地の把握や現在の状況などを把握することが困難。
- ・避難行動要支援者の情報を各支援団体(自治会や民生委員、まちづくりセンターなど)と情報共有できる環境作りが課題。
- ・区との協定が未締結のため、避難行動要支援者の情報がない。
- ・管理組合と協力して住民情報を収集しているが、未提出者が多く、要支援者がいるかどうか定かではない。
- ・個人情報保護の観点とご本人同意の観点から、管理組合との情報共有ができない。

- ・情報を入手している家庭であっても、状況が刻々と変化するので、リアルタイム情報を追いきれない。
- ・コロナ禍以降、担当委員が大幅に減少したため人材確保に苦慮している。
- ・民生児童委員が行う当該活動との整合性/統一性がきわめて不明確である。

【学校、PTA、各団体】

- ・様々な状況を想定した避難訓練を実施し、児童の安否確認がスムーズにできるようにする。
- ・防災に関わらない職員も訓練に参加し、避難行動要支援者について意識してもらうようにする。
- ・PTA でもそれぞれのご家庭の状況を共有し、支援が必要な時に支援できる体制を作ることができれば、より安心できるのでは。
- ・交通機関が麻痺してしまった場合、区職員やあんしんすこやかセンターの職員、事業所職員など、地区に居住していない者は、支援のために出動することができない、という事態も想定される。

■各団体の今後の取り組みや方向性

【各町会、自治会】

- ・避難行動を実施するための避難経路の確認と安否確認カード等の掲示の習慣化。
- ・副次的に得られている手元の高齢者の情報から避難行動要支援者の洗い出しなど、今後の取組を検討したい。
- ・区と協定を結び、避難行動要支援者の情報を入手する。
- ・区の情報に基づき、安否確認の希望の有無を調査し、希望者をリストアップする。
- ・リストアップ希望者を個別に安否確認する訓練を、年に2回実施する。
- ・安否確認は、平常時と緊急時で全く別の対応が必要であるとの区の指導を受けてきた。平常時については、ある程度定期的に要支援者の生活状況等を把握し、安否に関する情報を更新していく必要がある。
- ・緊急時に対しては、発災直後の要支援者の安否確認が急務となるが、効率的かつ確実な方法につき現在検討中。特に、安否確認において要支援者とそうでない居住者を差別化する合理的理由は存在しない。協定をどう解釈するか検討のうえ進めていく。

【学校、PTA、各団体】

- ・見落としのないように工夫改善は今後も続けていく。
- ・危機管理マニュアルにて教職員がそれぞれの役割を確認し、災害等が起きた場合は、「さしすせそ」(最悪を想定、慎重に、すみやかに、誠実に、組織的に)で行動するよう徹底する。
- ・地域との連携を密にしていく。

(2)地域連携について

■各団体のこれまでの取り組み

【各町会、自治会】

- ・自治会が主催のイベント(おまつり、防災ラリー等)の実施。
- ・商店街主催イベントへの協力。
- ・船橋ふれあいまつりへの参加。

- ・避難所運営訓練への参加の呼びかけをPTAや地域団体、他自治会などに行う。
- ・学校への防災教育への協力を消防やまちづくりセンター、町会とともにやる。
- ・船橋地区町会自治会連合会の各自治会との関係づくり。
- ・他地区の自治会との関係づくり。
- ・居住者相互の連携については、集合住宅内のイベント等、「大家」である UR 都市機構との全居住者会合、あるいは防災訓練等の機会をとらえ、顔の見える関係づくりの構築を目指してきた。《フレール西経堂自治会》
- ・集合住宅と取り囲む地域の連携については、周辺町会、自治会のイベントや祭事等に参加し、連携の強化等に努めるとともに、小中学校や学校PTA、児童館などとの関係を大切にしてきた。

【学校、PTA、各団体】

- ・学校協議会の開催。
- ・各町会・自治会のイベント等に参加し、情報交換や交流をすることで、地域とのつながりを維持、強化している。
- ・地域団体の活動への参加。
- ・安全ボランティア隊の設立、活動、ミーティング。
- ・「船橋希望学舎」内での連携、情報共有。
- ・学校公開、校庭開放、校庭でのお祭りや、防災教育も兼ねたおやじの会主催の「学校に泊まろう会」などの実施。
- ・学校の協議会の防災部会による、避難所運営訓練の実施。
- ・防災教育を地域と連携して行った。防災車、消火、AED、担架の体験、マンホールトイレの実演、アルファ米づくり、紙スリッパ、三角巾の作り方など。
- ・学校の避難所運営委員会への出席。ふれあいまつりなどのおまつりにも PTA として出席。

■課題と意見

【各町会、自治会】

- ・地域での情報発信をどのようにすればいいか(特に単身者など地域とのかかわりの少ない人に向けて)。
- ・オートロックセキュリティのマンションである関係上、周辺地域との関わりが薄い。
- ・行政区域は船橋まちづくりセンター管轄、避難所は祖師谷まちづくりセンター管轄、学区は千歳中学校・塚戸小学校とそれぞれ管轄が分かれていること。また、通りを挟んで北側は烏山地区となっていて、関係団体が多く、対応しきれていない部分がある。《東京テラス防災自治会》
- ・まちづくりセンターや近隣地域との協働がしやすい情報交換システムを構築してほしい。また行政の枠を超えた活動支援策を提案して頂きたい。
- ・集合住宅は、大規模災害発生時に周辺地域の活動から切り離された「離島」となる可能性も高いと思われる。したがって、集合住宅における地域連携は、(1)集合住宅敷地内の居住者相互の連携と、(2)集合住宅全体を一かたまりに捉え、それを取り囲む地域との連携、の両面からとらえていく必要がある。

【学校、PTA、各団体】

- ・勤務時間外の時間や休日の教職員の参加は難しく、管理職が参加し、教職員に情報提供している。
- ・勤務時間内で地域連携の機会を設けようと思うが、授業時間確保のため、時間設定が難しい。
- ・生徒が防災訓練などになかなか参加できない。
- ・地域の方と防災教育に参加することで、コミュニケーションをとることができる。
- ・防災教育で学校の施設を実際に利用することで、地域の方も場所や施設の使い方が分かるようになるのではないかと。
- ・学区内では、PTA とおやじの会が連携して良い環境ができていると思う。子どもが小学校を卒業した後も、在校中に PTA やおやじの会に携わった人が、今度は地域のメンバーとして、イベントを実施したりしている。
- ・イベント等の参加依頼がある団体が、特定の団体に限られている。

■各団体の今後の取り組みや方向性

【各町会、自治会】

- ・地区内の学校との連携をより進めていきたい。
- ・地域のイベントについて、より浸透する発信ができないか検討する。
- ・船橋地区町会自治会連合会に加入したことから、加入各自治会との関係を深めると同時に、近隣の粕谷会、祖師谷千歳台自治会とも協力関係を構築する。《東京テラス防災自治会》
- ・大規模災害発生時において、「離島」状態となることを極力回避し災害関係の情報の流れに取り残されることの無いよう、情報収集の手段/人員を平時より確保していきたい。
- ・指定避難所である学校との発災時の連携の取り方をより実践的に考えていきたい。同時に、地域本部拠点隊との連携を確保したい。

【学校、PTA、各団体】

- ・複数地区の境界(船橋、経堂、松沢)に位置していることからどのように各地区と連携をとるか模索している。《恵泉女学園》
- ・これまでの取り組みの継続及び拡大。得られた情報は、授業や指導に取り入れ生かしていく。
- ・避難所運営委員会を柱に、学校としてできること、施設間での協力について共有していく。
- ・周知や募集方法を考え、生徒も防災行事に参加させていきたい。
- ・清掃やボランティアなどの活動に積極的に生徒を参加させていきたい。
- ・防災教育のほか、花壇整備、地区のおまつりの手伝いを今後も継続する。
- ・学校での PTA 主催のイベントは、地域の方の協力で成り立っている。お互いが互いに必要とする関係性を今まで以上に作っていく。
- ・LINE 等の SNS でコミュニケーションを円滑にするとともに、情報を発信し、多くの人に行事へ参加してもらえるようにしていきたい。
- ・分団主催の講習会等を実施し、地区住民に日赤の活動を PR し、地区住民と顔の見える関係を築き、分団への加入にもつなげていく。《日赤奉仕団船橋分団》

(3)初期消火について

■各団体のこれまでの取り組み

【各町会、自治会】

- ・防災ラリーなどのスタンドパイプ消火や消火器による消火の訓練を実施。
- ・夏休みのラジオ体操終了後に、スタンドパイプ訓練を小学生の子供や保護者に見てもらい認知度を上げる。
- ・消火訓練での家庭用消火器の使い方訓練の実施。
- ・自力での消火の前に、119番通報と、周辺住民及び管理センターへの火災発生の周知など、火災発生時の対応の広報。
- ・防災訓練や各戸への通達等を通じ、初期消火の必要性/重要性についての周知に努めてきた。
- ・D級ポンプによる放水訓練を実施してきた。

【学校、PTA、各団体】

- ・年1回児童が消防署の初期消火訓練を受けている。
- ・おやじの会主催の「学校に泊まろう会」に参加した児童は消防署の初期消火訓練を受ける機会がある。
- ・職員の消火器使用訓練。
- ・2学年を対象とした防災教育や、年4回の避難訓練を実施している。

■課題と意見

【各町会、自治会】

- ・初期消火における行動が地区の人に浸透していない。
- ・防災マップ作製後の、情報の更新をどうするか(誰がいつどのように行うか)。
- ・全戸に設置している家庭用消火器の使い方が周知されているか疑問。
- ・消火器等の設置場所や使用法についての認知度は未だに低いと言わざるを得ない。消火器使用は、1回の実施体験が大きな糧となるのだが、いかんせん防災訓練への参加率が低すぎる。

【学校、PTA、各団体】

- ・校内での防火防災訓練を年数回実施している。
- ・教職員研修や共通理解の機会を設けることが必要。
- ・職員の防火訓練の実施、消防署の方からの指導を受ける機会の確保が必要。
- ・校内で策定されている防災管理マニュアル及び特別非常配備マニュアルの校内周知が弱い。

■各団体の今後の取り組みや方向性

【各町会、自治会】

- ・スタンドパイプが町内に設置されていることの周知と取り扱いを知っている人を増やしていく。
- ・防災訓練や各戸への通達等を通じ、初期消火の必要性/重要性についての周知に努める。
- ・防災ラリーなどのイベントを通じて、町内での消火栓マンホールの位置や防火水槽や消火器の場所などを把握している人が一人でも増えるようにする。

- ・引き続き発生時の対応を広報すると同時に、繰り返し訓練を実施する。
- ・防災訓練等を通じ、消火器の設置場所や使用法についての認知度の向上に努める。
- ・家庭用スプレー消火器設置を自治会防災活動に導入する計画を立てている。
- ・団地設計者/管理者を交えて、初期消火の方法、避難経路の確保等につき居住者説明会を実施する。
- ・感震ブレーカーの全戸設置を検討する。

【学校、PTA、各団体】

- ・消火器訓練を年間計画に位置づけ、確実に実施する。併せて防火扉の作動手順、やり方を全職員に共有する。
- ・今年度より生徒が防災士資格を取得する支援を行っている。防災士資格を取得した生徒には学校の防災教育及び防災対応に参画できるようにする。《都立千歳丘高校》
- ・災害、防災における危機管理研修を設け、防災対応を周知徹底する。

(4)情報共有について

■各団体のこれまでの取り組み

【各町会、自治会】

- ・特小通信機(特定小電力無線機)を購入し、避難所内での情報の伝達経路を確保するようにする。
- ・町会役員のオンライン掲示板を作成し、平常時から情報の共有を図る。
- ・平時は掲示板、エレベーター内掲示、共有ラック(エントランス)、インターネット共有サイト、全戸配布などを通じて情報共有をしている。
- ・災害発生時については、マンション内の館内放送を使用しての避難訓練、拡声器を使用しての、中庭や外構からの放送訓練を実施している。
- ・防災訓練時には、集合住宅内の集会所を自治会防災本部と位置付け、居住者の安否確認を含む各種情報の収集、見える化の方策を検討してきた。

【学校、PTA、各団体】

- ・地域や各団体の催しに参加した際に情報共有したり、学校運営委員会、学校関係者評価委員会で、地域の方や自治会の方と情報共有する場を設けたりしている。
- ・有事の際は、管理職は学校に登庁し、待機する。地域の方との連携窓口となり、施設の開放に協力することになっている。
- ・保健の授業で防災を学び、災害用伝言ダイヤル、防災アプリなど利用している。
- ・災害が起きたときに自分はどうのように行動し、誰にどのように連絡するか考えさせている。
- ・「BAND」(グループでのコミュニケーションアプリ)などのツールを使い情報共有をしている。学校からは「すぐる」による情報の共有がある。
- ・今年度より常任委員と事務局限定の分団公式アカウントを作成し、分団長が随時情報発信できるようにした。《日赤奉仕団船橋分団》
- ・総会の議事録を欠席者も含めて全分団員に配付するようにした。《日赤奉仕団船橋分団》

■課題と意見

【各町会、自治会】

- ・停電時でも情報の共有ができるような体制をいかに作り上げるか。
- ・町内会での複数の避難所内での情報の共有化をどうするか。
- ・現在管理組合で利用しているマンション内のネットツールがあるが、プッシュ通知ができないなど利用しにくさがある。《東京テラス防災自治会》
- ・平時は各棟掲示板(11箇所)に区の広報物や管理組合、防災自治会からの広報物を掲示しているが、文字が小さくて見にくいなどの課題がある。重要なものはエレベーター内に掲示しているが、エレベーターを利用しない人には見てもらえない。エントランスロビーにて配布物(広報物)を自由にもっていけるようにしているが、利用者が限られる。《東京テラス防災自治会》
- ・災害発生時は停電に備え、紙ベースでの掲示物で情報を発信する予定だが、高層階から降りてきて確認する必要がある、リアルタイムでの共有が難しい。《東京テラス防災自治会》
- ・昨年度より区の方針として、大規模災害時の避難場所につき、在宅避難が優先されるようになったが、これにより、集合住宅としてのフレール西経堂内に組織される自治会には、これまで以上に、「全棟全室」、「全在宅」避難状況を見据えての活動が期待されることとなったのではないかと思料している。しかしながら、それらに十分対応できるだけの、人材やノウハウが自治会に備わっているとは言い難い。《フレール西経堂自治会》

【学校、PTA、各団体】

- ・私立中高は、中高等学校間でのネットワークにより、他校の中高生であっても、災害時帰宅困難な時は受け入れることになっている。《恵泉女学園》
- ・発災時、メールや電話の通信手段がどの程度使用できるか分からない。
- ・災害時に生徒たちが、からかいや遊びのつもりでデマや噂を流さないよう、日頃から生徒指導を丁寧に行う必要がある。
- ・災害時にデマや噂が流れても正しい情報源か確認させるよう日頃から指導を行う。
- ・学校から配信される「すぐーる」などを活用する。
- ・保護者同士、家庭同士の情報交換となると、色々な方がいるので、難しい側面もあるのではないか。
- ・常任委員は主に毎月の会議で情報共有を行っているが、分団員には資料を分団員の伝手か郵送で配付するという手段しかない。全分団員で簡単に情報共有できる手段を検討しているが、高齢の分団員も多く、漏れなく扱える手段がない。発災時には迅速な情報共有が困難である。《日赤奉仕団船橋分団》
- ・分団内で分団員の個人情報をごとまで共有してよいか判断が難しい。《日赤奉仕団船橋分団》

■各団体の今後の取り組みや方向性

【各町会、自治会】

- ・「いちのいち」を導入して、日頃から情報共有できるよう取り組む。
- ・防災ラリーなどのイベントを通して、町内での消火栓マンホールの位置や防火水槽や消火器の場所などを把握している人が一人でも増えるようにする。

- ・居住者はそれぞれの方法で情報収集を行うため、防災本部内ではそれらの情報が、かなり錯綜することも十分想定される。対応策を検討しておかねばならない。
- ・地域本部拠点隊としてのまちづくりセンターとの適宜適切な情報交換方法の確保について検討していく。

【学校、PTA、各団体】

- ・これまでの取り組みの拡大、推進。
- ・発信の仕方の工夫。
- ・遠方から通学している生徒もいるので、無理をして帰宅しないことや避難場所をどこにするか、家族で話し合いをすることをこれからも指導する。
- ・PTA をやりたくない、参加したくないという人も増えている中で、最小限でありながら効果的な情報共有の手段があればと考えている。今のやり方を継続していくのもよいと思う。
- ・分団主催の講習会等を実施し、地区住民に日赤の活動を PR し、地区住民と顔の見える関係を築き、分団への加入にもつなげていく。

(5)在宅避難について

※令和6年度船橋地区防災塾 で挙げた意見を基に作成。

「課題と意見」及び「今後の取り組みの方向性」についてのみ記載する。

■課題と意見

- ・そもそも、在宅避難とは何を指すか分からない人もいるのではないか。
- ・「避難行動」と「避難生活」を区別して考えることが重要。
- ・避難所の名称(指定避難所、広域避難場所、一時集合所等)が細かく分かれていて、理解していない人が多いような気がする。
- ・在宅避難と言われていても、実際多くの住民が避難所に行ってしまうのでは。こうした人たちへの、備蓄など在宅避難に関する自治会からの呼びかけは大事。
- ・行政との情報手段をどうするか、検討が必要。下水管やトイレが使えるかどうかの情報を知るためにも重要。
- ・在宅避難を考えるなら、多くの世帯が住む集合住宅の防災についてしっかり考える必要あり。
- ・子どもを通じての普及啓発は重要。小学校の場合、子どもが防災に関して調べものをする、親にも波及する。
- ・防災ゲームなど、子ども向けで楽しめるものを活用すると、子どもを通じてより理解が広まるのではないか。
- ・ご近所同士の連携を見据えた、日頃からの顔の見える関係づくりを進め、情報共有していくことが重要ではないか。
- ・震災が起きたら避難所へ向かう、というイメージを持つ人は依然多いと思われる。

■各団体の今後の取り組みや方向性

- ・在宅避難について、行政からの周知だけでなく、日頃からの顔の見える関係づくりを進め、その中で情報共有していくよう努める。
- ・個人でできること(ローリングストックや家の耐震チェックについて等)それぞれが防災に関する知識や情報を得て意識を高め、それを相互に発信できる機会を作っていく。

喜多見地区防災計画

[令和7年修正]

喜多見地区

【喜多見地区防災計画作成団体】

(順不同)

喜多見北部町会	喜多見西部町会
喜多見中部町会	喜多見東部町会
喜多見上部自治会	都営喜多見 2 丁目団地自治会
宇奈根町会	鎌田協和会
法人格鎌田南睦会	日赤奉仕団喜多見分団
民生委員・児童委員協議会	成城消防署
成城消防団	喜多見駐在所
鎌田駐在所	優つくり小規模多機能介護喜多見
そんぽの家成城南	東京中央農業協同組合砧支店
喜多見あんしんすこやかセンター	砧地域社会福祉協議会事務所
喜多見小学校	砧南小学校
喜多見中学校	

目次

- 1 喜多見地区の特性……………喜多見-1(-830-)
 - (1)自然特性……………喜多見-1(-830-)
 - (2)社会特性……………喜多見-2(-831-)
 - (3)地域危険度……………喜多見-4(-833-)
 - (4)被害想定……………喜多見-5(-834-)
 - (5)防災資源一覧……………喜多見-8(-837-)
 - (6)防災資源マップ……………喜多見-9(-838-)
 - (7)区民アンケート……………喜多見-10(-839-)

- 2 各団体の防災活動～現在の取組状況～……………喜多見-19(-848-)

- 3 喜多見地区の課題と取り組み……………喜多見-26(-855-)

1. 喜多見地区の特性

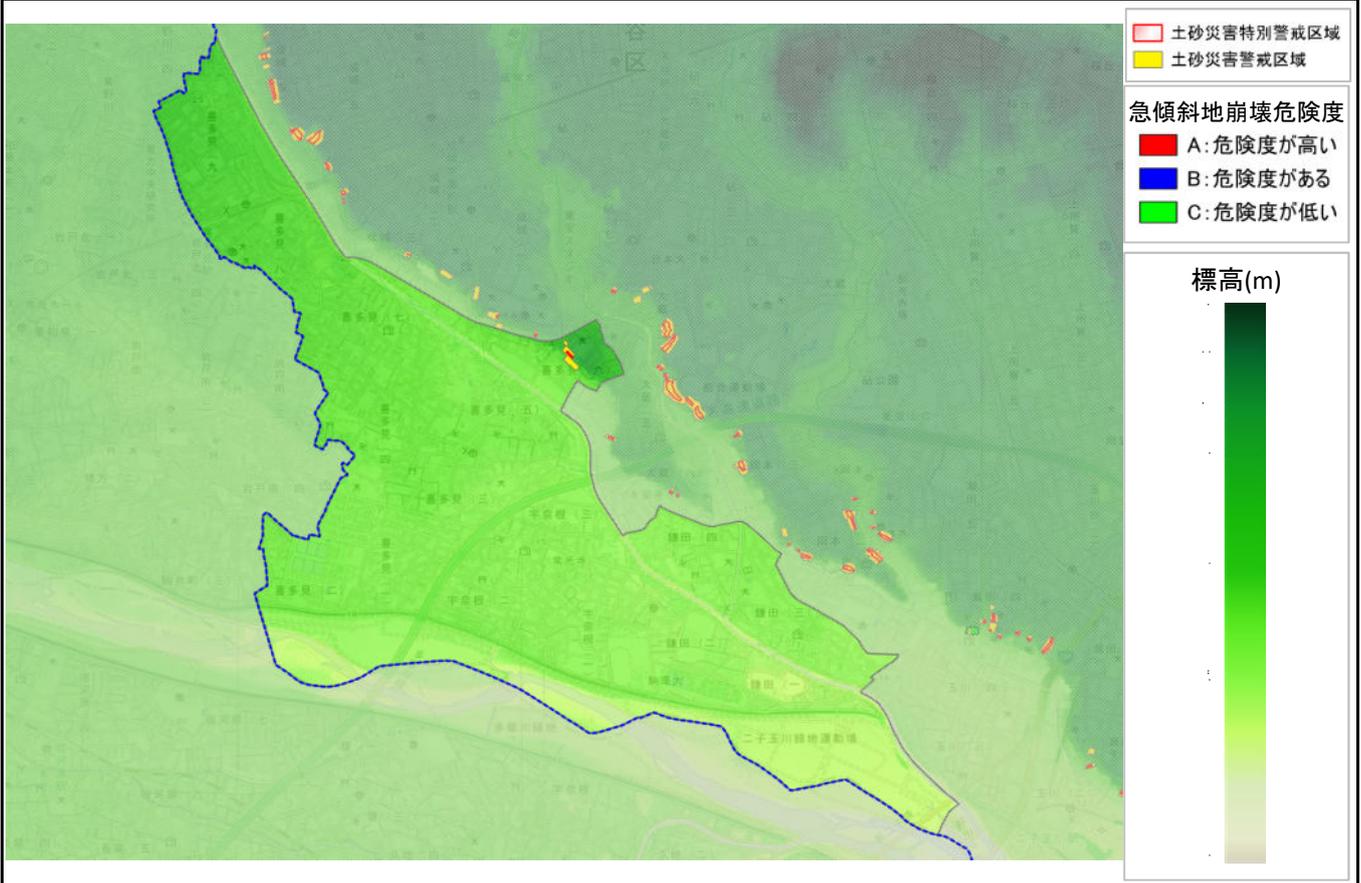
(1)自然特性

面積	3.97 Km ²	最高標高	37.6 m	最低標高	6.5 m
----	----------------------	------	--------	------	-------

位置



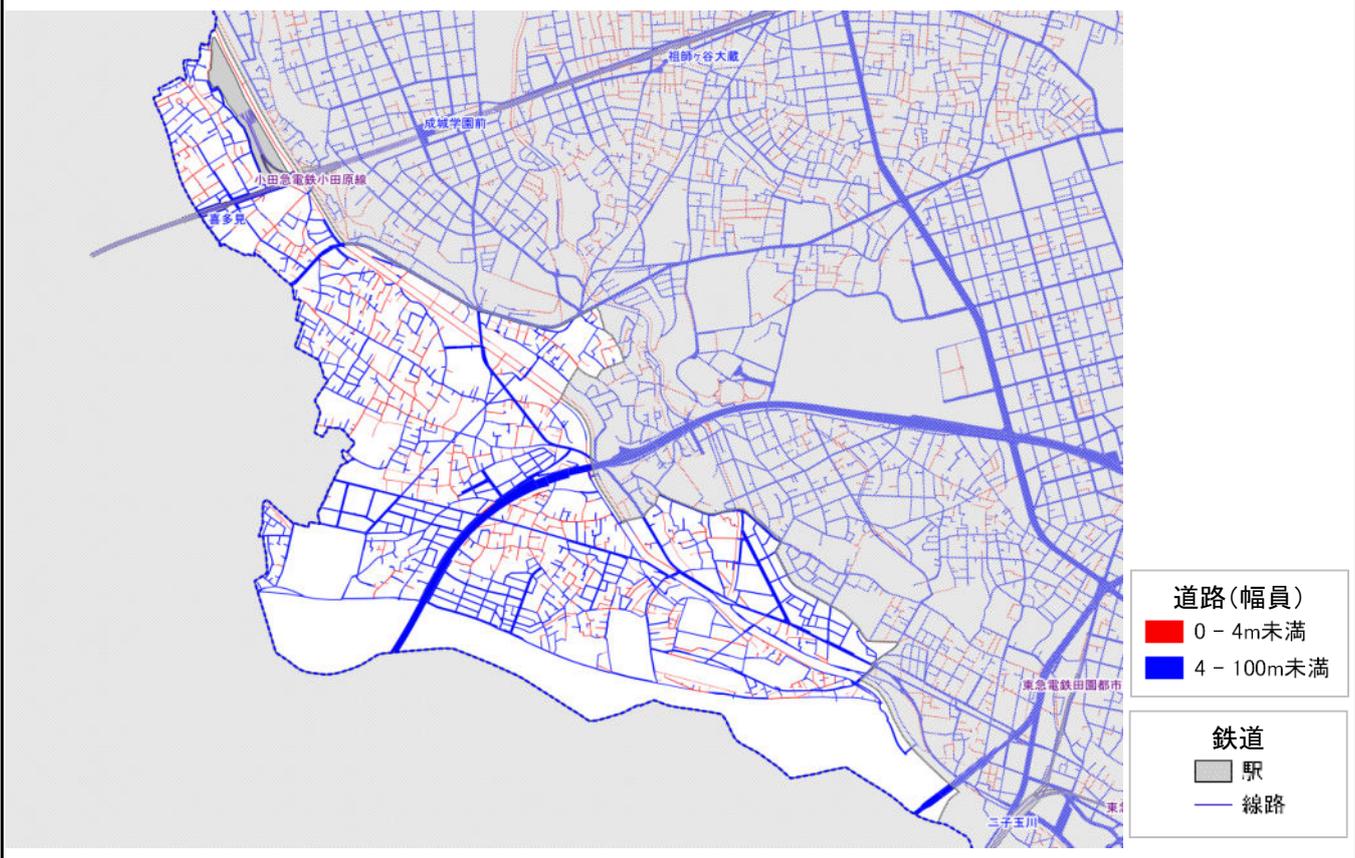
標高・急傾斜地崩壊危険度・土砂災害警戒区域等



(2)社会特性

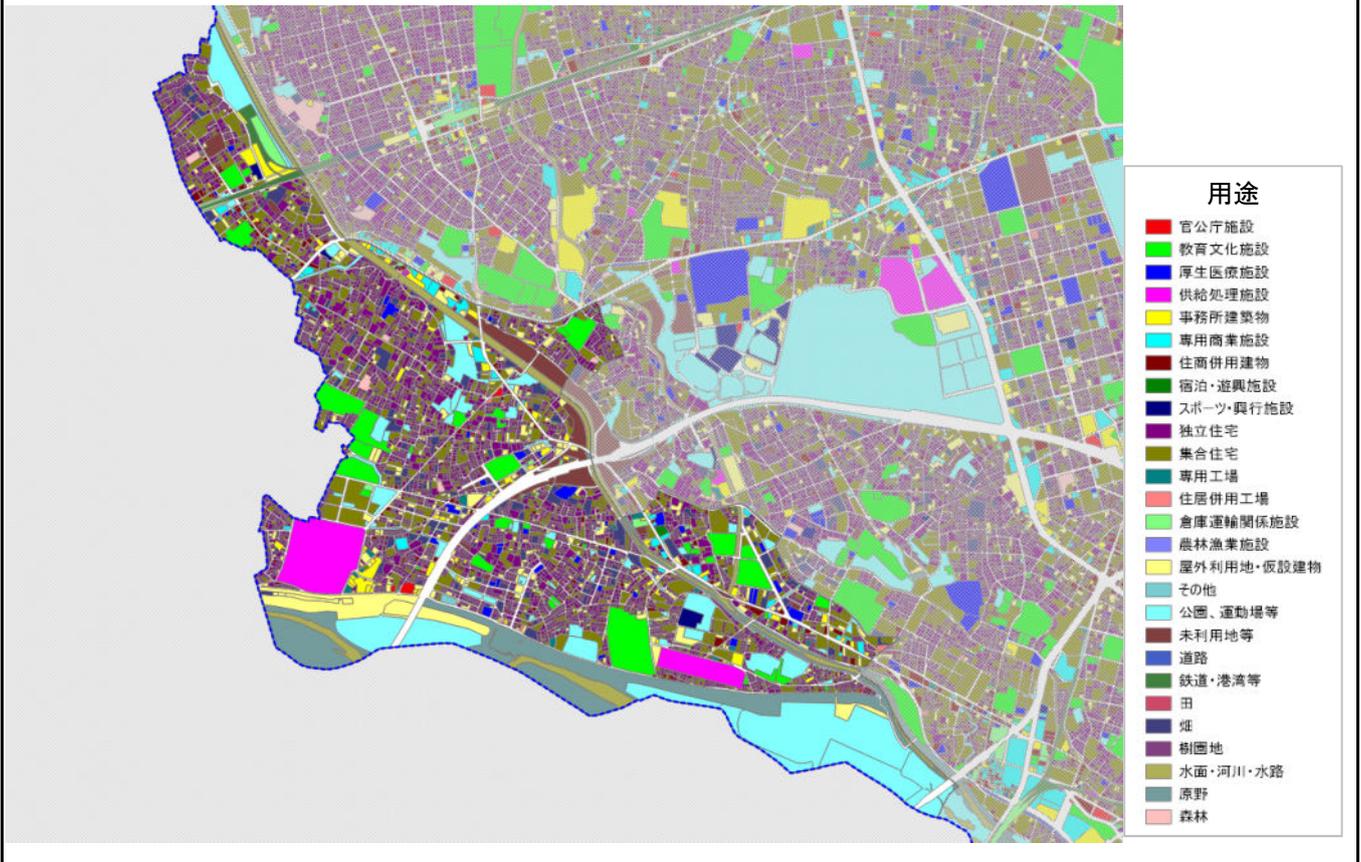
人口	33,228 人	細街路率	32.0 %	
世帯数	16,039 世帯	昭和56年以前木造建物棟数密度	84.8 棟/Km ²	
1世帯あたり	2.07 人	耐火率(建築面積ベース)	56.8 %	
若年層数(15才未満)	4,418 人	土地利用(宅地)	48.9 %	
若年層率(15才未満)	13.3 %	土地利用(宅地以外)	51.1 %	
高齢者数(65才以上)	6,561 人	鉄道駅	小田急小田原線喜多見駅	
高齢者率(65才以上)	19.7 %			
昼間の人口	26,513 人	産業	商業	48.8 %
夜間の人口	33,891 人		工業	11.8 %
昼夜間人口比	0.78 -		農業	39.4 %
町会・自治会数	9 -			

道路・公共交通機関



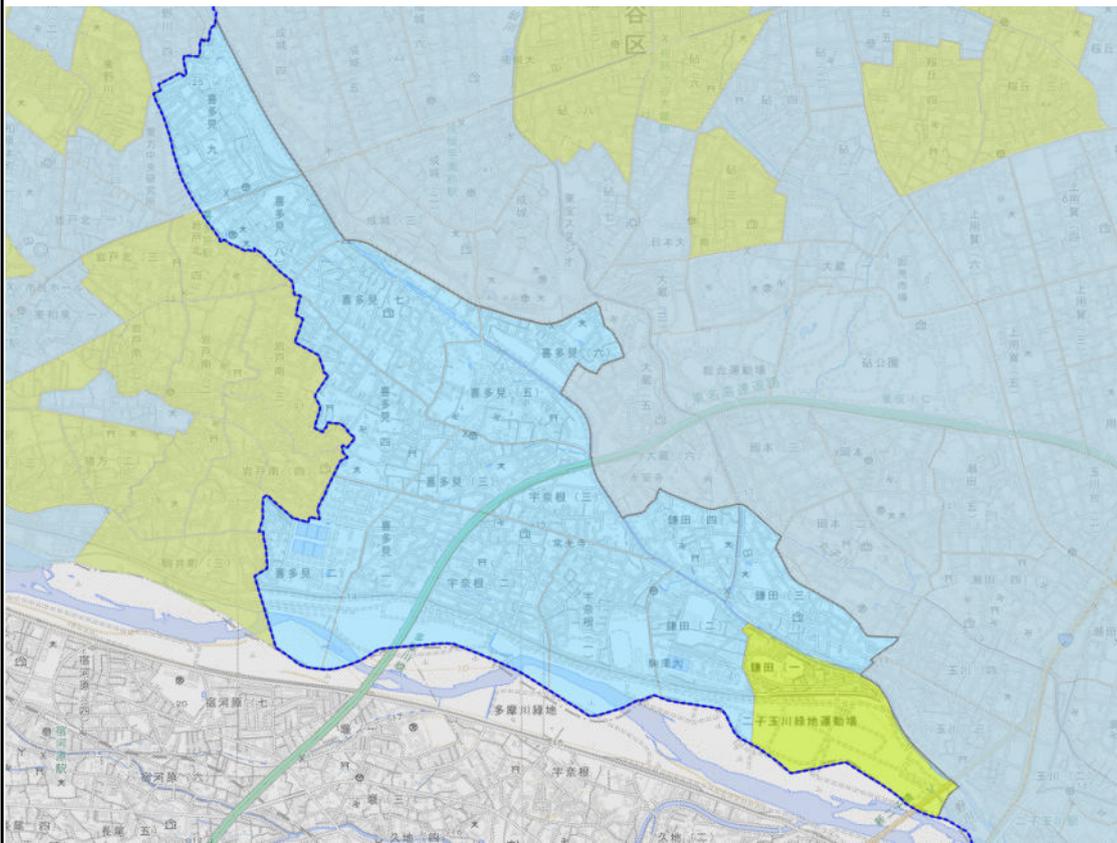
(2)社会特性

産業

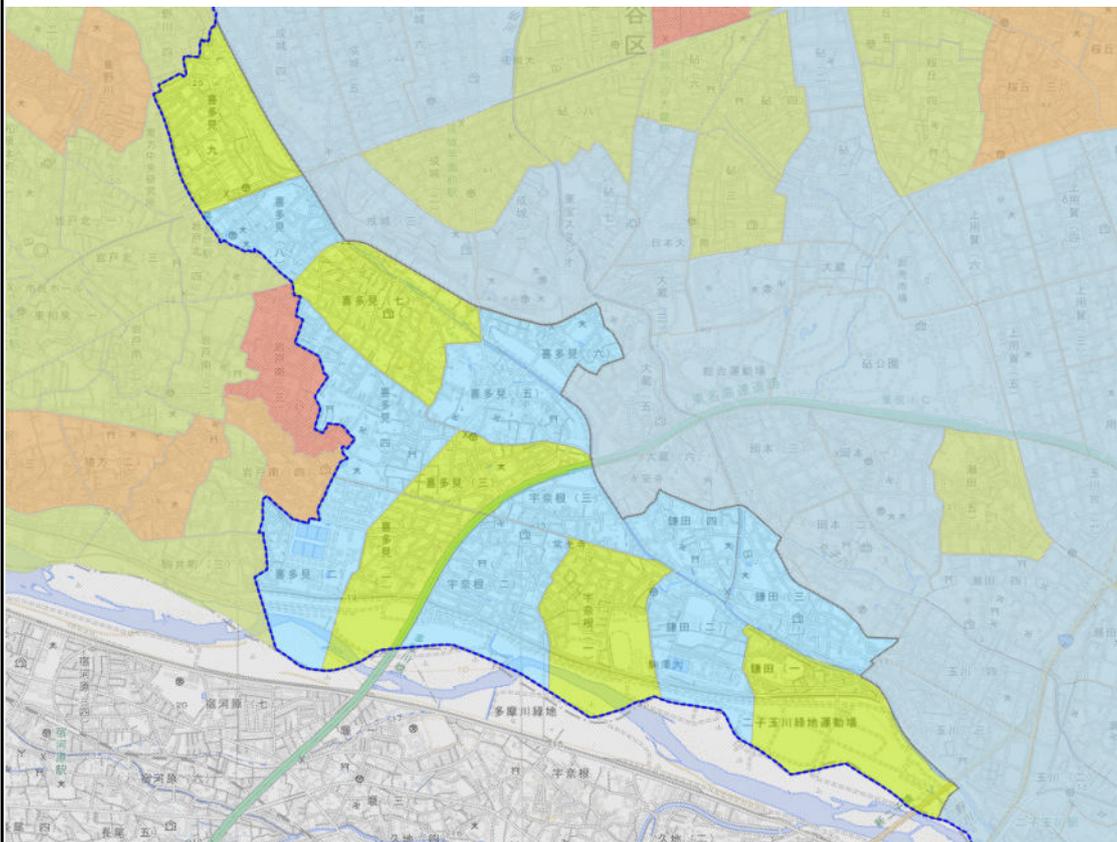


(3)地域危険度

建物倒壊危険度



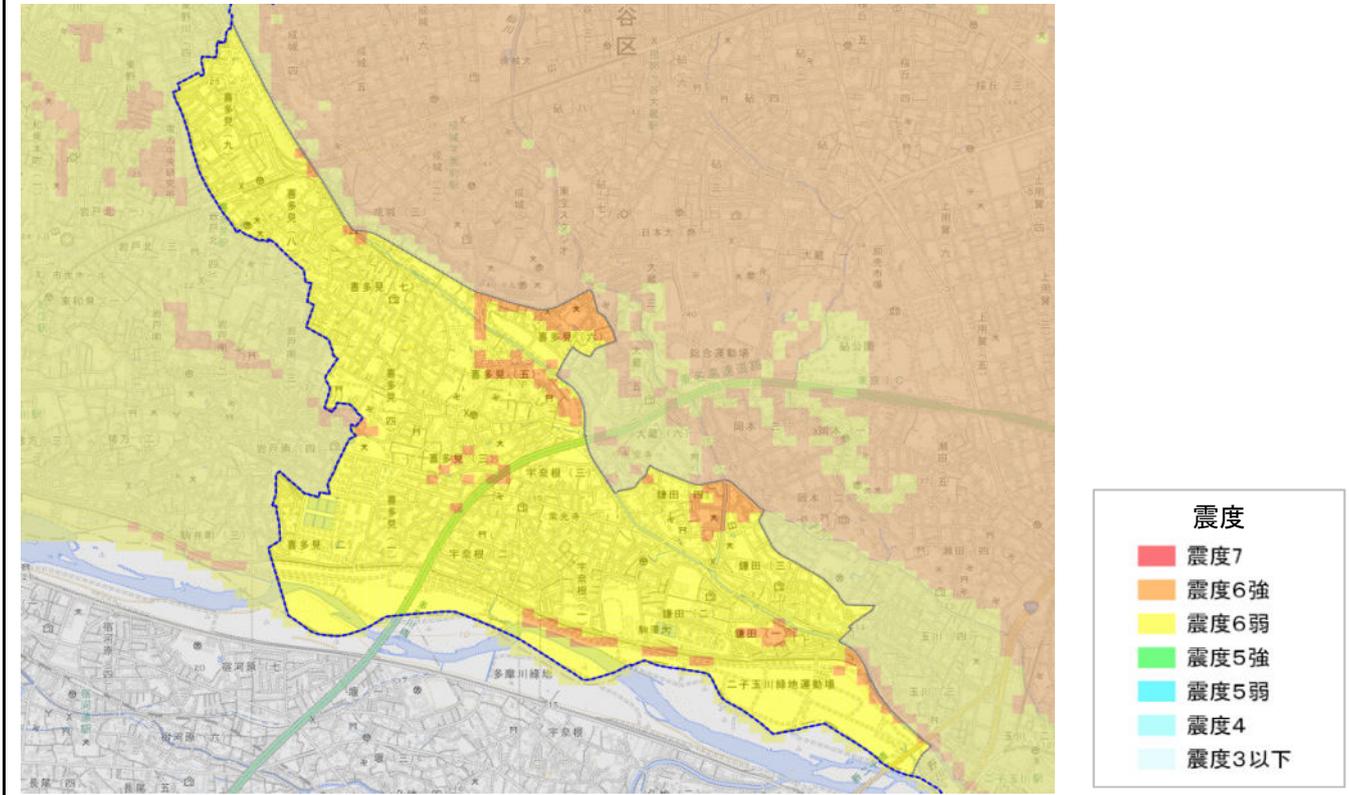
火災危険度



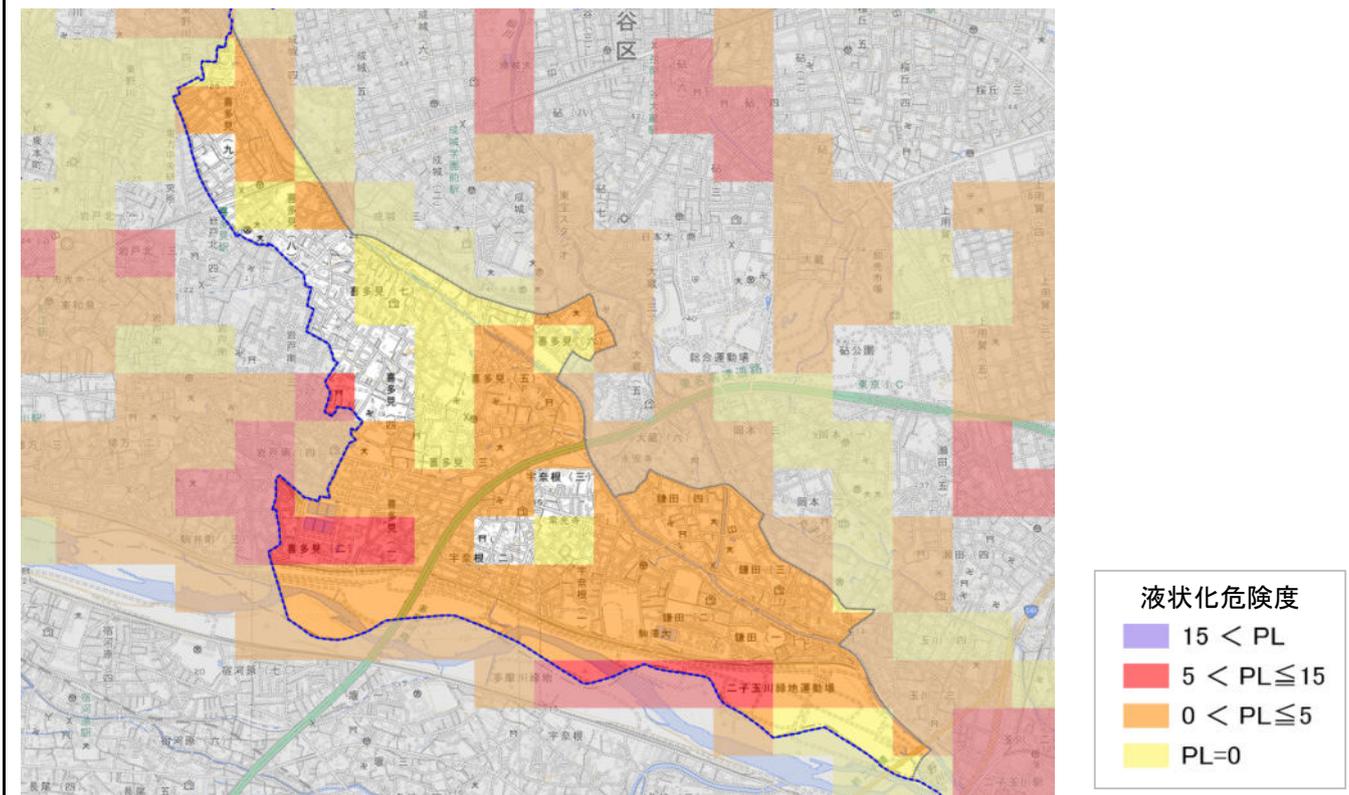
(4)被害想定

全壊棟数	60 棟	死者	15 人
半壊棟数	353 棟	負傷者	163 人
全焼棟数(倒壊建物含まず)	566 棟	うち重傷者	28 人

震度分布

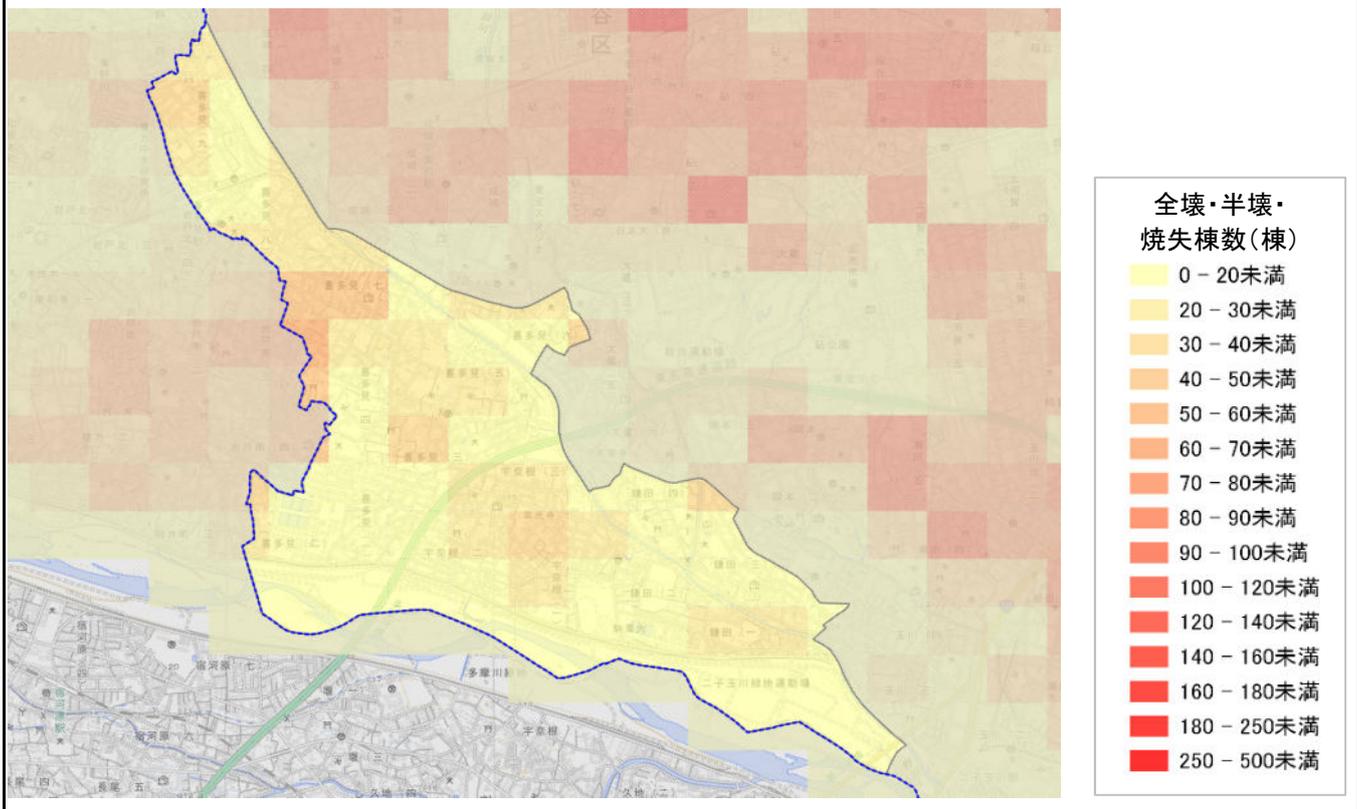


液状化分布



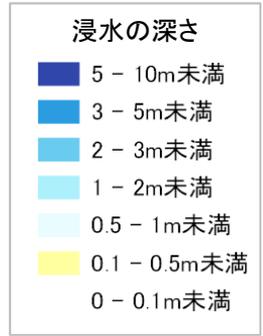
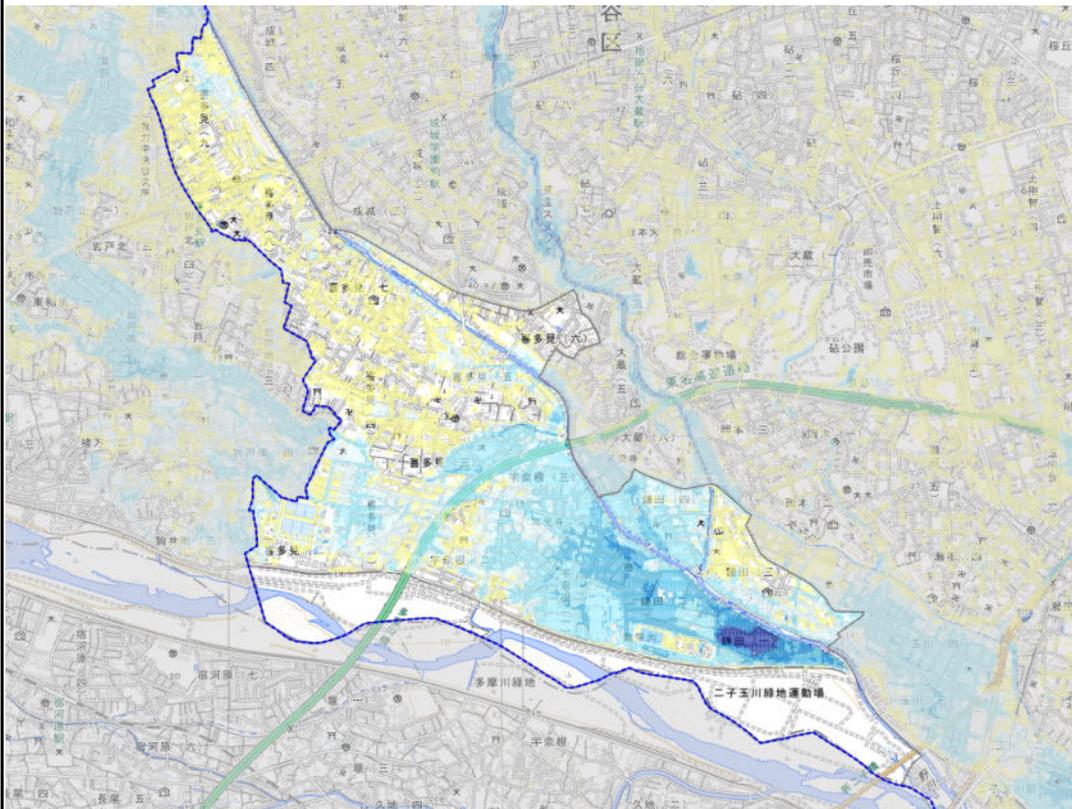
(4)被害想定

被害棟数分布

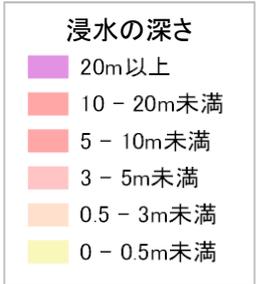
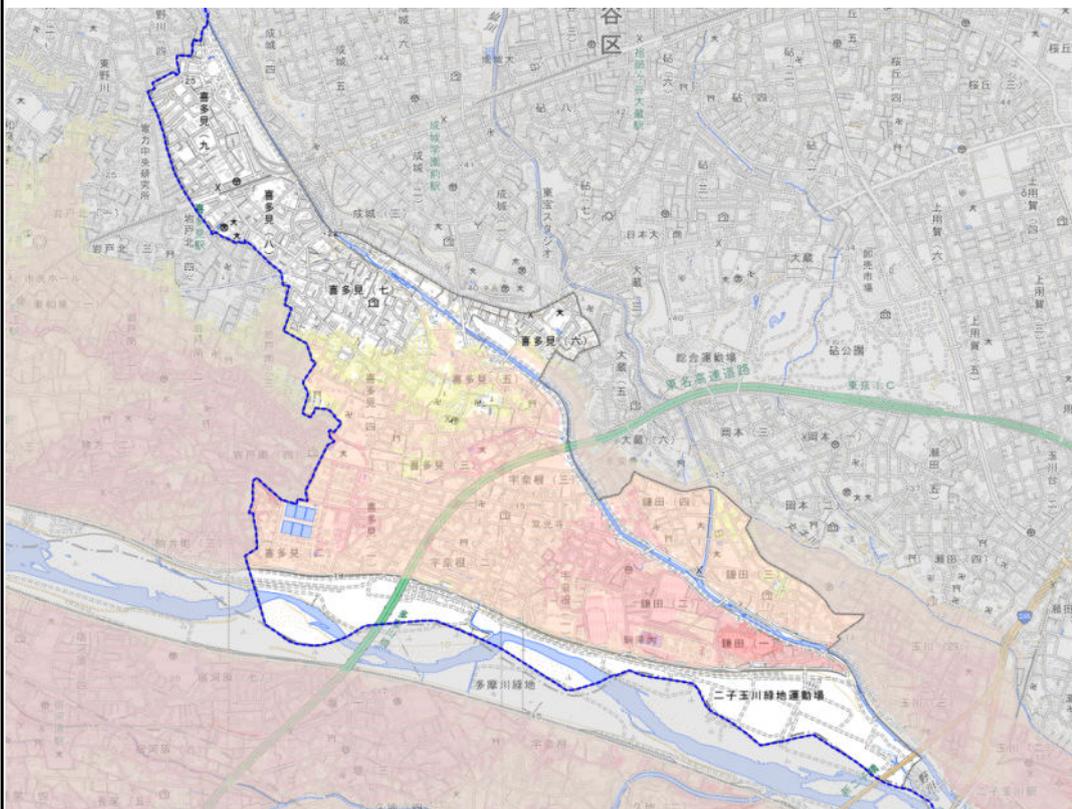


(4)被害想定

浸水想定(内水氾濫・中小河川洪水版)



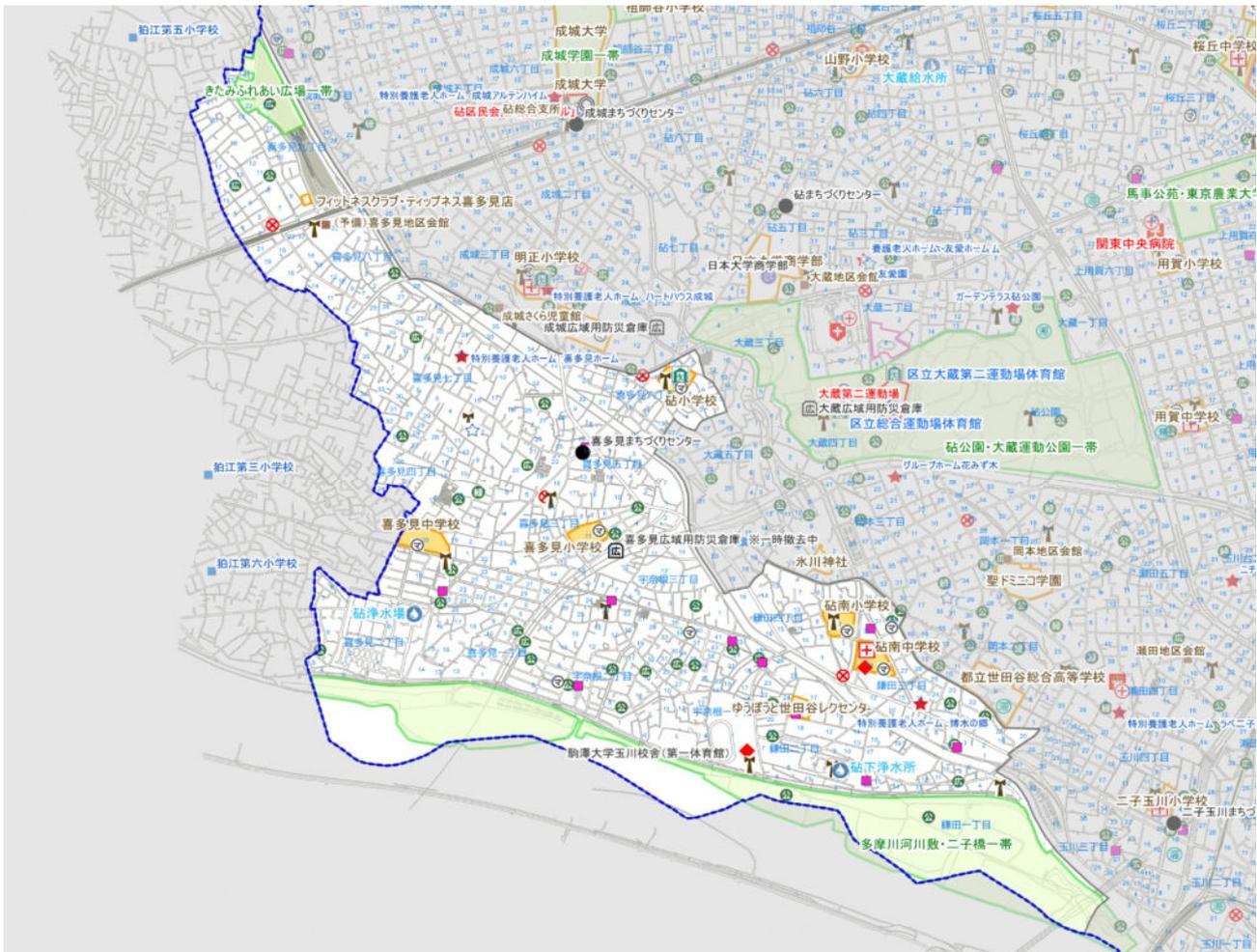
浸水想定(多摩川洪水版)



(5)防災資源一覧

広域避難場所	きたみふれあい広場一帯 多摩川河川敷・二子橋一帯				
一時集合所	きたみふれあい広場 ゆうぼうと世田谷レクセンター周辺 リコーグランド 宇奈根氷川神社 鎌田2丁目南公園 鎌田天神社境内 喜多見公園 喜多見第3苗圃 喜多見中学校校庭 砧小学校校庭 砧南中学校校庭 慶元寺境内 三角公園 次大夫掘公園 次大夫掘公園(下流) 須賀神社境内 多摩川河川敷 多摩川河川敷(警視庁交通安全指導所前) 滝下橋緑道 知行院境内 宝寿院前 明正小学校校庭				
指定避難所	喜多見小学校 喜多見中学校 砧南小学校 砧南中学校				
予備避難所	ゆうぼうと世田谷レクセンター フィットネスクラブ・ティップネス喜多見店				
福祉避難所(母子)					
福祉避難所(高齢者)	特別養護老人ホーム喜多見ホーム 特別養護老人ホーム博水の郷				
福祉避難所(障害者)	砧工房分場キタミ・クリーンファーム				
水害時避難所(第1次)		野川・仙川洪水時避難所	砧南中学校 駒澤大学玉川校舎(第一体育館)		
水害時避難所(第2次)	砧小学校				
土砂災害時避難所	(予備)喜多見地区会館				
避難所救護所	砧南中学校				
東京都災害拠点病院					
東京都災害拠点連携病院					
緊急医療救護所					
一時滞在施設					
一時避難施設(車中避難)				帰宅困難者支援施設	0 ヶ所
ボランティアマッチングセンター					
マンホールトイレ	7 ヶ所	防災行政無線塔	10 ヶ所	緑地	1 ヶ所
輸送拠点					
給水拠点	砧下浄水所 砧浄水場				
広域用防災倉庫	喜多見広域用防災倉庫 ※一時撤去中				
土のうステーション	ゆうぼうと世田谷レクセンター 宇奈根1-22こどもの遊び場 宇奈根地区会館 宇奈根東部記念公園 宇奈根龍王公園 鎌田つつみ広場 鎌田区民センター 鎌田区民集会所 喜多見まちづくりセンター 喜多見公園				
警察署・交番	鎌田駐在所 喜多見駅前交番 喜多見駐在所 東宝前交番				
消防署・出張所					

(6)防災資源マップ



- | | |
|--------------------|-------------------|
| ◎ 総合支所 | ■ 広域避難場所 |
| ● まちづくりセンター | ■ 指定避難所 |
| ⊕ せたがや災害ボランティアセンター | ■ 予備避難所 |
| Ⓔ 広域用防災倉庫 | ■ 福祉避難所(母子) |
| Ⓛ 給水拠点 | ★ 福祉避難所(高齢者) |
| Ⓜ 防災行政無線塔 | ☆ 福祉避難所(障害者) |
| Ⓜ マンホールトイレ | Ⓛ 水害時避難所(第1次) |
| ■ 土のうステーション | Ⓛ 水害時避難所(第2次) |
| Ⓜ 警察署 | ◆ 野川・仙川洪水時避難所 |
| Ⓜ 交番 | ■ 水害時避難所(狛江市) |
| Ⓜ 消防署 | ■ 水害時避難所(調布市) |
| Ⓜ 消防出張所 | ■ 土砂災害時避難所 |
| Ⓜ 身近な広場 | Ⓜ 避難所救護所 |
| Ⓜ 公園 | Ⓜ 東京都災害拠点病院 |
| Ⓜ 緑地 | Ⓜ 東京都災害拠点連携病院 |
| | Ⓜ 緊急医療救護所 |
| | Ⓜ 一時滞在施設 |
| | Ⓜ 帰宅困難者支援施設 |
| | Ⓜ ボランティアマッチングセンター |
| | Ⓜ 輸送拠点等 |
| | Ⓜ 一時避難施設(車中避難) |

出典

世田谷区土砂災害ハザードマップ 令和6年7月発行

世田谷区の町丁目別人口と世帯数 令和6年3月1日

世田谷区の年齢別人口 令和6年3月1日

世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ(多摩川洪水版、内水氾濫・中小河川洪水版)令和6年7月発行

世田谷の土地利用2021 世田谷区土地利用現況調査

世田谷区GISオープンデータ

令和2年国勢調査による 東京都の昼間人口(従業地・通学地による人口)第11表

地域危険度一覧表(地震に関する地域危険度測定調査[第9回]) 令和4年9月

首都直下地震等による東京の被害想定 報告書 令和4年5月25日

世田谷区防災マップデータ 令和6年3月

(7)区民アンケート(喜多見地区)

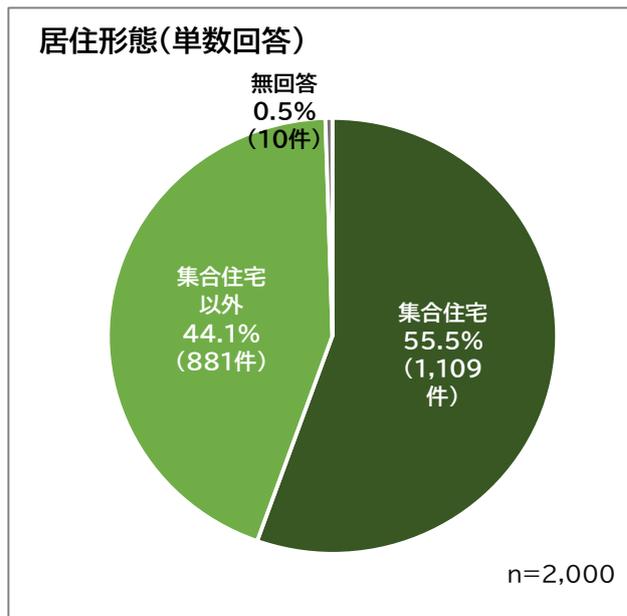
このアンケートは、今後の区内各地域及び地区における災害関連施策の検討や取組みに活用することを目的として、令和6年度に災害対策課が実施した「在宅避難支援事業(防災カタログギフト)」に合わせて行ったものである。

なお、以下に記載している回答集計結果は、カタログギフト申込者のうち、WEBで申し込みをした区民へ任意での回答を依頼し、令和6年8月9日から9月8日までに回収できた分である。

単純集計(1/5)

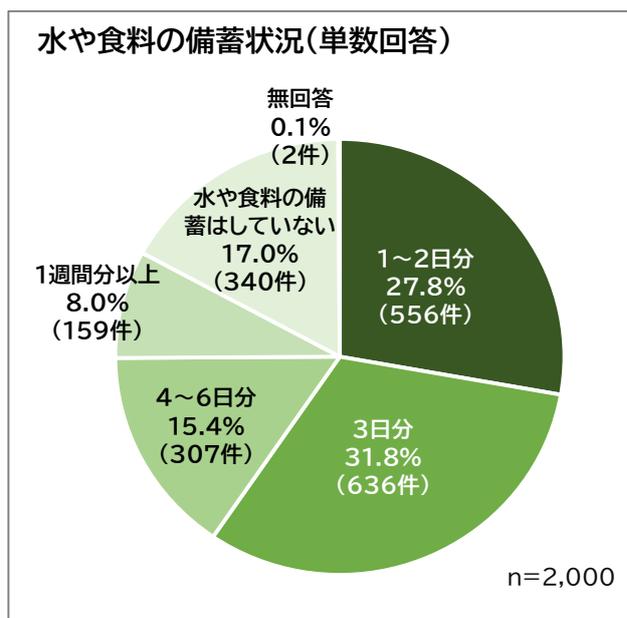
居住形態

【1】あなたはマンションなどの集合住宅にお住まいですか。



水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。

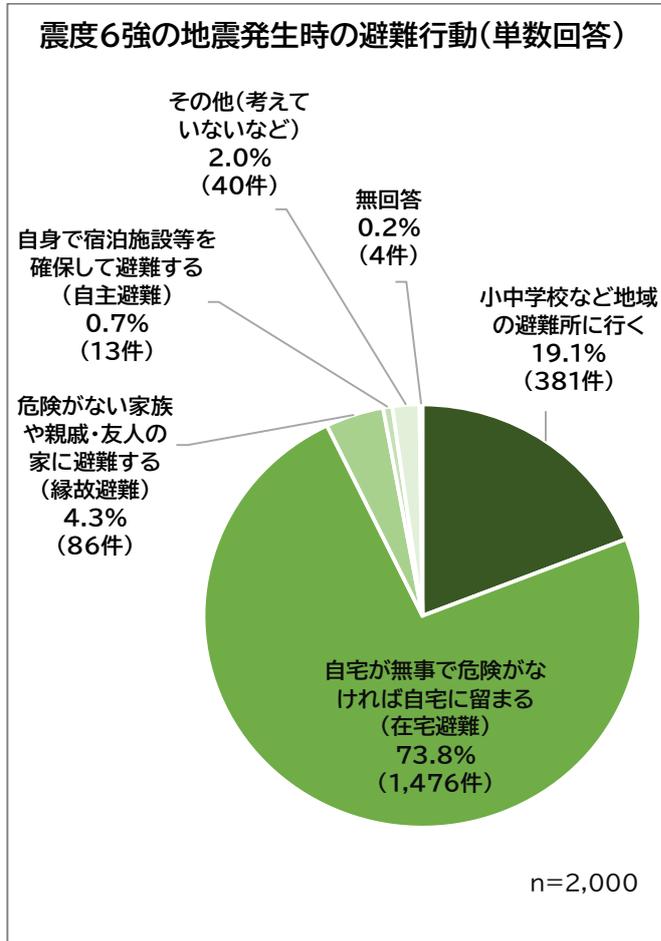


(7)区民アンケート(喜多見地区)

単純集計(2/5)

震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



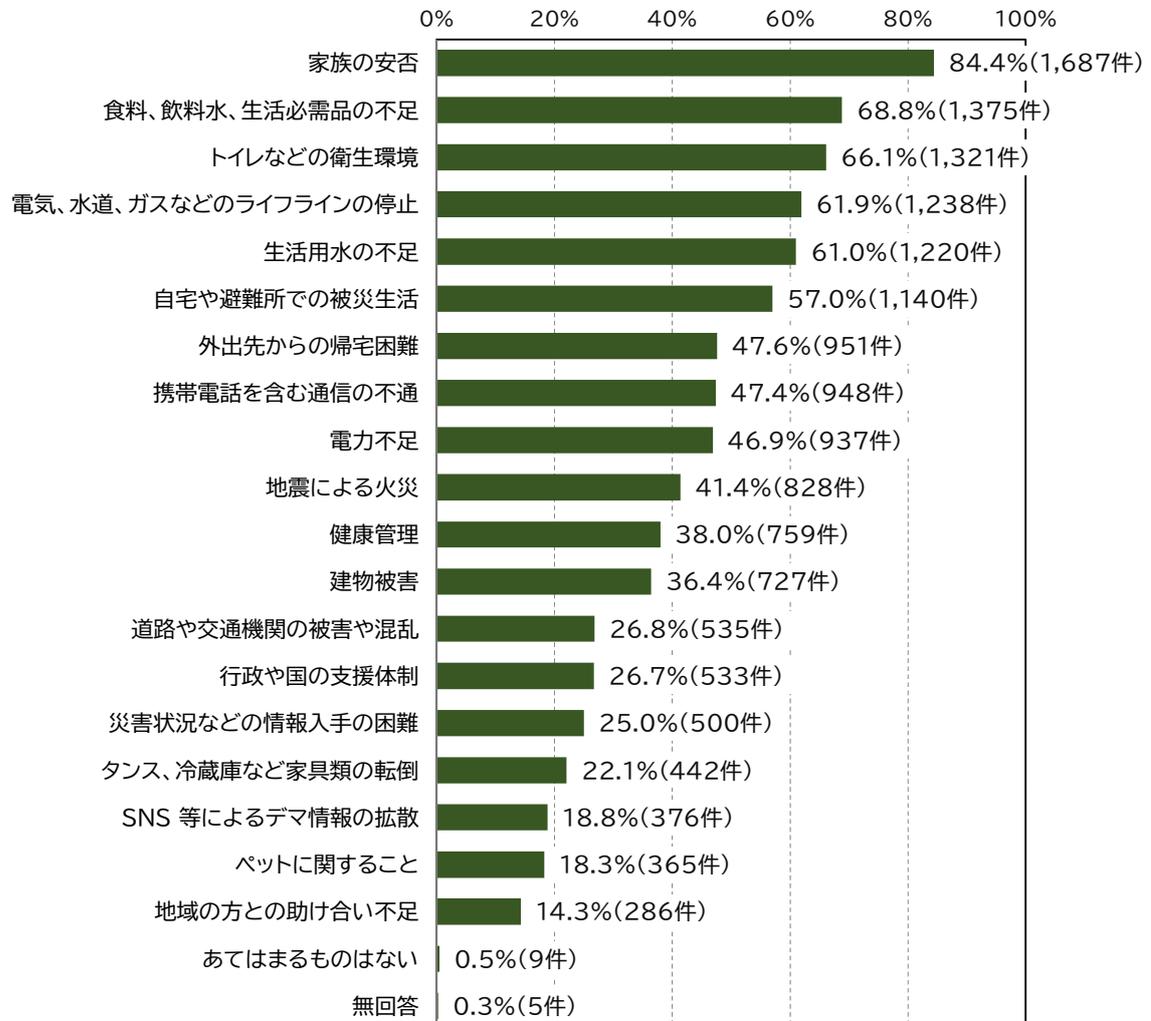
(7)区民アンケート(喜多見地区)

単純集計(3/5)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

災害時の心配ごと(複数回答)



n=2,000

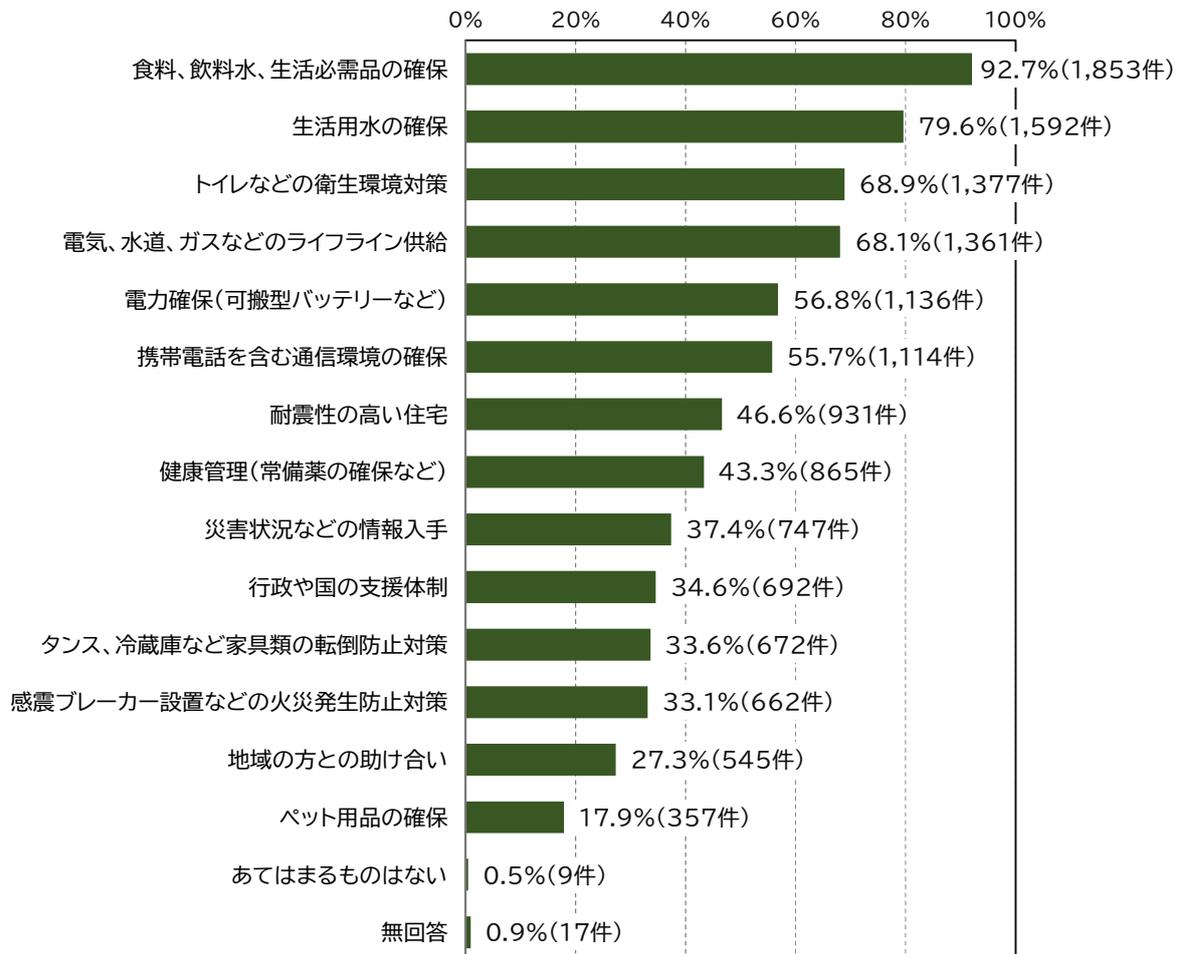
(7)区民アンケート(喜多見地区)

単純集計(4/5)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

在宅避難をするために必要だと思うこと(複数回答)



n=2,000

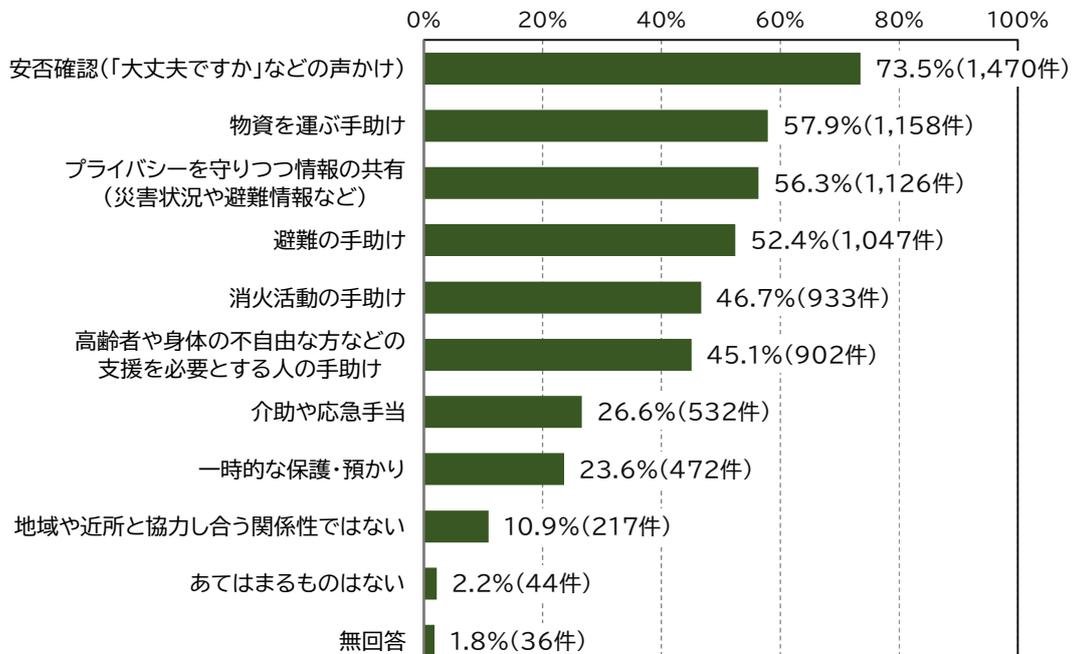
(7)区民アンケート(喜多見地区)

単純集計(5/5)

災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。

災害時にできる住民同士の支援(複数回答)

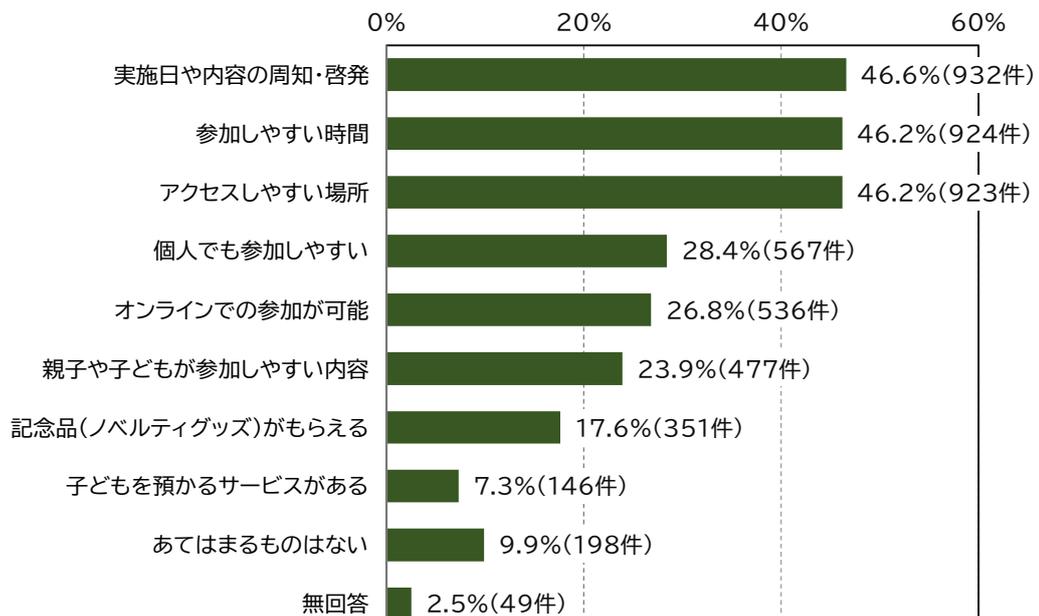


n=2,000

防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加したいと思いますか。

防災訓練や防災教室への参加意向(複数回答)



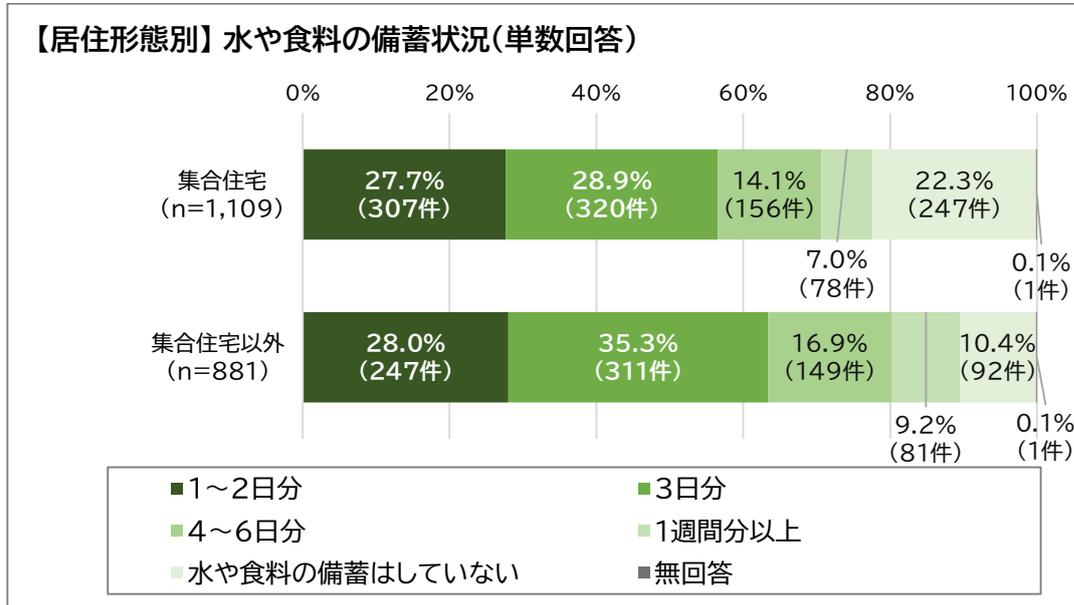
n=2,000

(7)区民アンケート(喜多見地区)

クロス集計(1/4)

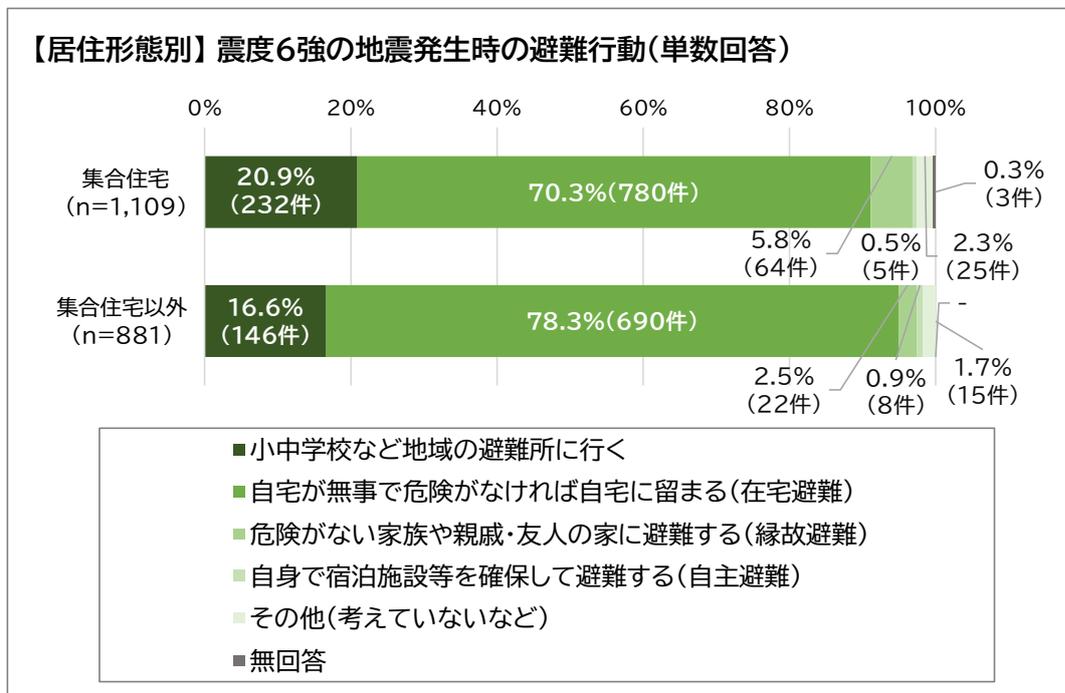
水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。



震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



(7)区民アンケート(喜多見地区)

クロス集計(2/4)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。



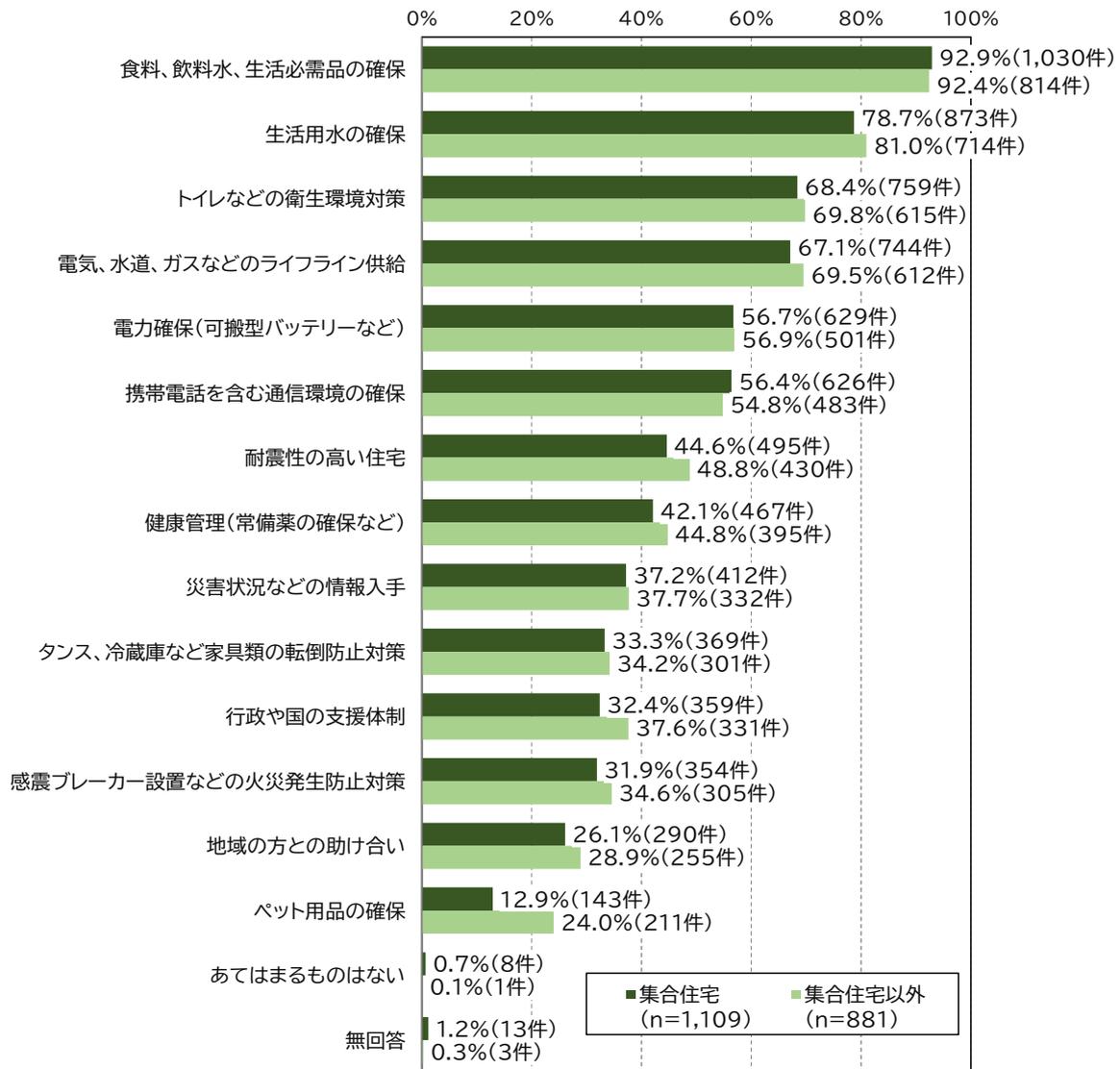
(7)区民アンケート(喜多見地区)

クロス集計(3/4)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

【居住形態別】在宅避難をするために必要だと思うこと(複数回答)

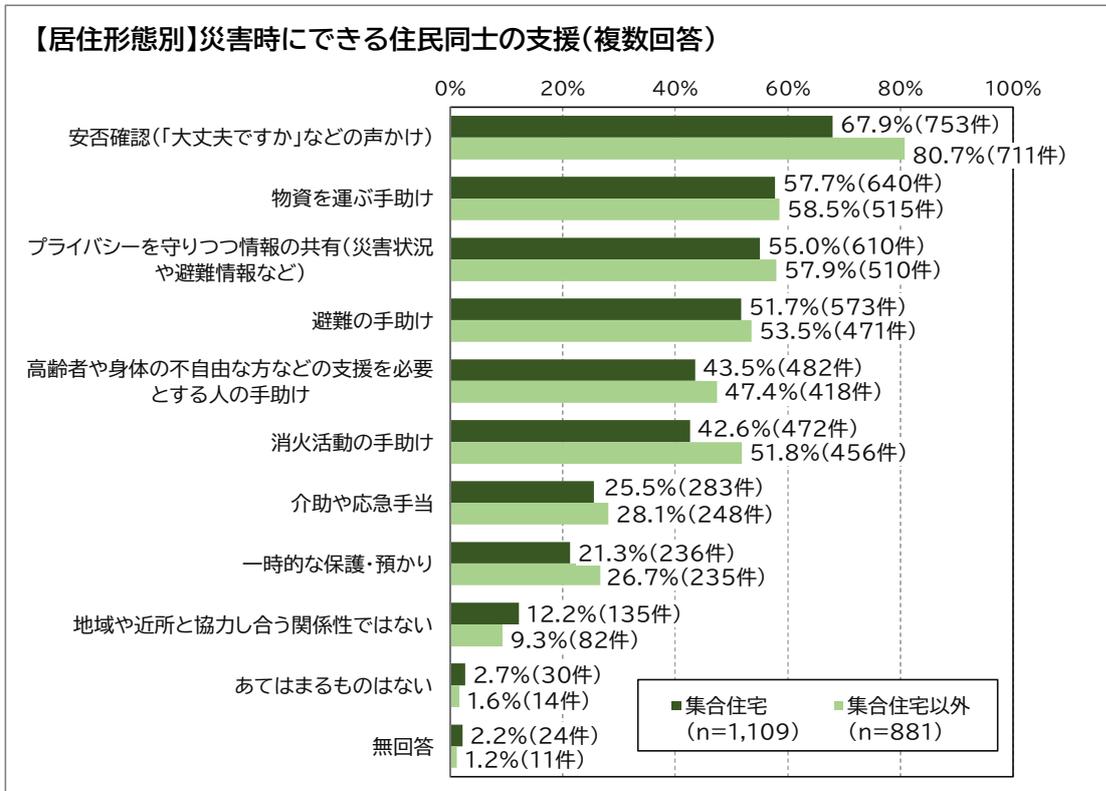


(7)区民アンケート(喜多見地区)

クロス集計(4/4)

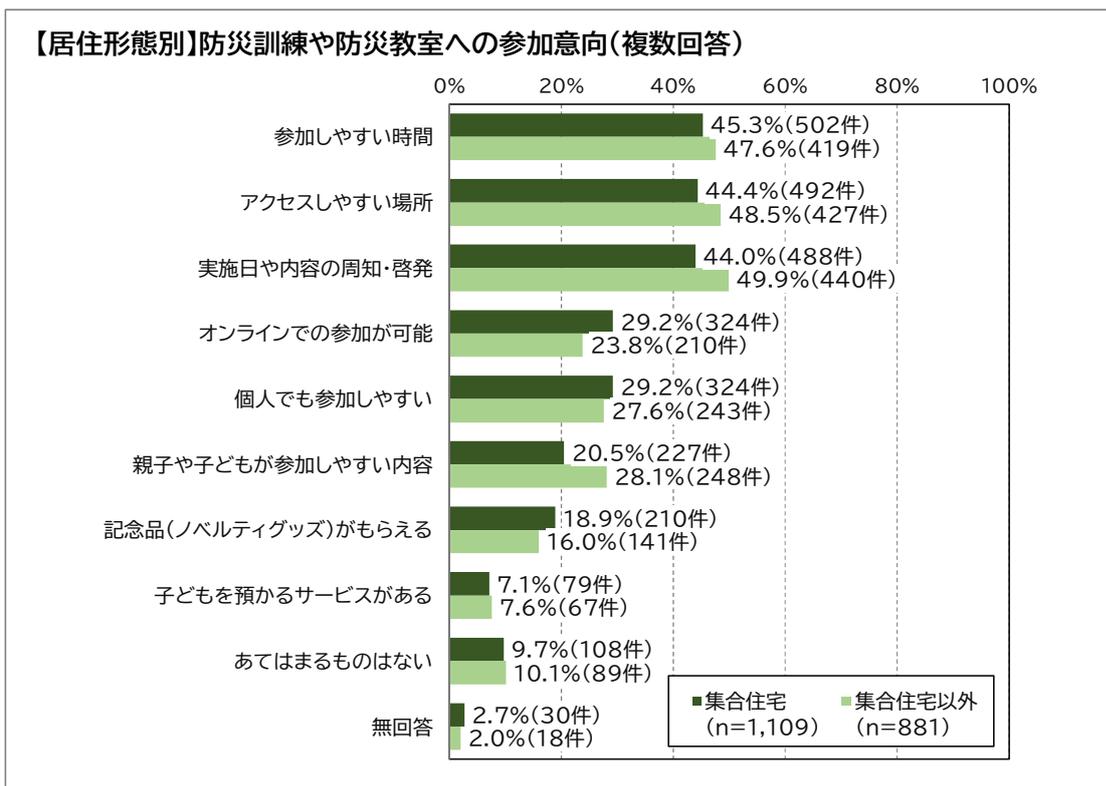
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加したいと思いますか。



2 各団体の防災活動～現在の取組状況～

団体名	防災担当者数	防災に関する会議				防災活動、資機材配備等の実施		消火資機材の配備			
		実施している	実施していない	会議名	実施回数 (年間回数)	実施している	実施していない	配備している	配備していない	スタンドパイプ	
										数量	場所
喜多見北部町会	5	○		防災会議	年6回	○		○			
喜多見西部町会	4	○		町会理事会にて防災に関する話題を議題に挙げている。	月1回	○		○		1	滝下橋緑道世田谷通倉庫
喜多見中部町会	4	○		・ハザードマップ勉強会(8月18日) ・防災塾の報告(10月予定) ・消防署員の講話 ※いずれも町会理事会にて実施	1回 1回 1回	○		○			
喜多見東部町会	45	○		町会理事会にて防災に関する話題を議題に挙げている。	月1回	○		○		2	喜多見一丁目公園防災倉庫 知行院内防災倉庫
喜多見上部自治会	5	○		自治会理事会にて防災に関する話題を議題に挙げている。 ※マニュアル作成の打ち合わせ	月1回	○		○			
都営喜多見二丁目団地自治会	15	○		防災訓練 地域点検	1 1	○		○		1	団地内防災倉庫
宇奈根町会	40	○		町会役員防災	1	○		○		2	宇奈根氷川神社倉庫
鎌田協和会	8	○		防災会議	1	○		○			購入検討中
法人格鎌田南睦会	6	○		防災部 部会議	毎月	○		○		1	鎌田南睦会会館防災倉庫

団体名	消火資機材の配備						防災訓練等の実施			
	D型ポンプ		消火器		その他		実施している	実施していない	防災訓練	
	数量	場所	数量	場所	名称	場所			回数	実施場所
喜多見北部町会							○		1	喜多見駅前広場
喜多見西部町会	1	滝下橋緑道世田谷通倉庫	4	滝下橋緑道世田谷通倉庫	水槽1	滝下橋緑道世田谷通倉庫	○		1	滝下橋緑道中央広場
喜多見中部町会	1	喜多見緑道防災倉庫	18	町会内 (喜多見中部町会防災マップに記載)	防災服4着	喜多見緑道防災倉庫	○		1	喜多見中学校
喜多見東部町会	3	喜多見一丁目公園防災倉庫 知行院内防災倉庫	1	喜多見一丁目公園防災倉庫 知行院内防災倉庫	消防ホース 発電機 投光器	喜多見一丁目公園防災倉庫 知行院内防災倉庫	○		1	喜多見小学校
喜多見上部自治会	1	自治会事務所隣防災倉庫	4	防災倉庫内			○		1	次大夫堀公園 えのきひろば
都営喜多見二丁目団地自治会	2	団地内防災倉庫	71	各棟 (各階ごとに設置)			○		2	地域内公園、 集会所
宇奈根町会	5	宇奈根氷川神社倉庫	23	宇奈根氷川神社倉庫 (3台) 各町会役員宅(20台)	発電機5 投光機6		○		1	宇奈根氷川神社
鎌田協和会			3	鎌田天神社倉庫			○		1	砧南小学校
法人格鎌田南睦会	2	鎌田南睦会会館防災倉庫 鎌田南睦会会館内備品棚 三角公園防災倉庫	37	町会3本 世田谷区34本			○		2	①砧南中学校 (避難訓練) ②東京都市大学グラウンド (防災訓練)

団体名	防災訓練等の実施				防災マップ													
	救命救急講習会		その他		作成済	作成中	作成検討中	作成予定なし	掲載情報							その他		
	回数	実施場所	訓練名称	実施場所					一時集合所	広域避難場所	避難所	街路消火器	防火水槽	震災用井戸	消火栓			
喜多見北部町会			共助の訓練	町会内全域				○										
喜多見西部町会			東京防災学習セミナー	動画配信	○				○	○	○	○	○	○	○	○		・AED設置施設 ・町会掲示板 ・公衆電話 ・公衆トイレ
喜多見中部町会			D型ポンプ実習(年1回)	慶元寺駐車場	○						○	○	○			○		施設一覧 AED 公衆トイレ 給水拠点
喜多見東部町会			D型ポンプ実習(月1回)	防災倉庫(2ヶ所)				○	○									※マップではなく町会名簿に掲載
喜多見上部自治会			D型ポンプ点検・実習(2~3ヶ月に1回)		○				○	○	○	○	○	○	○			※マップは自治会加入の各家庭に配布済み
都営喜多見二丁目団地自治会								○										
宇奈根町会			D型ポンプ訓練(男女共月1回)	宇奈根氷川神社				○	○	○	○			○	○			AED 防災トイレ
鎌田協和会	1	鎌田天神社社務所	防災講習会	町会研修会の中で実施	○					○	○		○					水害時避難経路
法人格鎌田南睦会	1	区の講習会に2,3名参加	D型ポンプ点検実習	鎌田南睦会会館	○				○	○	○	○	○	○	○			町会内防災倉庫

団体名	防災士等の数				災害時連携・協定 (区を除く)				避難行動要 支援者協定			避難行動要支援者対策				
	防災士	把握していない	地域防災リーダー	把握していない	他団体との連携	協定締結	特になし	連携先 ・内容	協定先 ・内容	締結している	検討中である	予定はない	日頃からの 見守り活動	避難行動 要支援者体験	その他	特に実施 していない
喜多見北部町会	1	0					狛江市			○			民生委員 との会議			
喜多見西部町会	3	0				○					○					○
喜多見中部町会		○		○						○						○
喜多見東部町会			0			○					○					○
喜多見上部自治会	1			○		○					○					○
都営喜多見二丁目 団地自治会	1			○							○					○
宇奈根町会	4		1			○				○			民生委員 との連携			
鎌田協和会	0		0			○					○					○
法人格鎌田南睦会	4			○	○		駒澤大学			○						○

団体名	連絡手段の確保		防災活動に関するマニュアル (避難所運営マニュアルを除く)				救出救助に係る資機材の配備										
	簡易無線	連絡網の 作成・整備	その他	策定済み	策定中	検討中	予定なし	名称	配備していない	配備している	リアカー	はしご	脚立	担架	救急セット	ヘルメット	救助工具セット
喜多見北部町会			町会SNSいち のいちを活用				○		○	1	1	1	3	2	13	1	1
喜多見西部町会			町会名簿によ る電話、メー ル連絡				○		○	1	1	2	1	2	20		2
喜多見中部町会			特にない				○		○			1	1	1	25		1
喜多見東部町会			特にない				○		○			3		2 (大 小)	40		2
喜多見上部自治会			特にない	○					○	1		1		1	5		1
都営喜多見二丁目 団地自治会			特にない				○		○	1	1	6	1	2	10		2
宇奈根町会	○	○	特にない			○			○			5	2	2	50	1	1 (大)
鎌田協和会			特にない				○		○	1		2			15		1
法人格鎌田南睦会		○	LINE・携帯	○				防災部組織規定・ 組織図 昭和53年 5月作成 ※年次更新	○	2	3	3	3	3	39		1 (大)

団体名	救出救助に係る資機材の配備							食糧等の備蓄				
	スコップ	手おの	のこぎり	ジャッキ	両口ハンマー	ツルハシ	その他	保管場所	備蓄していない	備蓄している	アルファ米	ビスケット・乾パン
喜多見北部町会	2	2	1	1	2		ロープ3本	喜多見地区会館倉庫		○	200	100
喜多見西部町会	2	4	2	1	2	1	ボルトカッター2個	滝下橋緑道中央広場東側倉庫		○	150	
喜多見中部町会	1	1			1			喜多見中部町会集会所倉庫		○		
喜多見東部町会	3	1	2			1		喜多見一丁目公園防災倉庫		○		
喜多見上部自治会	1							自治会事務所隣防災倉庫		○		
都営喜多見二丁目団地自治会	5	1	3	1	2	1		防災倉庫		○		48
宇奈根町会	4	チェンソー	2	1	2	2	寸銅なべ大3個 コンロ3個 カマ3個 鍋大中5個	宇奈根氷川神社倉庫		○	200	200
鎌田協和会	2		2					神社内倉庫		○		48
法人格鎌田南睦会	12		1	1	1		大ハンマー1個、12mロープ1本、トビロ6つ、トラロープ多数、エンジンソー1個、電動ソー1機、カケヤ1個、ハンドメガホン2機、懐中電灯6つ、角スコップ2個、発電機3台、救命ボート1艘	鎌田南睦会会館防災倉庫 鎌田南睦会会館内備品棚 三角公園防災倉庫		○		100

団体名	食糧等の備蓄													その他の 防災活動	
	おかゆ	飲料水	缶詰類	レトルト食品類	カセットコンロ	災害用食料 その他	非常用トイレ	照明	発電機	蓄電池セット	給水タンク	その他	保管場所		備蓄品配布先
喜多見北部町会	100	200		200	1		200		4 (小型)				喜多見地区会館 倉庫		
喜多見西部町会		216		99			ポータブル トイレ3		1	2		簡易トイレ 248枚	滝下橋緑道世田 谷通倉庫 滝下橋緑道中央 倉庫		
喜多見中部町会		60	20	150	5		25	1	1	1	2		喜多見中部町会 集会所倉庫		
喜多見東部町会													喜多見小学校防 災倉庫		
喜多見上部自治会										1					
都営喜多見二丁目 団地自治会		40			1		1	5	2	2	2		防災倉庫 消火隊倉庫(カ セットコンロ、発 電機のみ)		
宇奈根町会	200	40		50	4			6	6	2			宇奈根氷川神社 倉庫		
鎌田協和会	120								1	1			鎌田天神社社務 所		
法人格鎌田南睦会				200					2	2					

3 喜多見地区の課題と取り組み

喜多見地区は南北に長く、それぞれ課題も異なるため、これまでの喜多見地区防災塾にて9つある管内町会自治会ごとに、取り組み・課題をまとめた。

地区全体

■取り組んだこと

- ・D 型可搬式ポンプを所有し、区民消火隊を組織している町会・自治会は、操作研修会・発表会に参加している。
- ・管内小中学校において、各町会自治会の運営組織が避難所運営訓練を実施している。
- ・令和 6 年度の防災塾では、在宅避難を推進するための検討を行った。

■在宅避難の推進に関する意見

<家庭での備え>

- ・非常用トイレやバッテリーの準備
- ・日常的に使う食料や日用品のローリングストックを行う
- ・家具転倒防止を行う
- ・ガソリンは半分無くなったら補充する
- ・震災時に浄水場で給水できることを周知すべき
- ・テント等のキャンプ用品も可能なら用意した方がいい
- ・家族内での災害時の連絡方法を確認しておく

<地域の備え>

- ・避難所に行かないといけないと考えている人が多いため、在宅避難の周知が必要
- ・学校、スポーツチーム、企業、ボランティアなどの地域団体との連携が必要
- ・各町会・自治会での防災訓練の実施
- ・掲示板など町会・自治会内での連絡手段を考える
- ・町会・自治会内に障害者や高齢者が多いが、民生委員が少なく対応が難しい
- ・家庭で用意できないリヤカーや消防ポンプを町会・自治会で備蓄している
- ・地域の高齢者施設との連携を進める必要がある

<啓発方法>

- ・メールや SNS などの活用を進めるべき
- ・地区防災計画をもっと周知すべき
- ・回覧板よりも、掲示板での周知が効果的
- ・町会・自治会に入会してもらうよう取り組むことが必要
- ・震災時・水害時の避難所の違い等の周知が必要
- ・防災チラシのポスティング
- ・日頃から友人へ情報提供する

■課題

- ・指定避難所への避難だけではなく、自宅等での在宅避難という手段があることを住民に理解していただく必要がある。
- ・避難所へ行けばすぐに行政からの十分な支援(食糧・物資)を受けられるという認識を

改めていただく必要がある。

- ・メールや SNS、掲示板、口コミなどを活用して、効果的に情報発信していく必要がある。
- ・町会・自治会で防災訓練を行っているが、参加者が多くないので工夫が必要
- ・避難所として使用した学校の授業再開に向けての原状復旧が急務である。

喜多見北部町会

■取り組んだこと

- ・共助の訓練を、段階を追って町会全域に広げ、年 2 回開催。
ご近所での見回りと安否確認を共有し、各家庭での備蓄や耐震対策を見直す。
- ・令和 6 年 3 月、喜多見駅前での防災訓練を 10 年ぶりに開催。
主に自助を意識し、便利な備蓄品や簡易トイレの紹介、ペットの防災に力を入れた。
- ・町会 SNS「いちのいち」を導入。発信、投稿機能を使つての訓練を実施した。

■課題

- ・防災をリードするマンパワーの不足。
- ・いまだに「町会や行政が何とかしてくれる」と、備蓄にも関心を持たない方が一定数いること。

■今後取り組むこと

- ・共助の訓練、駅前での防災訓練の継続。
- ・防災意識を高める情報発信の工夫と継続。
- ・町会 SNS「いちのいち」での、地域内情報発信の試行。

喜多見西部町会

■取り組んだこと

- ・「東京防災学習セミナー」を毎年継続して受講した。
- ・「防災訓練」を毎年 3 月に実施した。
- ・「町会防災マップ」を作成し、全町会員に配布した。(都の防災啓発事業の助成金を活用)
- ・ガスパワー発電機、ポータブルトイレを購入し、防災力強化を図った。(都の関東大震災 100 年防災力強化の助成金を活用)

■課題

- ・「負担が大きい」「責任を負いたくない」との声があり、要援護者支援(要支援者協定)をなかなか進められない。
- ・防災訓練、防災学習、避難所運営訓練に多くの参加者を集められない。

■今後取り組むこと

- ・防災訓練では、D 型ポンプの放水・スタンドパイプの操作訓練を実施する。
- ・これまでの防災対策は地震に偏っていたため、台風災害等も考慮していく。
- ・町会内に避難指示が出た場合の対応を検討していく。

- ・「要支援者協定」を進められていないが、町会としてどのような支援ができるか検討を進めていく。
- ・「東京防災学習セミナー」を継続して受講し、会員の防災への関心・知識を高める。

喜多見中部町会

■取り組んだこと

- ・D 級ポンプは毎月点検を行い、町会理事には起動操作および放水操作を経験していただいた。また、操作マニュアルを作成しポンプと共に保管している。
- ・8 月理事会でハザードマップの勉強会を行った。
- ・10 月町会理事会で喜多見地区防災塾の内容を報告した。

■課題

- ・これまで水害への対応は考えてこなかったが、内水氾濫の場合はどこが被害を受けるか分からないため心配している。
- ・雨水等の排水設備がどのように整備されており、どの程度の雨でオーバーフローするかわからない。
- ・台風19号の際、水平避難の必要があるか、垂直避難で良いのか迷う方がいた。
- ・喜多見中学校で喜多見地区震災訓練および避難所運営訓練が行われたが、参加者が令和4年よりわずかに増加した。

■今後取り組むこと

- ・防災部だけではなく、町会全体として災害時に共助できる仕組みを考えていく。
- ・要援護者支援等にも活用できるよう、黄色いハンカチ・黄色いリボン運動のように地域全体で防災に取り組みたい。
- ・ハザードマップを活用し、各家庭の水防対策や避難方法をあらかじめ考えていただく。
- ・震災訓練、避難所運営訓練等への関心を高めていきたい。

喜多見東部町会

■取り組んだこと

- ・毎月、装備品・D 級ポンプの点検・訓練を実施している。
- ・町会の防災訓練に地元の小学校(喜多見小学校)の6年生に参加してもらい、防災の意識を高めてもらっている。

■課題

- ・洪水時には冠水することが予想され、以前の野川増水時には、10数件が床上・床下浸水した。町会で訓練を実施しているが震災時を想定したものとなっている。
- ・災害準備品用に町会のお金を蓄えているが、利用先は未定となっている。
- ・町会の防災訓練に、町会加入世帯の参加は多いが、それ以外の一般の世帯は参加が少

ない。

■今後取り組むこと

- ・町会としての水害対策の方針がたっていないため、今後検討する必要がある。
- ・D級ポンプの操作等について町会内の他の人にも広く習得させていきたい。

喜多見上部自治会

■取り組んだこと

- ・自治会で作成している独自の防災マニュアルの改訂(第3版)を行い、自治会加入世帯へ全戸配布を実施した。
- ・避難所の運営の考え方として、運営組織委員だけでなく、地域の方でも、いざという時に避難所運営を開設できるように訓練を実施している。

■課題

- ・学校が避難所となるのは基本的に震災時のみであり、水害時には対応していない。そのため避難所運営も地震が起きた時のためのものとなっている。今後は行政に任せっきりになるのではなく、何らかの協力をしていくべきである。
- ・自治会のWEBサイトの充実化を行ったが、閲覧数は伸びていないため改善の余地がある。

■今後取り組むこと

- ・安否確認カードの準備を進めたいが、自治会予算ではすぐに作成することはできないので、今後どのように準備を進めるか検討する。
- ・町会の防災マニュアルや避難所運営訓練のマニュアルを町会内の人たちに広く周知するためにWEBサイト上にアップロードしたが、URLをどのように周知していくか検討する。

都営喜多見2丁目団地自治会

■取り組んだこと

- ・防災訓練では、防災ベルを鳴らして外に出てもらい、各棟が集合して、人数を確認してから訓練会場に誘導した。
- ・台風19号の際、万一を考え、避難所に避難した方もいた。避難について正しく理解し、行動するために東京都の防災マップ「東京マイ・タイムライン」を1階の住民83世帯すべてに配布した。

■課題

- ・自主避難等の注意の呼びかけに即座に行動できない方、例えば、身寄り場所がない方、近所づきあいの薄い方、車椅子の方、障がいを抱えている方も住んでいる。

- ・一時的な避難場所として、団地の上層階の空き部屋を開放してもらいたいという声がある。
- ・多摩川が氾濫した場合の浸水を想定すると、2階以上に避難し救助を待つしかない。

■今後取り組むこと

- ・自主避難等の注意の呼びかけに即座に行動できない方などの避難の仕方について検討していく。
- ・民生委員の方と打ち合わせを密にしたい。

宇奈根町会

■取り組んだこと

- ・防災訓練を実施し、消防団と町会消火隊での合同で放水体験を行った。
- ・消火隊は毎月活動をしている。女性の消火隊を設立し毎月19日に町会内で火の用心の巡回をしている。
- ・火災発生時には誰でも使用できるように、消火器を町会役員宅の塀等に設置している。

■課題

- ・台風19号では、町会内で約3分の1の世帯が床下・床上浸水の被害となった。
- ・宇奈根地域は老人ホームや障がい者施設が多いので、施設にも参加を呼びかけている。

■今後取り組むこと

- ・要援護者(要支援者)リストはあるが、リストに載っていない高齢者とコミュニケーションをとるため、民生委員と情報共有を行う。

鎌田協和会

■取り組んだこと

- ・砧南小学校避難所運営訓練のミーティングでは、台風災害等も含めた検討を行った。

■課題

- ・防災に関する活動は年1回程度のため意識が薄くなっている。
- ・町会内に新しい住民と古くからの住民との接点も少ないため、災害時のためにも解決する必要がある。
- ・防災の面も含め、町会員相互の交流を深め助け合いの心を育てていく必要がある。

■今後取り組むこと

- ・仙川と野川の合流地点となるため、水害への対策をしっかりと考えていきたい。
- ・防災に関する意識が薄くなっているため、一人ひとりの意識を高めていきたい。

- ・スタンドパイプを所有していないので、数年の間には購入したい。
- ・町会と住民と各自の防災に対する認識を深めていきたい。

鎌田南睦会

■取り組んだこと

- ・町会の消火器点検・世田谷区と町会の消火器の場所の確認
- ・町会内の消火栓の場所の確認
- ・3月、6月、9月、12月、D型ポンプ2台 点検
- ・特別養護老人ホーム博水の郷との防災訓練を実施
- ・水害、震災ときの避難所の確認
- ・避難所設営訓練の実施
- ・9月防災訓練実施
- ・D型ポンプ操作大会参加
- ・防災関係の講習会参加
- ・防災士 資格講習会 参加

■課題

- ・消火器がどの場所にあるかを住民のかたに再度お知らせをする。
- ・水害、震災時の避難所を住民のかたに再度お知らせをする
- ・多くの方に9月防災訓練に参加してもらう。
- ・避難所設営訓練に多くの方に参加してもらう。

■今後取り組むこと

- ・住民が災害から被害を免れるための必要な情報、防災、減災のための備えの情報を災害履歴から導き、普段から情報を供用できるようにシステムを作る。
- ・安否確認のシステムを作る。

砧地区防災計画

[令和7年修正]

砧地区

【砧地区防災計画作成団体】

(順不同)

砧町町会	山野小学校
法人格砧町自治会	山野小学校避難所運営本部
石井戸会	砧小学校
大蔵東部町会	砧小学校避難所運営本部
大蔵住宅自治会	砧南小学校
大蔵本村睦会	砧南小学校避難所運営本部
岡本自治会	砧南中学校
日赤奉仕団砧分団	砧南中学校避難所運営本部
身近なまちづくり推進協議会	日本大学商学部
ごみ減量・リサイクル推進委員会	成城消防団第5分団
砧あんしんすこやかセンター	祖師谷みなみ商店街
砧地域社会福祉協議会	TMC 通り商店街
砧工房	独立行政法人国立成育医療研究センター

目次

1 砧地区の特性	砧-1(-864-)
(1)自然特性	砧-1(-864-)
(2)社会特性	砧-2(-865-)
(3)地域危険度	砧-4(-867-)
(4)被害想定	砧-5(-868-)
(5)防災資源一覧	砧-8(-871-)
(6)防災資源マップ	砧-9(-872-)
(7)区民アンケート	砧-10(-873-)
2 各団体の防災活動～現在の取組状況～	砧-20(-883-)
3 砧地区の課題と取り組み	砧-27(-890-)
(1)共通課題	砧-27(-890-)
(2)地域特性からの課題	砧-32(-895-)

1. 砧地区の特性

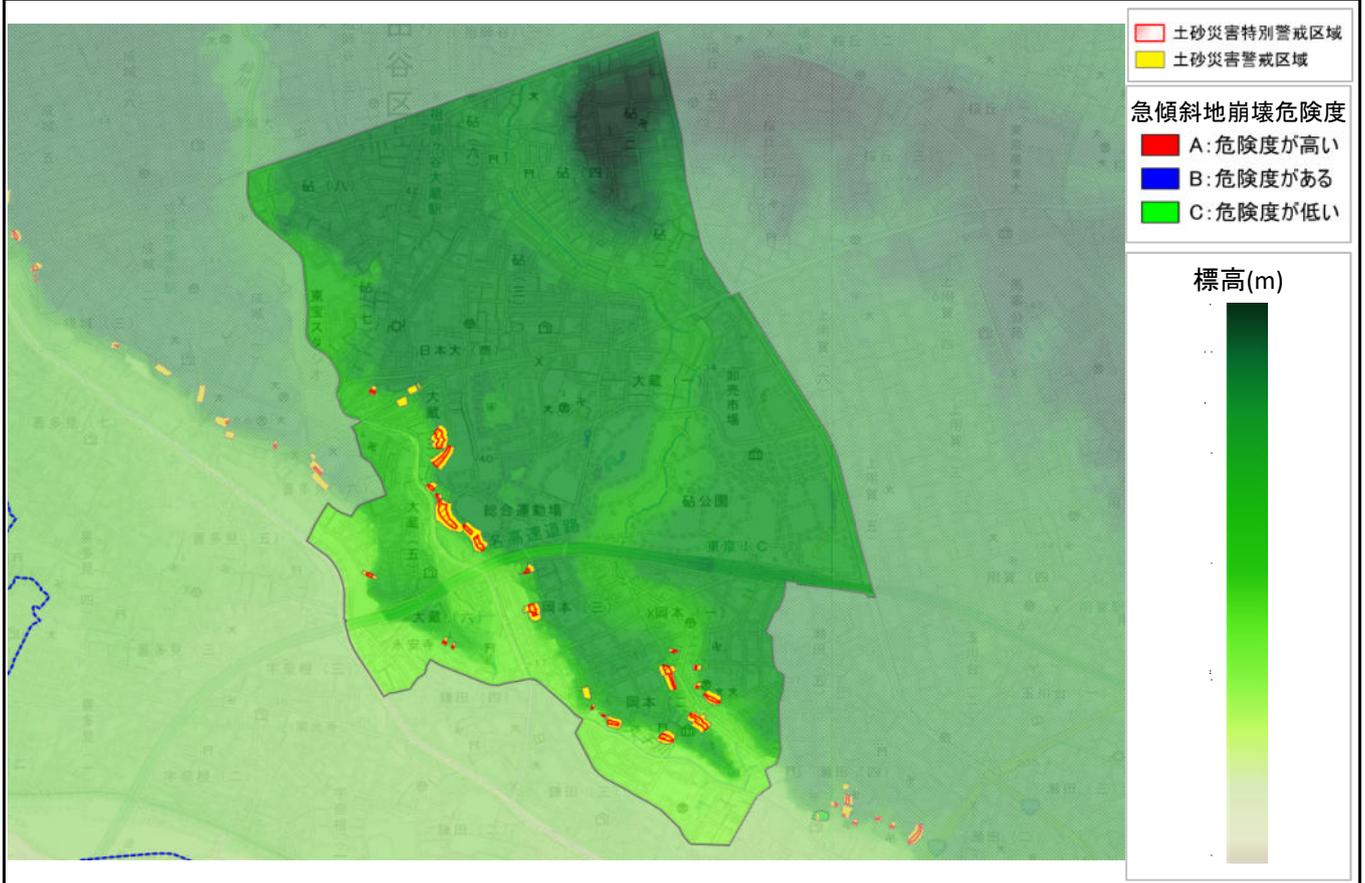
(1) 自然特性

面積	3.77 Km ²	最高標高	54.2 m	最低標高	10.3 m
----	----------------------	------	--------	------	--------

位置



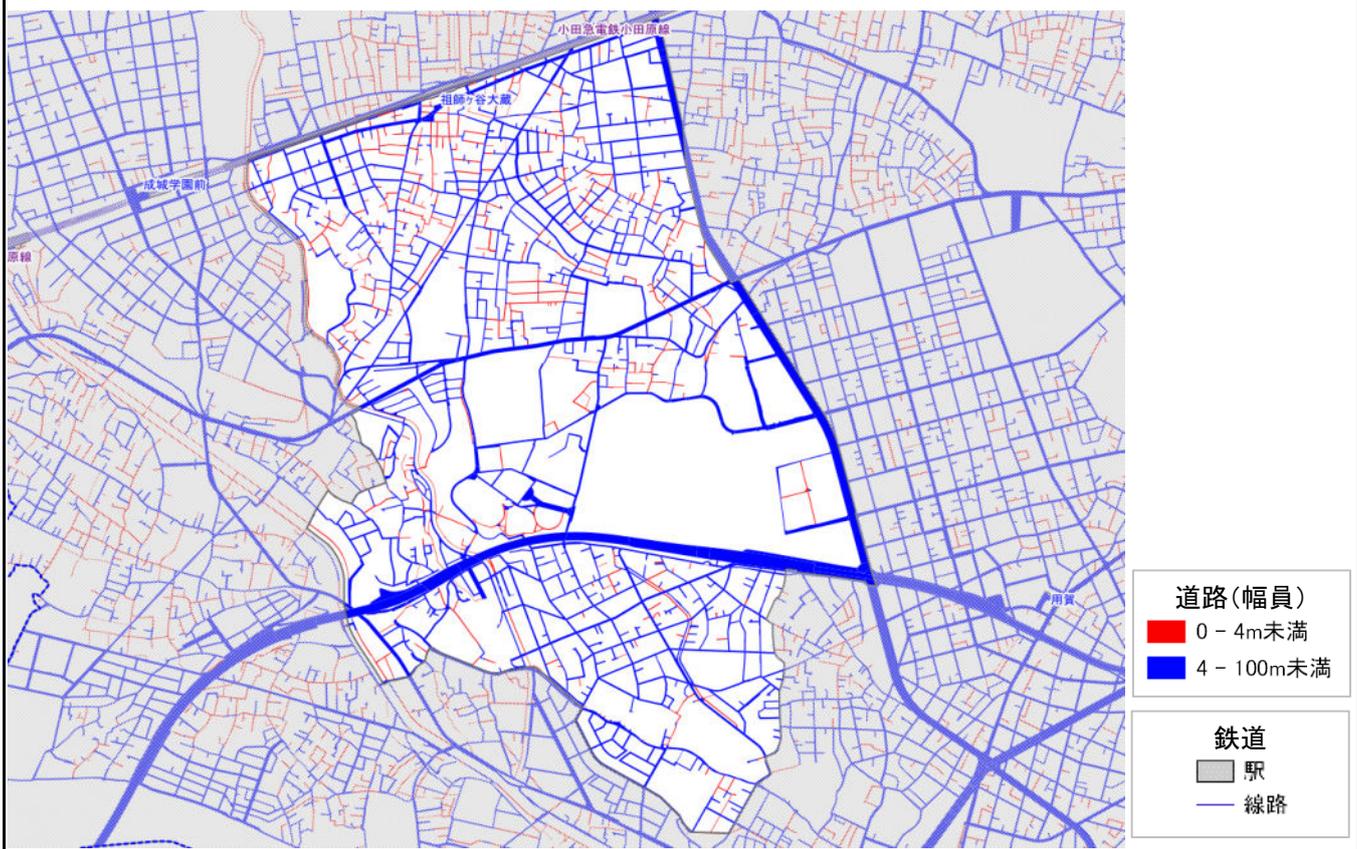
標高・急傾斜地崩壊危険度・土砂災害警戒区域等



(2)社会特性

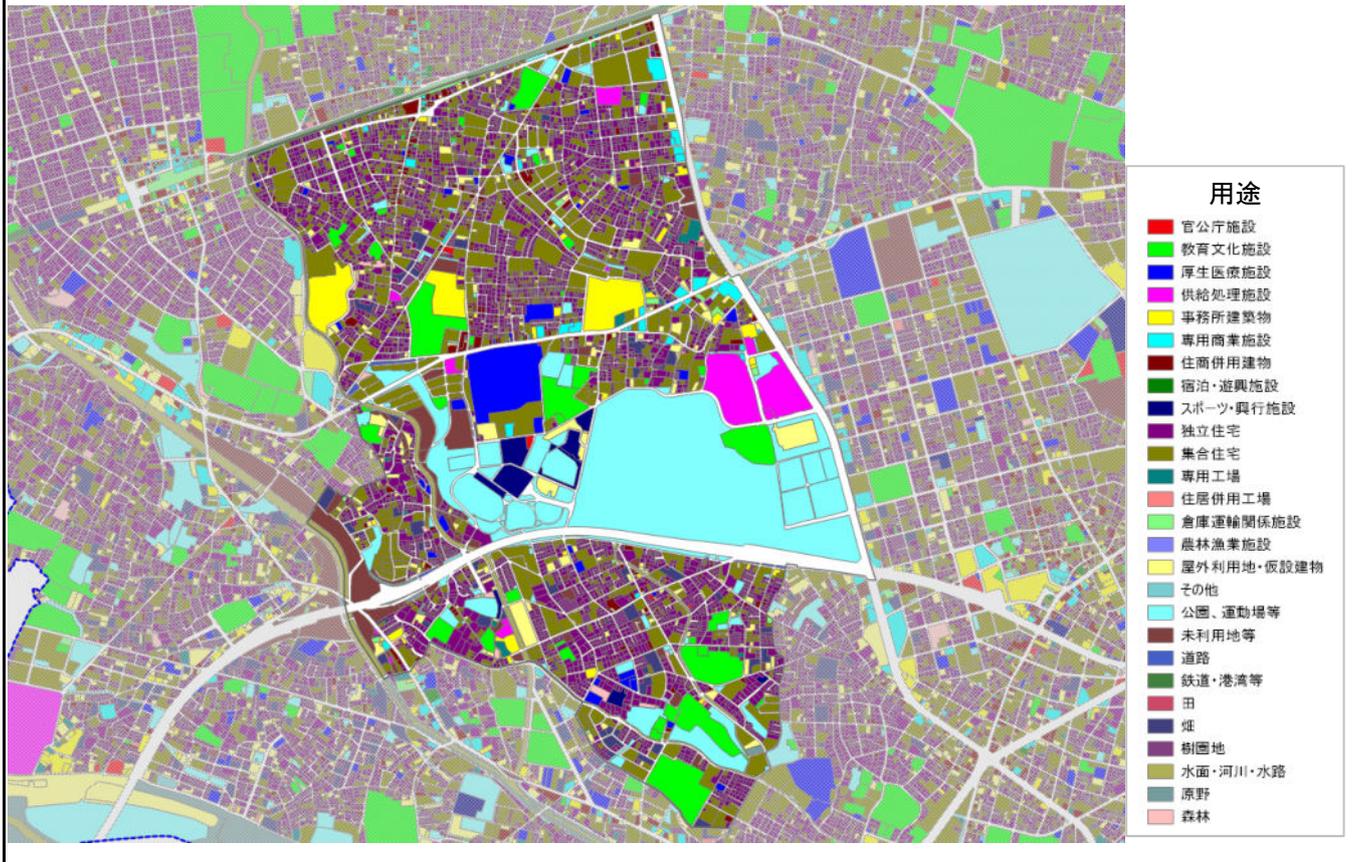
人口	42,536 人	細街路率	23.4 %	
世帯数	20,468 世帯	昭和56年以前木造建物棟数密度	54.6 棟/Km ²	
1世帯あたり	2.08 人	耐火率(建築面積ベース)	72.4 %	
若年層数(15才未満)	5,952 人	土地利用(宅地)	56.3 %	
若年層率(15才未満)	14.0 %	土地利用(宅地以外)	43.7 %	
高齢者数(65才以上)	8,236 人	鉄道駅	小田急小田原線祖師ヶ谷大蔵駅	
高齢者率(65才以上)	19.4 %			
昼間の人口	34,886 人	産業	商業	71.6 %
夜間の人口	43,327 人		工業	7.0 %
昼夜間人口比	0.81 -		農業	21.4 %
町会・自治会数	7 -			

道路・公共交通機関



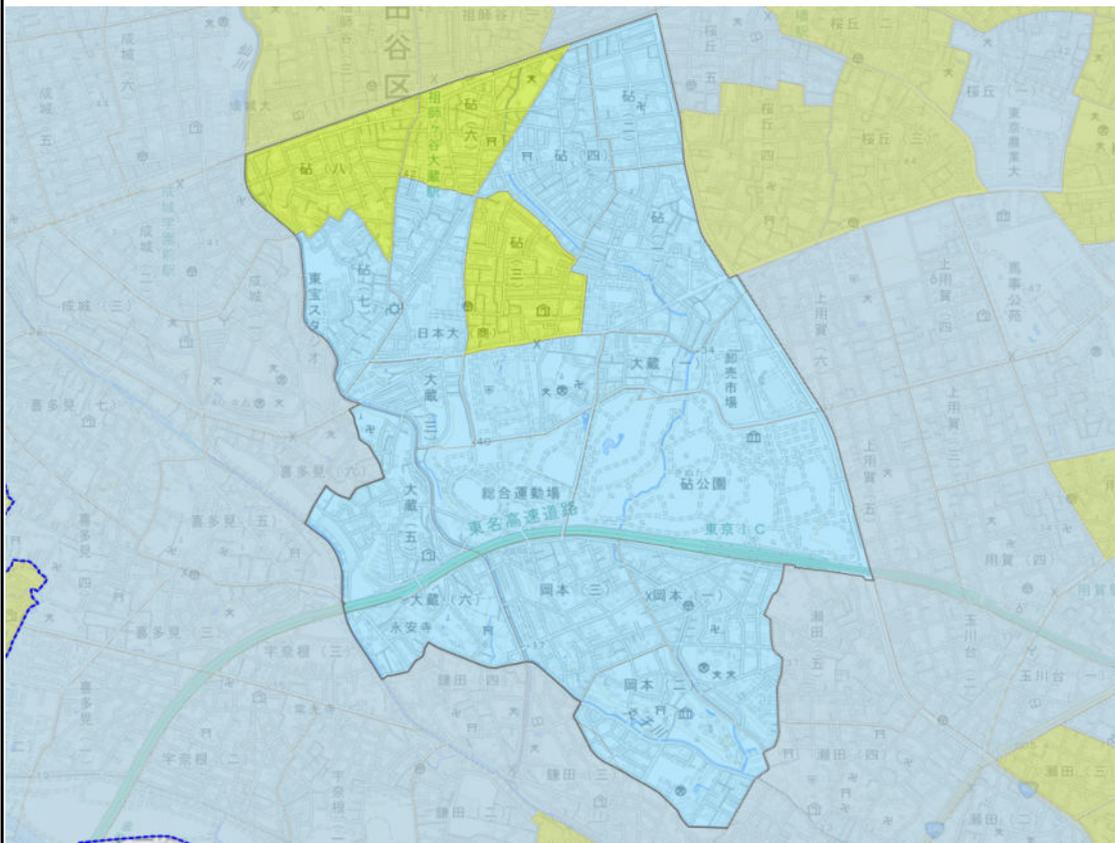
(2)社会特性

産業

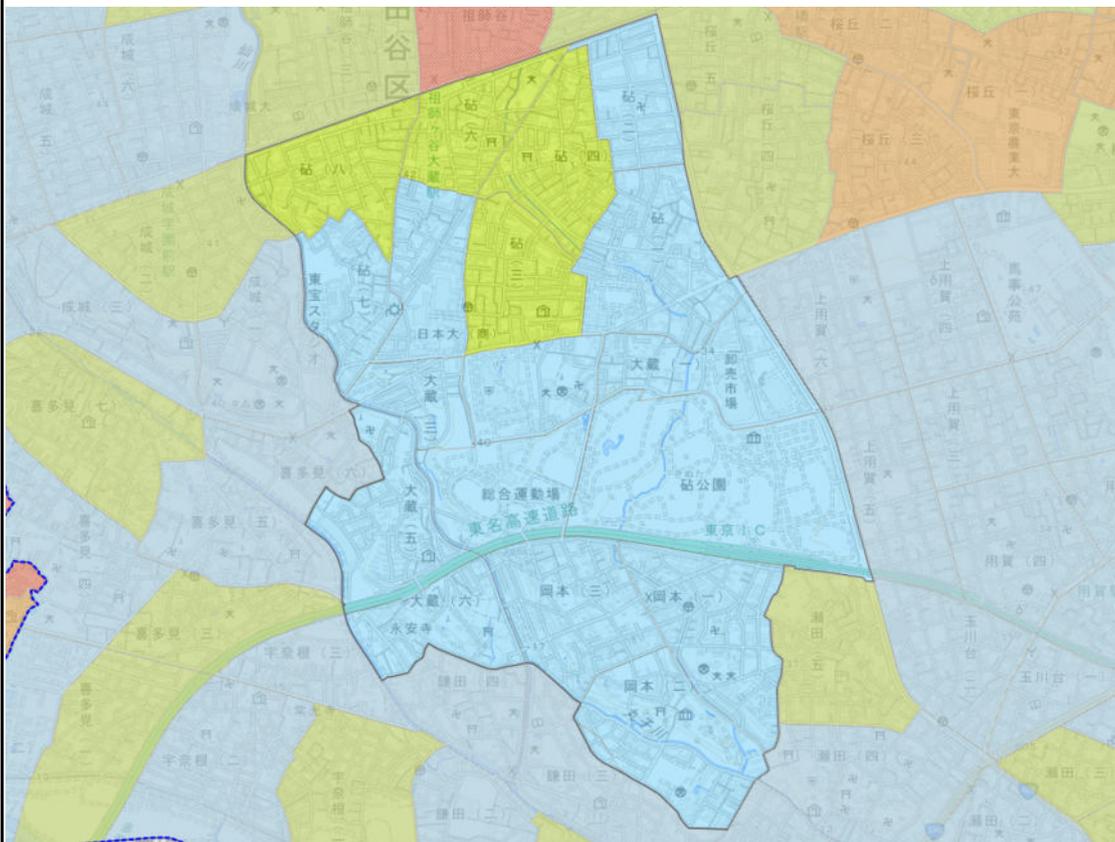


(3)地域危険度

建物倒壊危険度



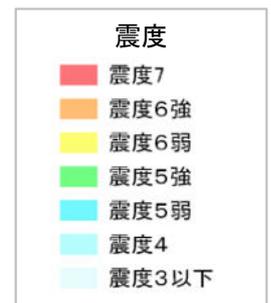
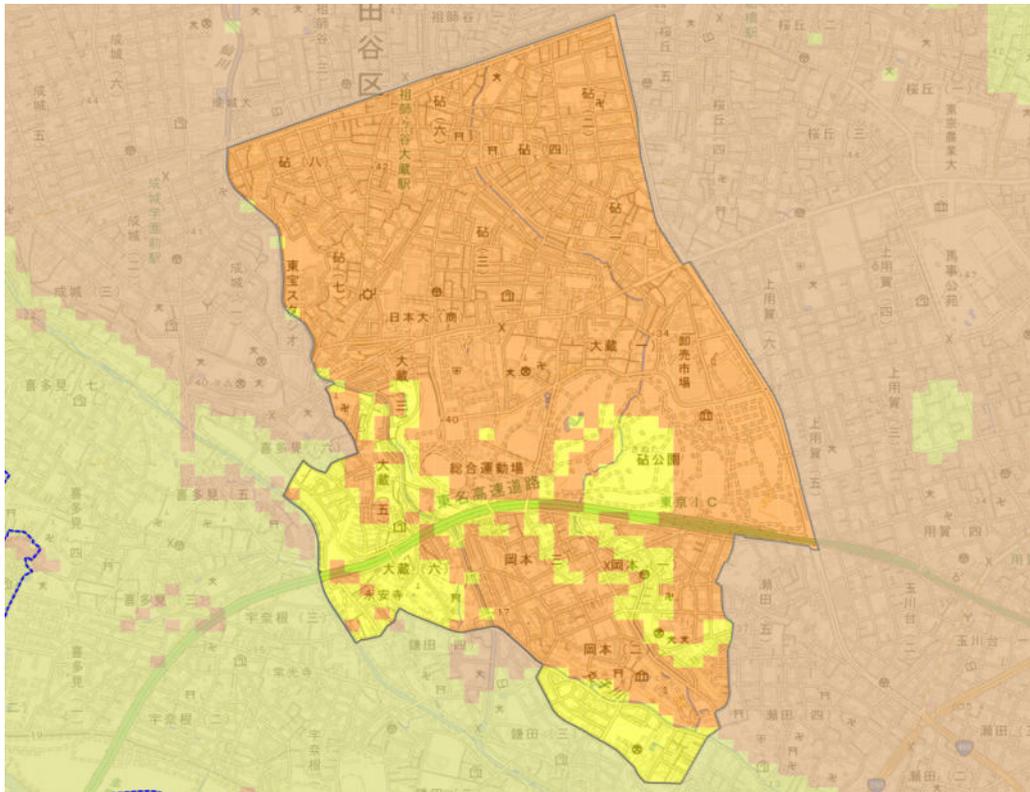
火災危険度



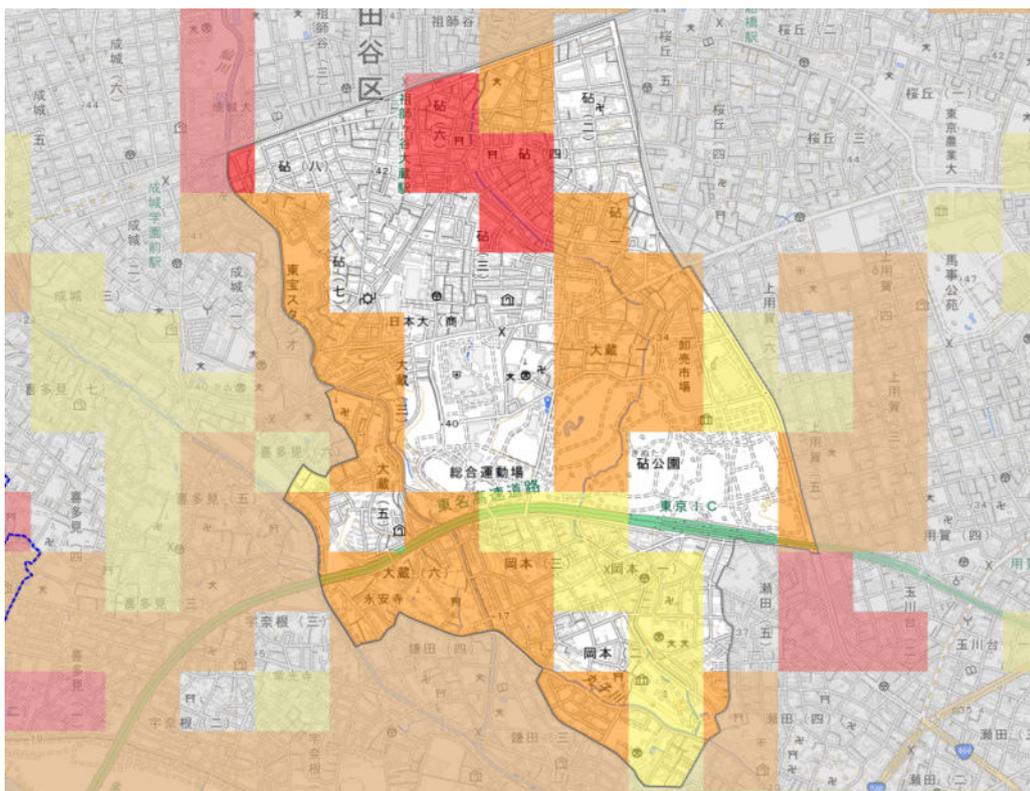
(4)被害想定

全壊棟数	400 棟	死者	31 人
半壊棟数	1,018 棟	負傷者	345 人
全焼棟数(倒壊建物含まず)	654 棟	うち重傷者	59 人

震度分布

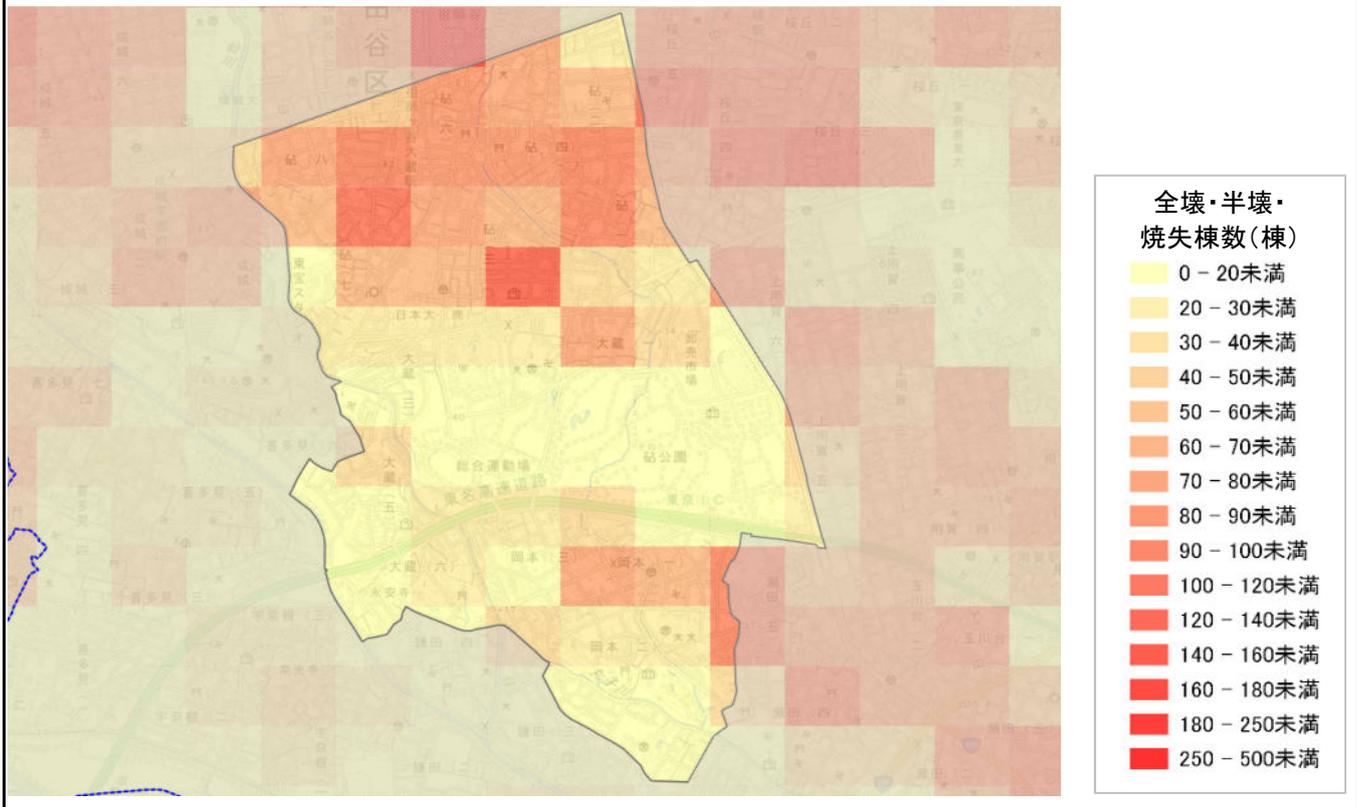


液状化分布



(4)被害想定

被害棟数分布

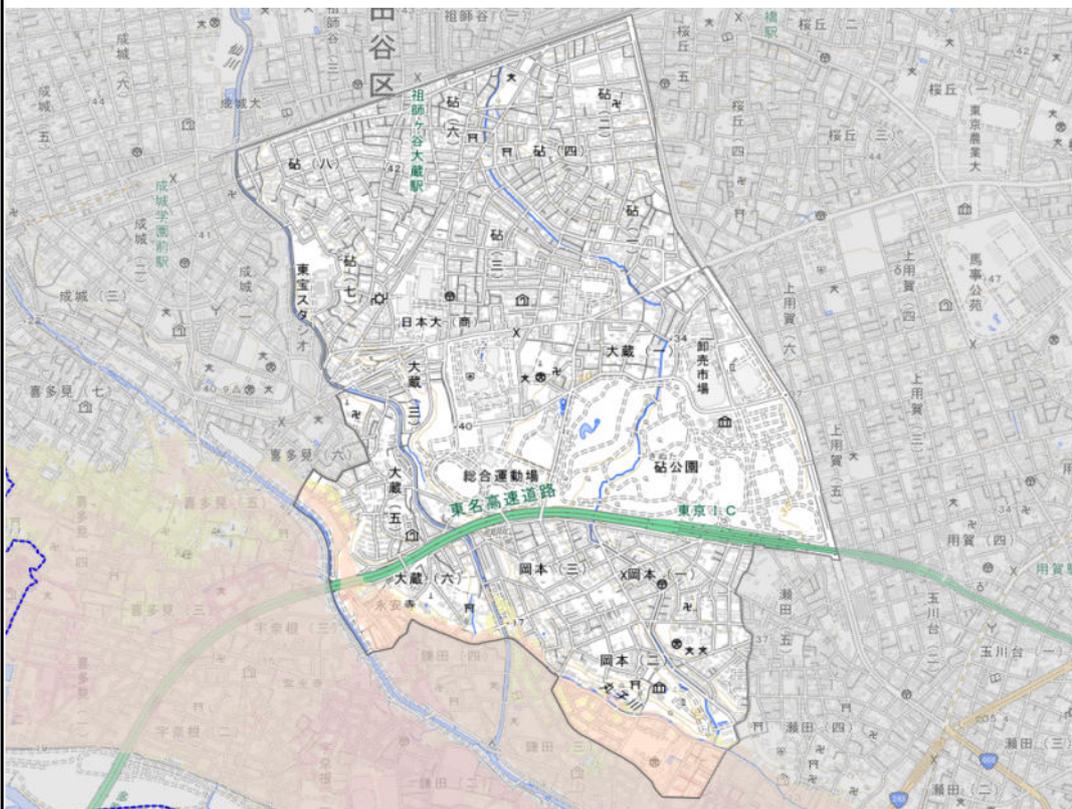


(4)被害想定

浸水想定(内水氾濫・中小河川洪水版)



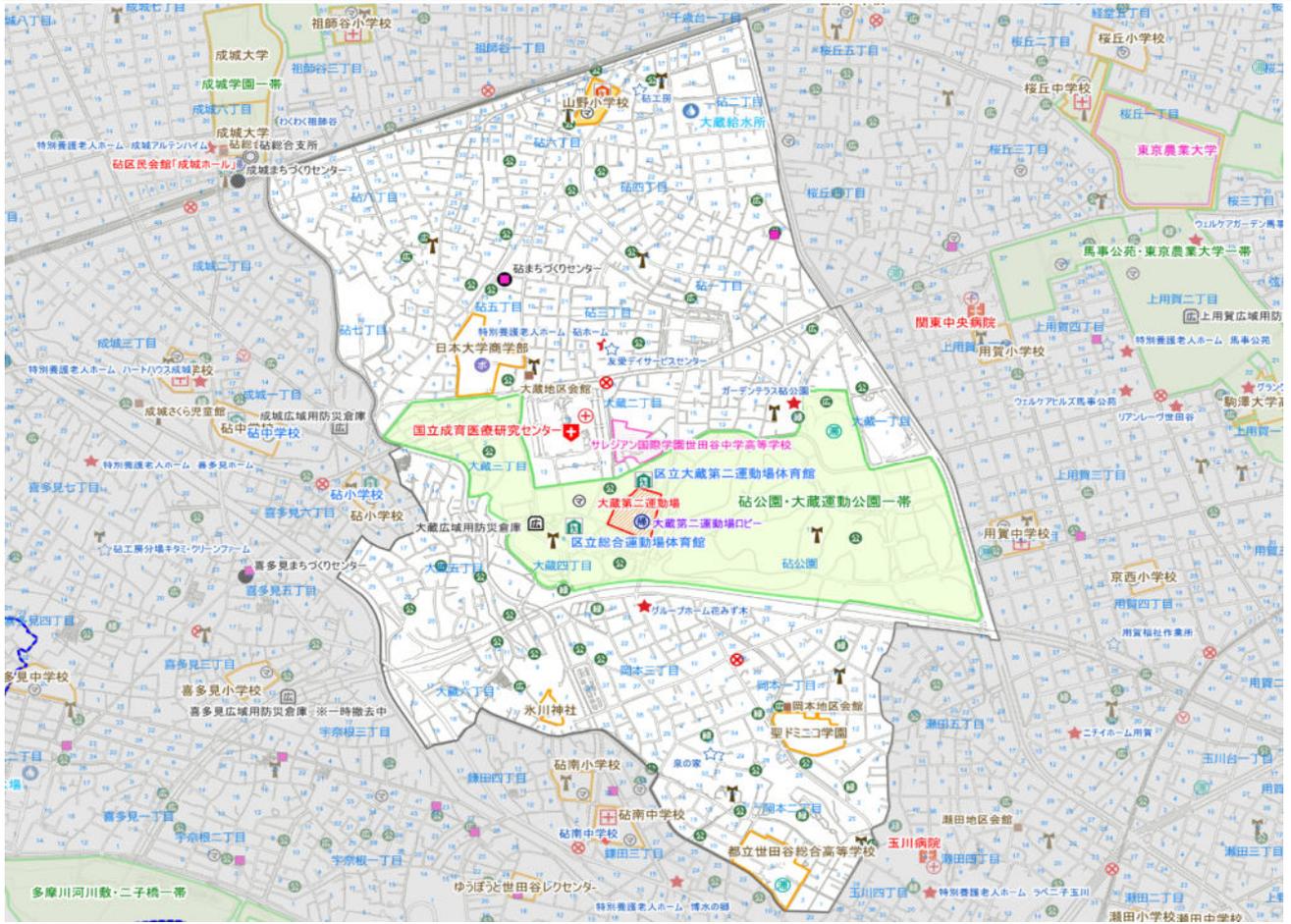
浸水想定(多摩川洪水版)



(5)防災資源一覧

広域避難場所	砧公園・大蔵運動公園一帯				
一時集合所	砧町公園 三峰公園 観音公園 砧まちづくりセンター駐車場敷地 富士見公園 山野小学校校庭 砧6丁目公園一帯 砧8丁目児童遊園 石井戸公会堂敷地 妙法寺境内 石井戸公園 横根稲荷神社境内 大蔵三丁目公園 大蔵氷川神社境内 聖ドミニコ学園グランド コヤマドライビングスクール成城校 岡本民家園 長圓寺駐車場 都立世田谷総合高校グランド 区立岡本地区会館広場 岡本の丘緑地				
指定避難所	砧小学校 山野小学校				
予備避難所	都立世田谷総合高等学校 日本大学商学部 聖ドミニコ学園※ 氷川神社※ (※水害時避難施設)				
福祉避難所(母子)	サレジアン国際学園世田谷中学高等学校				
福祉避難所(高齢者)	特別養護老人ホーム砧ホーム 養護老人ホーム友愛ホーム グループホーム花みず木 ガーデンテラス砧公園				
福祉避難所(障害者)	岡本福祉作業ホーム 砧工房 泉の家 友愛園 世田谷更生館 友愛デイサービスセンター コーポ友愛				
水害時避難所(第1次)	山野小学校	野川・仙川洪水時避難所			
水害時避難所(第2次)	区立総合運動場体育館 区立大蔵第二運動場体育館				
土砂災害時避難所	岡本地区会館 大蔵地区会館				
避難所救護所					
東京都災害拠点病院					
東京都災害拠点連携病院	国立成育医療研究センター				
緊急医療救護所	国立成育医療研究センター				
一時滞在施設	世田谷市場 世田谷総合高等学校				
一時避難施設(車中避難)				帰宅困難者支援施設	1 ヶ所
ボランティアマッチングセンター	日本大学商学部				
マンホールトイレ	3 ヶ所	防災行政無線塔	11 ヶ所	緑地	8 ヶ所
輸送拠点	大蔵第二運動場				
給水拠点	大蔵給水所				
広域用防災倉庫	大蔵広域用防災倉庫				
土のうステーション	砧まちづくりセンター 砧一丁目ろっかく公園				
警察署・交番	岡本駐在所 大蔵二丁目交番				
消防署・出張所					

(6)防災資源マップ



- | | |
|--------------------|-------------------|
| ● 総合支所 | ■ 広域避難場所 |
| ● まちづくりセンター | ■ 指定避難所 |
| ⊕ せたがや災害ボランティアセンター | ■ 予備避難所 |
| ⊕ 広域用防災倉庫 | ■ 福祉避難所(母子) |
| ● 給水拠点 | ★ 福祉避難所(高齢者) |
| ⌒ 防災行政無線塔 | ☆ 福祉避難所(障害者) |
| ⊕ マンホールトイレ | ⊕ 水害時避難所(第1次) |
| ■ 土のうステーション | ⊕ 水害時避難所(第2次) |
| ⊕ 警察署 | ◆ 野川・仙川洪水時避難所 |
| ⊕ 交番 | ■ 水害時避難所(狛江市) |
| ⊕ 消防署 | ■ 水害時避難所(調布市) |
| ⊕ 消防出張所 | ■ 土砂災害時避難所 |
| ⊕ 身近な広場 | ⊕ 避難所救護所 |
| ⊕ 公園 | ⊕ 東京都災害拠点病院 |
| ● 緑地 | ⊕ 東京都災害拠点連携病院 |
| | ⊕ 緊急医療救護所 |
| | ⊕ 一時滞在施設 |
| | ⊕ 帰宅困難者支援施設 |
| | ⊕ ボランティアマッチングセンター |
| | ⊕ 輸送拠点等 |
| | ⊕ 一時避難施設(車中避難) |

出典

世田谷区土砂災害ハザードマップ 令和6年7月発行

世田谷区の町丁目別人口と世帯数 令和6年3月1日

世田谷区の年齢別人口 令和6年3月1日

世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ(多摩川洪水版・内水氾濫・中小河川洪水版)令和6年7月発行

世田谷の土地利用2021 世田谷区土地利用現況調査

世田谷区GISオープンデータ

令和2年国勢調査による 東京都の昼間人口(従業地・通学地による人口)第11表

地域危険度一覧表(地震に関する地域危険度測定調査[第9回]) 令和4年9月

首都直下地震等による東京の被害想定 報告書 令和4年5月25日

世田谷区防災マップデータ 令和6年3月

(7)区民アンケート(砧地区)

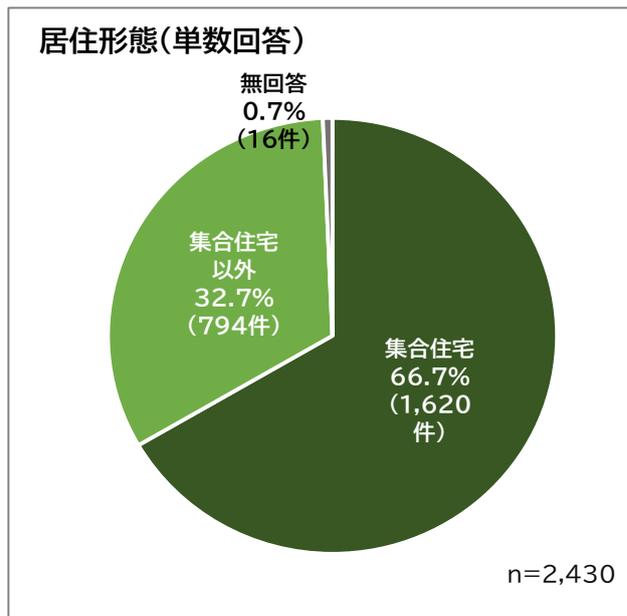
このアンケートは、今後の区内各地域及び地区における災害関連施策の検討や取組みに活用することを目的として、令和6年度に災害対策課が実施した「在宅避難支援事業(防災カタログギフト)」に合わせて行ったものである。

なお、以下に記載している回答集計結果は、カタログギフト申込者のうち、WEBで申し込みをした区民へ任意での回答を依頼し、令和6年8月9日から9月8日までに回収できた分である。

単純集計(1/5)

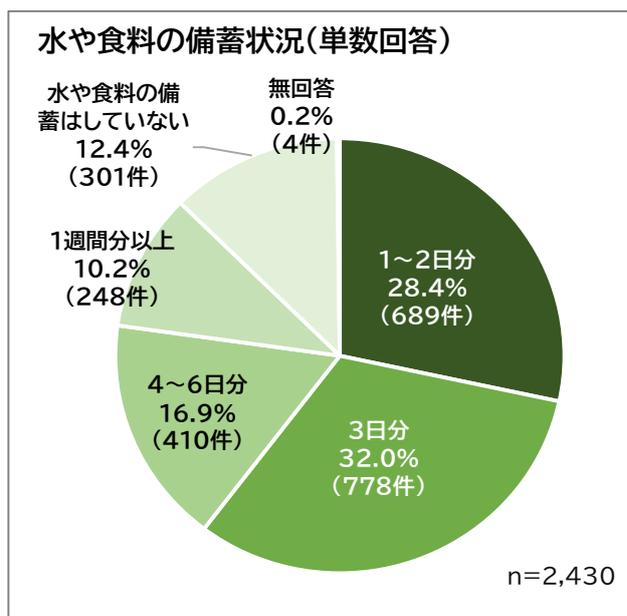
居住形態

【1】あなたはマンションなどの集合住宅にお住まいですか。



水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。

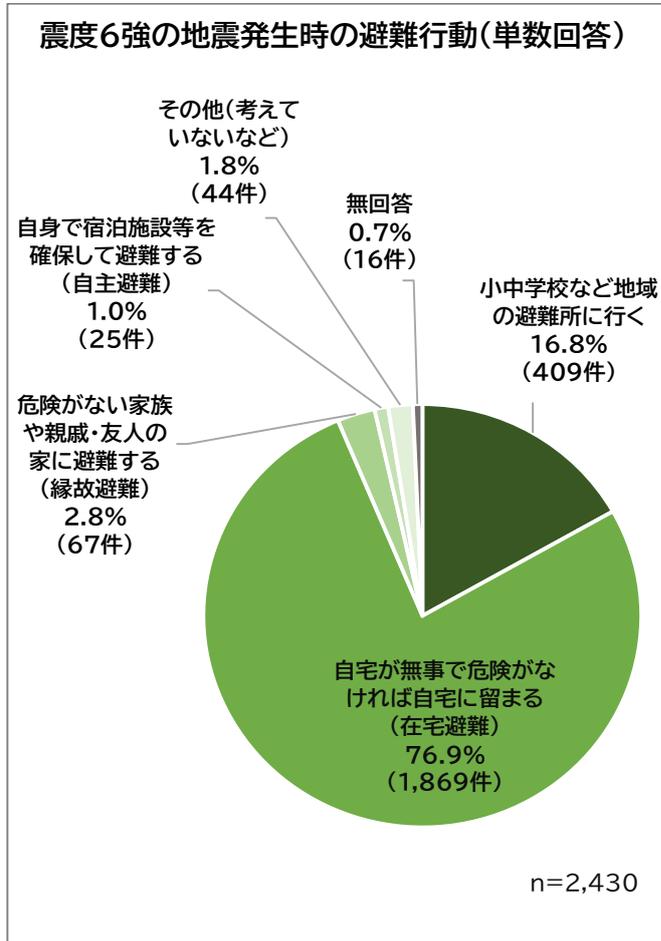


(7)区民アンケート(砧地区)

単純集計(2/5)

震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



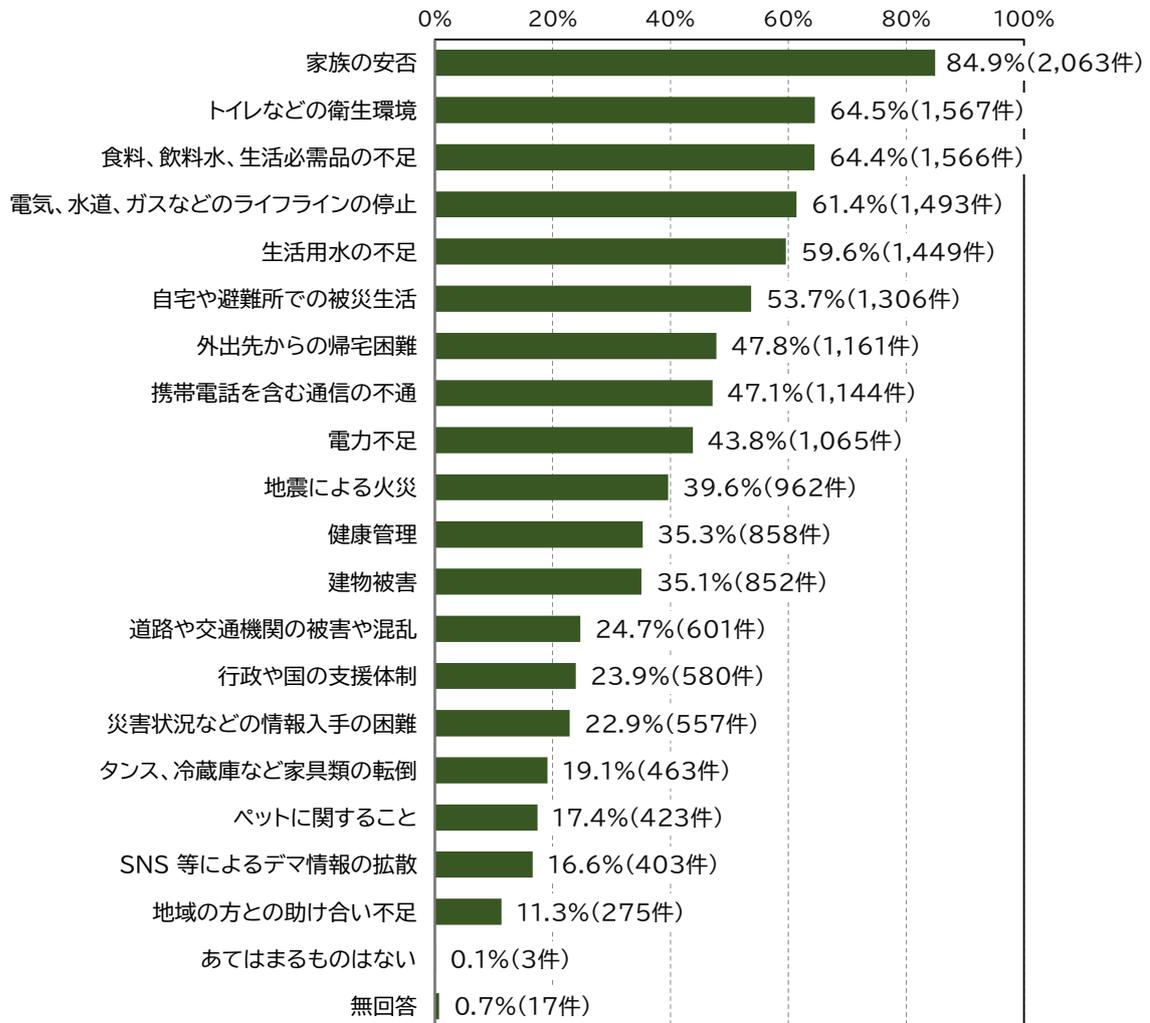
(7)区民アンケート(砧地区)

単純集計(3/5)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

災害時の心配ごと(複数回答)



n=2,430

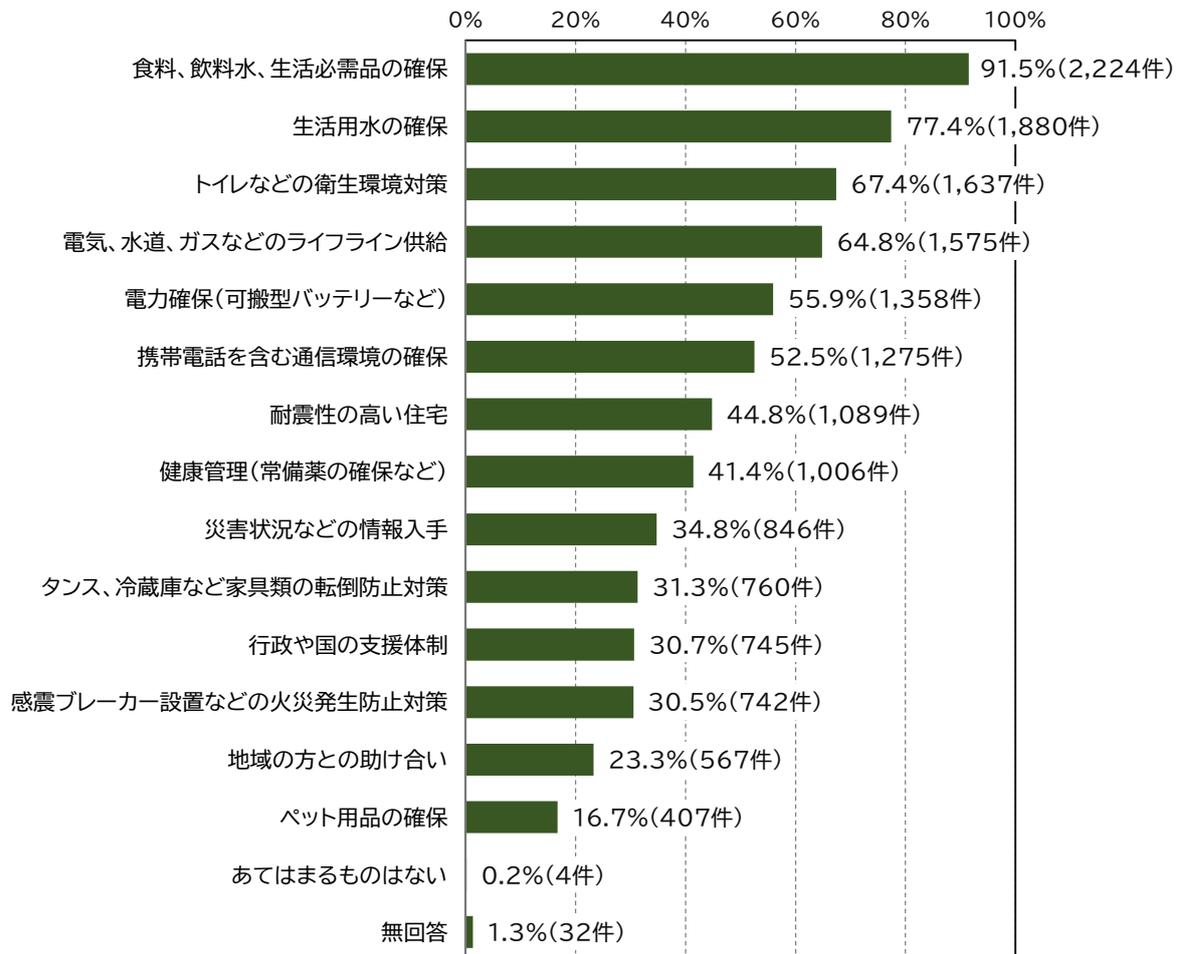
(7)区民アンケート(砧地区)

単純集計(4/5)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

在宅避難をするために必要だと思うこと(複数回答)



n=2,430

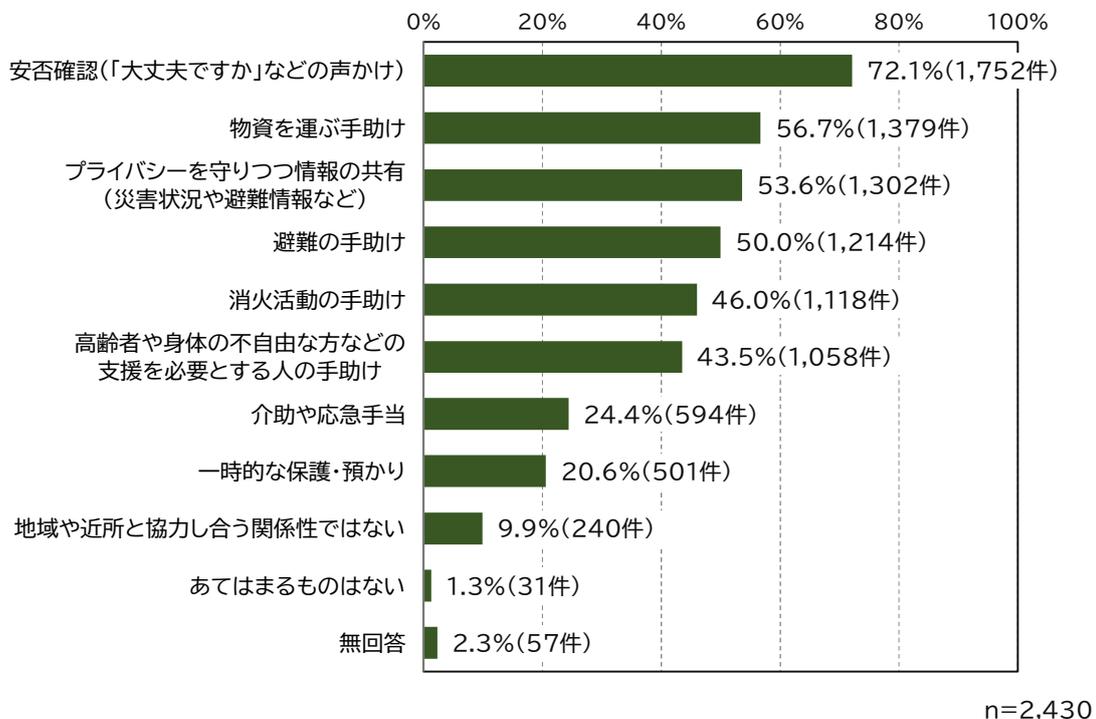
(7)区民アンケート(砧地区)

単純集計(5/5)

災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。

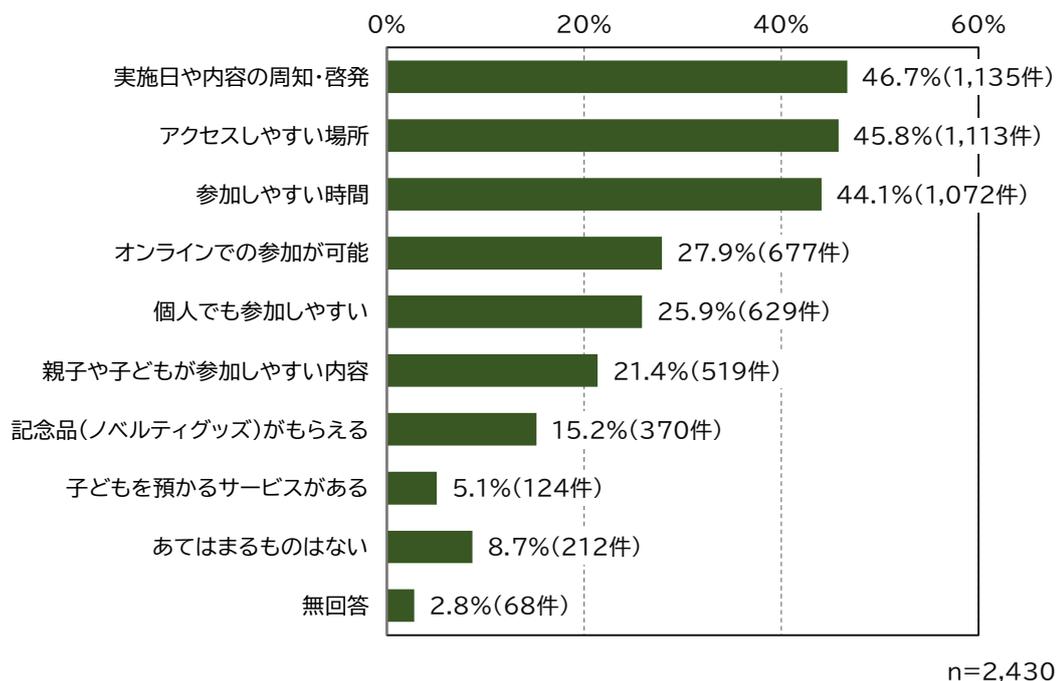
災害時にできる住民同士の支援(複数回答)



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加したいと思いますか。

防災訓練や防災教室への参加意向(複数回答)

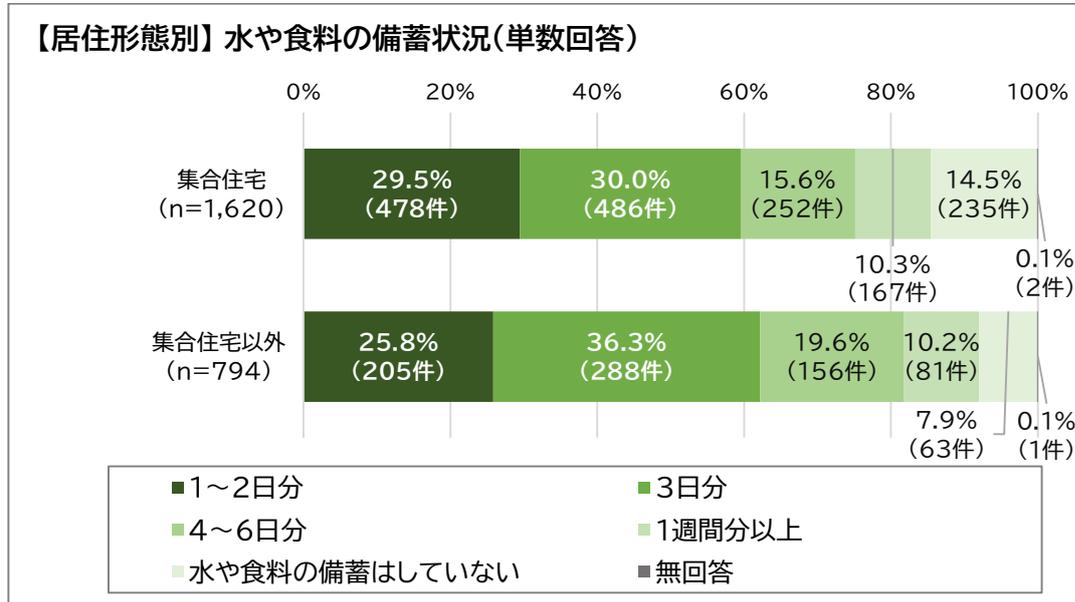


(7)区民アンケート(砧地区)

クロス集計(1/4)

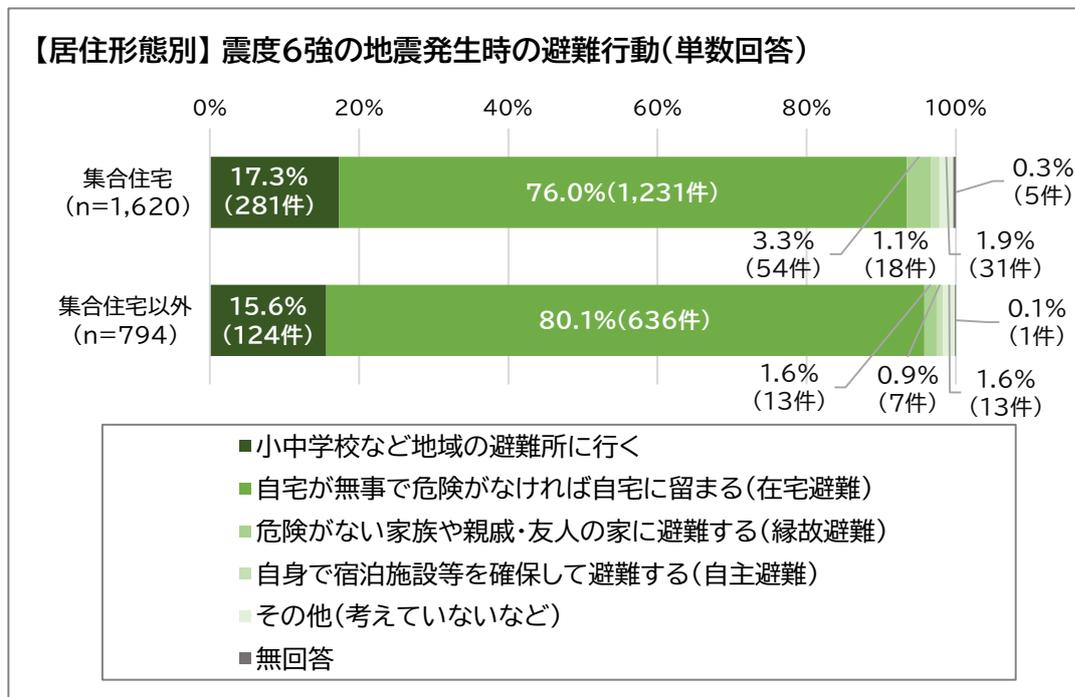
水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。



震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



(7)区民アンケート(砧地区)

クロス集計(2/4)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。



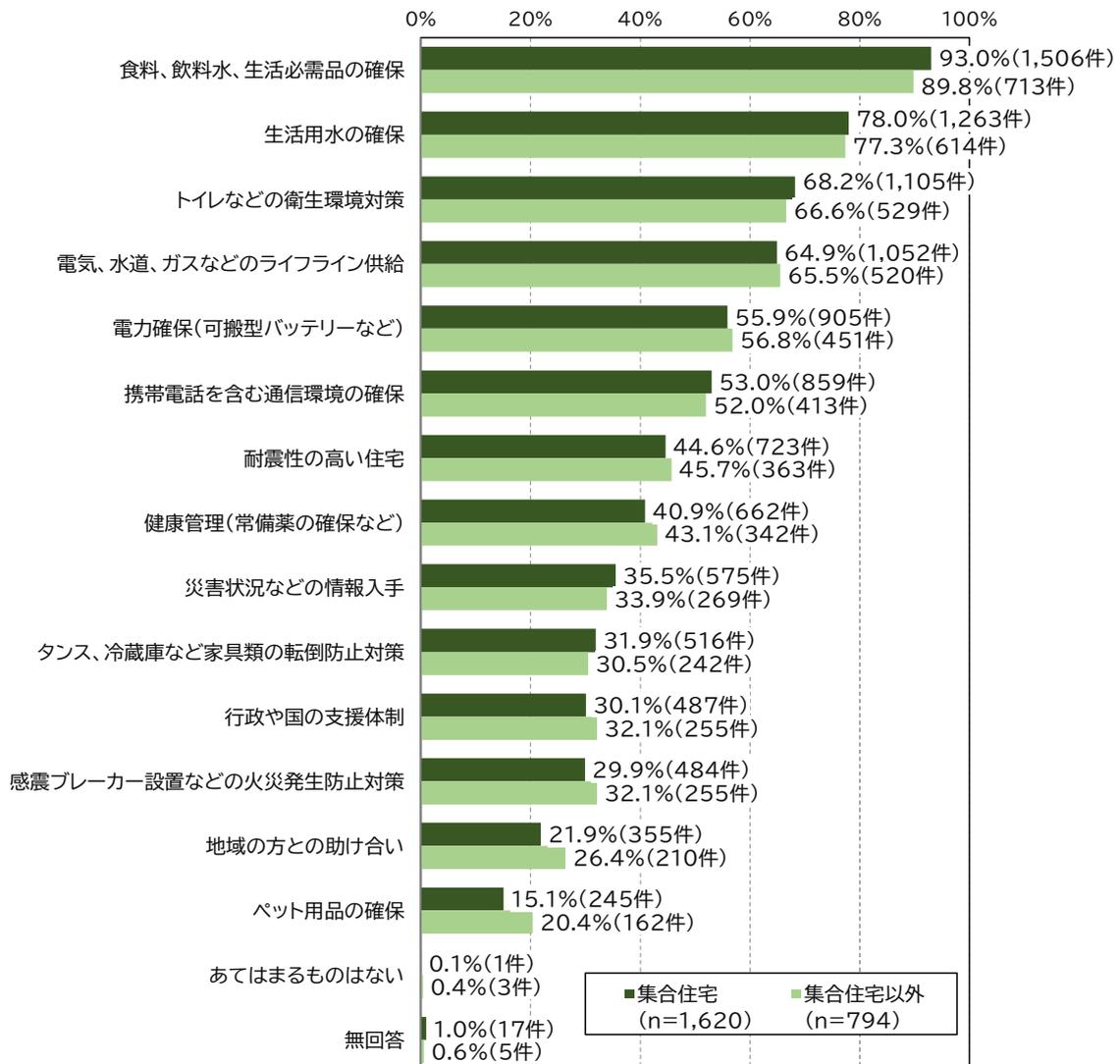
(7)区民アンケート(砧地区)

クロス集計(3/4)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

【居住形態別】在宅避難をするために必要だと思うこと(複数回答)

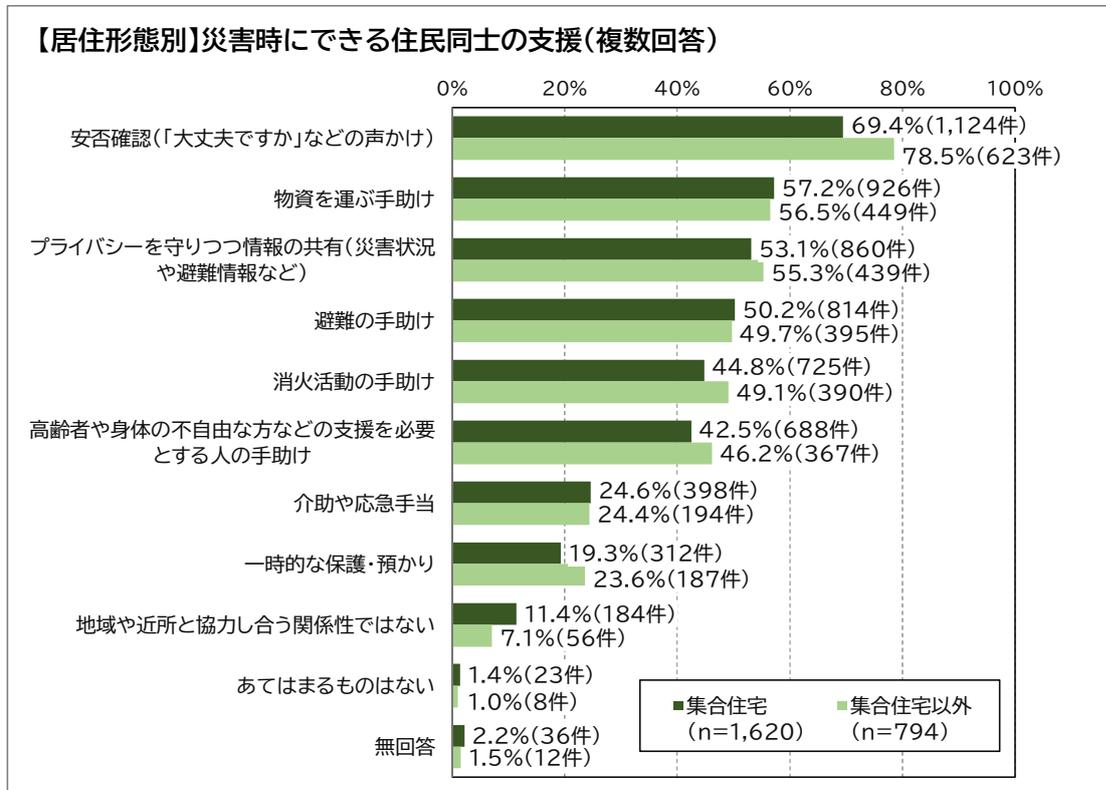


(7)区民アンケート(砧地区)

クロス集計(4/4)

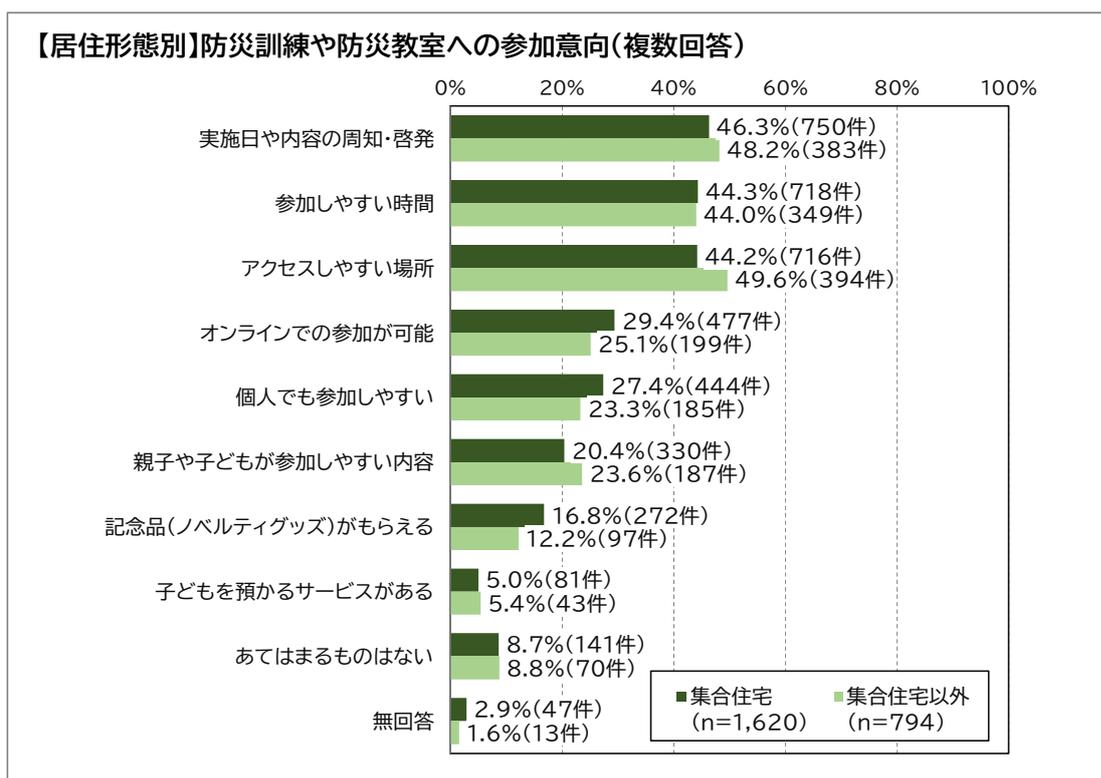
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。

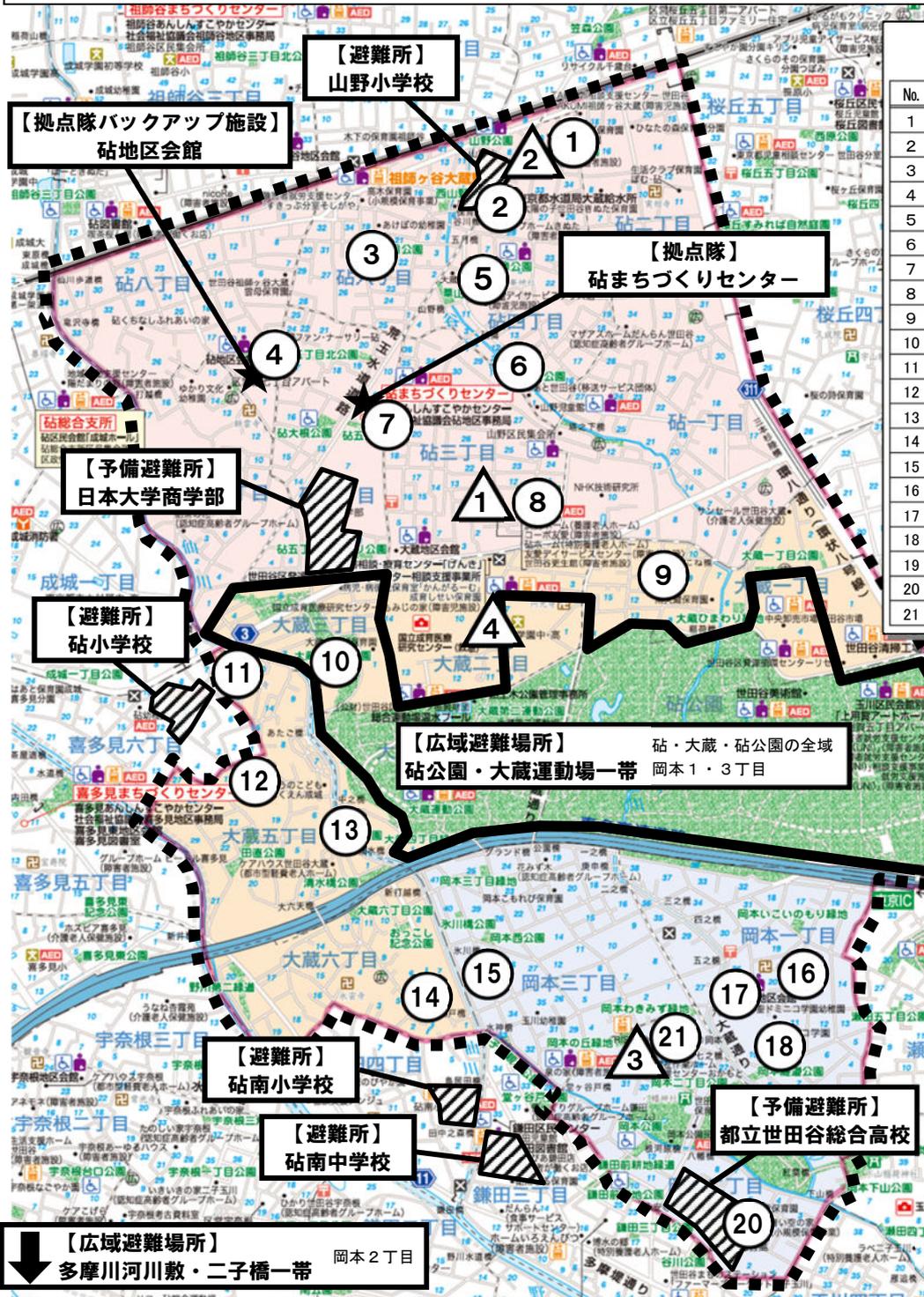


防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加したいと思いますか。



砧地区 一時集合所・広域避難場所・避難所・予備避難所一覧



一時集合所一覧

No.1~21 は上図の○の番号に対応

No.	避難所名	町会・自治会
1	富士見公園	
2	山野小学校校庭	法人格
3	砧6丁目公園一帯	砧町自治会
4	砧8丁目児童遊園	
5	三峰公園	
6	観音公園	砧町町会
7	砧まちづくりセンター駐車場敷地	
8	砧町公園	
9	横根稲荷神社	大蔵東部町会
10	大蔵三丁目公園	大蔵住宅自治会
11	妙法寺境内	
12	石井戸公会堂敷地	石井戸会
13	石井戸公園	
14	大蔵氷川神社	大蔵本村睦会
15	コヤマライディングスクール成城校	
16	長園寺駐車場	
17	岡本地区会館	岡本自治会
18	聖ドミニコ学園グランド	
19	岡本民家園	
20	都立世田谷総合高校	
21	岡本の丘緑地	

福祉避難所(高齢・障害)一覧

No.1~3 は上図の△の番号に対応

No.	避難所名
1	特別養護老人ホーム 砧ホーム
	養護老人ホーム 友愛ホーム
	友愛園
	世田谷更生館
	友愛デイサービスセンター
2	コボ友愛
	砧工房
3	岡本福祉作業ホーム
	泉の家

福祉避難所(母子)一覧

No.4 は上図の△の番号に対応

No.	避難所名
4	サレジアン国際学園世田谷 中学高等学校

避難所一覧

避難所名	避難所運営担当 砧地区町会・自治会	避難所運営担当 他地区町会・自治会	砧地区避難対象区域	他地区避難対象区域
山野小学校	砧町町会 法人格砧町自治会	千歳台睦町会【祖師谷】 千歳台南会【祖師谷】	砧1丁目1~5番、11~34番、砧2~8丁目全域	祖師谷1丁目1~5・18~21番、千歳台1丁目1~32・36~41番
砧小学校	石井戸会 大蔵東部町会 大蔵住宅自治会	喜多見上部自治会【喜多見】	砧1丁目3・6~10・13番、砧7丁目2番、大蔵1~5丁目全域、砧公園全域	成城1丁目1~5番、喜多見5丁目7~9番、喜多見6丁目全域
砧南小学校*	大蔵本村睦会	宇奈根町会【喜多見】 鎌田協和会【喜多見】	大蔵6丁目全域	宇奈根1丁目2~14・19~21・25~43番、宇奈根2~3丁目全域、鎌田3丁目14・27~35番、鎌田4丁目全域、
砧南中学校*	岡本自治会	鎌田南睦会【喜多見】	岡本1~3丁目全域	宇奈根1丁目1・15~18・22~24番、鎌田1~2丁目全域、鎌田3丁目1~13・15~26番、瀬田4丁目38~41番、瀬田5丁目6・9・28番

*砧南小学校・砧南中学校のメイン担当は喜多見拠点隊

予備避難所一覧

避難所名
日本大学商学部
都立世田谷総合高校

2 各団体の防災活動～現在の取組状況～

団体名	防災担当者数	防災に関する会議				防災活動、資機材配備等の実施				消火資機材の配備			
		実施している	実施していない	会議名	実施回数 (年間)	実施している	実施していない	配備している	配備していない	スタンドパイプ		D型ポンプ	
										数量	場所	数量	場所
砧町町会	5	○		砧町町会防災会議	6	○		○	10	富士見公園、観音公園、砧町公園、砧一丁目広場、三峰公園、草山公園、西山野公園、大根公園、山野公園、実相寺駐車場2丁目	1	三峰公園防災倉庫	
法人格砧町自治会	9	○		法人格砧町自治会防災部会 法人格砧町自治会理事会	2 4	○		○	1	法人格砧町自治会、砧8丁目児童遊園	1	砧8丁目児童遊園防災倉庫	
石井戸会	25		○		2	○		○	1	石井戸公園防災倉庫	1	石井戸公園防災倉庫	
大蔵住宅自治会	22 ～ 25		○	総合防災訓練	2	○		○	1	防災倉庫	1	防災倉庫	
大蔵東部町会	3	○		町会会議	2	○		○	2	集会所防災倉庫、横根稲荷神社内	1	横根稲荷神社防災倉庫	
大蔵本村睦会	10		○			○		○					
岡本自治会	5	○		防災訓練	1	○		○	2	岡本自治会倉庫、安養館	1	岡本自治会倉庫	
砧公園ヒミコマンション管理組合防災本部	8	○		定時理事会	1	○		○					
ヴェルレージュ世田谷砧防災本部	6	○			2	○		○					
砧1丁目AP防災部	8	○		理事会	4	○		○					

団体名	消火資機材の配備				防災訓練等の実施								防災マップ				
	消火器		その他		実施している	実施していない	防災訓練		救命救急講習会		その他		作成済	作成中	作成検討中	作成予定なし	
	数量	場所	名称	場所			回数	実施場所	回数	実施場所	訓練名称	実施場所					
砧町町会					○		4	観音公園、三峰公園、友愛十字会、砧一丁目広場(スタンドパイプ使用訓練)									○
法人格砧町自治会	2	玄関・台所			○		2	富士見公園、マザアスホームだんらん世田谷、砧8丁目児童遊園					○				
石井戸会					○		4	町内の公園、寺、小学校									○
大蔵住宅自治会	各戸 1	都公社で各戸設置			○		2	住宅内、砧小学校	2	住宅内訓練並びに消防署内			○				
大蔵東部町会	6	集会所防災倉庫			○		1	横根稻荷神社、集会所									○
大蔵本村睦会					○		1	砧南小学校					○				
岡本自治会					○		2	砧南中学校 岡本地区会館					○				
砧公園ヒミコマンション管理組合防災本部	28	共同廊下、EV、ホール、EV機械室他			○		2	マンション敷地内									○
ヴェルレージュ世田谷砧防災本部	12	集会室前、電気室、受水槽室前、エントランス、駐車場内(2)、EV電気室内(2)、駐車場前(4)			○		2	マンション敷地内									○
砧1丁目AP防災部		各フロアー			○		1	住宅敷地内	1	集会室							○

団体名	防災マップ							防災士等の数					災害時連携・協定 (区を除く)			
	掲載情報							防災士	把握していない	地域防災リーダー	把握していない	他団体との連携	協定締結	特になし	連携先・内容	協定先・内容
	一時集合所	広域避難場所	避難所	街路消火器	防火水槽	震災用井戸	消火栓									
砧町町会								4		0				○		友愛十字会
法人格砧町自治会	○	○	○	○	○	○	○	○		0			○		グループホーム砧	
石井戸会	○			○	○	○	○	○	○					○	石井戸公会堂	
大蔵住宅自治会	○			○	○		○			0	0				○	
大蔵東部町会					○		○				○				○	
大蔵本村睦会										○					○	
岡本自治会	○	○	○	○	○	○	○			○				○	泉会	
砧公園ヒミコマンション管理組合防災本部															○	
ヴェルレージュ世田谷砧防災本部										○					○	
砧1丁目AP防災部										○					○	

団体名	避難行動要 支援者協定			避難行動要支援者対策				連絡手段の確保			防災活動に関するマニュアル (避難所運営マニュアルを除く)				救出救助に係る 資機材の配備						
	締結している	検討中である	予定はない	日頃からの 見守り活動	避難行動 要支援者体験	その他	特に実施 していない	簡易無線	連絡網の 作成・整備	その他	策定済み	策定中	検討中	予定なし	名称	配備していない	配備している	リアカー	はしご	脚立	担架
砧町町会			○			友愛十字会と協力を して防災訓練を行なっ ている。		○	○				○			○	1		2		
法人格砧町自治会			○	○			○	○(役 員の み)	拡声器 3台		○					○	1		2	2	
石井戸会	○			○		対象者宅を 訪問予定		○					○			○	1				
大蔵住宅自治会	○			○			○						○			○	2	2	小3 大2	1	
大蔵東部町会			○				○	○				○				○	1	1	3	1	
大蔵本村睦会			○				○		○				○			○			3		
岡本自治会			○				○	○(役 員の み)					○			○	1				
砧公園ヒミコマン ション管理組合防災 本部		○							拡声器 3台			○				○			3		
ヴェルレージュ世田 谷砧防災本部			○				○					○				○			1		
砧1丁目AP防災部		○					○		拡声器 1台			○				○			○		

団体名	救出救助に係る資機材の配備											食糧等の備蓄						
	救急セット	ヘルメット	救助工具セット	パール	スコップ	手おの	のこぎり	ジャッキ	両口ハンマー	ツルハシ	その他	保管場所	備蓄していない	備蓄している	アルファ米	ビスケット・乾パン	おかゆ	飲料水
砧町町会	2	20	1	1	5	1	1	1	1			町会事務所、三峰公園	○					
法人格砧町自治会	1	10	1										○		300		180	
石井戸会		6		1	1				1			石井戸公園防災倉庫	○		489	100		
大蔵住宅自治会	2	15		5	9		1	1	4	4	バケツ15、コーン赤6、ビニールシート5、チェーンソー1、消火器7(ほか各戸に配備あり)、台車大1小1、毛布6、釜戸セット2、防災用テント大1小3他色々あり	防災倉庫	○		○		173	
大蔵東部町会	1	80	1	1	1		1	1	1			防災倉庫	○		○	○	250ℓ	
大蔵本村睦会	2	10			2	1	2					氷川神社倉庫	○					
岡本自治会	1												○	100	100	50		
砧公園ヒミコマンション管理組合防災本部		18		3	6		1						○	75	106		9.5	
ヴェルレージュ世田谷砧防災本部	1			1	7		1	1	1		なた1本、ボルトクリッパー1本、防水シート2枚	防災倉庫	○					
砧1丁目AP防災部		6		1	1	1	1	1	1		救急シート、三角巾	防災倉庫(3号棟)	○					

団体名	食糧等の備蓄											
	缶詰類	レトルト食品類	カセットコンロ	災害用食料 その他	非常用トイレ	照明	発電機	蓄電池セット	給水タンク	その他	保管場所	備蓄品配布先
砧町町会						1	2	3			砧町町会倉庫	
法人格砧町自治会			2		500		2					
石井戸会						4		2	サバイバルブランケット74枚	石井戸公園防災倉庫	石井戸会会員世帯	
大蔵住宅自治会			1			5	2			防災倉庫	防災訓練の際、参加者に配る	
大蔵東部町会			2			3	1	2	防災用かまどセット2基	集会所、防災倉庫、社務所倉庫		
大蔵本村睦会						1	1		防災シート	氷川神社倉庫		
岡本自治会	50	50	2			2	2	2	毛布70枚	安養館等		
砧公園ヒミコマンション管理組合防災本部												
ヴェルレージュ世田谷砧防災本部			1		1	19	1		カセットボンベ36本	防災倉庫		
砧1丁目AP防災部					1							

団体名	その他の防災活動
砧町町会	
法人格砧町自治会	
石井戸会	
大蔵住宅自治会	
大蔵東部町会	毎週月曜日カチカチの会による町内見回りを実施している。参加者15～20名。※各班別に指定エリアをカチンコにて巡回。
大蔵本村睦会	
岡本自治会	連絡網を重視し、トランシーバーを6台購入済。
砧公園ヒミコマンション管理組合防災本部	せたがや便利帳にある指定避難所(砧小学校)までの距離が当マンションより1.5kmあり、災害発生時には遠い。一方、当マンションの小学生が通学用の用賀小学校までは500mであり、指定避難所の変更(砧小学校→用賀小学校)を区と打ち合わせたく準備中です。
ヴェルレージュ世田谷砧防災本部	
砧1丁目AP防災部	砧町町会防災訓練へ参加

3. 砧地区の課題と取り組み

課題1 共通課題

■ 発災直後～72 時間:時系列に考えた課題

課題総括表

大項目					
1 安全の確保					
① 自分自身	→大きな揺れが治まるまでの避難行動				
② 自宅	→ガス・電気の処理	→救出・救助活動	→灯りの確保	→耐震性の確保	
③ ご近所					
④ 初期消火行動(操作)	→家庭用消火器	→スタンドパイプ	→D 級ポンプ	→消防水利の把握	
⑤ 防災情報の周知	→回覧	→掲示板	→防災訓練	→マンション居住者	
2 避難行動					
① 自宅～一時集合所まで	→速やかな判断力		→ルートの把握		
② 一時集合所～広域避難場所まで	→リーダーの役割		→秩序の保持		
③ 大規模施設	→施設が持つ役割の把握				
3 安否確認					
① 家族	→連絡手段の確立				
② ご近所	→日常的なコミュニケーション				
③ 町会・自治会	→確認方法	→協力体制			
④ 学校・施設	→情報発信・連絡手段		→保護者からの確認方法		
⑤ 要援護者	→該当者の把握	→確認方法	→自分で救助を呼ぶ方法(笛など)の周知		
4 避難所・避難生活					
① 情報管理・把握	→避難者情報	→在宅避難者情報	→情報の蓄積	→拠点隊や地域本部との連携	
② 避難場所数の拡大	→避難場所の確保	→周知			
③ 避難者の活用	→マンパワーの確保		→避難所の秩序の保持		

大項目1 安全の確保

中項目	
① 自分自身	→大きな揺れが治まるまでの避難行動 ●自分自身がケガをしたら、家族やご近所の人を助けることができない。
②③ 自宅・ご近所	→救出・救助活動 ●隣近所での協力が必要⇒向こう三軒両隣による救助活動 ●高齢者・障害者などの救助方法をどうするか。 →灯りの確保 ●発災の時間帯によっては灯りがなければ話にならない。 →ガス・電気の処理 ●家屋密集地では一度火災が発生すると、瞬く間に延焼被害に発展する危険性がある。 →耐震性の確保 ●まずは自宅が倒壊しないよう、耐震化を図る。⇒耐震診断・耐震支援制度等の活用
④ 初期消火行動(操作)	→家庭用消火器 →スタンドパイプ →D級ポンプ →消防水利の把握 ●正しく操作できる人を増やすことが必要
⑤ 防災情報の周知	→回覧板 ●町会・自治会に加入していないと回ってこないため、未加入者は情報を得られない。 →掲示板・広報板 ●設置場所を通らないと目に入らない。 →防災訓練 ●参加した人に防災情報を周知することができるが、どうやって参加者を増やすかが問題。

大項目2 避難行動

中項目

- ① 自宅から一時集合所まで
 - 速やかな判断力
 - 防災無線塔の放送等、避難勧告等が聞こえづらい。⇒逃げ遅れる人をなくす
 - ルートの把握
 - 安全なルートを調べておく。
 - 危険箇所を把握しておく。
 - 情報収集
 - 避難途中でルート上の危険情報を集め、次の避難行動(～広域避難場所)の際の判断材料にする。
 - 情報を一元化し、避難行動の際の判断材料にする。
 - 避難所にも提供できる形で管理したい。
- ② 一時集合所から広域避難場所まで
 - リーダーの役割
 - 避難者を混乱に陥らせないため、次の行動を的確に判断できる人材が必要
 - 発災時の滞在先により、一時集合所に来られない場合のため、複数の人材が必要
 - ルートの把握
 - 被害状況に応じ、より安全なルートで辿り着くことが必要
 - 秩序の保持
 - 災害時のルールを知らない人(例:町会・自治会未加入者等)に秩序を荒らされる恐れがある。
- ③ 大規模施設
 - 施設が持つ役割の把握
 - 行政との協定内容により、その施設が持っている役割や受入れの条件等が決められている場合がある。
 - ただ闇雲に逃げ込んでも、施設側が受入れられない可能性がある。

大項目3 安否確認

中項目

- ①② 家族・ご近所
 - 連絡手段の確立
 - 家族内、ご近所同士で安否が確認できる手段が必要
 - 日常的なコミュニケーション
 - お互いを知らないようでは助け合えない。
 - 顔が見える交流が減っている。
- ③ 町会・自治会
 - 確認方法
 - 広範囲にわたる確認をするには大変な負担・労力がかかる。
 - 協力体制
 - より効率的に実施できる体制が必要
- ④ 学校・施設
 - 情報発信・連絡手段
 - 保護者が子ども・施設利用者の安否の現況を入手できる手段が必要
 - 保護者からの確認方法
 - アドレス未登録の家庭など、施設側からの発信をキャッチできない場合の確認方法も必要
- ⑤ 要援護者
 - 該当者の把握
 - 救助の際に、誰がどのような支援を必要としているのかを把握することが必要
 - 確認方法
 - 日大生との連携方法などをより具体化することが必要
 - 自分で救助を呼ぶ方法
 - 救助の手が届くよう、要援護者からの発信方法が必要

大項目4 避難所・避難生活

中項目

- ① 情報管理・把握
 - 避難者情報
 - 在宅避難者情報
 - 拠点隊や地域本部との連携
 - 情報の蓄積
 - スムーズな避難所運営に繋げたい。
- ② 避難場所数の拡大
 - 避難場所の確保
 - 避難所だけでは不足
 - 周知
 - 地域住民に避難可能な場所を周知しておくことが重要
- ③ 避難者の活用
 - マンパワーの確保
 - 避難所運営本部だけでは対応しきれない可能性がある。
 - 発災の時間帯によっては、力のある人材が勤務先において避難所に来られない場合も想定する必要がある。
 - 避難所の秩序の保持
 - 声の大きい人に避難所の秩序を乱されてはいけない。

■平常時：発災直後～72時間の課題を踏まえた対策(備え)

課題総括表

大項目

1 安全確保への備え

① 自分自身	→避難行動パターンを覚える			
② 自宅	→自宅内の安全化	→出入口・灯りの点検		
③ ご近所	→日頃のコミュニケーション		→灯りの確保	
④ 初期消火行動	→各種消火機器の操作方法の習得		→消防水利の把握	
⑤ 防災情報の周知	→回覧	→掲示板	→防災訓練	→マンション居住者

2 避難行動の備え

① 自宅～一時集合所まで	→避難の基準を決めておく	→ルート of 把握	→情報収集
② 一時集合所～広域避難場所まで	→リーダーの役割		→ルール作り
③ 大規模施設	→施設が持つ役割の把握		

3 安否確認の備え

① 家族	→連絡手段の確立			
② ご近所	→日常的なコミュニケーション			
③ 町会・自治会	→確認方法	→協力体制	→役員の高齢化	→加入率の衰退
④ 学校・施設	→情報発信・連絡手段		→保護者からの確認方法	
⑤ 要援護者	→該当者の把握	→情報の蓄積	→自分で救助を呼ぶ方法	

4 避難所・避難生活の備え

① 情報管理・把握	→避難者情報	→情報の蓄積	→拠点隊や地域本部との連携
② 避難場所数の拡大	→避難場所の確保	→周知	
③ 避難者の活用	→マンパワーの確保		
④ 備蓄の確保	→在宅避難者	→団体単位	→配分方法
⑤ 多くの人に訓練に参加してもらう	→広報	→速やかな避難行動	
⑥ 組織力の強化	→役割の明確化	→いつでも誰でも参画できる体制づくり	
⑦ 避難所の役割を知ってもらう	→生活の不便さ	→ルールやマナー	

大項目1 安全確保への備え

中項目
① 自分自身
→避難行動パターンを覚える
●自宅内での危険を回避するための行動パターンを確立しておく。
●家族で話し合っておく。
② 自宅
→自宅の安全化
●家族でガス・電気の処理の徹底⇒ガスの元栓を締めること、電気のブレーカーを落とし通電火災を防ぐこと
●自宅内の危険箇所をチェックしておく⇒家具転倒防止、ガラス飛散防止、建物の耐震補強など
→出入口・灯りの確保
●避難経路を確保するため、出入口を開けておくことの徹底
●夜間の発災に備え、灯りの点検(懐中電灯など)
③ ご近所
→日頃のコミュニケーション
●挨拶や会話など、発災時のスムーズな救助活動に繋がる関係を構築しておく
→灯りの確保
●近隣の外灯の把握・チェック(自家発電、エネルギー備蓄可能なものかどうか)
④ 初期消火行動(操作)
→各種消火機器の操作方法の習得
●家庭用消火器、スタンドパイプ、D級ポンプなど、防災訓練等に参加し使えるようにしておく。
→消防水利の把握
●どこに消火栓があるのか、防災訓練やマップなどで確認しておく。
⑤ 防災情報の周知
→回覧板
→掲示板
→防災訓練
→マンション居住者
●集合住宅入居者の把握ができない。
●顔の見える交流が必要

大項目2 避難行動の備え

中項目
① 自宅から一時集合所まで
→避難の基準を決めておく
●身の危険を感じたら避難行動をとる。
→避難用持ち出し物品の準備
●必要なものを確認しておく。
→ルートの把握
●安全なルートを調べておく。
●危険箇所を把握しておく。
→情報共有のためのツール
●到着までに得た情報を整理するためのフォーマットを用意する。
② 一時集合所から広域避難場所まで
→リーダーの役割
●リーダーとして動ける人を決めておく(来れない時の為に複数がよい)
●避難者を混乱に陥らせないため、次の行動を的確に判断できるようにする。
→ルートの把握
●安全なルートを調べておく
●危険箇所を把握しておく。
●街路灯や危険箇所、安全な場所等を網羅したマップを作成し周知する
→ルール作り
●災害時のルールを知らない人(例:町会・自治会未加入者等)に秩序を荒らされないよう、事前の周知が必要。
③ 大規模施設
→施設が持つ役割の把握
●正しく把握し地域住民に周知する必要がある。
※大蔵運動場体育館(遺体収容所)、大蔵第二運動場ロビー(帰宅困難者用施設)など

大項目3 安否確認の備え

中項目

- ①② 家族・ご近所
 - 連絡手段の確立
 - 災害用伝言ダイヤル「171」等による伝言サービスの活用
 - 日常的なコミュニケーション
 - 町会・自治会、避難所等で実施する防災訓練への参加
 - 地域イベントへの参加
- ③ 町会・自治会
 - 確認方法
 - 班長や組長単位に細分化し、狭い範囲(可能なレベル)での方法を考える。
 - 協力体制
 - 向こう三軒両隣による確認体制の構築
- ④ 学校・施設
 - 情報の発信・連絡手段
 - アドレス登録した家庭向けに一斉送信(学校)
 - 保護者からの確認方法
 - 保護者が速やかに状況を確認できるようにする。
- ⑤ 要援護者
 - 該当者の把握
 - 災害時要援護者名簿を活用する。
 - 確認方法の確立
 - 役割分担しておく。
 - 日大との連携体制を具体化しておく。
 - 自分で救助を呼ぶ方法
 - 笛等で居場所を伝えるなど、有効な方法を周知しておく。

大項目4 避難所・避難生活の備え

中項目

- ① 情報管理・把握
 - 避難者情報
 - 在宅避難者情報
 - 拠点隊や地域本部との連携
 - 登録する仕組みを作っておく
 - 防災無線での交信訓練をしておく。
 - 防災無線混線時の方法を決めておく。
 - 情報の蓄積
 - パソコンでの管理が不能な場合、紙ベースでの管理方法を決めておく。
- ② 避難場所数の拡大
 - 避難場所の確保
 - モデルハウス、NHK 技研、駅、寺社など避難可能な場所を増やしておく。
 - 周知
 - 地域住民に避難可能な場所を周知しておく。
- ③ 避難者の活用
 - マンパワーの確保
 - 避難所に無事に避難してきた人にも運営に協力してもらうためのルールづくり
 - 中学生の力は非常に頼りになる。⇒教育の場でも、子ども達が「何か手伝おう！」という気持ちを育てる。
- ④ 備蓄の確保
 - 在宅避難者
 - 各家庭には多めの備蓄をしておく。
 - 日常的に使っているような缶詰やレトルトフーズ等のストックを活用
 - 団体単位
 - 飲める水の確保⇒震災時用の井戸の把握・水質管理
 - 配分方法
 - 優先順位や配分方法を決めておく。
- ⑤ 多くの人に参加してもらう
 - 広報
 - PR強化が必要
 - 速やかな避難行動
 - 訓練参加により、スムーズな運営に繋がる。
- ⑥ 組織力の強化
 - 役割の明確化
 - いつでも誰でも参画できる組織づくり
 - 昼間・夜間問わず活動開始できるようにしておく
- ⑦ 避難所の役割を知ってもらう
 - 生活の不便さ
 - 学校に泊まる不便さを理解してもらうことで、自宅での備えの強化に繋げる。
 - ルールやマナー
 - 不便な中でも避難者が生活していくためのルールやマナーを心得ってもらう。

課題2 地域特性からの課題

■各エリア共通もしくは各エリアにまたがる課題

1 新型コロナウイルス感染拡大防止にかかる避難方法について

- ① 在宅避難や縁故避難など避難所に行かなくて済む避難方法の呼びかけ
- ② 避難所での感染拡大防止への協力のよびかけ

2 日大との連携体制

- ① 体制の具体化⇒学校側の体制とのすり合わせが必要
- ② 発災時間帯による連携内容の整理が必要

■砧エリアの課題

1 家屋密集地の火災

- ① 危険箇所の把握・周知が必要
- ② 狭あい道路・複雑な道路の把握・周知が必要
- ③ 初期消火の強化が必要

2 防災情報・避難行動の周知

- ① 防災訓練参加者を増やす工夫が必要
- ② 町会・自治会未加入者へのアプローチが必要
- ③ 集合住宅へのアプローチが必要

3 避難場所の確保

- ① 避難所が山野小だけでは足りない。避難可能な場所を増やすことが必要
- ② 民間事業者(モデルハウス)との避難所協定⇒ルールづくりが必要

■大蔵エリアの課題

1 避難場所の確保

- ① 避難所(砧小)から遠いエリアの住民の避難行動のルール作りが必要
- ② 横根稻荷神社以外にも一時避難場所を増やすことが必要

2 大規模施設との関係性

- ① 行政との協定等により、施設が担うべき役割について、正しい周知が必要
※総合運動場(遺体安置所)、大蔵第二運動場(帰宅困難者用施設)、やっちゃば(物資拠点施設)、成育医療研究センター(妊産婦及び乳幼児の受入れ)、日大商学部(第2原位避難所)など。

3 土砂災害の危険性

- ① 国分寺崖線沿いなど、危険箇所の周知が必要
- ② 避難行動の周知が必要

■岡本エリアの課題

1 避難所までの避難経路

- ① 急な坂道など避難所へ行くこと自体、危険を伴う箇所が多い。危険箇所の把握・周知が必要
- ② 避難所への避難が不可能と判断した場合の避難行動を決めておくことが必要

2 避難場所の確保

- ① 避難所までの経路の危険性により、一時集合所の役割を整理することが必要
- ② そこでどうするのかを明確化し、地域住民に周知することが必要

3 備蓄の呼びかけ

- ① 在宅避難者が多く見込まれるため、各家庭での備蓄を多目に用意してもらうことが必要
- ② 良質な井戸水が豊富な地域。災害時に活用できる井戸を確保することが必要

4 水害や土砂災害の危険性

- ① 危険箇所の把握が必要
- ② 豪雨の際、防災無線塔の放送が聞こえない。避難行動へのタイミング等の判断力が必要

■砧公園について

1 備蓄物品の活用

- ① 災害時に生活をする場所ではないが、やむを得ない場合に何日か過ごせるように、備蓄物品を活用する工夫を考えることが必要
- ② 広域避難場所に避難してきた避難者への情報や物資の提供の可能性を検討する

2 防災拠点としての活用・啓発

- ① かまどベンチや防災パーゴラ等の防災設備について、設置するまでの行動を決めておくが良い
- ② 発災時に砧公園のどこに逃げればよいか等の周知・啓発が必要

3 子どもたちの遊び場としての公園の本来の役割

- ① 大人が災害復旧活動をしている間に、子どもたちが遊べるスペースを確保する
- ② 学校休校中の子どもが体力を確保するため、遊び場としてのスペースを確保する

■在宅避難について

1 在宅避難推進のための周知・啓発

- ① 在宅避難の必要性の周知が必要
- ② 防災訓練などのイベントを通じて在宅避難のメリットや避難所生活のデメリットを周知し、在宅避難を推進していくことが必要
- ③ 在宅避難に必要な知識や準備について、さらなる周知・啓発や支援が必要
- ④ 在宅避難時の情報収集ツールとなる「世田谷区防災ポータル」の活用方法の周知が必要

2 自宅の安全対策

- ① 自宅の耐震化、家具の転倒防止、自宅の整理・整頓が必要

3 備蓄品の準備

- ① 生活物資の準備(飲料水・生活用水・食料・日用品など)
※最低限3日分、可能であれば7日分の準備が必要。日頃からローリングストックを行っておく
- ② インフラ代替品の準備(電気・ガス・水道・トイレの代替手段)
- ③ 各家庭に合わせた個別用品の準備(薬・眼鏡・哺乳瓶・おむつなど)

4 情報の入手方法の確認

- ① 風評やデマに流されず、正確な情報を入手することが必要
- ② 日頃から発災時に必要な情報の入手先(ラジオ、テレビ、防災行政無線、世田谷区防災ポータル、X(旧 twitter)など)を把握しておくことが必要

上北沢地区防災計画

[令和7年修正]

上北沢地区

【上北沢地区防災計画作成団体】

(順不同)

上北沢1丁目自治会	上北沢町会
八幡山町会	都営八幡山アパート自治会
上北沢第一コーポラス自主防災組織	上北沢地区民生委員児童委員協議会
日赤奉仕団上北沢分団	八幡山愛友会
八桜会	上北沢幸友会
上北沢共栄会	上北沢中央商店会
八幡山八栄会	八幡山商福会商店街振興組合
成城消防団(第3分団)	世田谷消防団(第17・18分団)
上北沢小学校避難所運営委員会	八幡山小学校避難所運営委員会
上北沢小学校PTA	八幡山小学校PTA
上北沢小学校おやじの会	八幡山小学校おやじの会
上北沢地域社会福祉協議会事務所	上北沢あんしんすこやかセンター

目 次

1	上北沢地区の特性	上北沢-1(-900-)
	(1)自然特性	上北沢-1(-900-)
	(2)社会特性	上北沢-2(-901-)
	(3)地域危険度	上北沢-4(-903-)
	(4)被害想定	上北沢-5(-904-)
	(5)防災資源一覧	上北沢-8(-907-)
	(6)防災資源マップ	上北沢-9(-908-)
	(7)区民アンケート	上北沢-10(-909-)
2	各団体の防災活動～現在の取組状況～	上北沢-19(-918-)
3	上北沢地区の課題と取り組み	上北沢-24(-923-)
	(1)初期消火	上北沢-24(-923-)
	(2)負傷者等の救出、救護	上北沢-25(-924-)
	(3)自助	上北沢-26(-925-)
	(4)要配慮者の避難支援	上北沢-27(-926-)
	(5)安否の確認	上北沢-28(-927-)
	(6)他団体や組織との調整	上北沢-28(-927-)
	(7)避難所の立上げ	上北沢-29(-928-)
	(8)給食、給水の調達	上北沢-29(-928-)
	(9)必要な物資の把握、調達	上北沢-29(-928-)

1. 上北沢地区の特性

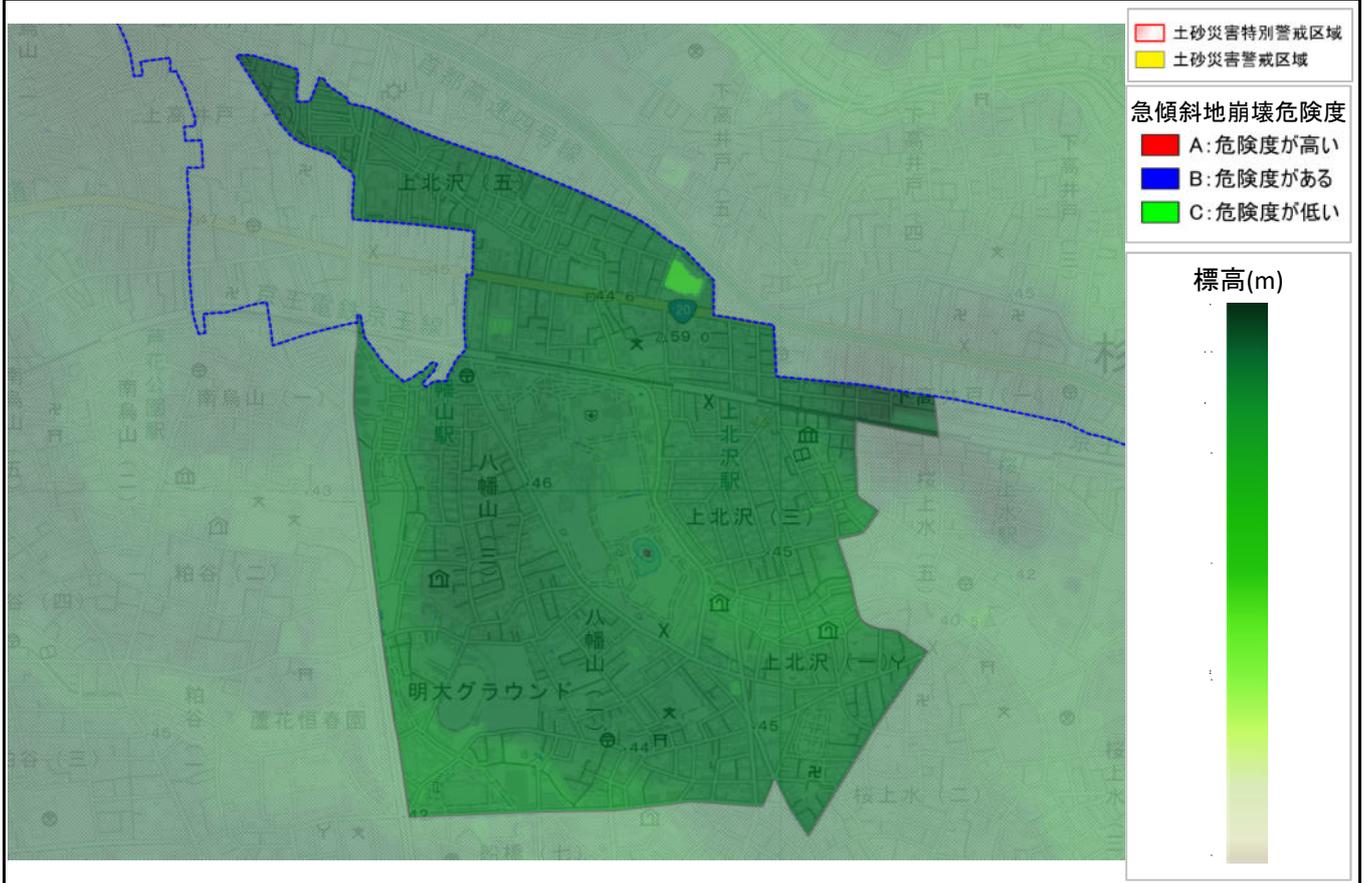
(1)自然特性

面積	1.72 Km ²	最高標高	48.7 m	最低標高	31.9 m
----	----------------------	------	--------	------	--------

位置



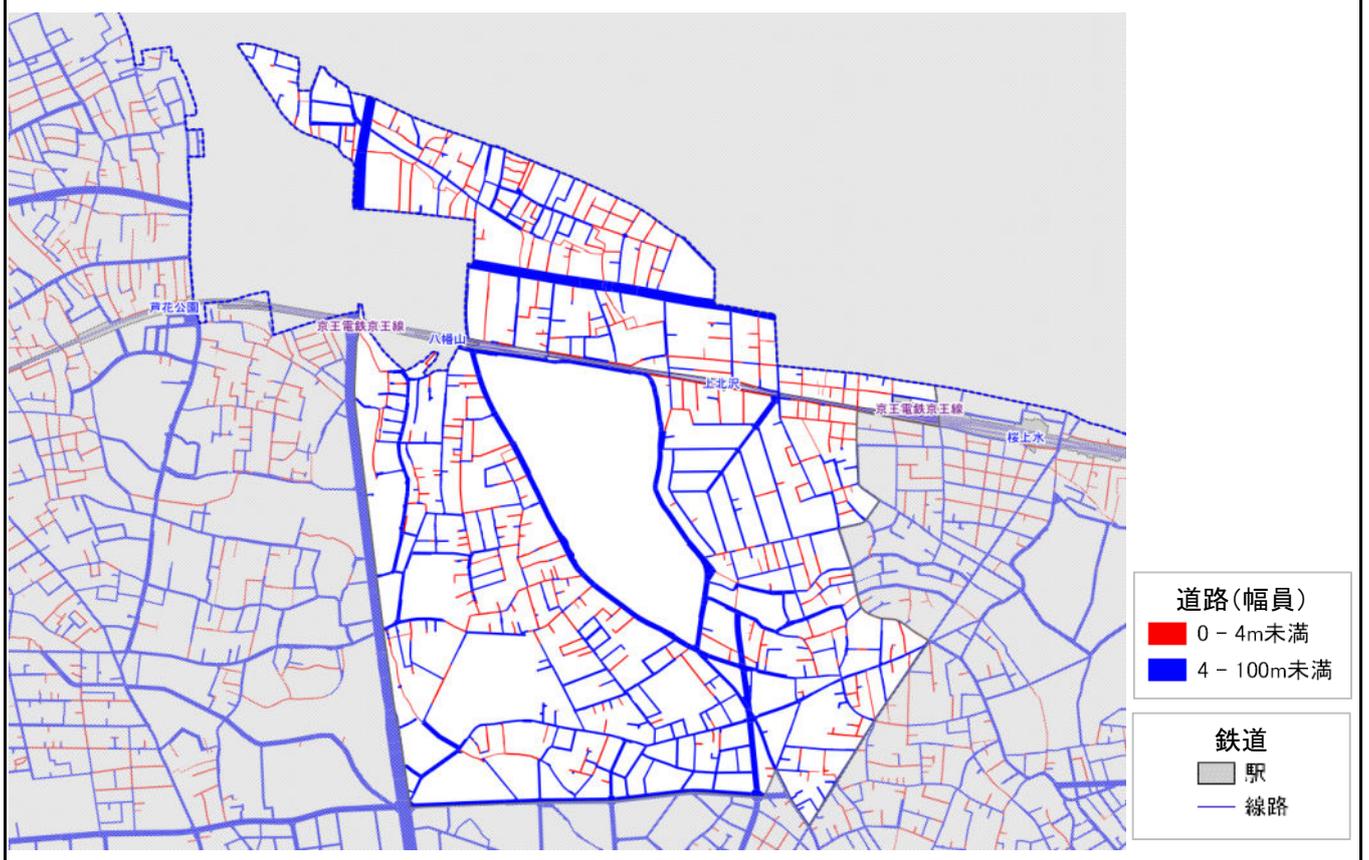
標高・急傾斜地崩壊危険度・土砂災害警戒区域等



(2)社会特性

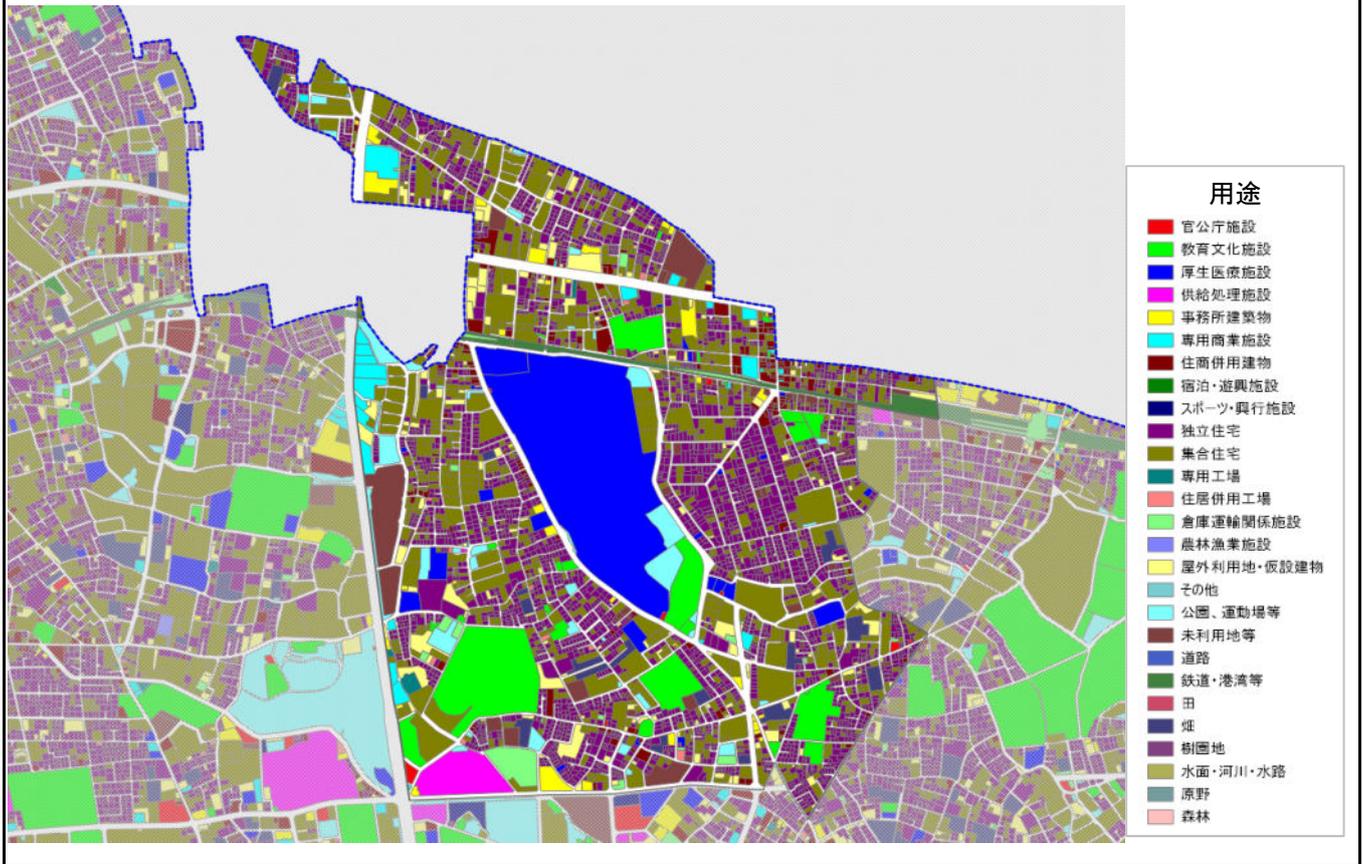
人口	24,415 人	細街路率	38.2 %	
世帯数	13,881 世帯	昭和56年以前木造建物棟数密度	46.0 棟/Km ²	
1世帯あたり	1.76 人	耐火率(建築面積ベース)	65.8 %	
若年層数(15才未満)	2,537 人	土地利用(宅地)	72.5 %	
若年層率(15才未満)	10.4 %	土地利用(宅地以外)	27.5 %	
高齢者数(65才以上)	5,227 人	鉄道駅	京王線上北沢駅 八幡山駅	
高齢者率(65才以上)	21.4 %			
昼間の人口	20,805 人	産業	商業	65.4 %
夜間の人口	26,538 人		工業	16.1 %
昼夜間人口比	0.78 -		農業	18.6 %
町会・自治会数	4 -			

道路・公共交通機関



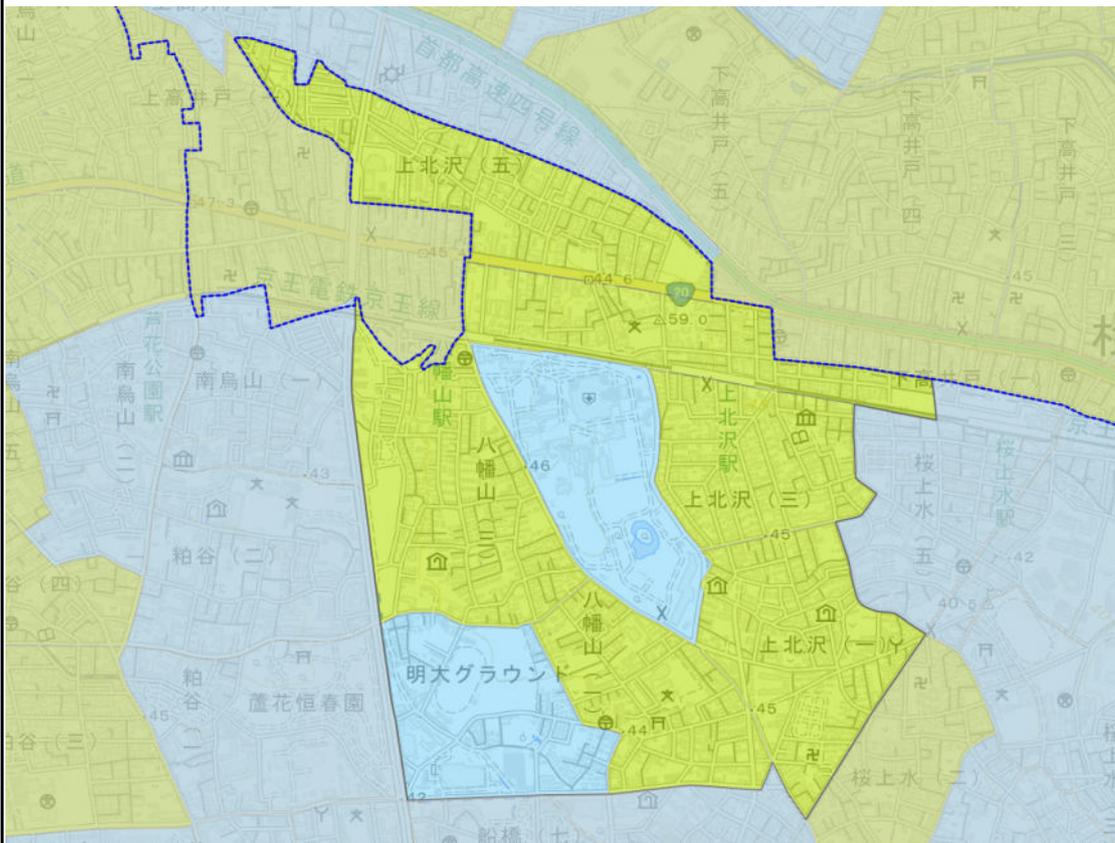
(2)社会特性

産業

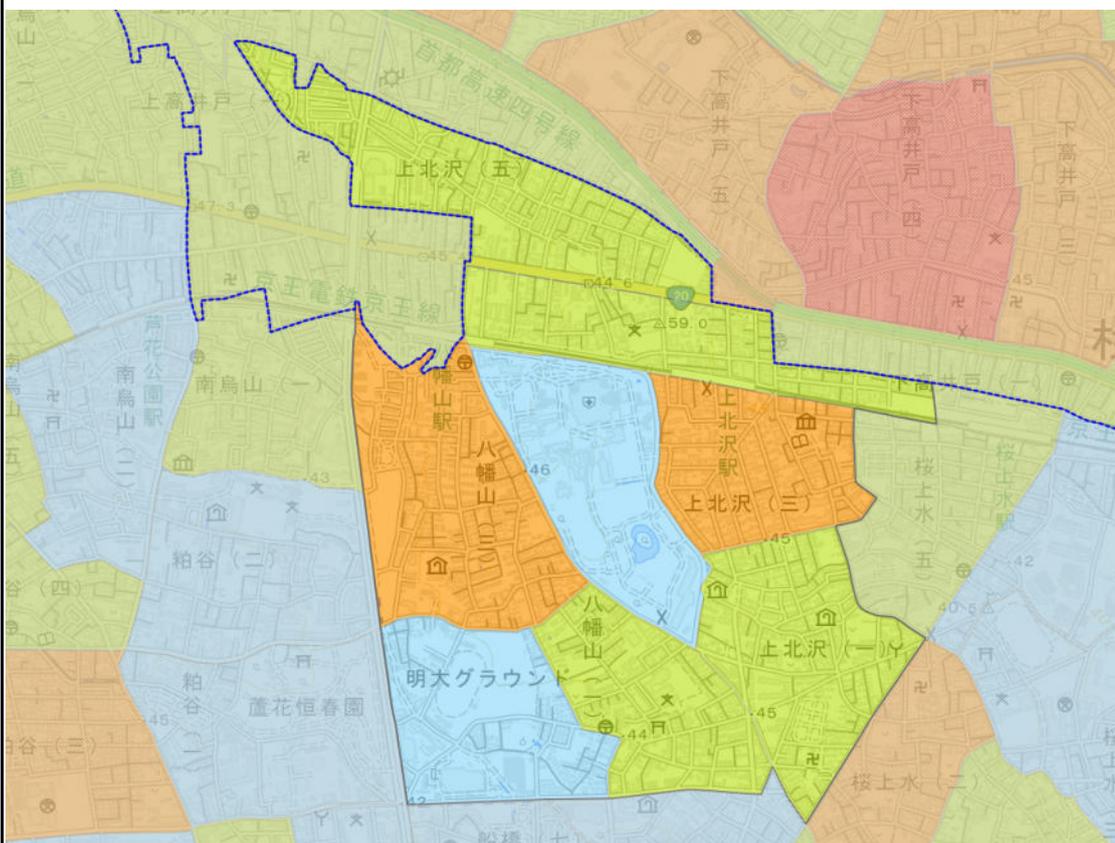


(3)地域危険度

建物倒壊危険度



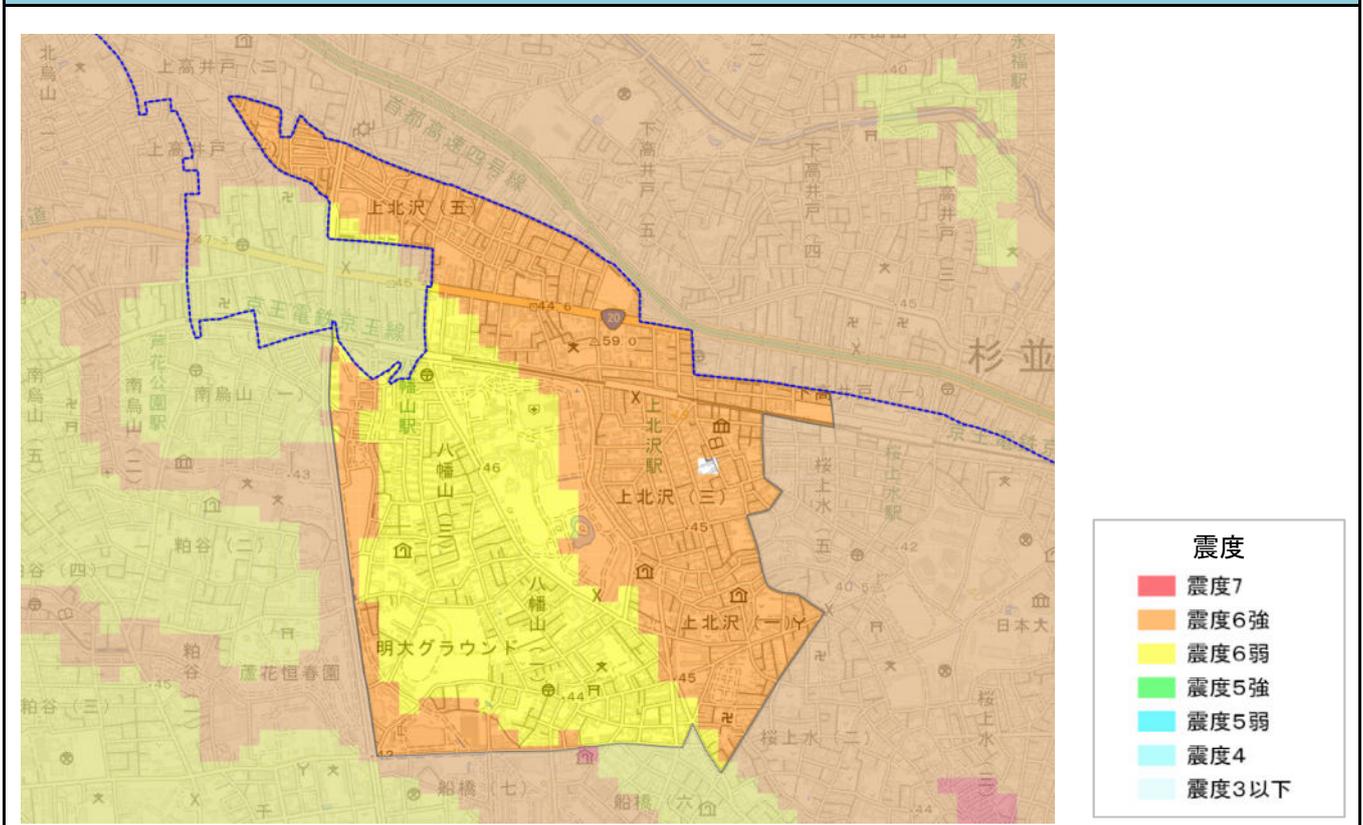
火災危険度



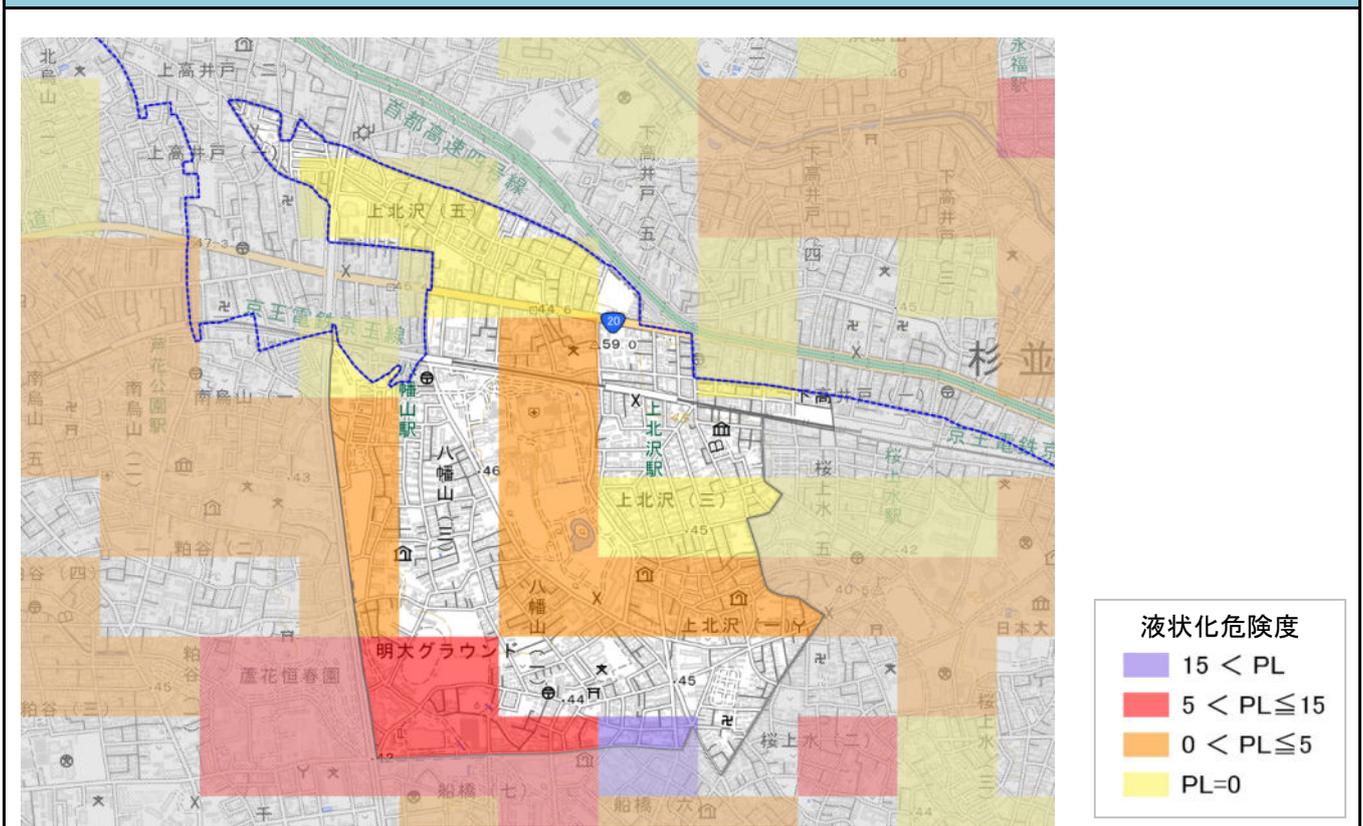
(4)被害想定

全壊棟数	97 棟	死者	14 人
半壊棟数	311 棟	負傷者	160 人
全焼棟数(倒壊建物含まず)	550 棟	うち重傷者	27 人

震度分布

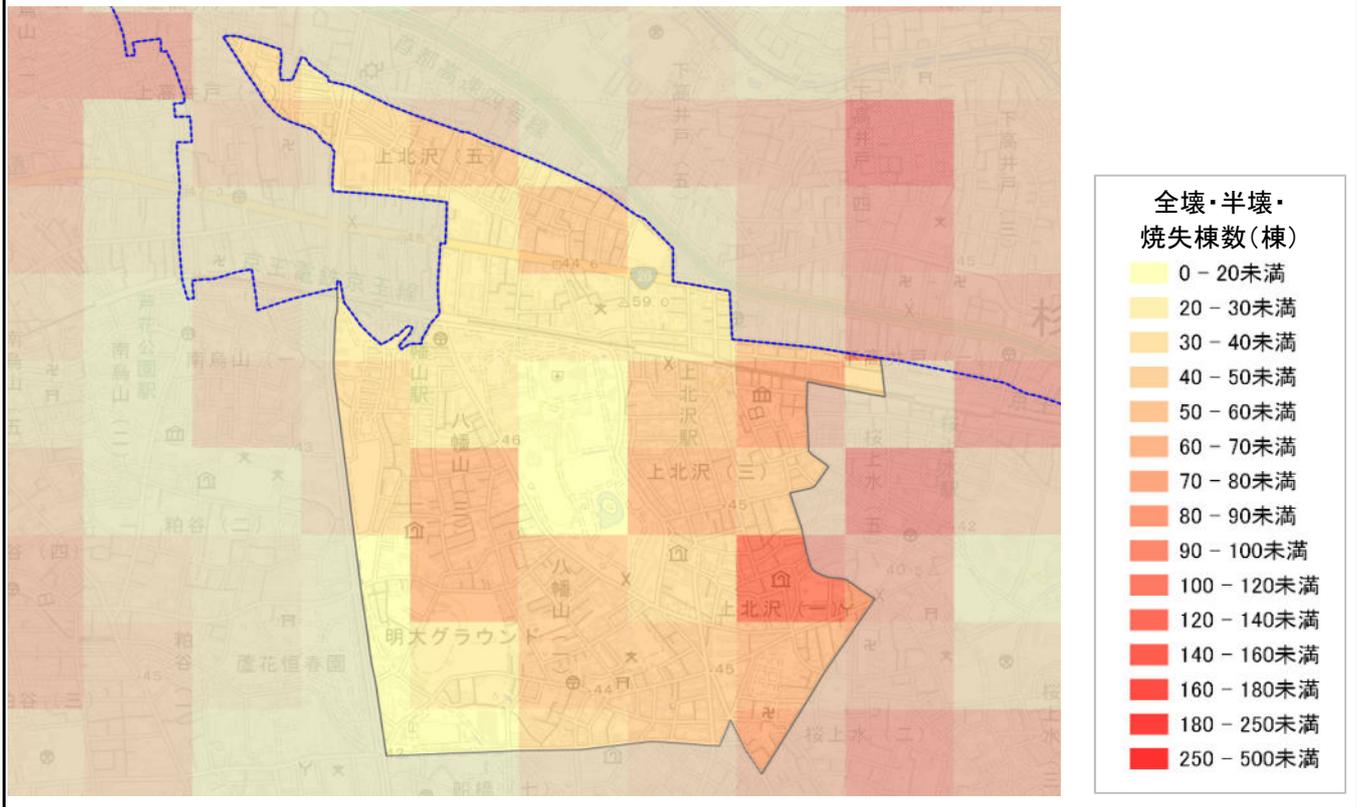


液状化分布



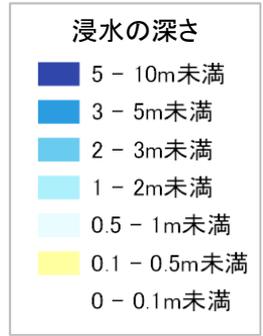
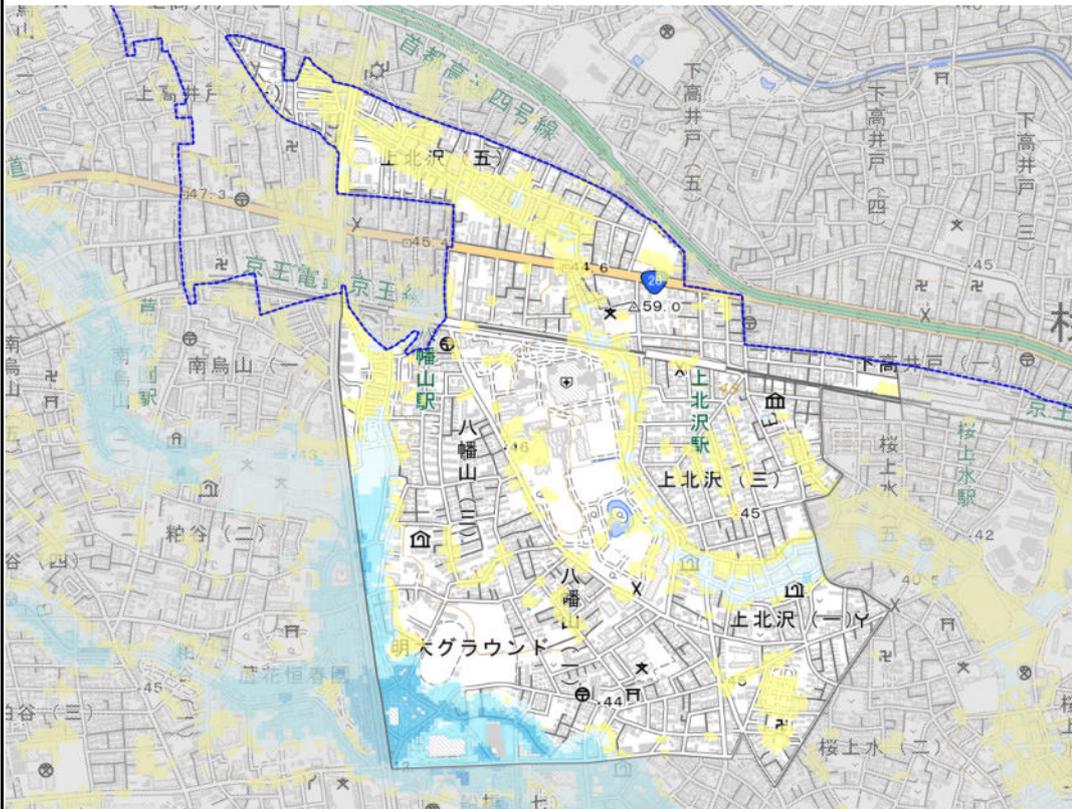
(4)被害想定

被害棟数分布

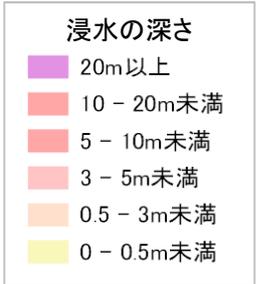
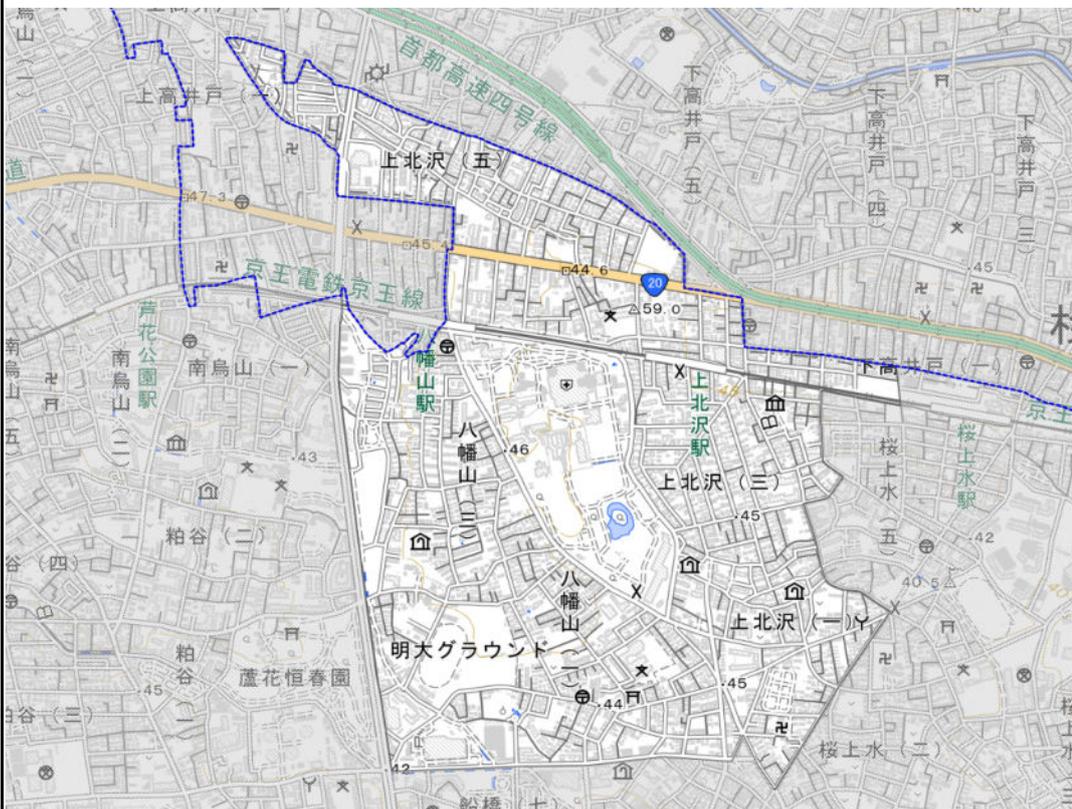


(4)被害想定

浸水想定(内水氾濫・中小河川洪水版)



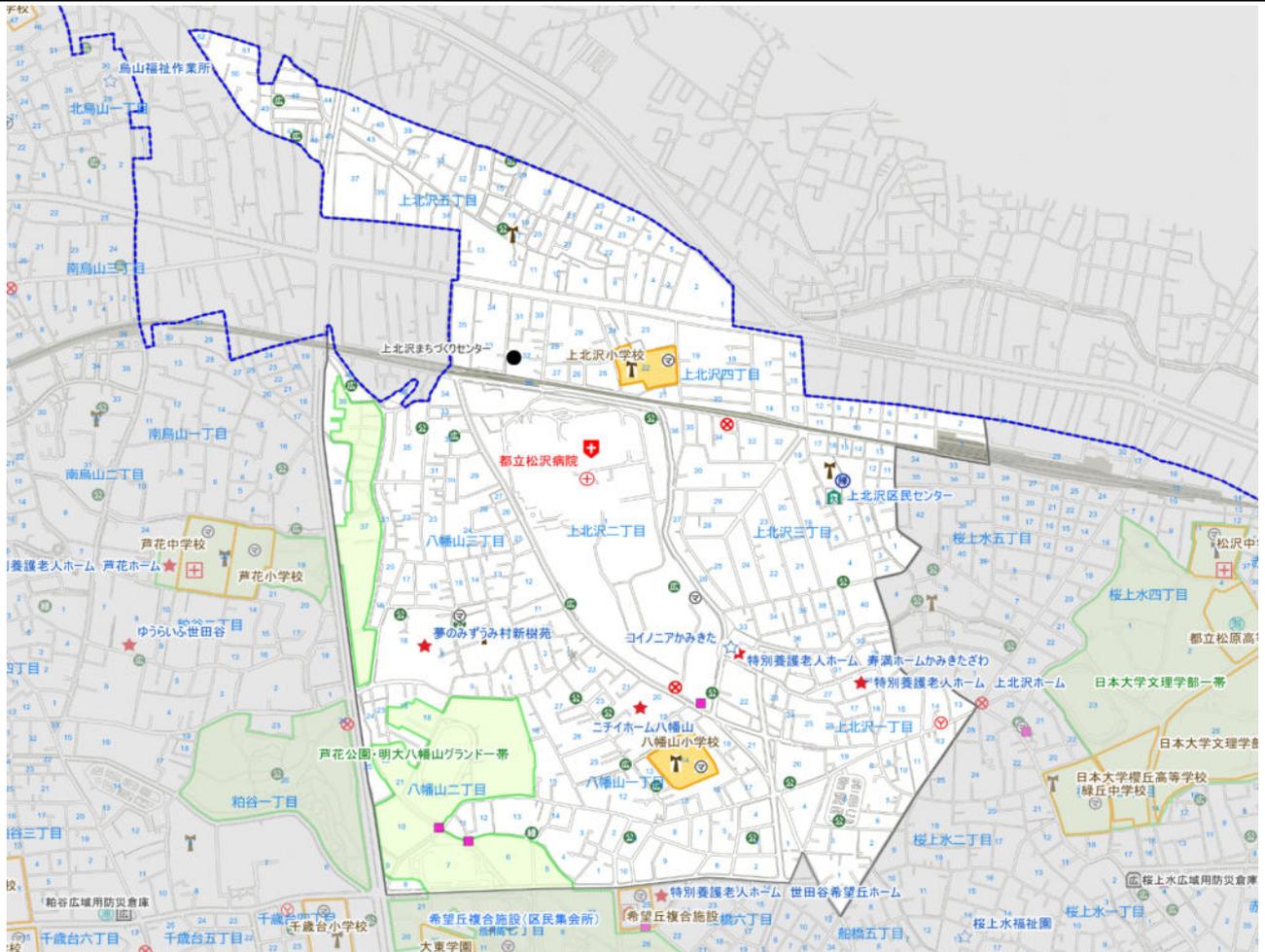
浸水想定(多摩川洪水版)



(5)防災資源一覧

広域避難場所	芦花公園・明大八幡山グラウンド一帯				
一時集合所	区立きんもくせい広場 区立將軍池広場 区立上北沢5丁目公園 区立八幡山3丁目公園 上北沢公園 上北沢小学校 上北沢地区会館敷地 都営八幡山アパート内小広場 八幡山公園 八幡社境内 明大八幡山グラウンド 八幡山小学校 八幡山はらっぱ広場				
指定避難所	上北沢小学校 八幡山小学校				
予備避難所					
福祉避難所(母子)					
福祉避難所(高齢者)	特別養護老人ホーム上北沢ホーム 特別養護老人ホーム寿満ホームかみきたざわ ニチイホーム八幡山 夢のみずうみ村新樹苑				
福祉避難所(障害者)	コイノニアかみきた				
水害時避難所(第1次)		野川・仙川洪水時避難所			
水害時避難所(第2次)	上北沢区民センター				
土砂災害時避難所					
避難所救護所					
東京都災害拠点病院					
東京都災害拠点連携病院	都立松沢病院				
緊急医療救護所	都立松沢病院				
一時滞在施設					
一時避難施設(車中避難)		帰宅困難者支援施設		1	ヶ所
ボランティアマッチングセンター					
マンホールトイレ	4	防災行政無線塔	5	緑地	1
輸送拠点					
給水拠点					
広域用防災倉庫					
土のうステーション	上北沢地区会館 千歳清掃工場付近路上 明大八幡山グラウンド付近路上				
警察署・交番	上北沢駅前交番 八幡山駐在所				
消防署・出張所	上北沢出張所				

(6)防災資源マップ



- | | |
|--------------------|-------------------|
| ◎ 総合支所 | ■ 広域避難場所 |
| ● まちづくりセンター | ■ 指定避難所 |
| ⊕ せたがや災害ボランティアセンター | ■ 予備避難所 |
| ⊠ 広域用防災倉庫 | ■ 福祉避難所(母子) |
| ⊙ 給水拠点 | ★ 福祉避難所(高齢者) |
| ⌚ 防災行政無線塔 | ☆ 福祉避難所(障害者) |
| ⊖ マンホールトイレ | ⊠ 水害時避難所(第1次) |
| ■ 土のうステーション | ⊠ 水害時避難所(第2次) |
| ⊠ 警察署 | ◆ 野川・仙川洪水時避難所 |
| ⊠ 交番 | ■ 水害時避難所(狛江市) |
| ⊠ 消防署 | ■ 水害時避難所(調布市) |
| ⊠ 消防出張所 | ■ 土砂災害時避難所 |
| ⊠ 身近な広場 | ⊠ 避難所救護所 |
| ⊠ 公園 | ⊠ 東京都災害拠点病院 |
| ⊠ 緑地 | ⊠ 東京都災害拠点連携病院 |
| | ⊠ 緊急医療救護所 |
| | ⊠ 一時滞在施設 |
| | ⊠ 帰宅困難者支援施設 |
| | ⊠ ボランティアマッチングセンター |
| | ⊠ 輸送拠点等 |
| | ⊠ 一時避難施設(車中避難) |

出典

世田谷区土砂災害ハザードマップ 令和6年7月発行

世田谷区の町丁目別人口と世帯数 令和6年3月1日

世田谷区の年齢別人口 令和6年3月1日

世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ(多摩川洪水版、内水氾濫・中小河川洪水版)令和6年7月発行

世田谷の土地利用2021 世田谷区土地利用現況調査

世田谷区GISオープンデータ

令和2年国勢調査による 東京都の昼間人口(従業地・通学地による人口)第11表

地域危険度一覧表(地震に関する地域危険度測定調査[第9回]) 令和4年9月

首都直下地震等による東京の被害想定 報告書 令和4年5月25日

世田谷区防災マップデータ 令和6年3月

(7)区民アンケート(上北沢地区)

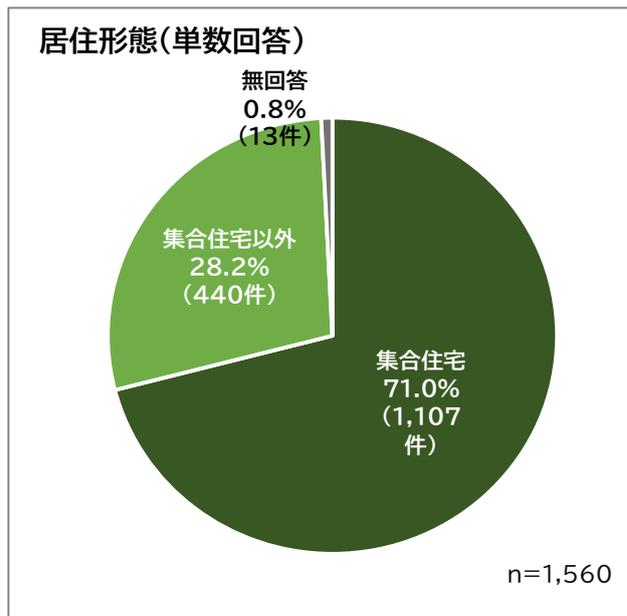
このアンケートは、今後の区内各地域及び地区における災害関連施策の検討や取組みに活用することを目的として、令和6年度に災害対策課が実施した「在宅避難支援事業(防災カタログギフト)」に合わせて行ったものである。

なお、以下に記載している回答集計結果は、カタログギフト申込者のうち、WEBで申し込みをした区民へ任意での回答を依頼し、令和6年8月9日から9月8日までに回収できた分である。

単純集計(1/5)

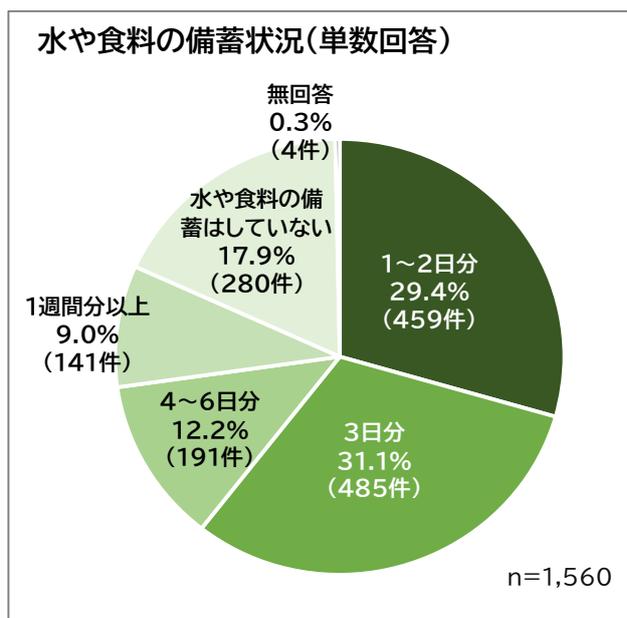
居住形態

【1】あなたはマンションなどの集合住宅にお住まいですか。



水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。

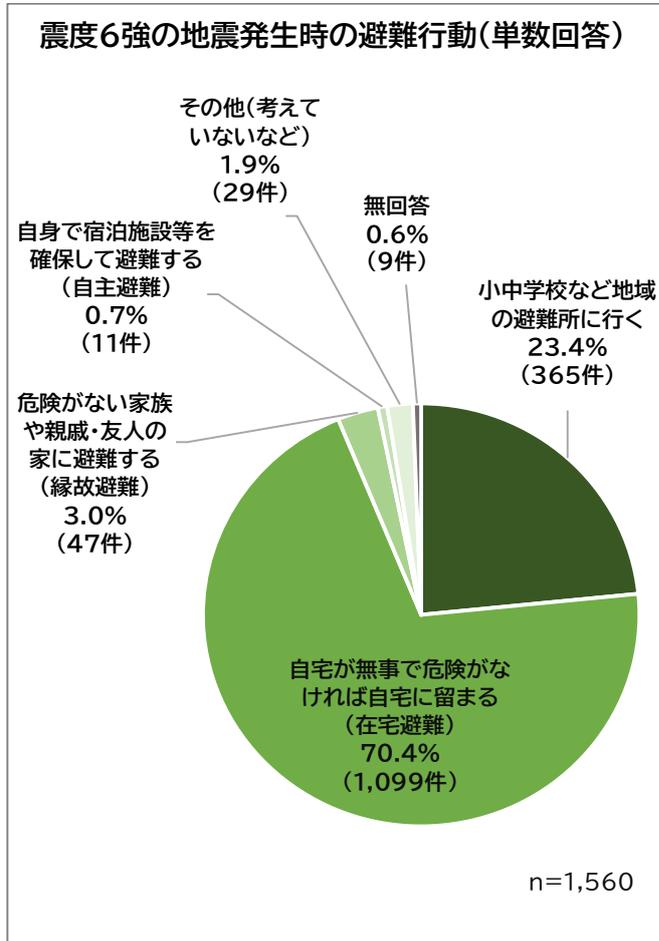


(7)区民アンケート(上北沢地区)

単純集計(2/5)

震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



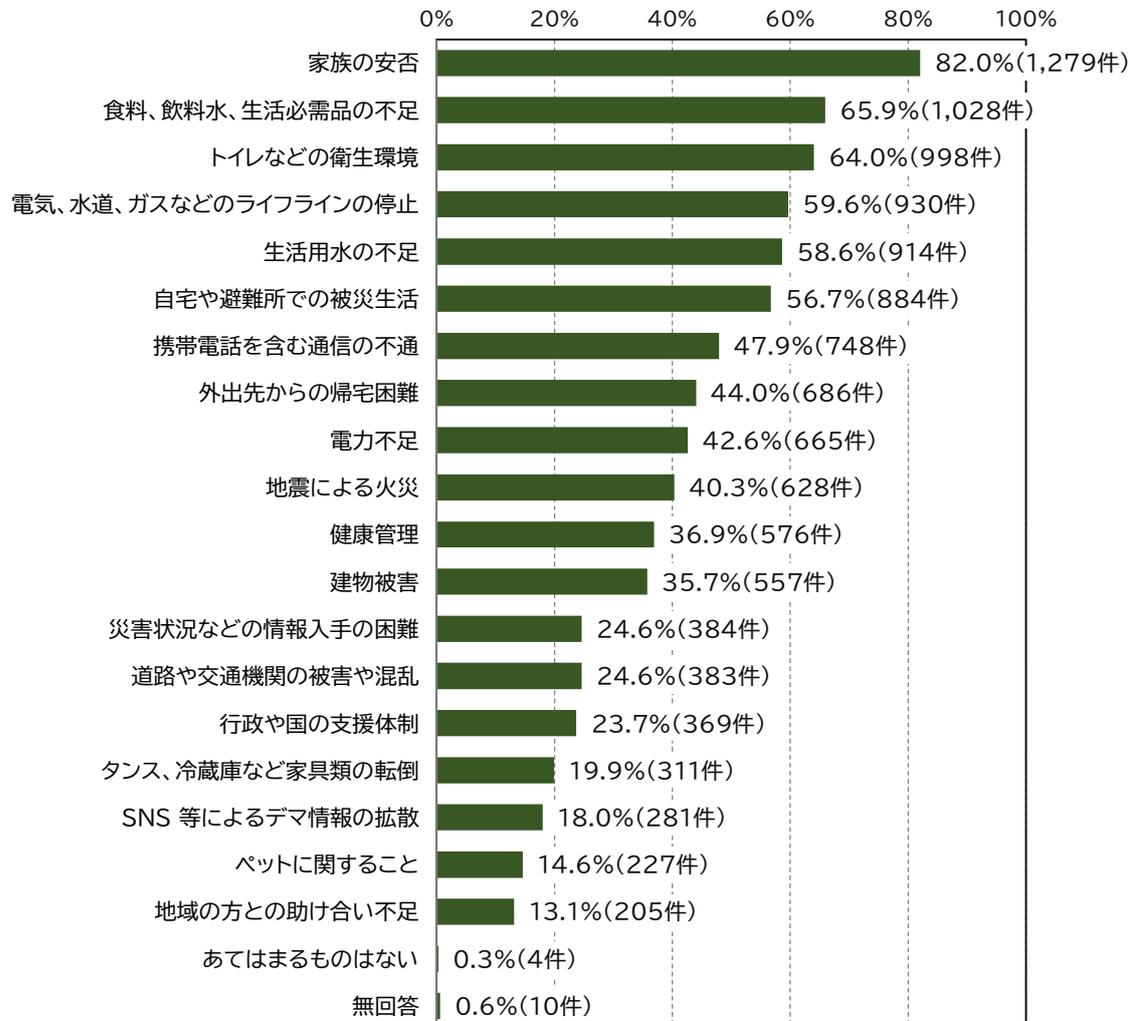
(7)区民アンケート(上北沢地区)

単純集計(3/5)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

災害時の心配ごと(複数回答)



n=1,560

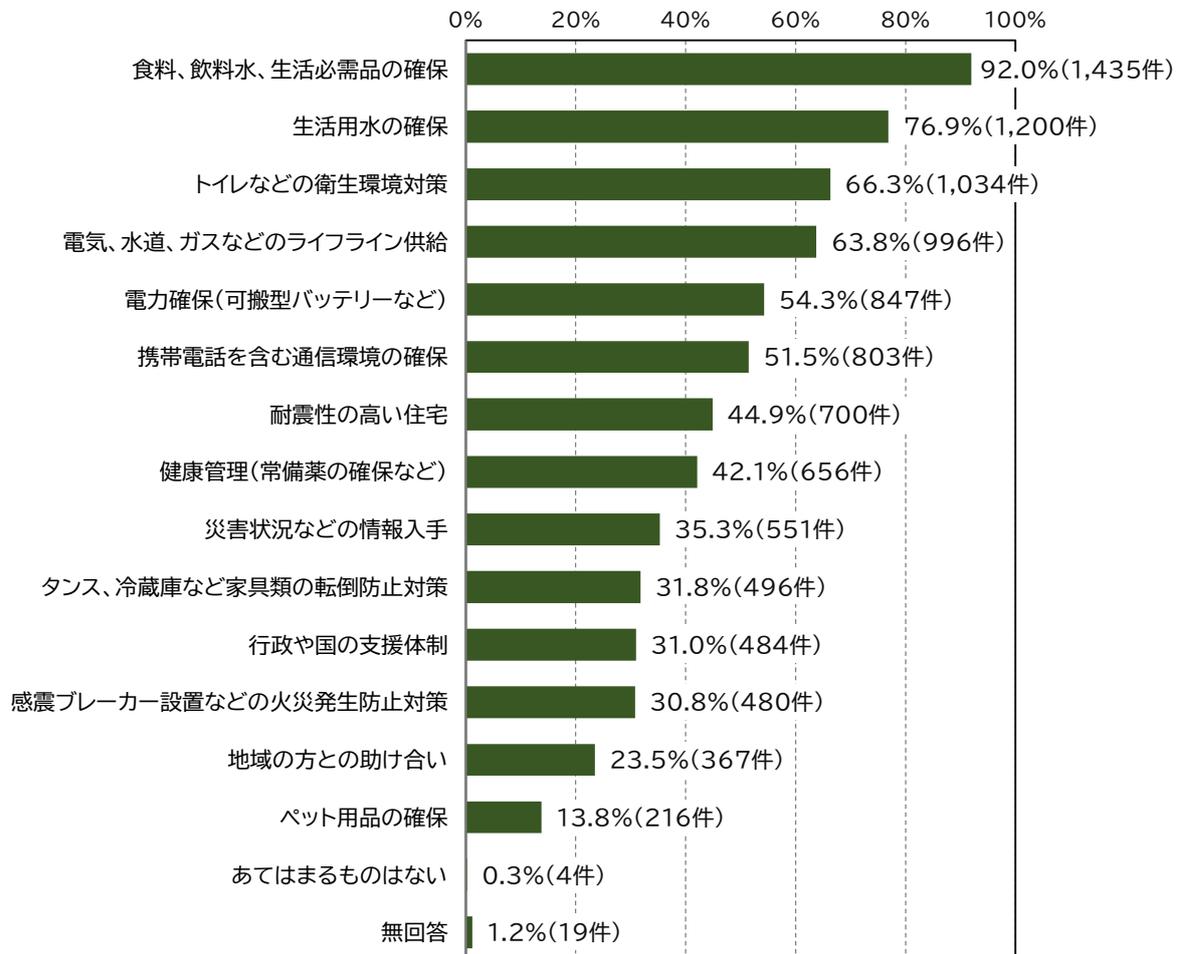
(7)区民アンケート(上北沢地区)

単純集計(4/5)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

在宅避難をするために必要だと思うこと(複数回答)



n=1,560

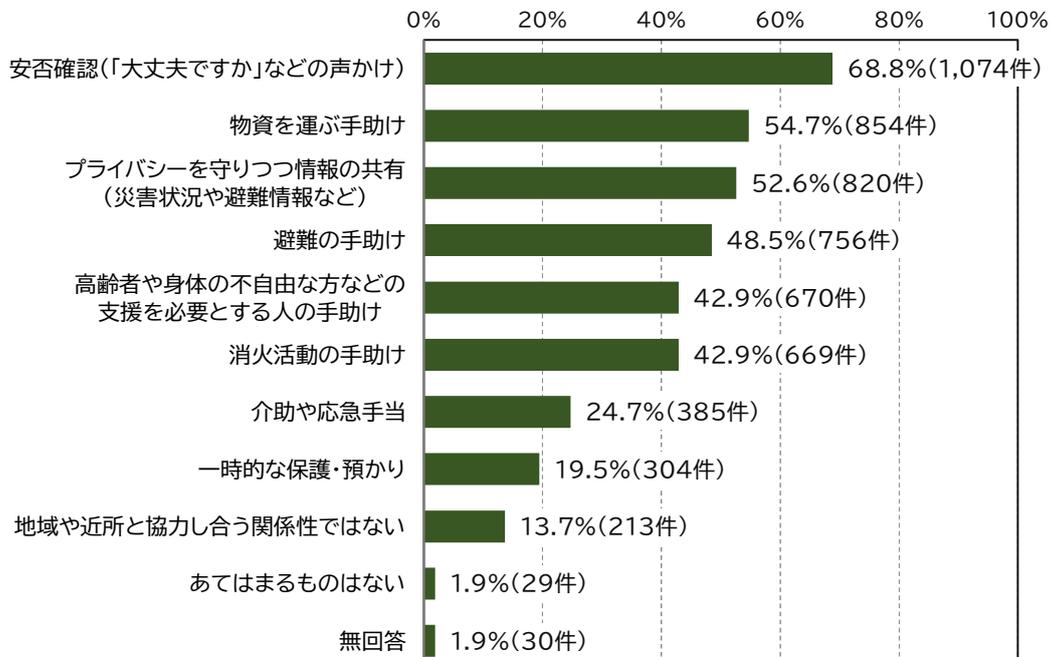
(7)区民アンケート(上北沢地区)

単純集計(5/5)

災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。

災害時にできる住民同士の支援(複数回答)

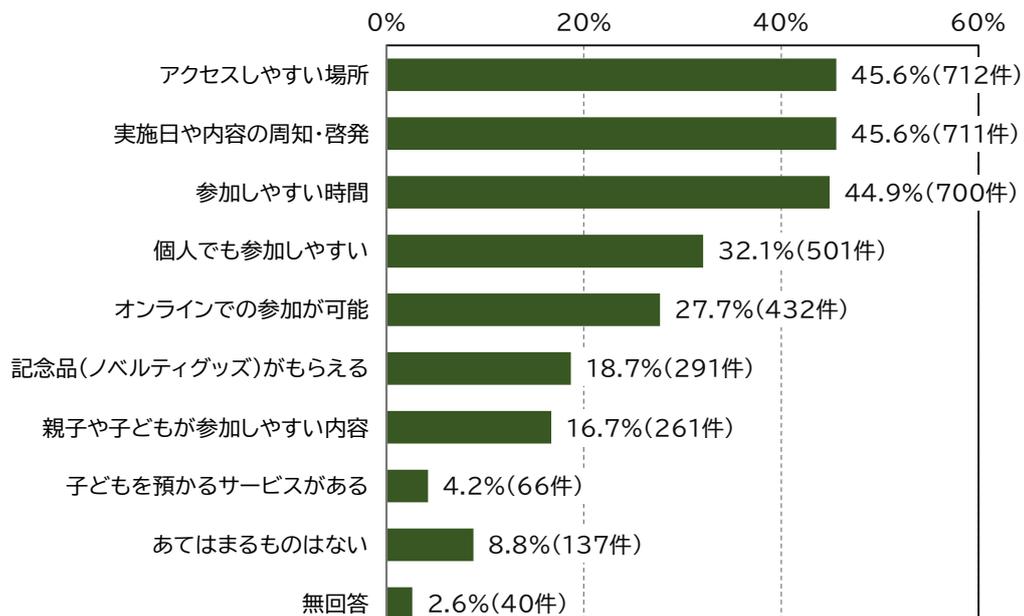


n=1,560

防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加したいと思いますか。

防災訓練や防災教室への参加意向(複数回答)



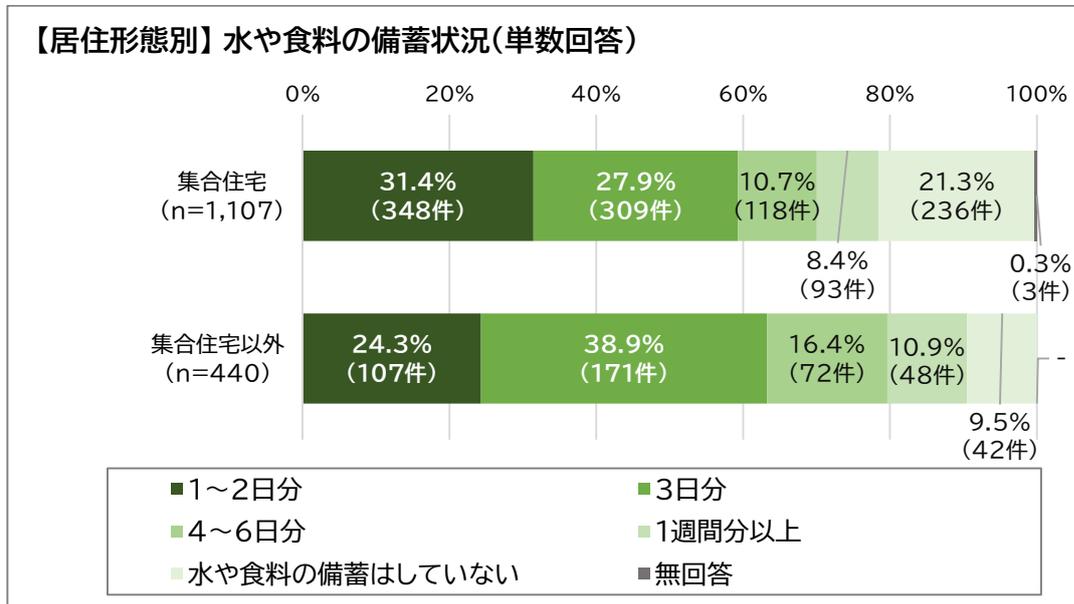
n=1,560

(7)区民アンケート(上北沢地区)

クロス集計(1/4)

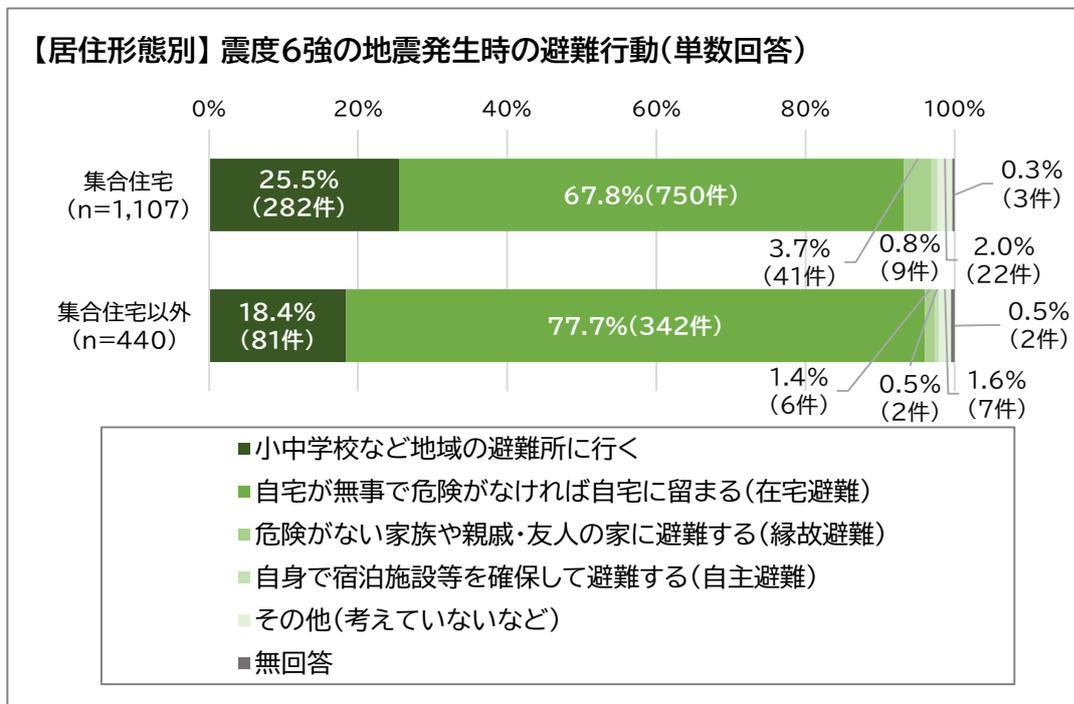
水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。



震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



(7)区民アンケート(上北沢地区)

クロス集計(2/4)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。



(7)区民アンケート(上北沢地区)

クロス集計(3/4)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

【居住形態別】在宅避難をするために必要だと思うこと(複数回答)

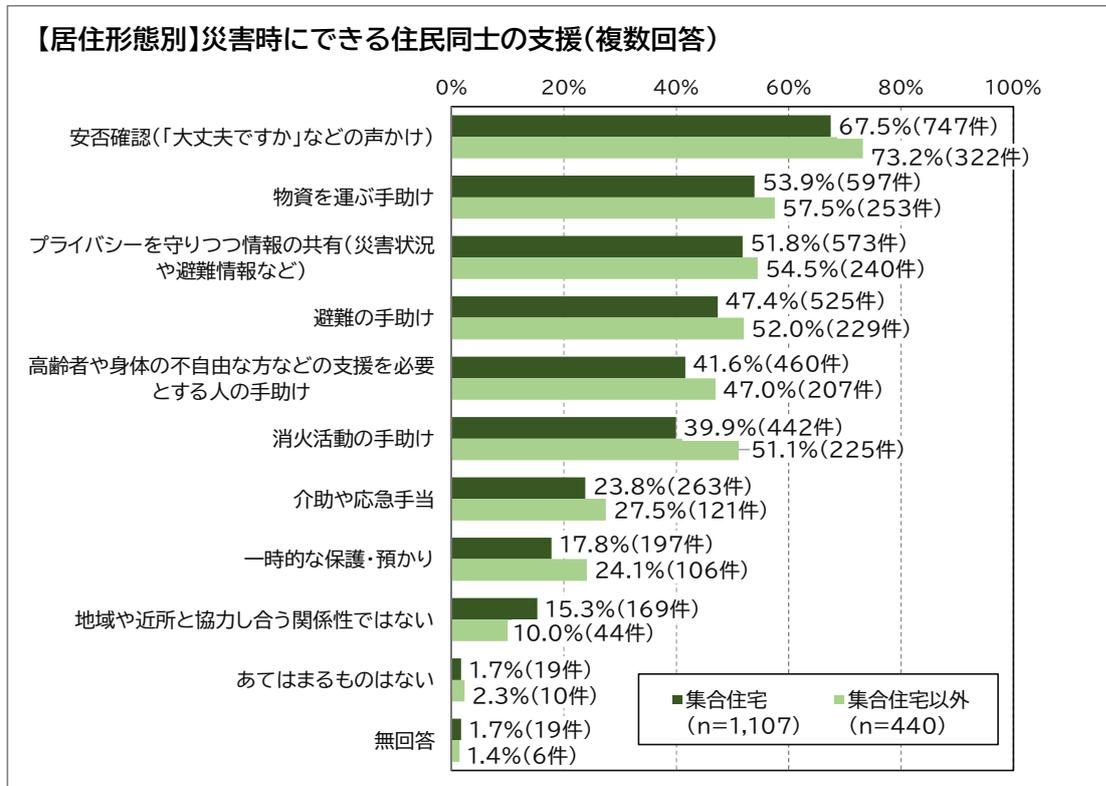


(7)区民アンケート(上北沢地区)

クロス集計(4/4)

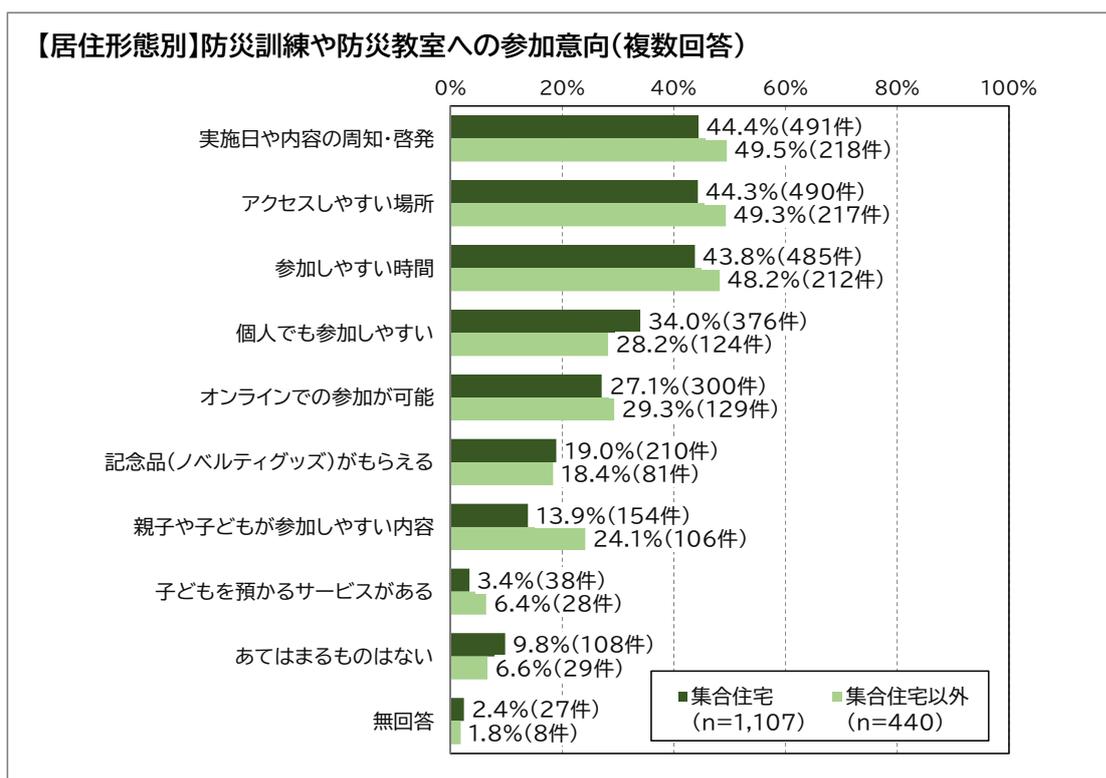
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加したいと思いますか。



2 各団体の防災活動～現在の取組状況～

団体名	防災担当者数	防災に関する会議				防災活動、資機材配備等の実施		消火資機材の配備							
		実施している	実施していない	会議名	実施回数 (年間回数)	実施している	実施していない	配備している	配備していない	スタンドパイプ		D型ポンプ		消火器	
										数量	場所	数量	場所	数量	場所
都営八幡山アパート自治会	10	○				○		○			2	自治会倉庫	39	各棟の階段	
上北沢第一コーポラス自主防災組織	3	○				○		○					8	8階までの各階毎	
上北沢1丁目自治会	3	○				○		○	1	防災用倉庫	1	防災用倉庫			
八幡山町会	10	○	八幡山町会会議	数回	○			○			2	八幡山町会防災倉庫	5	八幡山町会防災倉庫	
上北沢町会	3	○				○		○	1	上北沢公園倉庫	2	上北沢3丁目倉庫1台 5丁目1台			

団体名	防災士等の数				災害時連携・協定 (区を除く)			災害時連携・協定 (区を除く)		避難行動要 支援者協定			避難行動要支援者対策				連絡手段の確保			
	防災士	把握していない	地域防災リーダー	把握していない	他団体との連携	協定締結	特になし	連携先 ・内容	協定先 ・内容	締結している	検討中である	予定はない	日頃からの 見守り活動	要 支援者体験 避難行動	その他	特に実施 していない	簡易無線	連絡網の 作成・整備	その他	
都営八幡山アパート自治会		○		○			○			○			○							特になし
上北沢第一コーポラス 自主防災組織		○		○			○									○				各自携帯電話活用
上北沢1丁目自治会	0		1				○			○					年2回 訪問	○				特になし
八幡山町会		○		○			○			○			○							特になし
上北沢町会	2		1				○			○			○							特になし

団体名	防災活動に関するマニュアル (避難所運営マニュアルを除く)					救出救助に係る資機材の配備														食糧等の備蓄						
	策定済み	策定中	検討中	予定なし	名称	配備していない	配備している	リアカー	はしご	脚立	担架	救急セット	ヘルメット	救助工具セット	バール	スコップ	手おの	のこぎり	ジャッキ	両口ハンマー	ツルハシ	その他	保管場所	備蓄していない	備蓄している	アルファ米
都営八幡山アパート自治会				○		○	1		1		3	17	1										自治会倉庫	○		
上北沢第一コーポラス自主防災組織				○		○			2	1	2	4	1										自治会倉庫	○		
上北沢1丁目自治会				○		○	1			2	2	15	1	1	2								自治会倉庫	○	50	
八幡山町会				○		○		1			2	10		1	2	2	2						八幡山町会防災倉庫	○		
上北沢町会			○			○	2	1	1	3	1	24 (帽子型簡易タイプ)	1	1	3	3							上北沢公園資材倉庫他	○		

団体名	食糧等の備蓄												その他の防災活動			
	ビスケット・乾パン	おかゆ	飲料水	缶詰類	レトルト食品類	カセットコンロ	その他災害用食料	非常用トイレ	照明	発電機	蓄電池セット	給水タンク		その他	保管場所	備蓄品配布先
都営八幡山アパート自治会	50							6						自治会倉庫	自治会住民	
上北沢第一コーポラス自主防災組織	40	40	40					10	2	1				自治会専用倉庫	上北沢第一コーポラス605号	
上北沢1丁目自治会	○		○	50	○				1	1		1	テント(小)2 救急箱2	自治会倉庫	自治会住民	
八幡山町会	100				カレー60	5				1				八幡山町会防災倉庫		D級ポンプ点検等
上北沢町会	44		200		60	100		2	1					世田谷区上北沢5-37-18新宿木材敷地内	町会会員	

3. 上北沢地区の課題と取り組み

項目1 初期消火

■課題

- ・消防資機材(スタンドパイプ・D型ポンプ)を使用できる人が限られている。
- ・小学生や商店街の人たちは資機材訓練をしていない。
- ・スタンドパイプを使う消火栓の場所が分からない。

■今後の取り組みの方向性

- (1)スタンドパイプの訓練を行い操作できる人材を育成していく。
 - ・消防署や防災設備業者と協力し、機材の使い方や日頃から家庭でできる防災についての講習会を実施し、防災についての意識を高める。
 - ・小学生やPTAなどの若い世代の方にも初期消火の協力をいただけるよう、訓練や講習会への参加を促していく。
- (2)街路消火器の場所、スタンドパイプの配備場所・消火栓の位置などを広く周知していく。
 - ・訓練実施の際に街路消火器、スタンドパイプ、消火栓の設置場所の周知も併せて行う。
- (3)参加者に合せた日時・時間帯に防災訓練を実施していく。
 - ・多くの方に初期消火の体験する機会を増やしていけるよう、スタンドパイプや街路消火器の近くで訓練を実施する。
 - ・日頃から街路消火器をチェックする。
 - ・色々な方が参加しやすいよう、イベントを実施する際には防災資機材を活用したイベントとなるよう工夫をしていく。
- (4)日頃から家庭から火を出さない工夫をしていく。
 - ・火災の原因となる通電火災の危険性などについて、講習を通して啓発を行い防火対策への意識を高める。
 - ・家庭内や近隣で通報する人・消火する人などの役割を決めておく。
 - ・家庭用消火器や街路消火器を使用し、協力して初期消火を行う。
- (5)各家庭で消火用の物品(消火器・バケツ・ホース等)を備えておく。
 - ・各家庭でも消火器を備えていただくよう、PRや斡旋等の周知を促進していく。
 - ・各家庭で備えた消火器については定期的にチェックを行う。
- (6)災害時の危険箇所(火災・ブロック塀倒壊など)を把握し、情報共有しておく。

項目2 負傷者等の救出、救護

■課題

- ・救出・救護用の資材を備えているが、使用できる人が限られている。
- ・負傷者の救出、搬出をどのように行っていくのかわからない。
- ・若い人が少なく人手が不足している。

■今後の取り組みの方向性

(1)町会・自治会で、安否確認や救出救助の体制を整備していく。

- ・高齢者の安否確認が必要。
- ・組織をつくるには大きな組織でやったほうがよいのか。

(2)負傷者の救出・搬出に対応した資機材の訓練を行っていく。

- ・資機材の場所の確認・周知をする。ヤマダ電機裏の町会倉庫にリアカーはある。
- ・一般の方でも資材の場所と使い方がわかるよう、一覧表を貼るなどわかりやすくしておく。
- ・資機材操作訓練は毎年やって使える人を増やすことが大切であるため、みんなが参加できる訓練を検討していく。
- ・普通救命講習だけでなく、上級救命講習を定期的を実施し、地区内在住の誰もが救出や救護に当たれるようにする
- ・PTA、老人会、中学生、小学生等すべての人々に自分のできることを行なってもらうように、訓練を実施していく。

(3)近隣の大学等と連携して、学生ボランティアや寮の学生を若い担い手として確保を検討していく。

- ・若い世代の担い手の確保が必要であるため、地区内及び近隣にある大学・学校との協定を結ぶ。
- ・学生を把握・指示する人が必要で、指示するリーダーの育成を検討する。
- ・地域にあるボランティア団体とも緩やかに関係性を築き、災害時には連携をとれるようにする。

(4)地域内の商店街や事業者(工務店・介護事業者等)との協力体制を検討していく。

- ・商店街との協力体制をお願いする。
- ・まちづくりセンターで地域の各々の団体が「何が得意で何ができそうか」「代表連絡先」を確認しておく。盆おどり、さくらまつり、祭礼などを通じて顔のわかる関係をつくる。

(5)負傷者の応急救護には、医療関係者・病院・診療所等と連携していく。

- ・一番近隣の医療救護所は芦花中学校・烏山小学校であり、医療救護所まで運ぶのは大変であるため、松沢病院や近隣の診療所協力協定を検討していく。

項目3 自助

■課題

- ・発災前から備えておくこと、発災後の行動を広く周知する必要がある。

■今後の取り組みの方向性

○各家庭において以下の内容について心がけると共に呼び掛けも行っていく。

(1)調理中の火災予防のため、台所から火を出さない工夫を行っていく。

- ・台所に消火器を設置する。
- ・自動的にガスは止まるが、揺れの方向によっては止まらない。安全に動けるようになったら、自分で火を消す。
- ・停電時は、復旧した際の火災を防止するため、ブレーカーを落とす。
- ・緊急地震速報などに反応して、油の入った鍋はシンクなど安全な場所に移す。
- ・近くにいるなら火を止める。調理中火の前から離れない。
- ・IHなら停電や鍋が離れれば、熱は止まる。
- ・自分の家からは極力火をださない。極力火を消しに行く。(マイコンメーターを信用しすぎない)

(2)家具の転倒落下によるケガや火災の発生を防ぐため、家具の転倒防止に取り組んでいく。

- ・食器棚は、力を入れないと開かないように、食器棚に牛乳パックをはさむ。
- ・食器棚のつまみ部分にゴムを8の字でかける・金具を引っ掛けるなど工夫する。
- ・食器を割れないものに変えていく。
- ・つっぱり棒、ストッパー、家具と天井の間にダンボールを入れる(空間をなくす)。
- ・転倒防止も100パーセントではないので、上まで物を積み上げない。
- ・ガラス飛散による怪我が多いので、靴を履くことを心がける。底の厚い靴を用意しておく。

(3)懐中電灯を目に付く所に備えるなど、停電時に対応できるようにしていく。

- ・ブザー付ライトの活用。携帯電話の活用。折ると光るもの。
- ・懐中電灯は、ソーラー型や防犯ブザー付のものなどを備える。
- ・太陽光電池のもの(3時間はもつ)。
- ・定期的に電池の使用・未使用の区別をする。
- ・壁に非常灯を用意する。
- ・ライトが点灯するか確認。あちこちに懐中電灯を設置しておく。

(4)災害伝言用伝言ダイヤルや災害用伝言版の活用など、各家族で安否の確認方法を決めておくことを啓発していく。

- ・両隣の家を確認する。両隣の家にいざという時に助け合える関係作りをする。

- ・避難しているとわかる目印を。子供は学校にいれば面倒見てもらえる。
- ・家族で約束事を決めておく。家族がばらばらの時の連絡手段。
- ・行く避難所をあらかじめ決めておく。外にいる時→自宅に戻る。
- ・決めた約束事を思い出せるようにしておく。町会で使用訓練をする。
- ・地域で防災の準備をチェックする日を決める。
- ・両隣と連携(安否確認)する
- ・家族の居場所がわかるように各家庭でのルールを作っておく。

(5)被害状況を確認し、どのように行動すれば判断できる訓練を実施する班制度を発展させる。

項目4 要配慮者の避難支援

■課題

- ・要配慮者は多い。
- ・応急措置で間に合わなかった怪我人、病人への対応の検討が必要である。
- ・高齢者だけでなく、障がいのある方や妊娠中の方、外国人の方への支援も必要
- ・避難行動要支援者を町会である程度把握しているが一部の人間だけであり、プライバシー保護の観点もあるが、できるだけ近所の方にも知っていただく必要がある。

■地区としての今後の取り組みの方向性

(1)避難行動要支援者支援の協定にもとづき、具体的な支援を検討していく。

- ・避難行動要支援者が求めていることと、避難支援者との気持ちにギャップがある。
- ・過度な期待をされすぎている。
- ・見守りをする人は自分で助けるのではなく、助けを呼ぶなどの役割を担えばよい。
- ・避難支援者本人だけで助けるのは困難であるが、手伝ってくれる方に避難行動要支援者の住所を教えてよいのか確認が必要。
- ・災害時どのような場合に避難行動要支援者のところに行くのか決まっていない。
- ・避難行動要支援者の連れ出し方法について、二人でも運べる方法など検討していく。

(2)町会・自治会、民生委員含めて、災害時に協力を得られるよう幅広い協力者・支援者の確保に向けた取り組みを検討していく。

- ・芦花中学校の中学生など若い力をいかに活用していくかが大切であり、協力の依頼ができるよう日頃から繋がりを作っていくことが必要。
- ・隣近所の関係を充実することが大切、町会・自治会の加入を促す。また、行政からのアプローチも必要である。
- ・避難行動要支援者と隣近所との関係がない。

- ・上北沢一丁目には、都営アパートがあり要援護者が多いが、都営アパートは町会に入っていない。
- ・近隣の大学などと連携し、学生ボランティアの確保を図る
- ・民生委員は要援護者の名簿を持っているが、町会と連携して細かい部分を詰める必要がある。
- ・社会福祉協議会の災害福祉サポーターとも連携し、一緒に支援にあたるよう検討を進めていく。

(3) 平時から避難行動要支援者と避難支援者の見える関係を築いていく。

- ・近所の日ごろからの付き合いが大切。家庭事情や病気もある程度わかる。
- ・支援者も具体的にどこまで説明していいか不明確。
- ・避難行動要支援者の見守りに行って記録はつけているが、避難行動要支援者から担当者への入院、転居、死亡等の連絡がない。

(4) 地域内の高齢者施設と避難行動要支援者支援の連携体制を整えていく。

(5) 地域の医療機関や診療所等と怪我人や病人の対応を検討していく。

- ・災害時には病院は対応できないため、町の医者に防災塾のような場に出てきてもらい、レクチャーしていただくよう協力をお願いする。
- ・行政からもアプローチが必要。
- ・防災塾で地域・病院・看護師と連携していく。

(6) 普通救命講習会などを受講して、応急手当ができる人材を育成する。

- ・普通救命講習会を行い、救命講習の受講者を増やす。
- ・普通救命講習だけでなく、上級救命講習を定期的を実施し、地区内在住の誰もが救出や救護に当たれるようにする。
- ・少しでも協力していただける人を常日頃探しておく。

4. 上北沢地区のその他の課題

項目5 安否の確認

■課題に対する意見

- ・マンションには町会に入っている人がいない。
- ・単身者用マンションに拡げるのは難しい。
- ・オートロックのマンションの住民との接点がない。
- ・PTAは、町会の会員ではない。

項目6 他団体や組織との調整

■課題に対する意見

- ・町会自治会等の一時集合場所(公園)等に行く。
- ・小学校の避難所に行って手伝いたいが、自分たちの子ども達が元気なら良いが、ダメな場合はどうしたら良いか？

項目7 避難所の立上げ

■課題に対する意見

- ・避難所がどこに開設されるか知らない人がいる。
- ・若い人たちが自治会活動に関心が薄い。
- ・在宅避難者と避難所との連携がとれていない。
- ・避難所運営委員が日頃より準備、訓練をしている。

項目8 給食、給水の調達

■課題に対する意見

- ・新しい住民が多く、いろいろなことを(避難所)知らない人が多い。
- ・給水車が来ても水の運搬が困難⇒アパートの高層階など。
- ・使える井戸を把握している。

項目9 必要な物資の把握、調達

■意見

- ・在宅避難者の把握、声をどのように集めるか。
- ・備蓄品の数が少ない。
- ・避難所に防災倉庫がある。

上祖師谷地区防災計画

[令和7年修正]

上祖師谷地区



烏山地域キャラクター
からびよん

【上祖師谷地区防災計画作成参加団体】

(順不同)

上祖師谷自治会	祖師谷橋自治会
成城通りパークウエスト自治会	粕谷会
粕谷2丁目アパート自治会	プラウド蘆花公園防災区民組織

目次

I 上祖師谷地区の特性・防災資源及び被害想定データ

1. 上祖師谷地区の特性 …………… 上祖師谷-1(-932-)
2. 上祖師谷地区の防災資源及び被害想定データ…………… 上祖師谷-4(-935-)

II 上祖師谷地区の課題と今後の取り組み

1. 地区の課題(取組み目標) …………… 上祖師谷-8(-939-)
2. 今後の取り組み …………… 上祖師谷-9(-940-)

III 町会・自治会の防災活動や防災資源

1. 防災訓練・講習会(地区合同) …………… 上祖師谷-13(-944-)
2. 防災訓練(町会・自治会ごと) …………… 上祖師谷-14(-945-)
3. 訓練以外の防災活動…………… 上祖師谷-15(-946-)
4. 資機材等の備蓄…………… 上祖師谷-16(-947-)

参考

- 区民アンケート …………… 上祖師谷-19(-950-)

計画の目的

地域コミュニティによる防災活動を推進し、地区の防災力の向上を図るため、世田谷区では各まちづくりセンターの管轄区域ごとに地区防災計画を作成していません。

上祖師谷地区では、これまで、町会自治会が物品の備蓄や訓練等に継続して取り組んでいくこと、災害時に住民同士で助け合えるようイベント等を通じた連携づくりに重きを置き、取り組んできました。

今後も引き続き、これまでの取り組みに加え、避難所の役割や防災知識を深め、住み慣れた自宅で過ごすための備蓄等の啓発、避難所運営を円滑に進めるための訓練等の取り組みを推進し、地区の防災力向上を図ります。

I 上祖師谷地区の特性・防災資源及び被害想定データ

1. 上祖師谷地区の特性

(1) 自然特性

上祖師谷地区は上祖師谷1丁目～7丁目、粕谷1丁目～4丁目からなる区域で、面積は2.16平方キロメートルである。世田谷区の北西部にあり、調布市と隣接している。地区の東西を貫く都道118号線は交通量が多く、榎交差点より西側では、道幅が狭く慢性的に渋滞が発生していたが、令和5年4月に補助 54号線(都道)が榎交差点から祖師谷公園まで整備されたことにより、渋滞が一部緩和された。現在、祖師谷公園から西側において、都道54号線の道路整備が進められている。

地区内には、蘆花恒春園と祖師谷公園の都立公園があり、比較的農地も残る閑静な住宅街である。近年ではマンション建設や宅地等開発が進み、人口の割合では若年層数に比べて高齢者数の割合が増えてきている。

(2) 人口・世帯数

(令和6年3月1日現在)

人口	32,503人	細街路率	29.8%
世帯数	16,006世帯	昭和56年以前 木造建物棟数密度	80.9棟/k㎡
1世帯あたり	2.03人	耐火率(建築面積ベース)	57.7%
若年層数 (15才未満)	4,205人	土地利用(宅地)	64.4%
若年層率 (15才未満)	12.9%	土地利用(宅地以外)	35.6%
高齢者数 (65才以上)	6,436人		
高齢者率 (65才以上)	19.8%		
昼間人口	22,555人		
夜間人口	33,120人		
昼夜間人口比	0.68		



(3)町会自治会

町会自治会	区域	会員世帯数	住民基本台帳登録人数(令和6年4月1日現在)
上祖師谷自治会	上祖師谷1丁目1～40番、2丁目1～18・25～33・36～38番・3丁目1～4・7～23番、4丁目1・3～39番、5丁目全域、6丁目1～17・26～31番・7丁目全域、祖師谷6丁目23～33番、成城9丁目23～24番	2,900世帯	9,452世帯 19,000人
祖師谷橋自治会	上祖師谷2丁目19～24・34・35番(7・9番一部)、6丁目18～25番	330世帯	426世帯 868人
成城通りパークウエスト自治会	上祖師谷4丁目2番	150世帯	397世帯 890人
粕谷会	粕谷1丁目全域、2丁目1～18・20～24番、3・4丁目全域、八幡山2丁目19・23～25番	2,200世帯	6,184世帯 12,909人
粕谷2丁目アパート自治会	粕谷2丁目19番	265世帯	293世帯 454人

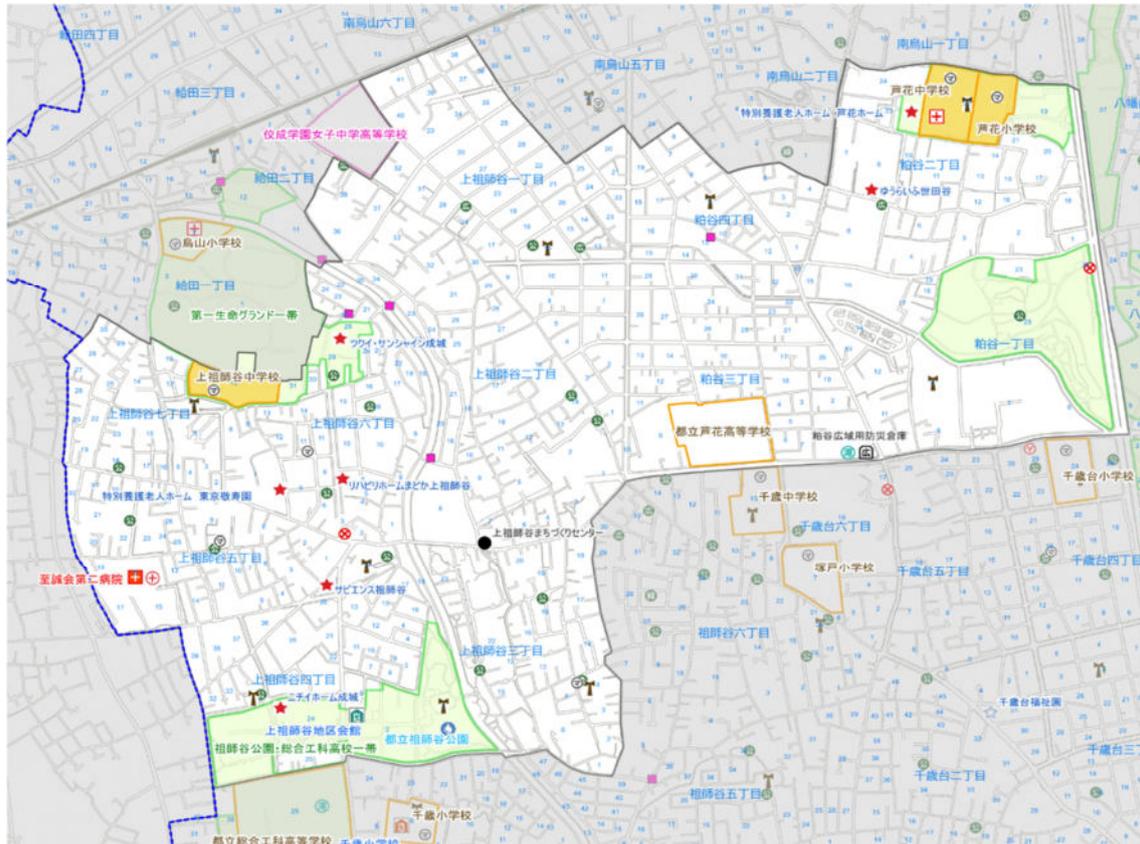


(4)災害時使用施設等(管内および近隣)

項目	施設名
広域避難場所 (都指定)	芦花公園・明大八幡山グラウンド一帯、 祖師谷公園・総合工科高校一帯、第一生命グラウンド一帯
一時集合所	上祖師谷1丁目公園、上祖師谷広場、 上祖師谷パンダ公園、神明社境内、上祖師谷4丁目公園、 上祖師谷5丁目公園、大道北記念公園、 上祖師谷7丁目公園、上祖師谷中学校、 祖師谷橋周辺、駒大グラウンド、祖師谷公園、 第一生命グラウンド、 成城通りパークウエスト内工作室前広場、 芦花公園、芦花小学校・芦花中学校
指定避難所	芦花小学校、芦花中学校、上祖師谷中学校、烏山小学校
予備避難所	都立芦花高等学校
福祉避難所【母子】	佼成学園女子中学高等学校
福祉避難所【高齢者】	特別養護老人ホーム芦花ホーム、 特別養護老人ホーム東京敬寿園、サピエンス祖師谷、 ツクイ・サンシャイン成城、ニチイホーム成城、 ゆうらいふ世田谷、リハビリホームまどか上祖師谷
水害時避難所【第2次】	上祖師谷地区会館、烏山区民センター
避難所救護所	芦花中学校、烏山小学校
東京都災害拠点病院・緊急医療救護所	至誠会第二病院
帰宅支援ステーション (都指定)	都立芦花高等学校、都立総合工科高等学校
マンホールトイレ <7か所>	芦花小学校・芦花中学校、上祖師谷中学校、 烏山小学校、都立蘆花恒春園、上祖師谷パンダ公園、 大道北記念公園、上祖師谷五丁目公園
防災無線塔 <8ヶ所>	上祖師谷保育園、上祖師谷神明公園、 上祖師谷カナナ緑地、上祖師谷パンダ公園、 上祖師谷四丁目公園、烏山土木公園管理事務所、 烏山土木公園管理事務所資材置場、芦花小学校
給水拠点(都指定)	祖師谷公園(応急給水槽)
広域用防災倉庫	粕谷広域用防災倉庫
土のうステーション	粕谷区民センター、上祖師谷6丁目、祖師谷橋、 祖師谷中橋、みどり橋
警察署・交番	芦花公園地域安全センター、上祖師谷駐在所
消防署・出張所	烏山出張所・千歳出張所

2. 上祖師谷地区の防災資源及び被害想定データ

■防災資源マップ



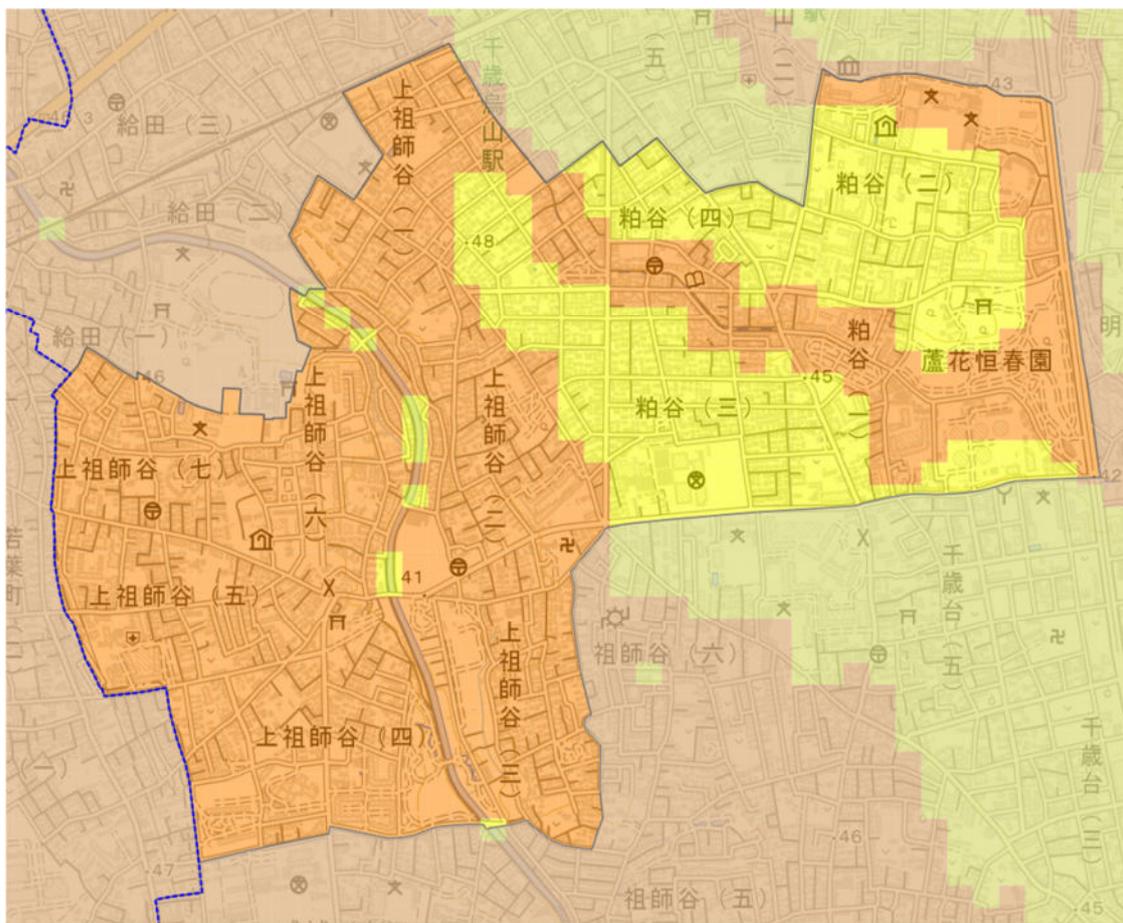
- | | |
|--------------------|-------------------|
| ◎ 総合支所 | ■ 広域避難場所 |
| ● まちづくりセンター | ■ 指定避難所 |
| ⊕ せたがや災害ボランティアセンター | ■ 予備避難所 |
| ⊞ 広域防災倉庫 | ■ 母子避難所 |
| ⦿ 給水拠点 | ★ 福祉避難所(高齢者) |
| ⌒ 防災行政無線塔 | ☆ 福祉避難所(障害者) |
| Ⓜ マンホールトイレ | 🏠 水害時避難所(第1次) |
| ■ 土のうステーション | 🏠 水害時避難所(第2次) |
| 🚓 警察署 | 🔹 野川・仙川洪水時避難所 |
| 🚔 交番 | 📍 水害時避難所(狛江市) |
| 🚒 消防署 | 📍 土砂災害時避難所 |
| 🚒 消防出張所 | 🏠 避難所救護所 |
| 📍 身近な広場 | 🏠 東京都災害拠点病院 |
| 📍 公園 | 🏠 東京都災害拠点連携病院 |
| 📍 緑地 | 🏠 緊急医療救護所 |
| | 🚰 一時滞在施設 |
| | 🏠 帰宅困難者支援施設 |
| | ⊕ ボランティアマッチングセンター |
| | 🚑 輸送拠点等 |
| | 🚗 一時避難施設(車中避難) |

■被害想定

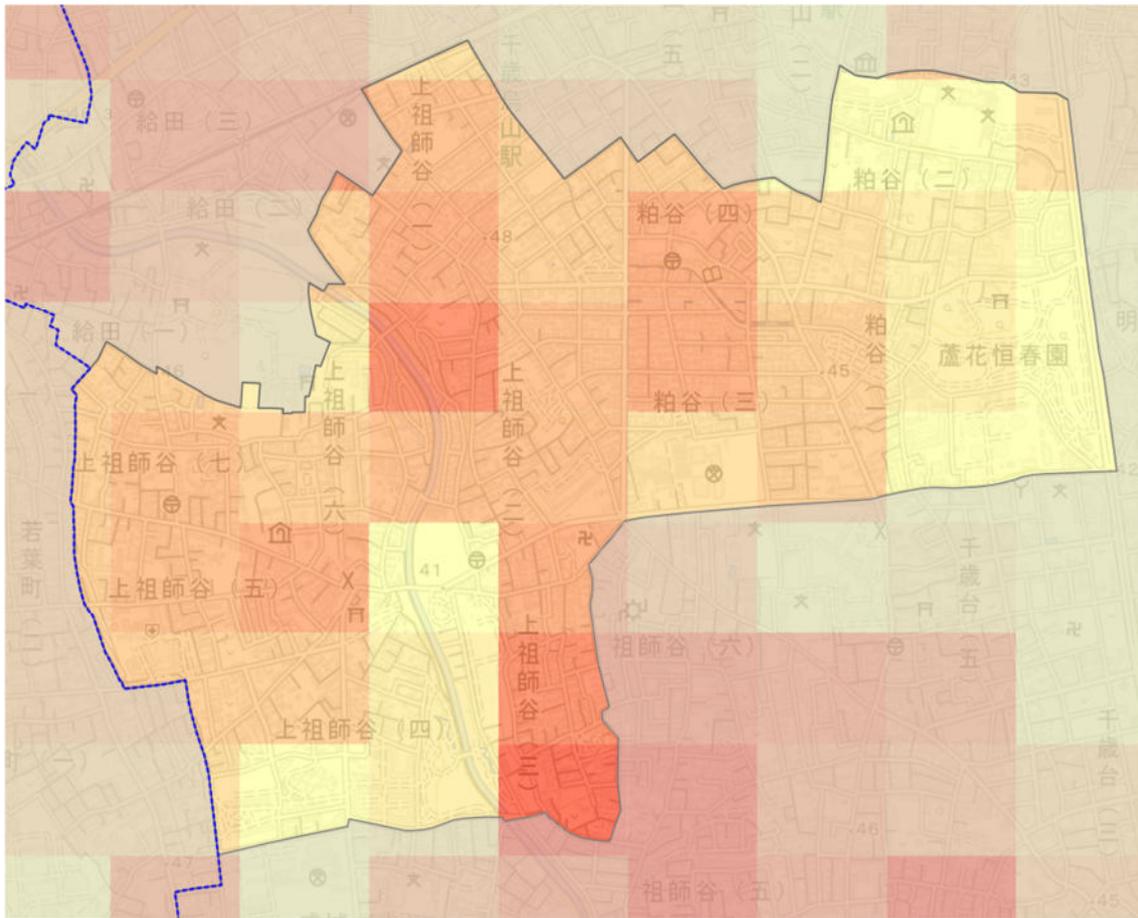
都心南部直下地震(M7.3)が発生した場合の被害想定

全壊棟数	121棟
半壊棟数	414棟
全焼棟数(倒壊建物含まず)	913棟
死者	22人
負傷者	241人
うち重傷者	41人

■震度分布

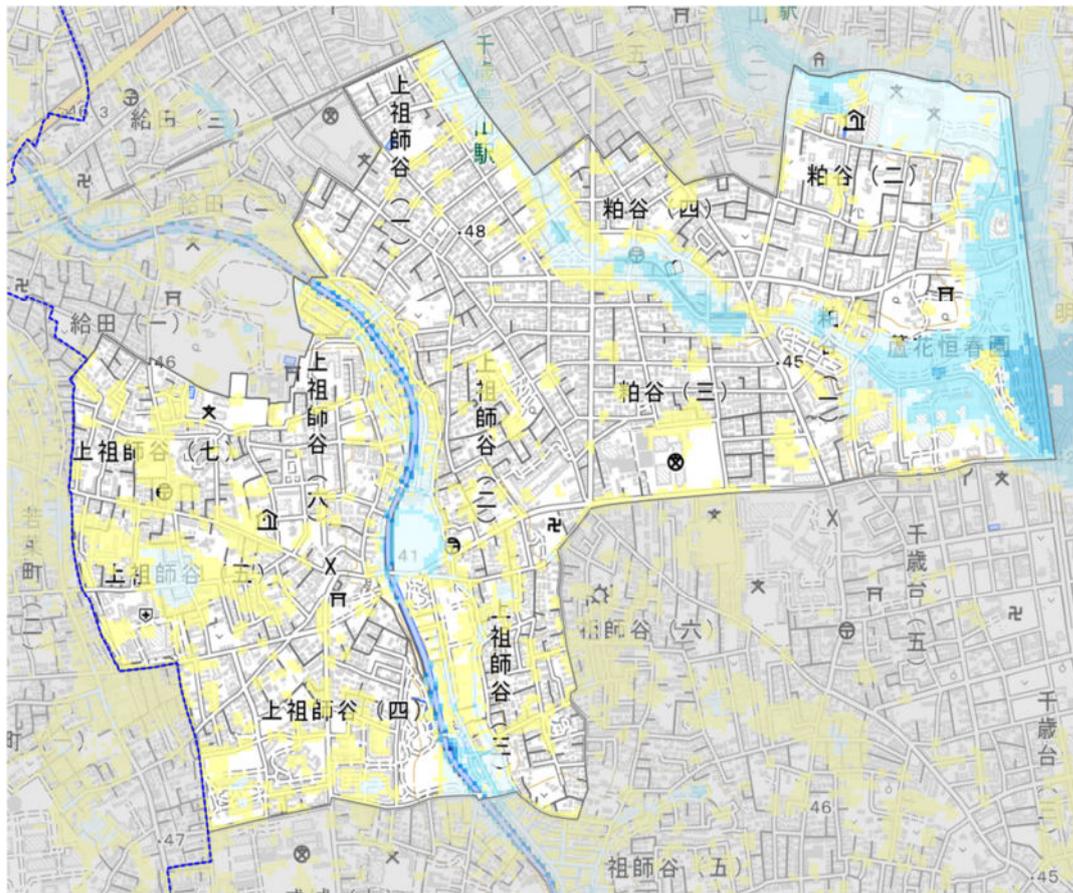


■被害棟数分布



■浸水想定(内水氾濫・中小河川洪水版)

「世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ(令和5年7月)」による浸水想定



出典

- ・世田谷区の町丁別人口と世帯数 令和6年3月1日現在
- ・世田谷区の年齢別人口 令和6年3月1日現在
- ・令和2年国勢調査による東京都の昼間人口(従業地・通学地による人口)第11表
- ・世田谷区土砂災害ハザードマップ 令和6年7月発行
- ・世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ 令和6年7月発行
- ・世田谷の土地利用 2021 世田谷区土地利用現況調査
- ・世田谷区 GIS オープンデータ
- ・地域危険度一覧表(地震に関する地域危険度測定調査[第9回])令和4年9月
- ・首都直下地震等による東京の被害想定 報告書 令和4年5月25日
- ・世田谷区防災マップデータ 令和6年3月

Ⅱ 上祖師谷地区の課題と取り組み

1. 地区の課題(取組み目標)

(1)町会・自治会が行っている日頃からの防災活動の継続

災害時に速やかに行動するためには、日頃から各人が防災意識を持って家庭や地域での災害に備えていくことが大切となる。

町会自治会が行っている防災訓練やD型可搬式ポンプ操作訓練、物品備蓄等の防災活動を、地区における日頃の備えとして、今後も継続して取り組んでいく。

(2)震災時に避難所を円滑に開設できる様になるための取組み

町会自治会、小中学校 PTA 等では、世田谷区に協力して、避難所運営委員会として指定避難所の開設運営の役割を担っている。

震災時には、避難所運営委員会が避難者や地域住民と協力して避難所を開設することを目標に、平常時における避難所運営訓練をはじめとした活動に取り組んでいく。

(3)震災時に自宅等で過ごせるように在宅避難を推奨する

避難所は自宅で居住できなくなった住民が生活する場所であり、狭いスペースやプライバシーなど快適とは言えない環境となる。

一方で避難所の役割を理解していない住民もまだまだ多い。

震災時に一人でも多くの住民が自宅での居住が継続できるよう、また、日常的に防災意識を持ち続けてもらうための機会として、正しい防災知識と、自宅の安全性を高めることや食料・生活用品備蓄などのPRに努めていく。

(4)若しもの時に助け合えるよう、地域行事や活動を通じた住民同士の連携づくり

地区のお祭りや地域清掃等の地域行事では、大勢の地区住民が関わり、人と人とのつながりが自然にできる絶好の機会となっている。

今後も地域行事や活動を通じて、住民同士の親睦を深め、いざというときに助け合える関係づくりを進めことで地区の防災力の強化を図る。

2. 今後の取り組み

(1)日頃からの防災活動の継続

町会・自治会共通

- ①世田谷区に協力して、避難所運営委員として避難所の運営に参加協力する。
- ②町会自治会連合会において防災啓発に関するチラシを定期的に発行し、会員に回覧等周知していくことで、防災意識の向上に取り組んでいく。
- ③町会自治会連合会において普通救命講習会を毎年開催し、救命活動に必要な知識や技術を持った会員の育成に努める。
- ④祖師谷公園の防災イベントに、D 型可搬式ポンプを保有する上祖師谷自治会、祖師谷橋自治会、粕谷会が協力して参加する。地域住民への防災啓発の場だけではなく、自治会間の連携づくりの機会となっている。
- ⑤自治会合同でスタンドパイプの訓練を実施していく。

上祖師谷自治会

- ①D 型可搬式ポンプの操作訓練を定期的実施し、迅速な対応に繋げていく。

祖師谷橋自治会

- ①D 型可搬式ポンプやスタンドパイプの操作訓練を定期的実施し、迅速な対応に繋げていく。
- ②自治会交流会において、組み立て式煮炊きレンジを使用した炊き出し訓練を行う。今後は、消火訓練や煙中避難訓練などの防災訓練メニューを取入れていくこと検討・実施する。
- ③区と災害時要支援者支援協定に基づき、災害時には自治会内の要配慮者の安否確認を行う。

成城通りパークウエスト自治会

- ①住人用の簡易トイレや食料等を備蓄し、在宅避難の推進を図る。
- ②上祖師谷ぱる児童館と共催で防災訓練を実施する。

粕谷会

- ①避難所や祖師谷公園防災イベント等に関する防災会議を防火・防災部で開催する。
- ②D 型可搬式ポンプの操作訓練を定期的実施し、迅速な対応に繋げていく。
- ③初期消火活動の取り組みとして、粕谷区民センターと連携した消火器訓練の実施、町会回覧による消火器の備えに関する啓蒙活動を行う。
- ④芦花ホームの防災訓練に防火・防災部が参加・協力する。
- ⑤消火器の設置場所を掲載した町会マップを作成し、会員世帯に配布する。

粕谷2丁目アパート自治会

- ①消火器が全戸に設置されているので、いざという時に正しく使えるよう、今後、訓練を行っていく。
- ②自治会で一括購入した簡易トイレを全戸に配布し、在宅避難の推進を図る。

(2)避難所を円滑に開設するための取組み

①定期的な避難所運営訓練の実施

避難所を円滑に運営するために、委員全員を対象にした訓練及び全体会議を毎年実施する。

訓練内容については、開設訓練のほか、開設後の給食・物資や救護・衛生に係る訓練や委員から避難者への運営の引き継ぎ等、これまで行っていない項目の実施についても検討していく。

②年間通した避難所運営会議等の実施

避難所運営訓練のほか、正副責任者を対象に、訓練後日に課題等を確認するための反省会、資機材操作等の勉強会等、年間を通じて活動できるよう検討し、取り組んでいく。

③一般の住民に避難所を知ってもらう機会を作る

避難所訓練にあわせて、一般の住民が参加できる防災フェスを開催し、避難所を知ってもらう機会を提供する。防災フェスでは、避難所は自宅で居住できなくなった方が生活する場所であることや、委員と避難者の共助によって運営されることも伝えていく。

④誰もが避難所を開設できる環境づくりを考える

震災時に、リーダーやベテランの委員が参集できない場合に備えて、避難所の開設作業や運営方法の簡素化について考えていく。

(3)在宅避難の推奨

①在宅避難の推奨チラシによる周知・啓発

「地震が起きたら避難所へ」という住民もまだ多いことから、町会自治会連合会において定期的に「防災上祖師谷」(在宅避難を推奨するチラシ)を作成して、地域住民への周知に努める。

周知方法は、町会回覧や上祖師谷まちづくりセンターでの配布・配架のほか、地区まちづくり事業での配布、まちづくりセンターホームページへの掲載等を行っていく。

②防災フェスによるイベントを通じた在宅避難の周知・啓発

在宅避難の動機付けを高めるために、避難所の実態を分かりやすく知ってもらえるよう、防災フェス(地区防災訓練)において、運営訓練で設置した避難スペースや簡易トイレ等の体験や見学の機会を図っていく。

③新しい広報媒体や手法等の検討

上祖師谷地区のミニコミ紙へ防災啓発記事の掲載、まちづくりセンターでの在宅避難啓発物品の見本展示や避難所の役割を紹介するパネルの掲示、地区イベントでの防災啓発等、様々な啓発方法を検討し、実施する。

(4)地域活動を通じた住民同士の連携づくり

①地区のまちづくり活動・事業

青少年地区委員会、身近なまちづくり推進協議会、ごみ減量・リサイクル推進委員会の事業を通じて、委員と参加者による様々なコミュニティづくりの機会を図る。また、引き続き学生や活動団体等の参加協力をいただく等、参加団体間や参加者様々な方々の幅広い交流機会を図っていく。

②町会自治会での活動

町会自治会では、町会自治会の地域清掃や交流会等の事業を通じて、住民同士の親睦を深めるとともに、事業参加者同士がお互いに顔が見える機会によって、日々の見守り等の契機にしていく。

「町会自治会での主な交流活動」

上祖師谷自治会

- ・「さくらフェス」、「いこいのコンサート」の開催。
- ・「元気はつらつ」の開催。
- ・「夏休み子ども会」の開催。
- ・地元神社の祭礼への協力。蘆花まつりにおける模擬店の出店協力。
- ・地域清掃(ごみゼロデー)の実施。
- ・全国交通安全運動への協力。「トライアングルフェスタ」の交通整理の協力。

祖師谷橋自治会

- ・自治会会員を対象の「自治会交流会」、「住民懇談会」の開催。
- ・地域清掃(ごみゼロデー)の実施。
- ・地元神社の祭礼への協力。
- ・全国交通安全運動への協力。

成城通りパークウエスト自治会

- ・上祖師谷ぱる児童館と共催による防災訓練の実施。
- ・上祖師谷ぱる児童館が実施する「夕涼み縁日」、「ぱる・こどもおもちつき」への協力。
- ・介護予防体操の開催。

粕谷会

- ・「ドローンプログラミング教室」、「スマートフォン教室」の開催。
- ・地域清掃(ごみゼロデー)、夏休みラジオ体操の実施。
- ・蘆花まつりにおける模擬店の出店協力。
- ・全国交通安全運動への協力。「トライアングルフェスタ」の交通整理の協力。

粕谷2丁目アパート自治会

- ・買い物を通じて交流を図る「移動販売」、「ゲームの会」の実施。
- ・清掃活動の実施。

③その他地区イベント等

祭事や伝統行事、地域イベント等の開催を通して、親睦や交流を深めていく。

「上祖師谷地区の主なまちづくり・イベント」

開催時期	名称	会場
2月	粕谷区民センター子どもまつり	粕谷区民センター
3月	さくらフェス	都立祖師谷公園
4月	花の丘さくらまつり	都立蘆花恒春園花の丘
5月	古着・古布回収	粕谷区民センターほか
8月	粕谷区民センター夕涼み会	粕谷区民センター
9月	花の丘ひまわりまつり	都立蘆花恒春園花の丘
10月	上祖師谷神明社祭礼	上祖師谷神明社
10月	いこいのコンサート	都立祖師谷公園
10月	古着・古布回収	粕谷区民センターほか
10月	蘆花まつり	都立蘆花恒春園
11月	粕谷区民センター文化祭	粕谷区民センター
11月	トライアングルフェスタ	都立祖師谷公園ほか
11月	祖師谷公園防災イベント	都立祖師谷公園
12月	千歳地区農業感謝まつり	JA 東京中央千歳支店

Ⅲ 町会・自治会の防災活動や防災資源

1. 防災訓練・講習会(地区合同)

(1)地区防災訓練

実施場所	回数(年間)	町会自治会名
烏山小学校	1回 防災フェス	上祖師谷自治会、祖師谷橋自治会、
芦花小中学校	1回 防災フェス	粕谷会、粕谷2丁目アパート自治会

(2)避難所運営訓練

実施場所	回数(年間)	町会自治会名
烏山小学校	1回	上祖師谷自治会、祖師谷橋自治会
上祖師谷中学校	1回	上祖師谷自治会、祖師谷橋自治会、 成城通りパークウエスト自治会
芦花小中学校	1回	粕谷会、粕谷2丁目アパート自治会

(3)普通救命講習

実施場所	回数(年間)	町会自治会名
上祖師谷地区会館	1回	上祖師谷自治会、祖師谷橋自治会、 成城通りパークウエスト自治会、 粕谷会、粕谷2丁目アパート自治会

(4)防災イベント

実施場所	回数(年間)	町会自治会名
祖師谷公園	1回	上祖師谷自治会、祖師谷橋自治会、 粕谷会

2. 防災訓練(町会・自治会ごと)

実施場所	防災訓練の内容	回数(年間)	実施場所
上祖師谷自治会	D型ポンプ操作訓練	1回	祖師谷公園
祖師谷橋自治会	D型ポンプ・スタンド パイプ操作訓練	月1回	みどり橋付近
	炊き出し訓練	1回	上祖師谷神明社
成城通りパークウエスト自治会	防災訓練 (上祖師谷ぱる児童館 と共催)	1回	成城通りパークウエスト敷地内
粕谷会	D型ポンプ操作訓練	年3回位	粕谷八幡神社
プラウド蘆花公園防災区民組織	防災訓練	1回	マンション敷地内

3. 訓練以外の防災活動

町会自治会 ・団体名	上祖師谷 自治会	祖師谷橋 自治会	成城通り パークウエ スト自治会	粕谷会	粕谷2丁目 アパート 自治会	プラウド 蘆花公園 防災組織
要配慮者 支援	日頃からの 見守り活動	日頃からの 見守り活動		日頃からの 見守り活動		
要配慮者 協定		締結済				
防災に関する 会議・打 合せ	実施してい る (年2回くら い)			実施してい る ・粕谷会防 災部(年6 回) ・粕谷会消 火隊D型ポ ンプ(不定 期(3~4 回))		実施してい る (年1回)
防災マッ プ、マニユ アルの作成		作成済 (自治会の 概略図に消 火栓や消火 器の位置を 載せてい る)		作成済 (掲載項目: 一時集合 所・広域避 難場所・避 難所・街路 消火器・防 火水槽・震 災用井戸・ 消火栓)		防災マニユ アルの作成
区以外の他 団体との 協力	近隣の 町会自治会	近隣の 町会自治会	近隣の 町会自治会	近隣の町会 自治会、芦 花小中学 校、芦花 ホーム	近隣の 町会自治会	近隣の 町会自治会
災害時の 連絡方法	防災部内の 連絡網あり	防災部内の 連絡網あり	役員の連絡 網あり	防火・防災 部内の連絡 網あり		シート型ホ ワイトボード に記入

※防災士の人数については把握していない。

4. 資機材等の備蓄

(1) 消火活動

町会自治会・団体名	名称	台数	設置場所
上祖師谷自治会	D型ポンプ	2台	D型可搬式ポンプ格納庫
祖師谷橋自治会	スタンドパイプ	2台	D型可搬式ポンプ格納庫
	D型ポンプ	1台	
	震災対策用消防ポンプ用水槽	1台	
	消火器	1台	D型可搬式ポンプ格納庫
		2台	防災倉庫
成城通りパークウエスト自治会	消火器	複数台	各棟各階廊下
粕谷会	スタンドパイプ	1台	防災倉庫
	D型ポンプ	1台	
粕谷2丁目アパート自治会	消火器	全戸数	各戸入口
プラウド蘆花公園 防災区民組織	消火器	44台	住宅内部廊下
	屋内消火栓	16ヶ所	1～4階4か所

(2) 救出・救助活動

町会自治会・団体名	名称	個数	保管場所
上祖師谷自治会	リアカー	1台	神明社納屋 D型可搬式ポンプ 格納庫
	はしご	1台	
	担架	1台	
	ヘルメット	3個	
	バール	2本	
	スコップ	2本	
	テント+三方幕	2張	
	ジャッキ	2本	
	救命工具セット	2セット	
	手おの	1本	
	両口ハンマー	1本	
	のこぎり	1本	
	ビニールシート、ハンドマイク、ボルトカッター、ロープ		
祖師谷橋自治会	リアカー	1台	自治会長宅 D型可搬式ポンプ
	担架	4台	

町会自治会・団体名	名称	個数	保管場所
	ヘルメット	12個	格納庫 防災倉庫
	救助工具セット3セット (レスキューキットリュック型2セット:平 バール・ボルトカッター、折込みのこ ぎり、大ハンマー、誘導用ロープ) (レスキューキット1セット:平バール、ボ ルトカッター、のこぎり、シャベル、手 おの、誘導用ロープ、両口ハンマー、 油圧ジャッキ、ホワイトシート)		
	バール	3本	
	スコップ	2本	
	消防とび口	2本	
	テント	2基	
	救急セット	1式	
	成城通りパークウエ スト自治会	三角巾	
ヘルメット		35個	
バール		1本	
スコップ		3本	
両口ハンマー		1本	
粕谷会	ヘルメット	5個	防災倉庫
	バール	2本	
	スコップ	4本	
	両口ハンマー	2本	
プラウド 蘆花公園 防災区民組織	リアカー	1台	2階備蓄倉庫
	脚立	1脚	
	担架	2台	
	救急セット	1セット	
	ヘルメット	9個	
	救助工具セット	1セット	
	バール	1本	
	スコップ	3本	
	手おの	1本	
	のこぎり	1本	
	ジャッキ	1本	
	両口ハンマー	1本	

町会自治会・団体名	名称	個数	保管場所
	つるはし	1本	
	油圧ジャッキ、ボルトカッター、ロープ、ビニールシート、ハンドマイク、軍手		

(3)食糧・生活必需品

町会自治会・団体名	名称	台数	設置場所
上祖師谷自治会	照明	4台	D型可搬式ポンプ格納庫
祖師谷橋自治会	カセットコンロ	1個	D型可搬式ポンプ格納庫
	照明	7台	格納庫
	発電機	3台	防災部長宅
	蓄電池セット	2セット	防災倉庫
成城通りパークウエスト自治会	炊き出し用セット	1式	
	飲料水	100本	自治会防災倉庫
	カセットコンロ	4個	
	非常用トイレ	200個	
	照明	1台	
	発電機	2台	
給水タンク	1個		
	パン缶詰96缶、大なべ、ジャグ		
粕谷会	発電機	2台	防災倉庫
	蓄電池セット	1セット	
粕谷2丁目アパート自治会	発電機	1台	防災倉庫
プラウド蘆花公園 防災区民組織	カセットコンロ	3台	2階備蓄倉庫
	非常用トイレ	各戸20(全87戸)	
	照明	2台	
	蓄電池セット	2セット	
	給水タンク	各戸1(全87戸)	
	組立トイレ2、小水用ポット3、トイレ用テント5、防災ポンプ1、防災毛布2、ラジオ2		
※水・食糧の備蓄なし(各自準備するよう啓蒙)			

参考：区民アンケート（上祖師谷地区）

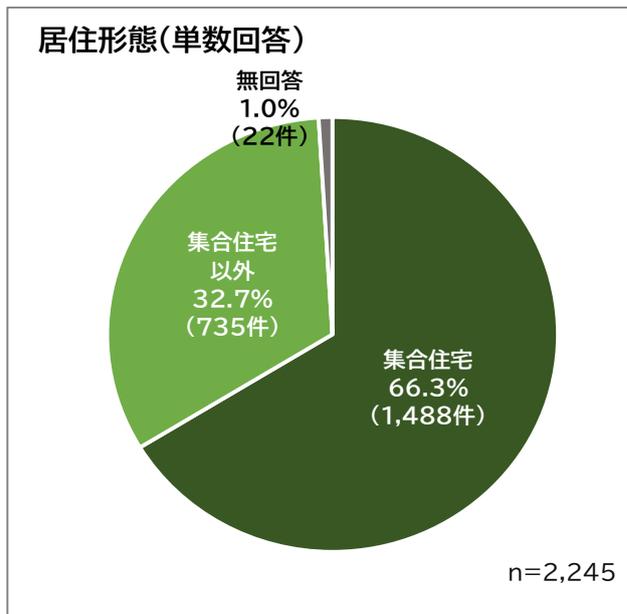
このアンケートは、今後の区内各地域及び地区における災害関連施策の検討や取組みに活用することを目的として、令和6年度に災害対策課が実施した「在宅避難支援事業(防災カタログギフト)」に合わせて行ったものである。

なお、以下に記載している回答集計結果は、カタログギフト申込者のうち、WEBで申し込みをした区民へ任意での回答を依頼し、令和6年8月9日から9月8日までに回収できた分である。

単純集計(1/5)

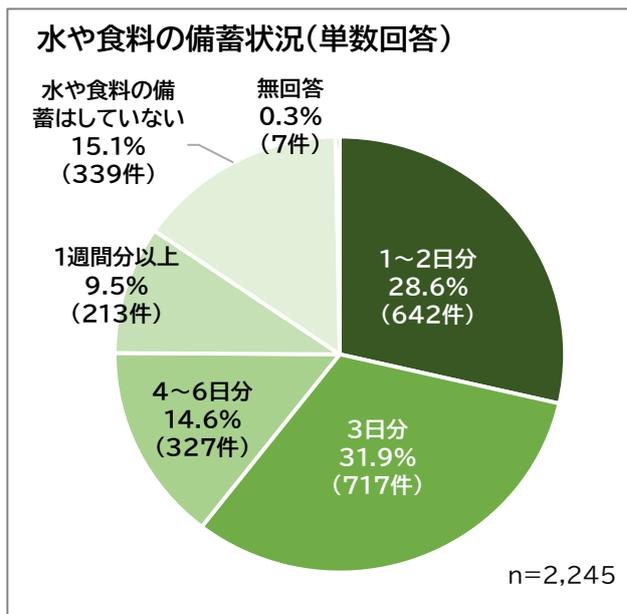
居住形態

【1】あなたはマンションなどの集合住宅にお住まいですか。



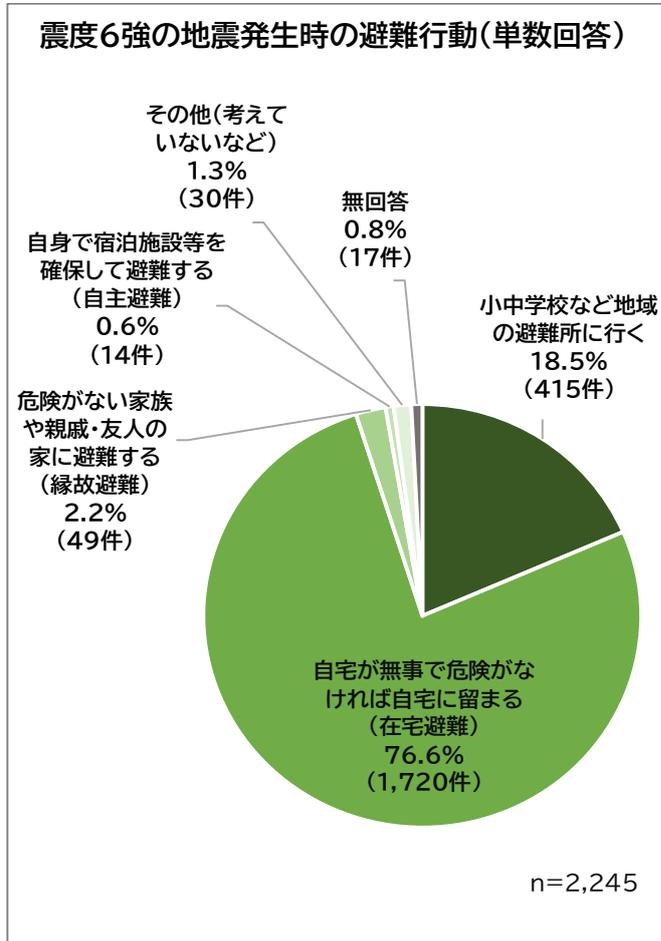
水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。



震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



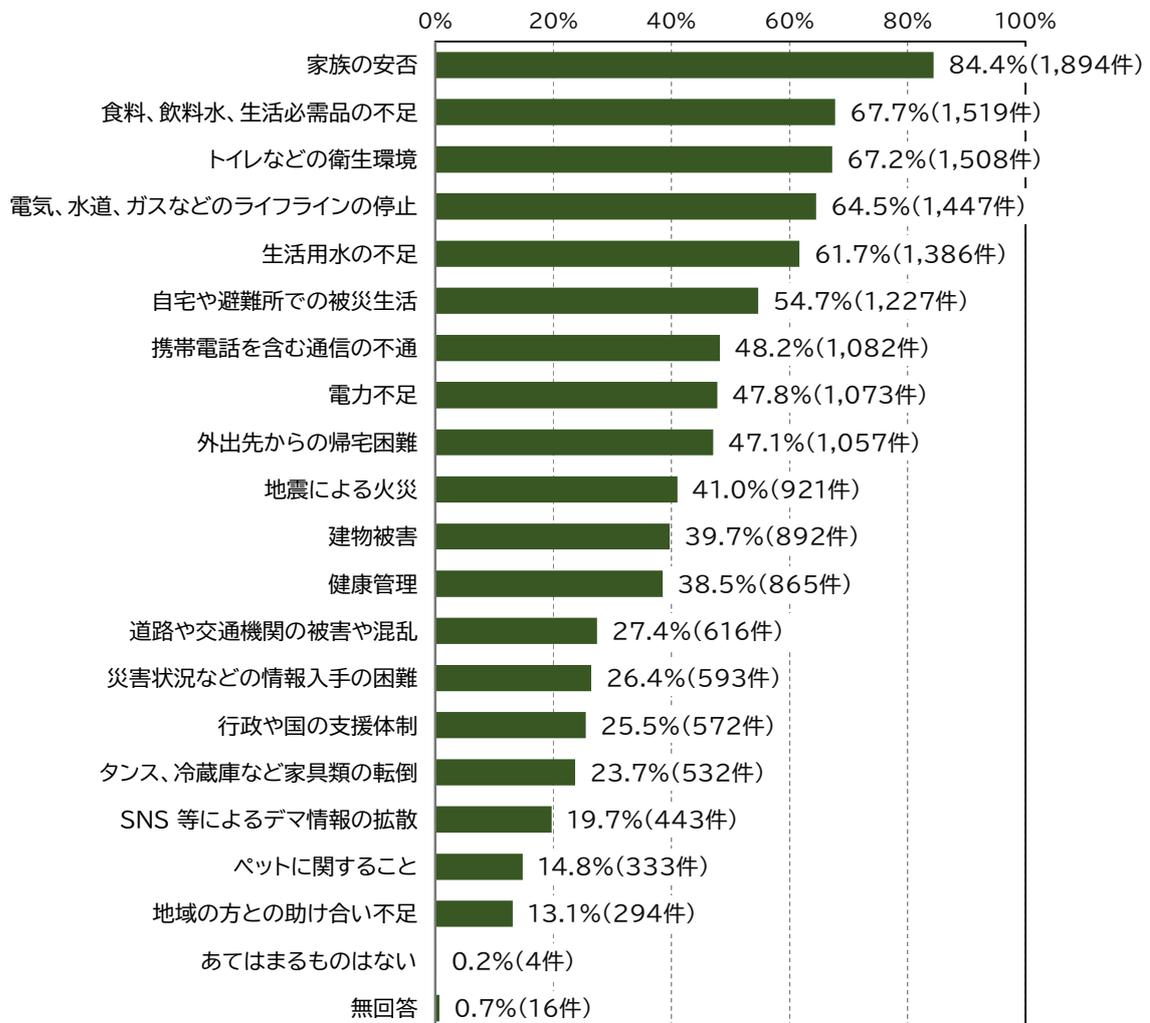
区民アンケート（上祖師谷地区）

単純集計 (3/5)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

災害時の心配ごと(複数回答)



n=2,245

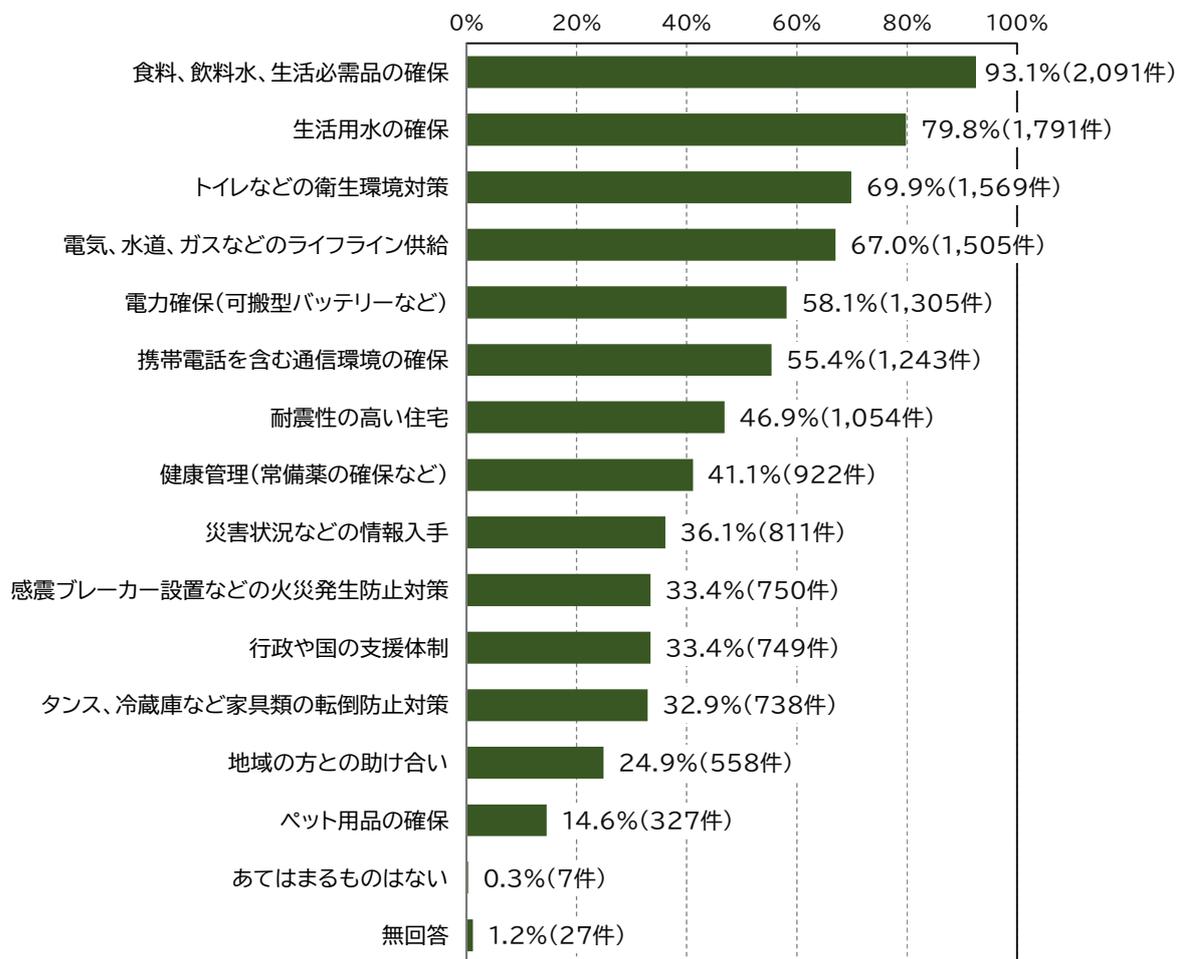
区民アンケート（上祖師谷地区）

単純集計(4/5)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

在宅避難をするために必要だと思うこと(複数回答)



n=2,245

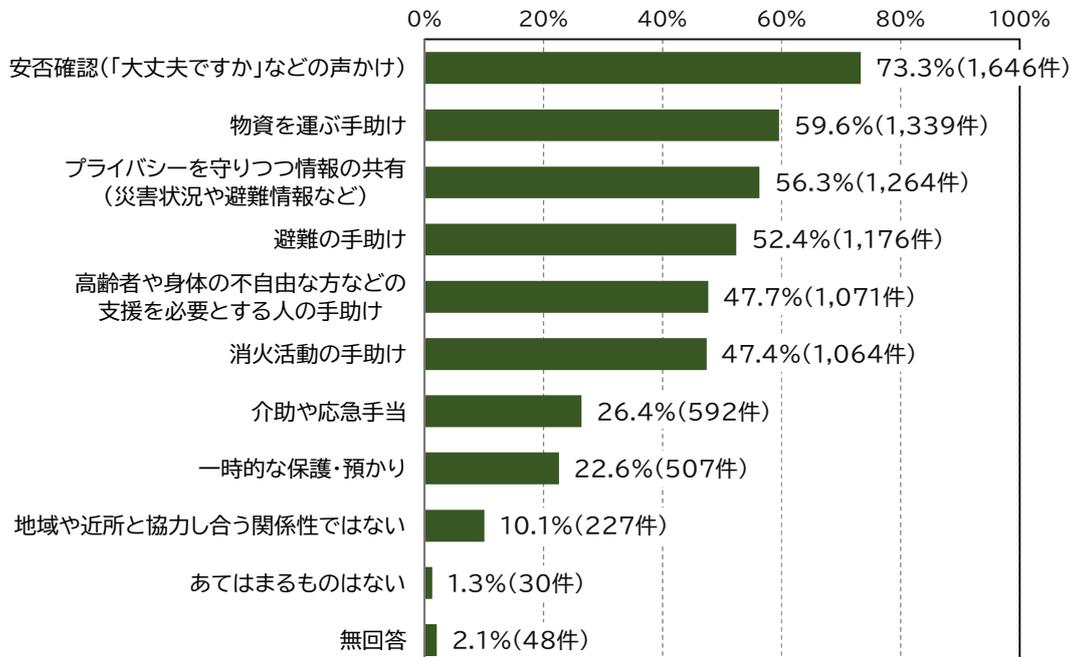
区民アンケート（上祖師谷地区）

単純集計(5/5)

災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。

災害時にできる住民同士の支援(複数回答)

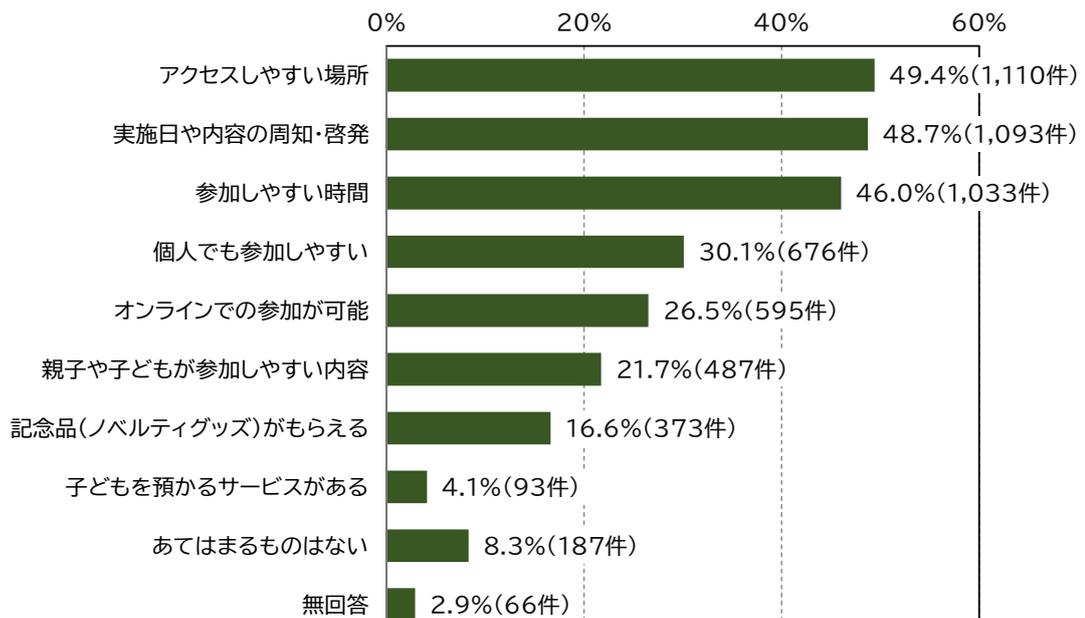


n=2,245

防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加しようと思いますか。

防災訓練や防災教室への参加意向(複数回答)



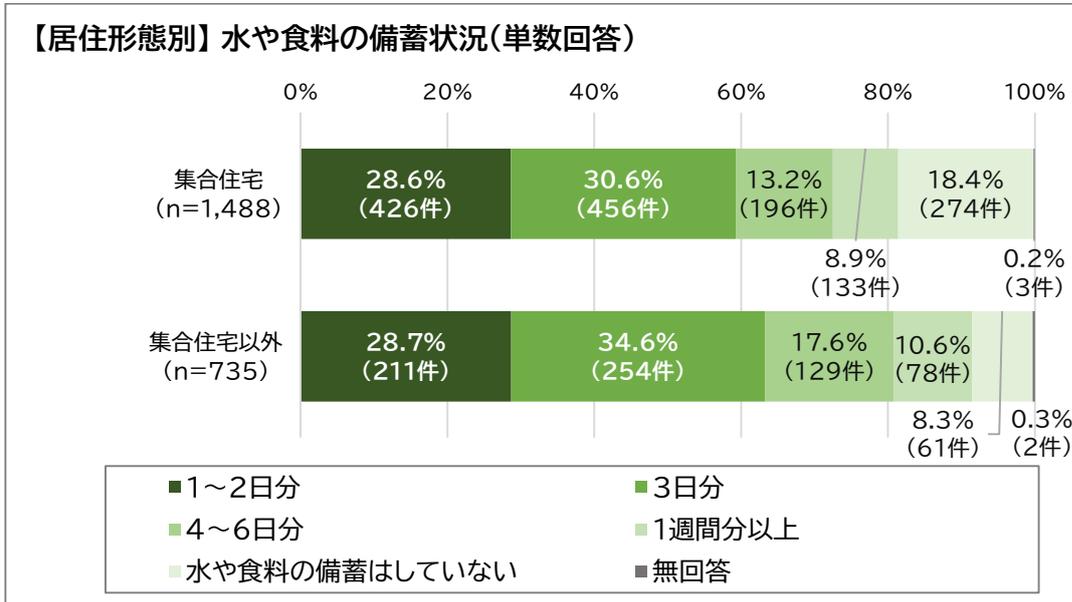
n=2,245

区民アンケート（上祖師谷地区）

クロス集計(1/4)

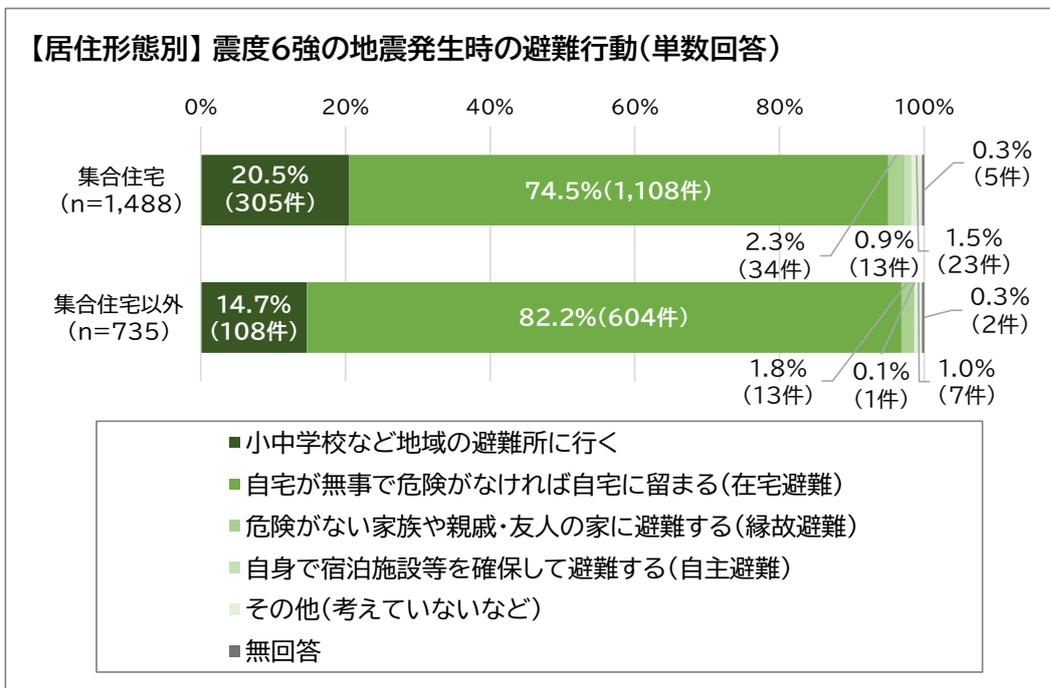
水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。



震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



区民アンケート（上祖師谷地区）

クロス集計 (2/4)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。



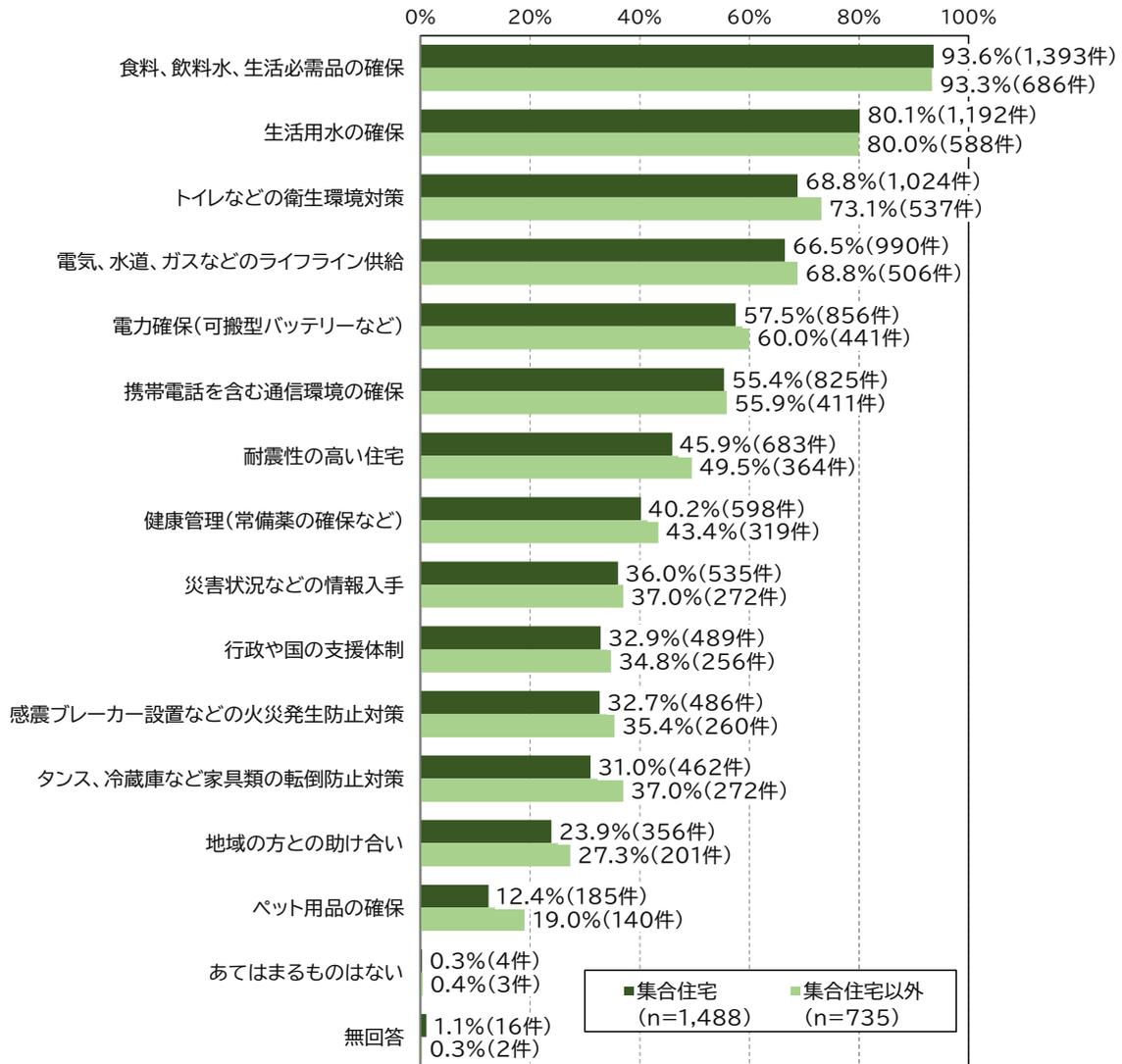
区民アンケート（上祖師谷地区）

クロス集計(3/4)

在宅避難をするために必要だと思うこと

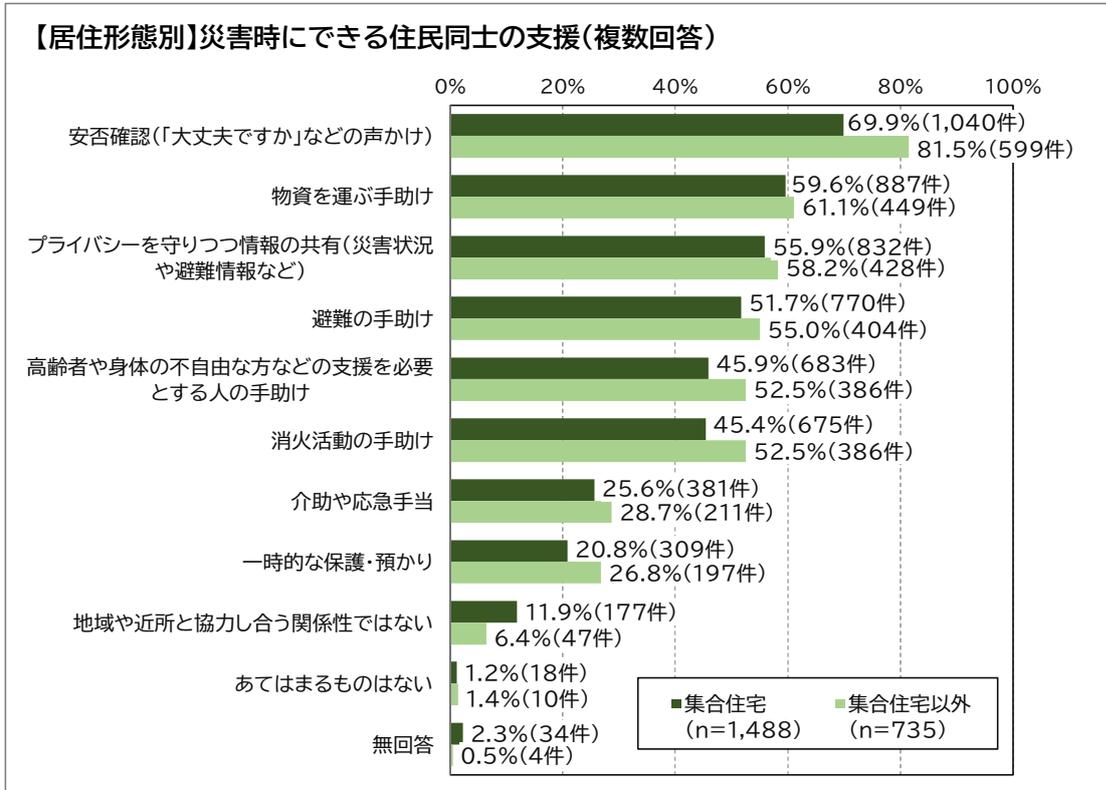
【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

【居住形態別】在宅避難をするために必要だと思うこと(複数回答)



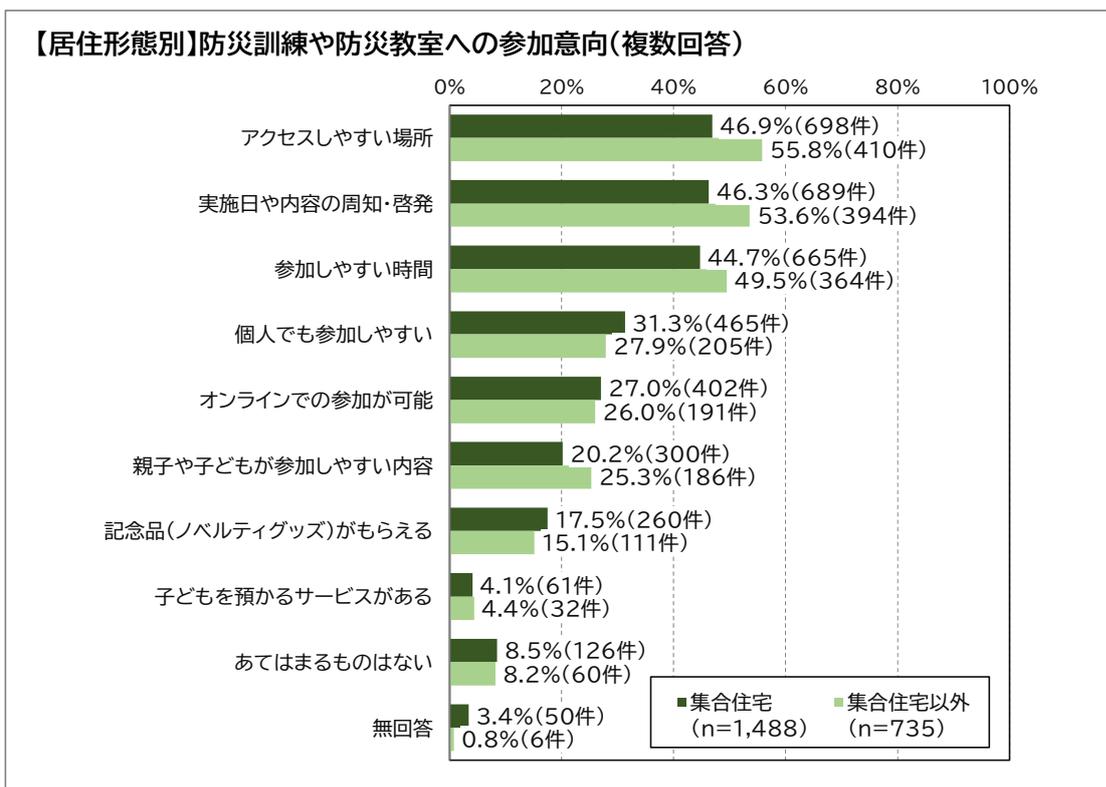
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加したいと思いますか。



烏山地区防災計画

[令和7年修正]

烏山地区

【烏山地区防災計画作成団体】

給田町会	給田西住宅管理組合	給田南住宅自治会
烏山上町会	コーシャハイム千歳烏山 住宅自治会	烏山中町会
北烏山2丁目アパート自治会	烏山寺院連合会	あやめ会
親和会	コートヒルズ久我山自治会	北烏山青葉団地管理組合
烏山北住宅自治会	烏山北住宅賃貸自治会	北烏山みむね管理組合
烏山下町会	千駄山町会	児ヶ谷会
コーシャハイム芦花公園自治会	芦花公園団地自治会	パークアベニュー芦花公園 自治会
日商岩井北烏山マンション 管理組合	烏山南住宅団地管理組合 法人防災会	久我山ガーデンヒルズ管理組合
烏山駅前通り商店街振興組合 地域防災部	区営北烏山8丁目アパート自治会地 域防災部	芦花公園パーク・ホームズ 管理組合防災本部
ネオコーポ芦花公園防災委員会	ザ・パークハウス千歳烏山 グローリオ管理組合	コーシャハイム久我山防災会

目次

- 1 烏山地区の特性 烏山-1(-962-)
 - (1)自然特性 烏山-1(-962-)
 - (2)社会特性 烏山-2(-963-)
 - (3)地域危険度 烏山-4(-965-)
 - (4)被害想定 烏山-5(-966-)
 - (5)防災資源一覧 烏山-8(-969-)
 - (6)防災資源マップ 烏山-9(-970-)
 - (7)区民アンケート 烏山-10(-971-)

- 2 各団体の防災活動～現在の取組状況～ 烏山-19(-980-)

- 3 烏山地区の課題と取り組み 烏山-29(-990-)
 - (1)日頃からの備え 烏山-29(-990-)
 - (2)在宅避難者対策 烏山-32(-993-)
 - (3)避難行動要支援者・要配慮者・けが人等の対策 烏山-34(-995-)
 - (4)避難所運営 烏山-36(-997-)

1. 烏山地区の特性

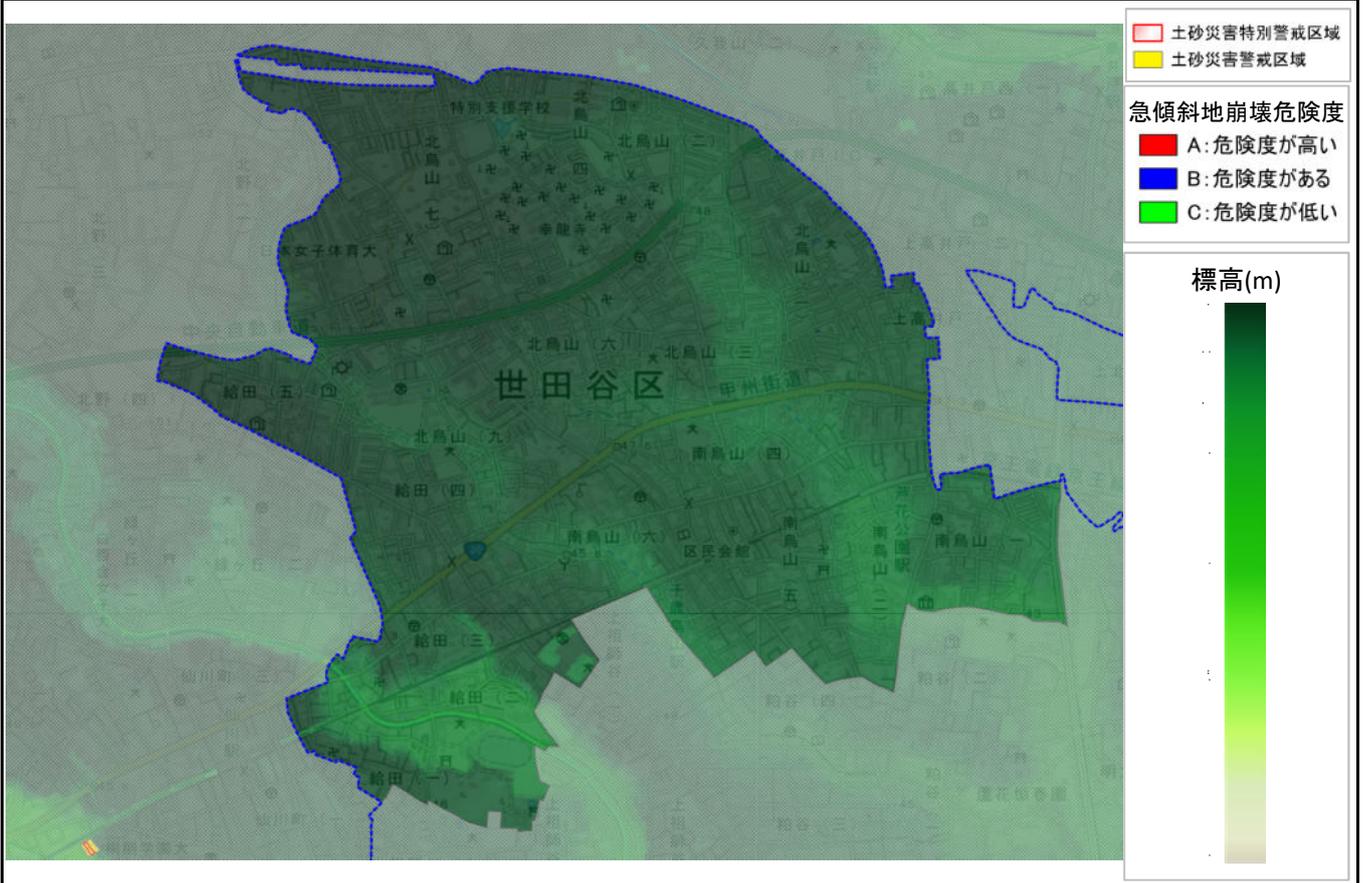
(1)自然特性

面積	3.84 Km ²	最高標高	52.4 m	最低標高	36.9 m
----	----------------------	------	--------	------	--------

位置



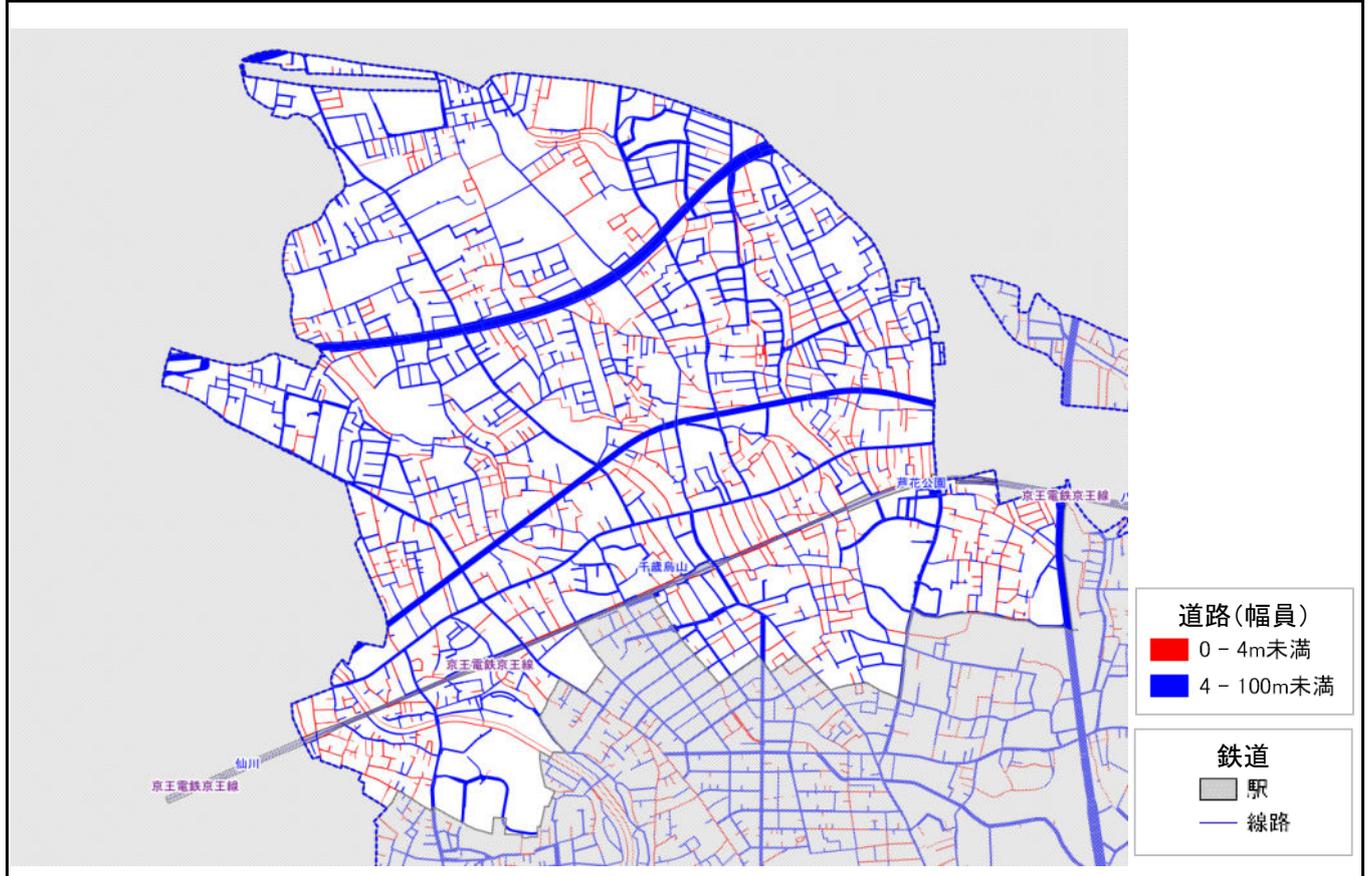
標高・急傾斜地崩壊危険度・土砂災害警戒区域等



(2)社会特性

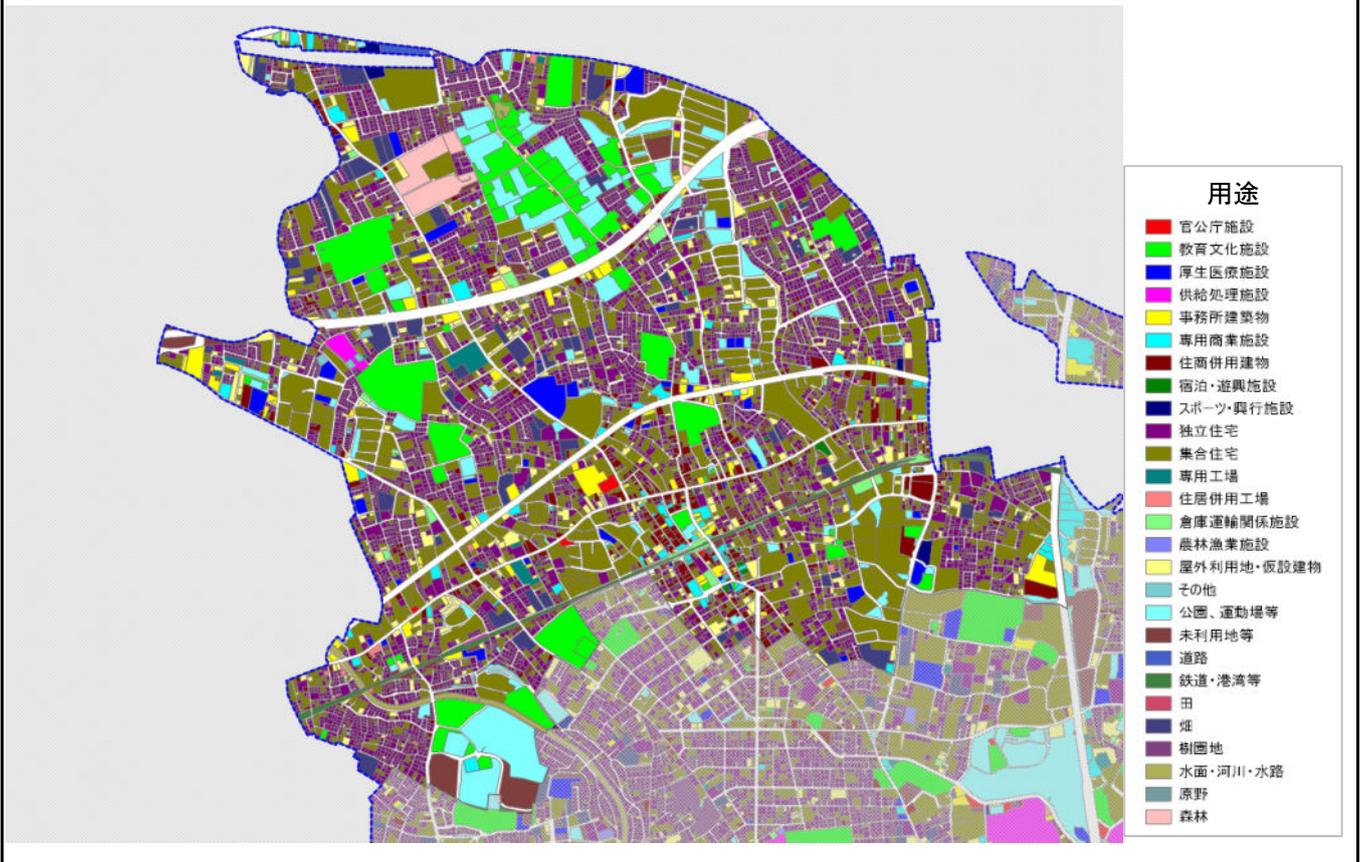
人口	63,048 人	細街路率	34.7 %	
世帯数	34,974 世帯	昭和56年以前木造建物棟数密度	59.4 棟/Km ²	
1世帯あたり	1.80 人	耐火率(建築面積ベース)	60.7 %	
若年層数(15才未満)	6,721 人	土地利用(宅地)	65.4 %	
若年層率(15才未満)	10.7 %	土地利用(宅地以外)	34.6 %	
高齢者数(65才以上)	13,658 人	鉄道駅	京王線芦花公園駅 千歳烏山駅	
高齢者率(65才以上)	21.7 %			
昼間の人口	52,352 人	産業	商業	58.8 %
夜間の人口	65,599 人		工業	10.7 %
昼夜間人口比	0.80 -		農業	30.5 %
町会・自治会数	21 -			

道路・公共交通機関



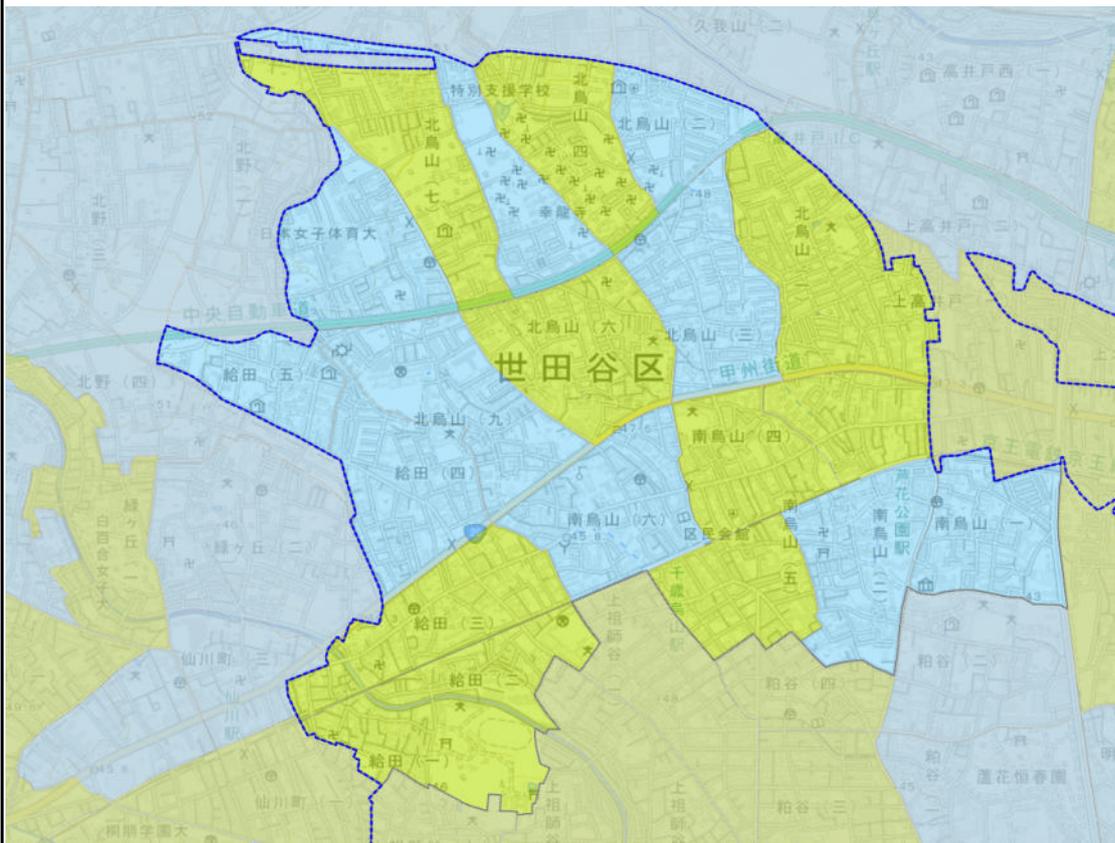
(2)社会特性

産業



(3)地域危険度

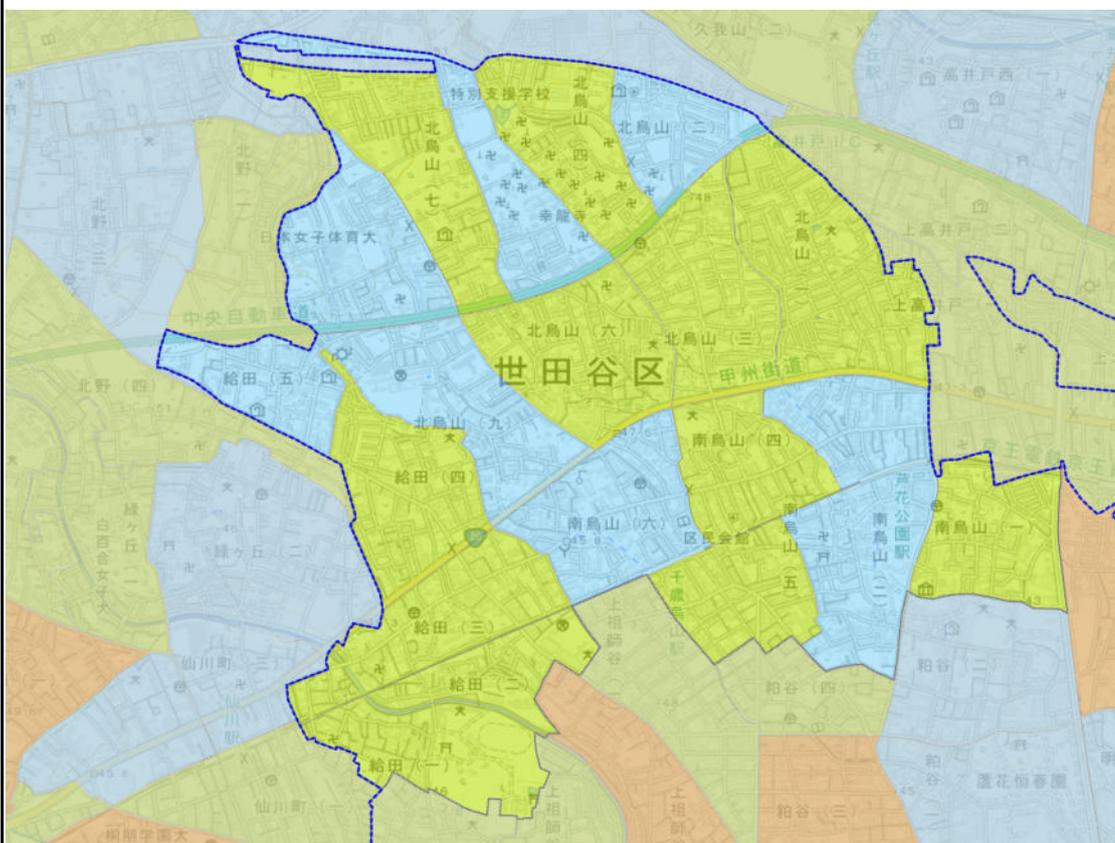
建物倒壊危険度



建物倒壊危険度



火災危険度



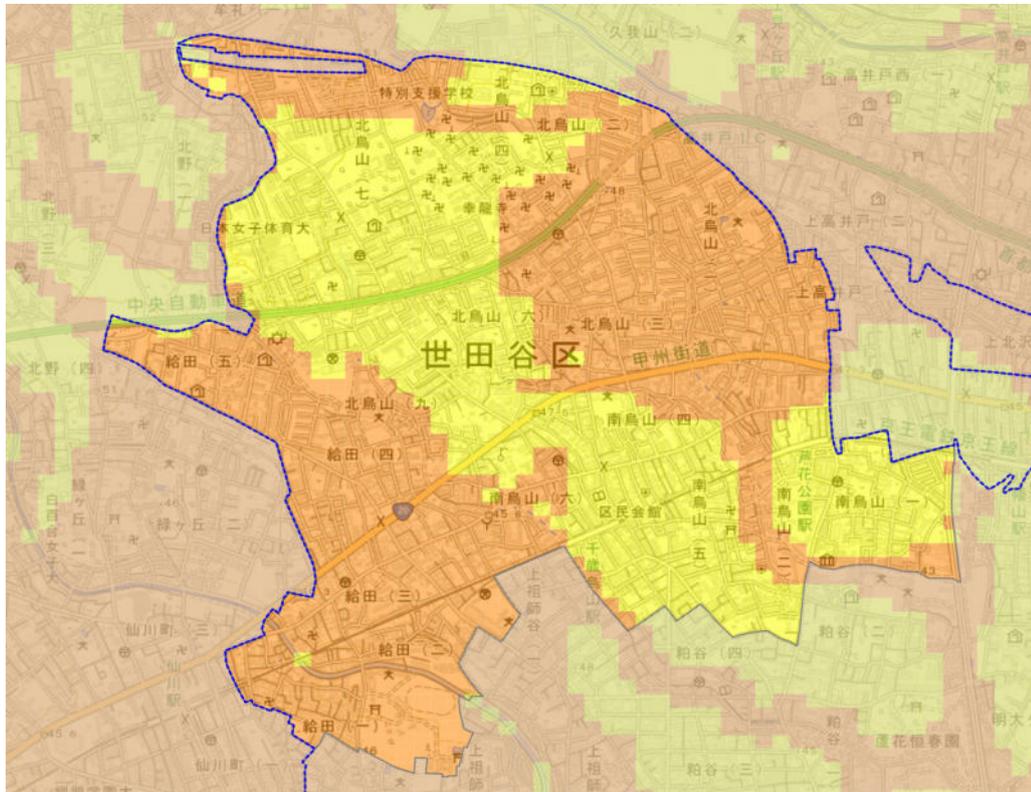
火災危険度



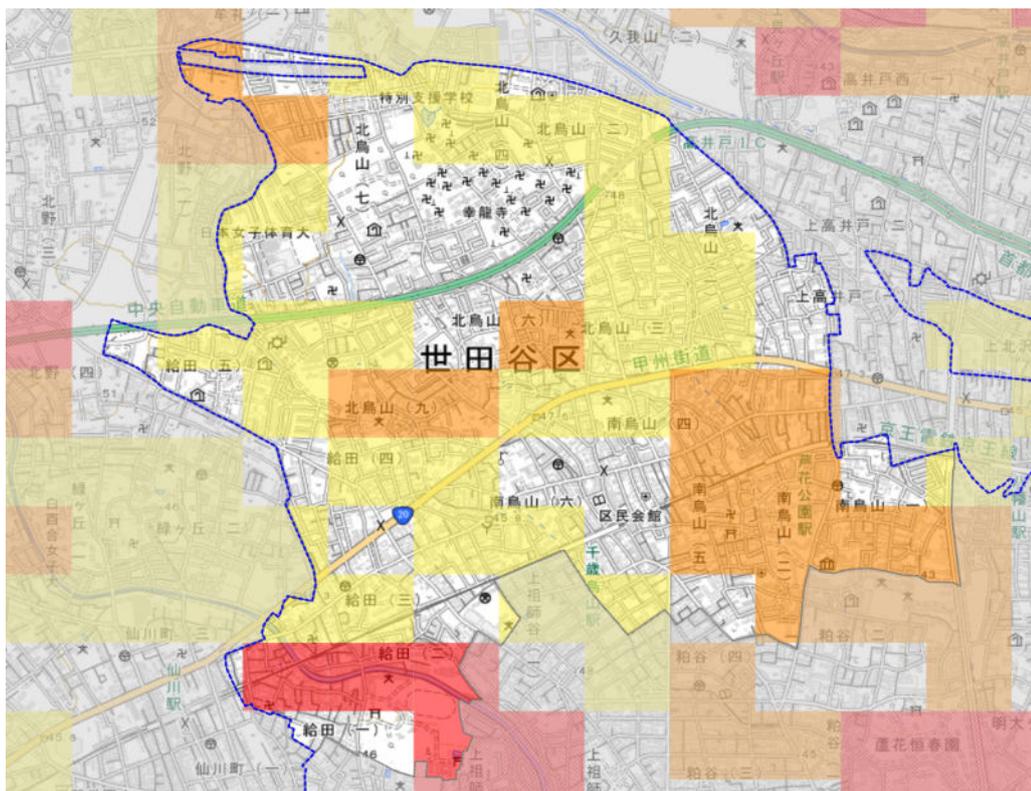
(4)被害想定

全壊棟数	352 棟	死者	34 人
半壊棟数	1,015 棟	負傷者	374 人
全焼棟数(倒壊建物含まず)	877 棟	うち重傷者	64 人

震度分布

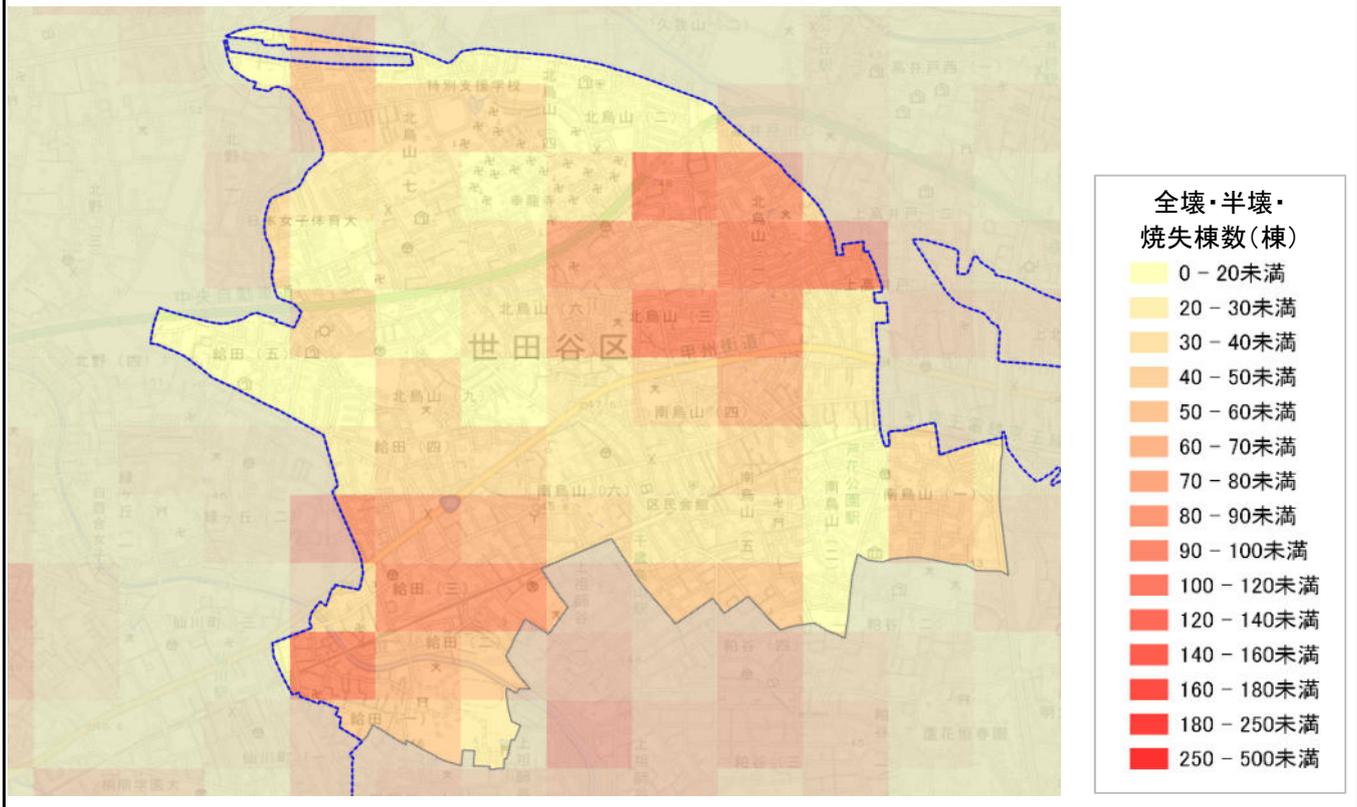


液状化分布



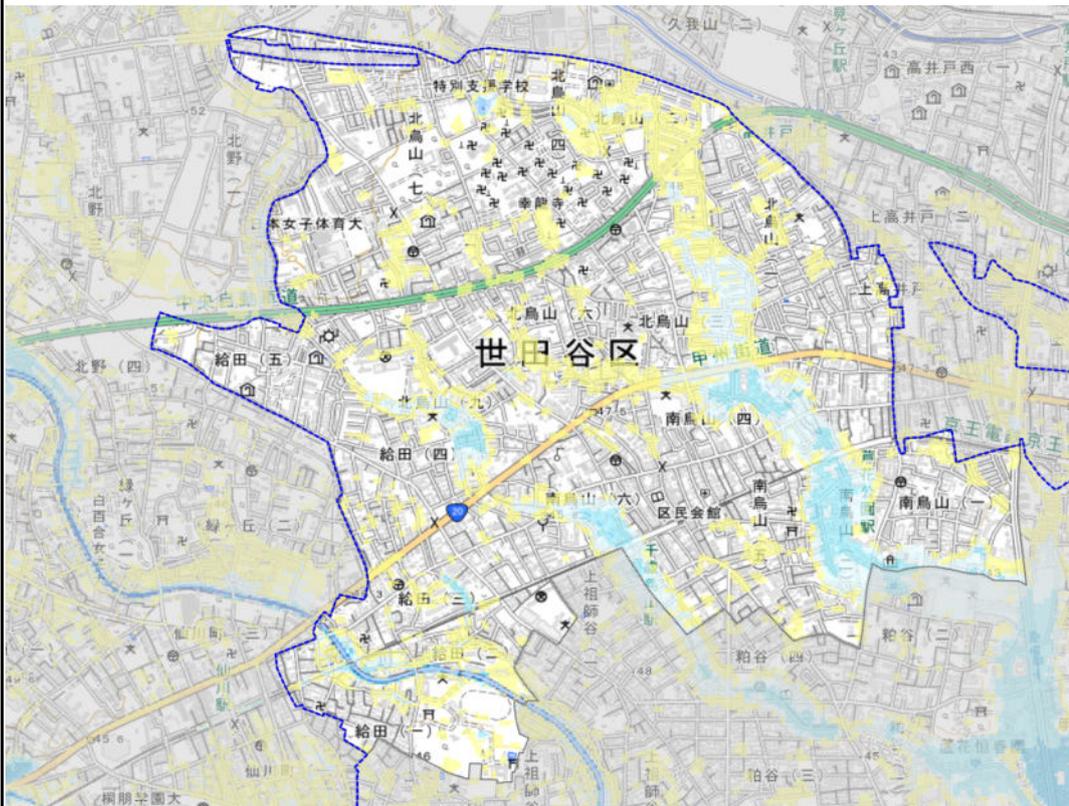
(4)被害想定

被害棟数分布



(4)被害想定

浸水想定(内水氾濫・中小河川洪水版)



浸水想定(多摩川洪水版)



(5)防災資源一覧

広域避難場所	烏山北住宅・日本女子体育大学一帯 第一生命グランド一帯				
一時集合所	グローリオ芦花公園前広場 芦花公園団地内広場 12号棟前 芦花公園団地内中央広場 芦花小学校 芦花中学校 烏山公園 烏山小学校 烏山松葉通住宅1号棟前広場 烏山中学校 烏山南住宅内広場 烏山北住宅12号棟前広場 烏山北住宅14号棟前中央公園 烏山北住宅内木の公園 烏山北小学校 給田小学校 給田西住宅内広場 給田南住宅内広場 佼成学園 第一生命グランド 北烏山2丁目アパート内広場 南烏山りんれい広場 日本女子体育大学運動場 日本女子体育大学周辺 武蔵丘小学校 北烏山9丁目公園				
指定避難所	烏山中学校 烏山北小学校 給田小学校 武蔵丘小学校				
予備避難所	日本女子体育大学 都立世田谷泉高等学校				
福祉避難所(母子)	佼成学園女子中学高等学校 日本女子体育大学				
福祉避難所(高齢者)	特別養護老人ホーム久我山園 特別養護老人ホーム千歳敬心苑 特別養護老人ホームフォーライフ桃郷 特別養護老人ホームせたがや給田乃杜 ガーデンテラス久我山				
福祉避難所(障害者)	都立久我山青光学園 給田福祉園 烏山福祉作業所				
水害時避難所(第1次)		野川・仙川洪水時避難所			
水害時避難所(第2次)	烏山区民センター				
土砂災害時避難所					
避難所救護所	烏山小学校				
東京都災害拠点病院					
東京都災害拠点連携病院					
緊急医療救護所					
一時滞在施設	久我山園トヨタモビリティ(株) 烏山店				
一時避難施設(車中避難)		帰宅困難者支援施設		1	ヶ所
ボランティアマッチングセンター	日本女子体育大学				
マンホールトイレ	8	防災行政無線塔	12	緑地	5
輸送拠点	烏山区民会館				
給水拠点					
広域用防災倉庫	烏山広域用防災倉庫 中央自動車道高架下広域用防災倉庫				
土のうステーション	みどり橋(仙川)烏山公園(西側) 給田ぞうのはな広場東側 中央自動車道下路上 北烏山地区会館				
警察署・交番	烏山下宿地域安全センター 烏山交番 給田交番 松葉通駐在所 北烏山駐在所				
消防署・出張所	烏山出張所				

(6)防災資源マップ



- | | |
|--------------------|-------------------|
| ◎ 総合支所 | ■ 広域避難場所 |
| ● まちづくりセンター | ■ 指定避難所 |
| ◎ せたがや災害ボランティアセンター | ■ 予備避難所 |
| ■ 広域用防災倉庫 | ■ 福祉避難所(母子) |
| ● 給水拠点 | ★ 福祉避難所(高齢者) |
| ⌒ 防災行政無線塔 | ☆ 福祉避難所(障害者) |
| Ⓜ マンホールトイレ | ■ 水害時避難所(第1次) |
| ■ 土のうステーション | ■ 水害時避難所(第2次) |
| Ⓜ 警察署 | ◆ 野川・仙川洪水時避難所 |
| Ⓜ 交番 | ■ 水害時避難所(狛江市) |
| Ⓜ 消防署 | ■ 水害時避難所(調布市) |
| Ⓜ 消防出張所 | ■ 土砂災害時避難所 |
| ■ 身近な広場 | ■ 避難所救護所 |
| ● 公園 | ■ 東京都災害拠点病院 |
| ● 緑地 | ■ 東京都災害拠点連携病院 |
| | ⊕ 緊急医療救護所 |
| | Ⓜ 一時滞在施設 |
| | Ⓜ 帰宅困難者支援施設 |
| | Ⓜ ボランティアマッチングセンター |
| | ■ 輸送拠点等 |
| | Ⓜ 一時避難施設(車中避難) |

出典

世田谷区土砂災害ハザードマップ 令和6年7月発行

世田谷区の町丁目別人口と世帯数 令和6年3月1日

世田谷区の年齢別人口 令和6年3月1日

世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ(多摩川洪水版、内水氾濫・中小河川洪水版)令和6年7月発行

世田谷の土地利用2021 世田谷区土地利用現況調査

世田谷区GISオープンデータ

令和2年国勢調査による 東京都の昼間人口(従業地・通学地による人口)第11表

地域危険度一覧表(地震に関する地域危険度測定調査[第9回]) 令和4年9月

首都直下地震等による東京の被害想定 報告書 令和4年5月25日

世田谷区防災マップデータ 令和6年3月

(7)区民アンケート(烏山地区)

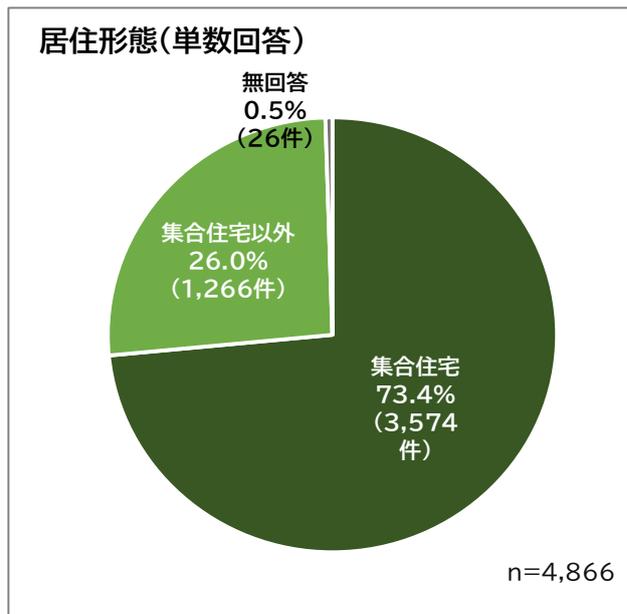
このアンケートは、今後の区内各地域及び地区における災害関連施策の検討や取組みに活用することを目的として、令和6年度に災害対策課が実施した「在宅避難支援事業(防災カタログギフト)」に合わせて行ったものである。

なお、以下に記載している回答集計結果は、カタログギフト申込者のうち、WEBで申し込みをした区民へ任意での回答を依頼し、令和6年8月9日から9月8日までに回収できた分である。

単純集計(1/5)

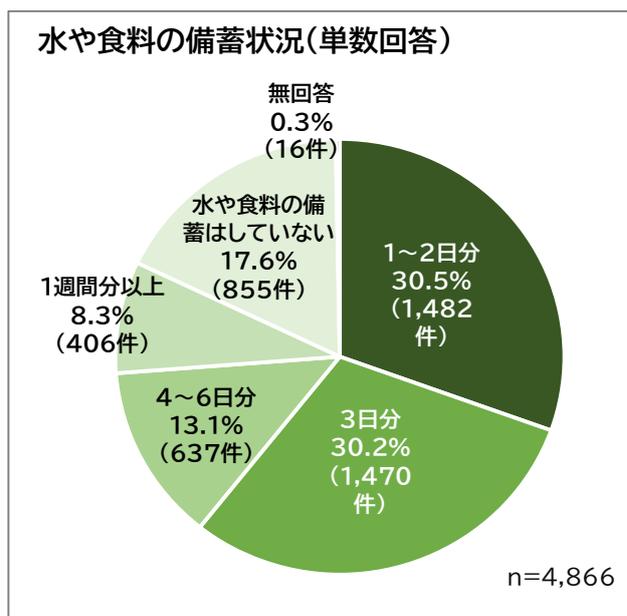
居住形態

【1】あなたはマンションなどの集合住宅にお住まいですか。



水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。

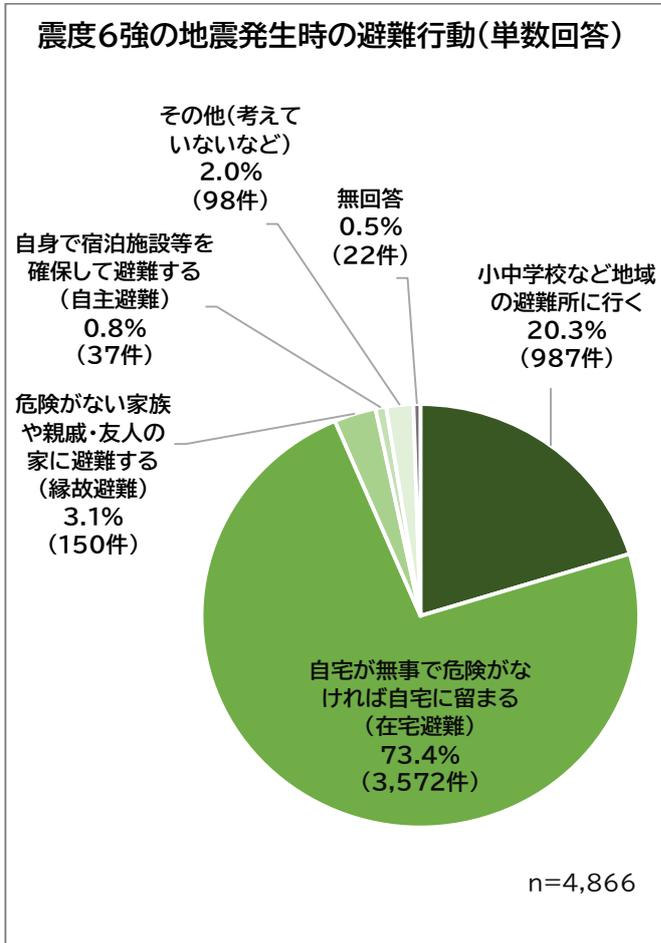


(7)区民アンケート(烏山地区)

単純集計(2/5)

震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



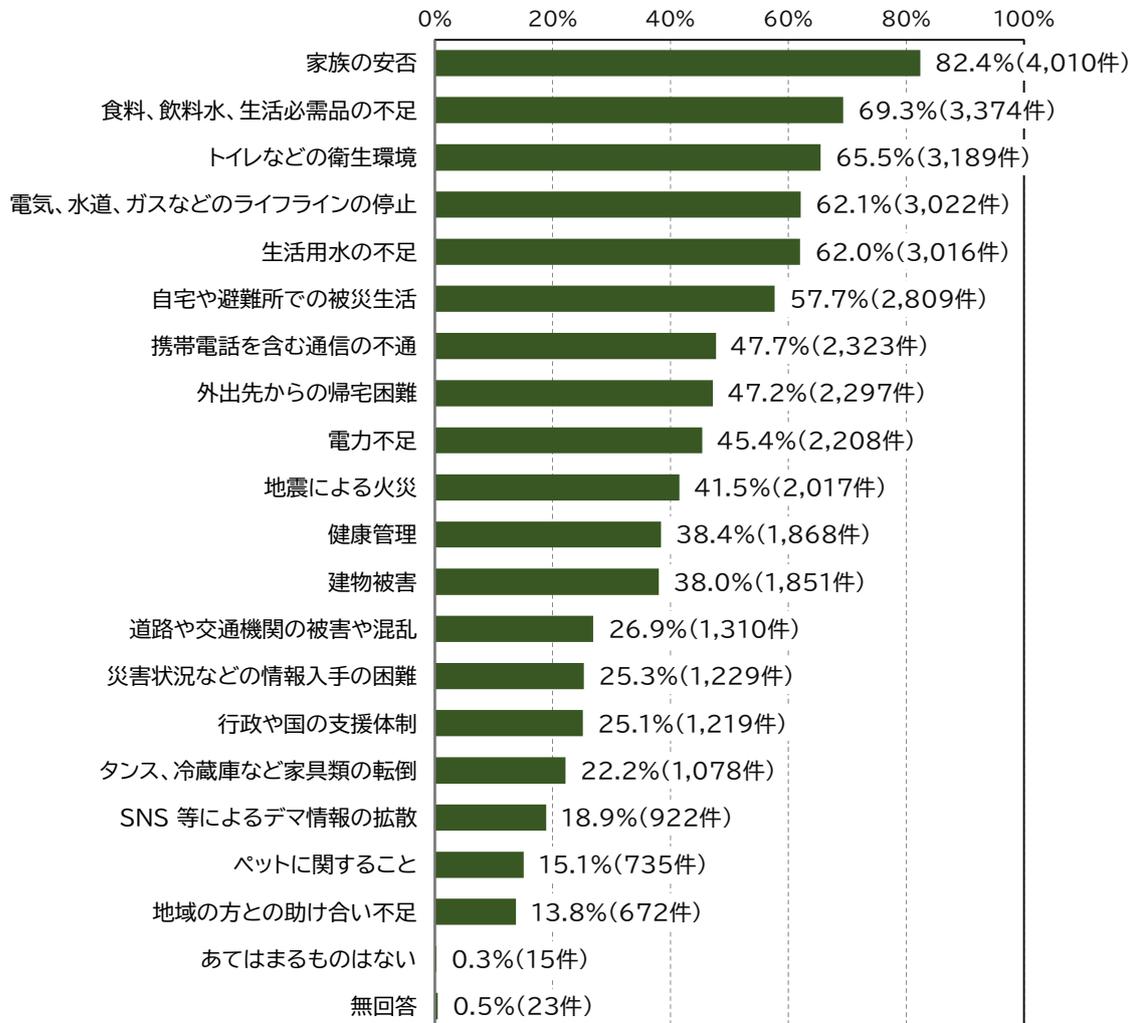
(7)区民アンケート(烏山地区)

単純集計(3/5)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。

災害時の心配ごと(複数回答)



n=4,866

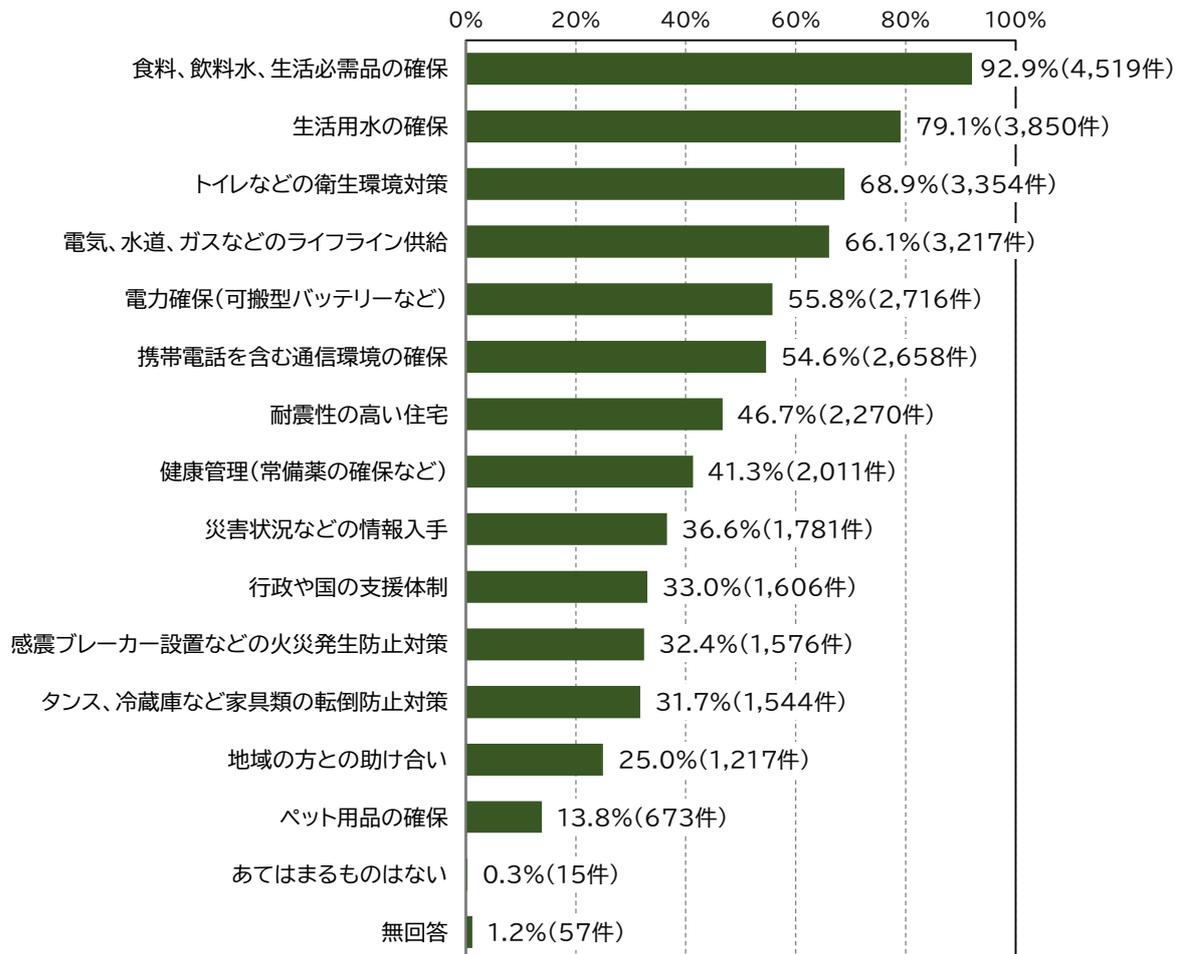
(7)区民アンケート(烏山地区)

単純集計(4/5)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

在宅避難をするために必要だと思うこと(複数回答)



n=4,866

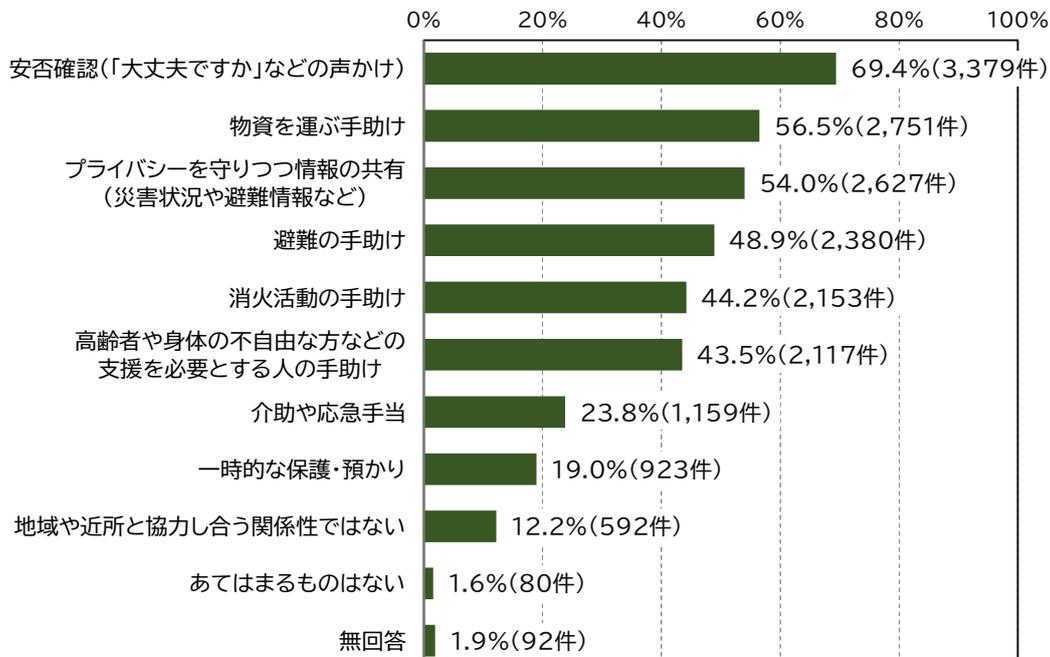
(7)区民アンケート(烏山地区)

単純集計(5/5)

災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。

災害時にできる住民同士の支援(複数回答)

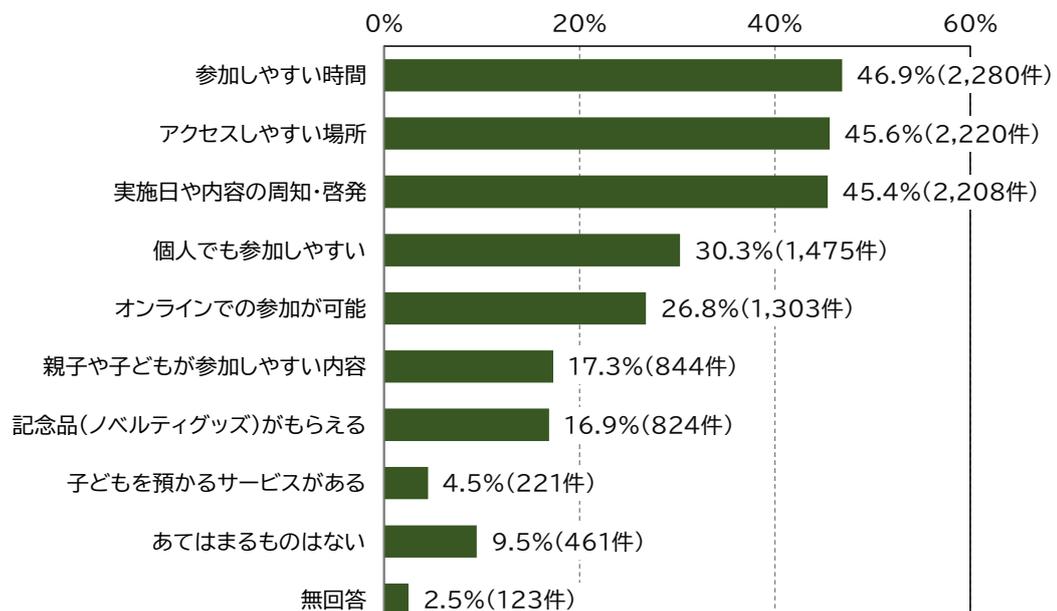


n=4,866

防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加したいと思いますか。

防災訓練や防災教室への参加意向(複数回答)



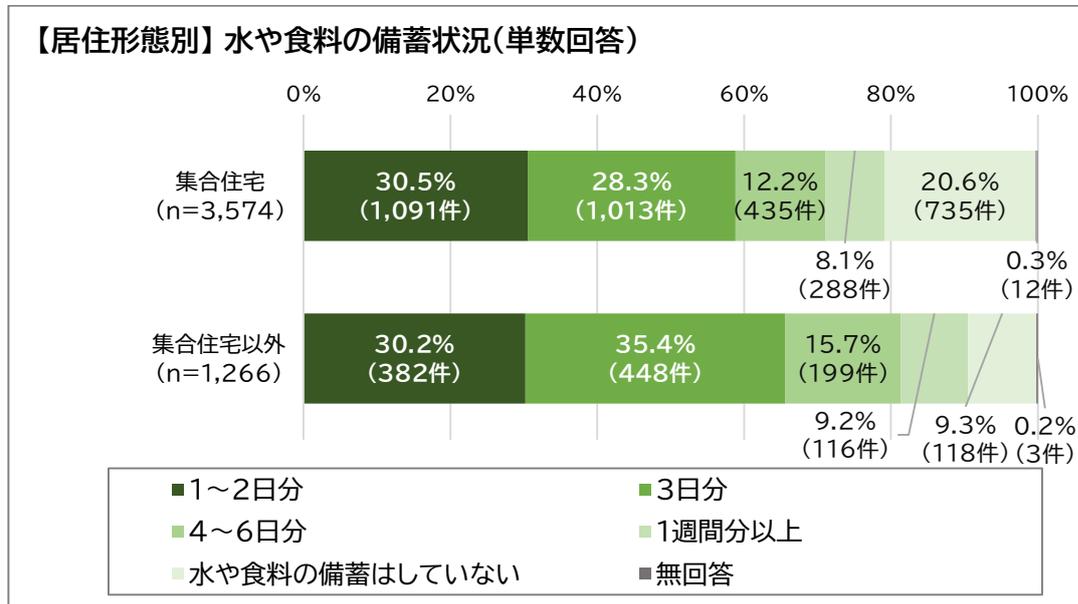
n=4,866

(7)区民アンケート(烏山地区)

クロス集計(1/4)

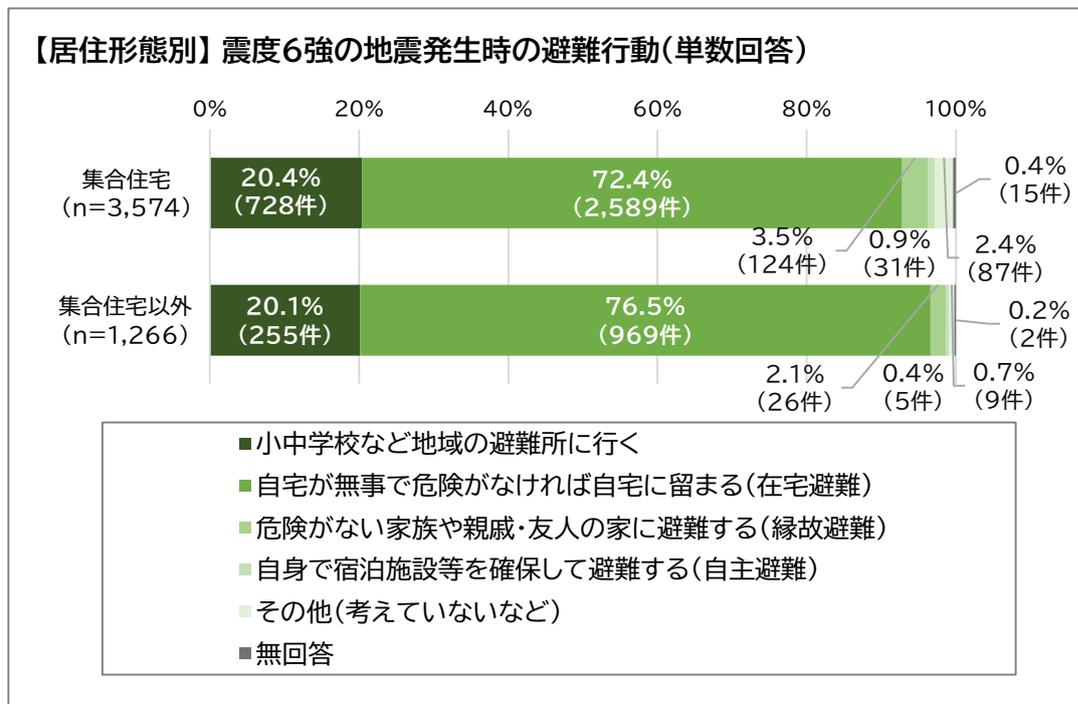
水や食料の備蓄状況

【2】あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。



震度6強の地震発生時の避難行動

【3】震度6強の大きな地震が発生した場合、どのような避難行動をとりますか。



(7)区民アンケート(烏山地区)

クロス集計(2/4)

災害時の心配ごと

【4】災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。



(7)区民アンケート(烏山地区)

クロス集計(3/4)

在宅避難をするために必要だと思うこと

【5】区では、震災時に自宅が安全であれば、そのまま自宅で避難生活を送る「在宅避難」を推奨しています。在宅避難をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

【居住形態別】在宅避難をするために必要だと思うこと(複数回答)

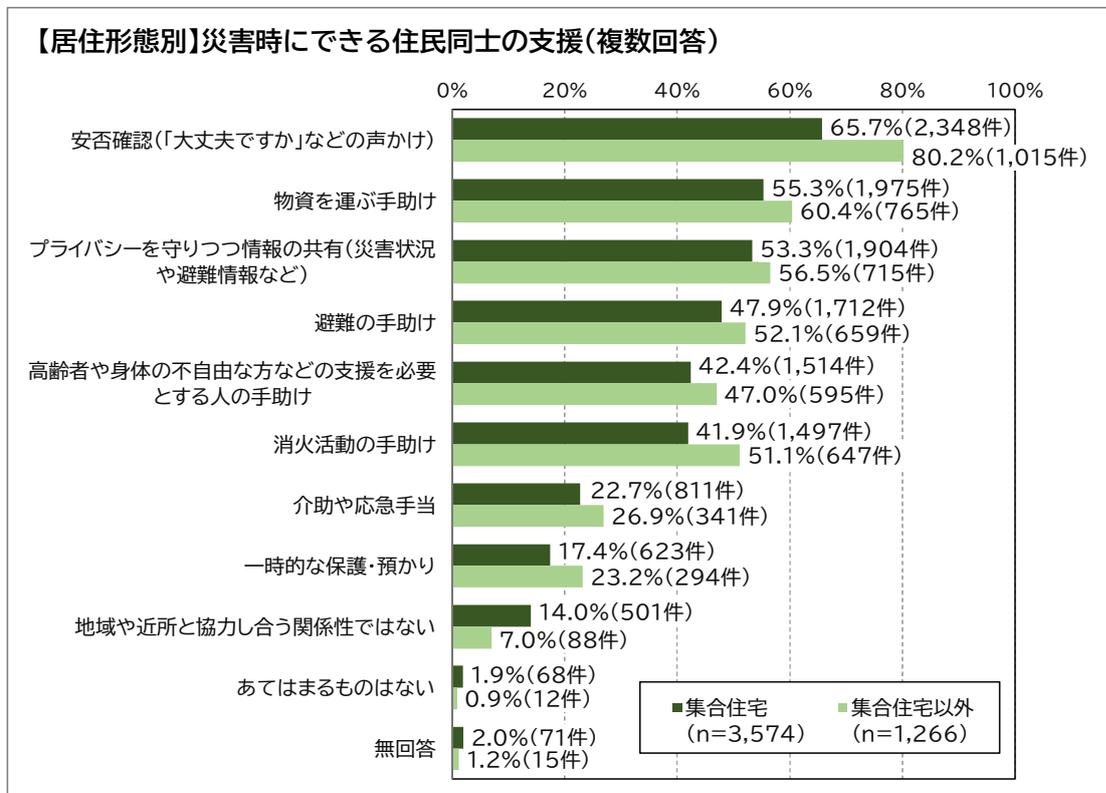


(7)区民アンケート(烏山地区)

クロス集計(4/4)

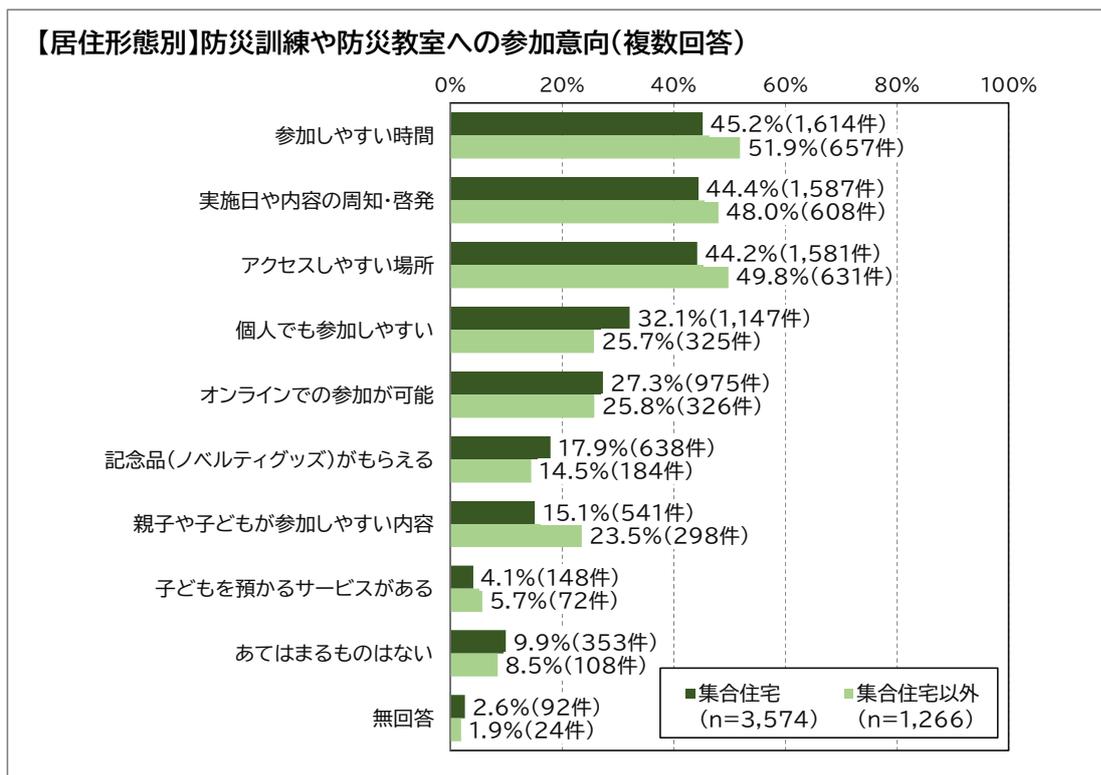
災害時にできる住民同士の支援

【6】災害時に地域や近所の住民同士でどのような支援(手助け)ができると思いますか。



防災訓練や防災教室への参加意向

【7】どのようなことがあれば、世田谷区が実施している防災訓練や防災教室に参加したいと思いますか。



2-(1)各団体の防災活動～現在の取組状況

団体名	防災に関する会議		防災活動、資機材配備等の実施				消火資機材の配備								防災訓練等の実施						
	防災担当者数	実施している	実施していない	会議名	(年数回数)	実施している	実施していない	配備している	配備していない	スタンドパイプ		D型ポンプ		消火器		その他		実施している	実施していない	回数	実施場所
										数量	場所	数量	場所	数量	場所	名称	場所				
給田町会	4	○		防災会議		○	○				1	六所神社						○		2	烏山中学校・給田小学校
給田西住宅管理組合	8	○		給田西住宅防災担当会議	1	○	○	1	給田西住宅倉庫	1	給田西住宅倉庫	28	給田西住宅各階段					○		1	給田西住宅管理事務所前
給田南住宅自治会	3	○		防災勉強会	1	○	○					38	各中央階段踊り場他					○		1	集会室
烏山上町会	4						○			1	北地区会館							○		1	烏山中学校
コーシャハイム千歳烏山住宅自治会	0	○					○	○				約500本	世帯毎(約500本)						○		
烏山中町会	12	○		防災会議	2	○	○			2	りんれい公園他	8	南烏山4丁目7～11番					○		1	烏山神社
北烏山2丁目アパート自治会	0	○					○			2	団地公園内								○		
烏山寺院連合会		○			1		○					6	各家庭					○		1	寺院
あやめ会	3	○		あやめ会防災部	3	○		○										○		2	4丁目駐車場
親和会	10	○		役員会、防災会議	2	○	○			1	防災倉庫(町会)	1						○		2	指定場所 烏山北小学校 烏山中学校
コートヒルズ久我山自治会	2	○					○	○											○		
北烏山青葉団地管理組合	6	○				○	○		1	東京都住宅供給公社烏山北住宅内倉庫	15	各階段1F入口						○		1	武蔵丘小学校
烏山北住宅自治会	10	○				○	○					30	各階段に1本人の集まる会議室等					○		3	烏山中学校、北小学校での参加、木の公園
烏山北住宅賃貸自治会		○		防災教室	2	○	○					○	各家庭					○		2	集会室
北烏山みむね管理組合	7	○				○	○					14	各階段2本					○			
烏山下町会	10	○		町会定例会にて防災講習会	1	○	○	3	南・中・北地区倉庫	1	下宿広場防災倉庫							○		3	芦花小学校 武蔵丘小学校
千駄山町会	14	○				○	○		1	烏山公園	1	烏山公園						○			
児ヶ谷会	10	○		防災担当者会議、防災セミナー	2	○	○	1	防災倉庫									○		2	芦花小中学校
コーシャハイム芦花公園自治会		○					○											○		1	団地中央広場・集会室 芦花小学校
芦花公園団地自治会	6	○		防災本部会議		○	○					500	居住世帯すべて					○		4	団地中央広場・集会室
パークアベニュー芦花公園自治会	5	○		総会、防災部会	1	○	○					40	マンション内各階段等、各住戸内					○		2	集会室他

2-(1)各団体の防災活動～現在の取組状況

団体名	防災訓練等の実施				防災マップ										防災士等の数			災害時連携・協定 (区を除く)				避難行動要 支援者協定					
	救命救急 講習会		その他		作成済	作成中	作成予定なし	掲載情報							防災士	把握していない	地域防災リーダー	把握していない	他団体との連携	協定締結	特になし	連携先 内容	協定先 内容	締結している	検討中である	予定はない	
	回数	実施場所	訓練名称	実施場所				一時集会所	広域避難場所	避難所	街路消火器	防火水槽	震災用井戸	消火栓													その他
給田町会	1	穴戸コンクリート				○											○	○									○
給田西住宅管理組合						○											○	○									○
給田南住宅自治会						○											3				○						○
烏山上町会																	0	3			○						○
コーシャハイム千歳烏山住宅自治会						○											○	○			○						○
烏山中町会	1	烏山神社				○											3	3		○	協和会、烏山グループホーム「くつろぎ」					○	
北烏山2丁目アパート自治会						○											○	○			○						○
烏山寺院連合会						○											0	0			○						○
あやめ会						○		○									○	○			○					○	
親和会						○											○	○			○					○	
コートヒルズ久我山自治会						○											○	○			○						○
北烏山青葉団地管理組合						○											○	○			○						○
烏山北住宅自治会						○											○	○			○						○
烏山北住宅賃貸自治会	2	集合室				○											○	○			○						○
北烏山みむね管理組合						○											1	○	○		○						○
烏山下町会	1	下宿広場 防災訓練			○			○	○	○	○	○	○				6	6		○						烏山福祉作業所	○
千駄山町会						○											1	1			○					○	
児ヶ谷会						○											○	○			○					○	
コーシャハイム芦花公園自治会	1	成城消防署烏山出張所																									
芦花公園団地自治会	1	成城消防署烏山出張所				○											○	○			○						○
パークアベニュー芦花公園自治会		集会室	初期消火訓練	駐車場 他	○			○	○		○	○					2		○		○					○	

2-(1)各団体の防災活動～現在の取組状況

団体名	避難行動要支援者対策			連絡手段の確保			防災活動に関するマニュアル (避難所運営マニュアルを除く)			救出救助に係る資機材の配備																
	見守り活動	要支援者体験	その他	待たない	作成・整備	その他	策定済み	検討中	予定なし	名称	配備していない	配備している	リアカー	はしご	脚立	担架	救急セット	ヘルメット	救助工具セット	パール	スコップ	手おの	のこぎり	ジャッキ	両口ハンマー	ツルハシ
給田町会				○	○			○			○	1			1	2	5		1	2	1	1	1	1	1	
給田西住宅管理組合	○					していない		○			○	2	3	1		2	3	1								
給田南住宅自治会				○		拡声器		○			○			1	2	10	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
鳥山上町会				○	○			○			○	1							2	1	3	10				
コーシャハイム千歳鳥山住宅自治会				○				○			○															
鳥山中町会				○				○			○					30										
北鳥山2丁目アパート自治会				○				○			○															
鳥山寺院連合会				○		なし		○			○															
あやめ会	○				○			○			○					○	○									
親和会	○		訪問と町会イベントの誘い		○	町会名簿作成		○			○			1	1	○	○	1	1				1			
コートヒルズ久我山自治会	○			○	○	自治会加入届		○			○															
北鳥山青葉団地管理組合				○		住民名簿		○			○		3		2	6	1									
鳥山北住宅自治会				○	○			○			○	1	1	1	1	10		1	4			1		1	1	
鳥山北住宅賃貸自治会				○	○			○			○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
北鳥山みむね管理組合				○		なし		○			○				1	8		1	1				2	2	1	
鳥山下町会				○	○			○			○	1			1	1	20	1								
千駄山町会	○					メールアドレスの配布		○			○															
児ヶ谷会	○				○	災害時用会員名簿		○			○	1		1	2	8		1	1	1	1	1	1	1	1	
コーシャハイム芦花公園自治会																										
芦花公園団地自治会			同階段の知り合い、古い友人同士で部屋の鍵を預かることや、自治会の車椅子を使ったりして助け合っている。 ソフト担架で階段を下りる訓練、マンホールトイレ設置、汚物を流す訓練を実施		○			○		共助活動行動指針	○	1	2	2	2	1	8	1	1	8	1	2	1	1		
パークアベニュー芦花公園自治会			名簿更新時に面談、把握	○	○			○			○	5	6	2	20	20	1	2	10	2	5	5				

2-(1)各団体の防災活動～現在の取組状況

団体名	救出救助に係る資機材の配備		食糧等の備蓄														
	その他	保管場所	備蓄していない	備蓄している	アルファ米	ビスケット・乾パン	おかゆ	飲料水	缶詰類	レトルト食品類	カセットコンロ	災害その他科	非常用トイレ	照明	発電機	蓄電池セット	給水タンク
給田町会	チェーンソーx1 ポルトクリッパー	六所神社防災倉庫	○					444			5	20					
給田西住宅管理組合			○														
給田南住宅自治会		給田南住宅集会所	○	200	60		21.50本程度			1						2	
鳥山上町会			○										6	2			
コーシャハイム千歳鳥山住宅自治会													公社として12備蓄				
鳥山中町会		北鳥山3丁目倉庫、さくら公園防災倉庫、鳥山中裏協和会防災倉庫	○				500						100				
北鳥山2丁目アパート自治会			○														
鳥山寺院連合会			○														
あやめ会			○		30				30	20			1				
親和会	ブルーシート	町会防災倉庫	○					50					3	2	1		○
コートヒルズ久我山自治会			○														
北鳥山青葉団地管理組合	ブルーシート ロープ ハロゲンライト プランケット	団地内倉庫	○										150				
鳥山北住宅自治会	ブルーシート	北住宅内倉庫に保管	○	300									○	○	○		
鳥山北住宅賃貸自治会			○					○		○			○	○	○		
北鳥山みむね管理組合	スタンド1、ブルーシート12、メガフォン4、プライベートテント1、充電ラジオ1ポータブルテント1、タービシート3.6×5.4m1、ロープ100m1、プランケット5、三角巾多数	事務室	○		96		90						115	3			
鳥山下町会	ブルーシートx20、石油ストーブx1、ハンドマイクx3、石油コンロx3、チェーンソーx1、災害救助用毛布x10	下宿広場 下町会防災倉庫 北地区防災倉庫	○		576		456			1	320		3				
千駄山町会			○			100	60	200	100				4		2		
児ヶ谷会	ロープ(30m) ブルーシートx27枚 照明x2 テーブルx2、毛布x6枚	防災倉庫								3		200	2				
コーシャハイム芦花公園自治会																	
芦花公園団地自治会	大型テントx2 軍椅子x2 炊事用具各種 防災トイレx8	自治会防災倉庫	○				10						10	1	5	2	地下タンク5t
パークアベニュー芦花公園自治会			○	1000	1000	300	2500	2000	2000	52	2500	4800	6	1	2		

2-(1)各団体の防災活動～現在の取組状況

団体名	食糧等の備蓄			その他の防災活動
	その他	保管場所	備蓄品配布先	
給田町会	ハロゲン投光機x1 バック毛布x5枚	六所神社防災倉庫		
給田西住宅管理組合				
給田南住宅自治会		給田南住宅集会所		
鳥山上町会		北地区会館		
コーシャハイム千歳鳥山住宅自治会				
鳥山中町会		北鳥山3丁目倉庫、さくら公園防災倉庫、鳥山中裏協和会防災倉庫	町会会員全世帯(非常用トイレ)	
北鳥山2丁目アパート自治会				
鳥山寺院連合会				
あやめ会		区道(許可済)		
親和会		町会防災倉庫		
コートヒルズ久我山自治会				
北鳥山青葉団地管理組合				
鳥山北住宅自治会				
鳥山北住宅賃貸自治会				
北鳥山みむね管理組合	強カライトx2 安全キャンドルx1 スケッチトレx3	事務室		地震時、安否確認のシール
鳥山下町会		北地区(千駄山広場内)防災倉庫		
千駄山町会		防災倉庫	町会加入者	12月3回日夜回り(火の用心、パトロール)
児ヶ谷会		防災倉庫		
コーシャハイム芦花公園自治会				防災訓練年1回を目標に企画しているが実施出来ていない。
芦花公園団地自治会	防災トイレx8 災害用マットx2 筒 ガソリンポンプ(マンホールトイレ給水用)	自治会防災倉庫		防災本部規約改訂、家具転倒防止の啓発、「近辺意識」の醸成。
パークアベニュー芦花公園自治会	飲料水作業機	防災庫		居住者の高齢化に伴い、消火、避難などの方法を見直す必要を感じている。

2-(2)各団体の防災活動～現在の取組状況

団体名	防災担当者数		防災に関する会議				防災活動、資機材配備等の実施		消火資機材の配備				消火資機材の配備				防災訓練等の実施			
	実施している	実施していない	会議名	(年間回数)	実施している	実施していない	配備している	配備していない	スタンバイブ		D型ポンプ		消火器		その他		実施している	実施していない	防災訓練	
									数量	場所	数量	場所	数量	場所	名称	場所			回数	実施場所
日商岩井北烏山マンション管理組合	6	○			○		○					2	4階エレベーターホール電気室				○			
烏山南住宅団地管理組合法人防災会	13	○	管理組合防災会会議 自治会防災会会議・検討会	10	○		○					98	住宅内廊下等				○	1	烏山南住宅団地	
久我山ガーデンヒルズ管理組合	3	○		1	○		○										○	1	敷地内	
烏山駅前通り商店街振興組合地域防災部	13		担当役員防災会議		○					○	防災倉庫(会)	4	各階				○	1	事務局内	
区営北烏山8丁目アパート自治会地域防災部	8	○	自治会防災部会議	3	○		○					12	3階まで各階段				○			
芦花公園パーク・ホームズ管理組合防災本部	2	○			○							69	13階まで各階				○	1	敷地内	
ネオコーポ芦花公園防災委員会	5	○		6	○		○					45	9階各階5台				○	1	敷地内	
ザ・パークハウス千歳烏山グローリオ管理組合	2	○			○							188	住宅内廊下等				○			
コーシャハイム久我山防災会	6	○	コーシャハイム久我山防災会役員会	10	○		○			1	団地内防災倉庫	351	各住戸内				○	1	敷地内	

団体名	避難行動要支援者対策			連絡手段の確保			防災活動に関するマニュアル (避難所運営マニュアルを除く)				救出救助に係る資機材の配備																	
	日頃からの見守り活動	要支援者体験 避難行動	その他	特に実施していない	簡易無線	作成・整備 連絡網の	その他	策定済み	策定中	検討中	予定なし	名称	配備していない	配備している	リアカー	はしご	脚立	担架	救急セット	ヘルメット	救助工具セット	バール	スコップ	手おの	のこぎり	ジャッキ	両口ハンマー	ツルハシ
日商岩井北烏山マンション管理組合				○						○			○				2	1	0			1	4		1	1	1	
烏山南住宅団地管理組合 組合法人防災会				○	○					○			○	1		2	3		13	1	3						1	
久我山ガーデンヒルズ管理組合				○				○				防災ハンドブック	○		1	3			6	1		15						
烏山駅前通り商店街 振興組合地域防災部				○	○					○			○			1	1		1	1	1				1			
区営北烏山8丁目アパート 自治会地域防災部					○	入居者名簿 による連絡				○			○			○	○				○	○		○	○			
芦花公園パーク・ホームズ 管理組合防災本部				○									○			1			2	1	1	1			1	1	1	
ネオコーポ芦花公園 防災委員会				○						○			○						3	1	6	2	1	1	3	5		
ザ・パークハウス千歳 烏山グローリオ管理組合				○				○				防災計画書	○				4	6	30	4								
コーシャハイム久我山 防災会				○						○		未定	○	1			1		6	1				1				

団体名	救出救助に係る資機材の配備			食糧等の備蓄													
	その他	保管場所	備蓄していない	備蓄している	アルファ米	ビスケット・乾パン	おかゆ	飲料水	缶詰類	レトルト食品類	カセットコンロ	その他災害用食料	非常用トイレ	照明	発電機	蓄電池セット	給水タンク
日商岩井北烏山マンション管理組合	ボルトクリッパー1個、なた1個、ロープ1本、ハンドマイク1個、油圧ジャッキ(4t)	1階倉庫		○									9			2	4
烏山南住宅団地管理組合法人防災会	トビグチx3、大木づちx1、ロープx2、ハンドマイクx3	烏山南住宅内防災倉庫及び集会室		○				330				354	650	15		2	34
久我山ガーデンヒルズ管理組合													21		3		
烏山駅前通り商店街振興組合地域防災部		防災倉庫(会)		○				100							4	1	
区営北烏山8丁目アパート自治会地域防災部	組立トイレ、車いす	自治会倉庫		○	○	○	○	○	○		○		○	○			
芦花公園パーク・ホームズ管理組合防災本部													960				
ネオコーポ芦花公園防災委員会	ブルーシートx3、ラジオx3、ロープ他	1階防災倉庫	○														
ザ・パークハウス千歳烏山グローリオ管理組合				○				408					1		3		
コーシャハイム久我山防災会		団地内防災倉庫(C号棟1階コミュニティサロン隣接)		○							2		200	16	2	2	4

団体名	食糧等の備蓄			その他の防災活動
	その他	保管場所	備蓄品配布先	
日商岩井北烏山マンション管理組合	充電ラジオ×4、ブルーシート×1 ザバイバルブランケット×66	1階倉庫		
烏山南住宅団地管理組合法人防災会	バック毛布20枚、防水エコシート6枚、エマーゼンシーブランケット14、薪(カラマツくん)2箱	烏山南住宅内 防災倉庫	烏山南住宅 居住者	各家庭で防災力を高めるために、飲料水、食糧の備蓄に努めるよう、啓蒙活動を行っている。(自治会活動として)
久我山ガーデンヒルズ管理組合	ウエスタオル×50、吸水バッグ×50、厚布×5、懐中電灯×1、竹ぼうき×12、ブルーシート×5、まかないくん×1、延長コード×1、防災用テント×2、備品整理ラック×1、運搬用台車×2、スライド式梯子×1			
烏山駅前通り商店街振興組合地域防災部				地域と連携した防災訓練の実施
区営北烏山8丁目アパート自治会地域防災部	ラジオ、ライト、懐中電灯3、非常食セット、ローソク10	自治会専用防災倉庫		各家庭に消火器設置をお願いしている。防災訓練を実施していないので、消防署からのチラシを各家庭に配布している。
芦花公園パーク・ホームズ管理組合防災本部				
ネオコーポ芦花公園防災委員会				
ザ・パークハウス千歳烏山グロリア管理組合				
コーシャハイム久我山防災会	太陽光パネル1、コードリール5、車いす1、キャリアカート(階段)6、拡声器2、トランシーバー1、ラジオ1、テント1、耐水シート10	団地内防災倉庫		在宅避難を想定して、今後各住戸内で宅内備蓄をするように推奨していく。

3. 烏山地区の課題と取り組み

課題1 日頃からの備え～けが防止・備蓄・家族のルール/安否確認～

■意見

- ・過去の防災の基本は火を消せたが、今は逃げるのが重要である。
- ・危険箇所(家(倒壊)、台所(飛んでくるものが多い)、ブレーカー(自動では切れない))を把握することが重要である。
- ・建物の耐震化、不燃化が遅れている。
- ・怪我の防止策例…家具(特に食器棚)の転倒防止(新しい家具は優れもの)、ガラス飛散防止フィルム、スリッパ上履き、革手袋、ヘルメットの準備、普段から何もないところで寝る、できるだけ物を置かない、建物は建設された年を確認する、耐震化、不燃化を進める、東京防災を読む等。
- ・町会、自治会では備蓄が難しいため、個人で1週間生活できる程度の備蓄が必要である。
- ・備蓄に適切な物、量が不明である。また、高層階の人は備蓄する為の買出しも困難である。
- ・備蓄例…水2ℓ・12本、米(アルファ米)5kg、缶詰、カップラーメン、常備薬、応急箱、現金、保険証等、SOS用の笛、懐中電灯付ヘルメット、携帯ラジオ、ごみで出せるグッズ(ラップ、紙皿、割り箸)、室内履き、底が厚い靴、簡易トイレ、ビニール等)
- ・持ち出し袋の例…常備薬、連絡先、ラジオ、アルミブランケット、水2ℓ、チョコレート、乾パン、革手袋、ヘッドランプ、新聞紙、嗜好品等)
- ・燃料例…木炭、カセットコンロ、カセットボンベは調理、暖をとるなどがあると非常に役立つ、使い捨てカイロ等)
- ・停電～通電時の火事が心配である。
- ・帰宅時の避難場所が不明である。
- ・近所に誰が住んでいるのか、不明である。
- ・啓発活動(東京防災等)で知識はあるが、行動に移すのが難しいため、行動してみるキャンペーンを実施したらどうか。(171体験キャンペーン、地域とのマッチング訓練等を単発でもいいから、実施してみる)
- ・(団地)高齢者世帯、若年世帯と二極化していて、コミュニケーションの弱さが懸念されている。(R6)

■地区としての今後の取り組みの方向性

①けがをしないために出来ることを把握し、地域に周知する。

- ・けがの防止策を講じる。

Point…避難生活の以前の問題として、災害直後に死なない、けがをしないことが何より重要である。

- ・避難方法を事前に決めて置く。

◆避難方法例…各種避難場所の確認、安全な避難口の確保、年代別マニュアルの作成等

Point…□震災時に助けてもらう為に、近所付き合いをする。

□自分の過ごしている、各場所で検討する必要がある。

②備蓄の正しい知識を周知していく。

- ・備蓄は、個人単位で一週間分以上準備する。

Point…□日常生活で普段使う物を、+α少し多めに用意しておく。

□備蓄品は保管場所を決め、年に一回はチェックをする。

□宅配を利用して備蓄の負担を少しでも軽減する。

- ・非常持ち出し用袋を準備する。

Point…□一人一つの持ち出し袋を持つこと。

□いつでも使えるところに準備する。

- ・燃料の準備が重要

③家族のルール/安否確認の方法を周知していく。

- ・避難ルールを決めておく。

◆ルール例…家族の集合場所は混雑が予想されるような場所は避ける(避難所等)、広域避難場所のワンポイントを家族ごとに決めておく、被災地以外で集合できる場所を決めておく、家には無理に帰らないと決めておく等

- ・連絡手段を決めておく。

◆手段例…田舎を中継地点として連絡を取り合う、高層マンションは隔離しやすいため、事前に情報の共有方法を決めておく、連絡は落ち着くまで取り合わない、災害時伝言ダイヤ 171 等

Point…回覧で周知するなどして、実際にキャンペーン的にみんなで体験してみる。

- ・事前の準備をしておく。

◆準備例…たんす預金等で現金を手元に用意、避難所の確認、子どもがいつでも逃げ込めることを頼める関係作り、子どもには写真、連絡先を持たす、日頃より敬愛活動をし、顔見知りを作る等

Point…日頃の活動が震災時には重要になってくる。

日頃からの備えは、災害が起きてからでは遅く、文字通り平時(事前)の準備に掛かっている。

そのため、1人でも多くの地域の方に取り組んでもらうためにも、周知が大事である。

■各団体の今後の取り組みの方向性

- ・建物の耐震診断を実施し、必要であれば補強を検討する。【給田西住宅管理組合】
- ・理事会での D 型ポンプ操作訓練を継続していく。【給田西住宅管理組合】
- ・高齢者を対象に、世田谷区が実施している HP の案内、家具転倒やガラス飛散防止など、マニュアルの作成及び各家への回覧、発災3日までの備蓄品リストの作成及び各家への回覧、伝言ダイヤル等通信手段の照会および各家への回覧。【給田西住宅管理組合(R6)】
- ・助成金、会費により購入した備蓄品を早期に住民に移譲し、在宅避難のための備蓄の一助とする。【給田南住宅自治会(R6)】
- ・冊子『東京防災』などを活用した防災知識の普及啓発を、実施していく。【烏山上町会】
- ・非常用持出袋(中身の基本避難生活便利グッズ等を精査)を、紹介し準備してもらう様にする。【烏山上町会】
- ・各世帯での備蓄を、チラシを掲示するなど働きかける。【コーシャハイム千歳烏山住宅自治会(R6)】

- ・3箇所の町会防災倉庫に、水、アルファ米、簡易トイレ、ヘルメット等を備蓄している。今後も備蓄を充実させていく。【烏山中町会】
- ・町会防災倉庫に薬品、ジャッキ、ポンプ、燃料を備蓄している。今後は未配備の水、食料等の備蓄を充実させていく。【親和会、烏山北住宅自治会】
- ・会員同士、家庭内での話し合いを行うよう回覧などで呼びかける。【親和会(R6)】
- ・地区防災訓練への参加を呼びかけていく。倉庫に備蓄している物質の充実をはかっていく。【北烏山青葉団地管理組合(R6)】
- ・北住宅は数年後、改築予定の為、新たな機器、機材をそなえることは困難なため、現状を維持する方向。【烏山北住宅自治会(R6)】
- ・定例会時などに備蓄の使用訓練を実施。【烏山北住宅賃貸自治会(R6)】
- ・マグネットシートを作成してドアの裏面に貼るようにしている。今後も活動の継続・周知を徹底する。【北烏山みむね管理組合】
- ・家族で事前に確認等の電話番号を決めておく。【北烏山みむね管理組合(R6)】
- ・持ち出し袋を必ず用意する。特に日常時の必需品1週間分位家族間で緊急時の集合場所の確認をする。特に高齢者、障害者への配慮が必要である。家族の安否確認を検討して、出来るだけ地域で周知していく。【烏山下町会(R6)】
- ・家族のルール/安否確認を検討し、町会として周知する。【烏山下町会、千駄山町会】
- ・町会の会員数を増やすように努める。【児ヶ谷会、コーシャイム芦花公園自治会、芦花公園団地自治会】
- ・マンホールトイレを実際に使用できるよう整備する。【コーシャイム芦花公園自治会、芦花公園団地自治会】
- ・町会で新たな備蓄物品を購入する時は会費を募り、その物品を使用した訓練を町会独自で実施している。今後も備蓄の呼びかけを推進していく。【児ヶ谷会】
- ・備蓄する方法・場所・備蓄物品についての検討・充実化を図る。【コーシャイム芦花公園自治会、烏山下町会、千駄山町会】
- ・当団地は 14 階の棟もある。室内家具の転倒防止について住民にはたらきかけている。【芦花公園団地自治会(R6)】
- ・マンションとしては毎年更新、増備している(備蓄)。安否確認は通電していれば管理員室からのインターホンで随時確認することになっている【パークアベニュー芦花公園自治会(R6)】。
- ・各階エレベーターホールに食料、防災備品等の備蓄を考えている。【日商岩井北烏山マンション管理組合(R6)】
- ・コロナ禍以降、会議後の懇親会が開催されなくなり、住人間の情報交換がなくなった。住人の状況把握ができなくなっている。【日商岩井北烏山マンション管理組合(R6)】
- ・年 1 回の防災訓練を実施しており、その訓練を通して各家庭の防災意識を高めるための啓発活動を引き続き努める。【烏山南住宅団地管理組合法人防災会(R6)】
- ・備蓄品を各家庭と管理組合のトータルで考え、実行的な防災対応を目指して必要な備品の管理、更新を行う。【久我山ガーデンヒルズ管理組合(R6)】
- ・防災訓練等を通じて防災知識の向上を図る。【久我山ガーデンヒルズ管理組合(R6)】
- ・各会員とのメールを利用しての安否確認を行う。【烏山駅前通り商店街振興組合地域防災部(R6)】
- ・自治会では多少の備蓄があるが、全てそろえるのは難しい。震災時声かけてもらう近所付き合いが大事である。各自が備蓄し、家族への安否等、日頃から説明し、協力してもらう。【区営北烏山8

丁目アパート自治会地域防災部(R6)】

- ・防災マニュアルの検討と整備【芦花公園パーク・ホームズ管理組合防災本部(R6)】
- ・管理組合として防災用品を備えている。【ネオコーポ芦花公園防災委員会(R6)】
- ・防災計画書の周知を定期的に行う。【ザ・パークハウス千歳烏山グローリオ管理組合(R6)】
- ・建築基準法による耐震性能が確保されていることを前提に、在宅避難を想定する。そのため、必要な防災機材を区及び公社(団地所有者)の支援により入手し、団地内防災倉庫に保管している。【コーシャハイム久我山防災会(R6)】
- ・各住戸内での防災対策は各住戸にて行う前提だが、防災会としての対策の実施を推奨してゆく。【コーシャハイム久我山防災会(R6)】

課題2 在宅避難者対策

■意見

- ・自分の安全を確保した上で、近所の安否確認が大事である。
- ・一人世帯が被害にあった場合(家具等の下敷き、ドアの開閉)の確認方法についてどうするか。
- ・災害時のライフライン断絶後の区民への連絡手段を確立しておきたい。
- ・道路が通行不能な場合を考えておきたい。
- ・在宅避難の知識(特に備蓄知識)が不足している。
- ・食料、テント、寝具等の備えが不足している。
- ・防災行政無線の用途を知りたい、周知したい。

■地区としての今後の取り組みの方向性

①平時から周囲の人とのコミュニケーションを図れる機会を作る。

- ・日頃からの近所のコミュニケーションから始める。
- ・地域のイベント等を通じて、日頃からの顔見せ(知り合いを増やす)をする。

②情報伝達手段は複数の手段を確立する。

- ・正否が不明な情報に惑わされず、正しい情報を伝達する方法を予め決めておく。
- ・区、町会の掲示板を活用する。
 - ◆例…物資、避難所、ライフラインの最新情報等
- ・情報は細目化する。
- ・情報入手方法を周知する。
 - ◆例…定期的な掲示、各自見に行く、掲示板を見た人(地域の当番)からの周知
- ・烏山区民センター前広場を情報提供の拠点として整備する。

③在宅避難における正しい知識を習得、周知する。

- ・在宅避難の方法として、自宅避難生活ができる人は、自宅で生活することを周知する。
 - ◆例…トイレに水を流す時は、排水接続の確認が出来るまで流さない、在宅避難者の内、無事な人には、自宅から地域で統一された目印を掲示してもらう。
- ・避難所には何も無いとPRする。また、デメリットが多いため、日頃備蓄しておくべきものを把

握しておく。

- ・日頃の備え(備蓄等)をすることが重要と、PRする。
- ・町会独自に、必要な備蓄物品を確保するための倉庫を準備する。
- ・物資伝達方法のマニュアル作成を検討する。
- ・避難所に届いた支援物資の配給システムを創る。

◆例…備蓄物資の配分ルールを整備しておく。

■各団体の今後の取り組みの方向性

- ・給田小学校で保護者や地域の方を対象に実施している、防災講座を継続し、在宅避難の方法等を周知していく。【給田西住宅管理組合、給田小学校 PTA】
- ・広報による啓蒙活動を実施する。【給田西住宅管理組合(R6)】
- ・集合住宅における在宅避難の安全性確保の目安について、避難所(小学校など)開設時の安全点検を参考にする。【給田南住宅自治会(R6)】
- ・在宅避難する為に必要な物品(水・食料・簡易トイレなど)の備蓄を推奨するなど防災知識の普及啓発を実施していく。【烏山上町会】
- ・町会名簿(改定版)の作成を進める。【烏山中町会、親和会】
- ・町会全戸に簡易トイレの配布を実施していく。【烏山中町会】
- ・日頃の備えとして一番の心配はトイレであると認識。【烏山寺院連合会(R6)】
- ・災害時に対応できるように、敬老の日に75歳以上の方にお祝い品を届けるような活動を今後も継続する。【親和会】
- ・高齢者の一人住まいの確認を進めたい。【親和会(R6)】
- ・食料備蓄に関しては、各家庭で取りくむよう啓発していく。住民名簿(携帯電話番号)は、常に新しく掌握している。(分譲団地のため、管理組合として、管理している)【北烏山青葉団地管理組合(R6)】
- ・町会全戸に毎年1回、水、ビスケット、簡易トイレの配布を今後も継続していく。【烏山北住宅自治会】
- ・消防、識者の講演を計画予定。【烏山北住宅賃貸自治会(R6)】
- ・水や非常食等の準備。【北烏山みむね管理組合(R6)】
- ・プライバシーに配慮しながら、興味・趣味等のツールを活用し、町会のイベント等に参加してもらい、日頃から交流を図る。【烏山下町会、千駄山町会】
- ・まずは各自宅の安全度を確認する。(特に土地の液状化、建物の強度)。日常時の生活用品、トイレ、食料品等の備蓄量を考えて用意する。近所付き合いを密にして顔なじみになる事。町会活動に積極的な参加。避難所、ライフライン等との連絡を取る、又、活用する。【烏山下町会(R6)】
- ・町会内のコミュニケーションを図るために、日頃からできるような回覧・敬老の日などのイベントで祝い品の贈呈・町会総会等を積極的に活用する。【児ヶ谷会】
- ・町会独自で作成している「安心連絡網」の加入促進に努める。【コーシャハイム芦花公園自治会】
- ・防災訓練で非常用トイレ(凝固剤、消臭剤)の実演を行い、用意をはたらきかけている。防災倉庫には食料、水の備蓄がないことを案内し、各戸での準備をはたらきかけている。【芦花公園団地自治会(R6)】
- ・町会独自で作成し、既に自治会全戸に配布している「安否確認カード」の周知を徹底する。【芦花公園団地自治会】
- ・住民に対しては推奨しているが、高齢者も多いため確認が必要。【パークアベニュー芦花公園自治

会(R6)】

- ・マンションとして主に高齢者の一人住まいの方を中心に災害時には直ぐに連絡をとれるように日頃から声掛けを行っている。【日商岩井北烏山マンション管理組合(R6)】
- ・各家庭の震災時の備えを支援するために全世帯に対して防災カタログギフトを配布されたことを契機に各家庭に対して、在宅避難を基本として1週間程度の備蓄を進めるべく啓発に努める。【烏山南住宅団地管理組合法人防災会(R6)】
- ・区役所等とも連携し、在宅避難についての知識の普及啓発に努める。具体的には防災訓練時にリーフレットを配布する。【久我山ガーデンヒルズ管理組合(R6)】
- ・防災訓練実施時に「防災まつり」イベントを開催し、「防災」を軸に居住者間の交流を図る。【久我山ガーデンヒルズ管理組合(R6)】
- ・数に限りがあるが飲料水の配布。【烏山駅前通り商店街振興組合地域防災部(R6)】
- ・入居者に会議に参加してもらい、備蓄の物品の配布等説明。【区営北烏山8丁目アパート自治会地域防災部(R6)】
- ・烏山総合支所作成の資料等を配布、周知。【芦花公園パーク・ホームズ管理組合防災本部(R6)】
- ・簡易トイレの確保、旧受水槽にて水の確保を行っている。【ネオコーポ芦花公園防災委員会(R6)】
- ・防災計画書の周知を定期的に行う。【ザ・パークハウス千歳烏山グローリオ管理組合(R6)】
- ・在宅避難に必要な備蓄は、各住戸が宅内に準備することを想定し、その旨広報する。又、備蓄の推奨品目、量について参考資料を広報する。【コーシャハイム久我山防災会(R6)】
- ・防災会で所管する防災資機材のリストは各住戸に配布しており、今後その管理運営や試運転など居住者参加で実施し、団地内に資機材の存在と利用法を周知するよう計画する。【コーシャハイム久我山防災会(R6)】
- ・避難所と同等の支援物資配給が受けられるよう、システムの構築が必要と考えている。【コーシャハイム久我山防災会(R6)】

課題 3 避難行動要支援者・要配慮者・けが人等の対策

■意見

- ・情報がないため、所在が不明である。
- ・プライバシーの問題がある。個人情報保護を盾に要支援者の情報が得るのが困難である。
- ・実態を町会、地域でどう知っておいたらよいか。
- ・日頃からの見守りが重要である。
- ・自治会防災組織に本当に見回りはできるのか。
- ・様々な要支援者(歩けない人、高齢者、けが人、高層ビル在住者)にどのように対応するか。
- ・特別な対応をするために必要な物品をどうするか。
- ・(団地)管理会社から居住者情報が提供されず苦慮している。(R6)
- ・高齢化が進み、対応出来る人材が少なくなっている。(R6)

■地区としての今後の取り組みの方向性

- ①災害時避難行動要支援者・要配慮者に関する協定対象者を意識した行動をする。
 - ・敬老の日などを利用して、お祝い品の配布時などに、現況を聞き、情報を更新する。

- ・会費を集めるときなどを利用して、情報を入手する。

②支援方法に関して検討する。

- ・要支援者等の近隣の方及び地区の担当を決めて対応する。
- ・応急救護訓練の積極的な参加、ヘルプカード、安心カード等の活用をする。
- ・要援護者の安全が確保されている場合は、自宅のベランダからタオルを垂らしてもらうなど目印を出す。
- ・町会、自治会のイベント、日常生活を通じて、コミュニケーションを図っておく。

③支援する側の人手を確保する。

- ・町会、自治会に加入するメリットをイベント等を通じて伝えていく。
- ・地域の若い世代に対して、地域のイベントや避難所運営訓練などに積極的に参加してもらい、近所の輪を広げておく。
- ・若いマンパワー(学生、ボランティア等)を活用できる仕組みを創る。

■各団体の今後の取り組みの方向性

- ・年1回の団地行事にて実施している名簿の確認を継続する。【給田西住宅管理組合(R6)】
- ・団地内でエリアを決めて、「見守り隊」が様子を見に行くルールを継続していく。【給田西住宅管理組合】
- ・要救助者の所在を示すホイッスルやブザーの購入、配布を検討【給田南住宅自治会(R6)】
- ・若い世代による協力が無ければ実施不可能であるため、小・中学校、PTAの協力が得られるよう働きかけていく。【烏山上町会】
- ・ペット同行避難者、乳幼児を抱えた避難者などの、災害弱者と言われている方々への対応策も検討し普及啓発していく。【烏山上町会】
- ・災害時避難行動要支援者・要配慮者に関する協定を既に締結している。【給田西住宅管理組合、あやめ会、親和会、烏山北住宅自治会、千駄山町会、児ヶ谷会、パークアベニュー芦花公園自治会】(R6 修正)
- ・日頃からの声かけを進める【親和会(R6)】
- ・住民の家族構成等を、古くから住んでいる住民、民生委員と情報を共有するよう努めていく。【北烏山青葉団地管理組合(R6)】
- ・役員の避難時の行動訓練【烏山北住宅賃貸自治会(R6)】
- ・敬老の日などのイベントを通じて、日頃から見守り活動を実施する。【烏山下町会、千駄山町会】
- ・福祉作業所と連携・協力関係を築いていく。【烏山下町会】
- ・下町まつりを活かして地域の活動人口を増やしていく。また、一層の地域の活動人口増加のため、中学生等をイベントのボランティアとして募ることを検討する。【烏山下町会(H29)】
- ・プライバシー保護の為、情報が少なく確認が難しい。地域としては 日頃からの見守りと民生委員等の情報を得る。当地区では毎年敬老の日にお祝い品を送ると同時に自己申告を頂く。【烏山下町会(R6)】
- ・安心カードの普及に努めている。また、日頃からのコミュニケーションを図っていく。【千駄山町会】
- ・災害時避難行動要支援者・要配慮者に関する協定締結に向けての活動を進める。【コーシャハイム芦花公園自治会、芦花公園団地自治会】

- ・名簿があるが緊急時以外は開かないことにしている。怪我人等の対策は特に考えている。各自でやっていただく。【パークアベニュー芦花公園自治会(R6)】
- ・日常生活では補聴器を耳から外して生活している難聴者がいて、電話が通じないため玄関ドアの新聞受けにメモ等を入れたりする連絡方法を行っている。【日商岩井北烏山マンション管理組合(R6)】
- ・各家庭より家族構成等の名簿の提出の協力要請をしており、提出された名簿に基づき、各家庭の状況の把握に努めている。【烏山南住宅団地管理組合法人防災会(R6)】
- ・安否確認・避難支援が迅速かつ円滑に行われるために避難行動要支援者本人及び家族が、災害時における自助・共助の重要性についての認識をもってもらうべく日頃より災害に備えた準備・行動について啓発に努める。【烏山南住宅団地管理組合法人防災会(R6)】
- ・マンション管理室とも協働し要支援者の把握と管理組合理事会活動を通じて災害時の柔軟な対応を可能とする下地作りを行う。【久我山ガーデンヒルズ管理組合(R6)】
- ・支援時に必要な備品を適切に管理、更新する。【久我山ガーデンヒルズ管理組合(R6)】
- ・商店街は来街者も多く有事の際、避難誘導が課題。【烏山駅前通り商店街振興組合地域防災部(R6)】
- ・自治会等を通じて、会議に参加し、避難所訓練に参加してもらう。【区営北烏山8丁目アパート自治会地域防災部(R6)】
- ・避難行動要支援者や要配慮者の実態把握と支援を理事会にて継続検討。【芦花公園パーク・ホームズ管理組合防災本部(R6)】
- ・名簿の充実を図っている。【ネオコーポ芦花公園防災委員会(R6)】
- ・防災計画書の周知を定期的に行う。【ザ・パークハウス千歳烏山グローリオ管理組合(R6)】
- ・車いす等を防災資機材として用意している。防災会の活動人員不足のため、現状ではこの件への人的対応は困難な状況にある。【コーシャハイム久我山防災会(R6)】

課題 4 避難所運営

■意見

- ・避難所運営本部員だけでは、人手不足で運営ができない。
- ・避難所では、避難所運営に協力してくれない避難者の取扱いが困難である。
- ・避難者が交流を図れる場(ラジオ体操等)を設け、コミュニティ分断の軽減・集団意識の創出、また、健康に過ごせるよう心がけると良い。
- ・避難者は2、3日経つと、要望や不満を強く主張する可能性があるため、みんなが避難者という意識作りや、ルールの周知を徹底する。
- ・不足している物品が多くある。
物品例…防災バスト、マンホールトイレの水汲みポンプ等
- ・消火器や消火栓の場所を知らない人が多い。
- ・ペットは避難者スペースと共同で生活できない・犬猫以外のペットの問題をどうするか。
- ・町会や地域で防災に関する基礎知識や情報確認の手法をどのように行うか。
- ・マンホールトイレ、仮設トイレの訓練が不十分である。
- ・マンホールトイレの水貯めは手動では大変である。
- ・担当する避難所まで行けるか。

- ・マンション内の会議室等を避難場所として検討したいが、スペース上、プライバシーの関係上(間仕切り等)難しい。(R6)
- ・新しい方に避難所運営に携わってもらえるよう、どう促していくか。(R6)
- ・自治会として対策本部を設置する中、避難所の運営に人を出せるか自信がない。(R6)

■地区としての今後の取り組みの方向性

①避難所内における協力体制を構築する。

- ・協力してもらえそうなこと(運搬、設営、確認作業など)を確認し、周知する。
 - ◆例…マンホールトイレの運営、清掃活動、自宅から水、食料の持ち寄り等
- ・運営側、避難者側問わず、自主的に動く仕組みを検討する。

②平時～避難所運営時は、ルールを整え地域の人に周知する。

- ・生活する上で、新たに決定しなければならない事項は協議で決定する。
 - ◆例…部屋割り、プールの水の活用方法等(浄化して飲料にできないか)
- ・避難所に関しての広報は正しい情報と共に、避難所はできる限り利用せず、在宅避難を勧める広報を併せて行う。(公助は遅い。避難所では支援されるだけでなく、支援もしないといけない。在宅避難のメリット(避難所生活のデメリット)を事前にPRする、疎開した方が安全等)
- ・避難所の概要の周知のため、事前に避難者カード等を作成、配布する。

③協力団体を検討し、協力者を募る。

- ◆例…一時的に避難所や倉庫にできる施設等に交渉を図る。

■各団体の今後の取り組みの方向性

- ・給田小、烏山小について、町会役員より出席者を募って行っています。【給田町会(R6)】
- ・避難所でのボランティアを増やすため、出来ること別に色分けした「できますゼッケン」を作成したため、今後も避難所運営訓練で活用し、周知していく。【給田西住宅管理組合、給田小学校PTA】
- ・給田西住宅内広場周辺等を一時集合所とする。【給田西住宅管理組合(R6)】
- ・今現在避難所運営訓練に携わっている人は今後も訓練を継続してもらう。また、若い世代の人員の確保に努め、訓練に参加するよう促していく。【烏山上町会、烏山下町会、千駄山町会、児ヶ谷会、コーシャハイム芦花公園自治会、芦花公園団地自治会】
- ・災害時の訓練について検討を進めながら、訓練を今後も継続していく。【烏山中町会、親和会、烏山北住宅自治会、北烏山みむね管理組合】
- ・他団体(町会、自治会)との協力体制をととのえる。【親和会(R6)】
- ・現在避難所運営に携わっている方には、今後も継続して参加してもらいたい。【北烏山青葉団地管理組合(R6)】
- ・当地区では芦花小中、武蔵丘小の2校にまたがっているので統一がしにくい。運営委員も分散しているが、夫々に頑張っている。出来れば高齢者の役員が多数なので若手、高学年の学生、生徒の協力が必要。【烏山下町会(R6)】
- ・地域の避難所運営訓練には参加している。訓練参加メンバーが緊急時に集合できるかは不明な

- ので、誰でも運営できるようなマニュアルが必要と感じる。【パークアベニュー芦花公園自治会(R6)】
- ・災害用トイレ、テントの更新(使わないうちに劣化する。相応に高額)。【久我山ガーデンヒルズ管理組合(R6)】
 - ・有事の際は当ビル 2 階、4 階の会議室を避難所として解放。【烏山駅前通り商店街振興組合地域防災部(R6)】
 - ・集会所に 50 名位入室。敷地内にミニ公園あり、浄化槽トイレの設置ができる。敷地内にミニテント張ることができる。【区営北烏山8丁目アパート自治会地域防災部(R6)】
 - ・マンション内の芝生広場を想定している。【ネオコーポ芦花公園防災委員会(R6)】
 - ・在宅避難を想定しているが、団地内で在宅避難が困難な状況の住戸が出た場合のサポートとして、団地内1階の「コミュニティーサロン」の活用の可能性が考えられる。今後検討してゆきたい。その場合、避難所同様にプライバシーの確保等の課題が考えられる。【コーシャハイム久我山防災会(R6)】